

日本美術年鑑

昭和 3 2 年 版

美術研究所



山吹 小倉遊亀 (小倉遊亀 新作二人展)
太田聽雨

序

日本美術年鑑は東京国立文化財研究所美術部、即ち美術研究所が、従前からその調査研究事業の一部として計画従事していたもので、昭和十一年より発行を開始し、今年ここに昭和三二年版を刊行する運びとなつた。

この年鑑の調査と編集とは、主として当研究所の第二研究室がこれに当り、古美術関係の項目は第一研究室と資料室とが担当した。

この年鑑の編集に当つては、諸官庁や美術関係の公私機関をはじめ、多くの学者作家等の御助力を煩わしたが、殊に文化財保護委員会事務局、文部省社会教育局藝術課、日本藝術院、国立近代美術館、東京・京都・奈良の各国立博物館、各地の諸新聞社、雑誌社、美術館、研究所、学校、美術団体の御援助に待つところが多かつた。更にまた大蔵省印刷局は、この年鑑の体裁上印刷技術の困難な点多きにかかわらず、今年も引続きこの印刷を快諾された。ここにこれらの諸機関に対して深く感謝の意を表する。なおこの年鑑の編集については常に意を注いで、記事採択の適正と内容の充実とに努めているが、その中に思わぬ過誤や不備の点がないとも限らない。これに対しては一般識者の叱正と御教示とを切に希望する次第である。

昭和三二年一月

東京国立文化財研究所長

田 中 一 松

凡 例

一、本年鑑は、昭和三年一月から同年二月に至る一年間の美術界の主要な出来事を掲載した。

一、本年鑑の内容は、「図版」「本欄」「附録」の三部に大別し、「図版」には右期間中に発表された注目すべき作品の写真を主として掲載し、「本欄」は、わが国美術界の全般について、全体の展望、主要な事件、展覧会、物故者、発表された文献などを記載した。

「附録」は、便覧として美術関係の法規、諸施設、団体、美術家及美術関係者名簿などを集録した。便覧の性質上この欄は原則として現在の記録(昭和三年一月)に従っている。

一、本年鑑であつかう美術の範囲は、一般に行われる狭義の解釈に従い、絵画、彫塑、工藝、および建築に限っている。絵画のうち、日本画と洋画の区別は困難な場合もあるが、だいたい現代の慣習に従った。建築はわれわれの注意をひく範囲にとどめた。

一、人名を記す場合は、すべて敬称をはぶいた。

一、美術文献目録、美術家及び美術関係者名簿についてはそれぞれ項目の初めに凡例を記した。

目次

口	序	一
凡	例	三
目	次	四

本欄

昭和三十一年美術界概観	一
現代美術	一
古美術	二
昭和三十一年美術界年史	一六
附表	三
新指定国宝一覧	三
新指定重要文化財一覧	三〇
重要無形文化財指定保持者認定一覧	六二
記録作成等の措置を講ずべきものとして選択された無形文化財一覧	六三
文化財保護委員会昭和三十一年度補助金交付一覧	六四
昭和三十一年度国立美術館、博物館新収品目録	七三
第一二回日本美術展覧会、出品、入選、陳列点数表	七四
第一二回日本美術展覧会審査員一覧	七四
各大学美術関係講義題目	七五
主要美術雑誌色刷一覧	七七

美術展覧会	八一
物故者	一五
美術文献目録	一八三
凡例	一八三
目次	一八三

定期刊行物所載文献

現代美術・西洋美術	一八四
東洋古美術	二〇七
単行図書	
現代美術・西洋美術	三三七
東洋古美術	三三一

附録 (便覧)

美術関係法規	三三五
文化財保護法	三三五
文化財専門審議会令	三三七
文化財専門審議会議事規則	三五八
文化財専門審議会常任委員会設置規則	三五九
文化財専門審議会諮問事項等取扱規則	三五九

文化財保護委員会事務局内部組織	三三	美術関係研究施設	三六
東京国立博物館組織規程	三六	美術関係学会	三六
京都国立博物館組織規程	三六	美術教育施設	三六
奈良国立博物館組織規程	三六	学 校	三六
東京国立文化財研究所組織規程	三六	実 技 研 究 所	三六
奈良国立文化財研究所組織規程	三六	美術観覧施設	三六
文部省社会教育局藝術課	三六	東京画廊一覽	三七
国立近代美術館	三六	名古屋画廊一覽	三七
日本 藝 術 院	三七	京都画廊一覽	三七
日本美術展覧会	三七	大阪・神戸画廊一覽	三七
正倉院評議会規程	三七	美術団体一覽	三七
帝 室 技 藝 員	三七	美術家及美術関係者名簿	三七
武力紛争の際の文化財の保護のための条約	三七	美術関係定期刊行物一覽	三七

目 次

1 竹外一枝(2回松竹梅展)……………横山大観	2 舞妓(遊亀・聴雨新作二人展)……………太田聰雨	3 溪声(7回彩尚会展)……………奥村厚一	4 臯月(6回未更会展)……………森田沙伊	5 金糸雀(6回未更会展)……………高山辰雄	6 残雪の丘(16回日本画院展)……………川崎春彦	7 鷺(2回現代日本美術展)……………加山又造
8 流れる光(2回現代日本美術展)……………岩崎巴人	9 嶺(2回現代日本美術展)……………山本丘人	10 月夜(2回現代日本美術展)……………信太金昌	11 鮎釣(8回北斗会展)……………川合玉堂	12 錦鶏(尚美展)……………山口華揚	13 黒いドレス(7回日月社展)……………伊東深水	14 海晴(薔薇会日本画展)……………小野竹喬
15 鮎(橋本明治新作展)……………橋本明治	16 妓(上村松園賞記念展)……………広田多津	17 渦潮(28回青龍社展)……………川端龍子	18 富士の白糸(28回青龍社展)……………安西啓明	19 紫陽花(7回茜会展)……………山口蓬春	20 炎々桜島(28回青龍社展)……………横山 操	21 踊り子(41回日本美術院展)……………奥村土牛
22 かりん(41回日本美術院展)……………福王寺法林	23 新山生成(41回日本美術院展)……………岩橋英遠	24 幕間(41回日本美術院展)……………月岡栄貴	25 伏見の茶亭(41回日本美術院展)……………安田観彦			

56 少女(41回日本美術院展)……小倉遊亀
 55 二婦人(41回日本美術院展)……北沢映月
 54 浴女群像(41回日本美術院展)……前田青邨
 53 爽涼(41回日本美術院展)……中村貞以
 52 アイヌ(41回日本美術院展)……清原齊
 51 濤(20回新制作展)……福田豊四郎
 50 長崎南山手海岸通(20回新制作展)……岩崎
 49 何処へ(20回新制作展)……向井久万
 48 夜明け(20回新制作展)……野崎貢
 47 草原八月(20回新制作展)……上村松篁
 46 くじやく(20回新制作展)……吉岡堅二
 45 楽しい仲間(20回新制作展)……堀文子
 44 求める人々(20回新制作展)……朝倉一穂
 43 荒原(20回新制作展)……碑田人
 42 冬の樹木(20回新制作展)……工藤甲人
 41 檜響(20回新制作展)……麻田鷹司
 40 赤松(12回日本美術展)……徳岡神泉
 39 白鳥(12回日本美術展)……森岡白甫
 38 日暮(12回日本美術展)……杉原元人
 37 雪晴れ(12回日本美術展)……中村岳陵
 36 樹映(12回日本美術展)……浜田観
 35 椿(12回日本美術展)……金島桂華
 34 淀の河州(12回日本美術展)……沢野文臣
 33 三人(12回日本美術展)……望月美江
 32 沼(12回日本美術展)……高山雄
 31 孔雀(12回日本美術展)……杉山寧
 30 黄牡丹丹(12回日本美術展)……望月春江
 29 篝火(12回日本美術展)……加藤栄三
 28 朝暉(12回日本美術展)……堅山南風
 27 新涼(12回日本美術展)……寺島紫明
 26 意識(12回日本美術展)……堂本印象

57 三人の裸婦(12回日本美術展)……三谷十糸子
 56 雀の宿(高美展)……小杉放庵
 55 雪嶺(高美展)……川合玉堂
 54 船島に向う(高美展)……石井鶴三
 53 夕湖(高美展)……東山魁夷
 52 林檎(4回成和会展)……福田平八郎
 51 西 洋 画
 50 労働(ロール工)(9回日本美術会アンデパンダン展)……金子真珠郎
 49 燃焼(16回美術文化展)……喜田一夫
 48 自転車(16回美術文化展)……幸寿
 47 火の島(6回モダンアート展)……勝呂忠
 46 巴里風景(6回モダンアート展)……荒井龍男
 45 いそぐ人(6回モダンアート展)……村井正誠
 44 56-60-1(6回モダンアート展)……中村真
 43 熱海(新作個展)……有島生馬
 42 大下春子刀自像(15回水彩聯盟展)……荒谷直之介
 41 リュー・シアラントン(個展)……荻須高徳
 40 水田を拓く(6回モダンアート展)……山口薫
 39 セーヌ河畔(42回光風会展)……井手宣通
 38 漁村(42回光風会展)……山喜多二郎
 37 パリー郊外(15回創元会展)……小野彦三郎
 36 裸婦(42回光風会展)……中村研一
 35 マルセイユ港(42回光風会展)……藤本東一良
 34 少女緑衣(15回創元会展)……中野和高
 33 牛を光る(33回春陽会展)……水谷清
 32 木(30回回画会展)……野田好子

82 パリスの審判(33回春陽会展)……三雲祥之助
 81 炭坑(33回春陽会展)……中谷泰
 80 サンテチエンスデュモン広場(33回春陽会展)……村山密
 79 菊(33回春陽会展)……加山四郎
 78 作品「もうい」(30回回画会展)……東貞美
 77 蘭花図(1回新世紀展)……川島理一郎
 76 テラスの春(1回新世紀展)……大久保次郎
 75 指定席(30回回画会展)……橋野富彦
 74 富士山図(30回回画会展)……梅原龍三郎
 73 ころんだ椅子(33回春陽会展)……藤井令太郎
 72 巴里シティ(30回回画会展)……真垣武勝
 71 つみくさ(22回東光会展)……斎藤与里
 70 春雪(22回東光会展)……小早川篤四郎
 69 北陸の海岸(金山平三画業50年展)……金山平三
 68 海辺の磐岩(2回現代日本美術展)……曾宮一念
 67 秋色裸婦(2回現代日本美術展)……野口弥太郎
 66 ヤキバノカエリ(2回現代日本美術展)……熊谷守一
 65 雪の発電所(2回現代日本美術展)……岡鹿之助
 64 狩猟(2回現代日本美術展)……福沢一郎
 63 衣をあたう(2回現代日本美術展)……海老原喜之助
 62 小諸(2回現代日本美術展)……斎藤長三
 61 死者を運ぶ(2回現代日本美術展)……鶴岡政男
 60 春行く(2回現代日本美術展)……小糸源太郎
 59 犬のいる道(2回現代日本美術展)……寺田政明

131	130	129	128	127	126	125	124	123	122	121	120	119	118	117	116	115	114	113	112	111	110	109	108	107	106
霞草(薔薇会展)	葡萄牙の国(52回太平洋画会展)	アマリス(8回連立展)	朝(1回日仏具象派展)	コンカルノ港(1回日仏具象派展)	長崎風景(2回一陽会展)	ぶらんこ(10回新樹会展)	道化(恋)B(10回新樹会展)	Doctor. Y(10回新樹会展)	海と魚(2回一陽会展)	晚鐘(2回一陽会展)	窮鼠(41回二科展)	メキシコ市場の隅(41回二科展)	クラゲ(41回二科展)	白い花(41回二科展)	川岸の街(41回二科展)	建設(41回二科展)	地球は終りぬ(41回二科展)	柘榴などの静物(11回行動美術展)	煙雨の岬(11回行動美術展)	土(11回行動美術展)	木の構図(41回二科展)	ふだ(11回行動美術展)	浜(11回行動美術展)	函館港風景(11回行動美術展)	少女とたまねぎ(20回新制作展)
香月泰男	布施信太郎	友田みね子	寺田春式	関口俊吾	鈴木信太郎	大河内信敬	朝井閑右衛門	南政善	野間仁根	山路真護	吉仲太造	北川民次	桂ユキ子	東郷青児	青山龍水	岡本太郎	井上覚造	伊谷賢蔵	向井潤吉	高橋進	大沢昌助	田中阿喜良	佐藤真一	田辺三重松	合田小三郎
157	156	155	154	153	152	151	150	149	148	147	146	145	144	143	142	141	140	139	138	137	136	135	134	133	132
僧院の歌B(8回立軌会展)	母子(8回立軌会展)	牛と人(8回立軌会展)	燈台(8回立軌会展)	埋れた歴史(その五)(8回立軌会展)	凶兆(20回新制作展)	海嘯(20回新制作展)	母子群像(部分)(20回新制作展)	作品A(20回新制作展)	形象A(20回新制作展)	花を持つ(20回新制作展)	喧嘩な集会(20回新制作展)	祭日(20回新制作展)	高原の猫嶽(18回一水会展)	裸身(18回一水会展)	十和田の女(18回一水会展)	M君像(18回一水会展)	奈良風景(18回一水会展)	三文絵の詩(10回二紀会展)	月光と海水(10回二紀会展)	秋香(10回二紀会展)	箱根(10回二紀会展)	野外婦人(24回独立展)	夜の窓辺の花(24回独立展)	月とハーマー(24回独立展)	樹(24回独立展)
有岡一郎	大貫松三	須田寿	牛島憲之	榎戸庄衛	油野誠一	館石昭	小磯良平	佐藤敬	川端実	脇田和	赤穴宏	田中田鶴子	田崎広助	石井柏亭	中村琢二	木下孝則	山下新太郎	峰岸義一	鍋井克之	佐伯米子	宮本三郎	林武	中山巍	高周惣七	桜井浜江
181	180	179	178	177	176	175	174	173	172	171	170	169	168	167	166	165	164	163	162	161	160	159	158		
樹木(24回独立展)	彫刻(黒)マツクル(24回独立展)	秋山(24回独立展)	婦人座像(24回独立展)	牛追い(24回独立展)	日(20回自由美術展)	水蝶花(夜)(24回独立展)	ロマンツェロ(20回自由美術展)	壁(20回自由美術展)	自由(20回自由美術展)	てっせん(12回日本美術展)	鉄屑の花(個展)	漁船(20回自由美術展)	グラナダの丘(12回日本美術展)	受難(12回日本美術展)	雨後(12回日本美術展)	ひとり(12回日本美術展)	つゆの晴れ間(12回日本美術展)	青年(世界・今日の美術展)	凍(世界・今日の美術展)	礎けになつた馬神(世界・今日の美術展)	軌跡(世界・今日の美術展)	塔の周辺(世界・今日の美術展)	雑草(世界・今日の美術展)		
高島達四郎	鳥海青児	小林和作	児島善三郎	奎田たけを	末松正樹	高橋忠弥	小野忠弘	糸園和三郎	井上長三郎	鈴木千久馬	海老原喜之助	堀内規次	田村一男	笹岡了一	石川寅治	森田元子	辻永	加藤正	津高和一	小牧源太郎	難波田龍起	三井永一	青井辰雄		

散策(菊池契月遺作展)……………菊池契月	蓋薇(安井曾太郎遺作展)……………安井曾太郎	兵隊と僧侶(清水登之遺作展)……………清水登之	裸婦(祐三・華岳名作展)……………村上華岳	煉瓦焼場(祐三・華岳名作展)……………佐伯祐三	老人の首(高村光太郎・智恵子展)……………高村光太郎	回顧・遺作展	家族(世界・今日の美術展)……………品川工	蒼原(12回日本美術展)……………棟方志功	鳥籠(33回春陽会展)……………前田藤四郎	魚(2回現代日本美術展)……………浜口陽三	術展)	副校長D氏像(2回現代日本美術展)……………長谷川潔	病める若木(1回日仏具象派展)……………長谷川潔	版 画	三画業30年展)……………小山敬三	薄暮のアルカンタラ橋(小山敬三画業30年展)……………小山敬三	前衛挿花(個展)……………河野通紀	こいつ(世界・今日の美術展)……………神谷信子	能面(1回三彩会展)……………坂本繁二郎	十字架の像(世界・今日の美術展)……………朝妻治郎	作品6(世界・今日の美術展)……………須田勉太	さかな(尚美展)……………中川一政
----------------------	------------------------	-------------------------	-----------------------	-------------------------	----------------------------	--------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----	----------------------------	--------------------------	--------	-------------------	---------------------------------	-------------------	-------------------------	----------------------	---------------------------	-------------------------	-------------------

CCC(世界・今日の美術展)……………マチウ	悪魔祇い(世界・今日の美術展)……………ヴァザルリ	カルタする人(世界・今日の美術展)……………クリッパ	砂漠の街(世界・今日の美術展)……………トビ	デル彫刻絵画展)……………ブルデル	風の中のベートーヴェン(ブルデル彫刻絵画展)……………ブルデル	力(ブルデル彫刻絵画展)……………ブルデル	農夫達(1回日仏具象派展)……………ロジェ・モンターネ	ヴェニスにて(1回日仏具象派展)……………ジャン・ルイ・ヴィネイ	展)	海外作家国内展	具象派展)……………ゲリエ	エクスギヤリエール(1回日仏具象派展)……………ゲリエ	ノートルダム(1回日仏具象派展)……………ゲリエ	206	207	208	209	210	211	212	213	214	215	205	204	203	202	201	商業美術	LPジャケット(6回日宣美展)……………杉浦康平	展)	ポスター、セイコー腕時計(6回日宣美展)……………成清浩司	ポスター、比叡山(41回二科展)……………高橋春人	展)	ポスター、国際原子力平和利用会議(6回日宣美展)……………亀倉雄策	ポスター、JAPAN(6回日宣美展)……………加藤晴一郎
------------------------	---------------------------	----------------------------	------------------------	-------------------	---------------------------------	-----------------------	-----------------------------	----------------------------------	----	---------	---------------	-----------------------------	--------------------------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	------	--------------------------	----	-------------------------------	---------------------------	----	-----------------------------------	------------------------------

作品A(10回二紀会展)……………坂上政克	女(20回新作展)……………加藤昭男	飛天(20回新作展)……………菊池一雄	展)	宇宙産業祈念像(20回新作展)……………石井鶴三	女子高校生(41回日本美術院展)……………福家靖夫	馬(41回日本美術院展)……………辻晋堂	時計(41回日本美術院展)……………平川正道	菓(41回二科展)……………淀井敏夫	夏雲(41回二科展)……………松岡卓	像(11回行動美術展)……………堀内正和	EXERCICE(1)(41回二科展)……………堀内正和	貌2(11回行動美術展)……………建島覚造	イヴ(11回行動美術展)……………中島快彦	陽光(5回創型会展)……………中野四郎	若い女(1回日仏具象派展)……………山本豊市	おんな(2回現代日本美術展)……………向井良吉	展)	トルソー(2回現代日本美術展)……………植木茂	藤島武二先生像……………本郷新	女(2回現代日本美術展)……………木内克	胃袋の共存(9回日本美術会アンデパンダン展)……………井手則雄	彫 塑	リ オ ベ ル	ペ ナ ル バ	217	218	219	220	221	222	223	224	225	226	227	228	229	230	231	232	233	234	235	236	237
-----------------------	--------------------	---------------------	----	--------------------------	---------------------------	----------------------	------------------------	--------------------	--------------------	----------------------	------------------------------	-----------------------	-----------------------	---------------------	------------------------	-------------------------	----	-------------------------	-----------------	----------------------	---------------------------------	--------	------------------	------------------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

259	258	257	256	255	254	253	252	251	250	249	248	247	246	245	244	243	242	241	240	239	238	
展)	展)	展)	展)	展)	展)	展)	展)	展)	展)	展)	展)	展)	展)	展)	展)	展)	展)	展)	展)	展)	展)	展)
陶製花瓶「空」	躑躅ざんど花入	花生「踊」	花器	太陽神エリオス	クリスタル花器	ム	カナダ国民展出品モデル・ル	柳宗理工業デザイン展	スミ切角鉢	春慶塗鉢形盛器	健人	若い女	踊り子	青年像	駝鳥	新しき十字架	作品(46人展)	風に向う	穀の発展	作品Jの3	黄駝	
(12回日本美術展)	(12回日本美術展)	(12回日本美術展)	(12回日本美術展)	(12回日本美術展)	(12回日本美術展)	(12回日本美術展)	(12回日本美術展)	(12回日本美術展)	(30回国画会展)	(12回日本美術展)	(12回日本美術展)	(12回日本美術展)	(12回日本美術展)	(12回日本美術展)	(12回日本美術展)	(12回自由美術展)	(20回自由美術展)	(10回二紀会展)	(20回新制作展)			
宮之原 謙	高村 豊 周	山本 正 年	板坂 辰 治	辻 光 典	各務 鉦 三	海外貿易振興会・産業工藝試験所	産業工藝試験所	柳宗理デザイン研究所	佐久間 藤太郎	産業工藝試験所	雨宮 治 郎	朝倉 馨 子	高 橋 剛	朝倉 文 夫	伊藤 芳 雄	毛利 武 士 郎	森 苑 茂	野 恒	長 野 隆 業	豊 福 知 徳		

工 藝

建 築

278	277	276	275	274	273	272	271	270	269	268	267	266	265	264	263	262	261	260		
金銅八角燈籠	新羅明神坐像	林檎花図	本願寺黒書院	分)	菩薩半跏像(伝如意輪観音)	讃岐国司解	閻魔天像	石橋美術館	ヴェニス、ヴィエンナレ日本館	マヤ片岡の家	高原集団住宅	福島県教育会館	東京空港郵便局	神戸新聞会館	小田急ビーチハウス	山脇服飾美術学院	び同看護婦宿舎	厚生年金湯河原整形外科病院及	聖アンセルモ教会	秩父セメント第二工場
東 大 寺	園 城 寺	浅 野 長 武	本 願 寺	宝 菩 提 院	国(東京国立博物館保管)	醍 醐 寺	醍 醐 寺	菊竹建築研究所	吉 阪 隆 正	清 家 清	谷 口 吉 郎	ミ 下 同 人	郵政大臣官房建築部	村野・森建築事務所	久米建築事務所	柳建築設計事務所	日建設計工務株式会社	アントニン・レイモンド	谷 口 吉 郎	

古美術(新指定国宝)

285	284	283	282	281	280	279
笠置寺十三重塔	舟橋時絵硯箱	平治物語絵詞(信西卷)	白氏詩卷	隨身立像	黒き猫図	虚空蔵菩薩坐像
笠 置 寺	国(東京国立博物館保管)	静 嘉 堂	藤原行成筆	高野神社	細川護立	能 満 寺

(新指定重要文化財)

圖

版

日 本 画



4 阜 月 (未更会展) 森田 沙伊



1 竹外一枝 (松竹梅展) 横山大観



5 金 糸 雀 (未更会展) 高山辰雄



2 舞 妓 (新作二人展) 太田聡雨



6 残雪の丘 (日本画院展) 川崎春彦



3 溪 声 (彩尚会展) 奥村厚一



10 月 夜 (現代日本美術展) 信太金昌



7 鶯 (現代日本美術展) 加山又造



11 鮎 (北斗会展) 川合玉堂



8 流れる光 (現代日本美術展) 岩崎巴人



12 錦 鶏 (尚美展) 山口華楊



9 嶺 (現代日本美術展) 山本丘人



15 鮎 (新作個展) 橋本明治



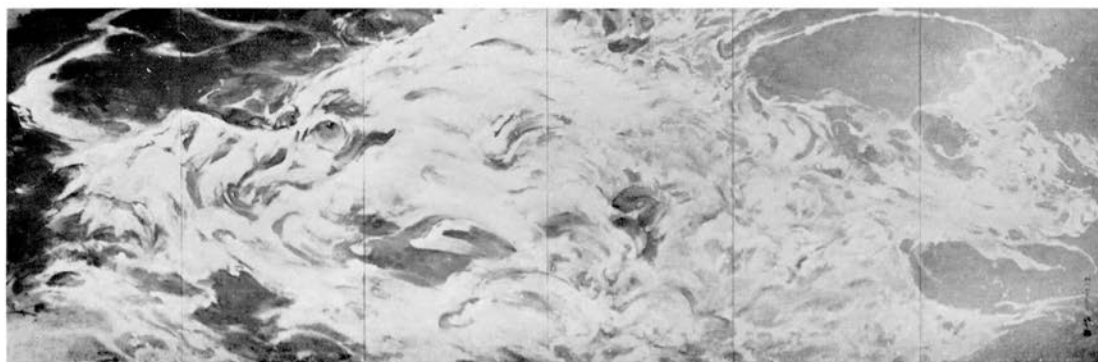
13 黒いドレス (日月社展) 伊東深水



16 妓 (松園賞記念展) 広田多津



14 海 晴 (薔薇会展) 小野竹喬



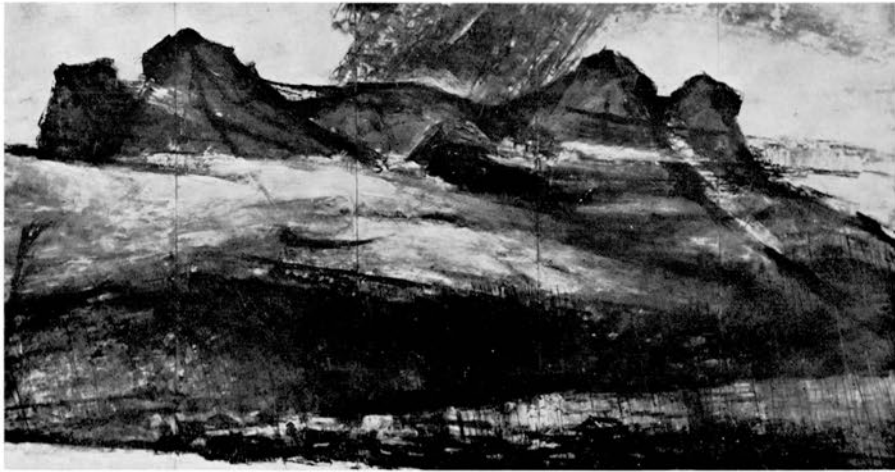
17 瀉 潮 (青龍社展) 川端龍子



19 紫陽花 (茜会展) 山口蓬春



18 富士の白糸 (青龍社展) 安西啓明



20 炎々坂島 (青龍社展) 横山 操



22 かりん (院展) 福王寺法林



21 踊り子 (院展) 奥村土牛



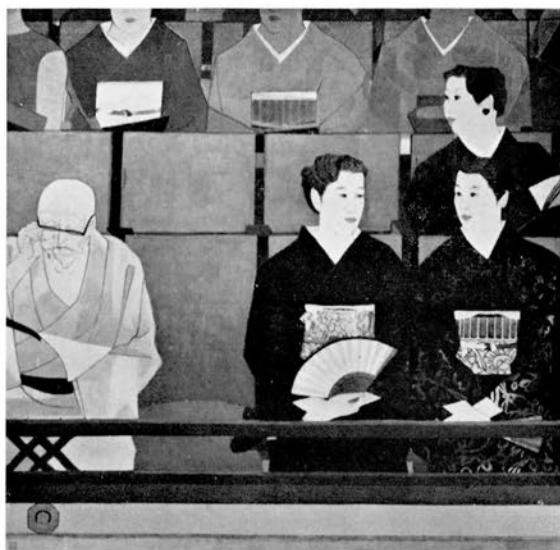
26 少女 (院展) 小倉遊亀



23 新山生成 (院展) 岩橋英遠



27 二婦人 (院展) 北沢映月



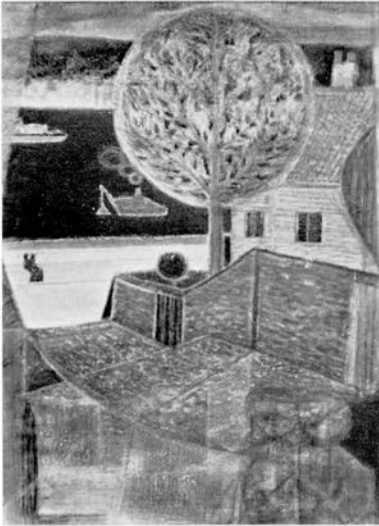
24 幕間 (院展) 月岡栄貴



28 浴女群像 (院展) 前田青邨



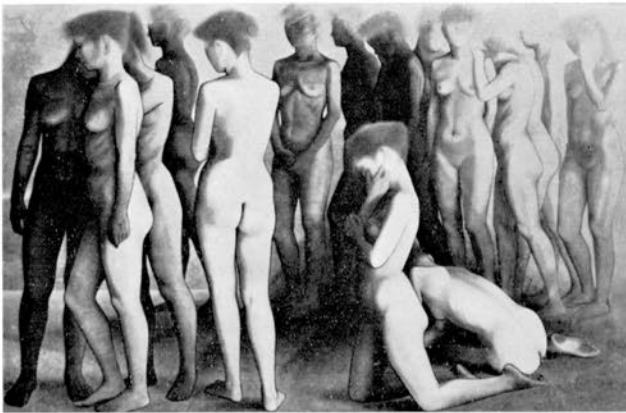
25 伏見の茶亭 (院展) 安田頼彦



32 長崎南山手海岸通 (新制作展) 岩崎 輝



29 爽 涼 (院展) 中村貞以



33 何 処 へ (新制作展) 向井久万



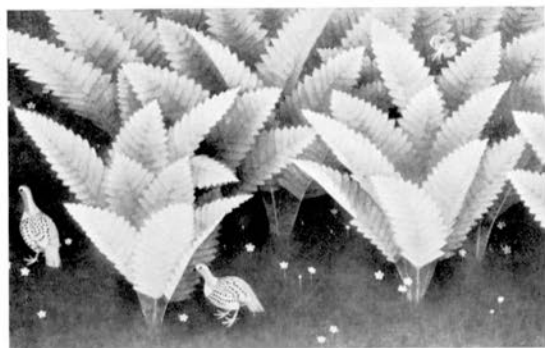
30 アイヌ (院展) 清原 齊



34 夜 明 け (新制作展) 野崎 貴



31 詩 (新制作展) 福田豊四郎



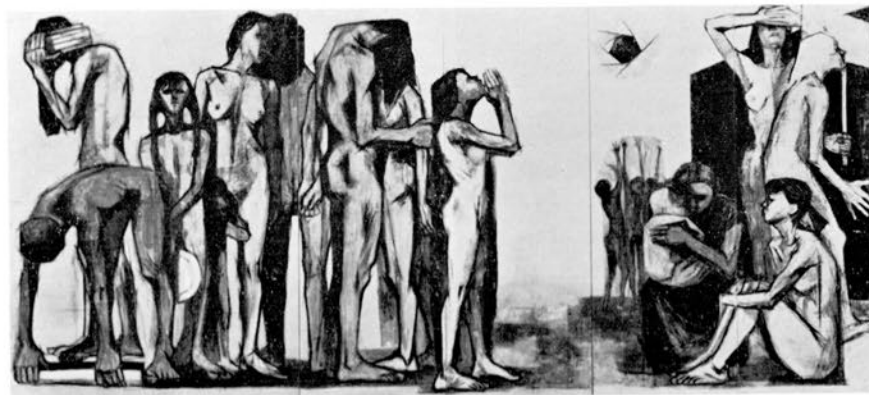
35 草原八月 (新制作展) 上村松篁



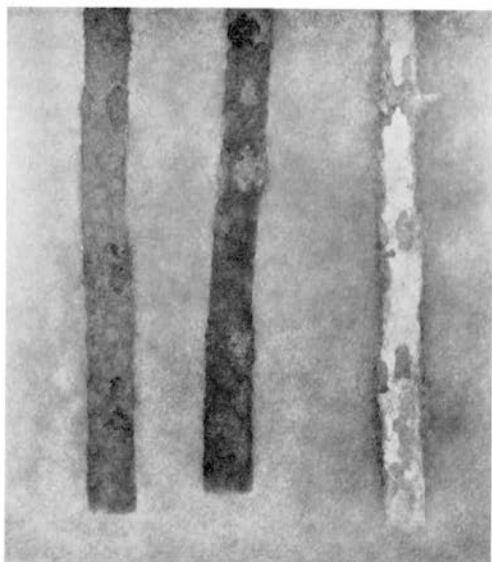
36 くじゃく (新制作展) 吉岡堅二



37 楽しい仲間 (新制作展) 堀 文子



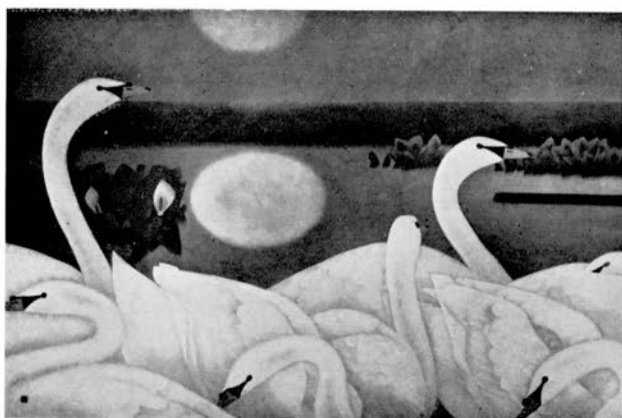
38 求める人々 (新制作展) 朝倉 摂



42 赤松 (日展) 徳岡神泉



39 荒原 (新制作展) 稗田一穂



43 白鳥 (日展) 森白甫



40 冬の樹木 (新制作展) 工藤甲人



44 日暮 (日展) 杉原元人



41 樹響 (新制作展) 麻田腐司



48 淀の河州 (日展) 沢野文臣



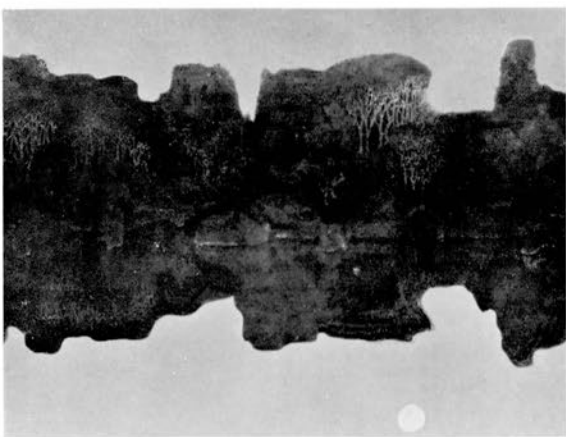
45 雪晴れ (日展) 中村岳陵



49 三人 (日展) 望月美江



46 樹映 (日展) 浜田綱



50 沼 (日展) 高山辰雄



47 椿 (日展) 金島桂華



54 朝暉 (日展) 堅山南風



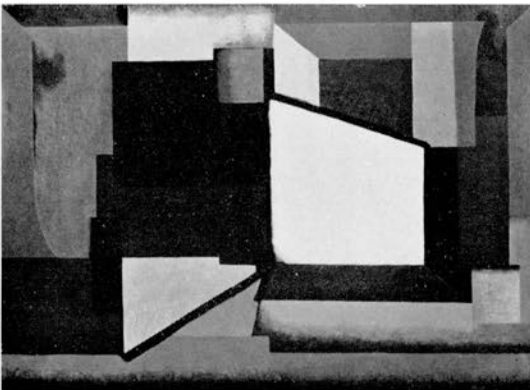
51 孔雀 (日展) 杉山寧



55 新涼 (日展) 寺島紫明



52 黄牡丹黒牡丹 (日展) 望月春江



56 意識 (日展) 堂本印象



53 篝火 (日展) 加藤栄三



60 船島に向う (尚美展) 石井船三



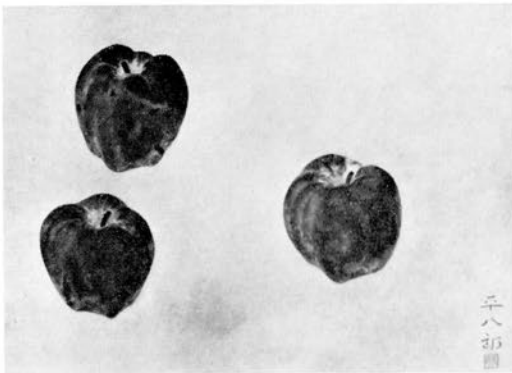
57 三人の裸婦 (日展) 三谷十糸子



61 夕湖 (尚美展) 東山魁夷



58 雀の宿 (尚美展) 小杉放庵



62 林檎 (成和会展) 福田平八郎



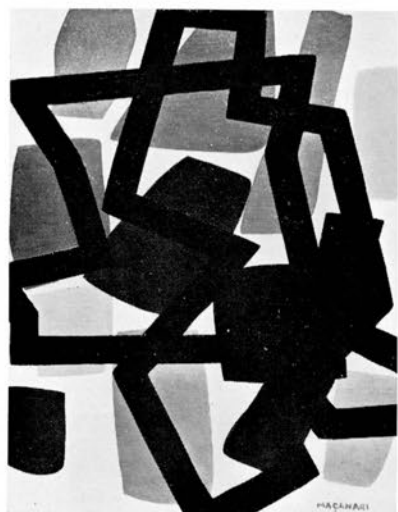
59 雪嶺 (尚美展) 川合玉堂



66 火の鳥 (モダンアート展) 勝呂 忠



67 巴里風景 (モダンアート展) 荒井龍男



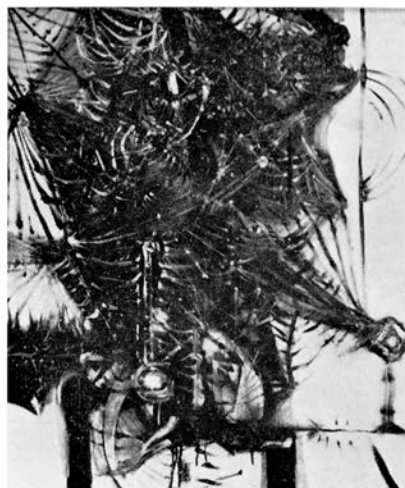
68 いそぐ人 (モダンアート展) 村井正誠



63 労働(ロール工) (日本美術会アン
デパンダン展) 金子真珠郎



64 燃 (美術文化展) 喜田一夫



65 自転車を盗まれた男 (美術文化展) 幸 寿



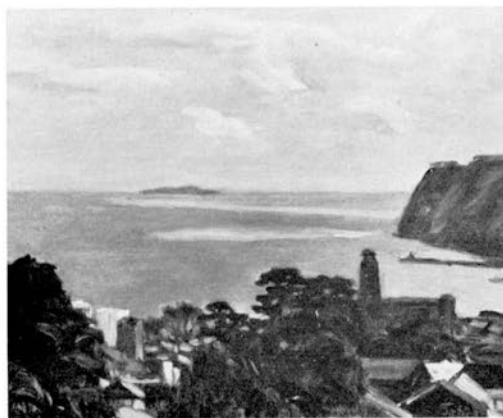
72 リュー・シアラントン (個展) 萩須高德



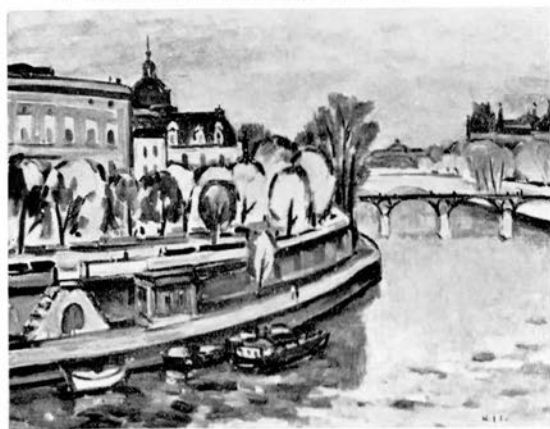
69 56-60-1 (モダンアート展) 中村 真



73 水田を拓く (モダンアート展) 山口 薫



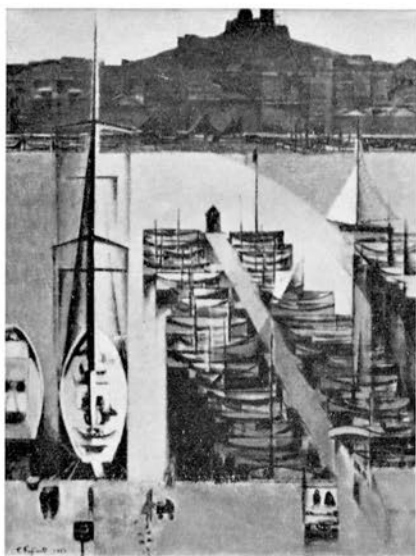
70 熱 海 (新作個展) 有島生馬



74 セーヌ河畔 (光風会展) 井手宣通



71 大下春子刀白像 (水彩聯盟展) 荒谷直之介



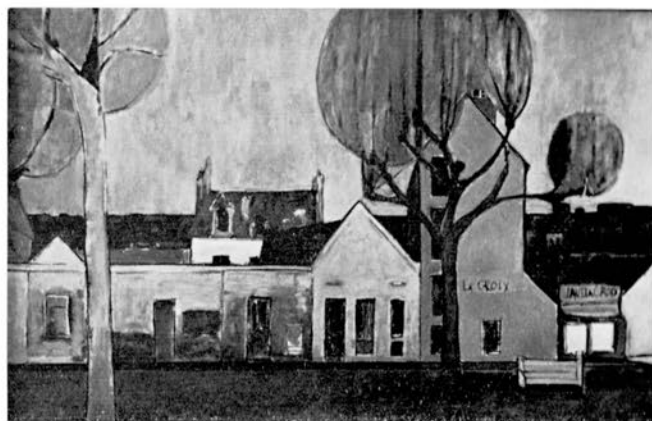
78 マルセイユ港 (光風会展) 藤本東一良



75 漁村 (光風会展) 山喜多二郎太



79 少女緑衣 (創元会展) 中野和高



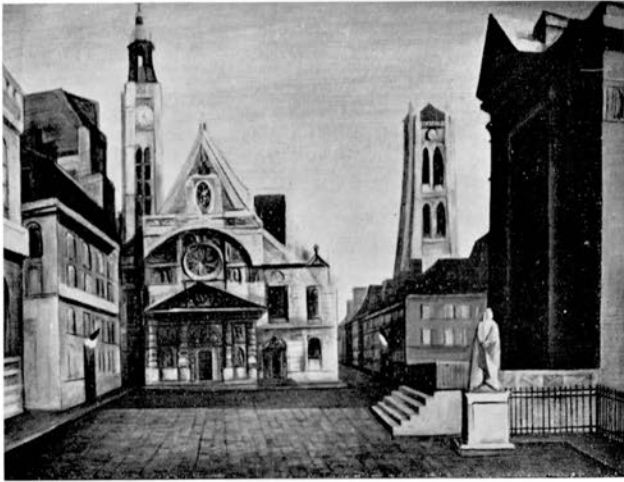
76 パリー郊外 (創元会展) 小野彦三郎



80 牛を売る (春陽会展) 水谷 清



77 裸婦 (光風会展) 中村研一



84 サンテチエンスデユモン広場 (春陽会展) 村山 密



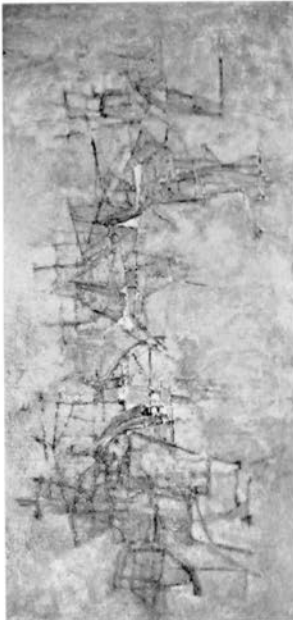
81 木 (国画会展) 野田好子



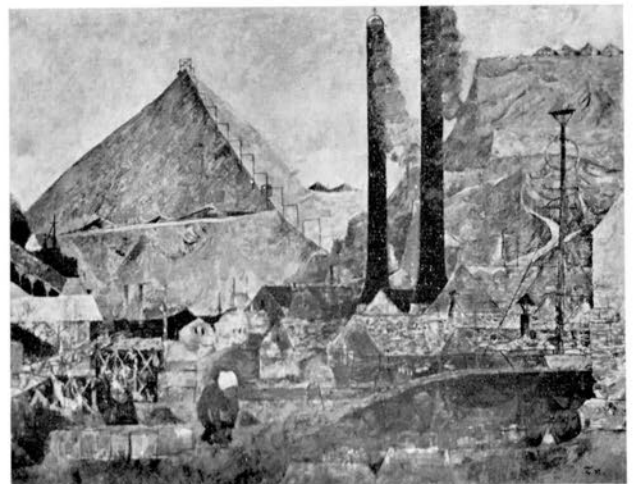
85 菊 (春陽会展) 加山四郎



82 パリスの審判 (春陽会展) 三雲祥之助



86 作品「もろい」(国画会展) 東 貞美



83 炭 坑 (春陽会展) 中谷 泰



90 富士山図 (国画会展) 梅原龍三郎



91 ころんだ椅子 (春陽会展) 藤井令太郎



92 パリシティ (国画会展) 真垣武勝



87 蘭花図 (新世紀展) 川島理一郎



88 テラスの春 (新世紀展) 大久保作次郎

89
指定席 (国画会展) 橋野富彦





96 海辺の熔岩 (現代日本美術展)

曾宮一念



93 つみくさ (東光会展) 斎藤与里



97 秋色裸婦 (現代日本美術展) 野口弥太郎



94 春 雪 (東光会展) 小早川篤四郎



98 ヤキバナカエリ (現代日本美術展) 熊谷守一

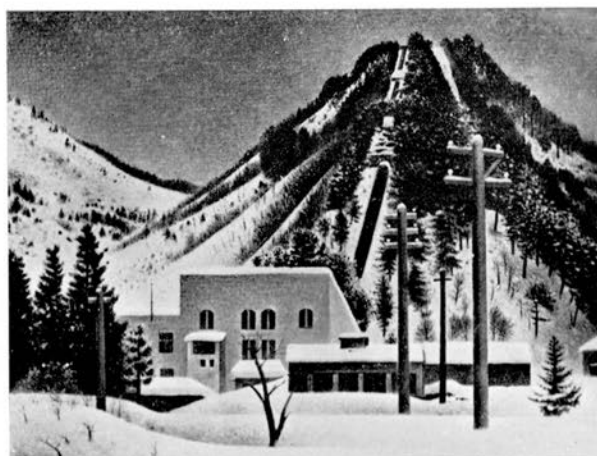


95 北陸の海岸 (画業50年展)

金山平三



102 小 諾 (現代日本美術展) 斎藤長三



99 雪の充電所 (現代日本美術展) 岡 鹿之助



103 死者を運ぶ (現代日本美術展) 鶴岡政男



100 狩 獵 (現代日本美術展) 福沢一郎



104 春 行 く (現代日本美術展) 小糸源太郎



101 衣をあたる (現代日本美術展) 海老原喜之助



108 アマリリス (連立展) 友田みね子



105 犬のいる道 (現代日本美術展) 寺田政明



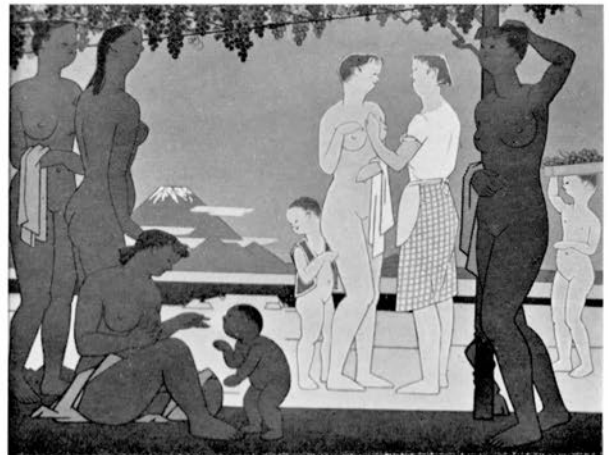
109 朝 (日仏具象派展) 寺田春次



106 霞 草 (薔薇会展) 香月秦男



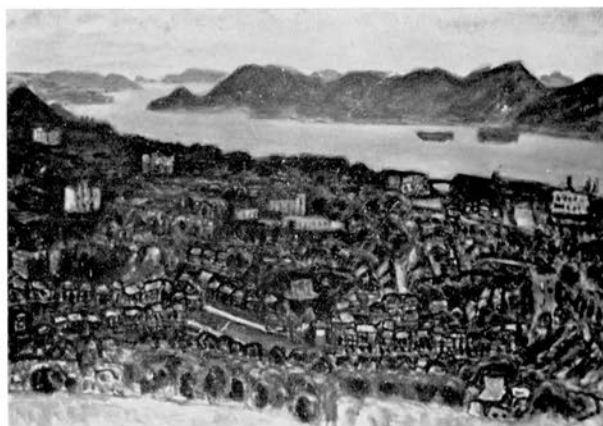
110 コンカルノ港 (日仏具象派展) 関口俊吾



107 葡萄の国 (太平洋画会展) 布施信太郎



114 Doctor Y. (新樹会展) 南 政善



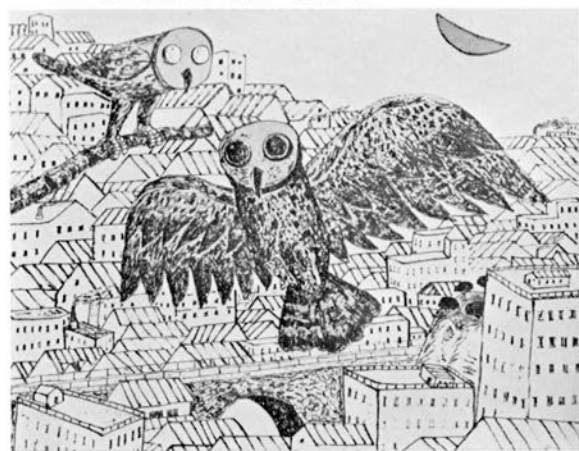
111 長崎風景 (一陽会展) 鈴木信太郎



115 海と魚 (一陽会展) 野間仁根



112 ふらんこ (新樹会展) 大河内信敬



116 晩 鐘 (一陽会展) 山路真護



113 道化(恋)B (新樹会展) 朝井閑右衛門



120 白い花 (二科会展) 東郷青児



117 囁 鼠 (二科会展) 吉朴太造



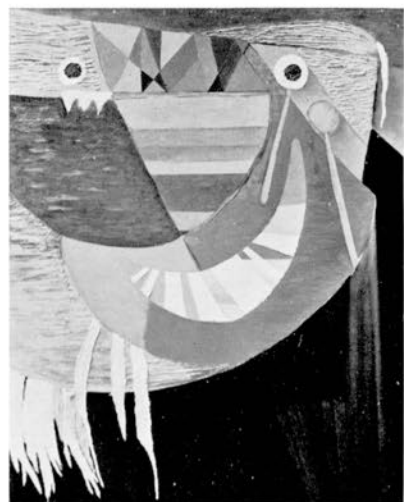
121 川岸の街 (二科会展) 青山龍水



118 メキシコ市場の隅 (二科会展) 北川民次



122 建 設 (二科会展) 岡本太郎



119 クラゲ (二科会展) 桂 ユキ子



126 土 (行動美術展) 高橋 通



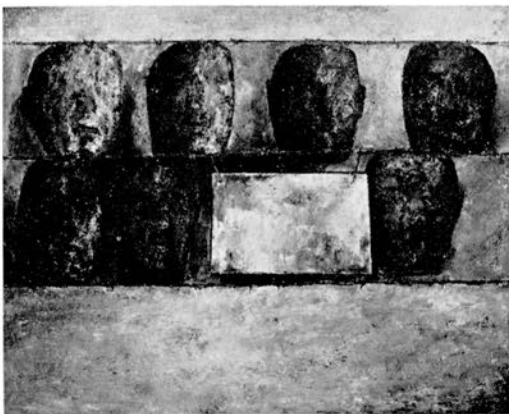
123 地球は終りぬ (二科会展) 井上 寛造



127 木の構図 (二科会展) 大沢昌助



124 柘榴などの静物 (行動美術展) 伊谷 賢蔵



128 ふだ (行動美術展) 田中阿喜良



125 煙雨の岬 (行動美術展) 向井潤吉



132 僧院の歌B (立軌会展) 有岡 一郎



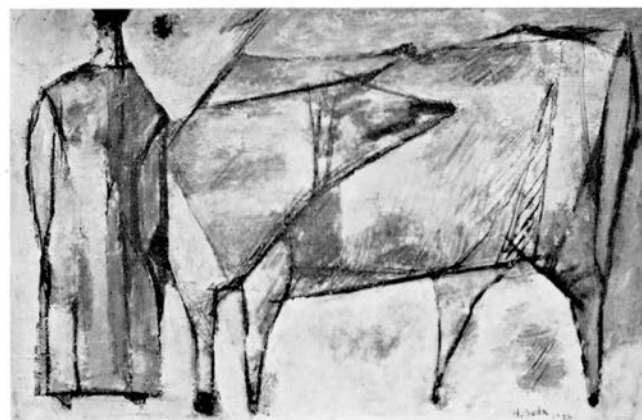
129 涙 (行動美術展) 佐藤 真一



133 母 子 (立軌会展) 大賀松三



130 函館港風景 (行動美術展) 田辺三重松



124 牛 と 人 (立軌会展) 須田 寿



131 少女とたまごぎ (新制作展) 合田小三郎



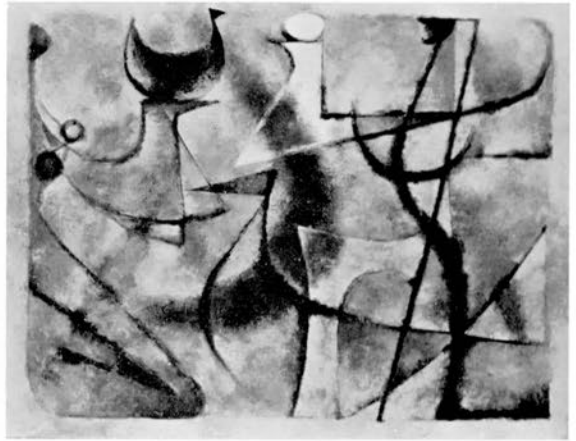
138 海 嘘 (新制作展) 館石 昭



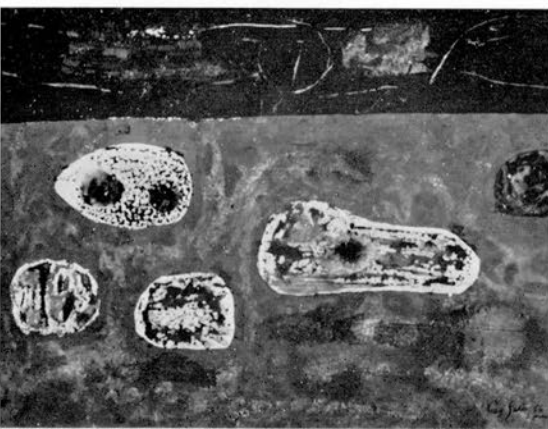
135 燈 台 (立軌会展) 牛島 憲之



139 母子群像(部分) (新制作展) 小磯良平



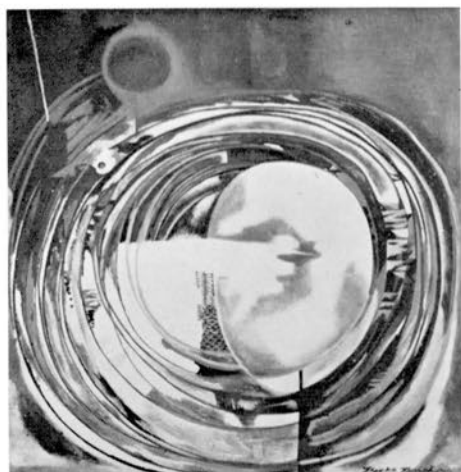
136 埋れた歴史(その5) (立軌会展) 榎戸 庄衛



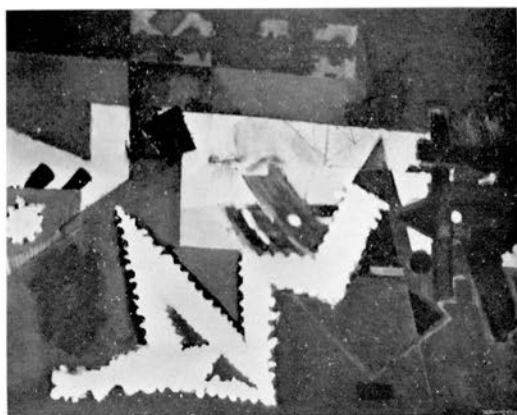
140 作品 A (新制作展) 佐藤 敬



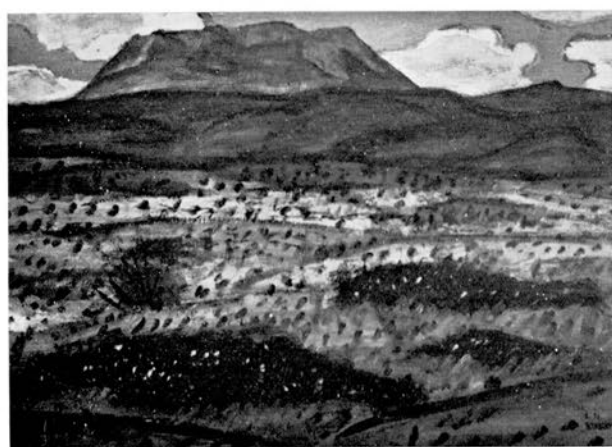
137 月 (新制作展) 油野 誠一



144 祭 日 (新制作展) 田中田鶴子



141 形 象 A (新制作展) 川 端 実



145 高原の猫嶽 (一水会展) 田崎 広助



142 花を持つ (新制作展) 脇田 和



146 裸 身 (一水会展) 石井 柏亭



143 喧嘩女集会 (新制作展) 赤 穴 実



150 三文絵の詩 (二紀会展) 峰岸義一



147 十和田の女 (一水会展) 中村 琢二



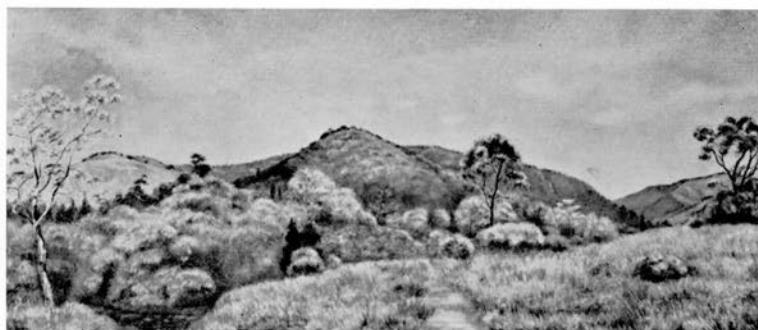
151 月光と海水 (二紀会展) 鍋井克之



148 M 君 像 (一水会展) 木下孝則



152 秋 香 (二紀会展) 佐伯米子



149 奈良風景 (一水会展)

山下新太郎



156 月とヘーマー (独立展) 高岡 惣七



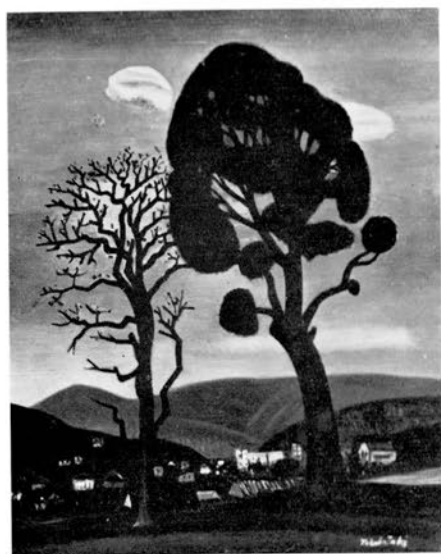
153 箱 根 (二紀会展) 宮本三郎



157 樹 (独立展) 椋井 浜江



154 野外婦人 (独立展) 林 武



158 樹 木 (独立展) 高島達四郎



155 夜の窓辺の花 (独立展) 中山 隼



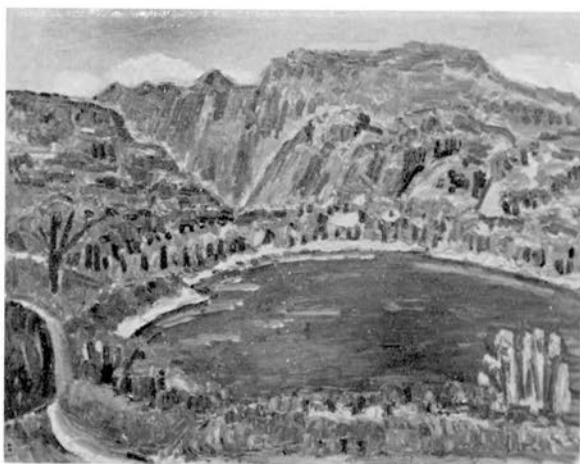
162 牛 追 い (独立展) 李田たけを



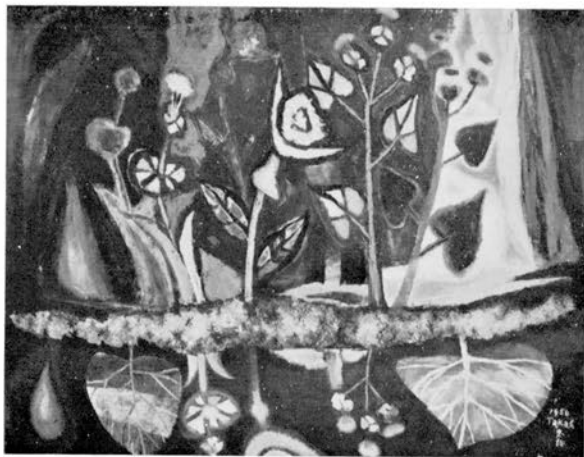
159 彫刻(黒)ワツクル (独立展) 烏海青児



163 日 (自由美術展) 末松正樹



160 秋 山 (独立展) 小林和作



164 水蝶花(夜) (独立展) 高橋忠彌



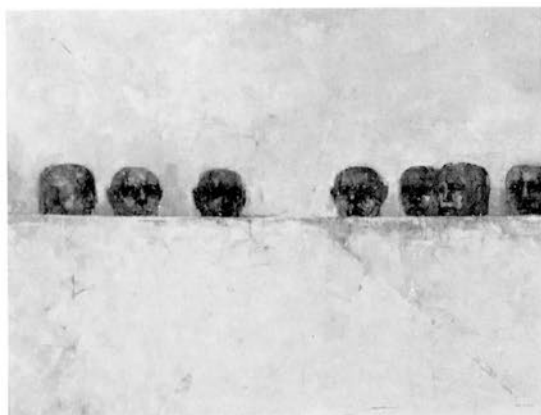
161 婦人座像 (独立展) 児島善三郎



168 てつせん (日展) 鈴木千久馬



165 ロマンツエロ (自由美術展) 小野忠弘



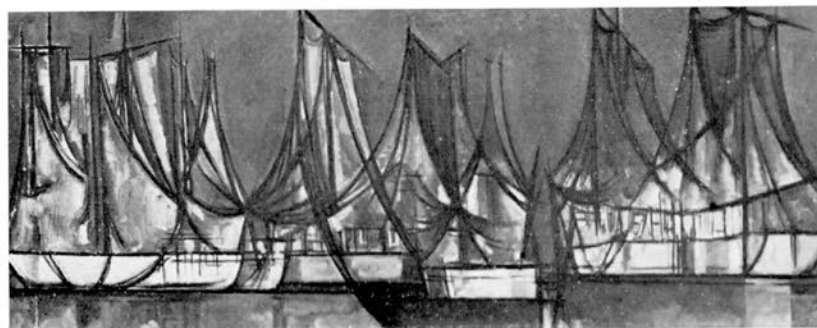
166 壁 (自由美術展) 糸岡和三郎



169 鉄屑の花 (個展) 海老原喜之助



167 自由 (自由美術展) 井上長三郎



170 漁船 (自由美術展)

堀内規次



174 ひ と り (日 展) 森田元子



171 グラナダの丘 (日 展) 田村一男



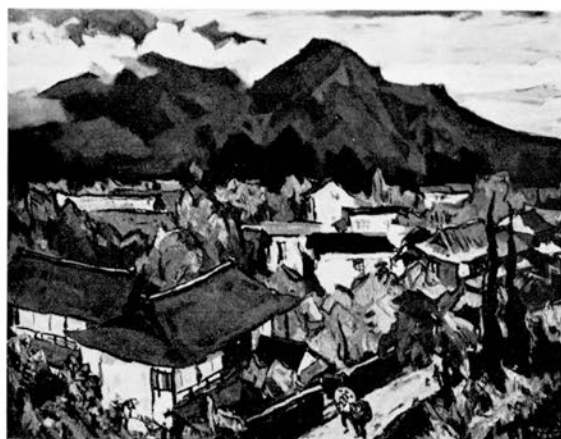
175 つゆの晴れ間 (日 展) 辻 久



172 受 難 (日 展) 笹岡了一



176 青 年 (世界・今日の美術展) 加藤 正



173 雨 後 (日 展) 石川寅治



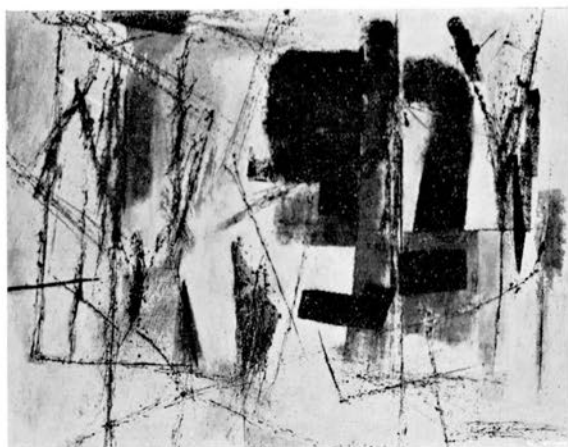
180 塔の周辺 (世界・今日の美術展) 三井永一



181 雑草 (世界・今日の美術展) 青井辰雄



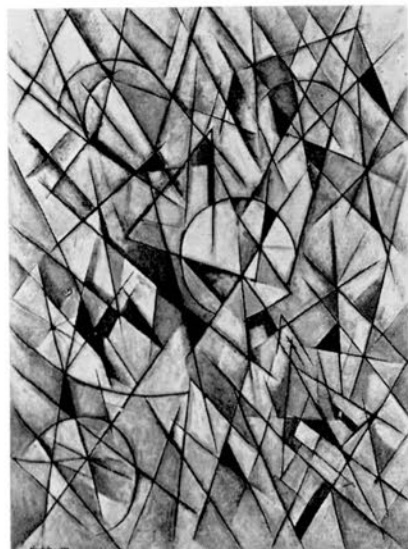
182 さかな (高美展) 中川一政



177 凍 (世界・今日の美術展) 津高和一



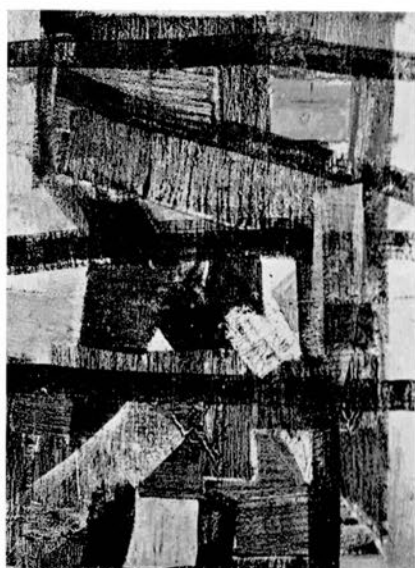
178 森になつた馬神 (世界・今日の美術展) 小牧源太郎



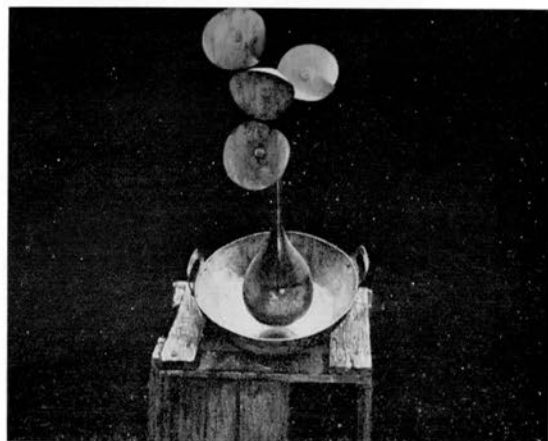
179 軌跡 (世界・今日の美術展) 龍波田龍紀



186 こいつ (世界・今日の美術展) 神谷信子



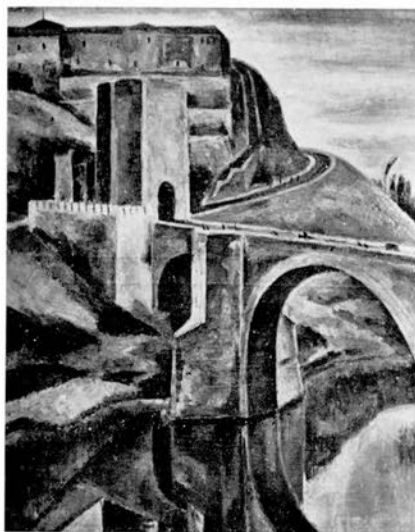
183 作品6 (世界・今日の美術展) 須田 朝太



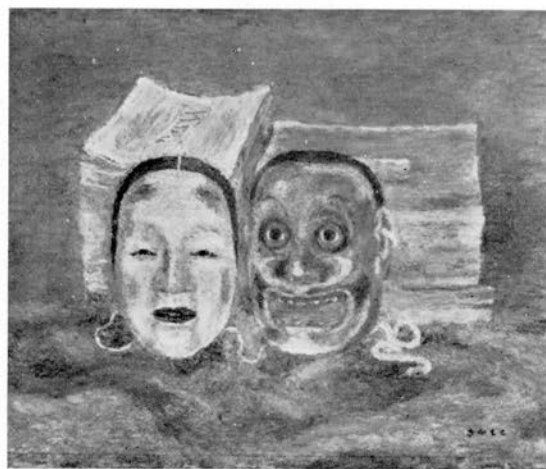
187 前衛挿花 (個展) 河野通紀



184 十字架の像 (世界・今日の美術展) 朝妻治郎



188 薄暮のアルカンタラ橋(画業30年展) 小山敬三

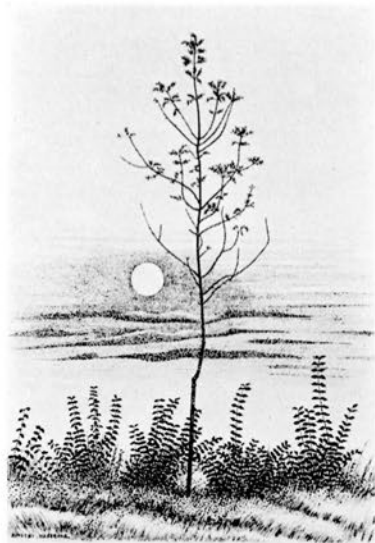


185 能面 (三彩会展) 坂本繁二郎

版 画



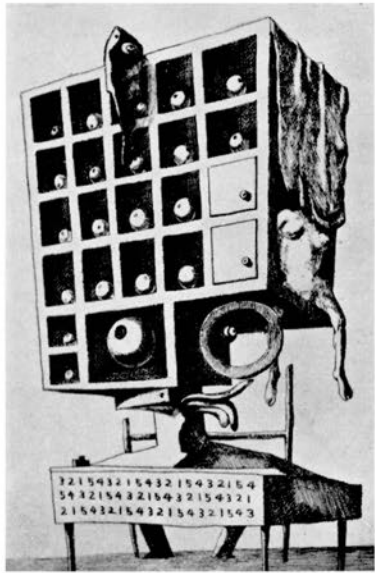
192 鳥籠 (春陽会展) 前田藤四郎



189 病める若木 (日仏具象派展) 長谷川 潔



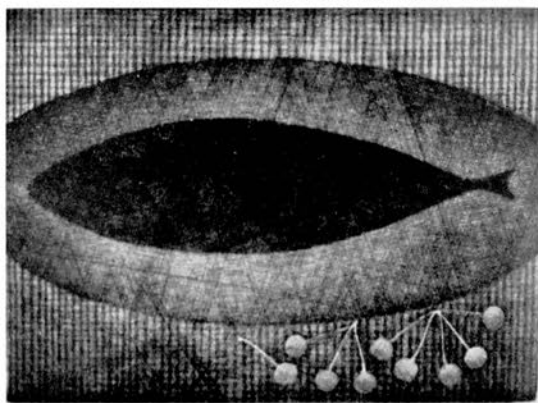
193 蒼原 (日 展) 棟方志功



190 副校長D氏像 (現代日本美術展) 浜田 知明



194 家旗 (世界・今日美術展) 品川 工



191 魚 (現代日本美術展) 浜口陽三



198 兵隊と僧侶 (遺作展) 清水登之



195 老人の首 (光太郎・智恵子展) 高村光太郎



193 薔 薇 (遺作展) 安井曾太郎



196 煉瓦焼場 (祐三・華岳名作展) 佐伯祐三



200 散 策 (遺作展) 菊池契月

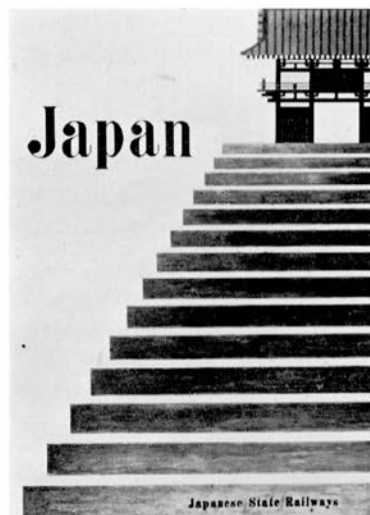


197 裸 婦 (祐三・華岳名作展) 村上華岳

商業美術 (日本宣伝美術会提供写真を含む)



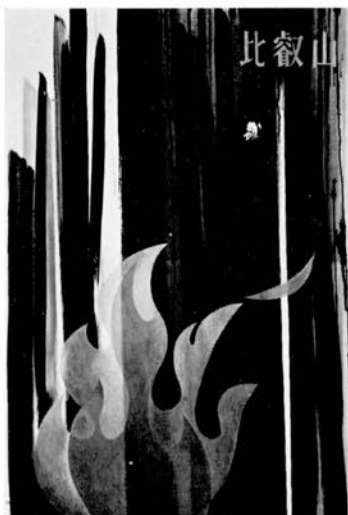
204 ポスター、国際原子力平和利用会議 (日宣美展) 亀倉雄策



205 ポスター、JAPAN (日宣美展) 加藤晴一郎



201 LPジャケット (日宣美展) 杉浦康平



203 ポスター、比叡山 (二科会展) 高橋春人



202 ポスター、セイコー腕時計 (日宣美展) 成清浩司



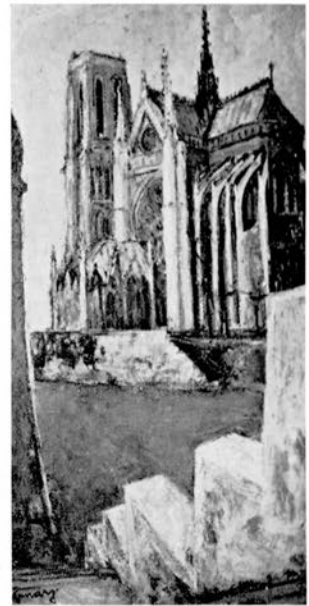
209 農夫達 (日仏具象派展) アンドレ・ミノー



206 エクスギヤリエール (日仏具象派展) ゲリエ



210 力 (個展) ブルデル



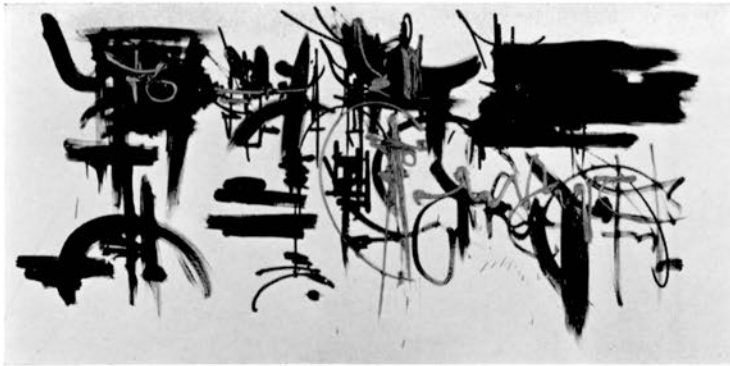
207 ノートルダム (日仏具象派展)
ジャン・ルイ・ヴィネイ



211 風の中のベアトリーゼ (個展) ブルデル



208 ヴェニスにて (日仏具象派展) ロジェー・モンタネ



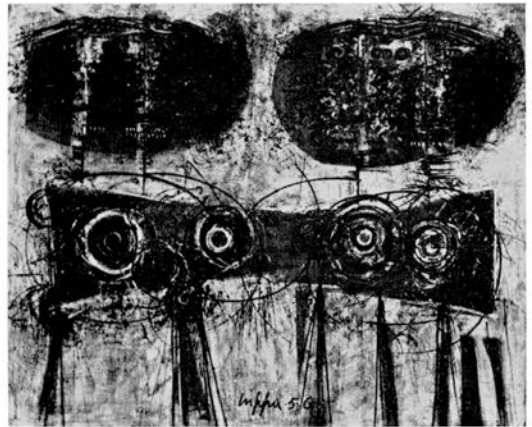
215 CCCC (世界・今日の美術展) マチウ



212 砂漠の街 (世界・今日の美術展) トビー



216 F1110 (世界・今日の美術展) リオベル



213 カルタする人 (世界・今日の美術展) クリツバ



217 ジャングルの情熱 (世界・今日の美術展) ベナルバ



214 悪魔 戯い (世界・今日の美術展) ウアザリ



222 おんな (現代日本美術展)
向井良吉



218 胃袋の共存 (日本美術会アンデパンダン展) 井手則雄



220 藤島武二先生像 木郷新



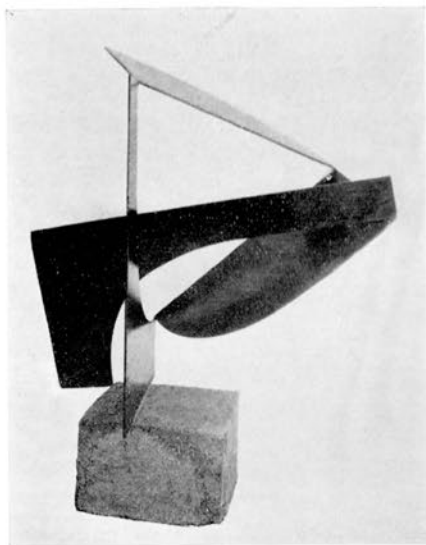
223 若い女 (日仏具象派展)
山本豊市



221 トルソー (現代日本美術展)
植木茂



219 女 (現代日本美術展) 木内克



227 EXERCICE (1) (二科展) 堀内正和



224 陽光 (創型会展) 中野四郎



228 像 (行動美術展) 松岡卓



225 イヅ (行動美術展) 中島快彦



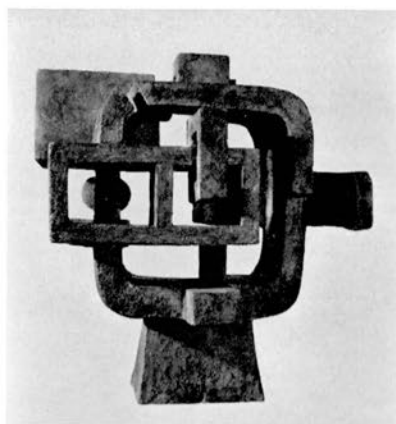
229 夏の雲 (二科展) 淀井徹夫



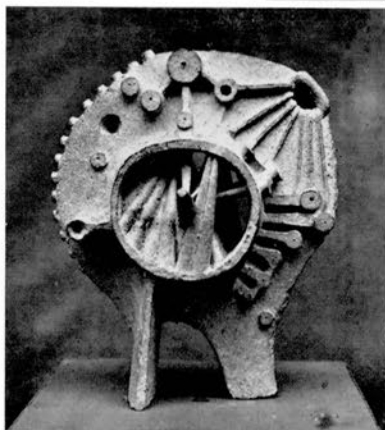
226 貌 2 (行動美術展) 建畠寛造



233 女子高校生 (院展) 石井 勲三



230 果 (二科展) 平川正道



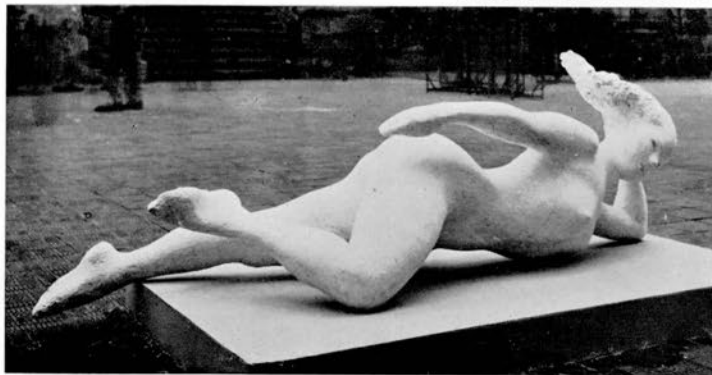
231 時計 (院展) 辻 晋堂



224 宇部産業祈念像 (新制作展) 山内 壮夫



232 馬 (院展) 福家靖夫



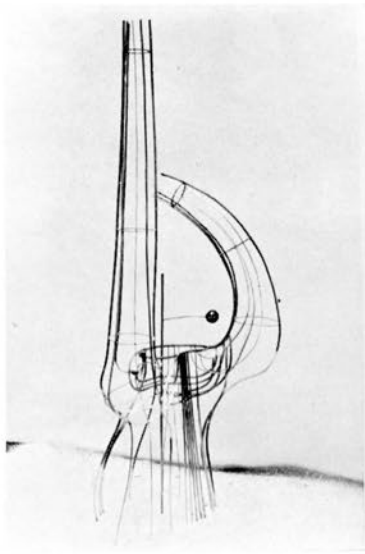
235 飛天 (新制作展) 菊池一雄



236 女 (新制作展) 加藤昭男



240 殻の発展 (自由美術展) 森 亮 茂



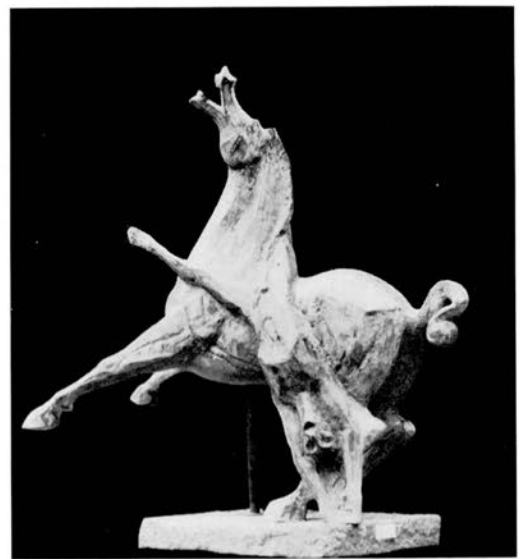
239 作品Jの3 (二紀会展) 長野隆業



237 作品 A (二紀会展) 坂上政克



241 風に向う (自由美術展) 昆野 恒



238 黄 駝 (新制作展) 豊福知徳



247 若い女 (日展) 朝倉響子



245 青年像 (日展) 朝倉文夫



242 作品 (46人展) 毛利武士郎



243 新しき十字架 (日展) 加藤顕清



248 健人 (日展) 雨宮治郎



246 踊り子 (日展) 高橋剛



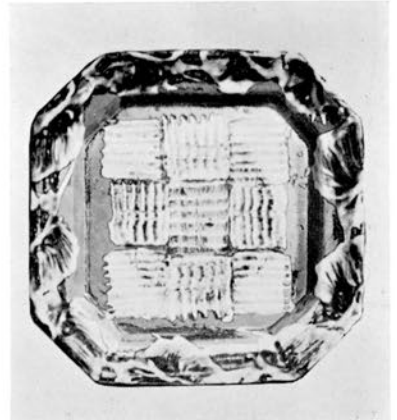
244 鸵鳥 (日展) 伊藤芳雄



252 産業工芸試験所公開展 産業工芸試験所



249 春慶塗鉢形盛器 産業工芸試験所



250 スミ切角鉢 (国西会展) 佐久間藤太郎



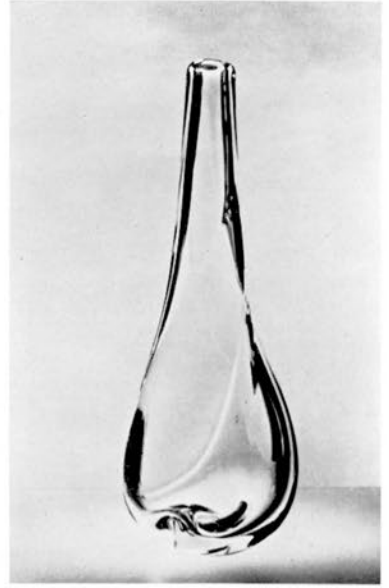
253 カナダ国民展出品モデル・ルーム 海外貿易振興会他



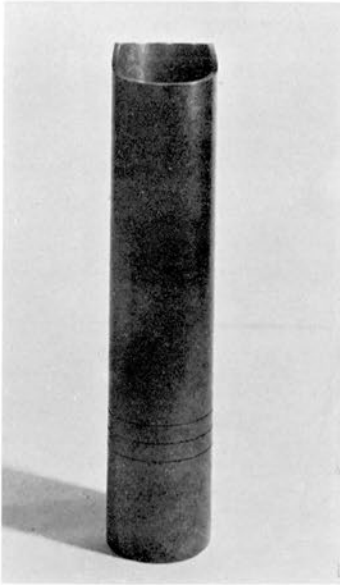
251 柳宗理工業デザイン展 柳宗理デザイン研究所



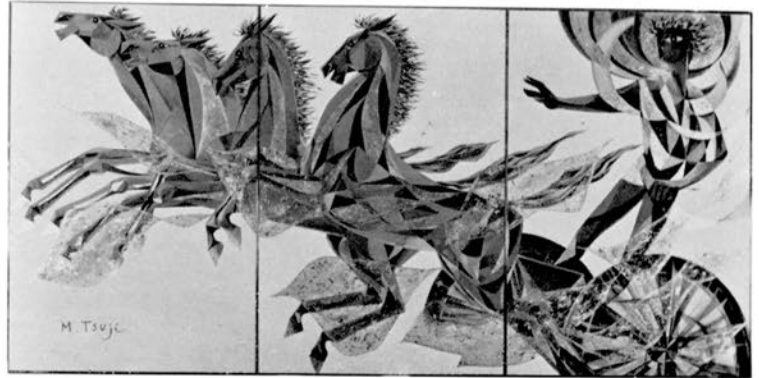
257 花「誕生」(日展) 山本正年



254 クリスタル花器(日展) 各務敏三



258 鑲銀ずんと花入(日展) 高村豊周



255 太陽神エリオス(日展) 辻 光典



259 陶製花瓶「空」(日展) 宮之原 謙



256 花器(日展) 板坂辰治

建 築 (新建築社、フリデス
トン提供写真を含む)



253 山陽服飾美術学院 柳建築設計事務所



260 秩父セメント第二工場 谷口吉郎



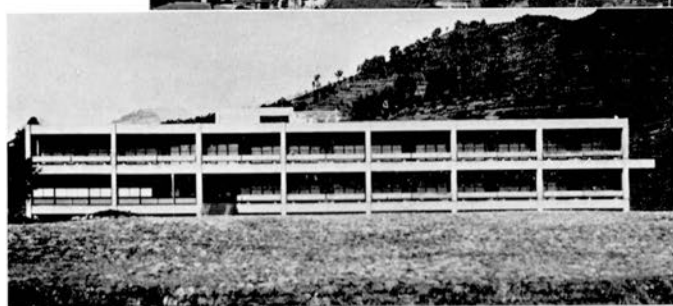
264 小田急ビーチハウス 久米建築事務所



261 聖アンセルモ教会 レイモンド



265 神戸新聞会館 村野・森建築事務所



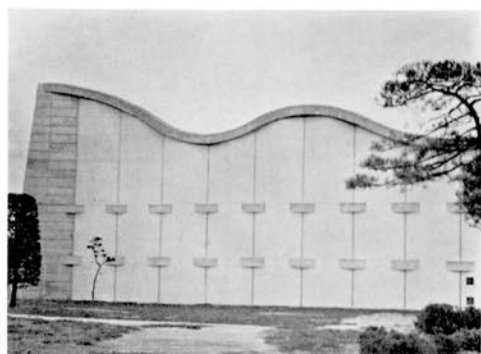
262 厚生年金湯河原整形外科病院及同看護婦宿舎 日建設計工務株式会社



269 マヤ片岡の家 清家 清



266 東京空港郵便局 郵政大臣官房建築部



267 福島県教育会館 ミド 同人



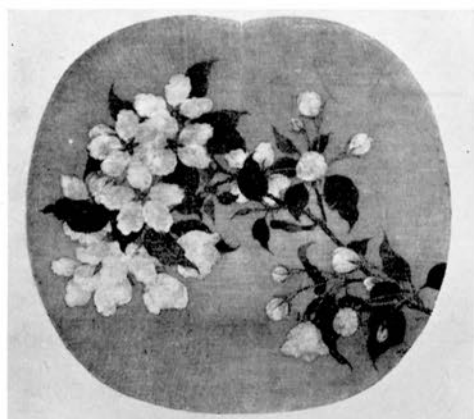
270 ヴェニス、ヴィエンナーレ日本館 吉阪隆正



271 石橋美術館 菊竹建築研究所



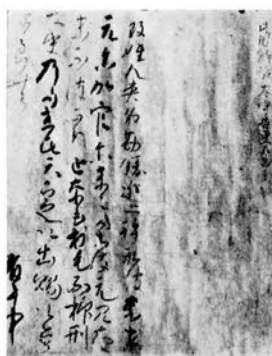
268 高原集団住宅 谷口吉郎



276 林檎花図 浅野長武



277 新羅明神坐像 園城寺



273 讃岐国司解 卷首藤原有年申文
国(東京国立博物館保管)



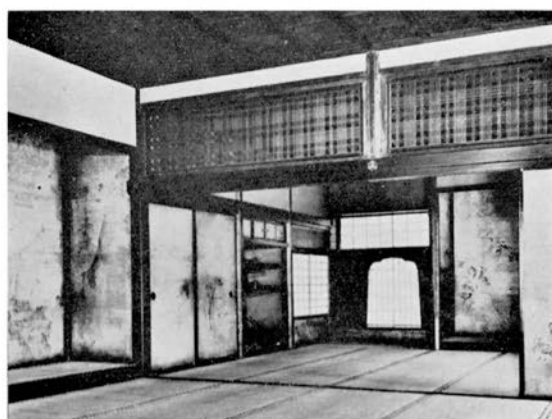
272 閻魔天像 醍醐寺



274 菩薩半跏像(部分) 宝菩提院

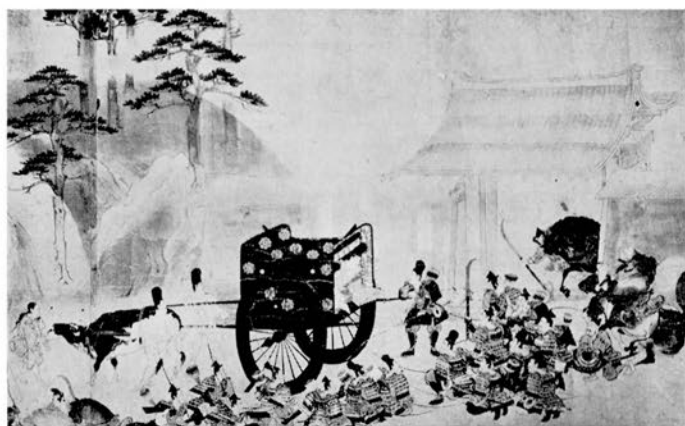


278 金銅八角燈籠 東大寺



275 木願寺黒書院 木願寺

(新指定重要文化財)



283 平治物語絵詞(信西巻)

静嘉堂



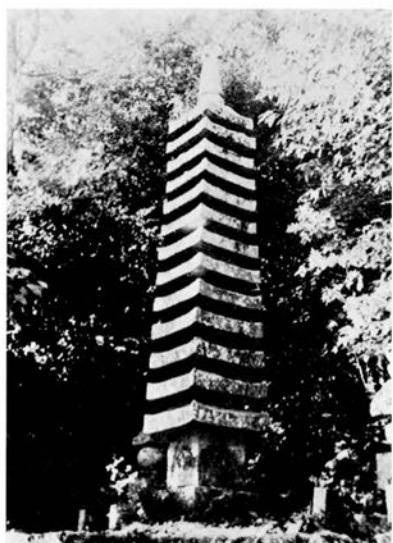
279 虚空菩薩坐像 能満寺



284 舟楫時絵匣 国(東京国立博物館保管)

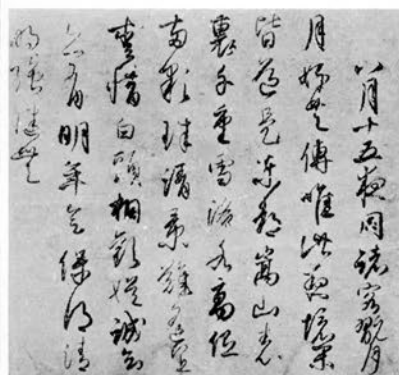


281 隨身立像 高野神社



285 笠置寺十三重塔

笠置寺



282 白氏詩卷 藤原行成筆 国(文化財保護委員会保管)



280 墨き猫図 菱田春草筆

本

欄

昭和三十一年美術界概観

現代美術

日本画

わが国の政治的、経済的安定につれて、美術界も一応の落つきと、新しい発展のきざしを見せはじめている。また海外諸国との国交の回復とともに、文化交流は益々さかんになつて来た。

まず国内的に本年度の日本画界を顧みると、斯様な状況の中に日本画は、より複雑な問題をはらみながら世界的視野をもつた伝統藝術の創造に苦悩の色をみせている。そして日展をはじめ定期的公募展の会場には、これらの課題にとりくんだ日本画家たちの真面目な努力のあとと、誠実さとを一般観者に印象づけた。

しかし一方その成果の上では団体活動としても、また創作活動としても特記すべき事柄もなく、極めて平穩な一年であつたと言えよう。

現在日本画の発表機関は洋画に比して極めて少数に限られるが、作家の主力はやはり秋の公募展の院展、新制作展、日展等に傾けられる。その他相変らず盛況の百貨店や画商企画による多くの展覧にも佳作がみられる。

またここ数年来洋画界での個展による作品発表はおびただしい数に及び、個展ブームの時代を現出しているが、今年は従来洋画に比してその数も少かつた日本画家による個展が目立つようになつた。年頭の山口蓬春の鎌倉近代美術館に於ける展覧をはじめとしこの様な発表形式が日本画の作家にも及んだことは、その作家の全貌をつかむ上にまことに好都合であつた。また向井久万、北沢映月その他の京都作家の東上展も多く注目をひいた。

主要展覧会では、まず秋の劈頭を飾る院展だが、ここでは日本美術院創始以来の歴史の出来事といわれる横山大観の病氣による不出品と、小林古径

のやはり病氣不参加で意外なさびしさを招いた。しかし、青邨の「裸婦群像」をはじめ、土牛の白鳥の湖のオデット姫(谷桃子)を描いた「バレリーナ」等は、その若い意慾にみちた仕事振りが一般に好評であつた。その他では、靱彦の気品高い「伏見の茶亭」、小倉遊亀「少女」、中村貞以「爽涼」、岩橋英遠「新山生成」等が話題に上つた。この会場では出陳作全般にわたつて、徒らに新奇に走る作も、ひどく時代ずれしたのも見受けられず、漸進的なうちに洗練された日本画の技法と気品ある作風によつて会場は落ちついた老舗の雰囲気と貫録とを示している。

院展と同時に開かれる青竜社展では、相変らず竜子が旺盛な製作意慾を示し会を引率しているが、今年には竜子の「渦潮」が目立つたほか、新人横山操が「炎々核島」で、創社以来二回目という青竜賞を得て注目された。

次に、新制作協会日本画部は、主要公募団体の内では最も歴史も新しく、西欧的造型を直接的にとり入れる等、戦後の日本画界にフレッシュなモダニズムを注いで一つの流行をみせたが、同協会の今年二〇周年を記念するパンフレットにも反省の言葉がある様に、最近の傾向はこの派のモダニズムもすでに類型化の道をたどりはじめてきている。今年の会場でも、装飾性の強い福田豊四郎「濤」、山本丘人「晩雪」、稗田一穂「荒原」、麻田鷹司「樹響」等注目されたが、伝統的日本画の手法を尊重しながら新様式を追求する京都作家上村松篁の「草原八月」は、洋画との区別も不明瞭となりがちな作品群の中に、かえつて目立つて注目された。また加山又造の「狼」も、新人のホープとして話題となつた。

日展は、例年のことながら京都画壇から大挙参加して、古風な旧法を守つた伝統派から、穩健な近代調、抽象的傾向のもの等各派綜合され、日展らしい華やかな空気をただよわせた。

先ず、大家級では今年も神泉の「赤松」をはじめ、南風「朝暉」、岳陵「雪晴」、深水「古典の人たち」等が話題となつた。また堂本印象の「意識」も、これらの中に在つて抽象的傾向が目立つた。日展には現日本画壇の中堅ホープと目される人たちが多数参加して活気を呈しているが、空間を効果的に扱つた杉山寧の「孔雀」は、今年も話題を賑わし、日展随一の問題作となつ

た。また高山辰雄「沼」や、舟ばたに休む鶉の群れを描いた加藤栄三の「篝火」、水に映る樹影を文様の明快な色彩で表現した浜田観「樹影」等が注目された。そのほかでは、花卉を得意とする望月春江が、今年は「黄牡丹黒牡丹」を出品し、古い手法によりながらも、きめ細かな気品ある画面を示し、花に寄せる作者の愛情が感じられる会場出色の佳作であった。またこの種古い技法を追いながらも今年藝術院賞を受領した山口華楊の「虎」なども、日本画の水準を高くゆくものであった。また特選のうちでは沢野文臣「淀の河州」、海老名正夫「水田」等印象にのこるものであったが、総じて出品作全体に作調が落ちついて、特に破調もみられないかわりに、力量の範圍で儀好くまとまつてしまつた感をいじめない。美術に反映した戦後一〇年の社会的安定とみられないこともなからう。これら公募展では、大體歴史の古い院展では大家層に、日展では中堅層、新制作では新人の間に、活躍が顕著なようであり、団体の年齢の上からも面白い事実である。

以上が主要公募展の概要であるが、これらのほかデパートや画商が企画する街の展覧は今年も上昇線をたどり、彩交会、清流会、一采社、青羊会、未更会等定期的展覧を行うが、これらは大家、中堅どころの人気作家をそれぞれの企画によつて集めて会をつくつたもので、大體顔ぶれが似かよつてしまい、会の特色の様なもの余りみられない。作品としても自主的グループ展や所属団体の発表展とはおのずから異なるのが現状であるが、日本画家達はこれらをもつと積極的に実験的作品発表の場とすべきではなからうか。これらのうち平八郎、神泉、土牛等による彩交会、青樹、靱彦、清方等による清流会の大家級のものや、杉山寧、高山辰雄、加藤栄三等中堅作家を集めた未更会、青羊会等に人氣が集まり好評であった。また去年から松竹梅の主題を交替で描く玉堂、童子、大観の松竹梅展も、今年は玉堂の「隣の梅」が最も好評であった。なお兼素洞の小倉遊亀、太田聰雨二人展も、最近とみに快調な遊亀と、聰雨を組合せた企画は一般に好評で、ことに遊亀の確実な技術と、情感をもつた山吹(口絵原色版参照)や椿の静物は印象にのこるものであった。そのほか松屋の新しい企画で現代作家スケッチ展シリーズがあるが、今年には日本画家では東山魁夷、奥村土牛、中村岳

陵、福田平八郎等が催され好評であった。

個展は、新人の横山操が年頭に銀座松坂屋に於いて会場せまきまでに体當りの作品展示を行つて、大いに注目を集めたのをはじめ、主なものに山口蓬春の自薦展、川端竜子東京愛著展、橋本明治個展、加山又造個展等多彩な顔ぶれがみられるが、今年には京都作家の東上展が目立ち、向井久万、北沢映月、樋口富麻呂、勝田哲等中央に日頃の成果を問う積極的意慾の程が感じられた。中でも横山操の展示は作品及び表現内容の大きさに於いて従来の個展の概念を破るものであり、蓬春の自薦展も、最近明確な近代調を示して活躍しているこの作家の仕事の全貌をうかがえるものであり、川端竜子は練達な筆に東京の諸風景を描いて好評であった。また新人加山又造の個展も、若い人らしい模索の跡をうかがえるものであった。京都作家には際立つた特色もみられないが、陶器をまじえた静物画を陳べた向井久万や、柔軟な賦彩で人物画の近代的画面を示した北沢映月、才能を多角的に示した樋口富麻呂等、強いてその特色を求めれば、やはりきめの細かい技術に京都派の面目がうかがえるものであった。そのほか、文化勲章受賞記念のため前田青邨の作品展が藝大で催され、未発表作や画帖をまじえての展覧は注目された。

これらのほか展覧会では回顧展がいくつかあった。国立近代美術館における菊池契月展、銀座松屋の村上華岳、佐伯祐三展及び回顧的意味をもつものとして、松屋の明治、大正、昭和美人画名作展や同時に開かれた上野松坂屋の「美術にあらわれた日本女性」展等の企画は、一般に非常な盛況ぶりをもてた。そのほかには近代美術館の明治以後の風俗画展、日本の風景展、近代日本の名作展等があり、これらのほか展覧会以外の記念的な作品としては、川端竜子が浅草寺天井絵の意図を完成している。

次に、海外の問題としては、アジア連帯文化使節団の一行に日本画家福田豊四郎が参加し、北京で行われた雪舟四百年記念式典には、山口蓬春、橋本明治、評論家北川桃雄の三名が招かれ、日本代表として出席した。またアメリカ、グッゲンハイム財団は、世界的な美術賞のグッゲンハイム賞を設定したが、日本でも国内選考委員会により、洋画の脇田、海老原と共

に、前田青郎の「紅梅」と福田平八郎の「雨」が選ばれて送られた。

そのほか、日本画府をはじめ結社とグループの結成がわずかにみられるが、いずれもとりたててあげる程のこともなく、創作活動及びその他の面においても本年は格別顕著な事項もみられずしておわつた。

洋画

美術界の中でも、洋画はとくに活発な動きのきざしが見える。恒例の諸団体の公募展が例年のように行われる一方、街の画廊では、個展と同時にいわゆるグループ展が盛んに行われた。傾向的に言へば、従来の具象派、超現実派、抽象派等の作家が固定化したのに対し、多くの新人群が、類型を打破して新しい作風を示そうと努力している。これらの新人群を刺戟するかのように、この年の秋には「世界、今日の美術展」が開かれ、海外と、わが国の前衛絵画とが併せて展覧され、海外作家のいわゆるアンフォルメル(非定形)の作風がはじめて紹介された。

次に、一般的に言えることは、各団体の特色が次第に失われ、類似した傾向をとつて居て、多くの団体の存在が次第に無意味となつて来ていて、はやくから団体解消、再編成の音が聞かれることである。そしていずれの団体の中でも、従来の具象的な傾向に比して、抽象主義、表現主義的な傾向の比重が漸次重くなつて来たことが、最近の顕著な現象である。

次に、海外に於ける展覧会としてはヴェニス・ビエンナーレ第二八回展参加があつた。しかも、本年はわが日本館が新築され、開会前に盛んな開館式が行われた。わが国からの出品は、洋画の須田国太郎、脇田和、山口長男、版画の棟方志功、彫刻の山本豊市、植木茂であつた。そして、棟方が版画部門のグラン・プリを得たことは特筆すべきであらう。

また国際的なグッゲンハイム賞候補として、洋画からは海老原喜之助、脇田和の作品が選ばれ、脇田が国内賞を得た。またシェル石油会社がわが新人美術家奨励のため「シェル美術賞」を設定したが、一等賞には田中阿喜良、二等賞には田中岑、三等には内岡安理等五名が選ばれた。

次に、季節を追つて、公募団体展、グループ展から逐次述べて行こう。

春季のトップを切つて相次いで開かれた二つのアンデパンダン展は、日本美術会主催のが第九回を数え、政治思想的意識を多分に反映して居り、本年は日本漫画を歴史的に集めた特別室を作つた。これに対し、読売新聞社主催のもすで八回を重ねたが、ここには、前衛的の新人群の出品が目立つた。出品では福沢一郎、赤穴宏、名井万亀、利根山光人、金子真珠郎の名があげられた。第一六回美術文化展は、福沢一郎が復帰出品して生彩をはなち、土井俊生、清川泰次、田中亜木男などが注目された。第六回モダン・アート協会展では、山口薫、村井正誠、朝妻治郎、中井幸一、東俊二、勝呂忠等があり、故荒井竜男の遺作二点が特別陳列された。JAN(青年美術家集団)の恒例展は、昨年はフランスからクリティック賞作家の作品を招待したが、本年は日本作家だけであつた。藤井令太郎、横地康国、斎藤正夫、五味秀夫などがあつた。第四二回光風会展は、小糸源太郎、中村研一、森田元子らのほか、黒田頼綱、笹岡了一、田村一男などが好調であつた。

国画展は、三〇周年記念として、上野松坂屋に第二会場を設け、梅原竜三郎をはじめ会員たちの三〇年間の記念的作品を特別陳列した。新作としては梅原の「富士山図」のほか、青山義雄、香月泰男、須田剌太、橋本三郎、井上三綱や彼末宏、吉田清志、富田農哉、野中進などの新人が注目された。春陽会は、第三三回を迎えたが、新人たちの活躍がこの会の発展を示し、作品としては、三雲祥之助、岡鹿之助、中谷泰、南大路一、宮城音蔵、福地敬治、田畔司郎などが挙げられた。

春季の大展覧会としては、毎日新聞社主催の第二回現代日本美術展が注目される。これは現代作家の綜合展と目されるもので、わが画壇の趨勢を窺うことが出来る。最優秀賞に選ばれた岡鹿之助の「雪の発電所」、大衆賞となつた林武の「伏目の女」、佳作賞の山口薫の「田園詩」のほか注目されたのは海老原喜之助の「衣を与う」、高島達四郎、「梅」、兒島善三郎「雪柳と海芋に波斯の壺」、福沢一郎「狩獵」、須田国太郎「老馬」、野口弥太郎「踏絵」、島海青児「粉挽き」、小糸源太郎「春行く」、森田元子「黒衣の女」、小林和作「秋」、脇田和「ポピーの死」、田崎広助「早春の阿蘇」、田中忠雄「この人を

見よ、森芳雄「人物」、小山田二郎「愛」、村井正誠「春の斑点」、斎藤義重「漁村」、難波田竜起「昇天する詩魂」などがあつた。

一九五四年在仏当時フランス画家たちと日仏具象作家協会を結成して、関口俊吾、寺田春次、小野末、深谷徹等は、アンドレ・ミノー、ポール・アイズペリ、レイモンド・ゲリエ、ジャン・ルイ・ウイネ、ロジェ・モントーネ等の作品を迎えて、七月ブリヂストン美術館で第一回の日仏具象派美術展を開催した。彼等は開会に際して、東西古来の伝統の本質を尊重し、各々の生活に基盤をもつレアリテ・ユメインを造型表現に訴えようとするものであり、また自己主張や解決によつて真の写実精神を確立しようとするものであることを声明した。抽象に対する新しい絵画運動が両国の新進たちによつて推し進められたことは、この年の一つの注目すべきことであつた。

本年後半の展覧会は、八月下旬の新樹会展からはじまつた。このグループ展もすでに一〇回を重ねたが、今回は招待作家二三名で賑やかな展覧会となつた。全般的には具象的傾向の作品のみで、大した動きもないが、中で朝井閑右衛門の「道化」「港」、井手宣通の「ルクサンブルの冬」が注目され、その他新進では本宮竜太郎、島村三七雄、三岸黄太が挙げられた。昨年二科会から分裂して出来た一陽会の第二回展は、潑測とした生氣に欠けているが、印象にのこつたのはやはり創立会員野間仁根の「海と魚」、鈴木信太郎の「長崎の家」、高岡徳太郎の「海」や荻野康児、丹下富士雄等の作品であつた。

二科会は、前記一陽会の創立で、比較的具象的傾向の作家たちが脱会したため、東郷青児と岡本太郎の二系統の色彩が強くなつたといわれる。また近來いたずらに画面の大きさを競う傾きがあつたが、今回の第四一回展からは大きさを制限した。問題となつた作品には北川民次の「メキシコ市場の隅」、山口長男の「形象」、岡本太郎の「建設」、藤沢典明の「月宿る」、吉仲大造の「キューツ」、桂ユキ子の「ケムシ」や、大沢昌助、服部正一郎、芥川沙織、山本敬輔、織田広喜、藤川栄子等の作品があつた。

第一一回行動美術展では、前年来新人たちの抬頭、進歩が目立ち、抽象

或いは半抽象的画風が増加して来ている。シエル賞を受けた田中阿喜良の「トロイの馬」、田中忠雄の「モーゼ十戒を三示す」、津高和一の「構体」、江見絹子の「いのち」や、伊谷賢蔵、田辺三重松、柏原覚太郎、小出卓二、古家新等の作品が話題にのほつた。

まとまりの良いグループ展として毎秋展覧会を開いてきた立軌会は、会員を公募するという珍しいケースをとつて、五名の新人を迎え、第八回展を開いたが、やはり旧会員たちの作品が注目された。中で須田寿の「売られる牛」、牛島憲之の「晩春」、榎戸庄衛の「埋れた歴史」、有岡一郎の「僧院の歌」、飯島一次の「南海の教会」などが佳作とされた。一水会は、安井曾太郎の死によつて大きな空白が生じた感じを否めない。例年のように穏和な作品が会場を満して、動きもない。長老石井柏亭の「裸身」、山下新太郎の「奈良風景」、田崎広助の「夏の阿蘇山」、小山敬三の「白鷺城」その他仲田好江、納富進、上田哲農などの作品が挙げられた。新制作協会は二〇周年にあたり、物故作家中西利雄、内田巖、野田英夫、今村俊夫の遺作各二点を陳列した。一般出品作には抽象的な作品が次第に増加して来ている。注目された作品には、川端実「形象B」、三岸節子「盾を持った武士」、脇田和「花を持つ」、油野誠二「凶兆」、赤穴宏「科学者S氏の肖像」、玉置正敏「化石する人間」などがある。

独立美術協会の展覧会も、本年は二五周年(二四回展)にあたり、これを機会に会の運営を中堅会員に移し、その情勢を打破しようとする。本年は未だ具体的にそれほどの効果はあらわれなかつたが、第二二室に特に新人たちの作品を集めた。主な作品には、林武の「花」「野外婦人」、海老原喜之助「天使墮ちる」、野口弥太郎の「椅子のある静物」、桜井浜江の「樹」などがあり、秦森康也、有馬良作等新人の作品が注目された。

第二紀展も一〇回展を迎えたが、新人たちの抬頭が、この会に潑測とした動きを見せはじめた。特に第六室を新人推薦室とした。旧会員のものでは鍋井克之の「大浦天主堂」、宮本三郎の「家族」、田村孝之介「漁夫の家族」、佐伯米子の「秋香」などがあり、新人の作品として金田辰弘「奇怪な鳥」と小鳥、真鍋博「亡災図」、松井正雄「岩塊B」などがあつた。自由美術展も

二〇周年を迎えた。抽象絵画のメッカともいへべきここでも新人たちの活躍が目立つている。主な作品には、末松正樹の「日」、糸園和三郎の「壁」、麻生三郎の「赤い空」、難波田竜起の「天体の運行」、小山田二郎の「昔の聖者」、小野忠弘「タキスの天」、前田常作の「M氏の家族」、版画の浜口陽三の「パリ」などがあつた。

次に、日展は本年はさらに寛選で三段がけの陳列をする状態であつた。話題に上つた作品には、小糸源太郎の「山粧う」、田崎広助の「根子岳」、寺内万治郎「裸婦」、森田元子「ひとり」、鈴木千久馬「つせん花」、小山敬三「白鷺城」や、西山真一、矢口洋、宮脇憲三、柳沢淑郎などの作品があつた。

前に一言した朝日新聞社主催の「世界・今日の美術展」の海外作家の前衛絵画、特にアンフォルメル風の画風が若い人々を刺戟したが、わが作家は専ら国際アート・クラブの会員たちが参加し、山口長男「作品」、村井正誠「蛾の人」、福沢一郎「踊り」、末松正樹「まひる」、藤松博「鼓動」、難波田竜起「軌跡」、糸園和三郎「像」、山口薫「アラブの月」などが注目された。

次に個展や小さなグループ展も盛んで、枚挙にいとまがないほどであるが、その中で主なもの挙げると、一月の鳥海青児個展、二月の藤井令太郎、南大路一、田中岑三人展、ブラジル在住の上永井正個展、三月のバリ在住の荻須高徳個展、田村一男滞欧作展、川端実個展、四月の森芳雄個展、寺田春式の滞欧作品展、五月の佐藤敬滯仏展、田辺三重松個展、小山田二郎個展、六月の田崎広助個展、七月の高間惣七新作展、八月の津高和一個展、九月の民家を主とした向井潤吉個展、一〇月の中南米旅行の成果を示した福沢一郎個展、デッサン、水彩を主とした海老原喜之助の個展、横井礼以個展、関口俊吾滞欧作展、利根山光人個展、林武壁「画エチュード」展、十一月の藤本東一良個展、中川紀元個展、宮本三郎個展、一二月の名井万亀個展、野間仁根近作展、坂本繁二郎個展等があつた。また新人たちの集りである四六人展も第二回の展覧会を開き、自主的な新しい運動を展開した。

さらに回顧展、遺作展のうち安井曾太郎の遺作展は最も大規模であつ

て、ブリヂストン美術館と国立近代美術館の全壁面を使用し、その初期から晩年に至る代表的な油彩画約一四〇点を陳列し、この作家の全貌をうかがうことが出来た。そのほか、一月には有島生馬の回顧的な自薦展が神奈川県立近代美術館で、二月に石井柏亭、山下新太郎前期の作品回顧展がブリヂストン美術館で行われ、五月には岡鹿之助、高島達四郎展が神奈川県立近代美術館で、金山平三画業五〇年展が高島屋で、九月には津田青楓展が高島屋で、二月には小山敬三画業三〇年展が三越で、高間惣七展が神奈川県立近代美術館で開かれた。なお物故者の遺作展、記念展には、安井展のほか、清水登之遺作油絵展、荒井竜男遺作展、佐分真油絵遺作展、村上華岳と共に佐伯祐三展が行われた。

なお、外国作家の作品展には、余り大きなものはなかつたが、グアッシュとデッサン一〇数点を陳列したザッキンの自薦展と、彫刻と絵画を併せて陳列したブルデル彫刻、絵画展のほか、わが国に存在する作品を網羅したロシア美術展が行われた。

また、展覧会外の作品として建築に附随する壁面装飾がいくつか製作された。林武の大阪毎日会館の大理石モザイク壁画、岡本太郎の松竹会館劇場、東京都庁、大和証券などのタイル、モザイク壁画、東郷青児の福岡市某デパートの壁画、森田元子の中日放送会館の壁画等である。

最後に本年の文化勲章授受者に洋画壇から坂本繁二郎が選ばれたことを記して置く。

彫 塑

保守的で動きの緩慢だつたわが彫塑界における創作活動も近年漸く蠢動をみせてきたが、今年あたりかなりの活潑さがみられるようになった。それは戦中或は戦後から出発した若い作家達が、ここ三三年来、欧米作家の手になる実物作品の招来や漸く積極的にとりあげられてきたジャーナリズムの上での紹介によつて刺戟をうけ、彼等の比較検討を行うと共に今日の進行のメドをつかみ、或は直接外遊によつて得た知見を活かし、自信をもつて製作をはじめてきたからである。これらの新進作家達による発表が

本年の各美術団体展やグループ展を通じて目立つたものとなつてきたことは注目にあたいる。

一方、この年開催されたヴェニス・ビエンナーレ国際美術展に代表として出席した富永惣一や視察に赴いた今泉篤男による当展覧会の状況報告が、六月以降のわが諸新聞や美術雑誌に掲載され、その中で特に西欧における彫塑界の活気に満ちた動向が伝えられると共に、両者それぞれ日本の現況を打開し、鼓舞激励せんとする誠意ある言葉を寄せた。また今次展覧会で彫塑部門のグラン・プリを得たイギリスの作家、チャドウィックの紹介がなされ、当作家をも含めて、欧州作家による空間占得の問題、即ち従来の量的なものにおける求心力的な、中へ集中していくところにおける動勢や構成でなく、外側へ散つていくようなピンと張つた一種の空間の紧迫感の追究がなされていることなど、わが彫塑家達にとつて大いに参考となる貴重な紹介がなされた。これらの示唆に富んだ啓発的な言葉は一部の心ある作家達には望外の榮養となつて吸収されたのであろう。秋季展には早くもその反響がつかずか乍らも観取されたようである。

更に特筆すべきことに、秋の団体展では今までにみられなかつた傾向の作品が出現してきたことである。それは東京藝術大学彫刻科の現指導教官連が所属する院展や新制作展においてであつて、ここに出品する主に近年の卒業生達によるもので、具象のイメージをもちながらも激しくデフォルメして、抽象的に傾いた作風のもので、各自多少の相違はあるものの、これこそ「新アカデミズム」とも称すべく甚だ注目すべき現象を呈しはじめた。しかも、この傾向の作品が揃つて奨励的な授賞の対象となつたことも興味深い。これらの現象に対し、わが国の現代彫塑界の沈滞を破つていく契機となるため、この過渡期の状態を積極的に生かしていくべきだとの賛意を表わす批評もあらわれた。ともかく今年の創作活動面を通視したところ、前年来のイタリヤ彫塑の亜流に加えて、最近の欧米彫塑の作品集からの、所謂「画集彫塑」という皮相な模倣はあるにしても抽象・幻想・半具象傾向と、かなり幅広く活潑な動きをみせてきたことは疑いないところであらう。

そこで、以上のような動向が端的に窺えた各美術団体展を中心にこの年の創作活動を簡略乍ら振り返つていくと、まずモダンアート展では広井力、須賀通泰、流政之等が個性的な仕事で成長を示し、高見泰蔵、伏木南國のよき資質や前衛的な陶器の熊倉順吉が注目された。シーズンを同じくする日本美術会と読売の両アンデパンダン展では量質ともに絵画の多彩さに比し彫塑出品は振わず、前者における井手則雄の「胃袋の共存」、「壺井繁治の像」、佐藤忠良の「水すくい」、後者の土方久功の幻想的なレリーフ作品「妖霊」が僅かにとりあげられる程度であり、有望な新人の登場はみられなかつた。日展系の吉田三郎、木村珪二等を中心とする白日会展の彫塑部は、春季の団体展のうちではまともな展観をみせた唯一のもので、殊に授賞された野崎隆司の首像「或る女」や中村宏の「習作」は、素直な具象作品乍ら記憶に残る佳作であつた。秋に本展を開く団体の春季展では行動美術の彫塑が比較的まとまつた力をみせたが、殊に向井良吉が小枝を石膏でとめ、黒漆で調子付けした実験的作品「エチュード」はその異様さで観者を瞠目させ、他に篠井欽治の「三人」が好評であつた。日展系作家による春季の発表展ともみられる第四回日本彫塑展は、概して小品によるおつきあい程度の出品ぶりで特にとりあげるに足るものはなかつた。現彫塑界にあつて稀らしく彫塑のみの唯一の公募団体である第五回創型会展は、会場の陳列には相當の工夫をみせ乍ら、作品が大部分具象傾向の単調さであつて依然二、三の幹部作家の作が目立つた程度。中でも中野四郎の「陽光」は體健な写実的作品乍ら、作家の非凡な力量を示して抜群であつた。この他、春季の大展覧会として第二回現代日本美術展があり、ここでは現在の第一線級の彫塑家二〇数名が選抜招待され、都美術館の彫塑室全部を使つてゆつたりと陳列され、質量とも充実した展観であつた。とりわけ木内克のテラコッタによる「女」はこの作家の一点点を示す大力作として賞揚され、向井良吉が上記の春季行動展で試みた素材を再び駆使した等身大作「おんな」を出して話題をひろめ、抽象的な木彫の追究を更に進めた植木茂「トルソー」は、この部門から唯一の佳作賞に挙げられた。他の出陣作にもそれぞれ作家の緊張と努力が窺われた。夏季においても展覧会は休みなく開かれた。歴史

の古い太平洋画会展では、曾て若き日、ここで育成された今日の第一線作家達が挙つて復歸し、藤井浩佑、堀進二、沢田政広、中野桂樹、山本豊市、宮本重良等の会同で久しぶりで充実した陳列をみせ、中でも堀進二の「シャロロックホルムス像（江戸川乱歩氏賞）」は話題となつた。平和美術展の彫塑は、朝倉文夫「柳氏の像」、平櫛田中「墨龜」等斯界の長老達の意外な参加出品があり、この会の趣旨に參同する老若、有名無名作家達挙つての出品で一種特別な雰囲気醸したが、総体に充実した展観であつた。新進の作では毛利武士郎「手の中の眼」、豊福知徳「漢の馬」等注目された。

新櫛会展の彫塑は今日のベテラン作家の集合であるだけに相変らず充実を示し、ここでも木内克は好調で、「こしかけている」「ねている女」などの秀作を含むテラコッタの一群や土方久功の珍奇なブロンズ作品「爬虫」「鳥」は印象深く、他に山本豊市の乾漆によるエッチュード「飛ぶ」や辻晋堂の陶彫作品「寒山拾得」「猫の頭」等觀者の足を止めさせるものであつた。秋を迎えて、二科展、行動展、院展、一陽会展等、彫塑部を有する主要展覧会が一斉に開かれたが、前二者は前年とさほど変らぬ歩調をみせ、後二者は前年にも増し相当な動きをみせた。二科、行動展の彫塑は相變らず抽象傾向のものが過半を占め、二科はそれが構成主義的であり、行動は表現主義的傾向が濃い。二科では、笠置季男「生命」、野水信「人間」、平川正道「菓」、モダンアート展より移つた須賀通泰の「芽」等抽象傾向からの收穫であり、具象傾向からは淀井敏夫「夏の雲」や新人の山本恭平「トルス」等が好評であつた。行動では、建島覚造「貌（かお）」、向井良吉「石膏と流木」、中島快彦「イヅ」

が独自の構想で注目され、松岡卓「像」も新人中の佳作とされた。一陽会は第二回展を迎えて彫刻部の特色を示してきた。ここでは半具象傾向のものが多く、埴輪や土偶、或はトーテム・ポールなどにみられるような古拙味を加味した新しい造型を志向していこうといつたものが多くみられた。院展では、先輩作家の石井鶴三「女子高校生」、山本豊市「肖像」、新海竹蔵「少年の首」、辻晋堂「時計」、千野茂「裸婦」は従来の仕事を推し進めたものとして取り上げられたが、前記のように新世代の基俊太郎、福家靖夫、保田春彦、久保寺恭、古島実等の作品はこの会の新しい動きを示すものであ

る。次の第二紀展では前年とさほど變るところはなかつたが、特に今回の会場で、チャドウィックばりの坂上政克の見慣れないフォルムが目立つた程度。新制作展では、全般的にイタリア彫塑の影響が濃厚となり、今秋の美術界で種々話題の種となつた。本郷新の「食む」や菊池一雄の「飛天」は幹部作家の佳作とされたが、前年から突如注目されはじめた豊福知徳の木彫「黄野」は全部門唯一の新制作賞に挙げられ、而も停滞せる木彫界に新風を吹き込むホープとして注視された。また前述の通り、伊東健、細川宗英、加藤昭男、大國丈夫等の新人達が特色あるフォルムを打出してきて注目され、他に頑固に写実主義を固守している西常雄「プリングスハイム教授の首」が反つて印象鮮やかで佳作とされた。自由美術展では種々の傾向がみられたが、小野忠弘の「ヘリクレサムトランス」は超現実風の独自の作品で特に注目され、緊密な構成力を示す森堯茂の「殼の発展」他一点は抽象作中の出色として会場空間を圧していた。他に原始的な様式をもつ藤田昭子の特異な作品やレーンブルック風の井上武吉の作品が注目された。掉尾の日は、相變らずの日展調で、自然主義或は写実主義の牙城を固守している感があつたが、朝倉文夫「青年像」、加藤顕清「新しき十字架」、雨宮治郎「健人」、沢田政広「黄泉のしこめ」等は、著習作家の各々持味を發揮した佳作として、安心してみられ、朝倉響子の「若い女」はこの作家の一到達点を印する秀作とされ、特選では浅井行雄「裸婦立像」、伊藤芳雄「駝鳥」、高橋剛「踊り子」等佳作として挙げられ、殊に高橋の木彫作品は近來稀にみる刀の切れ味の鋭いものとして印象的であつた。

以上団体展を中心に素描的に回顧したが、行動美術や自由美術の彫塑部は、未知数ながら若い世代の作家を多数包容するだけに、未來への萌芽を多分に宿し、今後の飛躍を期待させるものが大きかつた。

次に個展やグループ展も益々盛んになり、とりわけ今年には自主的な個展と並んで推薦乃至は選抜的意味を含む展覧会が多く開催された。会期の順に主なものを述べて列記していくと、行動美術所屬で期待される阿井正典、篠井欽治二人展（二月）、新制作会員の久保孝雄個展、自由美術に出品し独特な彫法の木彫レリーフの是松勝美個展、意欲的な新造型を発表し彫

塑の分野にも種々問題を投げかけた勅使河原蒼風展(三月)、京都の窯で前衛的な独創の陶彫一〇数点を作つて東上した日本美術院同人の辻晋堂個展、新制作会員でモニュメントの新しい領域を拓く山内壮夫彫刻素描展(四月)、毎年春の行事となつた第七回春の野外創作彫刻展(四月―五月)、第二紀会同人の滝川美一、斎藤聖香、菅沼五郎、第三回彫刻三人展(五月)、批評家推薦の新人(四人の前衛作家)展(於サトウ画廊、六月)として、超現実主義的なユニークな絵画と彫刻を陳べた小野忠弘展(第一週)と独特な石彫の木村賢太郎展(第四週)、一〇回目の二人展を続行した大須賀力・黒田嘉治二人展、創立二五周年記念として高島屋で大規模な回顧的な展覧会を催した日本木彫会展(六月)、恒例の第六回日本陶彫会展、女流画家の田中と共に前衛的な作品を発表した田中田鶴子、流政之二人展(七月)、抽象傾向の石彫の新人新妻実彫刻個展、伝統的な仏像彫刻の保存と正しい継承を冀う第三回仏教美術展(八月)、新宿ギャラリーの創立展として有名新人を集めた現代彫刻一〇人展、モダンアートの新進である高見泰蔵彫刻展(九月)、毛利武士郎の「作品」という収穫のあつた新しいグループのあり方を示す絵画・彫刻四六人展、日展における動物彫塑の著名作家で個展を重ねる池田勇八彫刻展(一〇月)、同じく日展の技巧派作家として注目される山本雅彦彫刻展(十一月)等があり、この他、ヴェニス・ビエンナーレ展出品作展(三月)、国立近代美術館では植木茂の抽象木彫作品と山本豊市の乾漆による作品の、共に日本的な素材を扱つた彫塑出品作が展示され、公募のあつた第一回スポーツ美術展(七月)にも彫塑部門の展観があつた。また国立近代美術館の日本の彫刻(上代と現代)展(九月)では、現代作家として、石井鶴三、木内克、長野隆業、大須賀力、菊池一雄、辻晋堂、堀内正和、舟越保武、向井良吉が選抜され、各人五、六点の代表作を出陳し、上代の土偶、埴輪、金銅仏、伎楽面と同時に陳べ、現代彫塑を歴史的な意味から理解させようとする含蓄多い啓発的な展観をなし、世界各国における近年の彫塑の動向を汲んだ時宜に応じた企画であつた。会館建設促進のための日本藝術院会員作品展(二月・日本橋三越)に於ける彫塑作品は、小品乍らいずれも長老会員の貫録の窺える充実した展観で見事であつた。

更に本年特に海外から将来された展覧会としては、ブルデル彫刻絵画展(一〇月・プリヂストン美術館)と世界・今日の美術展(二月・高島屋)があり、前者はパリのブルデル美術館の好意により、この巨匠の作歴を辿り得る範囲の作品が貸与され、我国では初めての組織立つた展覧会であり、日本近代彫塑史上ロマンと共に最も関係深い巨匠の偉容を眼前に見る機会に恵まれた。後者は世界の最も新しい美術の動向を伝えると共に日本の新しい傾向をもあわせ展観されたもので、絵画作品と共に内外の最新彫塑の動向を知見し得て有意義であつた。次に回顧展としてめづらしいものに一〇周年追悼・安藤照彫塑展(二月・鹿児島市立美術館)が開かれたことを記録しておこう。大正・昭和前期の官展系作家として重鎮であつた安藤が代表作の大半を保存していたアトリエもろ共に戦災死した悲惨事は忘れがちであつたが、故人の故郷の美術館が主催して残つた作品をよく蒐めて追悼展を開いたことは貴重であつた。最後に彫塑界の本年度の物語作家に高村光太郎(四月二日逝去)があつたことを記し、この秋、彼の最愛の妻、智恵子の遺した切紙絵と共に彼の生涯の全遺作を網羅した高村光太郎・智恵子展(九月・鎌倉近代美術館)が開催され、彫塑界のみならず、ひろく近代日本美術界に及ぼした故人の功績の跡が偲ばれた。

工 藝

近年のデザイン界の活潑な動きは手工藝の世界へも必然的に波及し、従来の技術に単に意匠の新味を加えてゆくにすぎなかつたこれまでの状態から脱して、材質、形態、すべて本質的な面から出発しようとする方向が地味ながら自覚されて来ている。手工藝界もデザイン界もともに新しい日本の工藝品の創造をめざして動きはじめていることは、今日、日本の工藝が海外から注視されている際、今後を期待させられるものが大きい。本年の主な動きの一つとして、いくつかの新団体の設立結成があつた。八月には京都の前衛的な陶藝作家、八木一夫、山田光、熊倉順吉、鈴木治等によつて現代工藝協会が、また日本工藝界の中堅といわれる人々約二〇〇名によつて、日本デザイナー・クラフトマン協会が設立された。更に、最近の海外進

出に対し諸問題を討議する機関として、全日本工藝美術家協会、日本工藝
会、日本デザイン・クラフトマン協会、国際工藝美術協会の団体が参
加、工藝協議会を結成し、今後の発展が注目されている。今年の国際展へ
の参加は、四月のイタリヤ、フロレンスで開かれた国際工藝展に高村豊
周等の出品、八月のトロントにおけるカナダ国民展に海外貿易振興会と産
業工藝試験所の協力による出品等があつた。またボストンの日本近代工藝
展へ国際デザイン協会の選定による出品等もあつたが、明年に迫つたミラ
ノの第一回トリエンナーレ展への準備が今年の大きな話題となつた。

展覧会では、近代的なものをめざそうと自覚しながらも、作品ではまだ
模索の状態が続き、サロン調のモダン・クラフトに流れてしまつてゐるも
のも見受けられた。ガラスの淡島雅吉の個展、創作工藝展の作品等がなか
でも注目され、その他話題にのぼつたものに、段々社展、新工藝協会展、
青峰重倫個展、クラフト五人展(川上信二、西村忠、越智健三等)があつた。
陶藝では、陶土を素材として純粋美術として製作する方向と、あくまでも
工藝としての立場に立つて近代化をめざす二つの相違がきわだつて来た。
走泥社展、加藤達美、熊倉順吉、原照夫、叶敏、内田邦夫等の個展等と陶
藝展も数多く開かれた。中には内田邦夫のようにクラフトとして量産の方
向へ向う作家も見受けられる。日展では例によつて生活と離れすぎた藝術
意識や狭い視野に災いされた技術の問題が批判されているが、各務敏三、
佐藤潤四郎のガラス作品、山室百世、染川鉄之助の鍍金、安原喜明、清水
洋の陶器等が素材を生かした個性的な作品で注視された。精緻な技術を競
う態度は日本伝統工藝展になると、はつきりとして一つの意義をもつて来
ている。しかし、あまりにも現代的意識とかけ離れ、古典の模倣に終始し
たゆき方には疑問が持たれはじめ、伝統技術探求の態度への再考がいわれ
ている。

デザインの方面では柳宗理が、スプーン、ものさしから家具調度、三輪
トラックに至る作品によつて個展を開いた。工業デザインの個展として
は、二九年の小杉二郎に次いで二度目のものである。棚、椅子等には先年
来日したペリアンの影響も大きいが、日本的な特色をもつた個性のある作

品を陳べて面白い展覧となつた。また「創作の室」、「マッハ・デザイン・
サークル」の展示等、子供のためのデザイン展が出て来たものもはじめての
ことである。これらは海外のブレイ・スカルプチュアの紹介や子供の生活
器具の発表をして新しい場所を拓いている。授賞では、新日本工藝デザイ
ン賞が安川モートルの作品に、第二回毎日産業デザイン賞がダットサン・
セダンに決つた。従来の外面的な形態意匠デザインから、機能的な、本質
的構造デザインを重視する態度へ移つて来ていることは、工業デザイン界
の前進といえよう。一方、日本生産性本部から、工業デザイン専門調査団
として、小池新二を団長とする一三名のデザイナーがアメリカに派遣さ
れ、実状を調査視察するとともに、産業工藝試験所の招聘によつて米國ア
ート・センター・スクールの校長と教授二人が来朝し、工業デザインの講
習会を開くなど、人の交流も多くなつて来ている。一〇月には、高島屋と
イタリヤ、ミラノの百貨店ラ・リナセンターの交換展が両国において同時に
開かれ、リナセンターが同国内のグッド・デザインに与えているコンパソド
オロ賞受賞の作品をはじめ多数の生活工藝品が展示された。このような傾
向は、その他の国との間にも活潑となる様子を見せており、平易な幅の広
い交換によつて、国際的な視野を拡げ、今後の工藝界に寄与してゆくもの
と思われる。

建築

前年以來の、経済界の好況を反映して、各地における官公庁舎、百貨
店、会社、銀行、或は住宅等の新築は盛んで、建築界は活発な動きを示し
た。然し戦災以來の深刻な住宅問題は一向に緩和される迄に到つていない。
特徴としては、アパートメント形式の集団住宅が年々数を増し、それも殿
ヶ谷第一アパート、或は計画中の、日本住宅公団の高層アパートメントの
ように次第に高層空間をもとめて伸びてゆく傾向が著しい。内部施設も完
備し、従来の簡易式から高級アパートメント建設の時期に入つたことを思
わせ、今後の都市生活に対する新しい方向をのぞかせている。

海外との交流は、アメリカ建築会AIAの訪日団、或はワックスマンな

どの建築家が来日し、我国からの外遊者も少くなかった。ことに、吉阪隆正設計の、ヴェニスでのビエンナーレ展のための日本館、吉村順三設計のアメリカの自動車旅行者の宿泊所ホテルの増築など、外地ですぐれた近代建築を発表したことは注目されよう。ニューヨーク近代美術館内における「日本の家設計以来、いくつかの建築デザインで認められた吉村は、モテル建築でパーソンズ賞を獲得した。又、日本アジア連帯委員会から派遣されるアジア文化使節団に建築界代表として丹下健三、谷口吉郎が選ばれ、一方中国建築学会からの招きで西山卯三郎の派遣が決定するなど、ソ聯入国は不可能となつたが、建築家を交えての海外藝術家交流もようやく活発となつた感がある。

コルビュジェの設計による、松方コレクション受入れのためのフランス美術館は基礎設計を完了し、設計図と模型写真がフランスから送られてきた。日本側では、前川国男、坂倉準三、吉阪隆正によつて検討し、実施案の設計がすすめられているが、建設費不足のため、とりあえず一部の着工に限られる模様である。

本年度の主な建築をあげると、独創的なフォルムをもつ福島県教育会館(MIDOグループ設計)、鉄骨とパネルによる直截簡潔な構成をもつ羽田空港郵便局(郵政大臣官房建築部設計)、厚生年金湯河原整形外科病院と同看護婦宿舎(日建設計工務株式会社設計)、神戸新聞会館、丸栄百貨店増築(村野藤吾設計)、工場では、秩父第二セメント工場が谷口吉郎設計によつて、生産機能と近代造型との見事な結びつきをみせて、その、けれども味のない素直な構成は建築界で好評であつた。学校では、山脇服飾美術学院(柳英男建築事務所設計)がピロティ形式を華やかに生かし、細かな神経をゆきとどかせた作品で、鎌倉のみちる幼稚園は、この種の施設として低予算と様々な制約をこえて、見事な成果を示して注目された。住宅では、清家清のマヤ片岡の家、柳英男の十字形の住宅、谷口吉郎の軽井沢高原住宅、教会では、レイモンド設計の、目黒の聖アンセルモ教会が特にすぐれていた。こうした近代様式とは全く対照的な建築に、合作社設計の大石寺があり、民族的デザインといわれ、土臭い、民藝的な温しきで話題となつた。

その他、白井晟一設計の松井田役場など問題になつた作品は多いが、P・Sコンクリートによる千駄ヶ谷駅(東鉄建築課)、シェル構造の家(山田水城設計)が試作的な意味で技術的興味をよんだ。又、小田急ピーチハウスは、シェルによる全く新しい形式の海岸施設として登場し目をみはらせた。

総じて、本年は庶民と接触の多い地域や施設に、すぐれた近代建築が進出しているが目立ち、建築に対する一般の関心をよび起している。また、工事中の東京都庁の総サッシュ仕上げのガラス張り建築に端を発したものであるが、「ガラス張建築の不安感」が現代建築の不安感として問題となり、新聞、雑誌に取りあげられ、論争をくりひろげたのは、めずらしいことであつた。無窓建築も話題になり、その他、「現代建築の創造と日本建築の伝統」など、伝統問題についての論文が建築界を賑わした。

なお、昭和三〇年度日本建築学会賞(第二部作品)は吉村順三、前川国男、坂倉準三設計の国際文化会館と、村野藤吾設計の広島世界平和聖堂に授与された。

古美術

建築

三一年における古建築の保存と修理については別項記載の建造物の国宝指定三件、重要文化財指定三九件があり、各地で実施中の指定建造物の修理工事がある。そのうち一月には平等院鳳凰堂の修理が竣工した。戦争で破壊されていた横浜三溪園の臨春閣もこの年旧状に復した。また昭和二四年から続けられていた巖島神社の社殿の修理工事もこの年に終了した。醍醐寺五重塔は修理のため全部解体された結果、創立当時の仮名書の和歌や安元二年の修理銘などが新たに知られることになった。修理報告も従前通り多数に出版された。そのうち大報恩寺本堂修理工事報告書などは特に注目すべきものである。一〇月には天台宗の遺構として重要であつた延暦寺大講堂と鐘台が焼失した。

建築遺跡の発掘調査も前年に引き続いて各地で行われた。三月の奈良西大寺の発掘では大規模な八角塔東西二基の基壇の痕跡が発見され、五月六月と一一一二月の両度行われた飛鳥寺の発掘では塔を中心として北と東と西に各一棟の金堂を配し、塔の南の中門から出た廻廊がこれをかこむという伽藍配置が確認され、飛鳥時代建築史の第一頁が書きかえられるという大きな成果を収めた。七―八月には四天王寺の第二次発掘、八月には陸奥国分寺第二次発掘、八―九月には武蔵国分寺第一次発掘、一〇―十一月には平泉毛越寺第二次発掘と、観自在王院第三次発掘が行われて、活況を呈した。

研究成果等の公表されたものとしては、藤岡通夫の「京都御所」や谷口吉郎・佐藤辰三の「修学院離宮」や難波宮址研究会の「難波宮址の研究」があり、松崎茂の各地の農村舞台に関する一連の報告(日本建築学会研究報告)などが注目される。

彫塑

昭和三一年度に開かれた彫刻史関係の主な展覧には、平安鎌倉国宝展(名古屋松坂屋)来迎美術展(東京国立博物館)仏教美術展(東京国立博物館)などが主なものであるが、これらと直接結びついた研究成果は、殆ど見られず、学会の興味の中心点は、以下述べるようなところにあつた。

三一年度の論文を通観すると、その最も大きな特色は、地方彫刻史研究の隆盛といふことである。概論としては、丸尾彰三郎「日本彫刻展覧」(日本文化財九―一三)と久野健「白鳳文化」(日本歴史講座第一巻)を見るが、その大部分は地方彫刻史の調査報告である。これは、昭和年代に一応の骨の出来た彫刻史を反省し、一歩進めるためには、是非とも地方彫刻史の精密な調査が必要だつたからで、関西方面及び関東の彫刻史家が軌を一にして地方あるきを شدたことは重要なことであらう。

その成果は、毛利久「伊予における阿弥陀五尊像の一遺例」(史迹と美術二六二)西川新次「横蔵寺大日如来像について」(考古学雑誌四一―四)、猪川和子「金剛寺木彫馬頭観音坐像」(美術史二二)、佐藤昭夫「勝常寺薬師三尊像考」(美術史二二)、三山進「覚園寺二塔頭の肖像彫刻」(史迹と美術二六四)、「鎌倉寿福寺の肖像彫刻」(史迹と美術二六八)、石村喜英「都下高勝寺の聖観音像について」(史迹と美術二六〇)、久野健「関東の鈍彫について」(美術研究一八六)、「関東古代彫刻史試論」(日本史の研究一二)等にあらわれている。

もう一つは、新発見にとまらぬ紹介で、兵庫県古法華から発見された三尊石仏像は、白鳳時代と推定され、日本彫刻史に貴重な一例を加えたが、その紹介は、田岡香逸、高井悌三郎「播磨古法華石仏概観」(美術研究一八五)や田岡「古法華石仏と繁昌石仏」(史迹と美術二六〇)等により発表された。また、修理にとまらぬ調査報告としては、西川新次「観心寺如意輪観音像について」(美術史二三)や丸尾彰三郎「玉の台」(大和文華一八)、岡直己「吉野水分神社の神像考」(大和文華一八)、太田古杜「東大寺中性院の推定快慶作観音立像」(史迹と美術二六八)等が重要である。

大陸関係では、先年発見された清涼寺の本尊釈迦如来像の胎内納入物の研究が引続いて行われているが、その中間報告として、塚本善隆、石原明等により仏教文化研究四に一部が発表された。また、五月一八日から三日間、新中国から送つてきた中国の古彫刻の写真展が銀座の日本堂に於て行われ、注目を惹いた。論文には、朝鮮彫刻史関係では、熊谷宣夫「飾城山石仏試論(美術史二二)、榎本杜人「朝鮮の仏教美術(ミューゼウム六七)、中国関係では、松原三郎「四川省唐代磨崖窟龕の造像銘(美術史二二)、西域関係では熊谷宣夫「西域出土の双面壺と人面のアブリケ(美術研究一八六)印度関係では、高田修「紀年銘あるクシャーナ時代のマトウラー仏について(美術研究一八四)等、数は少ないが、すぐれた論文が発表された。

絵 画

昭和三十一年は日本絵画史の研究にとつて近來になく実りの多い一年であった。まずこの年が日本の水墨画を代表する雪舟等楊の歿後四五〇年に相当することが、世界平和評議会で取りあげられた結果、画聖を記念する各種の展覧や研究発表が、この一年を通じあとを断たなかつた。なかでも四月に東京国立博物館で行われた雪舟展と、一月に催された京都国立博物館のそれとは、それぞれ独自の企画で充分な充実を見せた。すなわち前者が雪舟の伝称作品を、アメリカからも出陳を求めて広く網羅し、さらにその源流となる宋元画から雪舟周辺の作家にまで及ぼした総合的展覧として、展示法にも充分な配慮を見せ、自由に問題を引きださせようとしたのに対し、後者はより専門的な研究的立場に立つて雪舟画の成立や伝記に関する新資料の紹介に努め、少からぬ成果をおさめた。雪舟関係の両展覧に劣らず、この年を記念するものに、これまで承らく一般の鑑賞から閉ざられていた源氏物語絵巻の全巻公開(根津美術館・一二月)がある。徳川本と益田本とが一堂に並べられたことはおそらく空前であり、この王朝文化最大の遺産の一つは、その真価を改めて現代に認識された。

宗教絵画に関しては東京国立博物館が秋の特別展覧として行つた「仏教美術展」には代表的仏画の多くが、信仰形態との関連のもとに展示され、

また「醍醐寺展(東横・一〇月)では五重塔板絵の一部をはじめ同寺の優秀な仏画類と白描図像が纏めて公開されたことは意義深かつた。このほか社寺別の展覧として「平等院展(白木屋・五月)、「金刀比羅宮と善通寺名宝展(東横・八月)などが数えられる。前者では昨年完成された鳳凰堂壁扉画の模写が公開され、後者では金刀比羅宮のなや竹物語絵巻や応奉襖絵、高橋由一作品などが珍しく迎えられた。近世関係では、「円山応挙名品展(白木屋・九月)が四条河原納涼図のような新資料を紹介し、「浦上玉堂展(大丸・五月)が前年度にひき続いてこの作家への関心を高めた。また歌麿一五〇年記念の「浮世絵名品展(三越・一月)をはじめ「懐月堂派美人画展(松屋・一月)、「広重江戸名所絵展(白木屋・一〇月)など、浮世絵の展覧も盛んであつた。

論文の発表もやはり雪舟関係に最も多く集中され、「美術研究」「三彩」「ミューゼウム」「萌春」等の諸誌に掲載された論文は五〇篇に近い。中でも研究史的に重要なものとして熊谷宣夫「雪舟画彩色論(美術研究一八五)、同「揚子江図巻と唐山勝景図稿(三彩七五)、谷信一「雪舟の肖像画(ミューゼウム六二)、同「雪舟の潑墨山水図(萌春三一)、同「雪舟の恭謹性と文人性(陶説三八)、蓮実重康「雪舟論—雪舟の修業時代—(仏教藝術二九)、松下隆章「雪舟の山水画」(「ミューゼウム六二)同「Gesshu, His Life and Art」(Japan Quarterly Ⅲ—4)などをあげうる。その他の分野に関しても、本年度の研究活動はかなり活潑で、ことに雪舟の場合をはじめ展覧に関連した発表が行われるようになってきたことは喜ばしい。成果のうち主要なもの時代別に列挙すると、奈良時代に関しては、正倉院南倉和琴を飾つていた精巧なミニアテュール、所謂瑠璃瑠画が、林謙三、松村政雄両者によつて整理復原された(書陵部紀要七)のをはじめ、野間清六「暈網彩色の源流」(国学院雑誌五七—一五)、林良一「正倉院蒨縑屏風に於ける羊文の源流」(考古学雑誌四一—四)など示唆に富む力作であつた。またポストン美術館所蔵の靈山浄土図、所謂法華堂根本曼荼羅を親しく調査した松下隆章は、その製作を天平一八年(746)の東大寺法華堂法華会から天平宝字八年(764)の栄山寺八角堂造立の間にあるものと推定した(美術研究一八六)。また

龜田孜「弥勒浄土像」(文化二〇一一)は白鳳から奈良時代への弥勒浄土の造像を文献によつて丹念にあとづけた。平安時代の仏画に關しては同じく龜田孜「法華寺阿彌陀三尊画像の意想」(大和文華二〇・二一)と高田修「東寺の三副古木両界曼荼羅について—いわゆる『真言院曼荼羅』の検討—」(美術研究一八九)が、それぞれ精緻な考証を明示し、佐和隆研は珍しい彩色木理趣経曼荼羅二種を紹介した(国華七六九)。また藤田美術館の所謂真言八祖行状図が図様上むしろ密教両部大経感得図と呼ばれるべきことを主張した柳沢孝の考証(美術研究一八七)と、この図をも含めて八祖行状図の系列をたどろうとする森暢の研究(国華七七七)とが相次いで発表された。世俗画の領域では、下店静市「大和絵史」(富山房刊)が刊行され、所謂大和絵の特質と発展とを著者の独自の立場から概観した。また絵巻物に關するモノグラフィ―としては、数年来文化史懇談会を中心に続けられてきた信貴山縁起絵巻に關する共同研究の結果が「仏教藝術」二七・二八両号にまとめられたことが注目される。すなわち、まず絵巻そのものに關して、その様式的系譜(秋山光和)、錯簡の復原(熊谷宣夫)、画中の待賢門と置道の表現(福山敏男)、詞書書体の性格(藤田経世)、説話内容(龜田孜、中村義雄)、およびその風俗(鈴木敏三)などを主題とする細かい検討からはじめて、文化史的背景(家永三郎)、説話性(むしやこうじ・みのる)、民俗学的考察(宮本常一)、社会的考察(杉山博)、聖としての命運の性格(井上光貞)など、周辺の問題に及んで諸家の説が展開され、今後の研究への足掛りを築いたことは意義深い。源氏物語絵巻に關しては展覧が年末であつたため、その反響は次年度に送られたが、これに先立つてこの絵巻をめぐる諸問題を展望した秋山光和の一文(国語と国文学三九〇)があり、また紫式部日記絵巻についてはその成立を九条道家の企画による寛喜三年(1133)の造進とする源豊宗の大胆な仮説(人文研究七—三)のほか、その技法を源氏物語絵巻のそれと比較した秋山光和の解説(国華七七四)がある。また現存絵巻の総目録草案ともいふべき山岸徳平「絵巻物の戸籍」(文化二〇一一)や、高山寺絵本、將軍塚絵巻、餓鬼草子絵、病草子絵、粉河寺縁起絵、吉備大臣入唐絵のそれぞれについて風俗上の特色を要約した鈴木敏三「風俗から見た初期

絵巻物の特色」(同前)、あるいは近藤喜博「山王靈驗記とその成立年代」(国華七七二)なども注意される。

中世水墨画關係では、論文はほとんど前記した雪舟研究に集中されており、桃山時代についても土居次義「桂春院の山水図襖絵と狩野山楽」(史述と美術二六四)、中村溪男「狩野秀頼について」(国華七七四)のほか、めずらしい初期洋画の大作を紹介した西村貞「レバント戦鬪図の屏風について」(国華七七六)があるにすぎない。これに對して宗達光琳派關係では山根有三「俵屋宗達と西行物語絵」(国華七六九)、松下隆章「乾山筆十二月後歌花鳥図について」(美術研究一八四)および同じこの新出画を紹介する相見香雨の一文(大和文華二二)、また乾山筆四季花鳥図屏風についての山根有三の解説(美術研究一八八)などがある。円山応挙の展覧会に際しては近藤市太郎、鈴木進、中村溪男などの論説(三彩八〇)があり、浦上玉堂のそれをめぐつては鈴木進(三彩七六)その他があり、また蕪村の絵画と俳句の關係を考察した小林太市郎の二論文(研究九—一二)も注意される。さらに吉沢忠「渡辺華山」が日本美術史叢書(東大出版会)の第一冊として刊行され人間華山の悲劇をその作風の展開に密着させようとする努力が注目された。浮世繪關係では論文も数多いが、菱川師宣の歿年について新資料を紹介した橋崎宗重の一文、懐月堂派の展覧にちなむ近藤市太郎(萌春三〇)、中村溪男(三彩七三)の所論、写楽に關する洪井清(文化二〇一一)、吉田映二(みづる六一六、三彩七二)などをあげるにとどめる。

以上のような論文発表のほか、各展覧に即した図録類や、原色複製のシリーズが数種類刊行され、啓蒙書ながらそれぞれ専門家による解説を伴つて、學術的にも意味ある出版となつたことが注目される。即ち、雪舟展に際しては、東京国立博物館監修の図録「雪舟」をはじめ、数種の小図録(岩波写真文庫、角川写真文庫など)が出版され、浦上玉堂をめぐるのは「浦上玉堂画集」(鈴木進編)、「浦上玉堂真跡集」(三宅久之助編)がある。原色版のシリーズとしては平凡社「日本の名画」が「雪舟」(熊谷宣夫)、「等伯」(土居次義)、宗達(山根有三)、「蕪村」(鈴木進)、「歌麿」(近藤市太郎)、「北斎」(菊地貞夫)を続刊し、また美術出版社の「日本の古典」シリーズでは「俵屋

宗達筆風雷神・舞楽図(合信一)、「信貴山縁起絵巻(奥平英雄)が、講談社のアートブックスからは「絵巻物」(田中一松)、「雪舟」(中村溪男)、「懐絵」(土居次義)、「懐月堂」(高橋誠一郎)が刊行され、図版の選択や解説に編者それぞれの識見をうかがわせた。

東洋画関係では、前年末より本年初にかけて開催された国立近代美術館の「現代の眼—アジア美術史から」が、いくつかの名品の出陳によつて観覧者に眼福を分つたけれども、古美術の系統的陳列としては不十分な作品の羅列に、強いて抽象的に現代の眼という名を冠したに過ぎず、中途半端な血の通わない企画と断ずる外はない。四月に銀座松屋で行われた「張大千摸写敦煌石窟壁画展」は、とかく鮮明を欠き一字の記述すら伴わぬベリオ図録による以外、従来殆んど知るすべのなかつた同石窟壁画について、その色彩を窺わしめたところに意義がある。東京国立文化財研究所が開所記念行事として一二月催した「宋元水墨花鳥画展」は、例年の如く研究資料の提示という意味を持つものである。

単行本には、明時代の絵画史を大観した米沢嘉圃「明代の絵画(和英両文、蘭山龍泉堂)があり、図録では、石濤・八大山人らのものが出版された。そのうち墨友荘の「二石八大」は、既刊の住友寛一所蔵品図録四冊に続くものであるが、住友寛一は一二月二四日急逝し、わが美術界は、当代稀に見る鑑識と学識とを備えた蒐蔵家を失つたのである。原色版の「中国の名画」シリーズ(平凡社)は、その第一冊、米沢嘉圃「宋の花鳥」を年末刊行した。

東北大学文学会の「文化」二〇巻二号は、福井名誉教授古稀記念東洋藝術史特輯号であつて、この種類寿献呈論文集の刊行は、大塚博士還暦記念「美学及藝術史研究」以来、わが学界に絶えてその例を見ないところであり、東洋絵画関係に、熊谷宣夫「大谷ミッシェン 將來の版画須大塚本生図について」高田修「アジャントー壁画の仏教説話とその描写形式について」島田修二郎「松斎梅譜提要」堂谷憲勇「樓観の作品について」の力作四編がある。米沢嘉圃「中国古代における顔料」(東洋文化研究所紀要一一)は、いままで副次的研究と考えられて見るべき成果のなかつたこの方面に対す

る一寄与である。秋山光和「敦煌本降魔変(牟度又闍聖変)画巻について」(美術研究一八七)は、同画巻と牟度又闍聖変を画く敦煌壁画とに關する精細なる論述であり、近時注目されている変文の問題ばかりでなく、いろいろの方面に資するところが大きい。「三彩」七九号は敦煌千仏洞特集と題し、親しく現地を訪れた福田豊四郎撮影のカラー写真を図版として、はじめて原壁画から直接の色彩資料を提供したが、同誌の秋山光和「敦煌千仏洞—壁画とその歴史—」はすぐれた概説である。明清画関係では、米沢嘉圃「張風とその藝術」(大和文華一八)をはじめ、米沢及び鈴木敬による作品紹介教篇を数える。実技家や現代美術愛好者本位の雑誌に、東洋絵画や中国画家を取上げているのが目立つが、独創の見と称するに足るものには接し得なかつた。

書 蹟

三一年度の書道界で最も特筆さるべき事項は、醍醐寺五重塔の解体修理にあつて、その初層の天井板から数ヶ所にわたつて仮名の落書が発見されたことである。その落書は、天井板彩色の工事にたずさわつていた工人の筆ならしであるが、それには、片仮名の和歌三首、平仮名の和歌三首並にその断片三、その他には独立した箇々の漢字及び仮名が、絵や文様の断片と共に、格天井の格子や組み込みでかくれる部分に胡粉や墨顔料で書かれていた。文献並びに修理事情よりして天曆五年(九五二)五重塔創建当初のものとは推定され、年次推定可能な仮名資料の出現として頗る貴重である。和歌を書いた片仮名平仮名資料として年次判明せるものの最古に属する。殊に片仮名資料は、従来は単に訓点にあらわれるに止まつたが、ここに独立したものが出現し、且つその字体が訓点学上特殊なるものの一類にあることは、訓点学会に於いても最も注目されるところであつて、仮名字生成の考察に寄与するところ多大である。且つ、この落書には片仮名を平仮名に書き改めた個所があり、十世紀中葉に於ける片仮名平仮名書道の性格や觀念の相違を見ることができると、書道史上の一大収穫といわねばならぬ。

書道関係論文としては、伊東卓治が「青蓮院藏表制集及び灌頂阿闍梨宣旨官牒の紙背文書について」(美術研究一八四)、未だ世間に知られていない京都青蓮院の仮名消息の新紹介を行つたことが注目される論考である。これらの筆写年代は応徳前後の頃と推定され、筆者には藤原為房並にその妻等々があてられる。その他数多の筆蹟が交り、総じて一一世紀も八〇年代の展望の一端が得られ、既知の年代未詳の古筆群への応用がきくことは、古筆研究に寄与するところがある。

書道界一般の情勢では、河出書房版、平凡社版書道全集は引きつづき公刊され、河出版は全一九冊が完成した。又国際文化振興会による海外書道展が欧州の諸国に催された。

工 藝

本年(三一年一月—二月)の工藝分野は前年のように陶磁関係に注目すべきことが多かつた。

展覧会では前年好評を博した宋瓷名品展につづいて四月に元明名品展(陶磁協会主催・日本橋高島屋)が開催された。出品数三四〇余点のほり、専門家、愛陶家を益するところ多かつたし、元明陶磁が示す文化的意義の大きいことも改めて話題となつた。同じ四月に根津美術館で仁清名作展が催されたが、国宝藤の壺をはじめ、重文五点など一一〇余点が一室に集められ、前例の少ない展覧会として仁清を知る好機を作つた。又、鎌倉近代美術館の朝鮮古陶磁展(六月二日—七月二九日)は三〇〇点近くを陳べた朝鮮古陶としては珍らしい大展覧会であつたし、日本民藝館の古丹波展(一〇月)は特殊なものであつたが愛好者に喜ばれ、陶磁協会主催の楽長次郎、常慶展(美術倶楽部一〇月二九日、三〇日)は従来から色々問題となつてきたものを取上げただけに茶人や研究者の興味をよんだ。

陶磁関係以外では東京国立博物館で根来塗特別展(三月)が催されたが、その素朴な美しさは近代工藝にも通ずるものとして関心をもたれ、根津美術館の明清の漆藝展(五月)も見逃がせぬものであつた。

研究面では纏まつた大きな発表などは見られなかつたが、陶磁関係で窯

跡の発掘が諸所で行われたし、世界陶磁全集が引続き刊行されたのは注目される。愛知用水古窯跡の発掘調査は名古屋大学、愛知県文化財委員会などの協力で三〇年から五カ年計画で行われ、第一期の調査を一先づ終つたと聞くが、猿投山西南山麓の古窯群から多くの貴重な資料が出土し、従来不明な点の多かつた古代から中世の陶磁史も漸次明らかになるものと期待される。佐賀県肥前陶磁研究会の手で唐津焼の創始として有名な岸岳窯などが発掘され、室町期の築造になることなどが明らかとなつた。

なお岐阜県高山から平安末期のほとんど原形を保つた登窯が発見され、又岩手県江刺町で風字硯の破片が発掘され、これは最北端の例として話題を呼んだ。

染織関係では、岐阜県本巣郡の山間の春日神社で桃山期を降らない保存も良好な狩衣などが発見された収穫もあつた。

昭和三十一年美術界年史

一月

○白鳳時代の窯跡の調査 兵庫県文化財調査委員田崎香逸らは、同県加西町の白鳳時代互窯跡の発掘調査が一応終了したので、九日その結果を一般に公開した。二米の煙道をもつ六・九米の小型な登り窯で、白鳳時代の出土品のある窯址の上に天平時代に新しい窯をつくつたものである。

○鳳凰堂創建当時の正面扉を発見 解体修理継続中の鳳凰堂の工事場で、一三日昔焼失したと伝えられていた正面扉二枚が発見された。高一五尺三寸、幅五尺四寸、南側扉裏面上部に「上品上生」の文字が判読され、北側扉には顔料や漆ものこつて居り、又古く切りとつた上品上生の色紙型(現存)部分とも合うので、天喜元年(一〇五三)創建当時の正面扉と断定されたものである。

○毎日美術賞 昭和三〇年度第七回「毎日美術賞」の授賞が決定し、一五日次の通り発表された。

脇田 和 第三回日本国際美術展 出品「あらいそい」その他
一連の作品
福田豊四郎 第一九回新制作協会展 出品「滝」その他一連の

二月

功勞賞 作品
故安井曾太郎 長年にわたつて日本洋画壇の発展につくした業績。

○「江戸美術」完成 東京国立博物館で三〇年度作品として製作中であつた美術映画「江戸美術」は二五日完成した。

○ヴェニス・ビエンナーレ展出品作家決定 六月ヴェニスで開かれるビエンナーレに出品する日本作家の選考委員会が一日国際文化振興会で開かれ、須田国太郎、山口長男、脇田和、(以上洋画)、棟方志功(版画)、山本豊市、植木茂(以上彫刻)の六名が決定した。

○日本画府結成 さきに新興美術院を脱退した見玉三鈴を中心に、上条静光他八名を同人として、新日本画団体「日本画府」が結成された。第一回公募展を六月銀座松屋で開催した。

○恩賜賞・日本藝術院賞決定 昭和三〇年度(第二回)恩賜賞並びに芸術院賞が決定し、七日発表された。なほ五月三〇日日本学士院に於いて、天皇陛下臨席の下に授賞式が行われた。

(以上各賞状並に副賞一〇万円)
○「江戸美術」完成 東京国立博物館で三〇年度作品として製作中であつた美術映画「江戸美術」は二五日完成した。

恩賜賞

龍村 平蔵 染色工藝に与えた功績に對し。

日本藝術院賞

第一部 美術、工藝
東山 魁夫 第一二回日展「光昏」に對し。

山口 華楊 第一二回日展「仔馬」に對し。

洋画

鬼頭鍋三郎 第一二回日展「アトリエにて」に對し。

工藝

清水六兵衛 第一二回日展「玄窯叢花瓶」に對し。

三井 義夫 第一二回日展「彫金象篋花器」に對し。

○水彩聯盟にスタイル画部設置 水彩聯盟では新たにスタイル画部を新設し、二月の第一五回記念展から一般公募を行った。

○出雲文化総合調査報告会 前年二次にわたり出雲文化の総合調査を行つた地方史研究所では、一八日毎日新聞社講堂に於て中間報告会を開催した。考古学の方面では国分寺の伽藍配置、国術の位置や糸里制の推定には成功し、美術史部門では平安から鎌倉期にかけての仏像神像が多数発見され、後世まで古色を残していること、また地方色がみられることなどの報告が行われた。

○第四回「新日本工業デザイン」入賞決定

産業興隆と輸出振興を目的として、毎日新聞社が募集した第四回「新日本工業デザイン」の入賞が決定し、次の通り発表された。

特選一席安川電機全閉カゴ形3相誘導電動機、柴田猷一他六名。特選二席東洋高圧ユライトM製・幼児便器、野口瑠璃他一名。特選三席ナショナル携帯用プラスチック・ラジオ、曾根靖史。

○東京都文化財指定 東京都教育委員会では二三日、三〇年度分の都文化財を指定した。重宝の部門では多摩川流域の蔵王信仰分布を物語る蔵王権現三休など七件が選ばれ、旧跡には喜多川歌麿の墓が加えられた。

○上村松園賞決定 上村松園賞は昨年該当者がなかつたため、今年あらためて第五回受賞者を選考し、新制作協会々員広田多津に決定した。第一九回新制作協会展出品作「大原の女」および今日までの業績に對し授与されたものである。なお本賞は、五名の受賞者が決定し、本年度完了する。

三月

○藝術選奨決定 演劇、映画、音楽、文学、美術などの部門で、去年優れた業績を挙げた者を表彰する第六回藝術選奨文部大臣賞の受賞者が三日文部省から発表された。なお今年から今までの「藝術選奨」の名称が「藝術選奨」と改められた。美術部門受賞者次の通り。

美術(第二)

鳥海 青児

永年にわたり日本の自然、風土の色感を基礎とした油絵画法の確立に努力して、わが国油絵界に独自の領域を開拓し、特に昨年は「家並み」「顔をかくす女」等において格段の進境を示した功績に対し。

同(第二)

木村伊兵衛

多年藝術としての写真の領域開拓に貢献し、特に昨年は海外旅行に取材した作品展をこころみ、日本独特の鋭敏で抒情ある作風を示して、国際的にわが国の写真藝術の地位を高めた功績に対し。

○日中文化交流協会発足

日本と中国との文化交流を積極的に推進するため、片山哲、中島健蔵、大野幸一等が中心となり、それに各新聞社が協力して、日中文化交流協会が創立され、二三日創立総会が開かれた。発起人に美術関係では梅原竜三郎が名を連ねている。

○グッゲンハイム財団国際美術賞設定

ニューヨークのソロモン・R・グッゲンハイム財団基金により、隔年毎に世界各国から最も優秀と認められる美術品に対し、賞金(一萬弗)を贈る国際美術賞及び国内賞、大陸部賞が、国際造型美術連盟により設定され、二四日日本

美術家連盟に連達があつた。

ルガーノ国際版画展に参加 二九日より七月一日まで、スイス、ルガーノに開催される第四回国際版画展に、今年もまた参加し、木版畦地梅太郎、川西英、吉田政次、銅版浜田知明の四名が各四点の作品を出品した。

○国宝、重要文化財新指定

文化財保護委員会では二九日、国宝第九回、紫式部日記絵詞、地獄草紙、法隆寺五重塔塑像等四四件、重要文化財第八回、一四九件の新指定を発表した。

○法隆寺国宝保存委員会解散

昭和九年以来金堂講堂五重塔等二一棟の修理を行つた法隆寺国宝保存委員会は三十一日解散、寺内にあつた保存工事務所も閉鎖された。

○第三次重要無形文化財指定

文化財保護委員会では、第三次重要無形文化財の指定を行い、各個指定、芸能関係五件六名、工芸技術部門六件六名、総合指定工芸技術部門一件六名を三十一日決定した。

四月

○第六回ユネスコ国際記念物委員会に参加

ユネスコ本部の諮問機関である国際記念物委員会に、日本から初めて建造物の関野克博士が派遣された。四月三日から七日までパリ、ユネスコ本部で開かれた委員会に出席し、各国専門家と遺跡、発掘物の保存、保護及び復旧について研究討議を重ねた。

○仁清名作展

根津美術館では八日から五月六日まで、全国に散在する仁清の作品を集めて仁清名作展を開催した。

○建築学会七〇周年記念事業

日本建築学会は、九日で創立七〇周年を迎えたので、当日の記念式典を皮切りに、論文の懸賞募集、写真コンクール作品募集等秋までに各種の記念事業を行つた。

○藤島武二の胸像除幕式

藤島武二の胸像が、門弟、友人等有志により、東京藝術大学の正木記念館中庭に建立された。製作は新制作協会会員本郷新があたり、二〇日関係者参列の下に盛な除幕式が行われた。

○来迎美術展

館内の改修修理を終えた奈良国立博物館では、二〇日から五月二〇日まで、浄土教美術の中心課題といふべき来迎美術展を開催した。出品は絵画に限り、高野山の二五菩薩来迎図以下、来迎美術の代表的作品約一二〇点を陳列した。

○中国陶磁元明名品展

日本陶磁協会で、前年の宋磁に引続き、二四日から五月六日まで、高島屋に於て元明の陶磁展を開催し、元明の名品約三〇〇点が展覧された。

○アジア連帯文化使節団出発

昨春バンドンで開かれたアジア諸国会議の決定にもとづき、各国にアジア連帯委員会が設けられたが、印度、ソ聯、中国等の招請により日本文化使節団の民間代表二〇数名が、二四日羽田を出発した。一行は谷川徹三を団長とし、藝術を通じ相互理解と交流を推進すること

を目的とし、印度、エジプト、ソ聯、中国、ベトナム、北鮮の各国を訪問した。美術関係団員では、本郷新、福田豊四郎、加藤唐九郎、菊池一雄、渡辺義雄、今泉篤男がいる。

○石橋美術館開館

ブリヂストン・タイヤ社長石橋正二郎が、久留米市に新設した「石橋文化センター」の開園式及び久留米市への寄贈式が二六日行われたが、その一環として美術館が含まれ、開館の記念展として、東京で開催中の安井曾太郎展に関連し、所蔵品二二〇点の展覧があつた。

○フローレンス国際手工藝展

イタリアフロレンスで二八日から五月一八日まで開かれる第二〇回フローレンス国際手工藝展に、日本でも初めて参加し、各工芸作家作品、工芸試験所作品、及び市販のものが集めて送られた。

○雪舟展

雪舟没後四五〇年を記念して、東京国立博物館では、二八日から五月二七日まで雪舟展を開催した。雪舟の代表作を網羅した上、彼の画作に影響を及ぼした中国の画人及び、彼のあとをついだ拙宗、周耕、雪村、牧松の作品も併せ出品され、雪舟研究の新しい資料と研究の成果がいろいろの形で表わされた。

○平安鎌倉国宝展

中部日本新聞社の主催により名古屋松坂屋に於て二九日から五月二三日まで、平安鎌倉国宝展が開かれた。特に彫刻に限つての出品ながら名品揃いであつた。

五月

○飛鳥寺発掘

奈良国立文化財研究所では飛鳥平城宮跡長期発掘計画の一環として、一日飛鳥寺跡の発掘を開始、同二六日終了した。今次の調査で塔の東西に金堂と同一規模の建物を配しているらしいことが判明し、興福寺に似た伽藍配置が推定されることとなった。なお、我国最古のものと思われる白色大理石の石燈籠の台石が発掘された。

○姫路城天守改修

慶長一四年（一六〇九）池田氏の構築になる姫路城は、昭和一六年以来改修工事をつづけて来たが、今年度より天守に着手することとなり、三日朝起工式を行った。白鷺城の名で親しまれてきた秀麗な姿も、解体修理のため約一〇年間姿をかくすことになる。

○矢代文化財保護委員渡欧

文化財保護委員矢代幸雄は、中亜極東協会から招聘され、日伊文化協定にもとづく初の文化使節として、三日出発した。日程の中には、美術講演、ヴェニス日本館開館への参列、来年開催予定の歐洲に於ける日本古美術展の折衝、及びルネッサンス展日本開催の下相談等が含まれている。

○シェル美術賞の設定

シェル石油会社は日本の新人美術家奨励のため「シェル美術賞」を設定した。競技の運営及び選考は同社の依頼により美術評論家連盟が当り、授賞の対象は日本画、洋

画、水彩画に限られる。（賞金一等一点一〇万円、二等一点五万円、三等四点各一五〇〇〇円）

○浦上玉堂展

一一日から一六日まで日本経済新聞社の主催により八重洲口大丸で玉堂展を開催した。

○米国建築家の一行来日

アメリカの民間建築家一九名が、日本古典建築の見学にて二日來日した。最近米国の日本建築への関心は強く、初旬に行われたアメリカ建築家大会がきっかけとなり有志が集つたもので、一行は約三週間の予定で、古建築及び最近の和風建築の見学を行い、また日本建築学会等と意見の交換を行った。

○アジア・アフリカ諸国美術展に参加

七月カイロで開かれたバンドン会議の決議にもとづくエジプト政府主催のアジア・アフリカ諸国美術展に、日本からも参加し、日本画一〇名、洋画九名、版画三名、合計二三名の作家各一点ずつと、工藝作家二〇名、二〇点の作品及び市販品の七宝、食器等が送られ、会場で大いに人気を集めた。

○日本美術史展

愛知県立美術館の日本美術史展は前年に引続き第三期（桃山時代―江戸時代）を、二七日から六月二五日まで朝日新聞社の主催で開催した。今回で独自の方式を以て美術作家を系統的に紹介しようという同展覧会の企劃が一応完了したことになる。

○出版文化国際交流会発足

最近出版物に関する世界各国よりの照会、展示会開催の要望が多くなつたので、従来の

アジア文化交流出版会を発展的に解消し、新たに出版文化国際交流会（会長下中弥三郎）を結成、三〇日その発会式を行った。

六月

○朝鮮古陶磁展

鎌倉近代美術館では二日から七月二九日まで、朝鮮古陶磁展を開催、三〇〇点近い作品が年代順に配置され、寒浪、三国時代から李朝に至る朝鮮古陶磁の歴史の概観を示した。

○ヴェニス国際美術展の日本館完成

第二八回ヴェンナレ国際美術展の開かれる一六日に先立ち、一日日本館（吉阪隆正設計）の開館式が、日本からの代表委員評論家富永徳一、日本美術家連盟委員長伊原宇三郎、それに日本館建設の民間資金を寄贈した石橋正二郎等が参列して盛大に行われた。日本館はかねてイタリヤ政府より敷地の提供を申出られていたが、資金面で建設は実現困難であつたが、日本美術家連盟が中心となりヴェニス日本館建設準備委員会（委員長岡田伊能）等が設けられ熱心な運動がつけられた。当初賛成を得られなかつた政府からも漸く建設費の一部三〇〇万円を計上され、不足額二〇〇〇万円の調達は極めて難行だつたが、石橋正二郎がその全額援助を申出たことによりこの実現をみるに至つたものである。

○ヴェニス国際美術展に棟方志功入賞

第二八回ヴェニス国際美術展の入賞が

一五日発表されたが、版画部門で棟方志功が入賞し、賞金二五万リラが贈られた。

○欧米に工業デザイン視察団を派遣

日本生産性本部と通産省産業工芸試験所では、民間デザイン研究所及び会社、地方自治体、産業工芸試験所等の工業デザイナー二三名を欧米に視察のため派遣した。一行は団長に千葉大工学部教授小池新二、副団長に産業工芸試験所意匠部長豊口克平がなり、二六日出発した。

○西洋美術館の基本設計成る

松方コレクション受入れのための西洋美術館建設に関しては、その設計をフランスの建築家ル・コルビュジェに依頼中のところ、その基本設計が完成し、外務省に送られて来た旨、二九日同省より発表された。

○日仏具象作家協会結成

寺田春式、矢口洋、小野末、他 Paul Aizpuri, Raymond Guérrier, Roger Montané, 一九五四年在仏中交友あつた日・仏同志により結成され、各々の伝統を尊重しつつ、生活に基盤をもつレアリティ・ユメインを造型表現に訴えようとすものだと声明している。七月第一回展を開催した。

七月

○雪舟記念式典に参加

八月八日北京で開かれる雪舟記念式典に、中国人民对外文化協会から日中友好協会に九日招

待状が届いた。日本画家山口逢春、橋本明治、美術評論家北川桃雄の三名が招かれ、七月末出発した。

○四天王寺発掘 文化財保護委員会と大阪府教育委員会は昨年からの継続事業として四天王寺の発掘を一日から八月四日まで行つた。南大門址では札拜石の北に南北の互敷の参道を、中門では、東回廊南縁の中門に接する部分に東西に走る互敷の基壇を発見するなど、重要な事実を明かにした。

○日本美術家連盟会長に前田青邨が就任 日本美術家連盟では、昨年死去した安井曾太郎会長の後任として、前田青邨を一日の総会で決定した。

○シエル美術賞受賞者 シエル美術賞の授賞が応募作品約一〇〇〇点の内より次の通り決定し、二一日発表された。

一等田中阿喜良、二等田中岑、三等内間安理、江見絹子、吉田惣高、五味秀夫、荒井映延

八月

○陸奥国分寺発掘 昨夏に引続き今年も一日から仙台市にある陸奥国分寺址の発掘調査が行われた。講堂、中門、回廊の発掘を終つて、それらの規模を確認したもので、それと同時に附近一帯にかけてかなり広範囲に条里制の存在が認められることが東北大学伊東信雄から発表された。

○荻須高德仏国勲章を受領 滯仏中の洋画家荻須高德に対し、同国よりレジオ

ンドスール勲章勲五等を授与する旨一日三フランズ外務省より発表された。

○毎日産業デザイン賞 第二回毎日産業デザイン賞は、次の通り発表され、九月六日授賞式が行われた。

工業デザイン部門「ダットサン」、一九五五年一二二型セダン、日産自動車株式会社佐藤康蔵

商業デザイン部門「グラフィック55」展、亀倉雄策、原弘、河野鷹思、伊藤憲治、大橋正、早川良雄、山城隆一、

○にせもの・ほんもの展 一日から三日まで読売新聞社の主催により白木屋で開催、ほんもの、にせものを対照し、かつそれを判別する光学的方法なども併せて展示した。

九月

○武蔵国分寺址発掘 日本考古学会仏教遺跡特別委員会では二日から一五日まで、東京都下国分寺町にある武蔵国分寺址の発掘を行つた。約三箇年にわたる継続調査の一環となるもので、今年

の発掘により、全国国分寺中でも最大と目される七間四面の金堂の規模が実証され、講堂は二重遺跡であることが判明した。また同時に附近の堅穴住居址も調査を行つた。

○イラク・イラン遺跡調査団出発 モンボタミアを中心に古代遺跡の発掘調査を行つた東京大学イラク・イラン遺跡調査団の本隊新、高井両副団長ら一〇名は七日出発した。一行は六月先発した

江上団長ら五名とテヘランで合流し現地

の調査を行つた。

○平泉遺跡発掘 東大藤島支治郎を主任とする平泉遺跡調査団は九日から二十九日まで、毛越寺第三次調査として嘉祥寺跡、法華堂、常行堂跡の発掘に従い、

又同時に親自在王院跡の発掘も行つた。

○国宝醍醐寺展 醍醐寺と毎日新聞社の共催により、九日から一八日まで、渋谷東横で国宝醍醐寺展が開催された。絵画では絵因果経、五重塔板絵、文殊渡海図、五大尊、閻魔天、阿梨帝母等、筆蹟では弘法大師大日経開題、月狸毛筆奉獻表、後醍醐天皇宸翰等の国宝をはじめ、平安初期から桃山にわたる日本文化の粋を最も多く秘蔵している醍醐寺の寺宝百数十点を公開したものである。

○グッゲンハイム美術賞国内賞決定 第一回グッゲンハイム国際美術賞審査に参加する日本代表の作品が一日の選考委員会で決り、次の通り発表された。このうち同美術賞の国内賞は脇田和「あらし」に決定した。

日本画「前田青邨「紅梅」、福田平八郎「雨」、洋画「脇田和「あらし」、鳥追い」、海老原喜之助「船を造る人」

○延暦寺出火 一日夫明比叡山延暦寺大講堂西側附近から出火、重文大講堂、同鐘舎、食堂、前唐院の四棟を焼失した。尚重文六体を含む仏像、肖像等の彫刻三〇数体も同時に焼失した。

○観光光実施 京都市が、同市を名実共に国際観光都市とするための財源として、社寺の拝観に課税する観光税(文化観光施設条例案)を設けようとするのに対して、社側は観光税対策本部を設け対抗して来たが、一三日から実施されることとなつた。

一〇月

○東西交流展に行動美術協会が参加 米

国オレゴン州の州立美術館では一日から「東西交流展」を開催し、各都市を巡回するが、館長ポール・デイン・ジャー氏が戦後米日中行動美術協会と親交のあつた関係上、同会の出陣が要請され、

絵画八〇、彫刻二〇点が送られた。なお同展には初代館長ウォーナー博士の東洋美術コレクションも出品される。

○ロンドンデザイン会議に参加 一二、

三両日ロンドンで開催される英国産業意匠協議会主催のデザイン会議に、さきに工業デザイン調査団の一員として米

国へ派遣された渡辺力が日本を代表して出席した。同会議は戦後欧州に於ける著名なるもので、戦後日本人として初の参加である。

○紫綬褒章受賞者決定 第三回紫綬褒章者一三名が一日の閣議で決定した。美術関係では、榊本義春「文化財(彫刻類)」の保存修理、西川辰之助「文化財(建造物)」の保存修理等が選ばれた。

○川端電子浅草寺天井絵を完成 新築成つた浅草寺天井絵を川端電子に依頼中

のところ二月を要して「竜図」を完成し、一八日除幕式が行われた。同図は四間に三間の厚手紙六枚を張合せ、墨と白群及び金箔を部分的に用いている。

○正倉院展 奈良国立博物館で正倉院展が開催されるようになって第一〇回の展観であり、聖武天皇の一〇〇〇年忌にもあたるので、本年は特に記念展として御遺愛品を中心に八八点を選んで、二日から一月三日まで展観した。

○文化勲章選考委員決定 本年度文化勲章文化功労者年金受賞者を決める選考委員一〇名が二日決定し、次のとおり発表された。なお従来選考委員の分野が狭すぎるという意見があり、今回は最初の案を再度練り直したもので、委員の層が拡大されている。浅野長武（東京国立博物館長） 岡田辰三（京大教授） 奥井復太郎（慶応義塾々々長） 団伊能（元参議院議員） 千葉雄次郎（東大新聞研究所々々長） 東畑精一（東大教授） 長尾優（東京医科歯科大学長） 野尻清彦（作家大仏次郎） 畠山一清（発明協会々々長） 堀内敬三。

○文化勲章並びに文化功労者年金受賞者 昭和三十一年度、第一五回文化勲章並びに第六回文化功労者年金受賞者九名が二

日日正式に決定し、二月三日「文化の日」に授賞式が行われた。美術関係では洋画家坂本繁二郎が文化勲章を受領した。

○吉村藝大助教米田デザイン学校で表彰される 藝術大学建築科の吉村順三助教は、建築デザインの進歩に貢献した理由で、ニューヨーク、パソンズ財団経営になるパソンズデザイン学校から表彰された。これは同校六〇周年記念事業として行われたもので、国際関係四人、国内七人を選び、同助教は一昨年ニューヨーク近代美術館に寄贈した同館庭に造られた「日本の家」その他の建築デザインが認められたものである。

○仏教美術展 東京国立博物館では秋の特別展として、仏紀二五〇〇年を記念する仏教美術展を二五日から一月二五日まで開催した。点数約一六〇点、釈迦、顕教、浄土教、密教、垂迹、仏具等の関係部門に大別して展示され、仏教藝術の全分野にわたる名品が揃って壮観であった。

○ノルウエーの壁掛けを都に贈らる 開都五〇〇年と世界市長合同を祝つてスカンディナヴィア航空から、ノルウエーのムーセイド作手織壁掛けが二九日に都に贈られた。壁掛けは縦一米、横五〇釐ほどの極彩毛糸織で、教会の窓外を馬に乗つて散歩する王女の図が織られている。

○監授褒章受賞者 通産省の工業標準化運動功労者表彰式が二九日行われ、一

五日政府が監授褒章授与に発令した六名に通産大臣から同章が伝達された。建築関係で、日本都市計画学会々々長の内田祥三が選ばれた。

一 一月

○毎日出版文化賞 第一〇回毎日出版文化賞の一〇書が決り、三日同社で贈呈式が行われた。美術関係では日本色彩の文化史的研究に専念する前田千寸著「むらさきくさくさ」がある。

○野口英世博士胸像贈呈式 故野口英世の偉業を慕う米国人たちの手で、博士の胸像が作られ、九日国際文化会館で関係者により贈呈式が行われた。胸像は彫刻家ハフの製作になり、高さ三三寸で「米国加州アラメダ海軍航空基地協会は米国民を代表して日米友好親善の象徴として日本国民へ贈呈する」と刻まれており、郷里の小学校に送られる。

○雪舟展 雪舟没後四五〇年記念行事として、京都国立博物館で一〇日から二四日まで開催、東京の春の展覧会と同様の企画であったが、京博独自の見解に基いた陳列が行われた。

○米国から工業デザイナーを招聘 通産省産業工芸試験所ではアメリカの工業デザイナー三名を招聘し、東京及び大阪名古屋に二日から三週間に亘つて講習会を開きインダストリアル・デザインに於ける一般知識と実技を指導した。

○国宝、重要文化財新指定 文化財保護委員会では一六日、国宝第一〇回、二八点、重要文化財第九回、一四八点の新指定を発表した。今回の国宝中には李迪紅白芙蓉図、繪図屏風、東大寺僧形八幡神像及秋萩帖等が含まれ、これまでの累計は国宝七九八点、重文六八八三点となつた。

○源氏物語繪巻展 日本経済新聞社では創刊八〇周年を記念して、根津美術館との共催で、一六日から二月三日まで同館で源氏物語繪巻の展観を行つた。源氏物語繪巻の徳川黎明会、益田家の両本の現存分全部をはじめて公開したもので、参会者も多く、評判もよかつた。

○飛鳥寺第二次発掘 五月に引続き二〇日から開始された飛鳥寺発掘は着々成果をあげ、今回は東金堂、中門、南大門等の規模がほぼ明らかとなつた。

○商業デザイン受賞者 毎日新聞社主催日本宣伝美術会協賛による第二四回商業デザイン振興運動「一九五六年度商業デザイン」表彰式が二〇日行われた。受賞次の通り

A部門(新聞広告図案)内閣総理大臣賞 天野秀夫(デザイン) 上野壮夫(文案) B部門(ポスター図案)通産大臣賞 秋房高保 C部門(コマーシャル・フォト)通産大臣賞 沢田外喜他二八名 ○朝日広告賞(第一部) 昭和三十一年度朝日広告賞第一部は次の通り決定発表さ

れた。

新聞広告用デザイン

朝日広告賞—高橋清隆、三沢幸三(合作)
(大日本セルロイド)

広告写真

朝日広告賞—海老原一雄(第一生命保険)

○世界美術展に川合玉堂作品出品 運輸

省では来年一年間アメリカ主要都市を巡回する「世界美術展」(官設旅行機関国際同盟—IUTO主催)に川合玉堂作「鶴剣」を出品することになり、二八日発送した。

一二月

○文化財保護委員会委員長に河井弥八就

任 文部省は六日付で、文化財保護委員として、元参議院議員河井弥八を発令これにもとずき同委員会は、同日の総会で前委員長高橋誠一郎の後任として同人を委員長に互選した。

○「安井記念賞」設定 故安井曾太郎の業

績をながく記念する事業の一つとして、「安井曾太郎記念賞」が設定された。これには、安井曾太郎遺作展の純益の一部が当てられるもので、優秀作品を発表し将来有望とみられる新進洋画家一名に対し、正賞時計一個、副賞二〇万円が贈られる。来年から実施され、故人の命日の一二月一四日に受賞者を発表し、運営は日本美術家連盟会長前田青邨、国立近代美術館々長岡部長景ほか六名の運営委員があたり、受

賞者選考には別に選考委員をきめる。

○三十三間堂十一面千手観音像の修理完

成 昭和一二年春以来継続実施されて来た妙法院三十三間堂の十一面千手観音千一体の修理が完了し、二五日落慶供養が行われた。

〔附 表〕

新指定国宝一覽

国宝目録 第九集

凡 例

一、この目録は文化財保護法(昭和二十五年五月三十日法律第二百四十四号)により、昭和三十一年三月文化財保護委員会において国宝指定の決定があつた物件等を収録した。

一、この目録に収録した国宝の種類は繪画、彫刻、工藝、書跡、考古、建造物である。

昭和三十一年三月

文化財保護委員会

繪画の部

名	称	員数	所 有 者
紙本著色地獄草紙		一卷	国(文化財保護委員会保管)
紙本著色地獄草紙		一卷	国(東京国立博物館保管)
絹本墨画淡彩風雨山水図	伝馬遠筆	一幅	東京都世田谷区岡本町九二二 財団法人 静 嘉 堂
紙本墨画禅機図断簡	因陀羅筆 (智常・李渤図)	一幅	神奈川県横浜市本牧三ノ谷 原 寿 枝
楚石梵琦の賛がある			
紙本著色紫式部日記絵詞	絵三面 詞三面	六面	鎌倉市乱橋材木座 高梨仁三郎
絹本著色林檎花図		一幅	同 小田原市幸町二丁目 浅野長武

紙本金地著色紅白梅図 尾形光琳筆
二曲屏風

紙本墨画親鸞聖人像(鏡御影)

「専阿弥陀仏 信実朝臣息也(略)奉図
画云々の延慶三年の裏書がある

附絹本著色親鸞聖人像(安城御影)一幅
願生偈、大無量寿経及び正信偈
の要文の自筆書入れがある

絹本著色閻魔天像

絹本著色歸牧図 李迪筆
(驢牛)

附絹本著色歸牧図(牽牛) 一幅

紙本著色紫式部日記絵詞

彫刻の部

名	称	員数	所 有 者
紙本金地著色紅白梅図	尾形光琳筆 二曲屏風	一双	静岡県熱海市熱海二二三ノ一 宗教 世界救世教 法人
紙本墨画親鸞聖人像(鏡御影)	「専阿弥陀仏 信実朝臣息也(略)奉図 画云々の延慶三年の裏書がある	一幅	京都府京都市下京区堀川通花 屋町下ル本願寺前町 本 願 寺
絹本著色閻魔天像		一幅	同 伏見区醍醐東大路町 醍 醐 寺
絹本著色歸牧図 李迪筆 (驢牛)		一幅	大阪府大阪市天王寺区上本町 六丁目 近畿日本鉄道株式会社 (大和文華館保管)
附絹本著色歸牧図(牽牛)	一幅		同 都島区網島町四〇 財団法人 藤田美術館
紙本著色紫式部日記絵詞		一卷	同

木造新羅明神坐像(新羅善神堂安置)

木造天蓋(所在鳳凰堂)

木心乾漆四天王立像(所在北円堂)

増長天、多聞天像(合座裏面の弘安八
年興福寺僧経女の修理銘に、大安寺
四天王像、延暦十年四月造立とある

木造玉依姫命坐像

像内に建長三年十月十六日の銘があ
る

十一件の重要文化財を統合して一件の国宝に指定したもの

名	称	員数	所 有 者
木造新羅明神坐像(新羅善神堂安置)		一軀	滋賀県大津市園城寺町 園 城 寺
木造天蓋(所在鳳凰堂)		一具	京都府宇治市宇治 平 等 院
木心乾漆四天王立像(所在北円堂)		四軀	奈良県奈良市登大路町 興 福 寺
増長天、多聞天像(合座裏面の弘安八 年興福寺僧経女の修理銘に、大安寺 四天王像、延暦十年四月造立とある			同 吉野郡吉野町大字吉野 山 吉野水分神社
木造玉依姫命坐像		一軀	奈良県生駒郡斑鳩町法隆寺 法 隆 寺
塑造塔本四面具(五重塔安置)		一軀	
東面 維摩居士坐像		一軀	
南面 文殊菩薩坐像		一軀	
西面 待者坐像		十四軀	

南面	弥勒佛像	一軀	
西面	舍利塔	一基	
北面	涅槃积迦像	二十九軀	
	侍者坐像	三十一軀	

工 藝 品 の 部

名	称	員数	所 有 者
蓮唐草蒔絵経箱		一合	国(文化財保護委員会保管)
短刀 銘吉光(名物厚藤四郎)		一口	国(東京国立博物館保管)
刀 無銘義弘(名物富田江)		一口	東京都目黒区駒場町八六一 財団法人 前田育徳会
短刀 銘備州長船住景光 元享三年三月日 附小サ刀拵		一口	新宿区下落合二ノ八四 同 岡野勝野
梵鐘 銘文 観御子寺鐘神護景雲四年九月十一日		一口	福井県丹生郡織田町織田 同 神織田社
塵地螺鈿金銅装神輿		一基	大阪府南河内郡古市町大字菅田八幡宮
沃懸地獅子文毛抜形太刀 中身無銘		一口	奈良県奈良市春日野町御蓋山 同 春日大社
金銅八角燈籠(大仏殿前所在)		一基	同 奈良市雜司町 同 東大寺
梵鐘		一口	同 北葛城郡当麻村大字当麻寺
沃懸地螺鈿金銅装神輿 附神輿奉送目録(安貞二年八月十八日)		一基	和歌山県那賀郡瀬川村大字中 番八幡神社
梨子地桐文螺鈿腰刀 中身に友成作と銘がある 附蒔絵箱		一口	広島県佐伯郡宮島町 同 廣島神社

新指定国(宝)一覽(工藝品の部)

二件の重要文化財を統合、分割して二件の国宝に指定したものの

古神宝類	数量	所 有 者
一、桂 白小莢地鳳凰文二重織	一領	神奈川県鎌倉市雪ノ下 鶴岡八幡宮
一、桂 紫地向鶴三盛丸文唐織	一領	
一、桂 紫地向鶴三盛丸文唐織	一領	
一、桂 淡香地幸菱文絨織	一領	
一、桂 黄地窠散文二重織	一領	
古神宝類		
一、朱漆弓	一張	同 右
一、黒漆矢	三十隻	
(内筈一筋欠)		
一、沃懸地杏葉螺鈿平胡録	一腰	
一、沃懸地杏葉螺鈿太刀	一口	
一、沃懸地杏葉螺鈿平胡録	一腰	
一、沃懸地杏葉螺鈿太刀	一口	
(鐔欠)		

一件の重要文化財を分割して四件の国宝に指定したものの

沃懸地酢漿紋兵庫鎖太刀 中身無銘	一口	奈良県奈良市春日野町御蓋山 春日大社
沃懸地酢漿平文兵庫鎖太刀 中身無銘	一口	
金装花押散兵庫鎖太刀 中身無銘 貞治四年の年紀がある	一口	
菱打刀 中身無銘 附杉箱 蓋裏に至徳二年正月二十二日葉室 長宗奉納の墨書がある	一口	

書跡の部

名	称	員数	所 有 者
大般若涅槃經集解		平九卷	栃木県日光市山内輪王寺
賢愚經殘卷(大聖武)		三卷	東京都目黒区駒場町八六一 財団法人 前田育徳会
第一卷 四百十九行			
第二卷 百四十六行			
第三卷 十八行			
趙子昂書(一通)	与中峰明本尺牘	一帖	同 港区麻布鳥居坂町一 岩崎孝子
大寬禪師筆金剛經		一帖	京都府京都市上京区紫野大徳寺
寬永二年沢庵宗彭跋		一幅	兵庫県神戸市東灘区住吉町井手口一六三七
藤原佐理筆書狀(纏笥帖)			乾 豊彦
附近衛家熙筆摹本			
法華經		二十八	
觀音賢經		一	奈良県磯城郡初瀬町長谷寺
無量義經		三	
阿弥陀經		一	
般若心經		一	
附時繪經箱	一合		

考古の部

名	称	員数	所 有 者
日向国西都原古墳出土金銅馬具類			京都府京都市中京区東洞院通丸太町南入ル三本木町守屋美孝
一、金銅鞍橋金具殘闕		一背分	
一、金銅透彫香葉		三枚	
一、金銅無地香葉		四枚	
一、金銅透彫雲珠		一箇	
一、金銅無地雲珠		一箇	
一、金銅透彫辻金物		九箇	
一、金銅無地辻金物		六箇	
一、金銅透彫散金物		十六箇	

一、金銅透彫帶鏡板 二箇
一、金銅鉸具 一箇

伊予国奈良原山経塚出土品

一、銅宝塔 一基
一、銅経筒 一口
一、銅鏡 五面
一、内残片 二面
一、檜扇 二柄
一、内残欠 一柄
一、青白磁盒子 二口
一、金銅筭 一本
一、刀子 一拵
一、銅鈴 五口
一、鉄鈴 一口
一、鋤口 一口
一、銅銭 一拵
一、甕 二口分
其他伴出物一切

愛媛県越智郡鈍川村大字木地 奈良原神社

国宝の一部を削つて、名称及び員数を改めたもの

工藝品の部

名	称	員数	所 有 者
本宮御料古神宝類			奈良県奈良市春日野町御蓋山
一、金銀幣		二枚	
一、時絵傘		一張	
一、梓弓		三十八張	
一、楸弓		十六張	
一、雄木弓		十四張	
一、白葛胡鏡殘闕		三具分	
一、黒漆矢(内二十隻鏃欠失)九十一隻		四隻	
一、鎗矢		五隻	
一、木造彩色矢			

一、細身鉄鉢(内七本石空欠失)	十三本
一、平身鉄鉢(内三本石突欠失)	十二本
一、木鉢(内二本鉢折損)	三十八本
一、鉢柄	三本
一、鉢身	一枚
一、紫檀螺鈿筋劔	一口
一、黒漆平文筋劔(柄白蛟)	四口
一、黒漆平文筋劔(柄銀打蛟)	五口
一、黒漆平文筋劔(柄欠失)	一口
一、黒漆平文太刀	一口
一、平緒殘闕	二筋分
一、組紐殘闕	一筋分
一、黒漆平文筥(蓋欠失)	一口
一、黒漆平文根古志形鏡台	一基
一、黒漆平文鏡台	一基
一、黒漆彩文麻笥	一口
一、黒漆平文線柱	一口
一、白葛箱殘闕	一合
一、木彫黒漆彩色太刀	四口
一、黒漆刀子	一口
一、黒漆平文唐櫛笥及台	一具
一、黒漆平文唐櫛笥台	一基
一、木笏及黒漆平文笏箱	一具
一、黒漆平文笏箱殘闕	一合分
一、緑地彩繪琴箱殘闕	一合分
一、青瑠璃壺殘闕及金銅蓋	一合分
一、神宝附馬殘闕類	一括

新指定国宝一覽(工藝品の部)

名	称	員数	所 有 者
若宮御料古神宝類			
一、蒔絵弓		一張	奈良県奈良市春日野町御蓋山 春日大社
一、平胡録		一具	
矢配板に大治六年正月二 日の墨書がある。			
一、水晶筒矢		七隻	
黒漆沃懸地斑篋金銅雁俣 鍍付			
一、金銅尖矢		三三隻	
黒漆沃懸地斑篋内三隻 鍍欠失			
(以上保延二年十一月 七日藤原頼長獻進)			
一、銅造狛犬		一軀	
一、白磁獅子		一軀	
一、木造彩色磯形殘闕		一基	
一、木造彩色磯形殘闕		一基	
一、金鶴及銀樹枝		二基	
一、銀樹枝		一具	
一、銀鶴及磯形		一木	
一、銀鶴		一對	
一、銀琴		一箇	
一、水晶珠		一張	
		一顆	

国宝に他の国宝から削つた物件及び未指定物件三点を追加し、名称及び員数を改めたもの

工藝品の部 ○印国宝本宮御料古神宝類から削つた物件
△印未指定物件

新指定国宝一覽(工藝品・絵画・建造物の部)

国宝に未指定物件を追加し、名称及び員数を改めたもの
工藝品の部 ○印未指定物件

名	称	員数	所	有	者
一、金銅宝塔	文永七年六月一日、本願主 西大寺沙門叡尊、鋳物師友 吉入道西球等在銘	一基	奈良県生駒郡伏見町大字西大寺	西	大字西大寺
一、金銅宝珠形舍利塔	(下層内安置)	一基			
一、金銅筒形容器		一合			
一、赤地二重襷花文錦小袋		一袋			
一、水晶五輪塔 赤地錦小袋共		一基			
一、水晶五輪塔 織物縫合小衷共		一基			
附修理文書 二通					
(以上上層内納置)					

建造物の部

番号	名	称	員数	構造	及	び	形	式	所有者	所有者の住所	所在の場所
一	本願寺	黒書院及び伝廊	二棟	黒書院 桁行正面六間、背面七間、梁間左側面四間、右側面六間、二重、寄棟造、こけら葺 伝廊 桁行四間、梁間二間、一重、両下造、こけら葺 第一殿より第四殿に至る四棟より成る、各一間社春日造、檜皮葺、両脇及び各殿圍塀附属 附 透塀 延長十七間 内島居 木造春日鳥居 瑞垣 延長二十六間、棟門一所を含む	本願寺	京都府京都市中京区堀川通花屋町下ル本願寺門前町	京都府京都市中京区堀川通花屋町下ル本願寺門前町				
二	春日大社	本社本殿	四棟	春日大社	奈良県奈良市春日野町	奈良県奈良市春日野町					
三	太山寺	本堂	一棟	桁行七間、梁間九間、一重、入母屋造、本瓦葺	太山寺	愛媛県松山市太山寺町	愛媛県松山市太山寺町				

絵画の部
国宝である建造物の一部を絵画としても国宝と同等の価値あるものとして取扱うことにしたもの

名	称	員数	所	有	者
阿弥陀堂内陣壁画(土壁)	十面	三面	京都府京都市伏見区醍醐日野西大道町	法	界寺
著色飛天図	一面				
著色火舎図					
著色楽器図					
著色阿弥陀如来図	八面				
	(以上内壁)				
	(以上外壁)				

国宝目録 第十集

凡例

一、この目録は文化財保護法(昭和二十五年五月三十日法律第二百十四号)により、昭和三十一年十一月文化財保護委員会において国宝指定の決定があつた物件等を取録した。

一、この目録に収録した国宝の種類は、絵画、彫刻、工藝、書跡、考古である。

絵画の部

名	称	員数	所 有 者
絹本着色紅白芙蓉図 〔慶元丁巳歲李進画〕の款がある		二幅	国(東京国立博物館保管)
紙本金地著色繪図 八曲屏風		一隻	同 右
紙本墨画花鳥図(室中) 〔奥貼付十六〕		三三三	京都府京都市上京区紫野大徳寺町
紙本墨画淡彩琴棋書画図(上圖) 〔奥貼付八〕		三三三	聚 光 院
紙本墨画瀟湘八景図(下圖)		三三三	同 左京区南禅寺永観堂
絹本着色山越阿弥陀図		一幅	町 兵庫県神戸市東灘区住吉町反
絹本着色秋野牧牛図		一幅	高林 住友吉左衛門

彫刻の部

名	称	員数	所 有 者
木造菩薩半跏像(伝如意輪観音) (本堂安置)		一軀	京都府乙訓郡向日町大字寺戸宝菩提院
木造僧形八幡神坐像(快慶作) 像内に東大寺八幡宮安置、建仁元年十二月二十七日開眼、造立施主快慶の銘がある		一軀	奈良県奈良市雄司町大寺
木心乾漆義淵僧正坐像		一軀	同 高市郡明日香村大字岡寺岡

新指定国宝一覽(絵画、彫刻、工藝品の部)

工藝品の部

名	称	員数	所 有 者
小太刀 銘来国俊		一口	栃木県日光市山内二荒山神社
黒漆蛭巻太刀拵		一口	東京都港区芝白金猿町六七
蝶螺鈿時絵手箱		一合	東京都目黒区駒場町 晶山一清
刀 無銘正宗(名物太郎作正宗)		一口	東京都目黒区駒場町 財団法人 前田育徳会
太刀 銘光世作(名物大典太)		一口	同 右
附草包太刀拵		一口	同 新宿区西落合一ノ二八
短刀 無銘正宗(名物九鬼正宗)		一口	同 新宿区西落合一ノ二八
附金無垢二重鍔 銘理忠壽齋		一口	同 新宿区下落合二丁目 遠藤士一
短刀 銘筑州住行弘		一口	東京都青梅市御岳山一七六 御岳神社
凹文螺鈿鑓		一具	同 東京都青梅市御岳山一七六 御岳神社
鞆 一背		一具	同 東京都青梅市御岳山一七六 御岳神社
鞆 一具		一具	同 東京都青梅市御岳山一七六 御岳神社
鞆 一具		一具	同 東京都青梅市御岳山一七六 御岳神社
薙刀 銘備前国長船住人長光造		一口	静岡県静岡市大岩宮下町一〇 佐藤寛治
宝相華蒔絵経箱		一合	滋賀県大津市坂本町 延曆寺
花蝶蒔絵袂帙		一基	大阪府大阪市都島区網島町四 財団法人 藤田美術館
太刀 銘助包		一口	同 城東区左専道町六九三 田口儀之助
附糸巻太刀拵		一具	奈良県奈良市雄司町 手向山神社
唐鞆		一具	同 奈良県奈良市雄司町 手向山神社
黒漆螺鈿鞆		一背	同 奈良県奈良市雄司町 手向山神社
障泥		一双	同 奈良県奈良市雄司町 手向山神社
轡		一口	同 奈良県奈良市雄司町 手向山神社
面繫		一懸	同 奈良県奈良市雄司町 手向山神社

新指定国宝一覽(書跡、考古、繪画の部)

銀面	一面	類繪	一懸		
入子	十条	鐙	一双		
力革	一双	尻褌	一懸		
腹帯	一懸	尾褌	一口		
差繩	二条				
太刀	銘備前国長船住左近将監長光造		一口	岡山県岡山市東古松町三五八	林原一郎
刀	金象嵌銘正宗本阿(花押)	(名物中務正宗)	一口	福岡県田川郡川崎町池尻小倉	稲倉小倉
	本多中務所持				

書跡の部

名	称	員数	所	有	者
秋萩帖	淮南鴻烈兵略問詰(紙背)	一卷	国(文化財保護委員会保管)		
白氏詩卷	藤原行成筆	一卷	同		右
賢愚經殘卷	(大聖武)二百六十二行	一卷	国(東京国立博物館保管)		右
凹珍関係文書		八卷	同		右
凹珍自筆書状	(五月廿七日)	一卷			
凹珍戒牒	(天長十年四月十五日)	一卷			
凹珍充内供奉治部省牒	(嘉祥三年三月二日)	一卷			
附凹珍自筆添記	一紙				
凹珍太宰府公驗	(仁寿三年二月十一日)	一卷			
凹珍福州公驗	(大中七年九月十四日)	一卷			
凹珍台州温州公驗		一卷			
台州牒	(大中七年十二月三日)				
温州公驗	三通(大中七年十月、十一月)				
台州公驗	二通(大中七年十一月、十二月)				
讃岐国司解	(貞観九年二月十六日)	一卷			
卷首藤原有年申文					

考古の部

大友氏屈譜	(貞観十三年二月九日)	一卷	一帖	京都府京都市上京区室町通今出川上ル	大橋寛治
源氏物語奥入	藤原定家筆				

名	称	員数	所	有	者
東大寺金堂鎮壇具		一合	奈良県奈良市雜司町		大寺
一、銀鍍金狩獵文小壺		一合			
一、金鈿莊大刀		三口			
一、金銀莊大刀		二口			
一、銀莊大刀		一口			
一、瑞花六花鏡		一面			
一、銀鍍金蟬形鏢子	宝相華透彫座金付	一箇			
一、漆皮箱殘片		一括			
一、水晶合子(真珠四顆入)		一合			
一、水晶合子(真珠八顆入)		一合			
一、水晶玉		二十二顆			
一、琥珀玉類		一括			
一、ガラス玉類		一括			
一、水晶		一括			
一、挂甲殘闕		一括			
一、刀子殘闕		一括			

国宝に未指定物件ならびに重要美術品等認定物件を追加して名称及び員数を改めたもの

繪画の部 ○印未指定物件 ◎印重要美術品等認定物件で今回追加したものを示す

名	称	員数	所	有	者
紙本墨画親鸞聖人像(鏡御影)		一幅	京都府京都市下京区堀川通花屋町下ル本願寺前町		願寺
「専阿弥陀仏信実朝臣息也(略)奉図					
「画云々」の延慶三年の裏書がある					

附絹本着色親鸞聖人像(安城御影)一幅 願生偈、大無量寿経及び正信偈の 要文の自筆書入れがある 絹本着色親鸞聖人像(副本) 一幅	雪舟筆 文明十八年の年 記がある	一卷	山口県防府市大字東佐波令 毛利元道
紙本墨画淡彩四季山水図 徐璉筆 成化五年 の年記が ある	一幅		
附紙本墨書送雪舟歸国詩並序 云雲谷等顔 筆(副本) 紙本墨画淡彩四季山水図 筆(副本) 一卷	一幅		

国宝の名称を改めたもの

彫刻の部

名	称	員数	所有者
木造如意輪観音坐像	(金堂安置)	一軀	大阪府河内長野市寺元 観心寺

新指定重要文化財一覽

重要文化財目録 第八集

凡 例

一、この目録は文化財保護法(昭和二十五年五月三十日法律第二百四十四号)により、昭和三十一年三月文化財保護委員会において重要文化財指定の決定があつた物件等を収録した。

一、この目録に収録した重要文化財の種別は、繪画、彫刻、工藝、書跡、考古、建造物である。

昭和三十一年三月

文化財保護委員会

繪画の部 ◎印は重要美術品等認定物件より重要文化財指定の決定があつたものを示す。

名	称	員数	所	有	者
紙本著色北野天神縁起(断簡八図)	(断簡八図)	二卷	国(東京国立博物館保管)		
紙本金地著色繪図	八曲屏風	一隻	同		右
板繪著色天部像(醍醐寺五重塔壁面断片)		二面	国(東京芸術大学保管)		
紙本墨画淡彩四季山水图	楊月筆 六曲屏風	一雙	東京都千代田区神田駿河台二ノ九	梅沢彦太郎	
絹本墨画石菖蒲图	子庭祖柏筆 自賛がある	一幅	同	同	右
紙本著色落葉图	菱田春草筆 六曲屏風	一雙	文京区関口台町二六	細川護立	
絹本著色黒き猫图	菱田春草筆	一幅	同	同	右
紙本墨画四睡图	黙庵筆	一幅	目黒区駒場町	財団	
祥符紹密の贊がある		同	前田育徳会		

絹本墨画淡彩山水图	謝時臣筆 嘉靖三十六年十月の 自題がある	一幅	東京都世田谷区世田谷一ノ九	井上恒一	
紙本著色平治物語絵詞(信西卷)		一卷	同	岡本町九一二	
紙本墨画淡彩山水图	李士達筆 万曆四十六年の年記 がある	一幅	同	同	右
絹本墨画秋景山水图	張瑞図筆	一幅	同	同	右
附絹本墨画書池野大雅筆面跋		一幅	同	同	右
紙本墨画書柳沢淇園筆面跋		一幅	同	同	右
紙本墨画山水图	倪元璐筆	一幅	同	同	右
紙本墨画山水图	雪舟筆 (仿玉洞)	一幅	同	同	右
紙本金地著色犬追物图	六曲屏風	一雙	神奈川県鎌倉市深沢町笹田	菅原通濟	
板繪著色天部像(醍醐寺五重塔壁面断片)		一面	小田原市板橋	松永安左衛門	
絹本墨画雪梅图	呉太素筆 自賛がある	一幅	新潟県刈羽郡高柳村	財団	
名古屋城旧本丸御殿天井板絵		三百三	愛知県	貞観園保存会	
紙本墨画及淡彩山水、花鳥、果子、		百三	同	名 古 屋 市	
疏菜图(伝狩野探幽筆)		百三			
紙本墨画及淡彩山水、花鳥、果子、		九六			
疏菜图(伝狩野探幽筆)		九六			
紙本墨画及淡彩山水、花鳥、果子、		八三			
疏菜图(伝狩野探幽筆)		八三			
紙本墨画及淡彩山水、花鳥、果子、		五			
疏菜图(御湯殿書院上段之間)		五			
紙本著色桐花及菊花文图		三百七			
(上洛殿入側)		三百七			
紙本著色七宝唐草文图		八十			
(上洛殿三之間)		八十			

〔紙本金地著色花文図
(上洛殿菊廊下)〕

六面

絹本墨画淡彩鳳凰図 林良筆

絹本著色高野山水屏風 六曲屏風

絹本著色細川蓮丸像
天正十五年梅谷元保の賛がある

紙本淡彩駿牛絵詞断簡

絹本著色真言八祖行状図 (善無畏
龍猛)

紙本墨画淡彩山水図 岳翁筆

了庵桂悟、子通周量の賛がある

紙本墨画淡彩六祖図
子元祖元の賛がある
〔雑筆室印〕の印がある

絹本著色鳥羽天皇像

絹本著色山姥図 長沢蘆雪筆
(絵馬)

絹本著色春冬山水図 戴文進筆

絹本著色伝北条時定像
絹本著色伝北条時宗像

彫刻の部

名

称

員数

所

有

者

木造 阿弥陀如来及両脇侍像
(二天王立像)
(金色堂中壇安置)

二六三

木造 阿弥陀如来及両脇侍像
(地藏菩薩立像)
(二天王立像)
(同 左壇安置)

二六三

三三軀

岩手県西磐井郡平泉町中尊寺
金色院

京都府京都市上京区今出川通
烏丸東入ル相国寺門前町
相国寺

同 堂本三之助
町二八 平野桜木

同 左京区南禅寺福
地町 聴松院

大阪府大阪市都島区網島町
財団 藤田美術館
法人

同 泉大津市忠岡町大字忠
岡 正木孝之
右

和歌山県和歌山市寺内四五八
満願寺

広島県佐伯郡宮島町
敵島神社

山口県萩市呉服町一
菊屋嘉十郎

熊本県阿蘇郡南小国村
満願寺

木造 阿弥陀如来及両脇侍像
(地藏菩薩立像)
(二天王立像)
(右壇安置)

一六三

附木造光背台座等残片 (一括)

木心乾漆虚空蔵菩薩坐像

木造金剛力士立像

木造阿弥陀如来立像

像内に承久三年八月廿日、奉造始之、
仏師僧幸賢の銘がある

木造薬師如来坐像
像内に久安元年の銘がある

木造六観音菩薩像

木造大日如来坐像(多宝塔安置)

木造阿弥陀如来坐像

木造不動明王及二童子立像(本堂安置)

木造大日如来坐像

木造金剛力士立像 定慶作

各の像内に大仏師肥後法橋定慶、仁
治三年四月木造畢の銘がある

木造阿弥陀如来坐像

木造隨身立像

各の像内に定保二年潤二月二日始
之、阿形像内に大仏師筑後講師殿成
の銘がある

木造金剛力士立像

福島県常磐市大字西郷
能満寺

三重県鈴鹿市国府町
南寺

同 伊勢市矢持町萬浦
久昌寺

同 度会郡二見町三津
明星寺

京都府京都市上京区五辻通六
軒町西入ル溝前町
大報恩寺

大阪府河内長野市加賀田
岩湧寺

同 河内長野市三田市町
興禪寺

同 富田林市彼方
明王寺

同 豊能郡東郷村字野間西
今養寺

山 兵庫県水上郡山南町岩屋
石籠寺

奈良県吉野郡下市町大字阿知
賀龍洞院

岡山県津山市二宮
高野神社

山口県防府市大字牟礼
阿弥陀寺

工藝品の部

名	称	員数	所 有 者
太刀 銘景依		一口	国(東京国立博物館保管)
刀 無銘伝来国行		一口	北海道夕張郡栗山町六七九 小笠原治郎
太刀 銘備前国雲次		一口	群馬県高崎市竜見町一三五 井上正三郎
刀 無銘伝来国光		一口	東京都中央区明石町五二 青山孝吉
金襴手六角瓢形花生		一口	港区白金猿町六七 晶山一清
金襴手六角瓢形花生		一口	同
古伊賀花生 銘からたち		一口	同
太刀 銘光世作(名物大典太)		一口	目黒区駒場町八六一 財団法人 前田育徳会
附草包太刀拵		一口	新宿区柏木一ノ九九 吉川陸子
二十八間四方白星兜鉢		一口	同
太刀 銘長光		一口	同
刀 無銘伝助真		一口	世田谷区喜多見町二〇 六三 石島護雄
刀 無銘長谷部		一口	同 玉川尾山町九四 母袋康二
子日時絵棚		一基	同 玉川等々力町三ノ 七二二 日野原昌広
劍 銘国水		一口	山梨県甲府市泉町七七 堀田武則
能 装束 類			岐阜県関市春日一番地 春日神社
一、摺箔 桐桜沢渦文		一領	
一、繡箔 菊桐山吹文		一領	
一、繡箔 草花鳳凰文		一領	

一、繡箔 桐松鶴文	一領
一、繡箔 桐楓鴛鴦文	一領
一、繡箔 雪持柳松皮菱文	一領
一、繡箔 雪持柳揚羽蝶文	一領
一、繡箔 松藤揚羽蝶文	二領
一、角帽子 菊桐文繡入	一頭
一、角帽子 桐杜若文繡入	一頭
一、角帽子 杜若文繡入	一頭
一、角帽子 花鳥文銀襴	四領
一、狩衣 花鳥文銀襴	一領
一、狩衣 花唐草文銀襴	一領
一、狩衣 獸花文黄緞	一領
一、狩衣 雲文緞子	一領
一、法被 花鳥文銀襴	一領
一、法被 花唐草文銀襴	一領
一、法被 雲龍文黄緞	一領
一、側次 花鳥文銀襴	一領
一、側次 花鳥文金襴	一領
一、側次 連唐草文緞子	二領
一、直垂 鶴亀松竹文	二組
一、直垂 松皮菱松喰鶴文	一組
一、直垂 松喰鶴亀文	一領
一、直垂 路形菊桐松喰鶴文	一領
一、直垂 色紙散松喰鶴文	一領
一、素襖 蜻蛉文	一組
一、素襖 宝尽文	一組

一、素襖 草花色紙散文	一領			
一、袴片 輪車文	一腰			
一、袴 松喰鶴龜松文	一腰			
一、袴 立浦桔梗文	一腰			
附無地 鬘斗目三領、長絹一領、水衣二領、大口九腰、腰帶殘欠四枚、尉髮、黒頭、赤頭、鬘各一懸、唐櫃一合	一懸			
金銅五種鈴 (三鈴鈴欠)	一具	静岡県磐田郡笠西村	尊永寺	
太刀 銘包次	一口	愛知県名古屋市中昭和区山脇町四ノ三二	石井正輝	
白絹包腹巻	一具	滋賀県野洲郡兵主村	兵主大社	
附鍍銀籠手金具	一雙			
鍍銀鬪当	一掛			
茜威喉輪	一領			
白生絹衿小袖	一領			
萌黄地白茶格子生絹衿小袖	一條			
唐櫃	一合			
蓋裏に觀応二年九月四日の墨書がある				
鏡 鞍	一具	京都府京都市東山区三条白川橋上ル東入ル	並河茂樹	
鞍	一背			
轡	一口			
鐙	一雙			
面繫	一懸			
胸繫	一懸			
尻繫	一懸			
南蛮人蒔絵文袴	一脚	伏見区深草坊町	瑞光寺	

太刀 銘助真	一口	大阪府大阪市天王寺区真法院町五一	太田喜一
菊花天目茶碗	一口	同	都島区網島町四〇
花蝶蒔絵挾拭	一基	同	財団法人 藤田美術館
刀 無銘助真	一口	同	同
太刀 銘因時	一口	同	同
色々威腹巻	一領	同	同
附唐櫃	一領	同	同
色々威腹巻 大袖付	一領	同	同
刀 無銘義弘(名物豊前江)	一口	同	同
太刀 銘長光	一口	同	同
太刀 銘備前因長船住兼光	一口	同	同
建武二年七月日	一口	同	同
古伊賀花生	一口	同	同
是閑唐津茶碗 銘三宝	一口	同	同
黒草威胴丸 壺袖付	一領	同	同
秋草蒔絵手箱	一合	同	同
内容品			
白銅鏡	一面	同	同
蒔絵鏡箱	一合	同	同
蒔絵黒箱	一合	同	同
蒔絵白粉箱	一合	同	同
白磁合子	一口	同	同
白磁皿	一口	同	同

新指定重要文化財一覽(工藝品の部)

骨製筭	一本			
懷紙	二枚			
帖紙	二枚			
亀甲蒔絵手箱	一合	奈良県奈良市春日野町	春日野大社	
銅手錫杖	一柄	同	奈良市高畑町福井新薬師寺	
銅錫杖(輪頂宝瓶)	一柄	同	生駒郡斑鳩町法隆寺	
銅錫杖(輪頂五輪塔)	一柄	同	法隆寺	
銅錫頭	二柄	同	磯城郡初瀬町大字初瀬寺	
銘文各に長谷寺、建長三年八月一日、大勸進定阿弥陀仏			同	
小太刀 銘正恒	一口	岡山県岡山市東古松町	林原一郎	
古備前筒大花生 弘治三年三月廿一日在銘	一口	同	和気郡和気町大字和気三五四 安東仙之介	
金銅牡丹唐草透唐鞍	一具	山口県下関市一ノ宮	住吉神社	
鞍	一背			
銀面	二面			
響	二口			
雲珠	二箇			
杏葉	一箇			
鞍	二箇			
障泥	一雙			
鞆	一雙			
鞍褥残片	一枚			
革鞞残片	二条			
梵鐘	一口	高知県長岡郡国府村	国分寺	
梵鐘	一口	同	高岡郡宇佐町仲町正念寺	
銘文并手寺	一口	同	小高村下分神社	
金銅荘環頭大刀	一口			
八角形漆塗神輿	一基	高知県香川郡伊野町	相本神社	
相本大明神之御輿造立始元日者弘長三年大藏十月廿五日云々の墨書がある				
金銅密教法具	同	安芸郡室戸町	大字元剛頂寺	
火舎	四口			
花瓶	五口			
六器	二十四口			
輪宝及輪台	一組			
羯磨及羯磨台	四組			
金剛盤	一面			
独鈷杵	一口			
三鈷杵	一口			
四漚	四本			
灑水器	一口			
塗香器	一口			
金銅旅壇具	同			
火舎	一口			
花瓶	二口			
六器 中蓋一口欠	六口			
飲食器	二口			
金剛盤	一面			
五鈷鈴	一口			
五鈷杵	一口			
灑水器	一口			
塗香器	一口			
燈架	二枝			
燈臺	一口			
箱壇	一基			
内箱	三口			
香藥箱	一口			
關伽桶	一口			

油壺	一口		
金剛線箱	一合		
金剛線残欠	一面		
明鏡			
金殿斗刻鞘大小拵	一腰	福岡県福岡市東露町五九	永藤一
古瀬戸胎釉巴文瓶	一口	同	飯塚市栢森
刀無銘伝雲生	一口	熊本県八代市松崎町	麻生太賀吉
	一口	松井	明之

一件の重要文化財を三件の重要文化財に分割したもの

梅花皮腰刀	一口	奈良県奈良市春日野町御蓋山	春日大社
錦包太刀中身銘助行	一口	同	同
三銘柄簾卷剣	一口	同	右

名	称	員数	所有者
宋版東坡集		三冊	国(内閣文庫保管)
〔宋版子略〕	一一	三冊	同
〔宋版史略〕	二二	三冊	同
宋版周易新講義		十冊	同
宋版淮海集		三冊	同
〔秋萩帖〕		一卷	国(文化財保護委員会保管)
淮南鴻烈兵略問詁(紙背)		一卷	同
白氏詩卷 藤原行成筆		一卷	同
保延六年十月廿二日藤原定信奥書		三卷	同
春記 長曆四年、永承七年		三卷	同
賢愚経残卷(大聖武)	二百六十二行	一卷	国(東京国立博物館保管)

新指定重要文化財一覽(書跡の部)



北瀨居簡墨蹟(登承天万弘閣偈)	一幅	国(東京国立博物館保管)
祈雨法日記(勝賢筆)	一卷	同
〔建久二年五月〕		
宋版姓解	三冊	国(国立国会図書館支部)
滿濟准后日記(自筆本)	二帖	同
兵範記(自筆本)	二卷	同
古写本	五卷	同
附新写本	二十五卷	同
拙庵德光墨蹟(金渡墨蹟)	一幅	国(京都大学保管)
附周乘筆(金渡墨蹟由来記)	一幅	東京都港区白金今里町
大燈国師墨蹟(孤桂字号)	一幅	藤原銀次郎
即休契了墨蹟(五言古詩)	一幅	港区芝白金猿町六七
大燈国師墨蹟(靈徹字号)	一幅	品山
五行大義	一幅	同
元弘三年閏二月智円相伝奥書	五帖	同
貞観政要(卷第一欠)	九卷	同
〔建治三年、弘安元年書写並伝授等奥書〕		
物語二百番歌合(藤原定家撰並奥書)	二帖	同
新勅撰和歌集(藤原定家奥書)	二帖	同
宋版石林先生尚書伝	五冊	同
般若理趣經(藤原教長筆)	一卷	目黒区上目黒七〇九四
永治二年正月書写奥書		財団 大東急記念文庫
平家物語	三冊	同
応永廿六、廿七年書写奥書		
虚堂智愚墨蹟(偈頌二首)	一幅	同
大燈国師墨蹟(梅溪字号)	一幅	同

藤原行成筆書狀 附藤原親王筆添狀 一幅	一 幅	東京都世田谷区玉川等々力町三六六	日野原昌広
仏鑑禪師墨蹟(印可狀) 附千利休筆添狀(絹本) 一幅	一 幅	同	同
月江正印墨蹟(七言絶句七首 至正十年秋睿)	一 幅	神奈川県小田原市板橋 松永安左衛門	同
清拙正澄墨蹟(法語) 嘉曆二年四月二十二日	一 幅	同	中郡大磯町東小磯四〇三
後撰和歌集上巻(片仮名本)	三 帖	石川県能美郡山上村字宮竹	安田新三郎
本朝文粹(巻第一欠) 巻第十三、建治二年閏三月書写奥書	三 卷	山梨県南巨摩郡身延町大字身延	宮本長則
石溪心月墨蹟(石髓墨蹟) 宝祐甲寅結制後三日	一 幅	愛知県知多郡知多町長浦海岸	久遠寺
寛性親王御消息翻摺法華經	八 卷	京都府京都市上京区寺町通広小路上ル北ノ辺町	高野時次
古文書手鑑(櫛のくち葉)(五十通)	一 帖	同	本 禪 寺
立正安国論(本阿弥光悦筆) 元和五年七月五日奥書	一 卷	同	堂 本 四 郎
始開仏乘義(本阿弥光悦筆) 元和五年十二月廿七日奥書	一 卷	同	寺之内通
明月記(自筆本) 寛喜二年秋	一 卷	同	妙 蓮 寺
大覚禪師墨蹟(上堂語)	一 幅	同	同
細字法華經(一部) 天平十六年五月廿日書写奥書	一 卷	同	同
紺紙金字成唯識論(巻第四欠)	九 卷	同	同
聖徳太子伝曆	四 帖	同	同

名	称	員数	所 有 者
明月記(自筆本) 安貞元年秋	安貞元年秋	一卷	奈良県天理市袖之内 天理大学図書館
大鏡(中之上) 建久三年孟秋書写奥書	建久三年孟秋書写奥書	一卷	同
宋版一切経		三千七百五十七帖	和歌山県伊都郡高野町大字高野山 金剛峯寺
白瑠璃碗 大阪府南河内郡安閑天皇陵出土	附一、黒漆塗容器 一合 寛政八季三月賀茂保考在銘	一口	国(東京国立博物館保管)
(金銅骨磁器) 兵庫県宝塚市米谷出土	一、桐箱 一合 墨書銘 神合家九代源左衛門 正峯西琳寺寄進	一組	国(京都大学保管)
平安京古瓦	一、三彩袖鬼瓦 一、緑釉鏡瓦 一、緑釉字瓦	一箇 一箇 一箇	京都府京都市下京区四ツ塚通大宮西入ル九条町 観 智 院
備中国倉敷安養寺裏山経塚出土品	一、瓦経 百九十二枚 一、土製塔婆型題箋 八本 一、土製宝塔 一基		岡山県倉敷市浅原 安 養 寺
有柄細形銅劔	山口県大津郡油谷町字本郷出土	一口	山口県大津郡油谷町字久津 八 木 健 介
筑前国嘉穂郡王塚古墳出土品	一、变形神獸鏡 一面 一、玉類		福岡県嘉穂郡 桂 川 町
瑠璃管玉一箇、埋木切子玉二箇、土製丸玉九箇等			

考古の部

一、金銀 一、馬具類 金銅鞍金具残欠一背分、金銅轡 鏡板残欠共二箇分、金銅杏葉八 箇、金銅雲珠五箇、鉄鍔残欠等 一、挂甲札残闕 一、土器類 其他出土品一切 筑前国筑紫郡宝満山経塚出土品 一、銅経筒 経巻残塊共 一口 一、金銅菩薩立像 一軀 附 敷石 一枚	福岡県筑紫郡太宰府町大字横 岳 河内卯兵衛
--	-----------------------------

重要文化財である物件の附を解除して、その名称及び員数を改めたもの

考古の部 銅壺 下道因勝弟因依母夫人之骨蔵器、和 銅元年十一月二十七日在銘 岡山県小田郡矢掛町大字東三成出 土	一口 岡山県小田郡矢掛町大字東三 成 国 勝 寺
--	--------------------------------

焼失により指定解除したもの

彫刻の部 大造地藏菩薩立像	一 軀 奈良県吉野郡賀名生村大字黒 淵 常 覚 寺
------------------	---------------------------------

新指定重要文化財一覽(考古・彫刻・絵画の部)

絵画の部 本殿屏絵 板絵著色童子形象 (第一殿) 二 板絵著色随身像 (第三殿) 二	員数 四面 京都府宇治市宇治 宇治上神社
---	-------------------------------

国宝である建造物の一部を絵画としても重要文化財と同等の価値あるものとして取り扱うことにしたもの

重要文化財である建造物の一部を絵画としても重要文化財と同等の価値あるものとして取り扱うことにしたもの

表書院及勅使間秋草間障壁面 表書院障壁面 紙本著色松柳図 三面 紙本著色柳草花図 十六面 障棚壁貼付六、襖貼付十 紙本著色菓子図 二面 障棚天袋貼付二 (以上上段之間) 紙本著色四季山水図 十九面 襖貼付十九 (以上中段之間) 勅使間秋草間障壁面 三十二面 紙本著色竹林花鳥図 八面 襖貼付八 紙本著色秋草図 六面 障子腰貼付六 (以上勅使間) 紙本著色秋草図 十四面 襖貼付十四 紙本著色秋草図 四面 障子腰貼付四 (以上秋草間)	員数 七十三面 京都府京都市伏見区醍醐東大 路 三 宝 院
---	--

大書院障壁面 紙本金地著色唐人物図 床貼付三、違棚壁貼 付三、襖貼付二 紙本金地著色菓子図 違棚天袋貼付二 紙本金地著色群仙図 帳台構貼付四 紙本金地著色唐人図 襖貼付四 紙本金地著色草花図 附書院壁貼付二、 同障子腰貼付四 (以上一之間)	八面	三大面 京都府京都市東山区東大路通 渋谷下ル妙法院前側町 妙法院	紙本金地著色柳桜草花図十四面 襖貼付十四 (以上二之間) 附紙本著色秋草図 襖貼付十二 (以上裏之間) 女園障壁面 紙本金地著色松図 壁貼付四 紙本金地著色松図 襖貼付八 紙本金地著色松図 襖貼付八 (以上裏之間) 三一面 同 右
---	----	---	---

建造物の部

◎印は重要美術品等認定物件より重要文化財指定の決定があつたものを示す

番号	名称	員数	構造及び形式	所有者	所有者の住所	所在の場所
一	東照宮	三棟	一間社流造、銅瓦葺 附 厨子及び須弥壇 一具 一間厨子、入母屋造、板葺、唐棟須弥壇 四脚平唐門、銅瓦葺 桁行五周、梁周三周、一重、入母屋造、前後軒唐破風附、 銅瓦葺 附◎鉄燈籠 一基 竈に元和二戊 七枚 二午 歳七月吉日の陽刻銘がある	東照宮	群馬県新田郡世良田村 大字世良田	群馬県新田郡世良田村 大字世良田
二	白山神社拜殿	一棟	棟札 修復元禄丙子冬十月吉日の記があるもの 修復正徳四甲子年九月吉日の記があるもの 修營元文丙辰年九月十七日の記があるもの 修營宝曆十三癸未年十二月五日の記があるもの 修營安永六丁酉年九月二十九日の記があるもの 修營寛政八年丙辰年十二月朔日の記があるもの 修營天保十五年甲辰年九月三日の記があるもの 桁行五周、梁周三周、一重、入母屋造、檜皮葺 附 棟札 一枚 修造寛永第七庚午二月吉日の記がある	白山神社	岐阜県山県郡高富町東 梁瀬	岐阜県山県郡高富町東 梁瀬

三	照 蓮 寺 本 堂	一棟	桁行七間、梁間九間、一重、入母屋造、こけら葺 桁行七十六尺一寸、梁間四十三尺四寸、一重三階、入母 屋造、茅葺、東面水屋附屬	照 蓮 寺	岐阜県大野郡莊川村大 字中野	岐阜県大野郡莊川村大 字岩瀬二五二番地
四	矢 篋 原 家 住 宅	一棟	桁行七十尺二寸、梁間四十尺七寸、一重三階、切妻造、 茅葺、東面前庇及び北面水屋附屬 棟札 天保四年巳ノ二月十四ニ相改の記がある	矢 篋 原 屋	岐阜県大野郡莊川村大 字岩瀬二五二番地	岐阜県大野郡莊川村大 字岩瀬二五二番地
五	大 戸 家 住 宅	一棟	四脚門、切妻造、椀皮葺	大 戸 屋 盛	岐阜県大野郡白川村大 字御母衣字上洞二九 番地	岐阜県大野郡白川村大 字御母衣字上洞二九 番地
六	南 禪 寺 勅 使 門	一棟	桁行三間、梁間二間、一重、入母屋造、椀皮葺 桁行三間、梁間一間、一重、両下造、本瓦葺 桁行三間、梁間二間、一重、入母屋造、正面千鳥破風及 び軒唐破風附、本瓦葺	南 禪 寺	京都府京都市左京区南 禪寺福地町	京都府京都市左京区南 禪寺福地町
七	東 照 宮	一棟	煉瓦及び石造、桁行七十九尺二寸、梁間七十二尺六寸、 正面車寄附、一重二階、寄棟造、車寄切妻造、棧瓦葺 石造、桁行九尺五寸、梁間五十尺、一重、切妻造、銅板 葺	金 地 院	京都府京都市左京区南 禪寺福地町	京都府京都市左京区南 禪寺福地町
八	泉 布 観 殿	一棟	十五畳二室、仏間、二十畳、十畳、八畳二室、四畳二室、 十二畳、十八畳、六畳、中門、広縁、玄関、廊下、板間、 物置、台所、土間等より成る、一重、入母屋造段違、中 門切妻造、本瓦葺、一部棧瓦葺	大 阪 市	大阪府大阪市	大阪府大阪市 崎町一番地
九	椽宮公会堂玄関(旧造幣 寮鑄造所正面玄関)	一棟	桁行三間、梁間一間、通り庇、一重、寄棟造、 庇葺きおろし、本瓦葺 棟札 再興寛文七年八月十日の記があるもの 上梁元文三歳龍輯戊午夏五月吉日の記がある もの 修補安永六丁酉孟夏吉辰の記があるもの	大 阪 市	大阪府大阪市	大阪府大阪市北區新川 崎町一番地
十	教 寺 寿 量 院	一棟	一	寿 量 院	兵庫県姫路市書写	兵庫県姫路市書写
十一	磐 台 寺 観 音 堂	一棟	一	磐 台 寺	広島県沼隈郡沼隈町大 字能登原	広島県沼隈郡沼隈町大 字能登原
十二	伊 佐 爾 波 神 社 本 殿	一棟	内陣 桁行九間、梁間二間、一重、切妻造、椀皮葺 外陣 九間社流造、椀皮葺 合の間を含む 棟札 重造寛文丁未秋八月十有五日の記がある	伊 佐 爾 波 神 社	愛媛県松山市道後湯月 谷	愛媛県松山市道後湯月 谷
十三	那 須 家 住 宅	一棟	桁行八十二尺八寸、梁間二十八尺五寸、一重、寄棟造、 茅葺、東面庇附屬	那 須 銀 蔵	宮崎県東臼杵郡椎葉村 下福良一、八一八番地	宮崎県東臼杵郡椎葉村 下福良一、八一八番地
十四	射 出 神 社 十三重塔(南方 塔)	一基	石造十三重塔	射 出 神 社	三重県上野市長田	三重県上野市長田

○十五	庫藏寺鎮守堂	一棟	一間社流造、こけら葺 棟札 再興慶長十年六月吉日の記があるもの 修理宝曆六丙子年四月吉祥日の記があるもの 宝曆六丙子卯月吉祥日の記があるもの 修理元禄十五壬午年五月吉祥日の記があるもの 上寛正徳二壬辰年十一月吉祥日の記があるもの	庫藏寺	三重県鳥羽市河内町	三重県鳥羽市河内町
○十六	来迎院三重塔	一基	石造三重塔	来迎院	京都府京都市左京区大原来迎院町	京都府京都市左京区大原来迎院町
○十七	勝林院宝篋印塔	一基	石造宝篋印塔 正和五季丙辰五月一日の刻銘がある	勝林院	京都府京都市左京区大原勝林院町	京都府京都市左京区大原勝林院町
○十八	三宝院宝篋印塔	一基	石造宝篋印塔、基壇附	三宝院	京都府京都市伏見区醍醐東大路町	京都府京都市伏見区醍醐東大路町
○十九	五輪塔	二基	各石造五輪塔	加茂町	京都府相楽郡加茂町	京都府相楽郡加茂町大字西小長尾共同墓地
○二十	本荘八幡宮鳥居	一基	石造明神鳥居 応永廿八年辛丑十一月吉日の刻銘がある	本荘八幡宮	岡山県児島市通生	岡山県児島市通生
○二十一	五流尊滝院宝塔	一基	石造宝塔、基壇附	五流尊滝院	岡山県児島郡郷内村大字林	岡山県児島郡郷内村大字林
○二十二	八幡神社鳥居	一基	石造両部鳥居 康安元年辛丑十月二日の刻銘がある	八幡神社	岡山県吉備郡足守町大字下足守	岡山県吉備郡足守町大字下足守
○二十三	鼓神社宝塔	一基	石造宝塔 貞和二年十月二日の刻銘がある	鼓神社	岡山県吉備郡岩田村大字上高田	岡山県吉備郡岩田村大字上高田
○二十四	本山寺宝篋印塔	一基	石造宝篋印塔 建武二年乙亥六月十一日の刻銘がある	本山寺	岡山県久米郡柵原町定宗	岡山県久米郡柵原町定宗
○二十五	米山寺宝篋印塔	一基	石造宝篋印塔 元応元年己未十一月一日の刻銘がある	米山寺	広島県三原市沼田東町納所	広島県三原市沼田東町納所

重要文化財を改めて統合の上一件とし、新たに未指定物件を追加して、名称、員数並びに構造及び形式を改めたもの(○印は今回追加指定したもの)

番号	名称	員数	構造及び形式	所有者	所有者の住所	所在の場所
一	北野神社	八棟	本殿 桁行五間、梁間四間、一重、入母屋造、右側面三間底附、檜皮葺 石の間 桁行三間、梁間一間、一重、兩下造、檜皮葺 拜殿 桁行七間、梁間三間、一重、入母屋造、正面千鳥破風附、向拜七間、軒唐破風附、檜皮葺 東西楽の間、各桁行正面二間、背面三間、梁間二間、一重、一端入母屋造、他端拜殿に接続、檜皮葺 四脚門、入母屋造、前後千鳥破風及び軒唐破風附、檜皮葺 附 左右袖塀、二棟 各延長三間、檜皮葺 左右各桁行折曲り延長十六間、梁間一間、一重、切妻造、檜皮葺、潜門一所を含む 一間一戸平唐門、檜皮葺 左透塀 折曲り延長十四間、檜皮葺潜門一所を含む 右透塀 折曲り延長十六間、檜皮葺、 附○棟札 六枚 再興慶長十二曆十二月吉日の記があるもの 上棟寛文九年己酉二月吉日の記があるもの 上棟元禄十三年庚辰十二月己丑十三日辛未の記があるもの 元文元年丙辰八月吉祥日の記があるもの 修造明和七年庚寅七月吉祥日の記があるもの 一 二 一	北野神社	京都府京都市上京区北野馬喰町	京都府京都市上京区北野馬喰町
二	春日大社本社	三七棟	第一殿より第四殿に至る四棟より成る、各一間社春日造、檜皮葺、各殿間及び兩脇附屬 附○透塀 延長十七間 附○内鳥居 木造春日鳥居 附○瑞垣 延長二十六間、棟門一所を含む 一間一戸楼門、入母屋造、檜皮葺 附○稻垣 九間 桁行五間、梁間一間、一重、切妻造、西端中門に接続、檜皮葺 桁行折曲り十間、梁間一間、一重、切妻造、東端中門に接続、檜皮葺 桁行二間、梁間一間、一重、切妻造、檜皮葺	春日大社	奈良県奈良市春日野町	奈良県奈良市春日野町
	東門					
	東御廊					
	西及び北御廊					
	捻廊					

新指定重要文化財一覽(建造物の部)

幣直會殿	移寶殿	南寶殿	慶賀門	清淨門	○内侍	○慶賀	○清淨	○内侍	車到會殿	着殿	竈殿	酒殿	板殿	一の鳥居	春日大社	本殿	拜舎	細殿及び神樂殿	手水屋					
桁行五間、梁間三間、一重、流造、檜皮葺	桁行八間、梁間四間、一重、南端入母屋造、北端流造、檜皮葺	桁行五間、梁間三間、一重、流造、檜皮葺	桁行二間、梁間二間、校倉、切妻造、檜皮葺	三間一戸楼門、入母屋造、檜皮葺	一間一戸門、切妻造、檜皮葺	一間一戸門、切妻造、檜皮葺	一間一戸門、切妻造、檜皮葺	南門東桁行折曲り三十間、梁間二間、一重、切妻造、西端南門に接続、檜皮葺、一部本瓦葺	南門慶賀門間桁行折曲り十四間、梁間二間、一重、両下造檜皮葺	慶賀門清淨門間桁行九間、梁間二間、一重、両下造、本瓦葺	清淨門内侍門間桁行七間、梁間二間、一重、両下造、本瓦葺	内侍門北桁行折曲り十九間、梁間二間、一重、切妻造、南端内侍門に接続、本瓦葺	桁行五間、梁間三間、一重、流造、檜皮葺	桁行七間、梁間三間、一重、東端入母屋造、西端流造、檜皮葺	桁行五間、梁間二間、一重、切妻造、檜皮葺	桁行五間、梁間三間、一重、流造、檜皮葺	桁行八間、梁間二間、一重、切妻造段違、棧瓦葺	本造春日鳥居	一間社春日造、檜皮葺	附○鳥居 本造春日鳥居	○瑞垣 一周延長三十間	桁行二間、梁間一間、一重、切妻造、正面御廊に接続、檜皮葺	桁行十間、梁間三間、一重、流造、檜皮葺	桁行五間、梁間三間、一重、流造、こけら葺
春日大社																								
奈良県奈良市春日野町																								
奈良県奈良市春日野町																								

重要文化財に新たに未指定物件を追加して、その名称、員数並びに構造及び形式を改めたもの(○印は今回追加指定したもの)

番号	名称	員数	構造及び形式	所有者	所有者の住所	所在の場所
一	瑞巖寺御成門	一棟	一間藥医門、入母屋造、本瓦葺 附○太鼓塀 二棟 御成門南方延長二十二尺八寸、本瓦葺 御成門北方延長二十六尺二寸、本瓦葺 四脚門、切妻造、こけら葺 附○太鼓塀 二棟 中門南方折曲り延長三十二尺一寸、本瓦葺 中門北方延長四十八尺九寸、本瓦葺 一間社入母屋造、向拜一間、唐破風造、こけら葺 附 厨子 一基 一間社神明造、板葺 ○棟札 二枚 享保十九年 甲寅七月建立相極の記があるもの 一 建立文化八年 辛未ノ六月吉日の記があるもの 一	瑞巖寺	宮城県宮城郡松島町字町内	宮城県宮城郡松島町字町内
二	瑞巖寺中門	一棟	同上	瑞巖寺	宮城県宮城郡松島町字町内	宮城県宮城郡松島町字町内
三	神明社観音堂	一棟	同上	神明社	秋田県南秋田郡飯田川町飯塚	秋田県南秋田郡飯田川町飯塚
四	根津神社	七棟	桁行三間、梁間三間、一重、入母屋造、銅瓦葺 桁行四間、梁間一間、一重、兩下造、銅瓦葺 桁行正面七間、背面九間、梁間三間、一重、入母屋造、正面千鳥破風附、向拜三間、軒唐破風附、銅瓦葺 附○銅燈籠 二基 各竿に宝永七 庚寅年四月廿一日の刻銘がある 一間一戸平唐門、銅瓦葺 棟門、銅瓦葺	根津神社	東京都文京区根津須賀町	東京都文京区根津須賀町
五	平等寺薬師堂	一棟	唐門東方折曲り延長三十四間、潜門一所を含む 唐門西門間折曲り延長二十一間 西門北方折曲り延長五十三間、潜門一所を含む 三間一戸楼門、入母屋造、棧瓦葺 桁行三間、梁間四間、一重、寄棟造、妻入、茅葺 附○棟札 二枚 屋根齊替寛政三己亥歲六月廿九日ヨリ始ム及び屋根齊替文化元年歲四月九日ヨリ始ムの記があるもの 屋根齊替天保十二 辛丑 六月の記があるもの 一	平等寺	新潟県東蒲原郡三川村大字岩津	新潟県東蒲原郡三川村大字岩津
六	名古屋櫓	四棟	二重三階、本瓦葺	名古屋市	愛知県名古屋市中区南外堀町	愛知県名古屋市中区南外堀町

東南隅櫓	西北隅櫓	表二の門	七密蔵院多宝塔 一基	八六所神社 三棟	本所神社殿 幣殿 拜殿 神供所門	九伊賀八幡宮 六棟	本殿 幣殿 拜殿	<p>二重三階、本瓦葺 附○板札 一枚 宝永七寅年三月の十一月迄ニ出来の記がある</p> <p>二重三階、本瓦葺 高麗門、本瓦葺 三間多宝塔、こけら葺 附○棟札 五枚</p> <p>葺替文政癸未 六天暮春下旬の記があるもの 葺替天保十一年 子 九月の記があるもの 葺替安政五年 午 八月の記があるもの 葺替慶応元乙丑 歳□□の記があるもの</p> <p>三間社流造、銅板葺 附○厨子 六基 各一間厨子、寄棟造、板葺</p> <p>桁行二間、梁間一間、一重、兩下造、銅板葺 桁行五間、梁間三間、二重、入母屋造、正面千鳥破風附、向拝一間、唐破風造、銅板葺 桁行五間、梁間二間、一重、入母屋造、棧瓦葺 三間一戸棧門、入母屋造、銅板葺 附○棟札 六枚</p> <p>造立慶長九年 甲辰 八月吉日の記があるもの 造立寛永十三年 丙子 天八月吉日の記があるもの 修覆寛文三癸卯年三月吉日の記があるもの 修覆元禄元 戊辰 年十二月吉日の記があるもの 修覆享保十三 戊申 年三月吉日の記があるもの 修覆宝曆六 丙子 年八月吉日の記があるもの</p> <p>三間社流造、檜皮葺 附○宮殿 一基 一間宮殿、入母屋造、妻入、正面軒唐破風附、本瓦形板葺、鳥居附属 桁行二間、梁間一間、一重、兩下造、檜皮葺 桁行五間、梁間三間、一重、入母屋造、正面据破風附、向拝一間、檜皮葺</p>
密蔵院	六所神社	伊賀八幡宮	愛知県春日井市熊野町	愛知県岡崎市明大寺町	愛知県岡崎市伊賀町	愛知県岡崎市伊賀町		

十二 信光明寺観音堂	十一 八幡宮本殿	十 妙源寺柳堂	透御隨神 身供 塀所門橋居
一棟	一棟	一棟	
<p>延長百四十二尺三寸、棧瓦葺 桁行五間、梁間二間、一重、入母屋造、棧瓦葺 三間一戸楼門、入母屋造、前後軒唐破風附、檜皮葺 石造反橋、高欄附 石造明神鳥居 附○棟札 四枚 造立慶長拾六年六月十五日の記があるもの 造立寛永拾三年八月十五日の記があるもの 再興元禄十一寅歳十二月十七日の記があるもの</p>	<p>三間社流造、檜皮葺 附○棟札 三枚 菅替享保元丙申年八月吉祥日の記があるもの 菅替寛保三癸亥年四月吉祥日の記があるもの 再建文化五年戊辰閏六月の記があるもの 再建三間、梁間三間、一重、入母屋造、こけら葺 附○棟札 四枚 建立于時文明第十戌年卯月四日の記があるもの 寄進于時萬治二己亥天九月十五日の記があるもの 惣修覆于時天和三癸亥年孟秋下旬九月吉祥日の記があるもの 建立于時正保四丁天五月十九日の記があるもの</p>	<p>桁行三間、梁間三間、一重、寄棟造、向拜一間、檜皮葺 附○厨子及び須弥壇一具 一間厨子、入母屋造、本瓦形板葺、唐様須弥壇 ○棟札 五枚 修理于時正和三季八月六日の記があるもの うわふき慶長拾八うしノ年正月廿八日の記があるもの 修造元禄十五年午ノ六月廿二日の記があるもの 修造寛政元歳次己酉冬十月十九日の記があるもの</p>	
信光明寺 愛知県岡崎市岩津町	八幡宮 愛知県岡崎市福岡町	妙源寺 愛知県岡崎市大和町	
愛知県岡崎市岩津町	愛知県岡崎市福岡町	愛知県岡崎市大和町	

十三	大樹寺多宝塔	一棟	三周多宝塔、楡皮葺 附○棟札 三枚 于皆寛永拾五寅年卯月廿五日の記があるもの 寶曆十庚辰歲二月の記があるもの 修覆嘉永元祀龍集戊申初夏下洗八日の記があるもの	大樹寺	愛知県岡崎市鴨田町	愛知県岡崎市鴨田町
十四	八幡宮本殿	一棟	三周社流造、楡皮葺 附○厨子 一枚 三周社流見世棚造、こけら葺 ○棟札 三枚 修覆寶曆十四甲申三月廿八日の記があるもの 修覆安永二癸巳九月廿七日の記があるもの 替替天保十年二月吉日の記があるもの	八幡宮	愛知県豊川市八幡町	愛知県豊川市八幡町
十五	久麻久神社本殿	一棟	桁行三周、梁間二周、一重、入母屋造、向拝三周、銅板葺 附○厨子 一枚 ○鑄口 一枚 ○宝徳元年己巳十二月日の刻銘がある ○棟札 二枚 再興茲時貞享三丙曆十二月吉祥日の記があるもの 再興于時□□□式年支□□の記があるもの	久麻久神社	愛知県西尾市入ッ面町	愛知県西尾市入ッ面町
十六	定光寺本堂	一棟	桁行三周、梁間三周、一重もこし附、入母屋造、こけら葺 附○宮殿 一枚 一週宮殿、入母屋造、本瓦形板葺	定光寺	愛知県東春日井郡品野町大字杏掛	愛知県東春日井郡品野町大字杏掛
十七	高田寺本堂	一棟	桁行五周、梁間五周、一重、入母屋造、楡皮葺 附○厨子 一枚 一週厨子、入母屋造、こけら葺 ○護摩札 一枚 享保十九曆四日吉祥の記がある	高田寺	愛知県東春日井郡師勝村大字高田寺	愛知県東春日井郡師勝村大字高田寺
十八	万徳寺多宝塔	一基	三周多宝塔、楡皮葺 附○棟札 一枚 修覆元禄八乙亥年十月吉日の記がある	万徳寺	愛知県中島郡稻沢町大字長野	愛知県中島郡稻沢町大字長野
十九	長光寺地藏堂	一棟	六角円堂、一重、とち葺形銅板葺 附○棟札 四枚 再興□葺天正拾八載□十月二八日及び上葺寛文四年甲十月廿七日の記があるもの 再興上葺慶長十五上葺關茂菊月念四鳥の記があるもの	長光寺	愛知県中島郡稻沢町大字六角堂	愛知県中島郡稻沢町大字六角堂

二十 幡頭神社本殿	一棟	延宝八年 ^甲 庚之醫仲春祥日始釘打同林鐘吉辰修造成の記があるもの 修造弘化二年 ^乙 春三月良辰の記があるもの 三間社流造、檜皮葺 附○棟札 三枚 修理天保四 ^{癸卯} 極月吉辰の記があるもの 修理寛政三年 ^亥 六月十三日の記があるもの 修理嘉永五年白露吉辰の記があるもの 三間社流造、檜皮葺 附○棟札 七枚 造立天正拾六季 ^子 十一月廿八日の記があるもの 葺補天和二年戊五月吉日の記があるもの 寧明和七年七月吉日の記があるもの 建立明和七 ^{庚寅} 稔八月四日の記があるもの 上棟二時安政三年丙辰七月廿七日の記があるもの 葺替安政三 ^{丙辰} 稔七月の記があるもの 長二尺五寸五分、幅二寸八分のもの	幡頭神社	愛知県幡豆郡吉良町大字宮崎	愛知県幡豆郡吉良町大字宮崎
二一 八幡神社本殿	一棟	桁行五間、梁間五間、一重、入母屋造、檜皮葺 附○厨子 一間 一間厨子、入母屋造、正面軒唐破風附、本瓦形板葺 桁行三間、梁間三間、一重、入母屋造、銅瓦葺 桁行三間、梁間一間、一重、両下造、銅瓦葺 桁行五間、梁間二間、一重、入母屋造、正面千鳥破風附、向拝三間、軒唐破風附、銅瓦葺 四脚平唐門、檜皮葺 一周延長五十四間、こけら葺、潜門二所を含む 三間社流造、向拝一間、檜皮葺 附○棟札 一枚 上棟明応式曆 ^丑 八月廿二日の記がある	八幡神社	愛知県東加茂郡足助町大字足助	愛知県東加茂郡足助町大字足助
二二 大恩寺念仏堂 二三 日吉大社末社東照宮	一棟 三棟	日吉大社 本殿 石の 拜殿 唐門 透塀	大恩寺 日吉大社	愛知県宝飯郡御津町大字広石 滋賀県大津市坂本本町	愛知県宝飯郡御津町大字広石 滋賀県大津市坂本本町
二四 油日神社本殿	一棟	油日神社 本殿	油日神社	滋賀県甲賀郡甲賀町大字油日	滋賀県甲賀郡甲賀町大字油日

重要文化財の名称、員数並びに構造及び形式を改めたもの

番号	名称	員数	構造及び形式	所有者	所有者の住所	所在の場所
一	古四王神社本殿	一棟	一間社入母屋造、妻入、向拝一間、唐破風造、こけら葺	古四王神社	秋田県大曲市高畑	秋田県大曲市高畑
二	福德寺阿弥陀堂	一棟	桁行三間、梁間三間、一重、宝形造、茅葺形銅板葺 附 厨子 一基 一間厨子、寄棟造、板葺	福德寺	埼玉県入間郡東吾野村大字虎秀	埼玉県入間郡東吾野村大字虎秀
三	魚沼神社阿弥陀堂	一棟	桁行三間、梁間三間、一重、宝形造、茅葺	魚沼神社	新潟県小千谷市土川町	新潟県小千谷市土川町
四	蓮華峰寺金堂	一棟	桁行五間、梁間五間、一重、入母屋造、茅葺形銅板葺	蓮華峰寺	新潟県佐渡郡小千谷町大字小比叡	新潟県佐渡郡小千谷町大字小比叡
五	蓮華峰寺弘法堂	一棟	桁行三間、梁間三間、一重、宝形造、とち葺	蓮華峰寺	新潟県佐渡郡小千谷町大字小比叡	新潟県佐渡郡小千谷町大字小比叡
六	観音寺多宝塔	一基	三間多宝塔、銅板葺	観音寺	愛知県名古屋市中区荒子町	愛知県名古屋市中区荒子町
七	妙興寺勅使門	一棟	四脚門、切妻造、棧瓦葺	妙興寺	愛知県一宮市大和町	愛知県一宮市大和町
八	津島神社本殿	一棟	三間社流造、檜皮葺	津島神社	愛知県津島市向島神明町	愛知県津島市向島神明町
九	幡宮本殿	一棟	三間社流造、檜皮葺	幡宮	愛知県岡崎市上地町	愛知県岡崎市上地町
十	滝山寺三門	一棟	三間一戸楼門、入母屋造、こけら葺	滝山寺	愛知県岡崎市滝町	愛知県岡崎市滝町
十一	滝山寺本堂	一棟	桁行五間、梁間五間、一重、寄棟造、檜皮葺	滝山寺	愛知県岡崎市滝町	愛知県岡崎市滝町
十二	東観音寺多宝塔	一基	三間多宝塔、こけら葺	東観音寺	愛知県豊橋市小松原町	愛知県豊橋市小松原町
十三	三明寺三重塔	一基	三間三重塔婆、こけら葺	三明寺	愛知県豊川市豊川町	愛知県豊川市豊川町
十四	源敬公(徳川義直)廟	六棟	石標、周囲石柵附 一間一戸平唐門、銅瓦葺、正面石階附 桁行三間、梁間二間、一重、寄棟造、銅瓦葺 桁行三間、梁間二間、一重、寄棟造、銅瓦葺 四脚門、入母屋造、銅瓦葺 延長七十一間、銅瓦葺 附 参道 正面石敷参道 殉死者墓 九基 各石標 石柵 源敬公墓後、唐門左右及び殉死者墓前	徳川義親	東京都豊島区目白町四丁目四一番地	愛知県東春日井郡品野町大字杏掛三三七番地

重要文化財の指定を解除したもの(昭和三十年十二月十八日焼失)

十五	性海寺多宝塔	一基	三間多宝塔、銅板葺	性海寺	愛知県中島郡稻沢町大字大塚	愛知県中島郡稻沢町大字大塚
十六	甚目寺南大門	一棟	三間一戸楼門、入母屋造、こけら葺	甚目寺	愛知県海部郡甚目寺町大字甚目寺	愛知県海部郡甚目寺町大字甚目寺
十七	知立神社多宝塔	一基	三間多宝塔、こけら葺	知立神社	愛知県碧海郡知立町大字知立	愛知県碧海郡知立町大字知立
十八	天恩寺仏殿	一棟	桁行三間、梁間三間、一重、入母屋造、こけら葺	天恩寺	愛知県額田郡豊富村大字片寄	愛知県額田郡豊富村大字片寄
十九	天恩寺山門	一棟	一間薬医門、切妻造、こけら葺	天恩寺	愛知県額田郡豊富村大字片寄	愛知県額田郡豊富村大字片寄
二十	油日神社楼門及び廻廊	三棟	楼門 三間一戸楼門、入母屋造、檜皮葺 左廻廊 桁行九間、梁間一間、切妻造、檜皮葺 右廻廊 桁行十間、梁間一間、一重、切妻造、檜皮葺	油日神社	滋賀県甲賀郡甲賀町大字油日	滋賀県甲賀郡甲賀町大字油日

番号	名称	構造及び形式	所有者	所有者の住所	所在の場所
一	金核神社中宮本殿	三間社流造、屋根檜皮葺	金核神社	山梨県中巨摩郡宮本村御岳	山梨県中巨摩郡宮本村御岳
二	金核神社東宮本殿	方三間、単層、屋根入母屋造、檜皮葺	金核神社	山梨県中巨摩郡宮本村御岳	山梨県中巨摩郡宮本村御岳

重要文化財目録 第九集

凡 例

一、この目録は文化財保護法(昭和二十五年五月三十日法律第二百十四号)により、昭和三十一年十一月文化財保護委員会において重要文化財指定の決定があつた物件等を収録した。

一、この目録に収録した重要文化財の種別は、絵画、彫刻、工芸、書跡、考古、建造物である。

昭和三十一年十一月

文化財保護委員会

新指定

絵画の部
◎印は重要美術品等認定物件より重要文化財指定の決定があつたものを示す

名	称	員数	所 有 者
絹本着色生駒曼茶羅圖 天文二年及び宝永二年の修理裏書がある	国(文化財保護委員会保管)	一幅	
紙本淡彩駿牛図断簡	国(東京国立博物館保管)	一幅	
紙本着色華嚴五十五所絵卷断簡(文殊菩薩段) 假谿黄聞の賛がある	同	一幅	右
紙本墨画布袋図「直翁」他一印がある	東京都千代田区神田駿河台二ノ九	一幅	梅沢彦太郎
紙本淡彩駿牛図断簡	同	一幅	中央区日本橋通三ノ五 瀬津 巖
紙本着色藤原敦忠像(上疊本三十六歌仙切)	同 新宿区戸山町三五反町茂作	一幅	

紙本墨画淡彩四季山水図 伝雪舟筆 附紙本墨画淡彩四季山水図探幽筆一卷(模本)	一卷	同	新宿区戸山町三五反町茂作
紙本着色藤原能宣像(上疊本三十六歌仙切)	一幅	同	港区麻布笏町一八八 服部正次
紙本淡彩駿牛図断簡	一幅	同	芝西久保城山町九 佐々木茂索
紙本着色小大君像(上疊本三十六歌仙切)	一幅	同	渋谷区猿楽町三六 小林 中
紙本墨画淡彩山水図(鼓琴余事帖) 浦上玉堂筆 文化十四年の年記がある(十図)	一帖	同	大田区新井宿二ノ一五 竹本泰一
富岡鉄斎の題箋、序及び跋がある			
紙本着色四季花鳥図 伝雪舟筆 六曲屏風	一双	同	目黒区駒場町八六一 財団法人 前田育徳会
紙本着色紀貫之像(上疊本三十六歌仙切)	一幅	同	世田谷玉川上野毛町一 五島慶太
絹本着色普賢十羅刹女像	一幅	同	世田谷玉川等々力町三ノ七二一 日野原昌広
紙本墨画毘沙門天像 雪舟筆	一幅	同	世田谷区玉川等々力町三丁目 横瀬 寛
紙本淡彩駿牛図断簡	一幅	同	神奈川県鎌倉市乱橋材木座 高梨仁三郎
臨画帖(百図) 狩野探幽筆	二帖	同	雪ノ下六八 中島専之助
絹本着色茉莉花図	一幅	同	深沢町笛田一九九三 菅原春雄
絹本着色柿本人麿像 詫磨栄賀筆 性海靈見八十一歳の賛がある	一幅	同	財団法人 常盤山文庫
紙本着色絵因果経断簡(卷第四上八十四行)	一卷	同	静岡県熱海市熱海二二三ノ一 宗教法人 世界救世教
紙本着色山紅於染図 浦上玉堂筆	一幅	同	愛知県名古屋市中区主税町三ノ二七 木村定三

長谷川等伯関係資料

名	称	員数	所	有	者
絹本着色日通上人像	長谷川等伯筆 一幅	三冊	京都府京都市上京区小川通寺之内上ル本法寺前町	本	法寺
紙本墨画妙法尼像	伝長谷川等伯筆 一幅				
紙本着色仏涅槃図	長谷川等伯筆 一幅 慶長四年日通上人の銘がある				
紙本墨画長谷川等伯画説	日通上人筆 一冊 (二十枚)				
紙本着色源宗于像	上疊本三十六歌仙切	一幅	同 町二八	堂	本四郎
紙本墨画蘆鴨図	俵屋宗達筆 (二面衝立)	一基	同 路町	醍醐	醍醐寺
紙本着色婦人像		一幅	大阪府大阪市天王寺区上木町六丁目	近畿日本鉄道株式会社 (財団)	大和文華館保管
紙本着色大伴家持像	上疊本三十六歌仙切	一幅	同	財団	都島区網島町四〇 藤田美術館
紙本墨書題雪舟山水図	詩永正十一年の年記がある	一幅	同	同	右
附絹本着色雪舟自画像	(模本) 一幅				
絹本着色織田信長像	天正十一年古溪宗陳の賛がある	一幅	兵庫県神戸市葺合区熊内町一丁目	市立神戸美術館	

三件の重要文化財を一件の重要文化財に統合したもの

紙本墨画瀟湘八景図(模貼付八)

名	称	員数	所	有	者
木造薬師如来坐像	(本堂安置) 像内に貞観四年の銘がある	一軀	岩手県水沢市黒石町	黒石	石寺
木造薬師如来及兩脇侍立像	(本堂安置)	三軀	東京都台東区上野桜木町	寛永	永寺
木造釈迦如来坐像		一軀	同 目黒区下目黒	大	円寺
銅造観音菩薩立像		一軀	同 三宅島三宅村大字坪田	海	蔵寺
木造釈迦如来坐像	善円作 膝裏に嘉禄元年十一月造畢、仏師善円の銘がある	一軀	奈良県奈良市雑司町	東	大寺
附紙本墨書釈迦如来造立願文	寛澄筆	一卷			
紙本墨書宝篋印陀羅尼等		一卷			
紙本墨書華嚴經卷四十		一卷			
舍利香木		一包			
木造菩薩立像	納入経の奥に建久□年とある	一軀	同	同	右
木心乾漆阿弥陀如来及兩脇侍像	(本堂安置)	三軀	同	法蓮	福院
木造十一面観音立像	(本堂安置)	一軀	愛媛県松山市太山寺町	太山	山寺
木造阿弥陀如来坐像	(本堂安置)	一軀	同	南江	戸山寺
木造阿弥陀如来及兩脇侍坐像		三軀	同	入幡	浜市五反田安寺
銅造観音菩薩立像		一軀	高知県安芸郡室戸町大字元	金剛	頂寺
木造菩薩面		二面	同	高岡	郡日高村大字下分社

木造普賢延命菩薩騎象像(康俊作 本堂安置)
 台座天板裏面に「南都興福寺大仏師
 法眼康俊、正中三年四月 日」の
 銘がある
 一軀
 佐賀県佐賀市久保泉町上和泉寺
 龍田

工 藝 品 の 部

名	称	員数	所 有 者
舟橋時絵硯箱		一合	国(東京国立博物館保管)
菊花文螺鈿経箱		一合	同 右
染付魚藻文壺		一口	同 右
色々威胴丸兜、頬当、大袖、籠手付		一具	山形県鶴岡市家中新町 酒井 忠明
染付飛鳳唐草文八角瓢形花生		一口	東置賜郡川西町小松 財団法人 柳 粹巧 藝館
赤絲威露殘闕		一括	福島県東白川郡棚倉町馬場 都々古別神社
網代笈		一背	茨城県西茨城郡岩瀬町西小崎 月山 寺
刀 無銘伝行光		一口	東京都文京区原町三四 青山 孝吉
短刀 銘国光		一口	同 関口台町二六 細川 護立
太刀 銘助真		一口	同 港区麻布笥町四 三井八郎右衛門
刀 銘井上真改 延宝四年八月日		一口	同 新宿区下落合二ノ四八一 岡野多郎松
唐津鉄斑文壺		一口	同 世田谷区太子堂三〇五 須藤宗次郎
白天目茶碗 附千宗易書状 <small>(八月七日 藥院宛 一幅)</small>		一口	同 玉川等々力町三ノ七二一 日野原昌広
砧青磁鳳凰耳花生		一口	同 玉川上野毛町一一二 五島 慶太
短刀 銘安吉		一口	神奈川県茅ヶ崎市東海岸 神崎正義

刀 金象嵌銘貞次磨上之 <small>(名物大青江 本阿(花押))</small>	一口	長野県大町市大字社区小字木舟
鉄鑿口 八月日在銘	一口	岐阜県不破郡垂井町宮代 真 禪 院
梵鐘	一口	愛知県名古屋市中区新宮坂 熱 田 神 宮
古神宝類		
一表着 萌黄小葵地桐竹鳳凰文二重織	二領	
一重鞋 白桐竹鳳凰唐草文固綾織 <small>十襲</small>	二領	
一單 萌黄繁菱文固綾織	一領	
一裳 白三重襷文羅織	二腰	
一彩絵楯扇	二握	
一表袴 白窠散文二重織	三腰	
一襪 白繁菱文固綾織	二双	
一錦包挿鞋	三双	
一入帷 紫小葵地浮線綾二重織	一領	
一朱塗唐櫃	二合	
附入帷殘闕		
鏡及鏡箱		
〔松竹双鶴文〕門鏡	一面	
〔桐鳳凰時絵〕鏡箱	一面	
〔松竹双鶴文〕八稜鏡	一面	
〔蓬萊時絵〕鏡箱	一面	
〔松竹双鶴文〕八稜鏡	一面	
〔蓬萊時絵〕鏡箱	一面	
刀 金象嵌銘米国次 <small>(本阿(花押))</small>	一口	同 千種区菊坂町三ノ一六 森 川 勇
梵鐘	一口	滋賀県大津市園城寺町 園 城 寺
梵鐘	一口	同 石山寺辺町 山 寺

藍葦威肩赤胴丸 大袖付

甲冑金具

紫檀塗螺鈿金銅裝舍利鞆

梵鐘

鉄鑄口

奉施入森寺金口壺口嘉祿二年丙申
月□八日在銘

二十四間四方白星兜鉢

唐鞍

黑漆鞍

金銅裝又鳳尾長鳥文障泥

虎斑文革張切附

金箔押宝珠金銅火焰雲珠

金箔押馬面殘闕

鍍金透彫口籠

鉄輪證

芦屋無地真形釜

芦屋七宝文真形釜

芦屋霞地真形釜

沃懸地螺鈿金銅裝神輿

唐鞍

金銅裝障泥

(嘉元四年丙午の修理
銘がある)

銀面

杏葉

一領 京都府京都市上京区一条通御
前通西入ル

一括 高津嘉之
右

一基 同 下京区四ツ塚通大宮西
入ル九条町

一口 同 東山区本町十五丁目
東福寺

一口 同 清水寺門前清水二丁
清水寺

一口 同 清水寺
上田綱治郎

一頭 同 大阪府大阪市南区松屋町
都島区網島町四〇

同 財団法人 藤田美術館

同 泉大津市助松松ノ浜
細見亮市

同 同 大阪府枚方市字中振二四〇二
ノ一

同 幸節 静彦

同 兵庫県津名郡五色町鳥飼中
鳥飼八幡宮

同 奈良県奈良市雑司町
手向山神社

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

大神宮御正鉢
納入文書八通五穀五葉一包共

黒漆金銅裝神輿

太刀銘近包

刀無銘(吉岡一文字)

刀折返銘 行平作

藍葦威肩白胴丸兜、壺袖付

一具 同 西大寺町
西大寺

一基 同 宇陀郡菟田野町大字上
芳野 水分神社

一口 同 岡山県岡山市東古松町
林原一郎

一口 同 新西大寺町五七
杉野一太

一口 同 福岡県福岡市東露町五九
永藤一

一領 同 宗像郡女海町大字田島
宗像神社

書跡の部

名

称

員数

所 有 者

管見抄(第三冊欠)

永仁三年五、六月書写奥書

宋版予章先生集

宋版穎浜先生大全文集

宋版平齋文集

宋版梅亭先生四六標準

宋版鉅宋広韻
刊記己丑建寧府黃三八郎書鋪印刊

拾芥抄

台記古写本

仁平三年冬

愚昧記自写本 七卷

附目錄並覽書等 五卷

後愚昧記 自写本

附写本 一冊

常行堂声明譜

応永四年八月十一日施入奥書

九冊 同 国(内閣文庫保管)

七冊 同 同

十五冊 同 同

十二冊 同 同

十九冊 同 同

五冊 同 同

一卷 同 国(東京大学史料編纂所保管)

一卷 同 同

八卷 同 同

三十卷 同 同

二帖 同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

伊能忠敬遺書並遺品 附伊能忠敬手沢本 伊能忠誨遺書	八十点 二十点	千葉縣佐原市佐原一九〇〇 伊能康之助
伊勢集斷簡(石山切二枚紙) (としふれと)	一幅	東京都千代田区神田駿河台二ノ九 梅沢義一
中峰明本墨蹟 尺牘 附千利休書狀 一幅	一幅	新宿区諏訪町三三 反町十三郎
玉篇(八行半) 心部斷簡	一卷	同目黒区上目黒七ノ一〇九四 財団 大東急記念文庫 法人
群書類従版木	一万七千二百四十枚	同 渋谷区若木町 財団 温故学会 法人
癡絶道冲墨蹟 偶頌 淳祐丙午八月二十日	一幅	同 世田谷区玉川上野毛町一〇二二 五島慶太
古今和歌集卷第十九斷簡(高野切) (よみひとしらす)	一卷	同 弦巻町一ノ二三八 森田千代鹿
宋版大宋重修広韻	五冊	同 岡本町九一二 財団 静嘉堂
宋版漢書	四十冊	同
湖北提挙茶壺司刊本	三十冊	同
宋版編年綱目備要(補写十冊) 紹定二年刊本	八冊	同
宋版清明集殘本	十二冊	同
宋版白氏六帖事類集	一卷	東京都大田区新井宿二ノ一五 竹本泰一
六条宰相家歌合 永久四年	一卷	同
中峰明本墨蹟 与济侍者警策	一幅	神奈川県鎌倉市深沢町笛田 財団 常盤山文庫 法人
十五番歌合断簡(二枚紙) (六番堤中納言)	一幅	同 山ノ内一八六 瀬津巖
仏鑑禪師墨蹟 歸雲二大字	一幅	静岡県熱海市熱海二三三ノ一 宗教 世界救世教 法人

寸松庵色紙(しらゆきの) 附金地著色山水図(扇面) 貼込帖	一幅 一帖	愛知県名古屋市中瑞穂区弥富町 紅葉園四八
後奈良天皇宸翰般若心経(参河国)	一卷	同 昭和田川名山町 神野金之助
清拙正澄墨蹟 偶頌 庚午孟秋十有七日 附春屋宗園添状 一幅	一幅	同 西尾市亀沢町四七四 (岩瀬文庫保管) 市
大燈国師墨蹟 偶頌	一幅	京都府京都市左京区南禅寺下 河原町三七 野村文英
高山寺聖教類	一千七点	同 右京区梅ヶ畑榊尾町 高山寺
鉄眼版一切経版木 附大藏経請去総牒 宝蔵院縁起 一冊	四万八千二百七十五枚	同 宇治市五ヶ庄 宝蔵院
緋色紙(神かきの)	一幅	同 湯木貞一
伊勢集断簡(石山切) (表君かよは 裏ききしかことく)	一幅	同 大阪府大阪市東区高麗橋二ノ三
虚堂智愚墨蹟(法語) 附添状 四卷	一幅	兵庫県伊丹市伊丹三四〇 小西新右衛門
滅翁文礼墨蹟 偶頌 嘉熙四年正月廿六日	一幅	同
成唯識論卷第十 天平宝字五年正月十八日小治田弟成 書写奥書	一卷	奈良県奈良市登大路町 興福寺
唐招提寺文書	二卷	同 五条町 唐招提寺
大唐西域記(卷第二、十二欠) 大治元年写点奥書	十卷	同 生駒郡斑鳩町法隆寺 法隆寺
版本成唯識論述記(卷第十末写本) 保延七年、保元二年、建長三年等奥書	二十冊	同

考 古 の 部	名	称	員 数	所 有 者
大毗盧遮那經(白朱両点本) 卷第一、七天喜六年七月二十六日 明算受学奥書 大毗盧遮那經供養次第法疏卷第二(朱 点本) 康平二年四月十七日明算受学奥書 梵本大般若涅槃經斷簡 文和三年三月二十一日宥快伝授奥書 日本法花驗記上 仁平三年仲夏中旬書写奥書 往生瑞応伝 康治二年九月九日書写奥書 決定往生集 本末 康治元年六月十二日書写奥書	八帖	和歌山県伊都郡高野町大字高野山	龍光院	
	同	同	宝寿院	
	一卷	同	同	
	一帖	同	同	
	一帖	同	同	
	二帖	同	同	

名	称	員 数	所 有 者
與福寺金堂鎮壇具			国(東京国立博物館保管)
一、金銅碗	四口		
一、銀鏡	一口		
一、金銅脚杯	一口		
一、金銅盤	一口		
一、銀盤	一口		
一、響銅盤	二口		
一、銀製鍍金匙	一本		
一、銀匙	一本		
一、金銅独鈷杵	一本		
一、瑞花雙鳥入花鏡	一面		
一、花卉双蝶入花鏡	一面		
一、銀唐草文透彫金具	一箇		
一、銀刀莊具	一箇		
一、金銅莊綠牙撥鍍鞘刀子	一口		
一、刀子殘闕	一括		

新指定重要文化財一覽(考古の部)

一、銀鑰子	一本	国(東京大学保管)
一、瑪瑙念珠玉	一括	青森県西津軽郡木造町館岡
一、水晶念珠玉	一括	越後谷源吾
一、琥珀念珠玉	一括	東京都文京区西片町一〇ノろ
一、瑪瑙玉	一括	中沢 武男
一、水晶玉	一括	目黒区鷹番町五四
一、琥珀玉	一括	津田佳代子
一、琥珀製六角柱	一箇	
一、琥珀製円柱	一箇	
一、椭圆形琥珀製品	一箇	
一、石製玉類	一括	
一、金小玉	五箇	
一、ガラス玉	一括	
一、水晶六角合子	一合	
一、水晶製六角柱	一箇	
一、和同開珎	百四十五枚	
一、開元通宝	一枚	
一、砂金	一包	
一、金塊	十箇	
一、金延金	九枚	
一、銀錠	四枚	
土面	一箇	秋田県北秋田郡七座村麻生出土
土偶	一箇	青森県西津軽郡木造町龜岡出土
土偶	一箇	埼玉県南埼玉郡柏崎村真福寺貝塚出土
大和国奈良市富雄町丸山古墳出土品	九箇	
一、斧頭形石製品	六箇	
一、刀子形石製品	一箇	
一、鑿形石製品	一箇	
一、鐙鉤形石製品	一箇	

番号	名称	員数	構造及び形式	所有者	所有者の住所	所在の場所
一	薬王院五輪塔	一基	石造五輪塔	薬王院	石川県江沼郡山代町山代	石川県江沼郡山代町山代
二	大谷寺九重塔	一基	石造九重塔 元亨第三癸亥三月四日の刻銘がある	大谷寺	福井県丹生郡朝日町大谷寺	福井県丹生郡朝日町大谷寺
三	金輪寺五重塔	一基	石造五重塔	金輪寺	京都府亀岡市宮前町宮川	京都府亀岡市宮前町宮川
四	延福寺十三重塔	一基	石造十三重塔 延文三戊戌十月二十五日の刻銘がある	延福寺	京都府亀岡市本梅町西加舎	京都府亀岡市本梅町西加舎
五	石清水八幡宮五輪塔	一基	石造五輪塔	石清水八幡宮	京都府綴喜郡八幡町八幡	京都府綴喜郡八幡町八幡
六	輪塔	一基	正應五年壬辰八月日の刻銘及び永仁四年、永祿五年の追銘がある	木津町	京都府相楽郡木津町	京都府相楽郡木津町社
七	泉橋寺五輪塔	一基	石造五輪塔、基壇附	泉橋寺	京都府相楽郡山城町字西下	京都府相楽郡山城町字西下
八	天神社十三重塔	一基	石造十三重塔 建治三丁十月三日の刻銘がある	天神社	京都府相楽郡山城町神童子	京都府相楽郡山城町神童子
九	笠置寺十三重塔	一基	石造十三重塔	笠置寺	京都府相楽郡笠置町笠置	京都府相楽郡笠置町笠置
十	円成寺五輪塔	一基	石造五輪塔 元亨元年辛酉六月日の刻銘がある	円成寺	奈良県添上郡大柳生村大字忍辱山	奈良県添上郡大柳生村大字忍辱山

建造物の部

- 一、鉄形石
- 一、琴柱形石製品
- 一、碧玉合子
- 一、碧玉管玉
- 一、有鉤釧形銅製品
- 一、銅板

二箇
十二箇
二合
十七箇
一箇
二枚

- 肥前国唐津市板馬場出土甕棺遺物
- 一、方格四神鏡
 - 一、方格渦文鏡
 - 一、有鉤釧形銅製品
 - 一、巴形銅器
 - 一、ガラス小玉
 - 一、鉄刀残片

一面
一面
二十六箇
三箇
一箇
一箇

佐賀県唐津市板馬場四ノ二八四
西岡広志

十一宝 篋印塔 一基	石造宝篋印塔 正元三年十月日の刻銘がある	有里外九ヶ大字	奈良県生駒郡生駒町	奈良県生駒郡南生駒村 大字有里
十二五 輪塔 一基	石造五輪塔	鎌田 英 信	奈良県北葛城郡香芝町 鎌田	奈良県北葛城郡当麻村 大字当麻字北共同墓地 内
十三十 三重塔 一基	石造十三重塔	牧 区	奈良県宇陀郡大字陀町 大字牧	奈良県宇陀郡大字陀町 大字牧字寺垣内四四八 番地
十四宝 篋印塔 一基	石造宝篋印塔 建造四年の刻銘がある	山口 区	奈良県吉野郡吉野町大 字山口	奈良県吉野郡吉野町大 字山口薬師堂境内

重要文化財に重要美術品等認定物件ならびに未指定物件を追加して名称及び員数を改めたもの。

絵画の部 ○印は未指定物件 ◎印は重要美術品等認定物件で今回追加したものを示す

名	称	員数	所 有 者
渡辺崋山関係資料			愛知県渥美郡田原町 田 原 町
紙本着色一掃百應図	渡辺崋山筆 文政元年の 自序がある	一冊	
紙本墨画渡辺巴洲像画	渡辺崋山筆	一幅	
紙本着色及び墨画	渡辺崋山筆	一幅	
紙本墨画渡辺巴洲像画	(五図)	一幅	
紙本淡彩日月大黒天図	渡辺崋山筆	一幅	
絹本着色孔子像	渡辺崋山筆	一幅	
〔天保戊戌五月念三日後学三 宅友信薫沐拜写〕の款がある			
牙一、銅二、陶三、 渡辺崋山印木四、石十一、竹一、三個、合 印矩三、印箱一			但し竹二顆のみ
紙本墨書自筆画論(画譚、絵事御 返事)		二冊	
紙本墨書自筆遊相記稿		一冊	

新指定重要文化財一覽(建造物の部)

紙本墨書自筆狂歌草稿	一巻		
紙本墨書自筆退役願書稿	一冊		
紙本墨書自筆渡海願書及び助郷 書類	一巻		
紙本墨書自筆獄中書簡(椿椿山宛) (二通)	一巻		
紙本墨画自筆獄廷素描及び記録	一巻		
絹本墨書自筆墓表(不忠不孝渡 辺登)	一幅		
紙本墨書自筆遺書(渡辺立宛)	一巻		
紙本墨書自筆遺書(椿椿山宛)	一巻		
紙本墨書自筆手本(忠孝) 三宅伯太郎謹書〕の款がある	一幅		
自筆扁額(報民倉)	一面		
板絵墨画馬図(絵馬)	一面		
渡辺崋山筆			
自決脇差	一口		
莖に文政十三年八月日東播 土祐国作並びに大野夕鷗贈 呈の銘がある			
紙本着色渡辺崋山像	椿椿山筆	一幅	
卷止に「崋山先生四十五歳 家癸丑十月十一日稿」とあ る			
紙本着色小集図録及び書簡	椿椿山筆	一幅	

新指定重要文化財一覽(考古の部)

紙本墨書麴町一件日録	椿椿山筆	一冊	立原杏
紙本墨書書簡及び書簡案	椿椿山筆 (三通通)	一卷	所、椿
附渡辺家年譜		一冊	
嶺山先生略伝補	三宅片鉄著	一冊	
書簡(渡辺定通、渡辺嶺山、妻たか)		一卷	
書簡(椿椿山)		一卷	
刀銘吉家		一口	
短刀銘因次		一口	
短刀無銘(菊池槍)		一口	
絹本著色孔門十哲像	椿椿山 等十筆	十幅	

重要文化財の現状変更により、名称及び員数を改めたもの

紙本金地著色孔雀葵花図	尾形光琳筆 二曲屏風	一双	東京都目黒区上目黒五ノ二三 八六 北野隆春
-------------	---------------	----	-----------------------------

重要文化財の名称及び員数を改めたもの

考古の部

筑前国四王寺趾経塚群出土品			福岡県糟屋郡 宇美町
銅経筒 木製内筒及経軸残片共		一口	
石造如来立像		一軀	
以上第一経塚			

輪積式銅経筒	二枚	
牡瓦	一口	
以上第二経塚		
銅経筒	一口	
瓦筒	一口	
以上第三経塚		
褐釉経筒	一口	
青白磁盒子	一合	
山吹雙雀鏡	一面	
菊花雙雀鏡	一面	
以上第四経塚		
甕	一口	
銅経筒 木製据台及経巻残塊共	一口	
銘文元永式年己亥次玖月廿四日 勸進僧良実		
以上第五経塚		
褐釉経筒	一口	
以上第六経塚		
褐釉六耳壺 経軸共	一口	
青白磁小壺	一口	
以上第七経塚		
輪積式銅経筒	一口	
以上第八経塚		
褐釉経筒	一口	
法華経	八卷	
附 輪積式銅経筒	一口	
四王寺山出土		

重要文化財の名称、員数並びに構造及び形式を改めたもの

建造物の部

番号	名称	員数	構造及び形式	所有者	所有者の住所	所在の場所
一	旧加賀屋敷御守殿門 (赤門)	一棟	三間薬医門、切妻造、本瓦葺、左右繫堀及び離番所附 繫堀 左右各十二尺、海鼠堀、本瓦葺 番所 左右各桁行三間、梁間二間、一重、前後唐破風造、 本瓦葺 附 左右袖堀 二棟 左右九尺一寸、海鼠堀、本瓦葺 右九十六尺四寸、海鼠堀、本瓦葺	国(文部省所管)	東京都港区芝公園地第 二号地	東京都文京区本富士町 二号地
二	増上寺三解脱門	一棟	五間三戸二階二重門、入母屋造、本瓦葺、左右繫堀及び 山廊附 山廊 左右各二間、板葺 繫堀 左右各桁行三間、梁間二間、一重、切妻造、本瓦葺 山廊 左右各桁行三間、梁間二間、一重、切妻造、本瓦葺	増上寺	東京都港区芝公園地第 二号地	東京都港区芝白金今里 町一四番地
三	武家屋敷門	一棟	長屋門、一重、入母屋造、片流、両出番所附、繪本瓦葺 銅板葺	藤山愛一郎	東京都港区芝白金台町 一丁目六〇番地	東京都文京区大塚坂下 町
四	護国寺本堂	一棟	桁行七間、梁間七間、一重、入母屋造、向拜三間、瓦棒 破風附 中門 桁行一間、梁間一間、一重、切妻造 繪本瓦葺	護国寺	東京都文京区大塚坂下 町	東京都文京区大塚坂下 町
五	護国寺月光殿 (旧日光院客殿)	一棟	三間五重塔婆、五重銅瓦葺、他本瓦葺	護国寺	東京都文京区大塚坂下 町	東京都文京区大塚坂下 町
六	寛永寺五重塔	一基	三間五重塔婆、五重銅瓦葺、他本瓦葺	寛永寺	東京都台東区上野公園 地	東京都台東区上野公園 地
七	寛永寺清水堂	一棟	桁行五間、梁間四間、一重、入母屋造、本瓦葺 附 厨子 一基 一間厨子、入母屋造、妻入、本瓦形板葺	寛永寺	東京都台東区上野公園 地	東京都台東区上野公園 地
八	寛永寺旧本坊表門(黒門)	一棟	三間薬医門、切妻造、本瓦葺	寛永寺	東京都台東区上野公園 地	東京都台東区上野公園 地
九	浅草寺二天門	一棟	八脚門、切妻造、本瓦葺	浅草寺	東京都台東区浅草公園	東京都台東区浅草公園
十	浅草神社	二棟	三間社流造、棧瓦葺	浅草神社	東京都台東区浅草公園	東京都台東区浅草公園
本	本殿		三間社流造、棧瓦葺			
階	階殿		桁行三間、梁間一間、一重、前面入母屋造、背面本殿に 接続、棧瓦葺			
拜	拜殿		桁行七間、梁間三間 一重、入母屋造、向拜三間、本瓦 葺、背面渡廊附屬			

三十一	八幡神社本殿	一棟	桁行三間、梁間四間、一重、入母屋造、銅板葺	八幡神社	鹿兒島県大口市太田	鹿兒島県大口市太田
三十	大山寺阿弥陀堂	一棟	桁行三間、梁間三間、一重、入母屋造、向拜一間、こけら葺	大山寺	鳥取県西伯郡大山町大字大山寺	鳥取県西伯郡大山町大字大山寺
二十九	三仏寺文殊堂	一棟	懸造、桁行四間、梁間三間、一重、入母屋造、背面軒唐破風附、こけら葺	三仏寺	鳥取県東伯郡三朝町大字三徳	鳥取県東伯郡三朝町大字三徳
二十八	三仏寺地藏堂	一棟	懸造、桁行四間、梁間三間、一重、入母屋造、背面軒唐破風附、こけら葺	三仏寺	鳥取県東伯郡三朝町大字三徳	鳥取県東伯郡三朝町大字三徳
二十七	三仏寺納経堂	一棟	一間社春日見世棚造、こけら葺	三仏寺	鳥取県東伯郡三朝町大字三徳	鳥取県東伯郡三朝町大字三徳
二十六	旧正伝院書院	一棟	七畳(床附)、六畳四室及び縁より成る、一重、入母屋造、椽瓦葺	三井高公	東京都港区麻布弁町三番地	神奈川県中郡大磯町西小磯
二十五	建長寺大覚禪師塔	一基	石造無縫塔	建長寺	神奈川県鎌倉市山内	神奈川県鎌倉市山内
二十四	建長寺唐門	一棟	桁行一間、梁間一間、向唐門、銅板葺	建長寺	神奈川県鎌倉市山内	神奈川県鎌倉市山内
二十三	建長寺昭堂	一棟	桁行五間、梁間五間、一重、寄棟造、茅葺	建長寺	神奈川県鎌倉市山内	神奈川県鎌倉市山内
二十二	建長寺仏殿	一棟	桁行三間、梁間三間、一重、こし附、寄棟造、瓦葺銅板葺、こし正面軒唐破風附	浄光明寺	神奈川県鎌倉市扇ヶ谷	神奈川県鎌倉市扇ヶ谷
二十一	浄光明寺五輪塔	一基	石造五輪塔	覚園寺	神奈川県鎌倉市二階堂	神奈川県鎌倉市二階堂
二十	覚園寺大燈塔	一基	石造宝篋印塔 正慶元年壬申仲秋廿八日の刻銘がある	覚園寺	神奈川県鎌倉市二階堂	神奈川県鎌倉市二階堂
十九	覚園寺開山塔	一基	石造宝篋印塔 正慶元年壬申仲秋廿七日の刻銘がある	覚園寺	神奈川県鎌倉市二階堂	神奈川県鎌倉市二階堂
十八	鶴岡八幡宮大鳥居	一基	石造明神鳥居 柱に寛文八年戊申八月十五日の刻銘がある	鶴岡八幡宮	神奈川県鎌倉市乱橋材木座	神奈川県鎌倉市乱橋材木座
十七	極楽寺忍性塔	一基	石造五輪塔	極楽寺	神奈川県鎌倉市極楽寺	神奈川県鎌倉市極楽寺
十六	旧燈明寺三重塔	一基	三間三重塔婆、本瓦葺	財団法人三溪園保勝会	神奈川県横浜市中区本牧三ノ谷二八五番地	神奈川県横浜市中区本牧三ノ谷二八五番地
十五	旧東慶寺仏殿	一棟	桁行三間、梁間三間、一重、こし附、寄棟造、茅葺、こしこけら葺	財団法人三溪園保勝会	神奈川県横浜市中区本牧三ノ谷二八五番地	神奈川県横浜市中区本牧三ノ谷二八五番地
十四	聰秋閣	一棟	一階上の間、次の間。二階二畳及び階段室より成る、二重、上重寄棟造、下重入母屋造、総こけら葺	財団法人三溪園保勝会	神奈川県横浜市中区本牧三ノ谷二八五番地	神奈川県横浜市中区本牧三ノ谷二八五番地
十三	本門寺五重塔	一基	三間五重塔婆、一重・二重本瓦葺、三重以上瓦葺銅板葺竹の間、檜扇の間及び三面の縁より成る、一重、入母屋造、檜皮葺、庇こけら葺	本門寺	東京都大田区池上本町	東京都大田区池上本町
十二	本門寺五重塔	一基	三間五重塔婆、一重・二重本瓦葺、三重以上瓦葺銅板葺竹の間、檜扇の間及び三面の縁より成る、一重、入母屋造、檜皮葺、庇こけら葺	本門寺	神奈川県横浜市中区本牧三ノ谷二八五番地	神奈川県横浜市中区本牧三ノ谷二八五番地
十一	円融寺本堂	一棟	桁行三間、梁間四間、一重、入母屋造、銅板葺	円融寺	東京都目黒区碑文谷	東京都目黒区碑文谷

重要無形文化財指定保持者認定一覧

(昭和三十三年六月一日現在)

、各個指定 (四二件、五〇名)

(一) 藝能の部 (二六件、二〇名)

略

(二) 工芸技術の部 (二六件、三〇名)

重要無形文化財	名称	重要無形文化財の保持者			指定年月日
		氏名	藝名雅号等	生年月日	
鉄釉陶器	石黒宗磨	明治 三、四、四	京都府京都市左京区 八瀬近衛町七一四	三、二、五	
	志野	明治 七、三、三	岐阜県可児郡可児町 久々利大萱	三、四、四	
瀬戸黒	荒川豊蔵	明治 七、三、三	岡山県和気郡備前町 伊部一五三一	三、二、五	
備前焼	金重 勇 金重陶陽	明治 元、一、三	栃木県芳賀郡益子町 益子三三八七	三、二、五	
民藝陶器	浜田象二	明治 七、三、九	京都府京都市上京区 新烏丸町頭町一七一	三、四、四	
色絵磁器	富木憲吉	明治 元、六、五	京都府京都市上京区 新烏丸町頭町一七一	三、二、五	
	喜多川平郎	明治 三、七、五	京都市中津町一九	三、四、四	
唐組	深見重助	明治 八、三、六	京都市通鳥丸西入ル 中出水町四〇〇	三、四、四	
友禪	上野為二	明治 三、四、六	京都府京都市中京区 猪熊通三条上ル姉猪 熊町三一五	三、五、三	
	木村文二	明治 二、三、三	石川県金沢市横山町 二番丁三四	三、五、三	
友禪	中村勝馬	明治 七、九、八	東京都渋谷区代々木 大山町一、〇四六	三、四、四	
	芹沢銈介	明治 三、八、三	東京都大田区女塚二 ノ三三三	三、四、四	

重要無形文化財指定保持者認定一覧

江戸小紋	小宮定吉	明治 五、九、九	東京都葛飾区上平井 町二七七一	三、二、五
長板中形	清水幸太郎	明治 三、一、六	東京都葛飾区西篠原 町一	三、二、五
伊勢型紙突彫	南部芳松	明治 七、九、〇	三重県鈴鹿市寺家町 二八〇四	三、二、五
彫	児玉 博	明治 四、一〇、三	三重県鈴鹿市白子町 築地六一七三	三、二、五
	六谷紀久男	明治 四、二、五	三重県鈴鹿市寺家町 二八九五	三、二、五
錐彫	中島秀吉	明治 六、四、四	三重県鈴鹿市寺家町 二六六九	三、二、五
	中村勇二郎	明治 三、九、〇	三重県鈴鹿市寺家町 二五五一	三、二、五
道具彫	城之口みえ	大正 六、一、二	三重県鈴鹿市白子町 山中町六五〇五	三、二、五
	千葉あやの	明治 三、二、四	宮城県栗原郡栗駒町 文字下文字下鍛冶屋 九八	三、二、五
糸入れ	甲田栄佑	明治 三、七、〇	宮城県仙台市長町北 町一〇三	三、二、五
精好仙台平	松田権六	明治 元、四、〇	東京都文京区宮下町 六五	三、二、五
	高野重人	明治 三、五、二	東京都文京区原町一 二六	三、二、五
詩	高野松山	明治 三、六、二	東京都文京区駒込 分町九二	三、二、五
	音丸芳雄	明治 三、二、一〇	石川県輪島市河井町 一部一三六	三、二、五
影	音丸耕堂	明治 三、三、九	香川県高松市西浜新 町四九六	三、二、五
	磯井雪枝	明治 元、三、〇	石川県金沢市長町五 番丁六四	三、二、五
沈	磯井如真	明治 三、四、四	愛媛県松山市道後石 手一	三、二、五
	魚住為楽	明治 三、二、二	東京都台東区上野核 木町五四	三、二、五
薬	龍王子貞次	明治 三、八、三	東京都品川区五反田 五ノ七八	三、二、五
	平田恒雄	明治 三、八、三		三、二、五
日本刀	高橋金市	明治 三、八、三		三、二、五
	山田松枝	明治 三、八、三		三、二、五
衣裳人形	柳女	明治 三、八、三		三、二、五
	平田郷陽	明治 三、八、三		三、二、五

重要無形文化財指定保持者認定一覧

二、総合指定（五件）

- (一) 藝能の部（二件）
- 略
- (二) 工芸技術の部（三件）

重要無形文化財		重要無形文化財の保持者	
名称	要件	保持者（代表者）の氏名	藝名所属する機関又は団体 年月日
越後縮	一、苧麻を手りみした糸を使用すること。 二、緋模様をつける場合は、地台極文のほか、手くびりによること。 三、いざり機で織ること。 四、しぼとりをする場合は、湯もみ、足ふみによること。 五、さらしは、雪ざらしによること。	小野塚キイ（苧りみ） 小川よの（シ） 和田金蔵（緋つくり） 山口初治（シ） 目崎よし（いざり織） 一之谷たか（シ）	新潟県小千谷市小千谷公民館内 小千谷縮技術保存協会 三、 五、三
結城紬	一、使用する糸は、すべて真綿より手つむぎしたものとし、強撚糸を使用しないこと。 二、緋模様を付ける場合は、手くびりによること。 三、いざり機で織ること。	大里ふく（糸つむぎ） 大塚いせ（シ） 北村勘一（緋くびり） 今井五郎（シ） 北条きの（織） 増田かね（シ）	茨城県結城市結城一四四七 結城市役所内 本場結城紬技術保存会 三、 四、三
	一、手くびりによる緋糸を使用すること。	矢加部アキ（緋手くびり）	福岡県久留米市両替町

久留米緋	二、純正天然藍で染めること。 三、なけひの手織々機で織ること。	森山富吉（緋手くびり） 矢加部六郎（藍染） 森山富吉（藍染） 矢加部アキ（手織） 森山トヨノ（手織）	七六 久留米市教育委員会内 久留米かすり保存会 三、 三〇
------	------------------------------------	--	---

記録作成等の措置を講ずべきもの
として選択された無形文化財一覧

一、藝能の部

略

二、工芸技術の部

17	黄	八丈布	黄八丈技術保存会(東京)
16	丹	波布	丹波布技術保存会(兵庫)
15	有松	鳴海紋	愛知県技術保存会(愛知)
14	紫	根染・茜染	栗山文次郎(秋田)
13	上代	植物染	後藤貞像(京都)
12	白	石紙布	丹波立杭窯保存会(兵庫)
11	丹	波立杭窯	
10	瀬戸	丸窯	
9	青	磁	宇野宗斐(京都)
8	辰	砂	宇野宗斐(京都)
7	萩	焼	三輪休雪(山口)
6	織	部	坂倉新兵衛(山口)
5	上絵付(色鍋島)		今泉今右衛門(佐賀)
4	上絵付(黄地紅彩)		加藤土師(萌神奈川)
3	唐	津焼	中里太郎右衛門(佐賀)
2	祥	瑞門	川瀬竹春(神奈川)
1	柿	右衛門	酒井田柿右衛門(佐賀)

18	村	上堆朱	
19	存	清	
20	蒔	絵用具	
21	能	代春慶	
22	飛	驛春慶	
23	螺	鈿	
24	秋田	銀線細工	
25	布	目象嵌	

鈴	木	秋	湖(新潟)
板	垣	孝	(新潟)
香	川	宗	(香川)
小	宮	又兵衛	(東京)
石	岡	庄寿郎	(秋田)
飛驒	春慶	技術保存会	(岐阜)
片	岡	華	(江東)
伊	藤	徳太	(秋田)
高	坂	雄	(水田)
鹿	島	一	(谷東)

文化財保護委員会昭和31年度補助金交付一覽

昭和31年度補助金交付一覽

總 括 表

目	昭和31年度 補助額	備 考
1. 国宝其他建造物保存 修理費補助金	206,000,000	
2. 国宝其他宝物類保存 修理費補助金	14,000,000	
3. 日光二社一寺国宝其 他保存修理費補助金	25,650,000	
4. 平等院鳳凰堂建物保 存修理費補助金	9,000,000	
5. 藥師寺藥師三尊等保 存修理費補助金	5,900,000	
6. 史跡名勝天然記念物 保存修理費補助金	9,288,500	
7. 常磐公園保存修理費 補助金	8,680,000	
8. 国宝其他防災施設費 補助金	33,814,000	
a 建造物防災施設	22,693,000	
b 宝物類防災施設	1,272,000	
c 宝物類保存施設	5,546,000	
d 史跡名勝天然記 念物防災施設	237,000	
e 史跡名勝天然記 念物保存施設	2,422,000	
f 埋藏文化財保存 施設	1,644,000	
9. 興福寺収蔵庫建設費 補助金	9,400,000	
10. 無形文化財助成金	2,470,000	
計	324,202,500	

文化財保護委員会昭和三十一年度補助金交付一覽

1. 国宝重要文化財建造物保存修理費補助金

番号	府県別	種別	名 称	所 在	補 助 額	備 考
1	青 森	重文	弘前城北門及未申櫓	弘前市白銀町揚鷹公園内	2,170,000	
2	宮 城	シ	瑞巖寺庫裡廻廊 外3件	宮城郡松島町	8,600,000	
3	シ	国宝	大崎入幡神社社殿	仙台市八幡町	280,000	
4	シ	重文	東照宮本殿、唐門、透塀	仙台市北六番町 323	600,000	
5	山 形	シ	観音寺観音堂	西置賜郡白鷹町深山	230,000	
6	福 島	国宝	白水阿弥陀堂	内郷市白水	333,000	
7	栃 木	重文	綱神社本殿 外1棟	芳賀郡益子町	2,160,000	
8	シ	シ	地藏院本堂	芳賀郡益子町	320,000	
9	シ	シ	円通寺表門	芳賀郡益子町	1,035,000	
10	茨 城	シ	入幡神社本殿(大宝)	真壁郡大宝村	378,000	
11	群 馬	シ	貫前神社本殿	富岡市一の宮	450,000	
12	埼 玉	シ	出雲伊波比神社本殿	入間郡毛呂山町	800,000	
13	東 京	シ	蔵有院靈廟勅額門	台東区上野桜木町 10	3,240,000	
14	シ	シ	根津神社本殿、幣殿、拜殿裝飾工事	文京区根津須賀町	2,738,000	
15	シ	シ	根津神社本殿、幣殿	文京区根津須賀町	3,546,000	
16	シ	シ	金剛寺不動堂	南多摩郡七生村高幡	800,000	
17	神奈川	シ	三溪園第二期工事臨春閣第1.2屋 外2棟	横浜市中区本牧三之谷	6,120,000	
18	福 井	国宝	明通寺三重塔	小浜市門前	8,260,000	
19	山 梨	重文	雲峰寺庫裡	塩山市上萩原	6,320,000	
20	シ	シ	塩沢寺地藏堂	甲府市湯村町	4,200,000	
21	長 野	シ	新海三社神社三重塔	南佐久郡田口村	245,000	
22	シ	国宝	大法寺三重塔	小県郡浦里村	658,000	
23	シ	重文	葛山落合神社本殿	長野市大字入山	400,000	
24	岐 阜	シ	日竜峯寺塔婆	武儀郡武儀村	949,000	
25	シ	シ	新長谷寺鎮守堂及薬師堂	関市長谷寺町	800,000	
26	愛 知	シ	甚目寺三重塔	海部郡甚目寺町	2,600,000	
27	シ	シ	竜泉寺仁王門	守山市吉根	4,300,000	
28	シ	シ	源敬公廟宝蔵	東春日井郡品野町	294,000	
29	シ	シ	東照宮社殿	南設楽郡鳳来寺町門谷	2,240,000	
30	シ	シ	大国霊神社楼門	中島郡稻沢町大字国府宮	800,000	
31	シ	シ	甚目寺東門	海部郡甚目寺町	1,360,000	
32	三 重	シ	地藏院護摩堂	鈴鹿郡関町	2,780,000	
33	滋 賀	シ	延暦寺釈迦堂	大津市坂本本町	12,000,000	
34	シ	シ	彦根城天秤櫓及太鼓門	彦根市金亀町	6,320,000	
35	シ	国宝 重文	園城寺毘沙門堂及勸学院客殿	大津市園城寺町	780,000	
36	シ	重文	長寿寺辨天堂	甲賀郡石部町	1,280,000	
37	シ	国宝 重文	苗村神社東西本殿	蒲生郡竜王町	1,400,000	
38	シ	重文	円光寺本堂	野洲郡野洲町	800,000	
39	シ	シ	日吉大社摂社樹下神社及白山姫神社本殿	大津市坂本本町	800,000	
40	シ	シ	彦根城天守付櫓及多聞櫓	彦根市金亀町	2,000,000	
41	シ	シ	篠津神社表門	大津市膳所中津町	100,000	
42	京 都	シ	教王護国寺灌頂院及四脚門	京都市下京区四ツ塚通大宮	9,000,000	

番号	府県別	種別	名 称	所 在	補 助 額	備 考
43	京 都	国宝	醍 醐 寺 五 重 塔	京都市伏見区醍醐伽藍町1	10,230,000	
44	〃	〃	二条城二の丸御殿	京都市中京区二条通	4,750,000	
45	〃	重文	東 福 寺 二 王 門	京都市東山区本町通 15 の 778	2,700,000	
46	〃	〃	白 山 神 社 本 殿	相楽郡加茂町大字岩船	1,260,000	
47	〃	〃	三 千 院 本 堂	京都市左京区大原百井町	1,428,000	
48	〃	〃	愛 宕 念 仏 寺 本 堂	京都市右京区嵯峨鳥居本深谷	737,000	
49	〃	国宝	平 等 院 鳳 凰 堂	宇治市宇治蓮華	1,770,000	
50	〃	重文	本 願 寺 書 院	京都市下京区堀川通花屋町	800,000	
51	〃	〃	玉鳳院開山堂及四脚門	京都市右京区花園妙心寺町	720,000	
52	大 阪	〃	積 川 神 社 本 殿	岸和田市積川町	4,920,000	
53	兵 庫	〃	朝 光 寺 鐘 楼	加東郡社町畑	870,000	
54	〃	〃	弥 勤 寺 本 堂	飾磨郡夢前町	2,840,000	
55	〃	〃	如意寺文珠堂及阿弥陀堂	神戸市垂水区木戸谷町谷口	800,000	
56	〃	国宝	浄 土 寺 浄 土 堂	小野市浄谷町	800,000	
57	奈 良	重文	元興寺極楽坊東門	奈良市中院町	2,906,000	
58	〃	〃	法華寺鐘楼及南門	奈良市法華寺町	900,000	
59	〃	〃	正 蓮 寺 大 日 堂	橿原市小綱	4,744,000	
60	〃	〃	東大寺廻廊及中門	奈良市雑司町	2,400,000	
61	〃	〃	法 隆 寺 東 室	生駒郡斑鳩町	2,000,000	
62	〃	〃	唐 招 提 寺 宝 蔵	奈良市五条町	2,070,000	
63	〃	国宝	当麻寺本堂(曼荼羅堂)	北葛城郡当麻村	1,075,000	
64	〃	重文	手向山神社宝庫及住吉神社本殿	奈良市雑司町手向山	540,000	
65	和歌山	〃	東 照 宮 社 殿	和歌山市和歌浦	800,000	
66	鳥 取	〃	不 動 院 岩 屋 堂	八頭郡若桜町	2,450,000	
67	〃	〃	樗 谿 神 社 社 殿	鳥取市上町	2,090,000	
68	鳥 根	〃	清 水 寺 本 堂	安来郡清水町	800,000	
69	岡 山	重文	岡 山 城 月 見 櫓	岡山市山下	766,000	
70	〃	国宝	吉備津神社本殿拜殿 外1棟	吉備郡真金町	5,150,000	
71	〃	重文	本 蓮 寺 本 堂	邑久郡牛窓町牛窓 31 の 4	800,000	
72	広 島	国宝 重文	厳 島 神 社 (31年度)	佐伯郡宮島町	4,320,000	
73	山 口	重文	月 輪 寺 薬 師 堂	佐波郡徳地町	5,200,000	
74	香 川	〃	高松城月見櫓 外2棟	高松市内町	4,474,000	
75	〃	〃	屋 島 寺 本 堂	高松市屋島町	369,000	
76	愛 媛	〃	祥 雲 寺 観 音 堂	越智郡岩城村	2,940,000	
77	高 知	〃	高知城第二期工事廊下 門、詰門、東多聞	高知市丸の内	7,320,000	
78	〃	〃	鳴 無 神 社 社 殿	須崎市浦の内	3,700,000	
79	徳 島	〃	丈 六 寺 三 門 及 観 音 堂	徳島市丈六寺町	4,000,000	
80	福 岡	〃	宮 崎 宮 拜 殿 及 楼 門	福岡市箱崎町	1,000,000	
81	熊 本	〃	青 井 阿 蘇 神 社 社 殿	人吉市青井町	3,900,000	
82	〃	〃	六 殿 神 社 楼 門	下益城郡富合村	175,000	
			計		206,000,000	

2. 国宝其他宝物類保存修理費補助金

番号	府 県	所 有 者	名 称	所 在 地	種別	補助額	備考
1	岩 手	毘沙門堂	木造毘沙門天立像2鬼	和賀郡土沢町	彫	595,000	
2	〃	〃	木造伝吉祥天立像	〃	〃	97,000	
3	福 島	心清水八幡神社	塔寺八幡宮長帳	河沼郡会津坂下町	書	266,000	
4	福 井	大 谷 寺	木造不動明王立像	丹生郡朝日町	彫	50,000	
5	静 岡	本 興 寺	紺紙金字法華經	浜名郡鷺津町	書	209,000	
6	〃	修 福 寺	大般若經	賀茂郡南伊豆町	〃	285,000	
7	〃	本 門 寺	細字法華經	富士郡芝富村	〃	53,000	
8	三 重	金 剛 證 寺	太 刀	宇治山田市	工	46,000	
9	滋 賀	聖衆来迎寺	絹本着色六道絵	大津市下坂本比叡辻町	絵	546,000	
10	〃	石 山 寺	俱舍論記外	〃 石山寺辺町	書	676,000	
11	京 都	金戒光明寺	山越阿弥陀像及び地獄極楽図	京都市左京区黒谷町	絵	112,000	
12	〃	北野天満宮	紙本着色北野天神縁起	京都市上京区今出川通千本東入ル	〃	542,000	
13	〃	西 本 願 寺	国宝紙本墨画親鸞聖人像 附絹本着色親鸞聖人像 絹本着色善信上人絵伝	京都市下京区堀川花屋町	〃	190,000	
14	〃	天 龍 寺	絹本着色雲門大師像 絹本着色清涼法眼禪師像	京都市右京区嵯峨天竜寺芒ノ馬場町	〃	95,000	
15	〃	妙 法 院	木造千手観音立像	京都市東山区東大路通	彫	2,033,000	
16	〃	善 願 寺	木造地藏菩薩坐像	京都市伏見区醍醐南里町	〃	186,000	
17	〃	広 隆 寺	木造千手観音坐像	京都市右京区太秦峰岡町	〃	311,000	
18	〃	清 涼 寺	木造釈迦如来立像納入品	京都市右京区嵯峨藤木町	〃	697,000	
19	〃	教王護国寺	木造不動明王坐像	京都市下京区九条町	〃	123,000	
20	〃	〃	国宝建陀袈裟袈裟横被	〃	工	233,000	
21	〃	仁 和 寺	宝珠翫磨文錦横被	京都市下京区御室大内	〃	68,000	
22	〃	藤 森 神 社	紫糸威燈	京都市伏見区深草鳥居崎町	〃	152,000	
23	〃	陽 明 文 庫	猪熊関白記	京都市右京区宇多野上ノ谷町	書	427,000	
24	〃	東 福 寺	東福寺所伝宋拓碑文	京都市東山区本町通東福寺	〃	104,000	
25	大 阪	久 米 田 寺	絹本着色仁王經曼荼羅図 絹本着色安東蓮聖像	岸和田市池尻町	絵	112,000	
26	〃	観 心 寺	木造如意輪観音坐像	河内長野市	彫	124,000	
27	〃	金 剛 寺	腹巻伝楠氏所用	〃	工	286,000	
28	〃	〃	野辺雀詩絵手箱	〃	〃	144,000	
29	兵 庫	文 常 寺	木造聖観音立像	豊岡市鎌田	彫	43,000	
30	〃	多 聞 寺	木造毘沙門天立像	神戸市	〃	103,000	
31	〃	鶴 林 寺	木造天蓋	加古川市	〃	49,000	
32	〃	光 久 寺	木造不動明王立像	宍粟郡安富町	〃	49,000	
33	奈 良	東 大 寺	石造獅子	奈良市雑司町	〃	203,000	
34	和歌山	熊野速玉神社	国宝古神宝類内装束	新宮市	工	400,000	
35	〃	金 剛 峯 寺	国宝 金銀字一切経(中尊寺経)	伊都郡高野町	書	538,000	
36	〃	〃	町石建立願文外	伊都郡高野町	書	34,000	
37	〃	龍 光 院	註仁王般若経外	〃	〃	74,000	
38	広 島	厳 島 神 社	国宝・平家納経	佐伯郡宮島町	絵	791,000	
39	香 川	屋 島 寺	木造千手観音坐像	高松市	彫	158,000	
40	〃	正 花 寺	木造菩薩立像	香川郡円座村	〃	128,000	
41	〃	聖 通 寺	木造千手観音立像	綾歌郡宇多津町	〃	157,000	
42	〃	堂 床 区	木造十一面観音立像	〃 綾南町	〃	179,000	

番号	府 県	所 有 者	名 称	所 在 地	種 別	補 助 額	備 考
43	香 川	根 香 寺	木造千手観音立像	香川郡下笠居村	彫	164,000	
44	愛 媛	浄 土 寺	木造空也上人立像	松山市	彫	138,000	
45	〃	大 山 祇 神社	赤糸威胴丸鎧外	越智郡大三島町	工	418,000	
46	高 知	小 村 神社	金銅装環頭大刀	高岡郡日高村	工	59,000	
47	〃	金 剛 頂 寺	金銅旅壇具	安芸郡室戸町	工	118,000	
48	福 岡	無 量 寺	木造阿弥陀如来立像	久留米市本町	彫	106,000	
49	〃	専 念 寺	木造阿弥陀如来立像	三井郡草野町	彫	86,000	
50	〃	大 悲 王 院	木造千手観音立像	糸島郡前原町	彫	553,000	
51	〃	〃	木造清賀上人坐像	〃	工	93,000	
52	〃	鈴 熊 寺	木造薬師如来坐像	築上郡新吉富村	工	36,000	
53	〃	観 世 音 寺	木造阿弥陀如来坐像	筑紫郡太宰府町	工	139,000	
54	〃	桂 川 町	王塚古墳出土品	嘉穂郡桂川町	考	250,000	
55	〃	宗 像 神社	経石 正面阿弥陀如来立像 背面阿弥陀経	宗像郡玄海町田島	工	172,000	
			計			14,000,000	

3. 日光二社一寺国宝其他保存修理費補助金

県 別	名 称	所 在 地	補 助 額	備 考
栃 木	二 荒 山 神社	日光市山内	4,311,000	
〃	東 照 宮	〃	10,665,000	
〃	輪 王 寺	〃	10,674,000	
	計		25,650,000	

4. 平等院鳳凰堂建物保存修理費補助金

県 別	名 称	所 在 地	補 助 額	備 考
京 都	平 等 院 鳳 凰 堂	宇治市	9,000,000	

5. 薬師寺薬師三尊等保存修理費補助金

県 別	名 称	所 在 地	補 助 額	備 考
奈 良	薬 師 寺 薬 師 三 尊 等	奈良市西ノ京町	5,900,000	

6. 史跡名勝天然記念物保存修理費補助金

番号	県 別	種 別	名 称	所 在 地	補 助 額	備 考
1	北 海 道	特 史	五 稜 郭 跡	函館市	988,500	
2	福 島	名 史	会 津 松 平 氏 庭 園	会津若松市	100,000	
3	栃 木	特 史 特 天	日 光 杉 並 木 街 道	日光市	300,000	
4	千 葉	史	大 原 幽 学 遺 跡	香取郡干潟町	200,000	
5	岐 阜	〃	高 山 陣 屋 跡	高山市	300,000	
6	静 岡	特 史	新 居 関 跡	浜名郡新居町	400,000	
7	〃	史	菫 山 反 射 炉	田方郡菫山村	250,000	
8	三 重	名・史	北 畠 氏 館 跡 庭 園	一志郡美杉村	200,000	
9	滋 賀	史・名	彦 根 城 跡 玄 宮 楽 々 園	彦根市	500,000	

番号	県別	種別	名称	所在地	補助額	備考
10	京都	名	涉成園	京都市下京区烏丸通七条上ル常葉町	1,950,000	
11	〃	史・名	大徳寺方丈庭園	〃 上京区紫野大徳寺町	200,000	
12	〃	名	本願寺大書院庭園	〃 下京区本願寺門前町	50,000	
13	大阪	特史	大坂城跡	大阪市	1,000,000	
14	兵庫	〃	姫路城跡	姫路市	800,000	
15	〃	特天	玄武洞	豊岡市	200,000	
16	広島	特史	廉塾及菅茶山旧宅	深安郡神辺町	400,000	
17	山口	史・名	常栄寺庭園	山口市	750,000	
18	熊本	特史	熊本城跡	熊本市	700,000	
			計 18 件		9,288,500	

7. 常磐公園保存修理費補助金

県別	名称	所在地	補助額	備考
茨城	常磐公園	水戸市	8,680,000	*

昭和32年度へ繰越(補助額 2,678,650円)

8. 国宝其他防災施設費補助金

a (建造物防災施設)

番号	県別	名称	所在地	補助額	備考
1	岩手	中尊寺	西磐井郡平泉町	3,500,000	
2	栃木	二荒山神社	日光市山内	690,000	
3	〃	東照宮	〃	3,140,000	
4	〃	輪王寺	〃	2,920,000	
5	群馬	薬師堂(宗本寺)	吾妻郡中之条町	500,000	
6	埼玉	喜多院	川越市	300,000	
7	東京	寛永寺	台東区上野桜木町	200,000	
8	京都	二条城	京都市	1,000,000	
9	兵庫	円教寺	姫路市書写	100,000	
10	奈良	元興寺極楽坊	奈良市中院町	476,000	
11	〃	法起寺	生駒郡斑鳩町	120,000	
12	島根	松江城	松江市	3,627,000	
13	広島	蔵島神社	佐伯郡宮島町	3,120,000	
14	愛媛	松山城	松山市	3,000,000	
		小計		22,693,000	

b (宝物類防災施設)

番号	県別	名称	所在地	補助額	備考
1	長野	牛伏寺	東筑摩郡片丘村	274,000	
2	京都	円隆寺	舞鶴市引土町	200,000	
3	奈良	岡寺	高市郡高市村	248,000	
4	〃	石上神宮	天理市	200,000	
5	高知	大乘院	高岡郡佐川町	350,000	
		小計		1,272,000	

c (宝物類保存施設)

番号	県別	名称	所在地	補助額	備考
1	宮城	陽山寺	牡鹿郡牡鹿町	400,000	
2	神奈川	影向寺	川崎市野川	242,000	
3	新潟	茂林寺	中蒲原郡小須戸町	300,000	
4	山梨	仁勝寺	甲府市	300,000	
5	三重	長隆寺	上野市	300,000	
6	シ	多度神社	桑名郡多度村	58,000	
7	和歌山	熊野速玉神社	新宮市	1,416,000	
8	広島	千代田町	山県郡千代田町	300,000	
9	香川	堂床区	綾歌郡綾南町	300,000	
10	シ	正花寺	香川郡円座村	300,000	
11	シ	香西寺	シ香西町	300,000	
12	高知	竹林寺	高知市五台山	700,000	
13	福岡	南林寺	朝倉郡朝倉村	200,000	
14	シ	西光寺	早良郡早良村	430,000	
		小計		5,546,000	

d (史跡名勝天然記念物防災施設)

番号	県別	名称	所在地	補助額	備考
1	大分	威宣園	日田市	237,000	
		小計		237,000	

e (史跡名勝天然記念物保存施設)

番号	県別	名称	所在地	補助額	備考
1	北海道	阿寒湖のマリモ	阿寒郡阿寒村	200,000	
2	シ	釧路のタンチヨウ及びその繁殖地	釧路郡釧路村、川上郡標茶村、阿寒郡阿寒村	50,000	
3	岩手	根反の大砒化木	二戸郡浪打村	100,000	
4	福島	馬場桜	安達郡大玉村	60,000	
5	新潟	菖蒲塚古墳	西蒲原郡巻町	50,000	
6	山梨	躰原レンゲツツジ及びフジザクラ群落	山梨県	100,000	
7	長野	小野村のシダレグリ自生地	上伊那郡小野村	80,000	
8	静岡	遠江国分寺跡	磐田市	100,000	
9	シ	白糸の滝	富士郡上井出村	100,000	
10	三重	本居宣長旧宅跡本居宣長墓(山室山)	松坂市	60,000	
11	シ	鬼ヶ城暖地性羊歯群落	度会郡南勢町	100,000	
12	京都	名勝虫害防止	京都府、市	100,000	
13	大阪	いたすけ古墳	堺市	100,000	
14	シ	二子塚古墳	南河内郡太子町	112,000	
15	奈良	石舞台古墳	高市郡高市村	400,000	
16	シ	東大寺旧境内	奈良市手貝町	100,000	
17	島根	玉若酢命神社八百杉	周吉郡西郷町	50,000	
18	山口	八代村のツル及びその渡来地	熊毛郡熊毛町	50,000	

番号	県別	名称	所在地	補助額	備考
19	愛媛	与力松	温泉郡小野村	60,000	
20	高知	土佐のオナガドリ	高知県一円	50,000	
21	宮崎	湯ノ宮の座論梅	児湯郡新田村	100,000	
22	シ	南方古墳群	延岡市	100,000	
23	鹿児島	鹿児島県のツル及びその渡来地	出水市、阿久根市、出水郡、江内村、高尾野町	100,000	
24	シ	蘭牟田池泥炭形成植物群落	薩摩郡那答院町	100,000	
		小計		2,422,000	

f (埋蔵文化財保存施設)

番号	県別	名称	所在地	補助額	備考
1	千葉	金鈴塚	木更津市	570,000	
2	愛知	吉胡貝塚	渥美郡田方町	504,000	
3	シ	古窯跡群	愛知県一円	570,000	
		小計		1,644,000	
		計 61 件		33,814,000	

9. 興福寺収蔵庫建設費補助金

県名	名称	所在地	補助額	備考
奈良	興福寺	奈良市登大路町	9,400,000	

10. 無形文化財助成金

番号	府県	名称	交付先	補助額	備考
1	東京	(藝能) 能楽 (伝承者養成)	能楽三役養成会	450,000	
2	大阪	文楽 (シ)	因会・三和会	500,000	
3	岐阜	(工藝) 瀬戸黒技術記録製作	多治見市教育委員会	100,000	
4	三重	伊勢型紙 (伝承者養成)	伊勢型紙業組合	300,000	
5	香川	蒔繪・存清 (シ)	香川県教育委員会	700,000	
6	東京	(公開) 文楽 (合同公演)	財団法人演劇研究会	75,000	
7	シ	郷土芸能	シ 日本青年館	100,000	
8	シ	日本伝統工芸	社団法人日本工芸会	170,000	
9	大阪	文楽 (合同公演)	藝術祭文楽合同公演実行委員会	75,000	
		計		2,470,000	

昭和三二年度、国立美術館、博物館新収品目録

国立近代美術館

絵画 (洋画)	ノートルダムとサンミッシェル橋	大一二	石井柏亭
	バーナード・リーチ	大二	岸田劉生
	花像	昭二四	兒島善三郎
	雪柳と海芋と波斯の壺	昭三一	小山敬三
	薄暮の橋 於スペイン、トレド	昭二	高橋由一
	雪山景	昭四	鳥海青兒
	山鳥	昭二八	東郷青兒
	畑	昭二八	富田温一郎
	サルタンバンク	大一五	中村彝
	子供とその母	昭三	野口弥太郎
	田中館博士像	大五	福沢一郎
	エロシエンコ像	大九	本多錦吉郎
	踏	昭三一	村山槐多
	いれずみの男	昭三一	安井曾太郎
	観梅	昭三一	山口薫
	バラと少女	大六	山下新太郎
	自画像	昭三九	山本芳翠
	田園詩	昭三一	
	窓	昭三一	
	エデンの園	昭四一	

東京国立博物館

絵画 (日本画)	少	女 昭三一	小倉遊亀
	渥	菊 昭八	菊池契月
	麦	振 昭一二	杉山寧
	孔	雀 昭三一	谷口露山
	雪	景 昭一七	橋本関雪
	防	空 昭一七	安田靉彦
	日	食 大一四	渡辺省亭
	雪中鴛鴦之図	明四二	
版画	日本の版画集	海老原喜之助ほか二名	
	巴	里 昭三一	浜口陽三
	モンスリー公園	昭三一	南桂子
	呪術者	昭三一	吉田穂高
彫刻	馬	新海竹太郎	
	ゆあみ (ブロンズ)	明四〇	
	女	昭三一	木内克
工芸	金象篋みづく香炉	香取秀真	
	木 兎 香 炉	北大路魯山人	
	信 楽 盤		
絵画	耕織図屏風 紙本淡彩 久隅守景筆	六曲 江戸時代	
	源氏物語図屏風 紙本金地著色	六曲一雙 江戸時代	
	松竹梅図屏風 紙本金地著色 立林何岸筆	二曲一雙 江戸時代	
	農夫図屏風 紙本著色 渡辺始興筆	二曲 江戸時代	
	帝鑑図屏風 紙本金地押絵貼	二二枚 江戸時代	
		六曲一雙 桃山時代	

書跡

足利尊氏願經	五帖	南北朝時代
程周卜書額字	一卷	清時代
篆体正變	一帙二册(中井敬所書入本)	
六書通檢字	一册(中井敬所書入本)	
河田文所刻印	九方十面	
関戸本和漢朗詠集切	一幅	平安時代
仏説弥勒成仏經	一卷	奈良時代
古銅印	一四九個	
彫刻		
戸張孤雁氏像(石膏原型)	萩原守衛作	
戸張孤雁氏像(銅製)	一点 近代	
鑄造者(石膏原型の型抜き)	伊藤忠雄	
釈迦如来倚像(石膏着色)	一軀	
原型は(重文) 深大寺金銅像(奈良時代)		
型拔者	長谷秀雄	
金工		
銅製水滴	七一個	
銅製根付	七四個	
刀劍		
太刀銘千手院	一口	
陶磁		
色繪琴高仙図鉢	伊万里	一個
絵袖獸足壺	唐時代	一個
瓦製獅子	琉球製	一個
青磁獸形注器	六朝時代	一個
染織		
スムバ島イカト織	一枚	
右同	一枚	
チモール島イカト	一枚	
織		
陸尺看板	一領	
菊流水模小袖裂	一枚	江戸時代
(宝永銘)		

第一二回日本美術展覧会出品、入選、陳列点数表

科 別	一般申込	無 鑑 査	総申込数	入 選 数	内新入選	陳 列 總 数
日 本 画	628	87	715	256	26	掛替48を含め て 343
西 洋 画	1,889	198	2,087	640	152	838
彫 塑	257	91	348	179	18	270
美 術 工 藝	778	125	903	309	49	434
書	1,350	67	1,417	523	173	掛替149を含め て 590
計	4,902	568	5,470	1,907	418	2,475

入選、陳列点数表

第一二回日本美術展覧会審査員一覽

〇印 審査員長
〇印 審査主任

- 第一科(日本画) 〇(院長)高橋誠一郎
 (会)小野竹喬
 (会)堂本印象
 (会)中村岳陵
 (会)野田九浦
 (会)宇田萩邨
 (会)堅山南風
 (会)金島桂華
 (会)兒玉希望
 (会)望月春江
 (会)麻田辨次
 (会)杉山寧
 (会)高山辰雄
 (会)浜田辰観
 (会)東山魁夷
 (会)矢野鉄山
- 第二科(西洋画) 〇(会)有島生馬
 (会)石井柏亭
 (会)川島理一郎
 (会)辻島永
 (会)中沢弘光
 (会)中村研一
 (会)山下新太郎
 (会)山下新太郎
 (会)大久保作次郎
 (会)木下孝則
- 第三科(彫塑) 〇(会)小糸源太郎
 (会)小藤敬三
 (会)斎藤与里
 (会)佐竹徳
 (会)鈴木千久馬
 (会)耳野卯三郎
 (会)三上知治
 (会)伊藤清永
 (会)河井清一
 (会)田中繁吉
 (会)田村一男
 (会)中村琢二
 (会)村中琢二
 (会)榎原健三
 (会)西山真茂
 (会)森田真茂
- 第四科(美術工藝) 〇(会)橋本高昇
 (会)宮本光庸
 (会)山畑阿利一
 (会)岩田藤七
 (会)高村豊周
 (会)松田権六
 (会)各務敏三
 (会)河村蜻山
 (会)二橋美衡
 (会)山崎覚太郎
 (会)山崎清華
 (会)山鹿清華
 (会)吉田源十郎
 (会)伊東陶山
 (会)井上良齋
 (会)長野堙志
 (会)三井阿蘇夫
 (会)山崎立山
 (会)山脇洋二
- 第五科(書) 〇(会)松本芳翠
 (会)生井龍華
 (会)印南溪
 (会)桑田篁石
 (会)小坂奇舟
 (会)近藤秋篁
 (会)津金雀堂
 (会)中村春仙
 (会)梅村舒適
 (会)日比野五鳳
 (会)山崎節堂
 (会)尾上柴舟
 (会)豊道春海
 (会)石井雙石
 (会)川村雙石
 (会)鈴木翠軒
 (会)辻本史邑

各大学美術関係講義題目

〔国立〕

岩手大学

〔文学部〕「西洋美術史」「日本美術史」「美術工芸史」
 教授森口多里、「美学」助教千葉運孝、「美術理論」講
 師田辺彦太郎、「考古学概説」「考古学実習」助教草間
 俊一

東北大学

〔文学部美学美術史学科〕「西洋美術史講義(二〇世紀
 の絵画)」西洋美術史演習、B.Berenson: Aesthetics
 and History「美学演習」、H.Read: Philosophy of
 Modern Art」教授村田潔、「美学概論」「美学特殊講
 義(現代美学の問題)」「美学演習(美学史)」「美学講義、
 Hegel: Aesthetic」助教西田秀穂、「美学特殊講義
 (藝術と技術)」講師竹内敏雄、「音楽論及び音楽史」
 〔文学部東洋美術史学科〕「東洋美術史普通講義、日本
 美術史(奈良—平安時代)」「東洋美術史特殊講義、絵巻
 物」「東洋美術史演習、東洋の画論」教授亀田孜、「東洋
 美術史特殊講義、西域美術史」講師熊谷宣夫
 〔文学部考古学〕「考古学普通講義、日本考古学概
 説(古墳時代)」「考古学特殊講義、考古学研究法及び実
 習」講師伊東信雄

千葉大学

〔文学部〕「日本美術史、雪舟以後」講師橋崎宗重、
 「西洋美術史」講師三輪福松、「美学概論」講師神保常
 彦
 〔工学部工業意匠学科〕「造形概論」「造形演習」「近代

各大学美術関係講義題目

造形史」教授小池新二、「日本造形史」「西洋造形史」助
 教授福井晃一
 〔園藝学部造園学科〕「美学」「美術史」助教福井晃一

東京大学

〔文学部美学美術史学科〕「美学概論」「藝術の種類」
 「Hegel: Aesthetic」教授竹内敏雄、「Wolfflin:
 Kunstgeschichtliche Grundbegriffe」講師大成龍雄
 「西洋音楽史」講師野村良雄、「日本音楽史」講師吉川英
 七、「西洋中世美術史」B.Berenson: Italian Pain-
 ters of the Renaissance「美術史(西洋古代)」教授
 吉川逸治、「日本美術史概説(近世)」「日本美術史演習、
 テキスト講義、作品鑑賞」助教山根有三、「水墨画研
 究」教授米沢嘉圃、「日本上代絵画史研究」講師松本栄
 一

〔文学部考古学〕「考古学概論」「東亜古代の壁画」教
 授駒井和愛、「日本考古学」「考古学演習」講師八幡一
 郎、「野外考古学」助教関野雄、「西南アジア考古学」
 講師杉勇

東京学藝大学

〔学芸学部〕「日本美術史」「一般美術史」「美術鑑賞」
 「美学概説」教授中野勇、「西洋美術史」「西洋美術史特
 論」「美術鑑賞」「美術概説」教授久富貢

東京藝術大学

〔美術学部〕「美学一般」「美学特殊講義(美術史におけ
 る美学的問題)」教授村田良策、「考古学概論」教授藤田
 亮策、「西洋美術史概説」「西洋工芸史」「西洋美術史演
 習」教授新規矩男、「西洋美術史特殊講義(ルネッサンス
 絵画論)」「西洋美術史概説」教授摩寿意善郎、「日本美
 術史概説」「日本美術史演習」「日本画演習」教授脇本十
 九郎、「東洋美術史概説」「東洋美術史演習」「美術史特

殊講義(東洋絵画論)」教授谷信一、「人体美学A(人
 体)」「人体美学C(仏像等)」教授西田正秋、「美学概論」
 「美学演習」助教西本順、「工藝論」「東洋工芸史」助教
 教授前田泰次、「西洋美術史演習」「西洋美術史特殊講義
 (西洋一七・八世紀の絵画)」講師吉川逸治、「日本文様
 史」講師毛利登、「金工史」講師蔵田蔵、「漆工史」講師
 吉野富雄、「西洋建築史」講師蔵田周忠、「日本建築史」
 講師伊藤要太郎、「西洋美術史特殊講義(一七・八世紀
 のフランス美術)」講師山田智三郎

横浜国立大学

〔学芸学部〕「美学概論」「美学史概説」「美学美術史演
 習」「現代の美学」「東洋画論研究」助教山本正男、「西
 洋美術史」講師村田良策、「工藝理論」講師阿部公正、
 「書道史」藤原喜一

京都大学

〔文学部美学美術史学科〕「美学序論」「藝術作品と作
 風の問題」「美学美術史の諸問題」「美学研究上の諸問
 題」教授井島勉、「仏教美術の源流としてのインド美術
 の展開」教授上野照夫、「藝術における表現(主として
 言語表現の問題)」講師河本敦夫、「ゴシック美術」講師
 吉川逸治、「西洋古代美術史」講師新規矩男
 「考古学」「考古学五〇年」教授梅原末治、「東亜考古
 学の諸問題」教授梅原末治・助教有光教一、「朝鮮考
 古学の諸問題」考古学英書講義助教有光教一、「日
 本考古学の発達」考古学実習講師小林行雄、「中国考
 古学(漢六朝時代)」教授水野清一、「独乙語考古学書講
 義」教授長広敏雄、「日本先史時代土器の研究」講師山
 内清男

京都学藝大学

〔学芸学部〕「西洋美術史概説」「日本美術史概説」「美

術史特講、国宝「美術特講、ヴェルブリン研究」助教
中村二柄、「日本史特講、考古学」助教小江慶雄

京都工藝纖維大学

「工芸学部」 「美学概論」 「美学特論」 「西洋美術史」 「美
学演習Ⅰ、Ⅱ」 「工芸美学特論」 教授河本敦夫、「日本美
術史」 「美術史特論」 「東洋美術史」 「美術史演習Ⅰ、Ⅱ」
教授土居次義、「工芸美学」 「工芸史特論」 「西洋工芸史」
講師元并能、「建築史Ⅰ、Ⅱ」 「建築史各論Ⅰ、Ⅱ」 「建
築史演習」 教授藤原義一

神戸大学

「文学部藝術学科」 「藝術学概論(実証藝術学)」 「藝術
学特殊講義(蕉村の藝術)」 「藝術学演習(文心雕龍)」 「藝
術学講義」 「世界藝術史(ローマとオリエンツ)」 教授小
林太市郎、「日本美術史概説」 「日本水墨画論」 演習(本
朝画史) 「講義(宗湛日記)」 教授谷信一、「西洋美学史」
「藝術ジャンル論」 講師辻部政太郎、「ギリシャ悲劇論」
講師岩山三郎、「仏教藝術概論」 講師佐和隆研

九州大学

「文学部美学美術史学科」 「美術史論(西洋美術史)」
「美術史演習(東洋美術史)」 張彦遠・歴代名画記」 「美学
演習 Hegel: Vorlesungen über Aesthetik」 「中
国絵画史」 教授谷口鉄雄
「考古学」 「考古学から見た日韓文化の交渉」 「原始日
本の技藝」 「演習A(考古学研究法)」 「演習B(英国考古
学原書購読)」 助教鏡山猛

〔公立〕

金沢美術工芸大学

「東洋美術史」 教授秋山光夫、「西洋美術史」 教授板垣鷹

穂、「日本美術史」 講師田中一松、「西洋工芸史」 講師大
隅為三

京都市立美術大学

「日本美術史概説」 「美術史特講」 「日本美術史特講」 「日
本美術史演習」 「美学(作風論)」 教授佐和隆研、「西洋美
術史概説」 助教堀内正和、「東洋美術史概説A、B」
講師下店静市、「美術史概説」 講師上野照夫、「彫刻史
A、B」 講師毛利久、「文様史」 講師明石国助、「日本の
南画」 講師人見勇市、「支那絵画史」 講師島田修二郎

大阪市立大学

「文学部」 「日本美術史」 「博物館学」 教授望月信成、
「西洋美術史」 「美学概論」 講師西垣雄太郎、「考古学概
論」 教授角田文衛、「伝承学概論」 助教平山敏治郎、
「宣伝藝術論」 講師下店静市
「家政学部」 「被服文化史」 「被服意匠学」 講師元并能、
「被服文化史」 「意匠学」 「造形美論」 「彫塑」 「意匠様式論」
助教辻合喜代太郎、「意匠学」 「色彩構成」 「布帛工藝」
助教伊藤正文、「工藝概論」 「色彩学」 「木工藝」 「図画工
作」 助教高田克己、「住居文化史」 教授滝沢真弓、助
教授白木小三郎

〔私立〕

早稲田大学

「文学部」 「美術概論」 「西洋美術史」 「美術演習」 教授坂
崎坦、「美学」 「美術概論」 「西洋美術研究」 助教青柳正
広、「日本美術史」 「美術演習」 教授安藤更生、「東洋美
術史」 「美術演習」 教授小杉一雄、「美術批評研究」 「西洋
美術史」 助教大沢武雄、「東西美術研究」 講師富永惣
一、「日本工芸美術研究」 講師中川千咲、「日本建築史」
「東洋建築史」 「西洋建築史」 教授田辺泰「大学院文学研

究科藝術学専攻」 「西洋美術特論(ドラクロア研究)」 「美
術史学文献研究 Elie Faure: Histoire de l'art
moderne」 「美術演習」 教授坂崎坦、「美術特論(比較美
学概論)」 助教青柳正広、「美術史学文献研究(道の
幸)研究」 教授安藤更生、「東洋美術特論(仏教美術史
研究)」 教授小杉一雄、「日本美術特論」 「美術史学文献
研究」 講師田中一松、「西洋古代美術」 「美術史学文献研
究」 講師富永惣一、「建築学特論(近代建築史論)」 教授
田辺泰

多摩美術大学

「東洋美術史概説」 教授逸見梅栄、「西洋美術史概説」 教
授板垣鷹穂、「西洋工芸史」 教授三輪福松、「東洋工藝
史」 教授渡辺素舟、「東洋彫刻史」 教授逸見梅栄、「考古
学」 教授大場磐雄、「西洋絵画史」 講師坂崎坦、「美学概
論」 講師青柳正広、「東洋絵画史」 講師吉沢忠、「西洋彫
刻史」 講師中山公男

慶応大学

「文学部」 「美学概論」 「西洋美術史概説(ルネサンス美
術)」 教授守屋謙二、「東洋美術史概説(中国宋美術・
日本美術平安時代以降)」 講師菅沼貞三、「東洋美術
史演習(日本絵巻物概説)」 講師松下隆章、「日本近世美
術史(浮世絵編)」 講師洪井清、「藝術学(造形美術史持
論)」 講師谷口吉郎、「美学特殊(映画藝術理論)」 講師
佐々木能理雄、「国史特殊(上代建築文化史研究)」 教授
浅子勝二郎、「考古学概論」 講師藤田亮策、「大学院文
化研究科」 「美学特論(東西美術の比較論)」 教授守屋謙
二、「考古学特殊講義(希臘考古学)」 講師藤田亮策

女子美術大学

「古代・中世藝術思潮史」 講師中山公男、「日本古代美
術史」 講師久野健、「日本美術史概説」 講師永井信一、

「西洋美術史(古代・中世)」 「西洋美術史(近世・現代)」
 講師坂崎坦、「西洋美術史特殊講義」講師富水惣一、「考
 古学(旧石器時代の文化)」講師後藤守一
 「短期大学部」「西洋美術史概説」講師中山公男、「西
 洋美術史概説」講師坂崎坦

同志社大学

「文学部」「美学概論」「美学演習」教授園頼三、「藝術
 学概論」「美学史」「藝術学特論」「西洋美術史概説」教授
 金田民夫、「工藝概論」講師白石博三、「工藝概論」講師
 元井能、「美学特論」講師杉山芳子、「藝術思潮」講師河
 本敦夫、「日本美術史概説」「美術史特論」講師土居次
 義、「東洋美術史」講師下店静市

「大学院文学研究科」「美学体系・演習」「藝術学特講・
 演習」「美術史特講・演習」教授園頼三、「藝術哲学特
 講」講師井島勉、「藝術思想特講」講師河本敦夫
 「考古学」「考古学」 「考古学実習」博物館学、同実習」
 教授酒詰仲男、「比較原始文化史」講師角田文衛

関西学院大学

「文学部」「美学概論」「美学研究演習」「美学講義演習
 (中国の藝術論)」「音楽論」教授張源祥、「藝術史」(日
 本美術史概説)「美術論」「美学研究演習」教授張源祥、
 「藝術史」(西洋美術史概説)「美学史」「応用藝術論」
 「美学講義演習」助教授今井清、「考古学」教授武藤誠
 「大学院」「美学研究演習」教授張源祥、「造形美学研
 究演習(大和絵の風景画)」「造形美学特殊講義(藤原時
 代仏画の研究)」教授張源祥、「美学理論特殊講義」講師
 井島勉

主要美術雑誌色刷一覽

現代及西洋美術

作者	画題	雑誌	名号	頁数
青木大葉	葡萄	萌	春	三五
池田遙邨	寂寥	萌	春	三五
石井柏亭	運河に沿える並木	美術手帖	二七	三五
舞	子アトリエ	萌	春	三五
中村孝也	博士像	萌	春	三五
秋田	露	萌	春	三五
泉川白水	清	萌	春	三五
伊東深水	爽	萌	春	三五
伊東	古曲の人たち	萌	春	三五
伊東万耀	女	美術手帖	二八	三五
糸園和三郎	壁	萌	春	三五
井上長三郎	自	萌	春	三五
岩田正巳	笛	萌	春	三五
岩橋英遠	菖	萌	春	三五
上村松篁	深	萌	春	三五
梅原龍三郎	草原	萌	春	三五
萬曆	赤繪	萌	春	三五
藤原	月	萌	春	三五
藤原	秋	萌	春	三五
富	山	萌	春	三五
浅	山	萌	春	三五
鯛	山	萌	春	三五
富	山	萌	春	三五
海老原喜之助	山	萌	春	三五
助	山	萌	春	三五
市	山	萌	春	三五
雪	山	萌	春	三五
鹿之助	山	萌	春	三五
雪の発電所	みづゑ	萌	春	三五

小糸源太郎	春行	くみづゑ	六三	中村 岳陵	鉄線	花三	彩七	松林 桂月	早春	春萌	春元
小林 古徑	機織	図(部分)	三	中村 研一	ハンのモック	頭	三	三岸 節子	秋景	水	三
小林 和作	伯耆大山の秋	みづゑ	六七	中村 善策	新緑の風景	アトリエ	三	南大路 一	青の惑	情	みづゑ
見玉 希望	山下橋	附	三	中村 善策	神戸港風景	アトリエ	三	瀧谷 四郎	二階	図	アムエージ
齋藤 義重	漁	丹	三	中西 利雄	核と常念	望	三	宮本 三郎	箱	根	みづゑ
坂本繁二郎	馬	村	三	難波田龍起	夏の海岸	望	三	村井 正誠	急ぐ	人	美術手帖
下村 観山	植木	鉢	三	野口弥太郎	昇天する詩魂	アトリエ	三	森 芳雄	人	物	みづゑ
杉山 寧	瓶	花	三	野崎 貢	椅子のある風景	アトリエ	三	矢野 橋村	拱	面	みづゑ
鈴木信太郎	長崎の家	みづゑ	六五	野島 青玆	夜明	子	三	安井曾太郎	拓	榴	美術新潮
関口 俊吾	台所の隅	アトリエ	三	橋本 明治	蝦	三	三	孫	浴	女	みづゑ
高橋 忠弥	夜の沼	アトリエ	三	林 武	奈津子の像	みづゑ	三	奥入瀬の溪流	水	蜜	桃
高島達四郎	三島風景	みづゑ	六二	浜田 観	桃	三	三	水蓮	木	蓮	花
高間 惣七	五月の庭	みづゑ	六四	野 外	夫人	アトリエ	三	葡萄とヘルシャ大皿	木	蓮	花
高山 辰雄	雀	三	三五	壁面・大理石モザイク	婦	アトリエ	三	無花	木	蓮	花
田崎 広助	夏の阿蘇山	美術手帖	二七	速水 御舟	暁	三	三	波辺 氏	水	蜜	桃
田中阿喜良	トロイの馬	みづゑ	六五	東山 魁夷	光	庭	三	初	湯	河	原
鳥海 青児	天の壇	みづゑ	六八	福沢 一郎	松	三	三	秋の城	湯	河	原
土田 麦僂	裸婦	アトリエ	三	福田 翠光	猫	三	三	伏見の茶亭	湯	河	原
寺島 紫明	春秋夕臚(秋)	三	三七	福田 平八郎	白	三	三	富	湯	河	原
徳岡 神泉	赤梅	三	三	藤松 博	妖	三	三	初	湯	河	原
富本 憲吉	磁器色絵鉢	みづゑ	六〇	藤松 博	妖	三	三	初	湯	河	原

山口蓬春	鯨とビーマン	三彩	七五	ピカソ	戦争と平和	藝術新潮	七ノ二
山下新太郎	ノラ・ファルク嬢	みづゑ	六九	ビュッフェ	静物	みづゑ	六四
油野誠一	凶兆	六六	六六	フランチェ	キリスト生誕	藝術新潮	七ノ二
横山大観	大瀛の水	六六	六六	スカ	十字架を礼拝するシ	三彩	七一
吉岡堅二	孔雀	三七	三七	ブルリューゲ	嬰児虐殺	みづゑ	六〇
脇田和	かたつむりと親子鳥	美術手帖	一〇五	ブレイク	慧きおとめと愚かな	六六	六〇
アイズビ	エタ	みづゑ	六三	ブローネル	文明への序曲	六六	六〇
アングル	フランソワ・マリウ	美術新潮	七ノ八	ジョット	ユダの接吻(部分)	美術手帖	一〇五
アンソール	愛の園	みづゑ	六六	シローニ	ウルバノ風景	美術手帖	一〇六
ヴィネイ	バステイーユにて	六三	六三	シャガール	夢遊病者	美術新潮	七ノ五
ヴィヨン	作品二点	美術手帖	二四	スーティン	聖歌隊の少年	美術手帖	二〇
エルンスト	飛行機取草の庭	六四	六四	スーラ	セーヌ河のほとり	美術手帖	二八
カラバツジ	病めるパッカス(部分)	六六	六六	スゴンザツ	乾してある帆(サン・	アトリエ	三五
オカル	わが息子	六五	六五	セザンヌ	リンゴのある静物	美術手帖	二四
カンディン	黒い弧	六四	六四	ソラーナ	飯面と人形	みづゑ	六四
クララヴェ	マネキン	みづゑ	六九	ダ・シル	ヴァンヌ風景	美術手帖	二六
グリユエ	奏楽天使	みづゑ	六六	デュファイ	後向きにうづくまる	六六	六六
ウアルト	誕生(部分)	美術手帖	二七	ドガ	裸婦	美術手帖	二七
クレイ	女たちの館	美術手帖	二八	ニコルソン	アラベスク	美術手帖	二七
グレイヴス	盲の鳥	美術新潮	七ノ三	ノルデ	母子像	みづゑ	六六
ゲリエ	エクスギヤリエール	みづゑ	六三	パゼーヌ	南仏・樹と岩	美術手帖	六三
ゴギヤン	魚	美術手帖	二二	パレンシャ	山羊のいる風景	美術手帖	六八
	三匹の仔犬と静物	美術手帖	二二	ピカソ	アヴィニヨンの娘たち	美術手帖	二四
	水辺にたつブルター	美術手帖	二二		犬をつれた二人のサ	アトリエ	二八
	ニユの少女	美術手帖	二二		ルタンバンク	アトリエ	二八
	ナヴ・ナヴ・マハナ	美術手帖	二二			アトリエ	二八
	(部分)	美術手帖	二二			アトリエ	二八
	自画像	美術手帖	二二			アトリエ	二八
ゴッホ	星月夜	美術手帖	二四			アトリエ	二八

レムブラン	画家の息子、テイタス(部分)	美術手帖	二〇八
ス	箒を持つた少女	みづゑ	六四
ス	廃墟のある風景(部分)	ス	ス
ローラン	風	景	アトリエ 五二
ローラン	水	彩	画 藝術新潮 七ノ八
ン	(シイギリアの壁画(天女散華図	みづゑ	六〇
	タルクイニアの壁画	ス	六五

東洋古美術

雪舟筆四季花鳥屏風(部分)	三	彩	五
浦上玉章筆山紅於染(ス)	ス	ス	六
円山応挙郭子儀図襖(ス)	ス	ス	八〇
伴大納言絵巻(第一巻応天門炎上)	ス	藝術新潮	七ノ一
レバント戦鬪図屏風(部分)	村山	国	華 六六
長幸蔵	ス	ス	六七
芦舟筆馬の細道図屏風(部分)	藪	ス	六八
山龍泉堂蔵	ス	ス	六九
一遍聖人絵伝断簡(部分)	細見良	ス	七〇
物語図屏風(部分)藤岡薫蔵	ス	ス	七一
渡辺華山筆牡丹に猫図(部分)	藤	ス	七二
井孝昭蔵	ス	ス	七三
謝蕪村筆桃源行図(部分)	三浦百	ス	七三
重蔵	ス	ス	七三
板絵水天像	東京藝術大学保管	ス	七三
岡田為恭筆明恵上人聴琵琶図(部分)	大橋理徳蔵	ス	七三
狩野秀頼筆渡唐天神図(部分)	ス	ス	七四
盛茂輝筆山水画冊	ス	ス	七五
土佐光起筆須磨明石図屏風(部分)	ス	ス	七六
真言八祖行状図ノ中	龍猛像	藤	七七
田美術館蔵	ス	ス	七七

梁楷筆出山釈迦図(部分)	志摩英	美術研究	一八四
一蔵	乾山筆花鳥十二ヶ月図ノ中	ス	ス
ス	法華堂根本曼荼羅(部分)	ポスト	ス
ス	善無畏金粟王塔下感得図(部分)	ス	ス
ス	藤田美術館蔵	ス	ス
ス	尾形乾成筆四季花鳥図屏風(部分)	ス	ス
ス	川端康成蔵	ス	ス
ス	三副古本両界曼荼羅胎藏界観音院	ス	ス
ス	(部分) 教王護国寺蔵	ス	ス
ス	遊楽図(部分)	美術手帖	二〇六
ス	信貴山縁起絵巻部分	朝護孫子寺	ス
ス	信好成就阿弥陀三尊図	蓮華三昧	ス
ス	院蔵	ス	ス
ス	弥勒来迎図	東京藝術大学蔵	ス
ス	宗達筆西行法師行状絵詞(部分)	萌	ス
ス	信貴山縁起絵巻(部分)	みづゑ	ス
ス	徽宗筆桃鳩図(部分)	ス	ス
ス	写楽筆七世片岡仁左衛門の紀の名	ス	ス
ス	虎	ス	ス
ス	青木木根筆兔道朝暎図	文化財保	ス
ス	護委員会保管	ス	ス
ス	雪舟筆山水図	大原家蔵	ス
ス	亜欧堂田善筆浅間山図屏風	東京	ス
ス	国立博物館蔵	ス	ス
ス	聖徳太子絵伝(第二隻右曲部分)	ス	ス
ス	十六羅漢像ノ中第八尊者部分	東	ス
ス	京国立博物館保管	ス	ス
ス	北大路大膳大夫像(部分)	青柳瑞	ス
ス	總蔵	ス	ス
ス	昆沙門天像	大和文華	ス
ス	湯女図	箱根美術館蔵	ス
ス	阿弥陀三尊及童子図	法華寺蔵	ス
ス	本多平八郎姿絵	黎明会蔵	ス
ス	築式部日記絵詞	藤田美術館蔵	ス
ス	聴松軒図	静嘉堂蔵	ス

工 藝

御子安女神像	彫 刻	大和文華	三
敦煌千仏洞(撮影・福田豊四郎)	三	彩	五
聖観音(薬師寺東院堂)	ス	ス	ス
菩薩・供養者群像(浮彫(マトウ	ス	ス	ス
ラー) 山中次郎蔵	ス	ス	ス
埴輪いのしし	東京国立博物館保	ス	ス
管	ス	ス	ス
ガンダーラ仏坐像部分	ス	ス	ス
蓮台	平等院蔵	ス	ス
鑿 怪獸文方形盃(部分)	根津美	三	彩 七
術館蔵	ス	ス	ス
明宣徳辰砂魚文馬上盃	ス	ス	ス
乾隆ガラス鼻煙壺	ス	ス	ス
織物縫合せ陣羽織	上杉神社蔵	ス	ス
紅ビロード地草花狗兒模様女帯	東京国立博物館保管	ス	ス
金銅唐草透彫香葉	ス	ス	ス
織部棚(虎溪三笑時絵棚)	東京国	ス	ス
立博物館蔵	ス	ス	ス
宋赤絵牡丹文盃	ス	ス	ス
金銅飾玉盃	フオツク美術館蔵	ス	ス
古赤絵雲堂茶碗	大和文華館蔵	ス	ス
古赤絵茶碗	ス	ス	ス
青磁天雞壺	箱根美術館蔵	ス	ス
萬曆赤絵龍鳳文面盆	ス	ス	ス
高麗青磁透影箱	東京国立博物館	ス	ス
朱塗花鳥箔絵面盆	大和文華館蔵	ス	ス
見込紫褐袖雲龍文鉢	ス	ス	ス
古伊万里梅絵大壺	大和文華館蔵	ス	ス
綴錦鳥獸文陣羽織	高台寺蔵	ス	ス
葡萄螺鈿短檠	大和文華館蔵	ス	ス
乾山龍田川茶碗	円照寺蔵	ス	ス

主要美術展覧会 索引

- 一 月
- 秀作美術展(第7回)……………八二頁
 - 懐月堂美人画展……………八三
 - 浮世絵名品展……………八四
 - 有島生馬、山口蓬春自薦展……………八四
- 二 月
- 清水登之遺作油絵展……………八四
 - エトルスク・ローマの壺展……………八四
 - 日本アンデパンダン展(第9回)……………八五
 - 美術文化協会展(第16回)……………八五
 - 石井柏亭、山下新太郎前期作品展……………八六
 - ザッキン自選展……………八七
 - モダンアート協会展(第6回)……………八七
 - 水彩連盟展(第15回)……………八七
 - JAN展(第26回)……………八七
 - 島村洋二郎遺作展……………八七
 - 明治以後の風俗画展……………八七
- 三 月
- 荻須高德作品展……………八八
 - 日本アンデパンダン展(第8回)……………八九
 - にせもの、本物展……………八九
 - ヴェニス・ピエンナーレ出品作国内展示……………八九
 - 白日会展(第32回)……………八九
 - 示現会展(第9回)……………八九
 - 三軌会展(第8回)……………八九
 - 一線美術展(第6回)……………八九
 - 春の青龍展……………八九
 - 有島生馬回顧展……………八九

- 四 月
- 光風会展(第42回)……………九〇
 - 創元会展(第15回)……………九二
 - 新興美術院展……………九二
 - 宇治平等院展……………九二
 - 安井曾太郎遺作展……………九二
 - 二科春季展……………九三
 - 国宝日光輪王寺展……………九三
 - 日本彫塑展(第4回)……………九三
 - 新制作協会春季日本画展……………九三
 - 独立美術会員春季展……………九三
 - 行動美術春季展……………九三
 - 前田青邨文化勲章受賞記念展……………九三
 - 来迎美術展……………九三
 - 春陽会展(第33回)……………九三
 - 国画会展(第30回)……………九三
 - 日本版画協会展(第24回)……………九三
 - 中国陶磁元・明名品展……………九三
 - 雪舟展……………九三
- 五 月
- 明治初期洋画展……………一〇六
 - 日本画院展(第16回)……………一〇六
 - 新世紀美術協会展(第1回)……………一〇七
 - 東光会展(第22回)……………一〇七
 - 美術にあらわれた「日本女性」展……………一〇七
 - 金山平三画業50年展……………一〇七
 - 一陽会春季展……………一〇七
 - 浦上玉堂名作展……………一〇七
 - 明治・大正・昭和美人画名作展……………一〇八

- 現代の版画展……………一〇八
- 朝倉彫塑塾塾長・薩摩・歐洲ガラスコレクション展……………一〇九
- 現代日本美術展(第2回)……………一〇九
- 六 月
- 朝鮮古陶磁展……………一一三
 - 荒井龍男遺作展……………一一三
 - ニッポン展(第4回)……………一一三
 - 女流画家協会展(第10回)……………一一三
 - 日本水彩画会展(第44回)……………一一三
 - 創型会彫塑展(第5回)……………一一三
 - 上村松園賞記念展……………一一四
- 七 月
- 日仏具象作家協会展(第1回)……………一一五
 - 壘日会展(第25回)……………一一五
 - 太平洋画会展(第52回)……………一一五
 - スポーツ藝術展……………一一六
 - 日本の風景展……………一一六
 - 日本陶彫会展(第6回)……………一一六
- 八 月
- ロシヤ美術展……………一二七
 - 金刀比羅宮と普通寺名宝展……………一二七
 - 高橋由一油絵展……………一二七
 - 日本宣伝美術会展(第6回)……………一二七
 - 平和美術展(第4回)……………一二八
 - 青木繁・坂本繁二郎作品展……………一二八
 - 新樹会展(第10回)……………一二九
 - 青龍社展(第28回)……………一二九
 - 一陽会展(第2回)……………一二九
- 九 月
- 二科会展(第41回)……………一三三
 - 院展(第41回)……………一三七
 - 行動美術協会展(第11回)……………一三九

- 日本の彫刻展……………一三〇
- 佐分真油絵遺作展……………一三〇
- 菊池契月展(京都展)……………一三〇
- 円山応挙名作展……………一三〇
- ギリシャ・ローマの美術展……………一三〇
- 津田青楓回顧展……………一三〇
- 立軌会展(第8回)……………一三一
- 新制作協会展(第20回)……………一三一
- 一水会展(第18回)……………一三一
- 高村光太郎・智恵子展……………一三六
- 一〇 月
- ブルデル彫刻絵画展……………一三九
 - 菊池契月遺作展……………一三九
 - 独立美術協会展(第24回)……………一四〇
 - 自由美術家協会展(第20回)……………一四〇
 - 第二紀会展(第10回)……………一四五
 - 日本伝統工藝展(第3回)……………一四七
 - 醍醐寺展……………一四七
 - 仏教美術展……………一四八
 - 日展(第12回)……………一四八
- 一一 月
- 日本の風刺絵画展……………一六六
 - 京都文華展……………一六六
 - 雪舟展(京都)……………一六六
 - 最近の世界版画展……………一六七
 - 世界・今日の美術展……………一六七
 - 村上華岳・佐伯祐三展……………一六七
 - 源氏物語絵巻展……………一六九
- 一二 月
- 「近代日本の名作展」……………一七〇
 - 高間惣七・小倉遊亀展……………一七〇

美術展覧会

一月

「現代の眼」展—アジアの美術史から— 前年12月1—2月12 国立近代美術館
 斎藤愛子、芥川紗織二人展 前年12月21—1月15 新宿・風月堂
 日展 2—7 京都市美術館
 銅版画展 4—10 タケミヤ[批] 朝日10
 モダンアート研究会二十二人展 4—7 樺画廊
 KERN洋画七八展 4—8 村松画廊
 明治の神戸展 4—25 市立神戸美術館
 橋本雅邦名幅展 5—15 渋谷・東横 [批]東京12(久富貢)
 新平家物語展 5—29 日本橋・高島屋
 現代日本陶磁器展 5—8 日本橋・三越
 千支に因む猿の展覧会 5—11 銀座・松屋
 全日本年賀状版画コンクール展 5—8 日本橋・三越
 日本水墨派新作展 5—10 新宿・伊勢丹

芝居絵鑑賞展 5—8 大阪・阪急
 美術家同士の扶けあい運動—即席肖像揮毫並に寄贈画即売会— 5—15 大阪・阪急
 千寿会人形展 5—10 銀座・松坂屋
 全国郷土玩具展 5—10 日本橋・白木屋
 神谷信子、山口薫、城所昌夫、品川工、平井進、植木茂六人展 5—11 なびす
 芥川紗織、池田竜男、河原温、吉仲太造四人展 6—12 サトウ [批]朝日10、読売12(徳大寺公英)、読売19(徳大寺公英)、アトリエ3月(瀬木慎一)
 渡辺藤一個展 8—13 樺画廊 [批]毎日14
 田中吉之介アイデア展 8—10 京都府ギャラリー
 5回中央美術協会展 9—14 日本橋・丸善
 速水御舟作品図録展示会 9—15 三原橋画廊
 2回エホック・アール展 9—15 美松画廊 [批]毎日14、アトリエ4月(瀬木慎一)
 苗村武雄個展 9—14 村松画廊

西貝和子、林富子二人展 9—14 村松画廊 [批]毎日14
 矢野景川志野茶盤鑑賞会 9—14 東京画廊
 和田恒個展 9—10 東電ギャラリー
 薬心会日本画展 10—15 日本橋・高島屋
 7回無名会展 10—15 日本橋・三越 [批]産経13(横川毅一郎)、萌春29号(横川毅一郎)
 天井陸三個展 10—15 上野・松坂屋
 内閣安理個展 10—31 お茶の水・レモン
 小山田チカエ、薬師寺ハマニ二人展 10—16 大分市・キムラヤ
 7回秀作美術展 10—22 日本橋・三越 [批]朝日13(田近憲三)、毎日15、東京18(岡本謙次郎)、東京タイムズ20
 陳列目録
 日本画
 宵 清原 斎
 牛 丸 山口 吉旺
 朝 福王寺法林

遙 中村貞以
 花と犬 中村岳陵
 まり千代像 橋本明治
 馳 加山又造
 樹根 東山魁夷
 百合 杉山寧
 壁 岩橋英遠
 風 高山辰雄
 ぶ 望月春江
 浜 高橋周桑
 鴨川の夕立 宇田荻都
 夕ぐれ 寺島紫明
 屋根草を刈る 川合玉堂
 M 堅山南風
 鴻門 安田鞆彦
 城 奥村土牛
 まり藻と花 山口蓬春
 水鳥屏風 吉岡堅二
 北 山本丘人
 滝 福田豊四郎
 冬 佐藤園夫
 風 毛利武彦
 月 小倉遊亀
 冬 信太金昌
 浪 奥村厚一
 樹園 麻田介次
 陶土の丘 麻田鷹司
 地 下村良之介
 幼き日 伊東深水
 戸外は春雨

冠 鶴馬場不二
 暮 秋今野忠一
 老農 岩崎巴人
 五月の畑 長崎莫人
 たそがれ 野崎貢
 牡 丹浜田観
 おん 朝倉 撰
 西洋画
 グリフォンと闘 笹岡了一
 ら男 牛島憲之
 タンクの道 高間惣七
 春の庭 須田 寿
 牛を売る 近岡善次郎
 立ち話 内田武夫
 少 孤独者の住居 山口 薫
 静 桜井浜江
 あらそい 脇田 和
 靴屋 海老原喜之助
 裸婦(デッサン) 故安井曾太郎
 純筆城山(デッサン)
 無花果 〃
 安部能成君像 〃
 絶筆 秋の城山 〃
 葡萄とベルシャ 〃
 大皿 〃
 水仙とベルシャ 〃
 壺 〃
 姑娘(デッサン) 〃
 雪 小糸源太郎

丹楓煙景 梅原龍三郎
 高見 浜林 武
 雀 八幡 須田国太郎
 初秋の草苑 田崎広助
 山 湖 小林和作
 春 雪 高島達四郎
 捧げもの 岡鹿之助
 海岸を行く雲の 鍋井克之
 影 愛犬の死 居串佳一
 秋 華 佐伯米子
 箱 根 宮本三郎
 星座アンドロメ 野間仁根
 ダ カリーニユ風景 青山義雄
 コートの婦人像 森田元子
 ヨット・ハーバ 野口弥太郎
 顔をかくす女 島海青兒
 秋 栗原 信
 風 景 中津瀬忠彦
 サンタ・マリア・デル・フィオーレ 飯島 一
 レ 兵隊に渡される キリスト 田中忠雄
 キリスト 藤井令太郎
 二つの椅子 上田哲農
 ワルブルグスの夜 佐藤真一
 待 つ 人 堀内規次
 ベルギー風景 野村千春
 早春の日 鈴木信太郎
 波 と 船 中谷 泰
 無 花 果 横井礼以
 野菜と穀類 事 有岡一郎

冬 山菅野矢一
 柳 ベルギー炭鉱街 田中阿喜良
 座 婦 野見山曉治
 浮遊する群 杉全 直
 架 糸園和三郎
 子供の遊び(鬼ごっこ) 品川 工
 乙女 心上野長雄
 森の精No.4 吉田政次
 H・R氏の肖像 池田竜雄
 LYRIC No.32 故恩地孝四郎
 自分の死貌 瓜 浜口陽三
 西の上 村井正誠
 ナルシス 土屋幸夫
 はらっぱ 宮脇公実
 プロヴァンスに(野) 末松正樹
 作品(A) 川端 実
 時を運ぶ車 赤穴 宏
 燃える人 岡本太郎
 化 石 小野忠弘
 パンチェール故荒井龍男
 Xのある風景 多賀谷伊徳
 人 雨 季 神谷信子
 空 港 村田實史雄
 溶けるカノン 山口正誠
 こ ども 小山田二郎
 水浴する人たち 川口軌外
 たたかい 難波田龍起
 陽気な楽曲 利根山光人

鬼とゆかた 桂ユキ子
 ヴァイトリース 山口勝弘
 夜の進行 棟方志功
 遠々 京 東郷青児
 彫刻 風 東郷青児
 アフリカの木 向井良吉
 クハンダ 辻晋堂
 若い人 須賀通泰
 かお(貌) 建品覚造
 モダン・トーテム(木彫) 伏木南国
 歌々ッ子 本郷 新
 ひな(ゴイサギ) 山本常一
 ブロンズ 佐藤忠良
 座 立てる女 豊福知徳
 父子像No.1 木内 克
 友人の像 黒田嘉治
 トルソー 山本豊市
 憩 舟 越保武
 詩人の顔 大須賀力
 BACCHANTE 朝倉響子
 首 秀作展に選抜されたものの中種々の都合で出品されなかつたもの

黒 豹 山口華楊
 西洋画 德里ヤの静物 中川一政
 水 車 木下義謙
 藤松博個展 11-20 タケミヤ
 [批]朝日17 アトリエ4月
 (瀬木慎一) [記]美術手帖3月
 (藤松博)
 3回石門会展 11-15 新宿・伊勢丹
 鶴岡数個展 11-12 東電ギャラリ
 池野勇治小品展 12-16 なび
 懐月堂美人画展 13-23 銀座・松屋 [批]毎日19、東京タイムズ20
 彩路会(東京絵更抄)展 13-18 銀座・松坂屋
 塩水流功、小野木学、磯村敏之 三人展 13-21 日比谷画廊
 全国カレンター展 13-17 銀座・松屋
 23才展 13-20 サトウ [批]毎日19
 日展 13-2月3 大阪市立美術館
 小川マリ個展 14-20 兜屋
 [批]東京15(岡本謙次郎)、朝日17、毎日19、アトリエ4月(瀬木慎一) [記]美術手帖3月(小川マリ)

佐藤努個展 14-18 樺画廊
 [批]読売19(徳大寺公英)、アトリエ4月(瀬木慎一)
 グループ五六展 15-20 村松画廊
 サロン・ド・ミックス展 15-25 神田・ジロー
 視群展 15-28 新宿・シヤト
 京都青年美術作家集個展 15-21 京都市美術館
 自由美術展 15-29 京都市美術館
 現代版画七人展 16-21 養清堂
 1回不木会作品展 16-22 美松画廊
 ヤナセ・ギャラリ開場記念展 16-21 日本橋・ヤナセ・ギャラリ
 2回I・E・C(国際教育振興会)美術展 16-21 中央公論社画廊
 グループ六日展 16-21 文房堂
 1回蒼樹会展 16-17 東電ギャラリ
 デッサン展 16-21 三原橋画廊
 大織政敏個展 16-21 サエグサ
 2回笹島喜平版画展 17-22 日本橋・高島屋 [批]産経19

歌謠百五十年記念浮世絵名品展

17-29 日本橋・三越 (批)

毎日19

香道美術展 17-22 日本橋・三越

武者小路実篤日本画展 17-22

新宿・伊勢丹

虹人会染色展 17-22 大阪・阪急

3回団栗会俳画展 17-22 大阪・阪急

東貞美個展 17-21 フォルム

〔批〕朝日21 〔記〕美術手帖3月(東貞美)

2回現代美術家クレパス画展

17-22 上野・松坂屋

1回ネオ・ホール展 18-22

大阪・梅田画廊

黒沢三郎個展 18-21 日本橋・丸善

1回黒旗展 19-23 樺画廊

箱根スケッチ展 20-30 光風会館

童林社洋画、彫塑展 20-25

東京・大丸

勅使河原蒼鳳溟秋写真切紙絵展

20-25 銀座・松坂屋 (批)

朝日21、読売26(徳大寺公英、アトリエ4月(瀬木慎一))

有島生馬、山口蓬春自薦展

20-2月15 鎌倉・近代美術館 (批)三彩3月

1回現代版画展 21-27 銀座

座・渡辺木版画店階上画廊

河合イサム個展 21-31 タケミヤ (批)アトリエ4月(瀬木慎一)

2回玉玲会日本画展 21-26

大阪・三越

東郷青児展 21-25 日動画廊

一水会展 22-2月1 大阪・そごう

関野準一郎版画個展 23-28

養清堂 (批)朝日27、東京28

〔記〕美術手帖3月(関野準一郎)

青々会展 23-24 東電ギヤ

ラリ

吉島昭子個展 23-28 国際観

光会館画廊

武者小路実篤近作展 23-28

中央公論社画廊

日野耕之祐個展 23-28 産経

画廊

2回エンピツ会展 23-29 美

松画廊

高野謙個展 23-30 サトウ

鳥海青児個展 23-28 求龍堂

画廊、東京画廊 (批)朝日

25、毎日25(土方定一)、読売

26(徳大寺公英)、産経26(横

川)、東京27(岡本謙次郎)

藤原啓新作陶藝展 24-29 日

本橋・高島屋

シャルウル・ラタント展 24-

26 新宿・東電サービス・セ

ンター

小村雪岱遺徳展 24-29 澁

谷・東横 (批)産経26(横川)

須藤弥吉郎所蔵スベイン絵画展

24-2月5 プリヂェストン

〔批〕産経夕刊27

堀内康司展(グループ「実在

者」連鎖展) 24-28 フォル

ム (批)毎日28

矢野鉄山日本画展 24-29 日

本橋・三越 (批)前春29号

(添田達嶺)

造型藝術研究展 24-28 文房

堂

16回半弓会日本画展 24-29

大阪・阪急

倉飯井太造、山下明油絵展 24

-29 大阪・阪急

ラン会絵画展 24-26 新宿・

東電サービス・センター

6回造型教育センター展 24-

31 なびす

3回フォール展 25-28 日本

橋・丸善

6回日吉ヶ丘高校美術コース展

25-29 京都市美術館

萩谷巖「静物」油絵展 27-31

日動画廊 (批)産経夕刊30

横山操個展 27-2月1 銀座・

松屋 (批)毎日28、産経夕刊

30、朝日31、三彩3月、前春

29号

ノエル・ヌエット ベン画と版

画展 27-2月1 銀座・松屋

〔批〕産経夕刊30

2回瑠璃光会日本画展 27-2月

1 東京・大丸

江見綱子個展 27-2月1 村

松画廊 (批)朝日31、読売2

月2(徳大寺公英)、美術批評

3月(徳大寺公英、瀬木慎一、

東野芳明)、アトリエ4月(瀬

木慎一) (記)美術手帖4月

(江見綱子)

吉田遠志油・版画展 27-2月

4 村松画廊 (批)朝日31

〔記〕美術手帖4月(吉田遠志)

京都在住作家色紙展 27-2月

1 東京・大丸

双青会絵画鑑賞展 30-2月4

サエグサ (批)東京2月1

(岡本謙次郎)、三彩3月、前

春29号

行動具象同人四人展 30-2月

5 美松画廊 (批)東京2月

2(徳大寺公英)

小野佐世男回顧展 31-2月4

養清堂

2回ナガハマ塾染色展 31-2

月5 上野・松坂屋

2回瑠璃光会絵画展 31-2月5

日本橋・高島屋 (批)三彩3

月、前春29号

池田満寿夫展(グループ「実在

者」連鎖展) 31-2月4 フ

ォルム

女子美染色工藝展 31-2月5

渋谷・東横

同人会表装展 31-2月5 日

本橋・三越 (批)前春30号

3回春紅会女流作家人形展 31

-2月5 新宿・伊勢丹

石川滋彦水彩画展 31-2月5

大阪・阪急

二月

清水登之遺作油絵展 1-5

日動画廊 (批)東京3、朝日

4、毎日4

近藤電男個展 1-7 サトウ

エトルスク・ローマの壺展 1

-25 市立神戸美術館

サロンド・エルブ(山田光

春グループ展) 1-5 名古

屋・ヴィナス画廊

真鍋博個展、2-7 村松画廊

〔批〕毎日4、美術批評3月(徳

大寺公英、針生一郎、東野芳

明)

深見隆、前川佳子、朝比奈隆三

人展 2-7 村松

青松会展 2-7 銀座・松坂

屋 (批)前春30号

9回日本アンデパンタン展(日

本美術会主催) 2-14 東京

都美術館

〔批〕

産経夕刊8

朝日9 針生一郎

東京11 岡本謙次郎

毎日12
読売13
東京タイムズ26
美術批評3日

徳大寺公英

美術手帖4月
アトリエ4月
美術批評4月
みつゑ4月

〔記〕
徳大寺公英
針生 一郎
東野 芳明
植村鷹千代
瀨木 慎一

美術手帖4月
田常作、赤塚徹、宮本正之、
小山田チカエ、岡本信治郎

16回美術文化協会展 2-14
東京都美術館

〔批〕
産経夕刊8
朝日9
東京9
毎日11
読売13

美術手帖4月
アトリエ4月
みずゑ4月

徳大寺公英
植村鷹千代
瀨木 慎一

美術手帖4月
福沢一郎、宮地竜、田中亜
木男、井上市三郎

〔記〕
清川泰次、
瀨木 慎一

会員出品目録

夕作
品 笹川由為子
映シ

美術展覧会(2月)

田 園	笹川由為子	火の鳥	福沢一郎	小メキシコの男	福沢一郎	オームのいる群像	池原正男	樹海の人間達(或るホルの壁面)	池原正男	為の壁面	池原正男	水瓜持つ男	池原正男	ハンモックによる女	竹村文男	鷺	竹村文男	魅	竹村文男	驗	竹村文男	デッサン	多田雄蔵	巷の中に	多田雄蔵	早春多恨	多田雄蔵	青い情熱	多田雄蔵	他力本願	多田雄蔵	オートメーションシステム	村岡和雄	壁・ハポマイ	長谷川 望	1955	1955	1955・10	1956	パントマイム	田中 昇	実在主義の少女	田中 昇	古代幻想	小原 勉	人間 No.4	小原 勉	人間 No.5	小原 勉	人間 No.6	小原 勉	人間 No.7	小原 勉	人間 No.8	小原 勉	雲	米田三男之介
-----	-------	-----	------	---------	------	----------	------	-----------------	------	------	------	-------	------	-----------	------	---	------	---	------	---	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	--------------	------	--------	-------	------	------	---------	------	--------	------	---------	------	------	------	---------	------	---------	------	---------	------	---------	------	---------	------	---	--------

波望の岸	米田三男之介	願望の岸	藤田鶴夫	早と地と	清川泰次	天と地と	池原正男	レックサイド	池原正男	デッサン(A)	池原正男	春(C)	池原正男	肉林(地獄門)	川元 山	対りつけ	川元 山	運命	川元 山	美人	川元 山	美地	川元 山	天地	川元 山	苔むしぬ	川元 山	わびしぶき	川元 山	生々流転	川元 山	空	須賀 卯夫	うづくまる	須賀 卯夫	まつり	岡田 徹	降架	岡田 徹	リズム	宇佐美晴海	ハーモニ	浅野 弥衛	それは閉ざされて	浅野 弥衛	灰色のファンタジア	大野 英一	瘋癲病院長	大野 英一	患	大野 英一	しつぽを出した	龍山 恭輔	しつぽを出した	龍山 恭輔	作品	龍山 恭輔	作品	龍山 恭輔	カ	龍山 恭輔
------	--------	------	------	------	------	------	------	--------	------	---------	------	------	------	---------	------	------	------	----	------	----	------	----	------	----	------	------	------	-------	------	------	------	---	-------	-------	-------	-----	------	----	------	-----	-------	------	-------	----------	-------	-----------	-------	-------	-------	---	-------	---------	-------	---------	-------	----	-------	----	-------	---	-------

ダーダネラの黒い翼	鳥津純一	花	鳥津純一	スポットライト	鳥津純一	鯨	鳥津純一	ダイヤル	鳥津純一	入魂	鳥津純一	執着	鳥津純一	妖精の踊り	土井俊生	光	土井俊生	「顔」連作の内鏡	土井俊生	「顔」連作の内埋	土井俊生	葬	土井俊生	夜の街	土井俊生	因果の理	土井俊生	異端の食事	土井俊生	禁断の遊戯	土井俊生	誤謬の塊	土井俊生	新	土井俊生	コッ	土井俊生	誘惑のマジック	土井俊生	失	土井俊生	進	土井俊生	不在の季節	土井俊生	二	土井俊生	渴望の針底	土井俊生	そよかぜ	土井俊生	若い人達	土井俊生	集団	土井俊生	灰色の太陽	土井俊生	狂詩曲による幻想	土井俊生	想	土井俊生
-----------	------	---	------	---------	------	---	------	------	------	----	------	----	------	-------	------	---	------	----------	------	----------	------	---	------	-----	------	------	------	-------	------	-------	------	------	------	---	------	----	------	---------	------	---	------	---	------	-------	------	---	------	-------	------	------	------	------	------	----	------	-------	------	----------	------	---	------

集	宮崎利行	月	宮崎利行	R&B-N	羽坂 清	J	羽坂 清	I	羽坂 清	L	羽坂 清	M	羽坂 清	K	羽坂 清	H	羽坂 清	飛	羽坂 清	上昇の前	小関 通	まだきまらない	小関 通	作品	小関 通	編	小関 通	作品(1)	小関 通	作	小関 通	救いのない場所	加藤 丞	奪われた遊園地	加藤 丞	無	加藤 丞	鼻つまみされる	加藤 丞	女	加藤 丞	鼻つまみされる	加藤 丞	自転車	加藤 丞	放浪する男	加藤 丞	狂える女	加藤 丞	現代人(いわざる)	加藤 丞	現代人(みざる)	加藤 丞	現代人(きかさる)	加藤 丞	作品	加藤 丞	作	加藤 丞	若	加藤 丞	集	加藤 丞	灰色の太陽	加藤 丞	狂詩曲による幻想	加藤 丞	想	加藤 丞
---	------	---	------	-------	------	---	------	---	------	---	------	---	------	---	------	---	------	---	------	------	------	---------	------	----	------	---	------	-------	------	---	------	---------	------	---------	------	---	------	---------	------	---	------	---------	------	-----	------	-------	------	------	------	-----------	------	----------	------	-----------	------	----	------	---	------	---	------	---	------	-------	------	----------	------	---	------

Grey&Grey	皆光 茂
Atrahom A	シ
Poesy	シ
季節の日記	シ
緑の笛	シ
ノイローゼ	シ
鉄の部屋	シ
暗い部屋	シ
それわ?	シ
少	シ
夜でも夢で子供達は遊んでる	シ
子供達は遊んでる	シ
誕生	シ
人	シ
灰と魚	シ
母と子	シ
祈る女	シ
黒い太陽	シ
鳥たちの神話	シ
攫われた天使たち	シ
休	シ
みづも	シ
つづき	シ
女	シ
と	シ
颯動	シ
よもつひらかさ	シ
島	シ
漁	シ
海	シ
かえり	シ
鉄	シ

ど	ぶ村上一 馨
天使と少女	シ
恋	シ
苦行	シ
牛頭午頭	シ
地獄の季節	シ
失楽園	シ
地球よさようなら	シ
魂を売る	シ
騎	シ
救われぬクロ	シ
あくびをする	シ
墮ちる無限火	シ
傷あとのある交	シ
配	シ
翼ある月夜	シ
大陸に征きし	シ
母と子	シ
たいそう場	シ
あけぼの	シ
はんらん	シ
地の果	シ
作品	シ
幻想	シ
幻想	シ
作品	シ
「前兆」第4部戦	シ
争	シ
クロデル「人と慾望」より	シ
蜘蛛	シ
河童昇天	シ

街	内山牛松
作品	シ
作品	シ
美女の野獣	シ
未亡人	シ
顔(詩人)	シ
作品	シ
無題	シ
雪子夫人	シ
自画像	シ
ろらん	シ
作品	シ
台風の目	シ
作品	シ
花子ちゃん	シ
作品	シ
桜彩会洋画展	シ
大丸	シ
新作日本画十八展	シ
座・松屋	シ
小倉遊亀、秋野不矩、三岸節子	シ
三人展	シ
屋	シ
爽龍会展	シ
〔批〕三彩3月	シ
安藤照彫塑展	シ
市立美術館	シ
永浜魚一心象個展	シ
西廊	シ
三杉会展	シ
善	シ

斑目秀雄近作油画展	6-9
日動画廊	シ
内堀勉個展	シ
社画廊	シ
植原成二個展	シ
東郷青児個展	シ
西廊	シ
大沼真呂作品展	シ
西廊	シ
震風会展	シ
鬚嘔展	シ
〔批〕美術批評3月(徳大寺公英、針生一郎、東野芳明)	シ
〔記〕美術手帖4月(鬚嘔)	シ
菊山当年男、小川長業、伊賀業	シ
焼展	シ
名古屋市教育美術展	シ
名古屋・文天堂画廊	シ
4回日月社小品展	シ
本橋・高島屋	シ
刑部人油絵展	シ
・三越	シ
絵馬美術展	シ
三越	シ
石井柏亭、山下新太郎前期作品	シ
特別陳列	シ
トン	シ
13(嘉門安雄)、アトリエ4月	シ
(瀬木慎一)	シ
16回アート・クラブ展	シ
なびす	シ

瀬木慎一	7-11
創作版画研究展	シ
堂	シ
現代版画秀作展	シ
・伊勢丹	シ
このはな会展	シ
・高島屋	シ
林正治個展	シ
急	シ
藤井令太郎、南大路一、田中岑	シ
三人展	シ
〔批〕産経夕刊10、毎日11、朝	シ
日13、美術批評3月(徳大寺公英、針生一郎、東野芳明)、	シ
アトリエ4月(瀬木慎一)	シ
〔記〕美術手帖4月(田中岑)	シ
1回炎グループ展	シ
山口・八木	シ
河井正典、篠井欽治彫刻二人展	シ
9-15	シ
大名鎌道具と婚禮調度展	シ
3月15	シ
太平洋画会小品展	シ
京・大丸	シ
野口園生人形展	シ
・松屋	シ
島岡達三作陶展	シ
・いづみ	シ
デモクライト5人展	シ
タケミヤ	シ
在洛主要美術家総合展示会	シ
15	シ
矢野鉄山個展	シ

三越

日展 11—3月3 名古屋・愛

知泉美術館

榎本和子、福島秀子二人展 13

—18 養清堂 [批]東京15

[岡本謙次郎]

ザッキン自選展 13—18 中央

公論社画廊 [批]東京15 [岡

本謙次郎]

弥生会洋画展 13—16 弥生画

廊 齋宮社美術展 13—19 美松画

廊

3回草々展 13—18 産経画廊

[批]産経夕刊15

田中案山子日本画廊 14—19

日本橋・三越 [批]萌春30号

大和村創爾郎創作版画展 14—

19 日本橋・高島屋

加賀百万石古美術展 14—19

渋谷・東横

無声会同人南画展 14—19 日

本橋・三越 [批]萌春30号

瀧美英峰俳詩賛日本画展 14—

19 日本橋・三越

2回ひこぼゆ展 14—19 村松

画廊 [批]東京15 [岡本謙次

郎]、読売23(徳大寺公英)

4回朝日広告賞入賞作品展 14

—19 日本橋・高島屋

1回濤グループ展 14—19 名

古屋・文天堂

京都美術懇話会展 14—19 京

都・大丸

石原薰個展 14—16 京都書院

画廊

太田健一、青木幹二人展 14—

19 大阪・阪急

九谷古陶展 14—19 大阪・阪

急

6回モダン・アート協会展 15

—28 東京都美術館

[批]

読売16 徳大寺公英

東京19 岡本謙次郎

毎日23

日経23 福島繁太郎

東京タイムズ23 植村鷹千代

朝日25 瀨木 慎一

産経夕刊27

美術手帖4月 植村鷹千代

アトリエ4月 瀨木 慎一

みづゑ4月

4回草人社展 15—18 日本橋

・丸善

8回現代人形美術展(朝日新聞

社主催) 15—21 上野・松

坂屋

高田誠油絵近作個展 16—20

日動画廊

15回水彩聯盟展 16—28 東京

都美術館

[批]

東京21 大河内信敬

毎日21

産経夕刊21

美術手帖4月 植村鷹千代

アトリエ4月 瀨木 慎一

26回JAN展 17—22 銀座・

松屋

[批]

朝日18

毎日18

東京19 岡本謙次郎

読売23 徳大寺公英

美術手帖4月 植村鷹千代

アトリエ4月 瀨木 慎一

みづゑ4月 岡本謙次郎

[記]

美術手帖4月(五味秀夫、藤

井令太郎、中村進、笹岡了

一)

島村洋二郎遺作展 17—23 サ

トウ [批]朝日18、毎日18、

アトリエ4月(瀨木慎一)

尚美展 17—19 和楽庵及び関

旧宅 [批]東京18(河北倫

明)、三彩4月

明治以後の風俗画展 17—3月

30 国立近代美術館 [記]

朝日27(河北倫明)、三彩3月

安孫子萩声日本画展 17—22

東京・大丸

2回びぞん工藝展 17—21 京

都府ギヤラリー

荒井陸男作品展 17—22 銀座・

松屋

富取風堂、田中以知庵、酒井三

良子小品展 17—22 銀座・

松屋 [批]萌春30号

上永井正滯伯作品展 18—24

ブリヂストン [批]朝日21

現代アメリカ版画展 19—25

中央公論社画廊

菱輪淳個展 19—25 新宿・ロ

ア

小林どんげ銅版画個展 20—25

養清堂 [批]毎日25、アトリ

エ4月(瀨木慎一)

弥生今日日本画展 20—25 弥生

画廊

斎藤博之個展 20—25 村松画

廊

吉田穂高個展 20—25 村松画

廊 [批]読売23(徳大寺公

英)、アトリエ4月(瀨木慎一)

[記]美術手帖5月(吉田穂高)

岡本玉水継藝術の会 21—3月

2 日本橋・高島屋

6回荻野康児個展 21—26 日

本橋・高島屋 [批]産経夕刊

24、アトリエ4月(瀨木慎一)

中神潔素描展 21—29 タケミ

ヤ [批]読売23(徳大寺公

英)、アトリエ4月(瀨木慎一)

[記]美術手帖5月(中神潔)

飯島一次滯政作品展 21—26

日本橋・三越 [批]産経夕刊

24、毎日25

林・米山・高森・高崎・佐伯・

海本六人展 21—26 美松画

廊

母と子の為の脇田・堀・稗田・

加山岩崎五人展 21—25 サ

エグサ

京都女流五人展 21—26 上野・

松坂屋

窓々会展 21—25 日本橋・丸

善 [批]萌春30号

三岸節子滯仏作展 21—26 名

古屋・松坂屋

山内金三郎個展 21—26 大阪・

阪急

天羽義安、彩々会バステル画展

21—26 大阪・阪急

2回佐藤多持・幸田脩三二人展

22—27 三省堂

高倉一二近作小品展 23—27

高岡・高志画廊

赤城泰舒遺作展 24—29 銀座・

松屋 [批]毎日25

倉敷ビニロンによる柳悦孝、桑

沢洋子デザイン展 24—29

東京・大丸

清尚会日本画展 24—29 東京・

大丸 [批]萌春30号

池田朋章油絵仏画展 24—29

銀座・松坂屋

童宝絵画院展 24—29 銀座・

松屋

櫻島社新人展 24—28 京都府

ギヤラリー

グループ「目撃者」展 24—27

京都書院

1回グループ「K」展 24—29

京都・丸善

河村光康、服部健二、稲垣穂積、島春男四人展 24—29 名古屋・丸善

鈴木琢磨展 25—29 樺面廊 酒見恒平個展 25—29 兜屋

佐藤利彦、那答院慶昭二人展 25—3月2 サトウ

丸山石根個展 25—3月1 大阪・三越

美術文化小品展 25—29 川崎市・松屋画廊

2回アルファ藝術陳展 26—3月2 村松ギャラリー

アトリエ4月(瀬木慎一) 久保孝雄彫刻展 27—3月3

中央公論社画廊 [批]朝日3月1、産経夕刊3月2、毎日3月3(船戸洪吉)

比田井南谷墨家近作展 27—3月3 養清堂 [批]毎日3月3(船戸洪吉)、アトリエ4月(瀬木慎一)

是松勝美木彫油絵展 27—3月5 なびす [批]朝日1

農院展(日本画家デッサン展) 27—3月3 三原橋画廊

野田好子個展 28—3月3 フォルム

関西創作版画展 28—3月4 日本橋・高島屋

10回三光会日本画展 28—3月4 日本橋・三越 [批]前春

4 日本橋・三越 [批]前春

30号 一九五五年度毎日産業デザイン展 28—3月4 日本橋・三越

走泥社陶展 28—3月3 日本橋・丸善

早川真雄、泉茂二人展 28—3月4 大阪・阪急

5回婢子会東京女流作家人形展 28—3月4 大阪・阪急

狩野芳崖名幅展 28—3月11 渋谷・東横

徳力富吉郎版画展 28—3月4 日本橋・高島屋

明治期の学生制作回顧展 29—3月2 東京藝大

東京藝大本年度卒業作品展 29—3月2 東京藝大

三月

のび六人展 (伊藤昭二、大家鏡郎、牧野一郎、香山逸人、追田潤一、境野一之) 1—10

タケミヤ [批]読売8(徳大寺公英)

2回丹彫会大家彫塑展 1—7 伊勢丹

荻須高徳展 1—18 ブリヂストン [批]毎日1、朝日3、産経夕刊12

勅使河原齋風展 1—11 日本橋・高島屋 [批]読売1(徳大寺公英)、東京5(河北倫

明)、朝日6、毎日6(船戸洪吉)、東京タイムズ9、美術批評、4月(針生一郎、船戸洪)

樺会六人展 1—6 樺面廊 [批]読売8(徳大寺公英)

有島生馬新作展 1—6 日動画廊

村上華岳展 1—25 市立神戸美術館

加藤正作品展 1—15 新宿・風月堂

3回現代巨匠油絵展 1—16 大阪・フジカワ

8回日本アンデパンダン展(読売主催) 1—17 東京都美術館 [批]

産経夕刊5 東京5 難波田龍起

朝日10 岡本謙次郎

読売14 滝口修造

座談 瀬木慎一

アトリエ4月 今泉篤男

美術批評4月 瀨木慎一

美術手帖5月 徳大寺公英

美術手帖5月 植村鷹千代

美術手帖5月(利根山光人、名井万亀、山口勝弘、野中曜子、金子真珠郎、中井勝郎、

河原温、野地正記、和田徹) 2回青玄会工藝展 2—7 東京・大丸

1回ひなどり会木彫展 2—7 東京・大丸

笠城龍杖個展 2—6 京都府ギャラリー

青松会日本画展 2—7 銀座・松坂屋

服部亮英、花厳巖遺作展 3—15 茶碗の会 3—11 日本橋・高島屋

民窯抹茶碗の会 3—11 日本橋・高島屋

2回N.A.V.A.八人展 3—8 銀座・村松

京都工藝美術展 3—10 日本橋・三越

渥美英峰門日本画渡米作品展 3—8 新宿・三越 [批]前

春30号 東西日本画展 4—5 京都・梅軒画廊

根来塗特別陳列 4—4月3 東京国立博物館

菱科順個展 5—10 サトウ

ユネスコ世界巡回中国絵画二千 5—17 中央公論社画廊

中西利雄素描展 5—10 養清堂

弥生会日本画展 5—9 弥生画廊 [批]東京8(久富寛)、前春30号

脇田和水彩、石版画展 5—10

東京画廊 北沢映月個展 5—8 日本橋・丸善 [批]前春30号

伊豆長岡風景スケッチ展 5—10 産経画廊

二紀会関西展 5—11 大阪市立美術館

高島常雄個展 5—10 富士銀行押上支店

樋口富麻呂日本画展 6—11 日本橋・三越 [批]毎日10(船戸洪吉)、前春30号

5回このはな会染色展 6—11 日本橋・高島屋

薔薇会日本画展 6—10 ヤナセギャラリー [批]東京8(久富寛)

荻原寛子個展 6—10 サエグサ

七象会展 6—11 日本橋・三越 [批]毎日10(船戸洪吉)

嫩葉会日本画展 6—11 東洋美術館 [批]前春30号

17回アートクラブ展 6—12 なびす [批]読売15(徳大寺公英)

大雅堂名作鑑賞展 6—11 大阪・阪急

崎谷武男、加治木俊道二人展 7—12 三省堂

三月会展 7—11 樺面廊

2回生岡社展 8—14 新宿・伊勢丹 [批]前春30号

珞光会日本画展 9—14 東京・大丸〔批〕毎日10(船戸洪吉)、朝日10、萌春30号(久富貢)
 NOA新制作会反グループ五人展 9—14 村松
 加藤達美陶器展 9—14 村松〔批〕読売15(徳大寺公英)
 上地瑛一郎日本画展 9—14 銀座・松坂屋
 匹亜展 9—13 日本橋・丸善
 1回漆工藝四人展 9—14 銀座・松坂屋
 素風染織展 9—13 京都府ギヤラリ
 工藝四人展(松田権六門下) 10—14 銀座・松屋
 現代巨匠油絵名作鑑賞展 10—16 大阪・フジカワ
 にせもの、本物展 10—4月15 鎌倉・近代美術館
 グループ・ゼロ展(漫画) 10—15 新宿・プベ
 黒旗集団デッサン四人展 10—19 日比谷画廊
 真島健三作品展 11—20 タケミヤ〔批〕読売15(徳大寺公英)
 山本、武田、宮川三人展 11—15 美松画廊
 篠田桃紅個展 12—17 養清堂〔批〕読売15(徳大寺公英)
 C・C展(新商業美術会) 12—17 サトウ

国宝姫路城観光美術展 12—17 国際観光会館
 1回大阪美術協会展 12—18 大阪市立美術館
 月見里茂個展 12—18 静岡・吉見書店画廊
 5回榎方志功藝業展 13—22 渋谷・東横〔批〕朝日14
 田村一男個展 13—18 日本橋・高島屋〔批〕朝日14、産経夕刊16、毎日17(船戸洪吉)、東京タイムズ17〔記〕美術手帖5月(田村一男)
 2回松竹梅展 13—17 兼素河〔批〕朝日12、毎日13(船戸洪吉)、産経夕刊14(横川毅一郎)、東京14(河北倫明)、日経15(菊門安雄)、三彩4月、萌春30号(久富貢)
 織部焼赤津窯作品陳列会 13—23 日本橋・高島屋
 1回中谷光交個展 13—18 日本橋・高島屋〔批〕三彩4月、萌春30号(久富貢)
 ウェニス・ピエンナレ出品作国内展示 13—18 国立近代美術館〔批〕東京16(岡本謙次郎)、朝日17(植村鷹千代)、美術批評4月(針生一郎、船戸洪)
 1回旦生会日本画展 13—18 上野・松坂屋〔批〕萌春30号
 遠藤教三日本画展 13—18 日

本橋・三越〔批〕三彩4月、萌春30号(久富貢)
 2回朴の実版画展 13—17 文房堂
 2回日本木彫会展 13—18 大阪・高島屋
 シマストーン巧藝展 13—18 大阪・阪急
 山本直治油絵個展 13—18 大阪・阪急
 縁川広太郎個展 14—17 日本橋・丸善
 米倉正弘個展 14—19 三省堂
 黒旗集団デッサン四人展 14—19 日比谷画廊
 三枝会展 15—24 サエグサ〔批〕朝日19、東京20(今泉篤男)、日経25(福島繁太郎)、美術批評4月(針生一郎、船戸洪)
 古賀猛個展 15—20 村松
 片山昭弘、河野芳夫、小林二郎、久保晃展 15—20 村松
 川村久子デッサン展 16—31 渋谷・風月堂
 杉本哲郎宗教画展 16—21 東京・大丸
 空間作陶展 16—20 美松画廊
 日本人形美術院展 16—21 銀座・松屋〔批〕萌春30号
 駒田嘉一路新文人画展 16—21 銀座・松坂屋
 田崎昭作展 17—21 樺画廊

3回甲羅会洋画展 17 京都府ギヤラリ
 1回亀井玄兵衛作品展 17—22 大阪・三越
 らくがき一家展 17—23 なび
 上永井正個展 17—22 大阪・フジカワ
 デザイン展 17—20 千葉大学展示室
 石井弥一郎洋画個展 19—22 日本橋・丸善
 32回白日展 19—31 東京都美術館〔批〕産経夕刊26
 3回現代版画展 19—24 渡辺木版画店
 9回示現会展 19—31 東京都美術館〔批〕産経夕刊26
 8回三軌会展 19—31 東京都美術館〔批〕産経夕刊26
 6回一鏡美術展 19—31 東京都美術館〔批〕産経夕刊26
 萩原英雄版画個展 19—24 養清堂
 小山周次水絵展 19—20 銀座・東電サービスセンター
 美術文化巡迴展 19—21 大分・杵築中学校
 末永胤生渡仏記念展 19—24 国際観光会館
 モダンアート協会展 19—27 大阪市立美術館
 鈴木千久馬近作油絵発表展 20

1—24 日動画廊
 勝田哲個展 20—25 日本橋・高島屋〔批〕三彩5月、萌春30号
 沼田浩、多賀谷伊徳二人展 20—26 サトウ
 春の青龍展 20—4月1 日本橋・三越〔批〕毎日21(船戸洪吉)、東京夕刊26(久富貢)、朝日27、産経31、萌春30号、三彩5月
 立働会新会員作品発表展 20—24 文房堂
 全京都美術教室懇話会展 20—21 京都市美術館
 有島生馬回顧展 20—31 プリヂストン
 宍戸徳子展 21—31〔記〕美術手帖6月(宍戸徳子)
 3回古城弘個展 21—26 村松
 八木保次個展 21—26 村松
 小山周次水彩画展 21—25 銀座・東電サービスセンター
 李田たけを個展 21—25 兜屋
 近馬治、小崎雄司二人展 21—26 文房堂
 6回VIVAN展 21—25 美松画廊
 ザ・ファミリィ・オウ・マン写真展 21—4月13 日本橋・高島屋〔批〕東京夕刊26(今泉篤男)、日経4月1(田近憲三)、読売4月2(富永悠二)

- 近藤せい子展 22—29 産経画廊
- 美術文化神奈川展 22—26 横浜・中小企業会館
- 1回青年造型集団展 22—25 岡山・日米文化センター
- 2回関東私鉄沿線風景南画展 23—29 新宿・伊勢丹 [批] 萌春31号
- 1回車内ポスター展 23—27 折込広告社
- 山下清作品展 23—4月18 東京・大丸 [批]朝日28、産経夕刊28(阿部展也)、読光29(徳大寺公英)、東京夕刊31、毎日4月18
- 川端実個展 23—27 銀座・松屋 [批]東京27(岡本謙次郎)、朝日27、毎日27(船戸洪吉)、読光29(徳大寺公英)、みづゑ5月(東野芳明) [記]美術手帖5月(川端実)
- 山口矩子個展 23—27 日本橋・丸善
- 依岡恒喜個展 23—28 東京・大丸
- 4回柳緑会人形展 23—28 銀座・松坂屋 [批]萌春30号
- 芝田米三個展 23—27 京都府ギヤラリー
- 2回瀬戸陶藝作家展 23—4月1
- 1 渋谷・東横 [批]萌春30号

- 7回造型教育センター展 24—30 なびす
- 全中部アンデパンタン展 24—30 名古屋・愛知県美術館
- 石橋朗子新作タイトル、鉄細工展 26—30 ヤナセ
- 新鋭十五人展(赤穴宏、芥川沙織、東貞美、織田広喜、小野忠弘、勝呂忠、難波田龍起、浜田知明、福島秀子、山口勝弘、久保孝雄、篠井欽治、藤田昭子、峯孝、向井良吉) 26—31 中央公論社画廊
- [批]東京夕刊29(岡本謙次郎) 10回宮脇公実個展 26—31 養清堂 [記]美術手帖6月(宮脇公実)
- 矢野茫土個展 26—28 三原橋画廊
- 染織作家五人展(吉田重郎、栗原宏、暮田延美、二科十郎、野口道方) 26—31 国際観光会館ギヤラリー [批]萌春30号
- 4回L E T T I A展 26—31 美松画廊
- 竹藝六人展(飯塚小玗斎、林尚月斎、横田峰斎、中田錦石、近藤実、平沼浄) 27—4月1 日本橋・高島屋
- 鎌倉彫展示会 27—4月1 日本橋・高島屋
- 村上善男個展 27—31 文房堂

- きぬた会造型染織展 27—4月1
- 1 村松 [批]萌春30号
- 楠野友明個展 27—4月2 三省堂
- 青尚会展 27—30 弥生画廊
- 形象派会員展 27—4月1 村松
- 第一美術会員小品展 27—30 上野・松坂屋
- 近藤真悦、池田修三二人展 27—29 産経画廊
- 野村東山日本画新作展 27—4月1 大阪・阪急
- 杉英治油絵個展 27—4月1 大阪・阪急
- 卒業生秋送展 28—30 東京藝大
- 戸田綾子個展 28—31 日本橋・丸善
- 峰岸市郎、安谷大、堀内第三三人展 28—4月3 サトウ
- けるぼあ会展 30—4月2 産経画廊
- 3回三季会展 30—4月4 銀座・松坂屋
- 太平洋画会染色展 30—4月4 東京・大丸
- 誉田文字手藝展 30—4月5 新宿・伊勢丹
- 5回錚々展(金工工藝) 30—4月3 京都府ギヤラリー
- グループ8人展 30—4月1 京都書院画廊

四月

- 有島生馬新作油絵展 1—8 日動画廊
- 2回小山田チカエ個展 1—10 タケミヤ [批]アトリエ7月
- (瀬木慎一)
- 江戸城五百年記念大名展 1—12 上野・松坂屋
- 七大家富岳日本画展(大観、玉堂、桂月、翠嶂、鞆彦、青邨、龍子) 1—8 上野・松坂屋 [批]萌春31号
- 関西総合美術展 1—22 大阪市立美術館
- 兵庫県下国宝及重要文化財展 1—5月13 神戸・白鶴美術館
- 南蛮美術展 1—25 市立神戸美術館
- 中谷龍一展 1—5 美松画廊
- 島田直平個展 1—6 求龍堂
- 川端実個展 1—15 新宿・風月堂
- 矢島甲子夫個展 1—15 渋谷・風月堂
- 山中春雄エンピツによる作品展 2—7 村松 [批]アトリエ7月(瀬木慎一) [記]美術手帖6月(山中春雄)
- 蕭繁宝個展 2—7 養清堂

- 田中寅三洋画作品展 2—7 中央公論社画廊
- 大井治子染色展 2—7 文房堂
- 藤沢典明、片谷隼子二人展 2—7 村松 [批]アトリエ7月(瀬木慎一) [記]美術手帖6月(藤沢典明)
- 藤田高日子個展 2—7 産経画廊 [批]産経7 萌春32号
- 彩交会日本画展 3—8 日本橋・三越 [批]東京夕刊6(野間清六)、産経夕刊9(横川)、三彩5月、萌春32号
- 9回京都市工芸美術展 3—8 日本橋・三越
- 女子美大60回生卒業制作展 3—7 日本橋・丸善
- 42回光風会展 3—18 東京都美術館 [批]東京夕刊6(岡本謙次郎)、朝日7(嘉門安雄)、毎日12(船戸洪吉)、産経時事30、美術手帖6月(岡本謙次郎)、みづゑ6月(柳亮)、萌春31号(堀田松三郎) [記]美術手帖6月(森田元子、笹岡了一、小糸源太郎) [受賞]
- (絵画) 岡田賞—矢口洋、南賞—庄司栄吉、光風特賞—岡崎勇次、留岡彬、千名恒光風賞—時田幸彦
- (工芸) 工芸特賞—伊勢珠

子、大植年郎、光風工藝賞—大須賀選、工藝賞—野上隆、原稻生、米沢修

会員出品目録

六郷土手内山 孝
 役馬伊藤四郎
 水槽静物伊藤四郎
 ガラス花瓶と水槽
 鍋の魚杉村 惇
 廃棄された船輪
 イリゼエルとレベッカ
 ノートルダム 笹岡了一
 パリーの裏通り 西山真一
 パライカをひく男 南 政善
 裸婦 高光一也
 マルセイユの窓 藤本東一良
 キヤニユの丘
 マルセイユ港
 西風 黒田頼綱
 柘榴のある静物 米本一郎
 裸婦とシャンデリア
 ギヤマンと裸婦
 黒い月 西村愿定
 CIRQUE DE JOUR
 テニスの後で 金沢秀之助
 よみのひら坂 (古事記より)
 鳥舎 由里 明
 椅子による 飯田弥生

裸婦 飯田弥生
 建設 浅井光男
 裸婦 笹鹿 彰
 神戸風景 久本弘一
 須磨風景 鶴 幸雄
 水族館 長原 坦
 洋蘭 緒方亮平
 室内 耳野卯三郎
 画室の静物 河井清一
 女 角野判治郎
 風 和田香苗
 桜島初春 安達真太郎
 醇酒静物 鬼頭鍋三郎
 冬のサンクール 鬼頭鍋三郎
 マドモアゼルM 鬼頭鍋三郎
 須磨の朝 辻 永
 裸婦 中村研一
 窓 有馬三斗枝
 残雪 石橋武治
 冬 枯 小林真二
 春 雪 小糸源太郎
 天 主 堂 中 弘光
 若草山より大仏殿を瞰る
 秋 赤良の秋 寺内萬治郎
 赤布に臥す裸婦
 山村早春 江藤純平
 赤い帽子の女
 雪 小寺健吉
 秋の山
 椅子に倚るM嬢
 ばんの静物 山田新一
 駒ヶ岳残雪 舟木徳重
 スペインの踊り 辻村八五郎
 子

読書の 辻村八五郎
 冬の山 辻村八五郎
 残雪 島野重之
 H 氏 菅谷邦敏
 雪 空 荒井邦朝
 本を見る 田中実一
 残習船のある 高木春太郎
 陶器の町 庄司栄吉
 画室の女 青い服の肖像 水上信雄
 女 山下忠平
 梅 山 信雄
 日 南海岸 朝比奈文雄
 霜 朝比奈文雄
 K 氏 憩ふ 小川博史
 A パレリーナーN 小川博史
 B パレリーナーN
 パレリーナーC
 画室小閑村岡平蔵
 巴里 区 新保兵次郎
 運 河 宮 脇 三
 紅いセーター 秋元松子
 婦人 像 秋元松子
 冬 秋 元 松子
 秋の野 松尾正巳
 湘南の駅 岡田又三郎
 熱海 伊藤悌三
 横隊裸婦

大苺の咲く庭A 西村喜久子
 坐化の休憩像 藤江理三郎
 道化の休憩像 阪倉宜暢
 初春の通り(パユイ・リユイ・シユイ・リユイ) 山喜多二郎太
 庭の雪 森田元子
 庭の雪 森田元子
 裸婦 森田元子
 女 アツシジの城壁 田村一男
 オリーブの丘 田村一男
 マドリッドの丘 井手宣通
 セーヌ河畔 溝江勘二
 雪 溝江勘二
 丘 高宮一栄
 小川のほとり 高宮一栄
 岩風 呂 枝 土佐林豊夫
 小 枝 山口猛彦
 武 蔵 野 山口猛彦
 伊豆 早 春 高橋道雄
 海 辺 高橋道雄
 曇 日 星野正三
 松 林 森 桂 一
 街の秋 藤彦衛門
 坐 像 藤彦衛門
 谷 白 教 会 の 街 三 輪 孝
 雨 白 教 会 の 街 三 輪 孝
 白い教会の街三輪 孝
 白い教会の街三輪 孝
 白の壺 市ノ木慶治
 O君の像 大原省三
 パントマイム

驟雨 清原重以知
 面のある静物 白石隆一
 魚馬 遠山清
 競馬A 遠山清
 画室にて 北浜 淳
 スタート 戸田 定
 赤いセーターの少女 鳥居 昇
 丘と海 和田 清
 樹 熊沢欽三
 静物A 熊沢欽三
 西尾末広氏像 藤井芳子
 溪流(奥入瀬に) 梶原貫五
 庭の一隅 梶原貫五
 舞子とバラ 上島一司
 早春水門 核田精一
 水門と橋 西岡義一
 杜 春 黒田久美子
 庭 春 黒田久美子
 庭に携るコンポジションA 柳瀬俊雄
 椅子とテーブル 足代義郎
 鳥の児のいる群像 岩船修三
 女の児のいる群像 矢口 洋
 犬のいる群像 矢口 洋
 風 景 故 花 巖 蔵
 静物 巖 蔵
 室内

持 国天像 益山英吾
 厨 房一隅 鈴木三五郎
 庭 入重洲通風景 大倉克次
 街 教会の窓 山中清一郎
 裸 婦坐像 相津莊一
 立 像 裸婦 小林易夫
 秋 岬 雪岡本由郎
 残 雪岡本由郎
 静 物 中条 茂
 下 曾我的梅敷服部亮英
 湖 畔 安茂里風景 宇城時志
 三 ま 人 宇城時志
 は ま べ 井上 武
 仕 事場の男 守屋千之
 街 仕事場の仲間 松本 正人
 早 春の港 川端謹次
 突 堤を望む 竹沢 基
 坐 像 竹沢 基
 バレ リー ナ 尾崎 侃
 古 城 跡 尾崎 侃
 建 物 石河彦男
 鏡 馬場の丘 隅反町博彦

静 寂 反野博彦
 T 嬢 田中 実
 婦 人 像 大河内信敬
 か ぶ ぶ 大河内信敬
 か ぶ ぶ 大河内信敬
 ば ば 山本彰一
 裏 街 山本彰一
 風 景 山本彰一
 師 崎の池 野寿彦
 静 物 中島音次郎
 高 原 斎藤 斉
 静 物 木村八郎
 駝 鳥 幸島重雄
 沖 繩の女 名渡山愛順
 山 村(田代部落) 足立真見
 山 村(城捨山麓) 神保和幸
 い こ い 神保和幸
 薔 薇 山村孝太郎
 少 憩 山村孝太郎
 水 遊 戸塚孝三郎
 自 画 高田正二郎
 淵 伊 藤 館一
 脱 衣 西村俊郎
 早 春 古屋浩蔵
 芽 ぐむ 頃 野平 上
 三 月 街 野平 上
 水 門のある風景 伊藤 久
 南 房 風景 坂田虎一
 雨 の牛込見付 坂田虎一
 崖 の道 椿井春雄
 暖 い 丘 松浦莫章
 城のある風景 松浦莫章

工 藝

置 物 久保駒太郎
 バツル集レリ 武内信弘
 額 三井義夫
 硝子皿少女の顔 一噌元治
 雪に 働く 山形駒太郎
 壁面装飾(海浜) 中村董一
 染 額 つくる 小林 清
 銅 鏡起釉彩額 西村英夫
 彫 鉄線文鉢 福原達朗
 硝子花瓶顔 一噌元治
 人物文花瓶 帖佐美行
 空 宮之原 謙
 盛器と花さし 中村俊介
 花 瓶 三井義夫
 漆 樹 影 三輪智一
 花 と 仏 頭 般若侑弘
 風 壁 掛 海野建夫
 白 磁 壺 松風栄一
 ハンドバッグ 大久保婦久子
 コンパクト 上野正之輔
 ガラス器 上野正之輔
 カトリヤ文小花 帖佐美行
 瓶 盆 福原達朗
 香 止(七個) 山形駒太郎
 芽 出し 頃 武内信弘
 パネル(熱帯幻想) 武内信弘
 街 の人 鷺田らめゑ
 菊 文 花瓶 帖佐美行
 梔子鉄絵皿 福原達朗

15回創元会展 3-18 東京都
 美術館〔批〕東京夕刊6(岡本謙次郎)、毎日12(船戸洪吉)、産経時事30、美術手帖6月(岡本謙次郎)
 〔記〕美術手帖6月(小野彦三郎、鈴木千久馬)
 新興美術院展 3-13 東京都
 美術館〔批〕朝日5(河北倫明)、日経11(野間清六)、萌春32号
 15回一采社展 3-18 日本橋・高島屋〔批〕産経夕刊9(横川)、三彩5月、萌春32号(横川毅一郎)
 アートクラブ展 3-9 なび
 5回五水会展 3-18 渋谷・東横〔批〕萌春31号
 藤飯治平油絵展 3-18 大阪・阪急
 2回京都市民合同美術展 3-18 京都市美術館
 8回Camarade展 3-17 日本橋・丸善
 6回未更会展 4-17 兼素洞〔批〕東京夕刊5(久富貢)、朝日5(河北倫明)、日経6(嘉門安雄)、『三彩5月、萌春31号
 宇治[平等院]展 4-15 日本橋・白木屋
 新制作日本画展 4-10 京都

市美術館
 4回JAC展 4-15 鎌倉、屏喫茶
 1回グループ「眼」展 5-11 サトウ
 新指定国宝・重文特別展観 5-15 東京国立博物館
 安井曾太郎遺作展 5-15 5月13日 国立近代美術館
 〔批〕
 説光 5 徳大寺公英
 毎日 8 土方 定一
 日経 8 田近 憲三
 日経 15 福島繁太郎
 東京タイムズ 17 瀬木 慎一
 産経夕刊 18 柳 亮
 出品目録
 南禅寺風景 浅井塾時代
 自 画 像 1906
 グレー風景 1908
 田舎の寺 1909
 自 画 像 1907
 農 夫 像 1909
 農 夫 像 1909
 水 浴 像 1914
 習 作 1908
 習 作 1908
 農 村 風景 1910
 農 家 庭 景 1910
 風 景 1911
 パンと肉 1910
 風景(春の家) 1911

垣 女 像 1911
 小 女 像 1912
 風 景 1911
 アネモネ 1912
 風景(麓の町) 1913
 自画像 1913
 縫物する若き女 1913
 山間の小き町 1913
 赤き屋根 1913
 女宿の人々 1914
 湯崎風景 1915
 壺に花 1912
 樹に蔭 1919
 山の見える町 1913
 グロキシニヤ 1917
 巴里の緑日 1912
 裸の髪の日 1912
 黒き髪の日 1913
 足洗う女 1913
 孔雀と女 1914
 春 1916-9
 裸婦 1920
 海辺裸婦 1920
 臥せる裸女 1922
 臥せる裸女 1923
 立てる裸女 1924
 京都郊外 1923
 桐の木(京都郊外) 1924
 京都郊外 1925
 京都郊外 1924
 京都郊外 1924
 京都郊外 1924
 京都郊外 1924

素焼壺にダリア 1924
 柿実る頃 1924
 黒き髪の日 1924
 京都風景 1927
 京都市景 1926
 画面 1926
 モデル 1924
 柿実る頃 1927
 林檎と薔薇 1927
 桐の花咲く庭 1925
 ダリア 1925-6
 桃 1928
 静物 1928
 青磁壺にダリア 1926
 花をいける少女 1928
 熱海風景 1929
 座敷 1929
 奥入瀬(溪流) 1932
 奥入瀬(溪流) 1930
 奥入瀬の溪流 1933
 顔(婦人像) 1931
 薔薇 1931
 裸婦モデル 1931
 (ホルゼゼンモ) 1931
 庭景(ホテルの) 1929-30
 T夫人像 1931
 菊 1931
 外房風景 1931
 外房風景 1931
 外房風景 1931
 田村氏像 1932
 風景 1933

T先生像 1934
 十和田湖 1934
 裸女 1934
 金芙蓉 1934
 外房風景(犬吠岬の夕) 1934
 十和田湖の秋 1935
 女児 1936
 パ原風景 1935
 鶴原風景 1935
 十和田湖 1935
 薔薇 1935
 紅葉する黄燼 1935
 松と睡蓮 1935
 薔薇 1934
 仕事の本多先 1936
 生桃(水蜜桃) 1936
 裏盤梯の初秋 1936
 薔薇 1936
 秋の奥入瀬 1936
 本多博士像 1936
 三寶柑 1935
 菊 1936
 雄子 1936
 モデル 1933
 十和田湖(箱崎) 1933
 薔薇 1933
 デッサン5点 1905-6
 洗濯する女達 1908
 村の女 1909
 風景 1912
 風景 1912

室内 1910
 花物 1912
 静景 1912
 風景 1910
 風景 1910
 縫物する娘 1910
 村休 1909
 裸体 1908
 静物 1910
 花家 1909
 農家 1909
 風景 1909
 落合風 1935
 黒き髪の日 1912
 伊豆山の春 1919
 モデル 1925
 ダリ 1927
 ヌリ 1927
 初夏 1927
 初秋 1927
 早春 1928
 小春 1928
 ばら 1928
 アネモネ 1930
 外房風景 1931
 菊 1931
 梨柿 1933
 風景 1933
 薔薇 1936
 盤梯 1936
 松島残雪 1936
 ダリ 1928
 静物 1928

三寶柑 1933
 柿 1937
 須美徳寿廟 1937
 卓上静物 1937
 実る柿 1937
 林檎 1937
 果実 1937
 少女 1937
 少女 1937
 肖像(深井英五) 1937
 庭雪 1937
 パラ 1937
 京城風景 1938
 長与又郎博士肖像 1938
 霞沢岳 1938-9
 承徳喇嘛廟 1938
 承徳喇嘛廟 1938
 卓上静物 1938-9
 初秋の明神岳 1939
 焼夫人像 1939
 F夫人像 1939
 パラソルの女(半身) 1940
 桃 1940
 穂高の秋 1941
 九谷皿に水蜜桃 1941
 上高地晩秋図 1941
 静物(桃) 1943
 薔薇 1943
 静物 1943
 連雲の町 1944
 松原氏像 1944

菊	1940
焼岳(上高地風景)	1941頃
女と犬	1940
卓上静物	1941
焼と穂高岳	1941
池と穂高	1941
読書(婦人像)	1942
果物	1943
北京風景(初秋の北京)	1944-5
安倍先生像	1944
宇佐美氏像	1945
藤山氏像	1948
M子氏像	1949
石榴と柿	1945
桔梗	1945
大観先生像	1946
桜	1945
婦人像	1946
水蜜桃	1946
徳川氏像	1948
古赤絵皿の桃	1949
小坂氏像	1949
連雲の町	1948
古赤絵の鉢に桃	1948
白樺と焼岳(上高地風景)	1939-40
北京の朝	1948
ギリシャ壺の蓋	1949
化粧する女	1949
桃	1949
古九谷の皿に西洋梨	1949

卓上の桃	1950
湯河原風景	1950
小宮君像	1950
孫	1950
来之宮風景	1950頃
女と薔薇	1950
大内氏像	1950
画室にて	1951
桃	1951
薔薇	1951
黒卓の桃	1952
桃	1951
孫	1949
ば	1952
立	1951
立	1952
来之宮風景	1952
腰かける裸女	1952
湯河原風景	1952
湯掛けのポーズ	1953
蝦と果実	1952
薔薇	1952
葡萄	1952
桃	1952-3
柿	1952
葡萄	1952-3
オランダ皿の桃	1953
洋面木蓮	1953
扇	1953
水蜜桃など	1953
鯛	1953

銀化せる鯛	1953
薔薇	1954
はちす	1954
静物	1954
薔薇	1954
檪	1954
銀襖前の静物	1954
肥後菖蒲	1954
赤き橋の見える風景	1954
無花果	1955
渡辺忠雄氏像	1955
かお	1955
甘鯛	1955
安倍能成君像	1955
桃と葡萄	1955
ポ	1955
葡萄とヘルシヤ	1955
大河	1955
河上氏像	1955
秋の城山	1955
薔薇	1938
日傘の女	1940
焼岳	1940
卓上静物	1941
静物(栴檀と栗)	1943
連雲の海	1944
果物	1947
静物	1949
古九谷の鉢に桃	1949
林檎	1949
卓上静物	1950
静物	1943

湯河原風景	1952
柿	1953
柿とレモン	1954
城山	1955
河上氏像	1955
レモンとメロン	1955
ギリシヤ壺と林檎	1950頃
桃とヘルシヤ鉢	1954
赤蕉	1941頃
葡萄と柿	1953頃
栗	1946頃
静物	1941頃
桜と鉢形城趾	1945
薔薇	1954
ベルシヤ壺と水	1955
仙	1955
蜜柑	1955
浅井熟時代デッサン	
滞欧時代デッサン	
文藝春秋表紙原画	
文藝春秋別冊表紙原画	
鉛筆デッサン	
太平洋画会染織部小品展	6
11 東京・大丸	
宮原克美展	6-10
古瀬素石日本画展	6-11
座・松屋	
京都アンデパンタン展	6-15
京都市美術館 [批]美術批評	
5月(中村義一)	

9回中部二紀展	6-11	名古屋
屋・愛知県美術館		
松下明治治瀧川作展	6-10	京都
都府ギャラリー		
ブルーPORT美術展	6-8	宮崎
宮崎・貿易会館		
張大千画敦煌石窟壁面模写絵展		
7-18 銀座・松屋		
立元敏雄、沢井義明、武田利康、一ノ瀬茂治四人展	7-11	銀座・樺画廊
2回アルファ藝術陣名古屋本展		
7-15 名古屋・愛知県美術館		
長谷川潔制作版画展	7-14	大阪・フジカワ
比田井天来記念前衛書展	8-1	13 村松
仁清名作展	8-5月6	根津美術館
日本古陶磁展	8-15	東洋美術館
村井正誠個展	9-17	養清堂
今井鱸人近作油絵展	9-16	中央公論社画廊
内田如風個展	9-14	東京画廊
中村信生展	9-14	文房堂
チリ児童画展	10-11	YMC
A 同盟会館		
6回日本漆工藝会展	10-15	日本橋・高島屋 [批] 萌春31号(堀田松三郎)

11回日本美術院小品展 10—15
 日本橋・三越〔批〕前春31号
 長野静司個展 10—14 フォル
 ム
 中村瑠璃子個展 10—14 サエ
 グサ
 新興美術院会員展 10—15 上
 野・松坂屋
 沖繩民藝展 10—15 渋谷・東
 横
 せえぬ会日本画展 10—15 日
 本橋・三越
 12回武石勇漆画・漆藝展 10—
 15 大阪・阪急
 田川勤次個展 10—15 大阪・
 阪急
 村瀬隆ミニアチュール展 10—
 15 日本橋・丸善
 9回京都工藝展 10—15 日本
 橋・三越〔批〕前春31号(堀
 田松三郎)
 7回彩尚会展 11—14 壺中居
 〔批〕前春31号
 岡崎祇容水彩画展 11—15 美
 松画廊
 横地康国個展 11—20 タケミ
 ヤ
 2回青年書家グループ展 12—
 15 樺画廊
 大井基アメリカ風景水墨展 12
 —14 国際観光会館
 1回VAN展 12—15 山形市・
 公民館ギャラリー

10回中部水彩展 12—18 名古屋
 屋・愛知県美術館
 7回グループVIEWAN展 13
 —18 サトウ
 香炉と香合の会展 13—15 日
 本橋・高島屋
 大智澄之・篠田守夫彫刻展 13
 —17 三省堂
 グッド・デザイン展 13—18
 銀座・松屋
 宮田重雄個展 13—18 銀座・
 松坂屋
 大谷房吉油絵展 13—18 東京・
 大丸
 森公孝遺作展 13—16 京都府
 ギャラリー
 双美会展 13—14 銀座・東電
 サービスセンター
 二科春季展 13—24 銀座・松
 坂屋〔批〕朝日18、読売19(徳
 大寺公英)、美術批評5月(竹
 林賢、森村竹造、東山子平)、
 みづゑ6月(針生一郎)、アト
 リエ7月(瀬木慎一)
 中部水彩展 13—18 名古屋・
 愛知県美術館
 素仙洞日本画展 13—18 新宿・
 伊勢丹
 春の青龍展 14—19 大阪・三
 越
 3回交通人総合文化展 14—22
 渋谷・東横
 国宝日光輪王寺展 14—22 渋

谷・東横
 1回青人展 14—19 村松
 中西利雄滞欧作水彩画展 16—
 21 日動画廊
 細田洋二個展 16—22 文房堂
 黄芽会展 16—19 日本橋・丸
 善
 日吉力個展 16—20 美松画廊
 中原清隆洋画展 16—21 中央
 公論社画廊
 4回日本彫塑展 16—5月8
 東京都美術館
 上野山清眞作品展 16—21 国
 際観光会館
 中井幸一個展 16—30 新宿・
 風月堂
 三原橋画廊日本画展 16—21
 三原橋画廊〔批〕前春32号
 3回サンシュマン展 17—22
 日本橋・高島屋
 水十二題日本画展 17—22 日
 本橋・高島屋〔批〕産経時事
 夕刊20(横川)、前春32号
 田村耕一作陶展 17—22 日本
 橋・高島屋〔批〕前春31号(堀
 田松三郎)
 日本画・洋画大家新作展(第三
 回交通人総合文化展協賛)
 17—22 渋谷・東横
 新制作協会春季日本画展 17—
 22 日本橋・高島屋〔批〕朝
 日21、三彩6月、前春32号
 桂ユキ子油絵個展 17—23 兜

屋〔批〕毎日21(船戸洪吉)、
 アトリエ7月(瀬木慎一)
 独立美術会春季展 17—22
 日本橋・三越〔批〕朝日19、
 読売19(徳大寺公英)、みづゑ
 6月(針生一郎)、アトリエ7
 月(瀬木慎一)
 福田翠光日本画展 17—22 日
 本橋・三越〔批〕前春32号
 山田稔ウイトレ発表展 17—18
 銀座・東電サービスセンタ
 日本画観光美術展 17—22 渋
 谷・東横
 行動美術春季展 17—22 日本
 橋・三越〔批〕朝日18、読売
 19(徳大寺公英)、美術批評5
 月(竹林賢、森村竹造、東山子
 平)、みづゑ6月(針生一郎)、
 アトリエ7月(瀬木慎一)
 香月泰男油絵個展 17—21 フ
 オルム〔批〕毎日21(船戸洪
 吉)、アトリエ7月(瀬木慎一)
 田中阿喜良、野尻弘、貝原六一、
 玉沢潤一四人展 17—22 大
 阪・阪急
 九記会展 17—23 なびす
 浮世絵版画名作展 17—29 名
 古屋・文天堂
 前田青邨教授文化勲章受賞記念
 展 18—22 東京藝大陳列館
 〔批〕産経時事夕刊20(横川)、
 東京夕刊20(河北倫明)、三彩
 6月

小倉逸龜、太田聰雨新作二人展
 18—21 兼素洞〔批〕産経時
 事夕刊20(横川)、東京夕刊20
 (久富寛)、朝日21、日経22(嘉
 門安雄)、美術批評5月(竹林
 賢、森村竹造、東山子平)、三
 彩6月、前春31号
 視群展 18—23 三省堂
 3回松本慎三バラ画展 18—23
 銀座・松坂屋
 4回現代版画展 19—28 渡辺
 木版画店
 5回古美術展—琳派名作特別陣
 列 19—5月23 大阪・藤田
 美術館
 春の野外創作彫刻展 20—5月
 10 日比谷公園
 春季特別展—古染付の鑑賞—
 20—5月8 鎌倉・国宝館
 岡部繁夫個展 20—25 村松
 館石昭個展 20—25 村松
 庭野福次郎滞米作品展 20—25
 銀座・松坂屋
 竜土会日本画展 20—25 銀座・
 松屋
 淡島雅吉硝子作品展 20—25
 東京・大丸
 矢部友衛個展 20—24 日本橋・
 丸善
 来迎美術展 20—5月20 奈良
 国立博物館
 椿貞雄個展 20—29 上野・松
 坂屋

いちい会独立五人展 20—24

大阪・梅田画廊

2回尾野清一個展 20—22 八

戸市・丸美屋

33回春陽会展 20—5月6 東

京都美術館

〔批〕

朝日25 富永 惣一

東京タイムズ25 嘉門 安雄

読売26 徳大寺公英

産経時事30

東京夕刊5月2 岡本謙次郎

毎日5月2 土方 定一

美術批評5月 竹林 賢

森村 竹造

東山 子平

みづゑ6月 柳 亮

美術手帖6月 岡本謙次郎

アトリエ7月 瀬木 慎一

〔記〕

美術手帖6月(岡鹿之助、中

谷泰、藤井令太郎、南大路

一、五味秀夫、三雲祥之助)

〔受賞〕

春陽会展賞—安喰虎雄、宮城音

蔵、金子和一郎

研究賞—福地敬治、関頼武

会員推挙—小柳秀太郎、中山

爾郎、高木勇次、市川晃、

松村禎夫、関四郎五郎、中

島八郎、清宮實文

準会員推挙—五味秀夫、山本

朝子、出岡実、徳田信保、

春掛利通、八木伸子
出品目録

印会員
△印準会員

こわれた車 三浦 哲夫
黄色い花 △小柳秀太郎
チューリップ △
くちなし △
鳥 笠松 春彦
きいろいキリス 伊藤 禎朗
ト 夫 宮城 音蔵
農 夫 宮城 音蔵
家 族 △
外 川 巷 △
影のある空感(A) 五味 秀夫
△(B) △
△(C) △
作 品 福地 敬治
手 品 師 △
はす池の鯉 南城 一夫
サンテケエンス。村 山 密
ヂエモン広場 △
カテドラル △
ころんだ椅子。藤井令太郎
人 間 塔 水井 美夜
静 物 広 永京子
花 (赤) △
△(青) △
け し 藤沢 康子
悩める私 瀬茂 治
潮 騒 中山 爾郎
化 身 △
た く 卓(A) 八木 伸子

食 卓(B) 八木 伸子
鳥、二 羽 高瀬 保栄
交叉するパイプ 山本 千香子
パイプとレンガ △
パイプ(縄) △
街 カス 田畔 司朗
庭 故 △
面などのある静 永田 照枝
物 まき あげ △木本 晴三
まき あげ △
タンクと風景 △
ひまわり 川上 尉平
母 子 像 △
ひろ子 像 △
丘 (おか) 田中 岑
陵 (おか) △
二つの花 高楠 昭子
飛 翔 森村 惟一
鶏 杉浦 延寿
鳥・海・太陽 △
鳥 二人 女A △越智 雄二
二人の女B △
超 重 機 安谷屋 正義
静 物 酒井 弘子
金魚とあぢさい △東 晴司
五月の庭 竹内 延江
鶏 (舎明) △日下昌三郎
水門 暮色 矢野 義次
真 夜 中市川 晃

開拓村十周年△市川 晃
貝とランプ 亀野 積治
花 岩月 吾郎
青い石切場 池田 彰
工 場 斎藤 昭雄
残雪の山 春掛 利道
雪の夜 △
ランプA 斎藤 勉
菊 B △
松田 泰子
黎 明 藤野 竜
静 物 中村 徳三郎
古風な汽罐車 △
裸 婦 荒木 市三
洗濯物のある風 △
景 酒を呑む男 △
静 物 △高木 勇次
赤い魚A △
△ B △
壺 山根 義雄
静 物 竹内 三郎
工 場 黒木 邦彦
漂 う 眼 △三井 永一
組 画
秋の昆虫記(其一)
嫌なトウモロコシの欠伸
不精者のパツタ

緑の中の子 宮脇 晴
シャボン玉 △
まゆみちゃん 小穴 隆一
静 物 △
黄 槩 山 川端 弥之助
河 岸 高橋 辰雄
花 春 △
早 景 △石井 鶴三
海 相 撲 △
窓 外 日 没 △木村 荘八
窓 外 白 日 △
青い静物 小川 マリ子
赤い静物 △
灰色の静物 △
乙 女 椿 △本 莊 赳
更 沙 椿 A △
△ B △
ボスニヤにて 倉田 三郎
ルサーン湖 △
花 景 △横堀 角次郎
風 景 △
高原初秋(昼) 伊川 鷹治
△(曇) △
高 原 新 緑(朝) △
花を持つ 大沢 鉦一郎
座 着 女 若山 為三
肖 像 △
泰 山 △土屋 義郎
麦 秋 △
富士川風景 △
おんなな達 大庭 勝郎

モンマルトル。角南松生
タルクニア
モンマルトル
パン
アジュール
ローマアッピア
街道
工場裏の静物 渡辺 一夫
原つばの静物
画架など 徳田 宗忠
青の感情。南大路 一
音
菊
机上静物
あけ び
牛を売る 市水 谷清
牛
月と太陽 夜三 吉雅子
人と太像
群像
静物の入口 鈴木 年明
村の入口 都築 武雄
超 重 機 中 谷 泰
炭 坑
朝顔
運 河 松 藤 二 郎
さかり場の路地 寺本 国男
ビルデング 高荷 富男
魚
漁港の岸壁。福田 庸一
夏のコンボジ
ン(衣服の単
純化)
三人の男
鮎漁船の出航 小穴 武豊

トランペットを 小穴 武豊
吹く男
颯風 一 過 松ノ谷 美枝子
入 院
花 中 村 久 五
藍那風景 鈴木 敏 薰
山の平原 小川 洋子
静物 己 谷 沢 鉄 三
自 己 谷 沢 鉄 三
街 具 箱 関 端 貞 雄
色 具 箱 関 端 貞 雄
静物(鳥) 山田 栄 作
淡流 大谷 俊 治
船 前 田 清 子
青い卓の静物 谷 中 茂
白壁の家 浜野 政 治
風 景(C) 佐々木 照
黄いボイシとマ 上野 亜 那
裏路 狩野 幹 夫
静物 阿部 佳 男
工場の跡 高垣 又 太郎
秋日の建物 谷口 一 芳
静物 長岡 一 敏
夏みかん 大久保 圭 子
停車場 千本 祐 三
網 (B) 巻本 辰 夫
梅 (B) 林 智 子
立つて 上 林 智 子
飛 魚(B) 大川 進
室 (B) 内 田 中 重 治
コンクリートとブ 藤島 清 雄
ロクとにわとり

パヨリンのある 河野 昭 二
生物(B) 船 加藤 助 八
漁船(C) 河内 股 利
魚のある生物 稲垣 毅
二つの顔(B) 山口 き み
花 (A) 入江 規 子
横顔 佐藤 敏 夫
花と生物 藤崎 敏 夫
壺と裸 前田 謙 一
枯葉と山鳥(A) 前田 謙 一
ス (B) 前田 武 彦
オーケストラ 宮田 武 彦
眠たい楽団 武 繩 道 子
春 武 繩 道 子
水の仙 前田 和 子
朝の家々 前田 和 子
古びた学校 松村 楨 夫
幾何学的体験 (ジャンクルジ) 松村 楨 夫
光と速度(ジャ 松村 楨 夫
ムジャンクルジ) 松村 楨 夫
光と速度(ジャ 松村 楨 夫
ムジャンクルジ) 松村 楨 夫
メトロポリス 三雲 祥 之 助
ハリスの審判 鹿之助
失 桑 園 鹿之助
並 木 岡 鹿之助
花と動物 佐藤 篤 郎
カボチャ 原田 平 次 郎
花 原田 平 次 郎
山 松 下 忠
家族(葉子のい 松 下 忠
る) 松 下 忠
赤い煙突の風景 秋元 恒

風景 景 藤 永 正 二
山 村 石 井 光 楓
花 伊藤 敏 博
魚の幻想(A) 荒川 久 仁 子
玩具のある静物 (B) 荒川 久 仁 子
作 品 梅 田 秀
作 品 上 田 春 夫
静物(A) 山本 英 子
花 (B) 山本 英 子
風景 竹崎 重 三 郎
スファ節(琉球 大嶺 政 敏
古典舞踊) 大嶺 政 敏
豊年踊り(琉球 大嶺 政 敏
舞踊) 大嶺 政 敏
浜千鳥節(琉球 大嶺 政 敏
舞踊) 大嶺 政 敏
支笏湖新緑。小泉 倫 之 助
余 生 小泉 倫 之 助
晩夏屏ヶ浦 小泉 倫 之 助
静物 加藤 正 明
丘の家 清水 耕 一
山 静川 長 次
争 い 荒瀬 貞 次
造 船 所 藤田 周 平
碇 泊 所 藤田 周 平
群 鶏 石川 武 彦
寄りかかる 石川 武 彦
よこたわる石 生駒 英 世
対決する人間像 稲村 昌 作
カ ル ジ 池田 久 典
夜の海 丸山 恒 雄
おけらの踊り 金子 進

工事現場 A 鈴木 健 司
鳥 か B 宗久 恭 子
魚 と 花 笠木 実
檻の中のとり 笠木 実
卓上の夜 田中 康 夫
月 光 田中 康 夫
おど 市川 陽 一 郎
作 品 市川 陽 一 郎
古い機械 今泉 洋 吉
糸千し場 今泉 洋 吉
海への幻想 大西 江 二
船 柳田 三 千 子
作 品 柳田 三 千 子
機 車 磯田 蓉 工
抱 擁 松島 治 基
黄ろい話。今竹 七 郎
マンハッタンマ 今竹 七 郎
ンポ 今竹 七 郎
青いマッス 今竹 七 郎
サボテン 山内 賢 一
とおい日 山本 徹 二
自 画 像 稲葉 淑 郎
子供 丸山 恒 雄
吊された魚 米津 一 八
つるされたに 長尾 和 義
日本の村 A 永井 金 四 郎
二つの厨子 玉那 覇 正 吉
卓上の静物 A 安喰 虎 雄
かにとざくろ B 安喰 虎 雄
足場ある建物。森川 鉄

港の鯉のぼり 仲村 勇	30 廿七回 荒川桂四郎氏所蔵	石垣のある風景 鈴木智子	釣りをする人 石井友治
タンクのある風景 景	13 花 東 静 物 30 廿七回展出品	椅子のある室内 佐々木光以	画 室 松原鉄之
勤く群像 徳田信保	14 スト 40 卅回 シ	静 物 北沢寛雄	風景 早川清蔵
川原(伊那市) シ	15 桜草と金魚 10 卅一回 シ	木 マキと桶 武田瑞子	果物と花 塚田邦彦
不安な収獲 細井三男	16 プ ランコ シ	マキとスト 南川郁雄	山 王 橋上原欽次
静物と風景 望月礼三	17 家族と自画像 8 (一九四秋) 以上	あひるの静物 大内マコト	水 中 橋 伊藤 善
白い器のある静 物	雪のかぶつたや 仙二秀泰	日本の子供達 望月計男	白 い 室 内 伊藤 善
新沼香一遺作	架橋工事 保浦清顕	水 漕 の 花 三橋玲子	湯 浴 ダイアナを見た シ
1 風景習作 20号(一九三二、九)	作 品 藤野昌男	からまつ の林 駒村久弥	男 道 鬼塚金華
2 アッパツバ習作 12 (一九三三、一)	作 品 松井亮子	木 立 堀 信春	坂 崖のある風景 シ
3 風 景(野雲) 25 十一回展出品	作 品 荒木孝子	花 野 菜 魚津良吉	丘 早春の丘 野村千春
4 アッパツバ連 100	解 体 加藤秀雄	水 つぼりゆり 岩田栄之助	冬 早 春 シ
5 婦人習作 10 (一九三五、二)	熔 鉢 佐野正隆	てつぼうゆり シ	早 春 豆 の 花 三根幸子
6 写 生 30 十三回展出品	漁 夫 宮西維憲	よ つ と シ	赤 い 河 岸 三嶋幸作
7 虎 の 静 物 50 十四回展(授賞作)	南 国 の 家 篠原昭寿	岡 の 小 村 佐藤昌胤	きんもくせい 長森 敏
8 金 魚 静 物 25 十五回展出品	京 都 風 景 黒い戸棚の静物 吉田正明	志 摩 風 景 吉沢康子	鳥 籠 出岡 実
9 ジンター行進 80 十六回	二本松雪景 二瓶大三	母 と 子 山田 浩	魚 籠 出岡 実
10 冬 雲(竜王山) 40 廿四回	ポンプの構成 米田和美	小 鳥 と 裸 婦 岸 葉子	勤 人 田中寿太郎
11 と 名古屋ABC会館所蔵	勤く人々 シ	お 小 鳥 と 裸 婦 友田みね子	若 い 男 上農玉竊
12 母 子 12 廿七回	コスモス咲く高 四方れい	か ん な 友田みね子	花 ツ 筋 伊藤三雄
	台 景 田名部 慎	が く あ じ さ い 山崎達郎	四 ツ 筋 伊藤三雄
	鳥籠と牛頭池内 楠 昭	ベニツクスなど 山本朝子	山 手 の 洋 館 大橋賢造
	野 營 郡 楠 昭	熱帯魚のいる窓 シ	花 と 水 差 吉田 穰
		恋 丘 の 風 景 内長在鳳	石 神 井 公 園 に て 溝田勝彦
			小 さ い 花 泉 信一
			瓶 の ア ン ス リ ア 山 川 清

魚 静物 C. 田辺謙輔
 腕くむ男。伊藤慶之助
 アトリエ。高田力蔵
 工場の裏。遠藤典太
 バラックの街。遠藤典太
 展望。川島昇太郎
 ミイラ。川島昇太郎
 向かふへ行く人々
 えびのある机。中野満男
 本のある机。梁瀬武夫
 工場の一隅。梅田博之
 槍。梅田博之
 ガスコンロ。梅田博之
 花と子供。出島巖
 芥子。石崎泰三
 モデル。石崎泰三
 らん。山田陸三郎
 松本市外浅間。四郎五郎
 泉。四郎五郎
 壺。牛田喬修
 納屋。内野久
 白い首飾。黄碧月
 母。吉川すみ
 静。浦野吉人
 水と木。村瀬金光
 水と木。山下達雄
 壁の前。田川勤次
 夜の景。田川勤次
 大阪北加賀画室
 かつおとるび。吉田達磨

梅。花。吉田達磨
 貝殻といか。足立源一郎
 北穂高南峰。足立源一郎
 朝崎海辺風景。松島正男
 長崎海辺風景。松島正男
 ゆか。森本光子
 静。安部川輝久
 にわとり。伊藤勲志
 やぎ。伊藤勲志
 花のある風景。戸田節子
 石すなど。大溪正春
 おん。石川すみ
 静。遠藤正一
 室。中川とも
 枯れた花。尾関重之介
 とうもろこし。尾関重之介
 街。加賀孝一郎
 劇。加賀孝一郎
 裸。加賀孝一郎
 木々屋根の風景。秋元恒
 重油タンク。米岡秀樹
 母子寮。田家裕久
 船。田家裕久
 雪のドラマ。君野隆治
 陶。清水源太郎
 子。小林博次
 屋。小林博次
 モンクはきかぬ。斎藤釜太郎
 作品。斎藤釜太郎
 作。宮本義雄
 二頭の荷馬。田中隆夫
 山。田中隆夫
 早。寺沢正敏

ゆあみする人々。田口資生
 黒い。池田雅夫
 漁のぼり。三吉亮久
 赤い。三吉亮久
 月。奥村法古
 静。森松治
 建。十川昭道
 豆。三根孝子
 志染。山田文宏
 偽。西元治
 机上。鶴居町子
 廃。天野節
 工場。藤井俊一
 さ。小泉英世
 椅子のある魚の。小泉英世
 静。小松忠雄
 店。山崎秀夫
 静。飯田顕
 二つの椅子。片岡覚
 鶏。加茂牛之助
 伊豆風景。加茂牛之助
 鶴巻風景。加茂牛之助
 坂道の人達。小川緑
 坂下の靴屋。小川緑
 ストープとびん。横尾丈夫
 少。横尾丈夫
 海女小屋にて。豊泉恵三
 海。豊泉恵三
 首里風景。大嶺政寛
 芭蕉。大嶺政寛
 屋。大嶺政寛
 バレリーナ。徳永千太郎

静。物。居倉幸子
 静。物。川原貫一
 静。物。内野久
 赤い。服。和田健一
 貯木。坪井昭義
 バレーボール。坪井昭義
 にはとり。久守昭義
 水門と町。山上喬
 丸の内風景。山畑泰治
 石垣のある風景。鈴木智子
 と。西田晴彦
 室内。長江謙之介
 農。民。田中明
 静。物。藤堂全三郎
 梅。秋。口保波
 松。秋。口保波
 河。口。石田正典
 船。着。場。井上重生
 赤城山(早春)。川隅路之助
 静。物。川隅路之助
 赤城山(林野)。川隅路之助
 早。春。の。花。岩崎又二郎
 窓。き。は。の。静。物。加藤秀夫
 二。人。加藤秀夫
 井戸。ポン。プ。加藤秀夫
 魚。網。加藤秀夫
 きんせん。花。植。村。栄。生
 木立のある風景。鈴木明
 版。画。鈴木明
 風景。構。成。山口和佐夫
 放射線と性細胞。山口和佐夫
 放射線と生体細胞。山口和佐夫
 おんなのこ。上野長雄

つれない女。上野長雄
 牛。群。木村晃郎
 城壁と牛。木村晃郎
 蝶と少女。山口陽子
 櫃上静物。武田健夫
 春。静。物。武田健夫
 追憶。北岡文雄
 追憶。北岡文雄
 アカシヤの老樹。長谷川潔
 窓。迎。卓。子。長谷川潔
 病める若樹。長谷川潔
 花と雑草。古川竜生
 薔薇と撫子。古川竜生
 卓上器。古川竜生
 机上の花束。古川竜生
 花と菜果。古川竜生
 盆と干魚。田中進
 窓。の。壺。清宮賀文
 失。題。清宮賀文
 祈。夜。清宮賀文
 夕。夜。清宮賀文
 夏。夜。清宮賀文
 風。景。駒井哲郎
 風。景。駒井哲郎
 教会の横。駒井哲郎
 INQUIETUDE。駒井哲郎
 夜。に。駒井哲郎
 「キカイ」ある秩。森村惟一
 序。森村惟一
 「キカイ」休止。森村惟一
 ショー・ウイン。八木貞吉
 ドウ。八木貞吉

春のショート・ウ インドウ 八木貞吉
 盲目の少年 小林ドンゲ
 双児(昼と夜) バリスの審判
 鳥籠
 遊ぶ子供達 前田藤四郎
 作品 A 市川陽一郎
 B 市川陽一郎
 C 野村候三
 鳥がとんでる 野村候三

舞台藝術
 バレエコスタニウム 「夜のけもの」 緒方規矩子
 バレエコスタニウム 「夜のけもの」(マスク) 緒方規矩子
 泉鏡花作「海神別荘」(デザイン) 山田晴彦
 シラ (メークアップ) 山田晴彦
 バレエコスタニウム 「インカネーシヨ」 山田晴彦
 「聖化身」 山田晴彦
 バレエコスタニウム 「くぐるみ潮人形より」 山田晴彦
 バレエコスタニウム 「沈める寺」 山田晴彦
 ミュージカルコスタニウム 「王様と私」 山田晴彦
 チャイコフスキ作曲 「白鳥の湖」 三林亮太郎
 横光利一作「櫻雲怪談」 伊藤 嘉朗
 舞踊劇「日輪」 伊藤 嘉朗
 モリエール作 岩田直二演出 「アンフ」 トリヨ 板坂晋治
 サラケル作 中村信成演出 「あべこべ人生」 法村康之
 エドガー・アラン・ポ原作 「赤き死の舞踊」 法村康之

コットマン作 加藤徹訳 「海の底の六人」 小島 朝神
 水菜重明作 「こわれた人形」 小林 雍夫
 (テレビセット) (模型)
 (デザイン) 小島 朝神
 ウォーカー作(児童劇) 「そら豆の煮えるまで」 河津 美夏
 齊田喬作(児童劇) 「四ツ辻のピッポ」 河津 美夏
 岸田国士作 「女人渴仰」 河津 美夏
 佐々木十吾作 「茶釜」の中 石井 康
 美女と野獣 「千夜一夜」 岡本 保
 (表装デザイン) 井川 昌子
 武者小路実篤作 「愛慾」(模型) 小島 一糸
 小橋欣治作 「鐵部隊」(模型) 小島 一糸
 ウィリアムサロヤン作 「狂人よ去る勿れ」(模型) 古賀 宏一
 八木隆一郎作 「この小児」(模型) 古賀 宏一
 ジャンヌイ作 「泥棒たちの舞踏会」(模型) 金子和一郎
 岸田国士作 「屋上の庭園」(模型) 横矢 猛
 内村直也作(同倉七朗演出) 「遠い凱歌」(模型) 河野 国夫
 カミユ作 「戒厳令下」(模型) 中林 啓治
 芥川竜之助作 安藤鶴夫 「舞踊劇「杜子春」」(模型) 根岸 正晃
 クライスト作 「ペンティズレーア」(模型) 家黒 修政
 シュニクスピア作 「マクベス」(模型) 岡田 道哉

真山英保作 「あふ溢微の花は 何故に咲く」 吉田 謙吉
 飯沢匡作 「狂言「ホホキ」」(模型) 細田 佐一
 (模型) 細田 佐一
 伊藤道郎構成 「イエロはなぜ悲しいか」(模型) 中島 八郎
 浪浪舞作 「舞踊劇「吸つき鳥」」(模型) 織田 音也
 川口松太郎作 中野実演出 「赤線地帯」の中 (デザイン) 織田 音也
 ウリアム・サロヤン作 「Coming through the Rye」(模型) 阪本 雅伸
 (模型) 阪本 雅伸
 武者小路実篤作 「人間誕生」(模型) 板坂 晋治
 「戸口の外で」(デザイン) 北川 勇
 安部公房作 「どれい狩」(デザイン) 北川 勇
 「戸口の外で」(デザイン) 北川 勇
 中江良夫作 「にしん場」(模型) 岡本 保
 眞船豊作 「山の湖」(模型) 出口四三司
 武田泰淳作 「ひかりごけ」(模型) 金森 馨
 (模型) (デザイン) 小林 雍夫
 加藤道夫作 「エピソード」(模型) 小林 雍夫
 サルトル作 「蠅」(模型) 井上 富
 ウィリアムサロヤン作 「我心高原に」(模型) 武政 麻子
 (模型) 武政 麻子
 「人魚の城」(模型) 高橋 功
 飯野不二夫作 「碧」(模型) 小島 朝神

佐々木十吾作 子供オペラ「文福茶釜」(模型) 石井 康
 泉鏡花作「海神別荘」(衣裳) 中島八郎デザイン 松竹衣裳部製作
 飯沢匡作 「蠅と鼻」(模型) 小島 一糸
 ギリシキ舞劇 「タウリケのイビ」(模型) 荒巻 昌子
 「千夜一夜」(模型) 井川 昌子
 衣裳人形 物語 藤浪与兵衛
 小道具 四点 藤浪与兵衛

30回国画会展 21-5月6日 東京都美術館 同30周年記念展
 21-29 上野・松坂屋

朝日25 富永 惣一
 東京タイムズ25 嘉門 安雄
 読光26 徳大寺公英
 東京夕刊28 岡本謙次郎
 産経時事30 岡本謙次郎
 東京夕刊5月2日 岡本謙次郎
 日経5月2日 福島繁太郎
 毎日5月2日 土方 定一
 日経5月13日 田近 憲三
 竹林 賢
 森村 竹造
 東山 子平
 柳 亮
 岡本謙次郎
 瀬木 慎一

美術批評5月
 みづゑ6月
 美術手帖6月
 アトリエ7月
 瀬木 慎一

美術手帖6月(橋本三郎、青山義雄、東貞美、山口源、本

田克己、高松健太郎) [受賞]
 国画賞——(絵画)——梅宮馨四郎、藤本俊子、(版画)——玉上恒夫、(写真)——松原朝光、(工藝)——中川浩子
 会友優作賞——(絵画)——本田克己、(版画)——伊藤勉、(写真)——平松太郎
 会員推挙——(絵画)——東貞美、野田好子、長野静司、(版画)——稲垣知雄、(写真)——ハナヤ勘兵衛、(工藝)——柳悦博、森義利

出品目録

○印会員
 △印会友

絵画
 街の人 浜田邦男
 静物 黒田和男
 父と子 鈴木正二
 母と子 矢岡 勲
 手によるA 矢岡 勲
 人間像 金子三蔵
 星座 吉島鉄井
 薪木 B 伊藤重徳
 たてもの 橋谷 治
 只見 川 宇田要之助
 竜古蘭と男 高橋美則
 陸橋のある町 鈴木坂治
 早 春 鎌田 離子
 作品 A B 鎌田 離子
 日蝕と馬 吉田清志

指 定 席 橋 野 富 彦
 シ ヤ モ 橋 本 三 郎
 牛 彼 末 宏
 森 彼 末 宏
 楠 △長 野 静 司
 渠 の ある 木 立 △
 聖 者 た ち 宮 田 長 哉
 冬 の 作 品 3 佐 藤 俊 郎
 合 唱 A 黒 沢 晋 子
 高 橋 医 院 の 庭 川 田 一 文
 サ ー カ ス 三 橋 健
 運 び (錨 つ くり) △
 街 藤 田 照
 鳥 △井 上 善 教
 人 △
 部 屋 岩 崎 勇 夫
 裸 像 大 和 昭 治
 階 段 菅 原 和 夫
 鶏 舎 の 印 象 倉 知 信 夫
 街 の 人 田 宮 進
 木 △野 田 好 子
 風 景 △
 説 教 石 原 宏 策
 雷 と 手 品 師 △
 曲 馬 野 中 進
 か つ ぐ 横 溝 洋
 も の が た り 仁 平 有 美
 太 陽 と 三 人 の 女 佐 々 木 信 好
 鏡 の 前 の 踊 子 た 下 淵 冷 泉 子
 卓 上 静 物 天 野 芳 彦
 オ ラ ン ダ 坂 小 林 敏 夫
 散 歩 道 の 二 人 △
 作 品 二 中 島 宜 矩

網 二 人 の 踊 子 酒 井 隆 一
 作 品 No. 1 渋谷 円 吉
 孝 靈 山 津 和 野 卓 良
 或 る 物 語 り 長 沢 久 敏
 松 福 留 章 太
 樽 の ある 風 景 △
 カ ト レ ア 田 中 道 久
 北 多 摩 風 景 △
 湖 畔 尾 田 竜
 北 国 の 人 △
 荒 川 に て 福 井 敬 一
 ある 静 物 △
 乾 燥 場 △
 切 株 と 煙 道 △
 裸 婦 △
 油 船 の ある 風 景 小 田 原 竜 生
 合 奏 吉 村 覆 二 郎
 田 園 吉 橋 和 子
 椅 子 長 沢 久 枝
 負 へ る 福 田 隆 三
 「ミキサ」の 北 村 喜 八 郎
 る 構 築 現 場 △
 馬 頭 骨 小 菅 一 利
 石 青 早 川 勲
 建 物 別 所 明 芳
 病 め る 太 陽 國 松 登
 土 壊 △
 雪 原 △
 組 立 て る 波 辺 律 吉
 肋 骨 の ある 風 景 申 崎 虎 夫
 女 赤 岩 賢 三
 静 物 (魚) 金 子 嘉 一
 網 干 山 内 泉

倉 庫 秦 克 彦
 あ ら い そ 和 田 忠 志
 路 傍 香 月 泰 男
 砂 上 △
 群 像 川 口 軌 外
 構 図 △
 ま る ま げ の 女 井 上 三 綱
 砂 遊 び △
 ボ ール 遊 び △
 フ エ ニ ッ ク ス 立 石 鉄 臣
 玉 子 の ある 静 物 多 賀 勝 代
 観 測 所 神 谷 絹 子
 三 人 江 村 悟
 ボ ス 久 保 義 春
 ミ シ ン 宮 沢 歳 男
 JUN (グ リー) 山 本 万 司
 丘 陵 宇 治 山 哲 平
 高 原 △
 作 品 平 井 一 男
 み ど り の 木 末 永 鉄 男
 果 物 籠 と 瓶 辻 清 子
 静 物 林 建 樹
 調 理 台 久 田 淳
 家 島 川 隆 介
 燈 台 と 家 辻 愛 造
 雑 賀 崎 △
 像 の ある 美 垂 子 中 原 文 次 郎
 か げ ら と 観 音 小 畑 忠 男
 長 崎 南 山 手 大 淵 武 夫
 長 崎 眺 望 △
 郊 外 風 景 松 尾 隆 一

山 中 の 村 柏 木 俊 一
 十 里 木 △
 静 物 養 田 つ や 子
 窓 内 △
 室 春 の 高 原 関 口 五 郎
 早 春 の 高 原 関 口 五 郎
 嵐 山 錦 秋 A 宮 田 重 雄
 △ B △
 無 花 果 一 顆 伊 藤 廉
 地 中 海 青 山 義 雄
 人 △ 喜 多 村 知
 石 庭 大 谷 房 吉
 飛 人 像 △
 婦 人 像 △
 花 △ 中 村 博
 △ B △
 静 物 A 菅 井 昭 子
 風 景 B 馬 越 外 太 郎
 ザ ク ロ △
 風 景 A △
 孫 二 人 椿 貞 雄
 工 場 裏 △
 雪 景 青 森 A 松 木 満 史
 △ B △
 貝 ・ か い ら △ 大 清 水 英 子
 石 膏 像 と 貝 △
 静 物 安 藤 平
 室 内 人 物 溝 上 美 智
 美 容 室 の 一 隅 小 原 キ ク
 魚 と か に 石 飛 益 雄
 卓 上 静 物 青 木 達 弥
 早 春 の △

熔 岩 の 海 會 宮 一 念
 雨 の 後 △ 小 館 善 四 郎
 冬 の 暮 △ 石 井 博
 雪 暮 △ 小 山 茂 久
 薄 つ 暮 △ 鶴 飼 建 二
 や つ 川 端 淵 上 巍
 堀 川 端 淵 上 巍
 争 い 淵 上 巍
 愛 婦 △ 菊 地 辰 幸
 裸 婦 △ 菊 地 辰 幸
 座 女 △
 黄色 い テ ー プ ル △ 土 田 次 枝
 黄色 い 花 の ある 静 物 △
 静 物 △
 車 種 の 丘 有 馬 周 三
 菜 種 の 丘 有 馬 周 三
 ふ る さ と の 歌 宮 本 武 文
 遊 い 蝶 △ 永 上 民 平
 虹 花 △ 音 部 幸 司
 浜 辺 △ 音 部 幸 司
 月 の 花 △ 中 村 好 宏
 沼 の 花 △ 中 村 好 宏
 田 園 △ 中 村 好 宏
 裸 婦 △ 中 村 好 宏
 教 会 の 窓 △ 島 内 き み
 椅 子 △ 島 内 き み
 机 桃 △ 三 枝 茂 雄
 蟠 桃 △ 三 枝 茂 雄
 漁 父 △ 三 枝 茂 雄
 香 煙 △ 大 地 堂 良 助
 静 物 △ 大 地 堂 良 助
 ひ ら いた 洋 傘 米 山 博 子

月の出るころ 中島つとむ
 わんぱく 渡辺真利
 静 物 関矢猶二
 雪かこい 酒井嘉也
 菓の中の鳥 杉原延行
 秋の歌 岡崎清郷
 動物園にて 坂井裕
 道 化 渡辺貞一
 日 蝕 日
 占 い 久保守
 潮 久保守
 馬 久保守
 セロを弾く男 久保守
 玉子のある静物 原 精一
 バレリーナ立像 原 精一
 F 嬢 小林邦報
 昼 夜 小林邦報
 月 夜 藤本俊子
 郷 愁 F 藤本俊子
 シ E 佐伯信夫
 悲 歌 佐伯信夫
 裸 婦 小口俊司
 緑の楽 譜 林 董子
 ホラ貝吹く少年 大蔵克衛
 森 荒木 寛
 すみれと牛骨 中島了象
 人 と 鳥 木内 広
 茶 毘 木内 広
 ち 語められた鳥たち 木内 広
 志摩の印象 岩田和子
 静 物 千原 稔
 ひまわり 渋谷 瞭子

ガスタンクの見 大谷恵一
 える道 松田正平
 月 夜 松田正平
 飛行機 鈴木愛子
 工 場 鈴木愛子
 静 物 南風原朝光
 線 路 直野 進
 海 浜の夏 土田文雄
 春 早 土田文雄
 裸婦マンドリン 石川秀太郎
 建物と橋 丹野正弘
 川 吉田 勇
 大和風景 杉本健吉
 耕 田 杉本健吉
 白 芙蓉 杉本健吉
 浅 間 山 梅原龍三郎
 万 曆 赤 繪 梅原龍三郎
 富士山 関 山 梅原龍三郎
 鯛 関 山 梅原龍三郎
 浅 間 山 秋 関 山 梅原龍三郎
 花のおきなおも 庫 田 登
 て 庫 田 登
 竹 高瀬捷三
 魚 クリスマスの夜 須田 静
 クリスマスの夜 須田 静
 真昼の工場 浜田 羊
 溪 浜田 羊
 南 窓 渋谷 瞭子
 宵 月 渋谷 瞭子
 ひまわり 白根美代子
 風 景 北村幸子
 柿 熊谷九寿
 白杆石仏(大日如来)

夕 月 日向 裕
 落日 吉沢正巳
 トルソ 小野 隼子
 岩屋風景 亀井貞雄
 レ 夕 田中三郎
 六 甲 夕 沢野岩太郎
 六 甲 夕 沢野岩太郎
 六 甲 夕 沢野岩太郎
 静 物 柳生秀男
 陸橋のある風景 日野原克磨
 静 物 二見利節
 工 作 二見利節
 手 袋 二見利節
 無にもなかつた 萩野和俊
 海 萩野和俊
 椿と三寶柑 山寺重子
 裸 婦 山寺重子
 浅 間(防火線) 山寺重子
 習 作「裸婦」 土屋勝雄
 海 辺 安部田豊実
 種 子 と 春 蘭 宗像逸郎
 片 た ま り 小泉富司
 水 壺 佐々木節雄
 静 物 佐々木節雄
 蜻 蛉 壺 佐々木節雄
 蒸 気 道 平木 勇
 製 鉄 場 積田 經士
 五 重 の 塔 積田 經士
 残 雪 百瀬 勇
 ス ト ー プ 田中俊孝
 花 妹 尾 昭
 森 有 海 庄 門
 舟のある風景 福井 勇
 黒 と 白 平塚 運一

花とガラス 村上芳子
 庭前静物 高橋市見
 樹 人 稲田 年行
 坐 人 金畑 実
 S 夫 人 須田 一覚
 室 内 清水 光子
 花 物 芳賀利一
 建 物 内堀 勉
 姉 妹 内堀 勉
 茅と壺 等 細谷重雄
 大王崎の朝 多田昌平
 ふ り 多田昌平
 エ リ 多田昌平
 工 場 松原 広
 追 憶 宮末 薫
 に わ と り 小山田敏子
 リンゴなど 木原義子
 郊外への道 榊原 仁
 た り と 女 榊原 仁
 と り と 女 榊原 仁
 切 り と 女 榊原 仁
 街 と 運 河 石井 豊太
 早 春 内堀 一男
 ジ ャ 火 山 野 いく子
 野 火 山 野 いく子
 海 山 野 いく子
 静 物 茂田 滋夫
 富 山 村 上 巖
 少 女 河 内 忍
 開 拓 地 梅宮 四郎
 網 立 杉本 賢司
 逆 立 杉本 賢司
 ふ た り 矢崎 しげ

椅 子 馬場 保美
 花 と 人 A 岩上 隆静
 風 景 C 宮下 明
 風 景 C 宮下 明
 M 子 嬢 高橋 照子
 樹 池 畔 藤田 将文
 池 魔ヶ丘 坂倉 圭介
 天 魔ヶ丘 坂倉 圭介
 白 い カ ラ ス 松田 れい子
 花 疑 の 眼 石井 佐一
 怪 疑 の 眼 石井 佐一
 う つ ろ な 眼 栗林 今朝男
 黒 い あ み 江坂 清作
 雉 子 藤島 熊治郎
 機 械 B 大倉 昭吾
 朝 未 明 平田 勝規
 絵 画(暗と黄) 正延 正俊
 作 品 D 佐藤 誠
 作 品 E 大西 博文
 作 品 も ろ い 貞 美
 抱 卵 岡本 信治郎
 風 景 高橋 佐太郎
 貧 瘠 B 榊田 勇
 兵 士 昇 天 伏木 田光兆
 港 の 女 森 和
 櫛によるコム B 伊藤 忠雄
 ホジション 伊藤 忠雄
 肖 像 梅沢 各子
 電子 音楽 須田 剋太
 錯覚の世界 須田 剋太
 時代の変心 高松 健太郎
 部落のムスメ 高松 健太郎

試作「アフリカ。高松健太郎
 の追憶」
 旅の女々
 ひげA。山崎隆夫
 うたごえ
 作品 品イ 城福一男
 待 品Zの 中条正一
 山(入日) 丸本耕
 牛の頭と花 中山尚子
 作品 品七の二 真野岩夫
 作品 品 高野政志
 静 品 伊藤弥太
 交又 物 島野大
 作品二(薄荷菓
 子など) 小橋康秀
 瞳とその周囲 朝倉徳秀
 海の生物 谷内丞
 作品(焼津の三
 歌) 藤沢 暗
 コンボジヨ R 荒金透
 建物群像より ス 竹内昭吾
 作品 品四 玉置吉郎
 作 品 西村 淳
 ハリツケ 小倉貞光
 家 小倉貞光
 擬 者 鶴野光
 旅 者 関谷一夫
 案 山 子 鈴木健一

こだち川越昭子
 黄変。期杉野正
 ベックマン伍長 田中美智子
 ガラスの影 河野通明
 思 索 西村 赫
 作 品 松原武雄
 夜 木田克巳
 生きもの 河村千代三
 残雪の花 大須賀政一
 上 昇 能登正智
 タブラル 原田成大
 停 船 合谷健一
 街の見える野 広瀬 実
 赤いガード 川村浩章
 石の家 木村博巳
 丘 木村浩章
 建 築 川村浩章
 いこ 吉野不二太郎
 北の情景 大田幸雄
 グラスとのむ人 藤沢 堯
 対話 福間昭助
 新しい道 鶴田昌司
 ラン プ A 手島一枝
 月と陽と牛の頭 白鳥泰彦
 骸骨 門 蛭沢 尚
 水 門 川原美保子
 白 い 壁 中 節 也
 夜 樹 福田 稔
 魚 B 林 一 美
 木の根 井戸原亮二
 マンドリンを弾 村 上 保雄
 白 い 壁 中村和子
 裸 婦 高木雅章

雪 A 岡新市
 石盤 河原健二
 少 女 A 中村英子
 室内にある鴨 飯塚良治
 語ら 高野保英
 らくがき 白井義雄
 網干 青木辰己
 白い壁の工場 野村真一
 にわとり 横田忠子
 車庫裏 重延 櫻子
 神楽さんのある 村林克津男
 海辺 金 森 修
 黒い 囲 島 常 武
 裸婦 A 花井 八郎
 家と道 A 富田民治
 松林 久住賢二
 造 所 小泉一路
 作 品 石田琴次
 風 景 福井正治
 案 山 子 美多泰志
 魚と木の葉 戸沢正雄
 作品三〇 鷲 頭 剛
 股の主顔による 鷲 頭 剛
 ギターのあある椅 鷲 頭 剛
 子 鷲 頭 剛
 静 物 北野忠雄
 大 威 徳 佐山信一
 愛と喜 吉兼三丸
 工場 景 宮本 宏
 浅 春 斎藤光孝
 若い塵芥車夫 新井健吉
 赤いクレイン 松尾義寿
 漁 村 野浪美奈子
 作 品 村 上 保雄

初聖体の子 青木一美
 人 ヨイ 安田誠道
 ニヨイル 安藤 実
 花 野田 弘
 晩 夏 佐野正俊
 建 物 町田勝利
 砂丘と根 成田 博
 おん な 名久井由蔵
 民藝戸棚 池田甚三郎
 風 景 A 西村靖夫
 セザンヌに倣う 和田正一
 森の馬 花田芳雄
 コートと瓶 A 前原鉄生
 作 品 A 持田享一
 ふくろう 手島二枝
 花に逃げられた 塩崎貞男
 月に逃げられた 木村 正
 鶏と花 上原正三
 いかり 文田善治
 秋の日の僧院 森 昭 胤
 唯物論者の死 高橋三郎
 裸 木 佐藤哲夫
 蜘蛛 皆川 清
 青い 静 物 平野雅文
 静 物 尾畑洋子
 裸婦 B 中村幸雄
 静 物 高富文子
 森の中のアダム とイブ 島雄たけし
 静 物 廣中久五郎
 道と家 高木康雄
 小鳥と子供 松浦清次
 土の神話 野本 醇

枯木 天野一男
 サキソフオンを 小林英吉
 吹く道化 松永市雄
 白い壺の在る静 貴島由美
 女 品 D 赤川徳行
 作 品 鹿毛正三
 群像 沢内 哲
 赤衣の女 中村米太郎
 池 物 C 遠藤高光
 静 物 野田或男
 三輪 市川晃子
 こらもり 岸原辰之
 廃工場 月見里 茂
 結婚譜 63 岡島吉郎
 風 景 C 安藤誠吾
 冬 塚本新治
 陶都夕ぐれ 松本一夫
 野菜売り 峯 梨 花
 陽のある風景 田島 茂
 鏡のある静物 三戸了一
 面 杉井清二
 浜と 直木 昭
 道と 中条秀信
 布引風景 会田慶佐
 四ッ谷風景 中井 脩
 港の朝 B 木下勘二
 入 坑(入車) 木下勘二
 古い 壁 A 舌間 寛
 サークス到来(1) 淵上 貞
 妻の座(その二) 向井千代子
 街 A 石橋幸雄
 早春 六 甲 上田清一
 早春風景

早春田園。上田清一
洗い場。浅野陽一郎
鹿。城B。西田豊
池邊池ニテ。杉山昌三
吹奏。三輪照生
花と魚C。松村孟
勝者と敗北者。大貫徳二
巴里の夏。真垣武勝
巴里セーヌ河
ベニスタ
アムステルダム
巴里の本屋
モンマルトル
の早春
ローマの泉
ライオン川
神戸銀行のテラ
ス
(一) 道内長在鳳
画。室D。徳沢隆技
静物。小泉清
裸婦。顔
朝顔。花東。浜田静子
貝と瓜。瓜(版)クラ。イ
音。瓜(版)クラ。イ
西。瓜(版)クラ。イ
女。牛(版)クラ。イ
二つの顔(油)クラ。イ
鳥。フリールランド
裸婦(デッサン)ピカソ
顔(版)マチス
鶏(油)ミノイ
ノートルダム。ヴァイナイ

版画
石のベット。中尾義隆
蕎麦屋。川西英
オーケストラ。頭
店。ウエ・ブノ
詞のある森(中。ワエ・ブノ
仙道)
札幌郊外の森
古い農村の墓場(信州追分にて)
月夜のセツブン。金守世士夫
時計の逆転。野津佐吉
庭。△野津佐吉
古都の経蔵。棟方末華
公。△黒木貞雄
草の中の鳥。天野邦弘
長い髪。若山八十氏
裸婦。△橋本興家
北。△橋本興家
バ。△橋本興家
二。△橋本興家
彦根城。山口源
下漁の予感。山口源
グットバイ。海さん
餓鬼大将。小野賛二
リリック。故恩地孝四郎
フォルム。故恩地孝四郎
空の生物。品川工
明るい動き。品川工
夜の表情。山中宏
とりかご。山中宏

猫三態。稻垣知雄
猫のお話。小橋康秀
作品二(花)。小橋康秀
三。鬼の子供。佐藤宏
瞬間。佐藤宏
支え。三岩見礼花
作品。三岩見礼花
樹。二八。鈴木幹二
樹。二八。鈴木幹二
つぼ。高橋信一
樹間の月。高橋信一
群像。一。塚本哲
瞑想。一。塚本哲
苗木。△中川雄太郎
積み上げた町。伊藤勉
DIMANCHE。伊藤勉
露天商。伊藤勉
飯面をつける。玉上恒夫
或る男。玉上恒夫
或る痴像。二。栗山茂
顔。河野薫
壺とグラス。清水武次郎
少。玉井忠一
漁。村B。笹島喜平
海。村A。萩原吉二
日傘。萩原吉二
戸隠山。前田政雄
白馬山麓。前田政雄
鳩。舞田文雄
山にさけぶ。畦地梅太郎

山。男。畦地梅太郎
石垣のある風景。佐竹清
誰が袖の手水鉢。平塚運一
(岩園)
泰山北斗宮
オカナリナ吹き。関野準一郎
とその娘
糸あやつり
夜の鳥。関野準一郎
雪後五大堂。下沢木鉢郎
西海岸岩崎。下沢木鉢郎
建。物。岩沢喜作
蚕船入津。川上澄生
きつつき。小坂竜二
紅。葉。△川西祐三郎
工藝
線彫模様皿。新垣栄三郎
青磁模様皿。新垣栄三郎
ゴス絵付鉢。秋山薫広
染。布。秋山薫広
浮織名古屋帯地。相田照子
ストール。後藤和加
藍地書棚掛。五味幸雄
屏風。後藤清吉郎
藍地麻アルファ。△五味佐千夫
ベット着物。△五味佐千夫
緑。衣。原田麻那
黄。衣。原田麻那
膳。衣。原田麻那
挑。衣。原田麻那
小紋茶羽織。広本長子
帯地。廣本長子
壁掛。蝶々

テーブルセンタ。平松哲司
白地緑ストール。原山雅子
赤地ストール。原山雅子
羽織。福島輝子
敷物。福田その子
シヨール。福田ハル子
カーテン。伊黒貞子
「格子」染名古屋。井上清一
帯。市野弘之
あめ釉大皿。池田三四郎
業。卓。池田三四郎
一人掛ラッシュ。池田三四郎
張スツール(二個)。池田三四郎
二人掛ラッシュ。池田三四郎
張スツール。池田三四郎
ストール。飯島二三子
壁かけ。飯田玲子
白刷毛目壺。△喜多村作太郎
鉄絵。瓶。喜多村作太郎
白泥掛壺。喜多村作太郎
四曲屏風木曾風。小島恵次郎
物。小島恵次郎
呉洲絵台付皿。金城次郎
アメ釉青地流抱。及川全三
瓶。及川全三
窓絵。一輪生
繩巻模様特大壺。及川全三
樽細工丸形小物。小柳金太郎
小物入チアシ皮。小柳金太郎
型染賢愚経(式)。川田幹
着。尺。久保田仁子
和染絞麻帯。片野元彦
牧歌。楠田喜代子
帯(小紋)。加藤喜久子

ブラウス 鎌田マサ子
 壁掛狩の図 △森 義利
 麻布船の図額面 △
 彩挿大中チリメ △
 間仕切りカーテ △前川典子
 紬経緋ベツドカ △三代沢本寿
 パー 天蚕紬部屋着 △
 名 刺 箱 丸山太郎
 △ 卵殻貼茶匙箱 △
 鉢 螺鈿茶匙箱 △
 鉢 平和禱印金壁掛 △森泉音三郎
 手捺染小巾卓巾 △長沼孝一
 △ 手捺染帯地 △
 布 手捺染大巾卓 A △
 赤 絵 皿 成井正直
 ベツドカバ 中川浩子
 からくさ風呂 (1) 中村みさほ
 敷 (2) △
 帯 地 成石貞子
 飾 皿 △岡本蕭一
 湯 呑 A △
 湯 呑 B △
 花 挿 △
 湯 呑 △
 白 萩 花瓶 △
 私家版型染座三 △岡村吉右衛門
 宝之頰 (人) △
 △ (地)
 私家版型染会津 △
 熱塩紙示現 △

ストール。及川全三
 銀象嵌鉄篋 大久保公栄
 着 尺 大島邦子
 敷 物 △
 帯 小 紋 大橋豊久
 カ ー テ ン △
 帯 地 藍 地 大橋準雄
 裂 地 魚 紋 大橋秀雄
 敷 物 大津昭子
 ミ シ ン 掛 け △
 壁 掛 牡 丹 芹沢銈介
 芭蕉布藍染着物 △
 窯出し(壁掛) △
 友禪麗華社交着 △関口信男
 書棚掛華文 △
 染付角皿 鈴木繁男
 △
 ミ シ ン 掛 白神久和子
 帯 織 地下平清人
 毛 織 布 斉藤博子
 壁 玉糸袖着物 清水重子
 ヒビ皮かぶせ壺 佐藤省一郎
 楕円形小物入 △
 シ ョ ー ル 鈴木光子
 茶 入 佐々木栄孝
 型 染 裂 地 塩入守治
 呉須印版大角皿 滝田頂一
 魚と藻(藍地) 椿 夏子
 △ (紅地) △
 椅子 敷。外村吉之介
 椽皮印箱(金) 田口芳郎
 白 地 緋 植草フミ
 服 地 柳 悦孝

カーテン柘榴紋△渡辺禎雄
 卓布ダリヤ△渡辺禎雄
 緑 帯 地 △柳 悦博
 幾何紋屏風。柚木沙弥郎
 黄地綴織ター A 吉田たすく
 ブルセンチター A △
 土 瓶。河井武一
 染 色 屏 風。後藤清吉郎
 本 写 棚。安川慶一
 休 日 の 朝 坂 卷 高次
 手 柄 話 上 沼 光 紀
 凍 結 清水達夫
 バランの男の冠 △松山慶三
 りもの スキー場点景 斉藤紀之
 潮 レリーフによる △内田美胤
 ス ー ド △
 子 供 吉田栄二
 おたまじやくし 山下喜久雄
 ヌ ー ド 田 中 信 次
 習 作 笹本繁宏
 舗道の鉄屑 △加藤悦二
 蛇 文。北角玄三
 骨 の 生 態 △
 パ タ ー ン 東田静夫
 造 型 飯田俊夫
 構 成 杉野誠三
 巖 野 島 康 三
 野 島 康 三 吉川富三
 冬 の 風 景 三 浦 悠
 か え り 道 △
 浜 田 庄 司 堀井良平

うしほさん 松本恭一
 或る夫妻 竹田正雄
 マヌカン 永田英顕
 窓 西山 隆
 夜 渡 辺 徹 郎
 雪 国 の 女 塚本弥八
 岩 対 馬 国 衛
 朽ちた土蔵 安藤栄一
 TOOK A MOMENT
 熊手と板(農家の周辺より) 柴田豊次
 樹 根二。小菅成夫
 ぶ 一 木村昌斗志
 創 造 山田慶次郎
 波 紋 小野由行
 婦 子 にかける裸 △
 作 品 A 関藤昌明
 下駄工場にて 高橋富路
 雨 の 日 森 義 一
 カツギヤのおば 野津以和雄
 嬢 野 井 堂 之 助
 ナ 良 公 園 延 永 実
 ト アイス・スケー 鈴木高光
 国土に別れて (ラジール移民) 田中嘉美
 ひよこと猫 船坂博道
 古城の鉄窓 △
 山陰の冬(鳥取) 船坂和彦
 杉山さん。長浜慶三
 ミス・ベッテイ △
 波止場にて 奥野 潔

白の夜 吉田畔夕
 雪の夜 郭仲 麓
 黒い 堀 △
 鷲 羽 山 西 山 清
 毘盧遮那仏。入江泰吉
 作 品 一 コバト半平
 △ 二 △
 青 い 麦。中居正躬
 荒 磯。錦古里孝治
 砂丘の表情 △岡島菅吉
 鶴 州 の 漁 村 榎 本 栄
 冬 笠原公義
 ス ー ド 有村重光
 デュエツト △中山 巖
 作 品 中山 純
 作 品 中山 嶺
 シクラメン 中山 亮
 アイリス 松野伍朗
 蛙 島 田 逸 山
 お け い こ 堀 井 清 一
 雪 相 川 口 晴 夫
 雪 離 宮 其 二。島田貫一郎
 △ 其 一 △
 桂之印象(障子) △安藤不二夫
 △ (竹と石) △
 雪 国 に て 町 田 敬 治
 踏越しのヨット 高橋定夫
 静 物 A △ハナヤ勘兵衛
 屋 根 佐藤平吉

小さな世界 稲垣 治
 水映 畑井智裕
 或る日の河合卯之助氏 川崎亀太郎
 擬視(窓前の河合卯之助氏) 〃
 オブジエ 中田昌孝
 フォルム 大野信吾
 車体 〃
 増上寺裏風景 新山 清
 晩秋 平松太郎
 調流 〃
 高辰おじさん 清水武甲
 雨 〃
 ある表情 海老原一雄
 或る店先に 唐沢民二
 悪童 飯谷六郎
 姉妹 辻宏志
 達沢の子等 鹿野光英
 冬の印象 〃
 冬の姿 金原三省
 ホーム寸景 久保忠義
 早春 中越遠州
 生 活 正木三郎
 ファンタジア 八木常治
 手 術 室 松原 茂
 陶工の手上 賢一
 雨の日の観光 原田 正
 渚 高尾 清
 ナフキン干場 山岡登喜男
 馬 松原朝丸
 牛 〃
 裸婦 小沢俊樹
 白衣 長崎港舟

市の古道具屋 広岡康男
 干魚屋 堀田 正
 24回日本版画協会展 21-5月
 6 東京都美術館
 村上華岳小品展 21-5月2
 安藤七宝店
 現代仏教美術展 21-23 日本
 堂時計店二階
 浜田稔、盛益子二人展 21-28
 サトウ
 石川雅也、久里洋二カリカチュ
 ア展 21-25 美松画廊
 日本人形美術院春の新作展 21
 -29 新宿・伊勢丹 [批] 萌
 春32号
 中仙道六十九次展 21-5月10
 長野県図書館
 MC彫塑展 21-29 名古屋・
 愛知県美術館
 美術文化展 21-29 名古屋・
 愛知県美術館
 高島達四郎、岡鹿之助展 21-
 5月27 鎌倉・近代美術館
 [批] 毎日16、17(船戸洪吉)、
 読売12(徳大寺公英)
 田辺穰油絵発表展 22-26 日
 動画廊
 東陶会30周年記念展 22-29
 東京都美術館 [批] 萌春31号
 (堀田松三郎)
 森芳雄個展 23-28 サエグサ
 [批] 朝日26、毎日26(船戸洪
 吉)

山内壯夫彫刻素描展 23-28
 三原橋画廊
 加山四郎魚水彩展 23-28 養
 清堂
 沢田哲郎洋画個展 23-28 中
 央公論社画廊
 新制作協会選抜展 24-29 洪
 谷・東横
 西山真一個展 24-29 日本橋・
 高島屋 [批] 産経時事夕刊
 20、朝日20
 岡本為治新作陶展 24-29 日
 本橋・三越 [批] 萌春32号
 中国陶磁元・明名品展 24-5
 月6 日本橋・高島屋
 成井弘文滂欧作展 24-30 兜
 屋 [批] 産経時事夕刊20、朝
 日26
 2回女子美大にかわ絵グループ
 展 24-28 文房堂
 週刊朝日「新平家物語」さし系展
 24-29 日本橋・三越
 宇治山哲平展 24-28 フォル
 ム
 青甲社35周年記念展 24-29
 京都・大丸
 8回はりえモンタージュ展 24
 -30 なびす
 田中惣三郎・有光直紀・藤井浅
 太郎三人展 24-29 大阪・
 阪急
 26回阪急工芸会春季新作品
 展 24-29 大阪・阪急

辻醬堂個展 25-28 日本橋・
 丸善
 中道信喜個展 25-30 三省堂
 白光会油絵展 25-30 草土舎
 画廊
 行動美術関西展 25-5月6
 大阪市立美術館
 1回黒百合展 25-26 銀座・
 東電サーピスセンター
 秋保正三・斎藤慶・三浦呈嗣三
 人展 26-5月1 村松
 [批] 産経時事30
 鈴木正彦個展 26-28 大阪・
 梅田画廊
 正木草雄個展 26-30 川崎市・
 商工会議所
 都竹伸政個展 26-30 美松画
 廊 [批] 産経時事30
 寺田春式滂欧作品展 27-5月
 2 銀座・松坂屋 [批] 朝日
 5月1、アトリエ5月(嘉門
 安雄)、みづる5月(林武)
 谷内六郎作品展 27-5月7
 東京・大丸
 中村善策油絵個展 27-5月2
 東京・大丸
 ウルミラ・セン作品展 27-5
 月2 銀座・松屋
 民藝木工展 27-5月2 東京・
 大丸
 ミルドレッド・ウォーダー作品
 展 27-28 国際文化会館
 雪舟展 28-5月27 東京国立

一〇六
 博物館
 日本刀展 28-5月5 東洋美
 術館
 平安鎌倉国宝展 29-5月23
 名古屋・松坂屋
 2回加藤高臥静物画個展 30-
 5月2 中央公論社画廊
 [批] 萌春33号
 中村光哉、広川青五二人展
 30-5月5 養清堂
 新制作日本画会員展 30-5月
 5 三原橋画廊 [批] 萌春32
 号
 素羅会バステル画展 30-5月
 2 文房堂
 五月
 明治初期洋画展 1-31 東京
 都美術館 [批] 産経時事9、
 東京夕刊14
 築地進作品展 1-15 渋谷・
 風月堂
 小野彦三郎個展 1-6 日本
 橋・高島屋 [批] 産経時事夕
 刊4
 唐物古陶の会 1-6 日本橋・
 高島屋
 型生派小品展 1-6 日動画
 廊
 別府貫一郎滂伊油絵展 1-6
 日本橋・三越 [批] 産経時事
 夕刊4
 村尾隆栄個展 1-5 兜屋

〔批〕産経時事夕刊 4
伊藤昭二個展 1—6 樺田廊
2回青桐会日本画展 1—6

渋谷・東横 〔批〕前春32号
嚴島神社の平家納経特別展観
1—6 京都国立博物館

三重県袖井遺跡の古土品特別展
観 1—31 京都国立博物館
海渡子立杭陶展 1—31 大阪・
日本工藝館

日高昌克日本画個展 1—5
京都・土橋画廊
森元三郎、光子二人展 1—5
美松画廊

洗々会日本画展 1—6 上野・
松坂屋
8回京展 1—14 京都市美術
館

赤穴宏個展 1—7 なびす
〔批〕美術批評6月、アトリエ
7月〔瀬木慎一〕
10回露社展 1—12 東京都
美術館 〔批〕前春32号

朝見香城画塾展 1—3 名古屋
屋・丸善
川尻泰司、高山晴子、布士富美
子人形三人展 1—6 大阪・
阪急

愛知工藝展 1—5 名古屋・
愛知県美術館
水野修造作品展 1—6 大
阪・阪急

郷土関係洋画家遺作展 1—15

美術展覧会(5月)

神戸市立美術館
光風会展 1—10 名古屋・愛
知県美術館
創元会展 1—10 名古屋・愛
知県美術館
平塚運一版画展 1—15 駿河
台・レモン

田中不二夫・大越宏純二人展
1—10 タケミヤ
グループ白展 1—5 永井画
廊
江見絹子作品展 1—15 新宿・
風月堂
4回鷺展 2—5 日本橋・丸
善
1回スパイラル東京展 2—7
村松
小さい画家たちの家展 2—7
三省堂
2回丹頂会展 2—4 山形市・
労働会館
新しい遊器具展 2—5 豊中
市・商工会議所
大村連滯吹作品展 4—7 銀
座・松坂屋
橋木喜代一、滝谷悦弘、山田敏、
米倉邦夫四人展 4—9 サ
トウ
世界児童絵雑誌と児童作品展
5—6 日本基督教青年会同
盟会館
竹内未明個展 5—10 大阪・
三越

富山妙子個展 6—10 大阪・
梅田画廊
関西二科クラブ小品展 6—12
大阪・フジカワ
桜井浜江、入江一子二人展 6
—10 美松画廊
16回日本画院展 7—19 東京
都美術館 〔批〕前春33号
木内克作品展 7—13 安藤七
宝店
石森美津子、川村久子二人展
7—13 樺田廊
新制作協会油絵部素描展 7—
12 養清堂
1回中川力滯仏作品展 7—11
日動画廊
油絵表装展 7—12 三原橋画
廊
伊藤竜崖喜寿個展 7—9 産
経画廊
1回春秋会展 7—12 村越画
廊
野原島聖日本画展 7—9 京
都府ギャラリー
大阪学芸大学美術研究会展 7
—10 大阪市立美術館
主潮社日本画展 7—13 大阪
市立美術館
菱田春草名幅展 8—20 渋谷・
東横
1回新世紀美術協会展 8—21
東京都美術館 〔批〕朝日11、
東京夕刊14、産経夕刊18

22回東光会展 8—21 東京都
美術館
美術にあらわれた「日本の女性」
展 8—18 上野・松坂屋
〔批〕東京夕刊17(久富真)、三
彩7月
青木大乗日本画展 8—13 日
本橋・高島屋 〔批〕前春33号
墨洋金四人展 8—9 銀座・
東電サービスセンター
中筋幹彦遺作展 8—12 サエ
グサ 〔批〕朝日10
ビショップ英郎個展 8—17
フォルム
金山平三画業50年展 8—17
日本橋・高島屋 〔批〕朝日15、
産経夕刊17
地中会展 8—13 村松
一陽会春季展 8—13 日本橋・
高島屋 〔批〕朝日11
リヤン三人展 8—12 文房堂
9回彩光会染色展 8—13 上
野・松坂屋 〔批〕前春32号
清水六兵衛新作陶展 8—13
日本橋・三越 〔批〕産経時事
9、前春33号
現代作家油絵小品展 8—12
日本橋・壺中居 〔批〕朝日10
たぶろお会展 8—13 日比谷
画廊
長寛和尚真蹟遺墨展 8—13

7回富士原淳子油絵展 8—13
大阪・阪急
井上覚造滯吹作品展 8—13
大阪・高島屋
春の青龍展 8—13 神戸・大
丸
13回東丘社展 8—13 京都・
大丸
藤本かきり個展 9—13 兜屋
5人展 9—14 三省堂
春の洋画展 9—15 新宿・伊
勢丹
横田仁郎水彩スケッチ展 10—
13 産経会館
淡路焼尻平の名品特別展観 10
—6月30 京都国立博物館
浦上玉堂名作展 11—16 東京・
大丸 〔批〕産経夕刊17
奈良七大寺拓本展 11—23 東
京・大丸
長谷秀三個展 11—17 サトウ
佐藤泰治展 11—15 日本橋・
丸善
依岡恒喜滯吹作品展 11—16
東京・大丸 〔批〕産経夕刊17
自由学園美術工藝展 11—13
自由学園
稲垣皓司、岡本博、酒井健三人
展 11—15 美松画廊
三輪敬子陶藝展 11—12 銀座・
東電サービスセンター
河原温「死仮面」展 11—20 夕

22回東光会展 8—21 東京都
美術館
美術にあらわれた「日本の女性」
展 8—18 上野・松坂屋
〔批〕東京夕刊17(久富真)、三
彩7月
青木大乗日本画展 8—13 日
本橋・高島屋 〔批〕前春33号
墨洋金四人展 8—9 銀座・
東電サービスセンター
中筋幹彦遺作展 8—12 サエ
グサ 〔批〕朝日10
ビショップ英郎個展 8—17
フォルム
金山平三画業50年展 8—17
日本橋・高島屋 〔批〕朝日15、
産経夕刊17
地中会展 8—13 村松
一陽会春季展 8—13 日本橋・
高島屋 〔批〕朝日11
リヤン三人展 8—12 文房堂
9回彩光会染色展 8—13 上
野・松坂屋 〔批〕前春32号
清水六兵衛新作陶展 8—13
日本橋・三越 〔批〕産経時事
9、前春33号
現代作家油絵小品展 8—12
日本橋・壺中居 〔批〕朝日10
たぶろお会展 8—13 日比谷
画廊
長寛和尚真蹟遺墨展 8—13

22回東光会展 8—21 東京都
美術館
美術にあらわれた「日本の女性」
展 8—18 上野・松坂屋
〔批〕東京夕刊17(久富真)、三
彩7月
青木大乗日本画展 8—13 日
本橋・高島屋 〔批〕前春33号
墨洋金四人展 8—9 銀座・
東電サービスセンター
中筋幹彦遺作展 8—12 サエ
グサ 〔批〕朝日10
ビショップ英郎個展 8—17
フォルム
金山平三画業50年展 8—17
日本橋・高島屋 〔批〕朝日15、
産経夕刊17
地中会展 8—13 村松
一陽会春季展 8—13 日本橋・
高島屋 〔批〕朝日11
リヤン三人展 8—12 文房堂
9回彩光会染色展 8—13 上
野・松坂屋 〔批〕前春32号
清水六兵衛新作陶展 8—13
日本橋・三越 〔批〕産経時事
9、前春33号
現代作家油絵小品展 8—12
日本橋・壺中居 〔批〕朝日10
たぶろお会展 8—13 日比谷
画廊
長寛和尚真蹟遺墨展 8—13

22回東光会展 8—21 東京都
美術館
美術にあらわれた「日本の女性」
展 8—18 上野・松坂屋
〔批〕東京夕刊17(久富真)、三
彩7月
青木大乗日本画展 8—13 日
本橋・高島屋 〔批〕前春33号
墨洋金四人展 8—9 銀座・
東電サービスセンター
中筋幹彦遺作展 8—12 サエ
グサ 〔批〕朝日10
ビショップ英郎個展 8—17
フォルム
金山平三画業50年展 8—17
日本橋・高島屋 〔批〕朝日15、
産経夕刊17
地中会展 8—13 村松
一陽会春季展 8—13 日本橋・
高島屋 〔批〕朝日11
リヤン三人展 8—12 文房堂
9回彩光会染色展 8—13 上
野・松坂屋 〔批〕前春32号
清水六兵衛新作陶展 8—13
日本橋・三越 〔批〕産経時事
9、前春33号
現代作家油絵小品展 8—12
日本橋・壺中居 〔批〕朝日10
たぶろお会展 8—13 日比谷
画廊
長寛和尚真蹟遺墨展 8—13

22回東光会展 8—21 東京都
美術館
美術にあらわれた「日本の女性」
展 8—18 上野・松坂屋
〔批〕東京夕刊17(久富真)、三
彩7月
青木大乗日本画展 8—13 日
本橋・高島屋 〔批〕前春33号
墨洋金四人展 8—9 銀座・
東電サービスセンター
中筋幹彦遺作展 8—12 サエ
グサ 〔批〕朝日10
ビショップ英郎個展 8—17
フォルム
金山平三画業50年展 8—17
日本橋・高島屋 〔批〕朝日15、
産経夕刊17
地中会展 8—13 村松
一陽会春季展 8—13 日本橋・
高島屋 〔批〕朝日11
リヤン三人展 8—12 文房堂
9回彩光会染色展 8—13 上
野・松坂屋 〔批〕前春32号
清水六兵衛新作陶展 8—13
日本橋・三越 〔批〕産経時事
9、前春33号
現代作家油絵小品展 8—12
日本橋・壺中居 〔批〕朝日10
たぶろお会展 8—13 日比谷
画廊
長寛和尚真蹟遺墨展 8—13

22回東光会展 8—21 東京都
美術館
美術にあらわれた「日本の女性」
展 8—18 上野・松坂屋
〔批〕東京夕刊17(久富真)、三
彩7月
青木大乗日本画展 8—13 日
本橋・高島屋 〔批〕前春33号
墨洋金四人展 8—9 銀座・
東電サービスセンター
中筋幹彦遺作展 8—12 サエ
グサ 〔批〕朝日10
ビショップ英郎個展 8—17
フォルム
金山平三画業50年展 8—17
日本橋・高島屋 〔批〕朝日15、
産経夕刊17
地中会展 8—13 村松
一陽会春季展 8—13 日本橋・
高島屋 〔批〕朝日11
リヤン三人展 8—12 文房堂
9回彩光会染色展 8—13 上
野・松坂屋 〔批〕前春32号
清水六兵衛新作陶展 8—13
日本橋・三越 〔批〕産経時事
9、前春33号
現代作家油絵小品展 8—12
日本橋・壺中居 〔批〕朝日10
たぶろお会展 8—13 日比谷
画廊
長寛和尚真蹟遺墨展 8—13

22回東光会展 8—21 東京都
美術館
美術にあらわれた「日本の女性」
展 8—18 上野・松坂屋
〔批〕東京夕刊17(久富真)、三
彩7月
青木大乗日本画展 8—13 日
本橋・高島屋 〔批〕前春33号
墨洋金四人展 8—9 銀座・
東電サービスセンター
中筋幹彦遺作展 8—12 サエ
グサ 〔批〕朝日10
ビショップ英郎個展 8—17
フォルム
金山平三画業50年展 8—17
日本橋・高島屋 〔批〕朝日15、
産経夕刊17
地中会展 8—13 村松
一陽会春季展 8—13 日本橋・
高島屋 〔批〕朝日11
リヤン三人展 8—12 文房堂
9回彩光会染色展 8—13 上
野・松坂屋 〔批〕前春32号
清水六兵衛新作陶展 8—13
日本橋・三越 〔批〕産経時事
9、前春33号
現代作家油絵小品展 8—12
日本橋・壺中居 〔批〕朝日10
たぶろお会展 8—13 日比谷
画廊
長寛和尚真蹟遺墨展 8—13

22回東光会展 8—21 東京都
美術館
美術にあらわれた「日本の女性」
展 8—18 上野・松坂屋
〔批〕東京夕刊17(久富真)、三
彩7月
青木大乗日本画展 8—13 日
本橋・高島屋 〔批〕前春33号
墨洋金四人展 8—9 銀座・
東電サービスセンター
中筋幹彦遺作展 8—12 サエ
グサ 〔批〕朝日10
ビショップ英郎個展 8—17
フォルム
金山平三画業50年展 8—17
日本橋・高島屋 〔批〕朝日15、
産経夕刊17
地中会展 8—13 村松
一陽会春季展 8—13 日本橋・
高島屋 〔批〕朝日11
リヤン三人展 8—12 文房堂
9回彩光会染色展 8—13 上
野・松坂屋 〔批〕前春32号
清水六兵衛新作陶展 8—13
日本橋・三越 〔批〕産経時事
9、前春33号
現代作家油絵小品展 8—12
日本橋・壺中居 〔批〕朝日10
たぶろお会展 8—13 日比谷
画廊
長寛和尚真蹟遺墨展 8—13

22回東光会展 8—21 東京都
美術館
美術にあらわれた「日本の女性」
展 8—18 上野・松坂屋
〔批〕東京夕刊17(久富真)、三
彩7月
青木大乗日本画展 8—13 日
本橋・高島屋 〔批〕前春33号
墨洋金四人展 8—9 銀座・
東電サービスセンター
中筋幹彦遺作展 8—12 サエ
グサ 〔批〕朝日10
ビショップ英郎個展 8—17
フォルム
金山平三画業50年展 8—17
日本橋・高島屋 〔批〕朝日15、
産経夕刊17
地中会展 8—13 村松
一陽会春季展 8—13 日本橋・
高島屋 〔批〕朝日11
リヤン三人展 8—12 文房堂
9回彩光会染色展 8—13 上
野・松坂屋 〔批〕前春32号
清水六兵衛新作陶展 8—13
日本橋・三越 〔批〕産経時事
9、前春33号
現代作家油絵小品展 8—12
日本橋・壺中居 〔批〕朝日10
たぶろお会展 8—13 日比谷
画廊
長寛和尚真蹟遺墨展 8—13

22回東光会展 8—21 東京都
美術館
美術にあらわれた「日本の女性」
展 8—18 上野・松坂屋
〔批〕東京夕刊17(久富真)、三
彩7月
青木大乗日本画展 8—13 日
本橋・高島屋 〔批〕前春33号
墨洋金四人展 8—9 銀座・
東電サービスセンター
中筋幹彦遺作展 8—12 サエ
グサ 〔批〕朝日10
ビショップ英郎個展 8—17
フォルム
金山平三画業50年展 8—17
日本橋・高島屋 〔批〕朝日15、
産経夕刊17
地中会展 8—13 村松
一陽会春季展 8—13 日本橋・
高島屋 〔批〕朝日11
リヤン三人展 8—12 文房堂
9回彩光会染色展 8—13 上
野・松坂屋 〔批〕前春32号
清水六兵衛新作陶展 8—13
日本橋・三越 〔批〕産経時事
9、前春33号
現代作家油絵小品展 8—12
日本橋・壺中居 〔批〕朝日10
たぶろお会展 8—13 日比谷
画廊
長寛和尚真蹟遺墨展 8—13

ケミヤ〔批〕読売20(徳大寺公英)、美術批評6月、アトリエ7月(瀬木慎一)
 春蘭、懸風二人展 11-16 銀座・松坂屋
 二科会京都作家展 11-15 京都府ギヤラリ
 片山昭弘、河野芳夫、久保晃、小林二郎四人展 11-15 大阪・梅田画廊
 東洋画院水墨画展 11-13 名古屋・丸善
 7回創藝協会展 12-20 東京都美術館〔批〕産経夕刊18
 明治・大正・昭和美人画名作展 12-20 銀座・松屋〔批〕東京夕刊17(久富貴)、三彩7月
 段々社金工展 12-19 和光
 漫画集団展 12-19 上野・松坂屋
 現代大家日本画展 12-18 京都・丸物
 春陽・国画連合展 12-20 名古屋・愛知県美術館
 古屋・笠井二人展 12-13 伊勢市・鈴木屋
 裸婦とバラの絵展 13-20 大阪・フジカワ
 歌聲百五十年記念―歌聲展(松方コレクション) 13-6月3 大阪市立美術館
 3回MITANA展 14-19

養清堂〔批〕読売20(徳大寺公英)、美術批評6月、アトリエ7月(瀬木慎一)
 守田哲郎ガラスデザイン展 14-19 中央公論社画廊
 佐藤真一個展 14-19 村松〔批〕読売20(徳大寺公英)
 アメリカへ送る書の世界展(奎星会) 14-19 村松
 佐藤敬フランス風景作品展 14-19 東京画廊〔批〕毎日15(船戸洪吉)
 渡辺恂三個展 14-18 村松〔批〕アトリエ7月(瀬木慎一)
 モダンアート版画展 14-19 隣画廊
 富岡鉄斎・岸田劉生小品展 14-19 三原橋画廊
 4回泉川白水個展 14-17 壺中居〔批〕萌春33号
 石本茂子小品展 14-18 西萩窪・こけし屋
 林雅堂個展 14-16 名古屋・丸善
 光風会展 14-22 大阪市立美術館
 新潟美術工芸展 15-20 日本橋・高島屋〔批〕萌春34号
 大河内夜江新作展 15-20 安藤七宝店
 18回連袖会展 15-20 日本橋・三越
 小島真佐吉個展 15-21 なび

す
 日本美術協会展 15-20 日本橋・三越〔批〕萌春32号
 大貫松三油絵展 15-20 日本橋・三越
 新作民藝展 15-20 日本橋・三越
 10回新しき村美術展 15-20 日本橋・三越
 飛騨草焼と春慶塗展 15-20 日本橋・高島屋
 聖美術家油絵小品展 15-20 渋谷・東横
 澁美菱峰門展 15-20 新宿・三越〔批〕萌春33号
 群青同人展 15-20 新宿・ヴェルテル
 世界児童画展(私のおかあさん) 15-20 日本橋・三越
 大虚会展 15-18 ヤナセギヤラリ〔批〕萌春33号
 飯田貞重陶器展 15-20 日本橋・三越〔批〕萌春32号
 東洋の古代土器展 15-20 大阪・阪急
 新制作会員素描淡彩画展 15-20 大阪・阪急
 13回東丘社展 15-20 大阪・大丸
 春の青龍展 15-20 京都・大丸
 阪倉宣暢湯歌作品展 15-20 神戸・大丸

4回マキユリィ会展 16-19 兜屋
 めいとく会展 16-19 光風会館
 2回碧青会展 16-20 美松画廊
 福井昭雄「ムシケラ」展 16-26 新宿・シャトオ
 城所昌夫作品展 16-30 新宿・風月堂
 黒田重太郎新作油絵発表展 17-22 日動画廊
 菊地長市展 17-21 三省堂
 1回日本現代版画展 17-6月3 富山・郷土博物館
 明清漆工藝展 18-30 根津美術館
 中国仏教美術展 18-21 銀座・日本堂時計店
 松本慎三バラ水彩画展 18-23 銀座・松坂屋
 田辺三重松油絵個展 18-23 東京・大丸〔批〕東京20(岡本謙次郎)、朝日23、みづゑ7月(徳大寺公英)
 2回フンファン美術展 18-23 京都・丸善
 現代の版画展―日本と巴里派― 19-6月17 国立近代美術館〔批〕東京夕刊23(岡本謙次郎)、朝日26(小野忠重)、産経時事31、毎日6月13(船戸洪吉)、読売6月15(徳大寺公英)

一〇八
 朝倉彫塑塾 乾隆・薩摩・欧州ガラスコレクション展 19-27 日本橋・高島屋
 一九五六年モダンリビング展 19-30 日本橋・高島屋
 易川昌個展 19-25 サトウ〔批〕美術批評6月、アトリエ7月(瀬木慎一)
 五人の工藝展(産業工藝試験所「IAI」のグループ五人―西村忠、越智健三、加藤達美、川上信之、中島勇) 20-25 村松
 スピード・クラフィック・デザイン展 20-25 村松
 現代新人展 20-25 村松〔批〕美術批評6月
 11回春期新匠会展 20-25 京都市立美術館
 11回創作工藝展 21-26 和光〔批〕萌春33号
 1回淡彩デッサン展 21-26 サエグサ
 5回現代版画展 21-26 渡辺木版画店
 内山山海個展 21-26 養清堂〔批〕萌春33号
 向井久万個展 21-26 三原橋画廊〔批〕朝日23、東京夕刊24(田近憲三)、産経時事24、三彩7月、萌春33号
 つちかい油絵展 21-28 草土舎

おのざわ・さんいち漫画展 21

—25 美松画廊

滝川美一、斎藤聖香、菅沼五郎

彫刻三人展 21—26 中央公

論社画廊

岡上淑子個展 21—31 タケミ

ヤ [批]美術批評6月

森本健二個展 21—25 兜屋

[批]東京夕刊24(田近憲三)、

読売25(徳大寺公英)

3 回彩潮展 21—26 銀座画廊

三雲祥之助、小川マリ子二人展

21—26 大阪 フジカワ

小山田二郎個展 22—26 フォ

ルム [批]読売26(徳大寺公

英)、美術批評6月、アトリ

エ7月(瀬木慎一)

4 回皇月会日本画展 22—27

日本橋・高島屋 [批]三彩7

月、萌春33号(江川和彦及び

38頁—39頁)

2 回現代日本美術展 22—6月

8 東京都美術館

[批]

毎日20 河北 倫明

産経時事夕刊24 土方 定一

毎日26 柳 亮

日経28 久保貞次郎

東京タイムズ30 福島繁太郎

読売夕刊6月1 徳大寺公英

東京夕刊6月2 岡本謙次郎

美術展覧会(5月)

毎日6月7 植村鷹千代

アトリエ7月 瀬木 慎一

美術批評7月 [中]原 佑介

美術手帖7月 [東]野 芳明

萌春33号 植村鷹千代

江川 和彦

[記]

美術手帖7月

麻生三郎、森芳雄、中間冊

夫、佐野繁次郎、児島善三

郎、林武、高島達四郎、鳥

海青児、岡鹿之助、牛島憲

之、大野五郎、中谷泰、井

上長三郎、山本正、森田元

子、宮本三郎、仲田好江、

小糸源太郎、井手宜通、小

磯良平、浜口陽三、浜田知

明、川端実、桂ユキ子、小

山田二郎、福源一郎、岡本

太郎、斎藤義重、難波田龍

起、榎戸庄衛、名井万亀、

川口軌外、村井正誠、朝妻

治郎、田中田鶴子、鶴岡政

男、加山又造、佐藤忠良、

朝倉響子、昆野恒、植木茂、

向井良吉、建島寛造

[受賞]

現代日本美術展最優秀賞

岡 鹿之助

現代日本美術展佳作賞

山口 薫

植木 茂

浜田 知明

出品目録

洋画

裸婦 伊藤継郎

家内 井上長三郎

窓 井上三綱

はたをり 井手宜通

笑つてくる女 石川滋彦

モナコ 井手宜通

銀座・車・電柱 石川滋彦

銀座・人・人 石川滋彦

地目の女 伊藤久三郎

伏津子の像 林 武

奈津子の像 原 勝

樹 原 精一

バレリーナF 原 精一

静物 浜田知明

よみがえる亡霊 浜田知明

副校長D氏像 浜口陽三

ぶんど 浜口陽三

魚 服部正一郎

水郷門 服部正一郎

橋 服部正一郎

日曜日の朝 東郷青児

粉挽き 東郷青児

女 東郷青児

ポピの死 田和

鳥 田和

対話 渡辺武夫

形象 川端実

作品集 川口軌外

人 川口軌外

偽版GIPAN 川上澄生

G古地図 川上澄生

左官 香山泰男

室内 加山四郎

静物 川西 英

障子 桂 ユキ子

月とスツボン 桂 ユキ子

アンテナと動物 吉井 忠

仕事場 吉井 忠

母子 横地康国

城 横地康国

残像A 米倉寿仁

早春の阿蘇 田崎広助

武蔵野の早春 田崎広助

ボンベイ 田村一男

照りかける山容 田辺三重松

阿寒の山波 田辺三重松

裸婦立像 田村孝之介

裸婦座像 田村孝之介

鮭 田中佐一郎

三人 田中佐一郎

この人を見よ 田中忠雄

ユダヤ人の王 田中忠雄

万歳 田中 岑

海 田中 岑

岳 田中 岑

時 田中 岑

梅 田中 岑

山 田中 岑

日ぐれ時 高田 誠

桂川 高田 誠

裸の庭 高間惣七

海の庭 高橋忠弥

沼の沼 多賀谷伊徳

夜の鐘 鷹山宇一

静物 玉置正敏

裏側の会話 竹谷富士雄

風の探 曾宮一念

伐採 曾宮一念

海辺の熔岩 曾宮一念

桜島南岳 曾宮一念

死者を運ぶ 鶴岡政男

二人 鶴岡政男

海浜の子供 土田文雄

海浜の子供 土田文雄

生きる人 土屋幸夫

季節の流れ 津高和一

響 津高和一

転移 中村善策

北海道の秋 中村善策

男 中村善策

女 中村善策

二重肖像 中山 巍

夕方の景色 中川紀元

花 中川紀元

静物 仲田好江

疲れた物 中谷 泰

炭坑 中谷 泰

孤獨 中谷 泰

裸の娘 中谷 泰

黒い太陽に於ける群像 中西 勝

裸の娘 中西 勝

孤獨 中西 勝

裸の娘 中西 勝

黒い太陽に於ける群像 中西 勝

裸の娘 中西 勝

孤獨 中西 勝

裸の娘 中西 勝

黒い太陽に於ける群像 中西 勝

裸の娘 中西 勝

負わされた群像	中西勝	北国の雪	太田忠	観世音菩薩	前田藤四郎	作品U	小松義雄	婦人像	木下孝則
木 兎	南城一夫	河のほとりに赤	大野五郎	酒田港	真下慶治	衣を穿る	海老原喜之助	窓外日没	木村荘八
昇天する詩魂A	難波田竜起	おとめ	小川マリ	幾上山	古沢岩美	埋れた歴史(a)	榎戸庄衛	夜の建築物	北岡文雄
鋳物工場	名井万亀	静物A	小川マリ	狩山	福沢一郎	街の女達(b)	寺田竹雄	演奏者	宮本三郎
道	棟方志功	水	荻太郎	窓	藤川栄子	道・海・骨	寺田政明	メトロポリス	宮田重雄
板垣冊板画	棟方志功	かまど	熊谷守一	散	藤井令太郎	犬のいる道	赤い空	影刻	三岸節子
谷崎潤一郎歌々	棟方志功	ヤキバノカエリ	久保守	母	小林和作	赤い空	赤い空	静物	三岸節子
青の斑点	村井正誠	済	久保守	横向きの椅子	小森敬三	人	阿部展也	インカの壺2	南大路一
黄	村岡平蔵	仏国婦人像	久保守	白鷺城一角	小森敬三	人の出(南仏マントン)	青山義雄	感	南大路一
静	村岡平蔵	犬山城	久保守	秋山飛葉	小磯良平	月の出(南仏マントン)	朝井園右衛門	三匹(赤)	島岡実
人	向井潤吉	法隆寺の塔	桑田道夫	春行	小磯良平	月の出(南仏マントン)	朝妻治郎	作	品(A)品川工
疲れた河	内田武夫	朝の海	黒田頼綱	パリスの審判	小磯良平	月の出(南仏マントン)	朝妻治郎	越後の春	島野重之
少	梅原竜三郎	朝の海	黒田頼綱	戀う女達	小磯良平	月の出(南仏マントン)	朝妻治郎	越後の春	島野重之
粘土と少女	宇治山哲平	馬	山口長男	夜鳥(影絵日記・一)	小牧源太郎	像	赤松俊子	残	雪広瀬功
万 花	宇治山哲平	作	山口長男	夜鳥(影絵日記・二)	小泉清	像	赤松俊子	残	雪広瀬功
高 原	宇治山哲平	平易な四角	山口長男	夜鳥(影絵日記・三)	小泉清	像	赤松俊子	残	雪広瀬功
煙突の風景	牛島憲之	歪んだ四角	山口長男	夜鳥(影絵日記・四)	小泉清	像	赤松俊子	残	雪広瀬功
街	野間仁根	穴のあいたオー	山本敬輔	日記・二	小泉清	像	赤松俊子	残	雪広瀬功
瀬戸内海	野口弥太郎	ルマイテイ	山本敬輔	日記・二	小泉清	像	赤松俊子	残	雪広瀬功
踏	野村守女	黒いカノン	山本敬輔	日記・二	小泉清	像	赤松俊子	残	雪広瀬功
秋	野見山曉治	赤いカノン	山本敬輔	日記・二	小泉清	像	赤松俊子	残	雪広瀬功
家と	納富進	赤いカノン	山本敬輔	日記・二	小泉清	像	赤松俊子	残	雪広瀬功
工事	奥田郁太郎	赤いカノン	山本敬輔	日記・二	小泉清	像	赤松俊子	残	雪広瀬功
長崎風景	織田広喜	赤いカノン	山本敬輔	日記・二	小泉清	像	赤松俊子	残	雪広瀬功
群像	織田広喜	赤いカノン	山本敬輔	日記・二	小泉清	像	赤松俊子	残	雪広瀬功
作	織田広喜	赤いカノン	山本敬輔	日記・二	小泉清	像	赤松俊子	残	雪広瀬功
死の	岡本太郎	赤いカノン	山本敬輔	日記・二	小泉清	像	赤松俊子	残	雪広瀬功
雪の発電所	岡本太郎	赤いカノン	山本敬輔	日記・二	小泉清	像	赤松俊子	残	雪広瀬功
川に陽が沈む	大沢昌助	赤いカノン	山本敬輔	日記・二	小泉清	像	赤松俊子	残	雪広瀬功
人物の構図	大沢昌助	赤いカノン	山本敬輔	日記・二	小泉清	像	赤松俊子	残	雪広瀬功
池のある風景	太田忠	赤いカノン	山本敬輔	日記・二	小泉清	像	赤松俊子	残	雪広瀬功

仔 牛須田 寿
 錯覚の世界A 須田 烈太
 錯覚の世界B 菅野 恵介
 熊本古城 菅野 恵介
 村道 杉本 健吉
 埴輪 杉本 健吉
 歪んだ発生1 杉全 直
 歪んだ発生2 杉全 直
 風景 末松 正樹

日本画

佳き日 伊東 深水
 流れる光 岩崎 巴人
 白木蓮 浜田 明観
 嵐の中の花 堀 文子
 作品 堂本 尚郎
 水車 川端 龍子
 白雨 川合 玉堂
 方広寺の仏首 加納 三楽輝
 鷺 亀井 玄兵衛
 紅鶴 加山 又造
 五月月 片岡 球子
 雪のある山 川本 末雄
 暁 吉岡 堅二
 中村 貞以
 上村 松篁
 奥村 土牛
 奥村 厚一
 嶺 山本 丘人
 雲 山田 申吾
 海浜 山崎 豊

山丸木位里
 トルソの像 久保孝雄
 Sの像 黒田嘉治
 トルソ(飛ぶ) 山本豊市
 エチユード(飛ぶ) 山本豊市
 裸婦 松村外次郎
 共 存 昆野 恒
 生 力 朝倉 馨子
 逃げる魚 朝倉 馨子
 顔立 像 朝倉 馨子
 若い彫刻家 佐藤 忠良
 伏せる女 木内 克
 女 木内 克
 ねている女 木内 克
 女の顔 木内 克
 壁面レリーフの 菊地 一雄
 ための習作 菊地 一雄
 トルソ 新海 竹蔵
 青年 像 峰 孝
 裸婦 清水 多嘉示
 8回北斗会展 22-27 上野・松坂屋〔批〕萌春33号
 日本漆藝会展 22-27 日本橋・三越〔批〕萌春33号
 5回清瓊会日本画展 22-27 日本橋・三越7〔批〕、三彩7
 月 萌春34号
 朱々会展 22-28 なびす
 唐彩詩光陶展 22-27 安藤 画廊
 漱石遺墨展 22-26 壺中居
 むさしの陶美研究所作品発表展

22-25 安藤七宝店画廊
 〔批〕萌春33号
 1回清ろう会染色展 22-26 光風会館
 晴耕会油絵展 22-27 大阪・阪急
 田中塊堂、上田星邨、梅舒適三人展 22-27 大阪・阪急
 美術作家26人展 22-31 大阪・心斎橋ギヤラリー〔批〕美術批評7月(中原佐介)
 鬼頭鍋三郎滞欧作品展 22-26 大阪・フジカワ
 田辺竹雲齋作花籃展 22-27 大阪・高島屋
 4回龍土会展 22-25 大阪・大丸
 油草会展 23-28 三省堂
 S・R・A女流六人展 23-26 日本橋・丸善
 安井曾太郎遺作展 23-6月10 京都市美術館
 歌響展 23-6月3 大阪市立美術館
 鉄斎扇面名作展 23-27 大阪・とりみや画廊
 新制作開西展 23-31 大阪市立美術館
 鴻池家秘蔵扇面美術展 24-6月3 日本橋・白木屋
 9回第一グループ展 24-28 日比谷画廊
 川西英近作版画展 25-30 東

京・大丸
 2回双声展 25-30 産経画廊
 神奈川浮世絵名品展 25-6月6 横浜・松屋
 船木父子作陶小品展 25-28 たくみ
 友田みね子個展 25-30 名古屋・丸善
 東北現代美術連合展 25-29 山形市・公民館
 齋藤宝装展 26-30 兜屋
 現代新人展 26-31 村松
 3回白百合会展 26-28 三軒茶屋・日本相互銀行支店
 〔批〕萌春32号
 浜田庄司新作陶展 26-31 大阪・三越
 古家新個展 26-30 大阪・梅田画廊
 5回翠草会展 26-31 大阪・松坂屋
 赤光社展 26-31 大阪・松坂屋
 松方コレクション展 26-6月10 市立神戸美術館
 吉々彩画展 26-31 京都・丸物
 宮崎精一個展 26-30 熊本市・熊日ホール
 日本美術史展(第三期)―桃山時代―江戸時代―名古屋・愛知県美術館
 高田宏「渦」展 27-6月7 新

宿・シャトオ
清希卓個展 28—6月2 中央
公論社画廊

角浩個展 28—6月2 養清堂
1 回黒赤会展 28—29 新宿・
東電サービセンター
森若正孝商業デザイン展 28—
6月2 サトウ

5530 AG 展 28—6月3 名古屋
屋・文天堂画廊

山下摩起新作個展 29—6月3
日本橋・高島屋 [批] 萌春33
号
弓座由美個展 29—6月3 上
野・松坂屋

南龍平個展 29—6月1 樺画
廊
高浜虚子夏の句表装展 29—6
月2 ヤナセ

4 回薫風会日本画展 29—6月
3、日本橋・三越 [批] 三彩
7月、萌春34号
鴨居玲・若林和男二人展 29—
6月2

ほりじやん会木彫展 29—6月
3 新宿・伊勢丹

グループ展 29—6月5 日
比谷画廊
6 回新興美術院展 29—6月1
大阪・大丸

画声会展 29—6月3 大阪・
高島屋
亀岡本都個展 29—6月3 大

阪・大丸
朝日洋画会油絵展 29—6月3
大阪・阪急

4 回龍土会展 29—6月3 京
都・大丸
中川一政新作展 29—6月3
名古屋・松坂屋

六月

東山魁夷風景写生画展 1—6
銀座・松屋 [批] 東京夕刊4
(久富貢)、朝日4、三彩7月
三井永一個展 1—15 新宿・
風月堂 [批] アトリエ8月
(瀬木慎一)

新井深、田島佐理、大野俊夫三
人展 1—5 美松画廊
合田小三郎、斎藤正夫二人展
1—5 兜屋

名作複製展 (便利堂・法隆寺
金堂壁画十二壁面の大型原色
版完成を機に) 1—6 銀
座・松坂屋

三木朋太郎、宮下貞之介新作展
1—6 東京・大丸
八木一夫個展 1—10 タケミ
ヤ [批] 朝日7、みづる7月
(徳大寺公英)、美術批評7月
(中原佑介)、アトリエ8月(瀬
木慎一)

5 回現代日本陶藝展 1—7
上野・松坂屋 [批] 朝日7、
萌春33号

柳宗理工業デザイン展 1—12
銀座・松屋 [批] 朝日8
金象会展 1—7 渋谷・びた
ぼあん画廊

3 回中畑草人個展 1—6 大
阪・そごう
春陽会展 1—10 大阪市立美
術館

新興美術院小品展 1—4 大
阪・梅田画廊

淡路焼紙平特別陳列 1—30
京都国立博物館
悠々会日本画小品展 2—7
安藤七宝店

福原三郎、勝又理、林田重正三
人展 2—6 樺画廊
佐藤忠良、朝倉拱、中谷泰三人
展 2—6 村松 [批] 毎
日6(船戸洪吉)、三彩7月、
美術批評7月(中原佑介)、ア
トリエ8月(瀬木慎一)

塚本隆造、田村正弘二人展 2
—6 村松
朝鮮古陶磁展 2—7月29 鎌
倉・近代美術館

紫農会工藝展 2—7 大阪・
三越

3 回新美術協会展 2—10 大
阪市立美術館
E・G・G・デザイン展 3—
10 ムラバヤシ画廊

東北現代美術連合展 3—10
酒田・本間美術館

小野忠弘個展 4—9 サトウ
[批] 朝日8、読売夕刊15(徳
大寺公英)、美術批評7月(東
野芳明)、アトリエ8月(瀬木
慎一)

田中佐一郎個展 4—7 日本
橋・丸善

仲田好江個展 4—9 求龍堂
[批] 朝日8、東京夕刊7(久富
貢)、アトリエ8月(瀬木慎
一)

草々展 4—9 産経画廊
斉藤聖香作品展 4—9 国際
観光会館

陳仁濤蔵中国画展 4—11 京
都市美術館
各務クリスタル五人展 5—10
渋谷・東横 [批] 朝日7、萌
春34号

20 回岩田藤七新作硝子器展 5
—10 日本橋・高島屋 [批]
朝日7、産経夕刊8、毎日9
(船戸洪吉)、東京タイムズ9、
東京夕刊10(柳亮)、萌春34号

A B C グループ展 5—9 文
房堂

爽々会水彩画展 5—10 日本
橋・三越

3 回千葉かつお個展 5—9
サエグサ
富取風堂小品展 5—10 上野・
松坂屋
新しいガラス工芸の会 5—10

新宿・伊勢丹
荒井龍男遺作展 5—9 大阪・
フジカワ

京都在住特選作家日本画展 5
—10 京都・土橋画廊
山下清作品展 5—10 大阪・
大丸

11 回春期新匠会展 5—18 大
阪・高島屋
現代版画展 5—10 大阪・阪
急

鳥取民藝新作展 5—10 大阪・
阪急
6 回白軌会展 6—10 美松画
廊

2 回山下登個展 7—12 村松
[批] 美術批評7月(東野芳
明)、アトリエ8月(瀬木慎一)

佐川敏子個展 7—9 ヤナセ
高塚省吾絵画展 7—12 村松
七人展 7—12 村松

2 回点々会展 8—13 銀座・
松屋 [批] 産経時事夕刊15
近岡善次郎個展 8—13 銀座・
松坂屋

日本画府美術展 8—13 銀座・
松屋 [批] 萌春34号
フラーテル展(田代光六人兄弟)
8—10 日本橋・丸善

雅遊会同人展 8—13 銀座・
松屋
京都在住父子陶芸家「双々会展」
8—13 東京・大丸 [批] 萌

春34号

3 回不木会展 8-14 びたほ

柳沢・大須賀二人展 8-11

松本市・開運堂画廊

サークル光葉洋画展 8-12

千葉・園松画廊

9 回荻屋市美術展 8-12 芦

屋市・精道小学校

陶芸家クラブ展 8-12 京都

府ギヤラリー

浜谷政彦(磁力)展 8-18 新

宿・シャトオ

七宝彩画新作展 9-17 安藤

七宝店

1 回漫画集団展 9-17 上野・

松坂屋(批)朝日13、毎日14

(船戸洪吉)

15 回春泥社展 9-14 大阪・

三越

4 回ニッポン展 9-22 東京

都美術館(批)産経時事夕刊

15、読売夕刊22(徳大寺公英)、

美術批評7月(中原佑介)美術

手帖9月(徳大寺公英)

10 回女流画家展 10-22 東京

都美術館

(批)

朝日15

産経時事夕刊15

日経17 田近 憲三

毎日19 船戸 洪吉

東京夕刊21 大久保 泰

美術展覧会(6月)

読売夕刊22 徳大寺公英

美術批評7月 中原 佐介

美術手帖9月 徳大寺公英

44 回日本水彩画会展 10-22

東京都美術館(批)産経時事

夕刊15

香月泰男個展 10-16 大阪・

フジカワ

吉坂博洋画個展 11-16 中央

公論社画廊

山崎豊個展 11-16 養清堂

(批)産経時事夕刊15(横川)、

三彩8月、前春34号

勝呂忠個展 11-16 サトウ

(批)美術批評7月(東野芳

明)、アトリエ8月(瀬木慎一)

JUNE展 11-15 美松画廊

東光会展 11-18 大阪市立美

術館

小野忠弘個展 11-20 タケミ

ヤ

可社会日本画展 11-16 三原

橋画廊(批)前春34号

春の青龍展 12-17 名古屋・

松坂屋

三条家秘宝展 12-20 渋谷・

東横

7 回日月社展 12-17 日本橋・

三越(批)前春44号

3 回県会展 12-17 日本橋・

高島屋(批)産経時事夕刊15

(横川)、東京16(河北倫明)、

前春34号

20 アートクラブ展 12-17

なびす

現代工芸連合展 12-17 日本

橋・三越(批)前春34号

世界商業デザイン展 12-17

(批)東京タイムズ12(勝負

勝)、朝日13、東京16(大智浩)

日下部寿南画展 12-17 日

本橋・三越(批)前春34号

木下孝則個展 12-17 上野・

松坂屋

2 回黒潮会展 12-17 京都・

大丸

現代藝術研究所プリント服地デ

ザイン展 12-17 日本橋・

高島屋

斎藤三郎作陶展 12-17 大阪・

阪急

森本健二油絵個展 12-17 大

阪・阪急

春期新匠会展 12-17 大阪・

高島屋

明治・大正・昭和名作油絵展

12-27 酒田・本間美術館

北美洋画展 12-17 武生市公

会堂

田崎広助新作発表展 13-18

日動画廊(批)朝日15、アト

リエ8月(瀬木慎一)

五姓田義松作品展 13-15 東

京藝大

福井美智油絵個展 13-17 兜

屋(批)みづゑ8月(向井潤

吉)、アトリエ8月(瀬木慎一)

年々会展 13-16 日本橋・丸

善(批)毎日16(船戸洪吉)

いろがみによる造形展 13-19

櫛画廊

モタンアート東京グループ展

13-18 三省堂

石井茂雄個展 13-18 村松

(批)美術批評7月(中原佑

介)、アトリエ8月(瀬木慎一)

丹羽和子個展 13-18 村松

(批)アトリエ8月(瀬木慎一)

4 回光陽会展 13-26 東京都

美術館

職場美術展 13-17 京都市美

術館

西欧硝子と工藝の会 14-17

日本橋・高島屋

兵庫県日本画家連盟展 14-24

市立神戸美術館

青陶会展 15-20 銀座・松屋

(批)前春34号

2 回常岡卯三郎個展 15-20

銀座・松屋(批)産経夕刊22

真野岩夫洋画展 15-19 京都

府ギヤラリー

5 回創型会彫塑展 16-28 東

京都美術館

石川譲治、四辻一郎、高橋正重

画展 16-20 美松画廊

前川直グアッシュ小品展 16-

30 渋谷・風月

東紅会同人展 16-22 松島ギヤ

ラリー

安井曾太郎遺作展 16-7月1

大阪・松坂屋

安井曾太郎遺作展 16-7月1

名古屋・松坂屋

1 回グループ「牙」展 16-20

新潟・永井画廊

品川エヒカリの版画展 18-23

中央公論社画廊

金子真珠郎個展 18-23 サト

ウ(批)読売夕刊22(徳大寺公

英)美術批評7月(東野芳明)、

アトリエ8月(瀬木慎一)、美

術手帖9月(徳大寺公英)

5 回晴日会展 18-23 養清堂

明清漆工藝展 18-30 植津美

術館

駒井哲郎銅版画展 18-23 南

画廊(批)東京夕刊23(岡本

謙次郎)、美術批評7月(東野

芳明)、アトリエ8月(瀬木慎

一)

丸木スマ個展 19-28 安藤七

宝店(批)前春34号

谷出孝子個展 19-22 日動画

廊

地主佛助油絵個展 19-23 日

本橋・丸善

創立25周年記念日本木彫会展

19-24 日本橋・高島屋(批)

産経夕刊22

- 「心」同人扇面書画展 19—24
日本橋・三越
- 宮之原謙作陶展 19—24 日本橋・三越〔批〕萌春34号
- 10回墨心会展 19—24 上野・松坂屋〔批〕産経夕刊22、萌春33号
- 丹彫金展 19—24 新宿・伊勢丹〔批〕萌春34号
- 彼末宏個展 19—24 養清堂
- 福田勝治イタリア写真展 19—24 日本橋・高島屋〔批〕朝日24
- 田中阿喜良個展 19—24 村松〔批〕アトリエ8月(瀬木慎一)
- 久保晃個展 19—24 村松
- 今関鷲人個展 19—24 村松
- 小山田チカエ、薬師寺浜子二人展 19—7月10 新宿・シヤトオ
- 吉田博遺作版画展 19—24 大阪・阪急
- 研水会展 19—26 大阪市立美術館
- 鴨居玲油絵個展 19—24 大阪・阪急
- 8回清流会展 20—23 兼素洞〔批〕毎日21(船戸洪吉)、朝日21、産経夕刊22、東京夕刊23(久富實)、日経23(嘉門安雄)、三彩8月
- 5回現代美術工藝展 20—24 日本橋・高島屋
- 童画集団展 20—25 三省堂
- 伊賀勇高、塙賢三路傍美術展 20—30 教寄屋橋公園
- 南川譲個展 20—24 樺園廊
- 1回染絵展 20—21 東電サ―ビスセンター
- 荒木十散追憶記念展 21—28 渋谷・東横
- 7回禮会展 21—27 兜屋〔批〕東京夕刊24
- 米山信子個展 21—25 美松画廊
- 燦光会展 21—27 銀座・松坂屋
- 自由美術九人展 21—30 タケミヤ
- 4回働く者の生活作品展 22—27 池袋・西武
- 武者小路実篤日本画展 22—27 銀座・松坂屋
- 真垣武勝滂歌作品展 22—27 東京・大丸
- 斎藤龍水水墨画展 22—27 銀座・松屋
- 新夕刊創刊記念現代大家展 22—27 銀座・松屋〔批〕三彩8月
- 「今日の写真」展 ―日本とフランス― 22—7月15 国立近代美術館〔批〕読売夕刊26(阿部展也)
- 3回モダンアートフェア 22—27 大阪・そごう
- 4回黄塵会展 22—26 川崎市民館
- 山崎青樹個展 ―23 三原橋画廊〔批〕産経夕刊22
- 正宗得三郎新作展 23—27 日動画廊
- 8回連立展 (朱葉会、新構造社、創造美術) 23—7月6 東京都美術館〔批〕産経夕刊29
- 鳳雛会展 23—24 京都市美術館
- 10回旺玄会展 24—7月6 東京都美術館〔批〕産経夕刊29
- 12回現代美術協会展 24—7月6 東京都美術館
- 6 フランス・ドイツ児童画展 25—7月3 クレパス画廊
- 木村賢太郎個展 25—30 サトウ〔批〕読売夕刊29(徳大寺公英)、美術批評8月(東野芳明)、みづゑ8月(植村鷹千代)、アトリエ8月(瀬木慎一)
- 武藤仁斐個展 25—26 養清堂
- 三宅克己水彩画個展 25—30 中央公論社画廊
- 大橋純個展 25—30 東京画廊〔批〕みづゑ8月(田近憲三)
- 1回桃源会展 25—29 村松〔批〕産経夕刊29(横川)
- 貝原六一個展 25—30 村松
- 吉留要個展 25—30 村松
- 東平哲弥個展 26—30 サエグサ
- 7回苗会展 25—30 壺中居〔批〕産経夕刊29(横川)、三彩8月、萌春34号
- 山田新一近作油絵展 26—7月1 日本橋・高島屋〔批〕産経夕刊29、みづゑ8月(柳亮)
- 上村松園賞記念展 26—7月1 日本橋・高島屋〔批〕毎日27(船戸洪吉)、読売夕刊29(徳大寺公英)、三彩8月
- 青羊会日本画展 26—7月1 日本橋・三越〔批〕産経夕刊29(横川)、東京夕刊30(久富實)、日経7月1(野間清六)、三彩8月、萌春35号(鈴木進)
- なみき会ろうけつ染工藝展 26—7月1 新宿・伊勢丹
- 批把会日本画展 26—7月1 上野・松坂屋〔批〕三彩8月
- 1回アッシュ展 26—30 美松画廊
- 2回グループ・ポアン展 26—30 ヤナセ
- 青山熊治展 26—7月1 大阪・梅田画廊
- 青甲社展 26—7月1 大阪・大丸
- 中谷延子油絵個展 26—7月1 大阪・阪急
- 工藝十人展 26—7月1 大阪・大丸
- 2回尚院会展 26—7月1 京都・大丸
- 山本蘭村小品展 27—30 養清堂
- 10回大須賀力、黒田嘉治彫刻展 27—30 日本橋・丸善
- 新世紀美術協会展 27—7月6 大阪市立美術館
- 9回造型教育センター展 27—7月2 なびす
- 三宅克己滂歌作小品展 28—7月2 日動画廊
- 中山府仁夫、相場秀夫二人展 28—7月4 鎌倉・塚
- グループ工藝展 29—7月8 渋谷・東横
- 互井開一水彩個展 29—7月3 兜屋
- 双友会作品展 29—7月4 東京・大丸〔批〕三彩8月
- 旦々会日本画展 29—7月4 銀座・松屋〔批〕萌春35号
- 大森明桃近作展 29—7月4 銀座・松坂屋〔批〕東京タイムズ7月3
- 葺我会小品展 29—7月3 京都府ギヤラリ
- 小谷陶器展示即売展 30—7月7 安藤七宝店
- 2回無頼派展 30—7月5 日比谷画廊
- 北沢映月個展 30—7月5 大阪・三越

清風会新作日本画展 30—7月
5 京都・丸物

七月

1 回よい絵を安く売る会 1—
7 樺面廊

宮本正之洋画展 1—10 タケ
ミヤ

伊東深水紙本茶掛展 1—8
産経画廊 (批)産経夕刊7月

6 (横川)、萌春34号
エの虫会展 1—5 美松画廊

神戸市民美術展 1—25 市立
神戸美術館

21回デッサン社展 2—7 中
央公論社画廊

小野忠重版画個展 2—7 養
清堂 (批)朝日5、美術手帖

9月(徳大寺公英)、アトリエ
9月(浜村順) (記)美術手帖

9月(小野忠重)
1 回日仏具象作家協会展 2—
8月4 プリヂストン

(批)
産経夕刊6
東京夕刊6
読売夕刊6

朝日10
美術手帖9月
アトリエ9月

徳大寺公英
嘉門 安雄
浜村 順

美術手帖9月
関口 俊吾
寺田 春哉

美術展覧会(6・7月)

瓊韻会日本画展 2—8 上野・
松坂屋 (批)萌春34号

創元会々員展 3—8 日本橋・
高島屋 (批)産経夕刊6

伊藤清永新作油絵展 3—7
日動画廊 (批)産経夕刊6

3 回内田邦夫陶藝展 3—8
日本橋・高島屋 (批)萌春35
号

雨宮窳彩硝子展 3—8 日本
橋・高島屋 (批)萌春35号

蓉薇会展 3—7 ヤナセ
立花一花作品展 3—7 日本
橋・丸善

宮崎浩治・柴田広二人展 3—
9 サトウ

棟方志功、シ谷崎潤一郎歌々板
画欄々展 3—9 なびす

今村昭寛個展 3—7 サエグ
サ

今日の児童画展 3—8 日本
橋・高島屋

米沢藤峰新作陶展 3—9 日
本橋・三越 (批)萌春35号

3 回出版美術家連盟さしまつ
り 3—9 上野・松坂屋

2 回北生会日本画展 3—8
大阪・阪急

桑山哲吾、京阪神風景画展 3—
8 大阪・阪急

尚美展 4—7 三原橋画廊
(批)産経夕刊6 (横川)

美術展覧会(6・7月)

橋本明治新作展 4—7 兼素
洞

(批)
朝日5
毎日5
産経夕刊6

東京夕刊6
日経6
三彩8月
萌春35号

坪安雄、梶谷寿雄、平林克之、
幸形荣治四人展 4—7 ク
レパス画廊

高塚篤洋画個展 4—9 三省
堂

5 回南風会展 4—8 名古屋・
愛知県美術館

黏土新作陶展 5—12 東京・
大丸 (批)萌春35号

中東学術調査展 5—25 京都
国立博物館

奥村土牛繁描展 6—15 銀座・
松屋 (批)朝日5、産経13(横
川)

空間グループ展 6—10 美松
画廊

消防スケッチコンクール作品展
東京・大丸

震風会展 7—10 兜屋

25 回朔日会展 7—19 東京都
美術館 (批)東京夕刊10、産
経13、毎日19(船戸洪吉)

片山昭弘個展 7—12 村松

美術展覧会(6・7月)

(批)美術批評8月(中原佑介)
52 回太平洋画会展 7—19 東
京都美術館 (批)東京夕刊
10、産経13、萌春35号

高井寛二個展 7—12 村松
(批)読売夕刊13(徳大寺公英)

美術手帖9月(徳大寺公英)
アトリエ9月(浜村順) (記)
美術手帖9月(高井寛二)

夏季特別展—中国白磁及出土装
身具 8—22 神戸・白鶴美
術館

田中田鶴子、流政之二人展 9—
14 養清堂 (批)朝日13、読
売夕刊13(徳大寺公英)、美術
批評8月(中原佑介)、美術手
帖9月(徳大寺公英)、アトリ
エ9月(浜村順) (記)美術手
帖9月(田中田鶴子)

近藤せい子、夏悦二人展 9—
14 産経画廊

金光珠個展 9—14 中央公論
社画廊

二葉会展 9—11 安藤七宝店
備前焼名工展 9—15 渋谷・
東横

高橋秀洋個展 9—12 日本橋・
丸善

「鑢と刀装具」特別陳列 10—8
月30 奈良国立博物館

鱸利彦油絵展 10—15 日本橋・
高島屋

生活工藝集団小品展 10—22

美術展覧会(6・7月)

日本橋・高島屋
1 回星々会展 10—14 サエグ
サ (批)朝日13

沢田重隆、田名網敬二人展
10—30 新宿・ウエルテル
瀬戸陶藝展 10—15 日本橋・
三越 (批)萌春35号

児島善三郎小品展 10—16 な
びす

好美会展 10—15 京都・大丸
双友会展 10—15 大阪・大丸
造美サークル同人展 10—15
大阪・阪急

茶盤鑑賞展 10—15 大阪・阪
急

九人展(早川昌、オチ・オサム、
吉仲太造、多賀谷伊徳、中井
勝郎、村上善男、藤沢典明、
小久保晴行、芥川沙織) 11—
17 サトウ

(批)
読売13
美術批評8月
アトリエ9月

徳大寺公英
中原 佑介
浜村 順

高橋秀個展 11—14 日本橋・
丸善

治田武個展 11—20 タケミヤ
(批)美術批評8月(中原佑介)

グループ壁展 11—16 三省堂
二紀余女流五人展 11—15 美
松画廊

棟方志功青天抄板画展 11—17
銀座・松屋 (批)朝日13

美術展覧会(6・7月)

美術展覧会(6・7月)

美術展覧会(6・7月)

美術展覧会(6・7月)

交玄會展 11—15 大阪・高島屋
 レムブランド展 (レムブランドト生誕三五〇年記念) 13—19
 光風會館
 安達真太郎新作展 13—17 日動画廊
 日本山岳協會展 13—18 東京・大丸
 熊倉順吉、本野東一二人展 13—18 〔批〕アトリエ9月 (浜村順)
 本宮龍太郎個展 13—18 村松
 黄土會洋画彫刻展 13—17 日木橋・丸善
 椎の実展 13—19 日比谷画廊
 新世紀展 14—19 名古屋・愛知県美術館
 小林勇昆虫原画展 15—31 日本橋・三越
 衣笠會展 15—17 京都・京都美術ギヤラリー
 現代日仏クレパス画展 16—21 クレパス画廊
 2回トリア・ブリアン展 16—21 ヤナセ
 菊地日出男個展 16—21 養清堂
 浮世絵名作複製展 16—22 安藤七宝店
 藤七宝店
 1回示悠會同人展 16—21 産経画廊
 藍人会展 16—20 美松画廊

福永晴帆水墨画展 17—22 日本橋・高島屋〔批〕萌春35号
 伊川鷹治個展 17—22 日本橋・三越
 東洋古美術展 17—25 名古屋・松坂屋
 志村計介個展 17—21 サエグサ
 21回アイトクラブ展 17—22 なびす〔批〕アトリエ9月 (浜村順)
 世田谷区美術展 17—22 渋谷・東横
 竹杖會日本画展 17—22 京都・大丸
 北村明道大和絵展 17—22 上野・松坂屋〔批〕萌春35号
 15回双台展 17—22 日本橋・三越
 11回國際觀光美術協會會員作品展 17—22 日本橋・三越
 秋舟道人会津八一和歌筆蹟展 17—22 大阪・阪急
 北田英穂油絵展 17—22 大阪・阪急
 独立美術協會関西展 17—23 大阪市立美術館
 1回雨晴會展 18—21 兼素洞号
 〔批〕日経20、朝日21、萌春36号
 加藤金一郎個展 18—21 日本橋・丸善〔批〕美術手帖9月 (徳大寺公英)〔記〕美術手帖

9月(加藤金一郎)
 モダン・アイト・グループ展 18—23 三省堂
 2回燦光會展 18—25 銀座・松坂屋〔批〕三彩9月、萌春35号
 尾崎愛明、鶴岡弘康、清水孝、針生鎮郎四人展 19—25 サトウ
 小林二郎個展 19—24 村松
 今関一馬個展 19—24 村松
 〔批〕美術手帖10月(植村鷹千代)〔記〕美術手帖10月(今関一馬)
 5回宮之原謙新作陶展 19—24 日本橋・三越
 海の名作美術展 19—23 都立産業會館〔批〕読売夕刊23 (野口弥太郎)
 高間惣七新作展 20—25 東京・大丸〔批〕朝日21、東京夕刊23(岡本謙次郎)、産経27、美術手帖10月(植村鷹千代)、アトリエ9月(浜村順)〔記〕美術手帖10月(高間惣七)
 1回スポーツ美術展 20—31 銀座・松屋〔批〕毎日22(船戸洪吉)、読売28〔記〕朝日夕刊22
 日本の風景展 20—8月26 国立近代美術館
 〔記〕
 東京夕刊5 高島達四郎

東京夕刊8 福沢 一郎
 10 鈴木信太郎
 12 林 武
 16 小糸源太郎
 17 田崎 広助
 18 近藤浩一路
 19 石井 柏亭
 20 山本 丘人
 21 島海 青兒
 22 岡 鹿之助
 〔批〕
 産経夕刊10 船戸 洪吉
 毎日15 第一美術展 21—31 東京都美術館〔批〕産経27
 職場美術展 21—31 東京都美術館〔批〕読売夕刊27(徳大寺公英)
 3回三装會舞台美術展 21—25 美松画廊
 中村宏個展 21—31 タケミヤ
 〔批〕美術批評9月(針生一郎) 荒井草雨個展 21—28 大阪・梅田画廊
 5回蓮上會展 23—26 日本橋・丸善
 「モダンアートと掛軸」展 23—28 養清堂〔批〕毎日24(船戸洪吉)、アトリエ9月(浜村順)、美術手帖10月(植村鷹千代)
 三上隆彦個展 23—28 中央公論社画廊

1回真光會展 23—27 銀座画廊
 現代版圖展 23—28 渡辺木版画店
 洋々會染色工藝展 23—29 産経画廊
 梅軒紙園會展 23—25 京都・梅軒四条店
 加納白千漆繪工藝作品展 24—29 日本橋・高島屋
 大沢清富、大橋純二人展 24—30 なびす
 6回荻野康児個展 24—29 大阪・高島屋
 富岡鉄斎小品展 24—29 上野・松坂屋
 紀州漆工藝展 24—29 大阪・阪急
 勝保泰蔵、平間誠治二人展 25—30 三省堂
 ぶてい、えくら展 25—30 村松画廊
 6回日本陶彫會展 25—29 日本橋・三越〔批〕萌春36号
 複製浮世絵と現代版圖展 25—8月5 日本橋・三越
 和田徹個展 25—30 村松〔批〕美術手帖10月(植村鷹千代)〔記〕美術手帖10月(和田徹)
 飯田庸夫、坂忠雄、土味川独甫展 26—8月2 サトウ
 一行會女流日本画展 26—31 新宿・伊勢丹〔批〕萌春36号

津高和一個展 27—8月1 銀

座・松屋〔批〕朝日30、読売

夕刊8月3(中原佑介)、美術

批評9月(針生一郎)、アトリ

エ9月(浜村順)、美術手帖10

月(植村鷹千代)〔記〕美術手

帖10月(津高和)

春陽会13人展 27—31 日本

橋・丸善

矢野平次郎油絵展 27—30 大

分・コトブキヤ

2回一九五五年会展 27—8月

1 銀座・松坂屋〔批〕朝日

30、毎日31(船戸洪吉)、東京

夕刊31(岡本謙次郎)、アトリ

エ9月(浜村順)、美術手帖10

月(植村鷹千代)

4回春潮会洋画展 27—8月1

東京・大丸

勅使河原霞モビールいけばな同

人展 27—8月1 東京・大

丸

印刷美術展 27—8月5 大阪

市立美術館

平和美術展 27—8月5 大阪

市立美術館

中部新制作グループ展 27—30

名古屋・愛知県美術館

グループVAN展 29—8月2

美松画廊

大森明洗油絵展 29—8月4

銀座・松坂屋

山口源現代版画展 30—8月4

養清堂〔批〕美術批評9月

(中原佑介)〔記〕美術手帖10

月(山口源)

古田遠志欧米スケッチ展 30—

8月4 中央公論社画廊

独立十人の会展 31—8月5

日本橋・高島屋〔批〕産経夕

刊3

橋口渡個展 31—8月5 なび

す

日本水墨派展 31—8月5 日

本橋・三越

分家展 31—8月5 上野・松

坂屋

4回実証展 31—8月5 村松

〔批〕読売夕刊8月3(中原

佑介)、美術批評9月(針生一

郎)、アトリエ9月(浜村順)

女子美術大学作品展 31—8月

5 渋谷・東横

小早川篤四郎個展 31—8月5

大阪・阪急

室町、桃山絵画妙品展 31—8

月5 大阪・阪急

八月

加藤太郎回顧展 1—10 タケ

ミヤ〔批〕美術批評9月(中

原佑介)

石塚三幸、松川節二人展 1—

15 渋谷・風月

実験工房三人展 1—15 新

宿・風月〔批〕美術批評9月

(中原佑介)

信濃路スケッチ展 1—5 産

経画廊

十九世紀から二十世紀までのロ

シヤ美術展 1—9 日本橋・

白木屋〔批〕産経夕刊3、日

経4(田近憲三)、読売夕刊6

(井上長三郎)、朝日8(宮本

三郎)

2回二紀会女流六人展 3—8

銀座・松坂屋

後藤愛彦個展 3—7 日本

橋・丸善

山形県風物画展 3—8 銀

座・松屋〔批〕萌春36号

生閉社研究展(伊東深水門) 3

—7 美松画廊

悠心会画賛展 3—8 東京・

大丸

京都版画展 3—8 東京・大

丸

神奈川文化史展 4—9月16

鎌倉・近代美術館

馬場彬個展 4—10 サトウ

シェル美術新人賞展 4—19

鎌倉・近代美術館〔批〕アト

リエ10月(浜村順)

建築写真コンクール 4—9

名古屋・愛知県美術館

小野益一創案新しい転写の版画

展 6—11 中央公論社画廊

嘉手川繁夫、田中充昭絵画展

6—11 村松〔批〕美術批評

9月(中原佑介)

入江来布遺作画稿展 6—12

大阪・阪急

染谷元蔵、中野勉、拓植勇三油

絵三人展 6—12 大阪・阪急

クラアヴェ版画作品展 7—9

月2 ブリヂストン

16回カトリック美術展 7—12

日本橋・三越

角南松生滞欧展 7—12 日本

橋・高島屋

金刀比羅宮と善通寺名宝展 7

—15 渋谷・東横

新井秀一郎個展 7—13 なび

す

高橋由一油絵展 7—15 渋

谷・東横

アジアの画家によるカットグラ

ス展 7—12 日本橋・三越

〔批〕毎日12(船戸洪吉)

3回東商美展 7—12 日本

橋・三越

4回日本医家美術展 7—12

日本橋・三越〔批〕東京タイ

ムズ16(植村鷹千代)

京都画壇新作日本画展 7—12

上野・松坂屋

2回山林美術展 8—11 日本

橋・丸善

六人展 8—13 三省堂

張替真宏、山内秀臣二人展 8

—14 美松画廊

赤城泰舒水彩画展 10—14 日

動画廊

三軌会染色小品展 10—15 銀

座・松屋

武者小路実篤新作展 10—15

東京・大丸

現代版画秀作展 10—15 東

京・大丸

古美術名作展 10—15 東京・

大丸

3回前衛集団展 10—12 名古

屋・愛知県美術館

6回日本宣伝美術会展 10—15

銀座・松坂屋

〔批〕

読売夕刊10 中原 佑介

東京夕刊12 劍持 勇

朝日13

毎日14 船戸 洪吉

東京タイムズ21

〔受賞〕

日本宣伝美術会員賞 杉浦 康平

特選—宮沢尚、細谷巖、川村

隆信、宇野亜喜良、横溝敬

三郎、

五六年度会員賞 亀倉 雄策

美術鑑識にせもの・ほんもの展

11—23 日本橋・白木屋〔批〕

三彩9月

新妻実彫刻個展 11—19 タケ

ミヤ

4回平和美術展 11—20 東京

都美術館〔批〕読売夕刊17

(中原佑介)、三彩9月

10回市民美術展 11—16 東京
都美術館
青木繁・坂本繁二郎作品展 11
—9月30 久留米・石橋文化
センター
深尾庄介作品展 12—17 村松
〔批〕美術批評9月(針生一郎)
岡本信治水彩画展 12—17
村松 〔批〕読売夕刊17(中原
佑介)、美術批評9月(針生一
郎)、アトリエ10月(浜村順)
青んぼ四人展 13—18 サトウ
日本古鏡鑑賞展 13—19 大阪・
阪急
関西バスホテル同好会作品展 13
—19 大阪・阪急
5回きぬた会染色作品展 14—
19 日本橋・高島屋
歴史を物語る名刀展 14—19
日本橋・高島屋
白と黒の会展 14—20 なびす
4回日野耕之祐洋画展 14—19
上野・松坂屋
10回紅土会油絵展 14—19 日
本橋・三越
2回三福会展 15—20 産経画
廊
石川滋彦油絵展 15—20 日動
画廊
武田範芳作品展 15—18 日本
橋・丸善
三軌会グループ展 15—19 美
松画廊

中部日本美術展 16—22 名古屋
屋・愛知県美術館
全国紙の面優品展 17—22 東
京・大丸
3回不同社日本画展 17—22
銀座・松屋 〔批〕三彩9月、
アトリエ10月(浜村順)
四階美術展 17—21 京都府
ギャラリー
東柳会俳画展 17—22 銀座・
松屋
11回東邦美術院小品展 17—22
渋谷・東横
6回デモクライト展 18—23
村松 〔批〕美術手帖10月(植
村鷹千代)、アトリエ10月(浜
村順)、美術批評11月(針生一
郎)
8回現代版画展 20—25 渡辺
版画展
5回LETTIA展 20—26
美松画廊 〔批〕美術批評11月
(針生一郎)
足立源一郎近作「山の肖像画」展
21—25 日動画廊
3回仏教美術協会展(彫刻) 21
—26 日本橋・三越
深谷徹滯欧作品展 21—26 日
本橋・高島屋
蘭部雄作個展 21—27 サトウ
23才展「核戦争期」 21—25 文
房堂
2回全日本学生美術展 21—26

上野・松坂屋
造型教育センター展 21—26
なびす
石頭の会彫刻展 21—31 タケ
ミヤ
南画院創立10周年記念展 21—
26 渋谷・東横 〔批〕前春37
号
世界の商業デザイン展 21—26
大阪・阪急
喜多村作太郎新作陶展 21—26
大阪・阪急
10回新樹会展 21—26 日本橋・
三越
〔批〕
朝日23
読売夕刊24 中原 佑介
産経夕刊24 柳 亮
東京夕刊24 植村鷹千代
美術手帖10月 浜村 順
アトリエ10月 針生 一郎
美術批評11月
〔記〕
美術手帖10月 朝井閑右エ門
木内 克

出品目録
彫刻
ル ソ 仁田原英二
トル ソ 千野 茂
裸婦小品
かまちの女 渡辺利 尨
坐つた女
寒山拾得辻 晋堂
ダ ル
幼 児
猫 の 頭 A
猫 の 頭 B
樹 A
樹 B
禁 煙
CIMPLE
GAMBA
妖霊(続バラオ
連作)
月(続バラオ
連作)
二 人
男 人
女 人
鳥 虫
爬 虫
エチユード(飛
ぶ)
エスキース(飛
ぶ)
座女I 小品
座女II 小品
エチユード小品
記念碑
女 と 布 木内 克
女
ねている女
こしかける猫
小 品 A

小 品 B 清水多嘉示
女の顔
裸婦立像
裸婦座像
陶 器
陶器作品(十数
点)
西村伊作
絵 画
平和は女を美し
くする 飯田善国
影の前の裸婦
夜景・目黒川
夜景・目黒川
附近
白い工場 岡田又三郎
熱 海
たそがれ時
劇 場
明石町風景
運 河
芝生のこと 門倉芳枝
バナじかけの顔
夕暮れの街
黒い部屋
三人の唄
ひとびと
深川風景A 川島竹史
B
立てる裸婦
観 客 席 武田邦雄
椅子の上
樽と少年
横の構図

Table of artists and exhibition titles. Columns include artist names (e.g., カンカン, 金堂山崎) and titles (e.g., 加納三葉輝, 秋山園). The table is organized in two main horizontal sections.

Table of exhibition dates and locations. Columns include dates (e.g., 28-9月9日) and locations (e.g., 本橋・高島屋, 東京タイムズ). Includes sub-sections like '目録外出品' and '四国廻路'.

Table of exhibition details and artist names. Columns include titles (e.g., 一陽賞・沢田重隆), artist names (e.g., 萩野康児, 中田豊), and other details. Includes a section for '出品目録' (Exhibition Catalog).

白	昼山路真護	沐	浴。山谷鉄一	家	族。近藤長三郎	可愛そらに	わたしのベット	十字	架。松下明治	旅	館。西山園二	衣	裳。内。村。上。英。男	室	内。村。上。英。男	バイク・モー	村。上。英。男	高	圧。線。村。上。英。男	装	蹄。江。川。光。信	小	鳥。遠。江。川。光。信	枯	木。林。中。堀。内。千。里	家	畜。A。堀。内。千。里	家	畜。D。久。松。雅。子	港	の。見。え。る。小。樽	海	の。見。え。る。小。樽	の	街。土。萩。原。楽。一	還	土。萩。原。楽。一	嘘	飾。飯。田。慶。三	裏	窓。一。飯。田。慶。三	少年	合。唱。団。一。平	貝	と。小。供。勝。一。平	花	と。小。供。片。柳。忠。男	と	ん。で。い。る。色。片。柳。忠。男	踊	(おどり)	冬	ご。も。り。峯。岸。義。太	廃	道。峯。岸。義。太	作	品。A。野。間。佳。子
---	-------	---	--------	---	---------	-------	---------	----	--------	---	--------	---	-------------	---	-----------	--------	---------	---	-------------	---	-----------	---	-------------	---	---------------	---	-------------	---	-------------	---	-------------	---	-------------	---	-------------	---	-----------	---	-----------	---	-------------	----	-----------	---	-------------	---	---------------	---	-------------------	---	-------	---	---------------	---	-----------	---	-------------

作	品B 野間佳子	黄	い。肌。の。女。大。野。隆。之	少	シベリア探風	景A	集積	シベリア探風	景B	タボールと	踊	る。女。岡。本。耕。介	旅	愁。沢。田。重。隆	時	化。沢。田。重。隆	白	の。樹。塊。沢。田。重。隆	二	猫。た。ち。沢。田。重。隆	海	辺。の。親。子。田。所。満。雄	小	鶴。呼。び。会。ふ。親。鶴。小。矢。田。部。和。子	静	物。荒。川。三。郎	Y	造。船。港。湾。荒。川。三。郎	静	物。新。井。恵。美。子	街	の。置。場。中。千。種。園。子	人	形。の。置。場。出。村。悦。延	枯	木。と。鳥。籠。藤。村。豊	夏	の。漁。村。藤。田。悟	群	れ。集。う。鯉。後。藤。俊。春	赤	い。風。景。後。藤。泰。洋	盛	り。場。新。宿。白。都。満	ピ	ン。五。十。嵐。二。朗	群	島。夕。石。川。量。一	島	夕。石。川。量。一	車	映。石。野。隆	か	い。だ。ん。石。井。誠	夜	の。静。物。今。井。鱧。人	巨	木。伊。藤。博。次
---	---------	---	-----------------	---	--------	----	----	--------	----	-------	---	-------------	---	-----------	---	-----------	---	---------------	---	---------------	---	-----------------	---	---------------------------	---	-----------	---	-----------------	---	-------------	---	-----------------	---	-----------------	---	---------------	---	-------------	---	-----------------	---	---------------	---	---------------	---	-------------	---	-------------	---	-----------	---	---------	---	-------------	---	---------------	---	-----------

長	崎。今。村。春。吉	裏	通。り。の。家。黒。野。佳。夫	北	の。砂。鉄。工。場。加。藤。勇	メリケン	波。止。場。小。出。泰。弘	花	と。姉。妹。葛。西。康	小	河。合。孝。基	船	斗。町。の。壁。川。田。幹	博	加。蘇。村。よ。山。と。河。井。光。吉	川	N。工。場。小。谷。野。半。二	山	の。見。え。る。浜。橋。野。松。恵	に	わ。と。り。を。抱。く。角。美。貴。子	童	子。嘉。数。能。愛	は	と。小。屋。栗。林。丈	厨	房。小。宮。宗。太。郎	座	の。像。熊。田。藤。作	魚	の。如。熊。田。藤。作	山	の。如。熊。田。藤。作	冬	の。建。物。三。橋。兄。弟。治	冬	の。建。物。三。橋。兄。弟。治	小	鳥。と。戯。れ。る。子。松。尾。平。蔵	供	三。橋。英。子	椿	三。橋。英。子	窓	益。子。昭。雄	狂	え。る。平。和。宮。越。弘。三	夕	顔。望。月。正。信	風	景。中。村。隆。正	卓	上。の。静。物。中。山。重。利	黒	い。湖。野。中。重。利
---	-----------	---	-----------------	---	-----------------	------	---------------	---	-------------	---	---------	---	---------------	---	---------------------	---	-----------------	---	-------------------	---	---------------------	---	-----------	---	-------------	---	-------------	---	-------------	---	-------------	---	-------------	---	-----------------	---	-----------------	---	---------------------	---	---------	---	---------	---	---------	---	-----------------	---	-----------	---	-----------	---	-----------------	---	-------------

通	つ。た。こ。の。あ。る。裏。街。	釣	人。中。村。亮。一。郎	屠	場。中。島。哲。郎	樹	々。の。出。発。西。岡。隆。男	神	々。の。出。発。小。川。博。工	築	場。風。景。小。川。哲。部	漁	村。大。石。可。久。也	に	わ。か。雨。大。沢。寛	仲	間。た。ち。龍。一。之。介	朝	顔。沢。田。正。太。郎	残	つ。て。い。る。家。柴。原。雪	砂	川。に。寄。す。指。田。由。米	橋	の。あ。る。風。景。重。村。三。雄	裸	婦。杉。本。和。子	少	女。斎。藤。光。子	自	画。像。清。水。章。司	死	に。そ。う。な。馬。に。の。る。男。田。名。網。教。一	自	転。車。の。考。へ。る。事。高。山。英。一	会	かん。の。あ。る。教。高。山。英。一	鑄	造。工。場。の。屋。根。田。代。利。夫	作	品。田。代。利。夫	た	そ。が。れ。操。車。田。辺。和。郎	場	高。根。秀。雄	真	昼。の。回。想。高。橋。隆。比。古	犬	吠。燈。台。風。景。高。橋。凡。平	カ	ラス。と。女。高。橋。凡。平	丹	沢。山。麓。の。早。春。内。田。吉。郎	山	と。時。上。野。富。蔵	樹	門。山。田。治	木	弓。削。次。雄
---	------------------	---	-------------	---	-----------	---	-----------------	---	-----------------	---	---------------	---	-------------	---	-------------	---	---------------	---	-------------	---	-----------------	---	-----------------	---	-------------------	---	-----------	---	-----------	---	-------------	---	-----------------------------	---	-----------------------	---	--------------------	---	---------------------	---	-----------	---	-------------------	---	---------	---	-------------------	---	-------------------	---	----------------	---	---------------------	---	-------------	---	---------	---	---------

坂	上。八。重。垣。逸。郎	装	の。幸。吉。住。春。尾	海	街。結。城。久。夫	裏	の。街。山。田。首	か	め。の。山。内。靖。巳	私	の。漁。物。横。井。三。郎	静	の。漁。物。横。井。三。郎	ア	マリリス。山。岸。雅。子	ア	リアム。山。本。ひ。ろ。の	彫	刻。浅。野。孟。府	う	ろ。か。ら。み。た。浅。野。孟。府	馬	テラコッタ。の。馬。植。木。力	テ	ラコッタ。の。馬。植。木。力	少	年。立。像。植。木。力	裸	婦。石。レ。リ。フ。植。木。力	裸	婦。石。レ。リ。フ。植。木。力	仔	牛。の。首。伊。本。淳	女	人。柱。像。伊。本。淳	江	戸。の。香。亭。主。像。伊。本。淳	人	馬。中。村。暉	牧	草。馬。中。村。暉	田	口。牧。師。の。像。馬。中。村。暉	女	い。な。く。馬。中。村。暉	女	い。な。く。馬。中。村。暉	裸	婦。根。本。敷	首	(男) 根。本。敷	首	(女) 根。本。敷	女	の。首。根。本。敷	坐	せ。る。女。名。塚。樹。也	首	習。作。名。塚。樹。也
---	-------------	---	-------------	---	-----------	---	-----------	---	-------------	---	---------------	---	---------------	---	--------------	---	---------------	---	-----------	---	-------------------	---	-----------------	---	----------------	---	-------------	---	-----------------	---	-----------------	---	-------------	---	-------------	---	-------------------	---	---------	---	-----------	---	-------------------	---	---------------	---	---------------	---	---------	---	-----------	---	-----------	---	-----------	---	---------------	---	-------------

母 子。藤川栄子
 洗濯 物。鶴岡義雄
 北国風景
 楽器を持つ女。清水刀根
 街と学生
 漁 婦
 砂漠の夜。立松富雄
 岬 愁。山本不二夫
 麦 芽。伊藤研之
 青い気 芽。伊藤研之
 岩の 芽。伊藤研之
 馬と 人。伊藤研之
 笑り 男。吉村 勲
 昔は鬼がいたA。吉村 勲
 街 B。佐々木良三
 街 角。佐々木良三
 スタジ オ。宮川富佐子
 旅 人。宮川富佐子
 海 人。宮川富佐子
 秋 タスコの教会。北川民次
 メキシコ市場の
 隅 サボテンの樹
 ふるさとの山。福島金一郎
 道 真鶴の港
 五月の庭
 お姉ちゃんお嫁
 橋の見える風景 菅谷秀雄
 魚を売る女達A。石橋宏一郎
 B

Canterbury 疑義決。松葉清吾
 定者
 作 アクロバット 杉 英海
 三つのかたち。山口長男
 困 繞
 散 開
 曲 折
 象 形
 月夜なさらな。浪江勘次部
 またあふ日まで
 密 通。伊賀勇高
 餓 鬼
 破 壊。安藤幹衛
 嬰兒虐殺
 木の上で自由を
 りたふ人。森田信夫
 部屋 隅。中川時之介
 結 合。伊東静尾
 分 裂
 交 響
 首のぬけたフア
 デ 鏡の中のファン
 落 暉。辻本敬三
 北の 海。田中 良
 古代に想う 古郷英昭
 思 い 出 登丸秀男
 おくが追はれて 沢山卓爾
 慈 望 増田 勉
 月と女と木株 竹内 清
 底 突 き。多賀谷伊徳
 相 聞
 男 岡田 博

郷愁 伊東俊平
 風車 春田安喜子
 再起 棚橋誼彦
 道 天野三郎
 リ ボン 相沢義和
 陶器工場 高橋三郎
 夜の狂躁 小林トミ
 作 品 吉野正明
 足 伊藤昭蔵
 川のある町 伊藤昭蔵
 せともの工場の 一隅 伊藤昭蔵
 朝の 歌 茂清メイ子
 棲 息 萩原寛子
 転 変。藤田金之助
 影のある都像 平野信一郎
 母 子。堀越隆次
 五月の女 山形文蔵
 群 像 岡田義雄
 洪 水 貫名獅郎
 鏡 原田筑紫
 運河での記憶 木村清敏
 ジャングル 西野秀雄
 のある風景
 浮き沈み。西村千太郎
 帰らざる人
 タコタ踊りと
 夏祭 小島詰治
 山 腹
 お酒落なT子 難波 弘
 たそがれ 佐々木宗一郎
 肉がくづれ落ち 塩越義範
 悲 し 宮崎政広

誘惑 寺田健一郎
 作品 伊東みづ
 Shigekanta 木梨アイネ
 キュウソ 吉仲太造
 椅子と少女 鶴野 光
 田 園 川崎吉男
 パンチニール 井口一郎
 き ぼ ろ 木田山泰平
 二つの臥像 人 関谷 陽
 二つの臥像 藤沢典明
 月 宿 桑原 実
 エキスパンダー 桑原 実
 背負う人 岡本 一
 コンボジション 岡本 一
 推 進 渡辺 弘
 夜の 構 春田しんさい
 青いT-テム赤 鈴木進平
 いT-テム 鈴木進平
 神々の誕生 芥川紗織
 よろこびの石 高橋悦男
 作 品(飛翔) 川月良夫
 安 息。山尾 薫明
 狩 難
 別 難
 月 夜。吉田 一夫
 半 月。吉田 一夫
 幼 い 日 佐々木絢子
 窓 辺 牧野詠子
 は た お り 大淵陽一
 蝶とパンジー 仁戸田秀吉
 蝶とひなげし 戸川ふみ子
 新しい玉子 戸川ふみ子
 鳥と植物 西村龍介
 月のある風景

手 ウェディングベル 中木栄三
 が盗まれた 東郷たまみ
 作 品。田川 寛三
 鳥 籠。井上 賢
 昆 虫。高橋満寿男
 貴 婦 人。高橋満寿男
 陶土採掘場 末永一夫
 夕やけこやけ 村上輝夫
 裸 婦 豊田紅子
 花 と 人 内田系一
 屠殺場にて(肉 橋 爪 豊
 の怒り)
 薔 田村隆慈
 海 福島美枝子
 線 香 花 火 今西百合
 街 品 石井絹子
 作 品 吉田正雄
 壁 愁 兼城 賢章
 春 兼城 賢章
 水中の少年 兼城 賢章
 スチャラカ 兼城 賢章
 坐 わ る 月 館 藤 寿
 ガ 波 因 藤 寿
 真昼の遊泳 中島千恵
 火 藤野一友
 しやわせなピエ 弓 座 由美
 ロ 弓 座 由美
 建 物 家永梯次郎
 月 夜 家永勝之亮
 石 と 人 飯島貞子
 足 と 人 飯島貞子
 遊 園 地 桜井孝身
 二 人 像 犬飼正道

発光魚の言葉 森 顕爾
 作 品 古川益弘
 漁 港 宮内義雄
 チエロを弾く女 古川広治
 傷 心 大石隆
 家 族 山田達雄
 生理的現象 赤羽恒夫
 我等の仲間 青木秀夫
 化 石 杉浦正美
 夏の楽しみ(花 伊勢谷圭
 炎) 伊勢谷圭
 八百屋の前 花谷時子
 幻 想 渡部健一
 窯 の 像 犬童次夫
 創生の恐怖 佐野武夫
 可逆反応 村上善男
 跳 箱 小沢実
 静 物 戸塚勝弘
 作 品 18 かやの木昭一
 対 面 森 千秋
 太陽の下 勝野浩一
 受 刑 者 根岸伸志
 しあわせの歌 山本甚吉
 サークラス 鈴木文子
 妥 協 辻 三郎
 鎮された群像 栄 健二
 黒い玉と二人 松沢 暁
 昼 水 野保雄
 作 品 鈴木幹夫
 食 卓 林 俊治
 デル フアッションモ 青木一利
 断 層 写 真 高根沢政子
 家 族 齊藤秀三郎

コンクリートミ 伊地知正明
 キサー 石を運ぶ女たち 木沢 和
 比島の追憶 西尾 章
 月と妖精 上田民子
 ビエロ 加藤正一
 石を刻む男 小川 清
 母 子 石橋 巖
 作 品 B 伊藤 宏
 室 内 吉岡一雄
 愈 い 細川 司
 幻 象 信原 柴夫
 風 景 小村 孔
 人 間 萬 景 関 利江
 双 頭 北爪三男
 まどろみ 能勢敬蔵
 オ 食 事 内村幸助
 工場労働者たち 齊藤栄子
 ち 蔵 松田朝旭
 土 像 (B) 長谷川陽三
 群 像 (B) 白井幸彦
 磔 される 松下 博
 夜道母子 篠田正元
 歌 に て 足立和夫
 街 品 (B) 古賀耕児
 偉大なる乱と 浅谷三千夫
 作 品 (C) 那覇太郎
 勤 品 (C) 那覇太郎
 昼 音 成三男
 サレデオ教会 牛島陽二郎
 あらそい 鈴木三郎
 鳩と小女 新町真策

鳩と三人 福本春子
 二人 久保とし子
 網と魚 永井恒則
 六番街 永田幸男
 屋根の上 白田 宏
 妻と私 芳野二夫
 キチン 米原あい子
 海の日月 土田信治
 作 品 高島 功
 坑道にて 阿部保馬
 黄の誕生 佐々木清
 目覚め 尾関哲男
 街花 植木利広
 わたくし 藤橋秀安
 彫 刻 都木源之輔
 EXERCISE 堀内正和
 形態の一つ 笠置季男
 生 命 長谷川雅司
 おやと子 長谷川雅司
 もも 梅本 昭
 作 品(未開人) 梅本 昭
 作 品 K 飯田 巖三
 果 平川正道
 ヘルメットの變 平川正道
 貌 像 平野秀一
 立 像 木村 敏
 作 品 A 戸村 一作
 変 品 B 戸村 一作
 作 品 赤 番匠宇司
 作 品 N 野口嘉光

横向きの顔 加賀谷武夫
 作 品 31A 東村正久
 女 日高正法
 作 品 (S) 大江 孝
 双 人 野水 信
 孤 獨 吉延唯史
 生 力 広瀬不可止
 次 萌 品 欠田 誠
 作 品 ナブラ 上野志保
 作 品 高須賀桂
 作 品 A 味岡博貴
 作 品 米倉 徳
 形態II(ゆりか 米倉 徳
 水 (A) 上野三郎
 原子炉の素顔 伊藤宝城
 作 品 I 會山節雄
 鼓 2 荒木 啓
 作 品 A 石田忠昭
 黒 人(男) 加賀谷武夫
 よこたわる人 大井小夜子
 臥 像 小山由寿
 放 心 竹田圭治
 力 須賀通泰
 芽 須賀通泰
 作 品 A 30 室田五郎
 均衡の連作(恐怖の 乗松 巖
 シ E シ) 吉田重誠
 画家の肖像 吉田重誠

頭 像 内田幸子
 作 品 鳥 I 永浜和敏
 形 象 (G) 桑原武夫
 おん な 林 龍代
 ウクレレを弾く。安藤菊男
 女 しちめんちよう。大西金次郎
 幻 覚 加藤久夫
 少 女 早川 取
 女 トル 浅井正治
 女 立 像 山木恭平
 女 立 像 石田史朗
 想 像 牧野正次
 首 飛弾のトーテム 及川節郎
 首 喜代志松治
 小 品 上田 暁
 夏 の 雲 淀井敏夫
 波と人・犬 小 鹿尚久
 小 名浜の人 小 鹿尚久
 女 の 首 辻 正保
 匈 子 像 奥田秀雄
 母 子 像 後藤順一
 作 品 驚 泰次郎
 タブロー・オブ 長谷川 栄
 ジェ 像 長谷川 栄
 現 代 人 中島泰正
 横 わ る 三 浦 晃
 会 体 山根賢一
 作 品 A 内堀 進
 青年のトルソ 三宅五穂
 山の女 西瀬英行
 題名のない作品 松下隆治
 裸 婦 藤林重治

はぐくみ加藤博二 二点
 とり(湖)須賀野チイ 一点
 女子学生西山和典
 青森井公美
 首年森井公美
 アツコ井田正子
 N子像磯部勤次
 牛有松保
 立吉安辰夫
 商業美術部
 本年度審査員無鑑査作品
 東郷青児
 赤羽喜一
 河村運平
 佐々木良三
 吉村勲
 石川茂
 石川伊三雄
 西島伊三雄
 石川夏男
 高橋春人
 関山金市
 松岡誠造
 榎枝幹夫
 轟周平
 日置勝駿
 田沢清見
 竹内和夫
 池田正三
 河村久子
 明山正次
 藤重信
 友枝翁太郎
 菅谷達雄

鎌田輝穂 一点
 今田清一
 坪井鶴吉
 高橋良
 阿部重太郎
 小園井一郎
 杉本強一
 吉村繁清
 田村繁清
 加藤容康
 高山一政
 鈴木日
 高橋正
 山崎達雄
 君島養夫
 岩田清二
 龍口朝彦
 水野朝彦
 中村歩
 木村康人
 柳下秀雄
 後藤恒
 水島雅子
 牧島雅子
 吉田芳春
 松田国秀
 浜野一雄
 山田富士雄
 島口信一
 阿悦次
 大橋桃之輔
 水野光雄
 小川英夫

森本栄 一点
 木島武雄
 中野敏明
 井ノ口進
 三浦健二
 安川恵子
 阿部至克
 坂部俣子
 岸添慶三郎
 毛利博年
 結城正美
 安藤孝一
 小峯龍夫
 関山光司
 木村武司
 忍那喜八郎
 大野己喜男
 竹内仙之助
 松島正義
 金井彦治
 藤浪勉
 橋本博久
 紀藤虎一
 藤居直樹
 篠田卓果
 国武久巳
 馬場利定
 鏡光男
 酒井龍
 今長谷肇
 馬着軍司
 西田一徳
 桜井妙子

米田時夫 一点
 長尾守
 山口正夫
 西津康之助
 宗康史
 中馬師津夫
 河津武明
 原正弥
 三井つとむ
 塩田敏
 乾敏夫
 岡村義春
 柴田初次
 水野皓司
 麻生茂子
 小浜昭造
 若杉良子
 磯部壮吉
 村野宏
 牧野辰雄
 広浜黎
 堺幹夫
 佐々木幸三
 長谷川裕
 武田貞夫
 脇屋暉
 三橋勇
 十川力行
 沢田成文
 栗栖福三
 播磨公誠
 上里京一
 大島博

矢追礼次
 小川弘子
 藤原芳次
 加藤明輝
 奥井二郎
 篠塚信彦
 米倉行男
 富永或子
 田中干博
 伊佐地寒郎
 松尾寿郎
 木下望
 上妻陸男
 緒方辰臣
 佐々木高治
 檜枝斐雄
 山口弘
 大里栄一
 速水泰典
 徳丸良久
 永田司
 森田成男
 柿本八郎
 末田時夫
 内村幸助
 シムラ光
 森田成男
 大場比呂司
 坂本誠一

漫画
 これがいいのか
 ね河野君
 外相になつた外
 13 23
 平和な港
 象の子等
 太陽の眼
 競輪場の眼
 狂える太陽(おれはやりたいことをやっていたのだ)

女人天国 横井蛙平

摩のニユース

星(政)界混乱

勇ましき人々 森山荆典

忘れもの 岩松冬樹

落砲拾い 近忠

参院選挙風景 若林カズオ

雲より高く 清水昭治

立ばなし 宮下森

本日限り停年退 小泉紫朗

職ソレージを喰 今三喜

つたらジンマシンが出た!

41回日本美術院展 1-19 東

京都美術館

〔批〕

毎日8月30 岡本謙次郎

産経夕刊4 伊藤深水

毎日6 鈴木進

東京タイムズ6 嘉門安雄

日経7 柳亮

東京夕刊7 河北倫明

朝日8 中原佑介

読売夕刊8 サンデー毎日16

アトリエ10月 浜村順

三彩10月 水沢澄夫

みずる10月合評 植村鷹千代

美術手帖11月 徳大寺公英

美術展覧会(9月)

萌春36号 河北倫明

水沢澄夫 38頁-39頁

〔受賞〕

日本美術院賞、大観賞-清

原奇、馬場不二

日本美術院次賞、大観賞-

長谷川朝風、福王寺法林、

豊秋半次、須田瑛中、羽

石光志

奨励賞、白寿賞-今野忠一、

前田暉、島田訥郎、村田

瑞枝、種笠数慶、郷倉和

子、西川春江、菊川多賀

子、森田曠平、坊坂俊文

明、船田玉樹、月岡栄貴、

伊坂静雄

同人推荐

羽石光志、清原齐、馬場

不二

彫塑

奨励賞、白寿賞-山崎脩、

小柳津三郎、山口信子、

久保寺恭、関長造、四田

昌二、松岡隆範、福家靖

夫、鈴木実、古島実、小

林尚雄

出品目録

。印同人

中尊寺幻想 西川春江

かきりん 福王寺法林

アイヌ(無鑑査) 清原齐

龍山(無鑑査) 中島多茂都

松(無鑑査) 馬場不二

群像 菊川多賀子

月花 島田訥郎

江口 豊秋半次

浄瑠璃 中島清之

幕間 月岡栄貴

磯 大塚堅二郎

アクセサリー 竹内幸枝

絃 長谷川朝風

白 寺本郷史

お蝶夫人の楽屋 川上芳江

仙川風景 成沢喜三郎

樹間の塔 伊坂静雄

枯山水石組 須田瑛中

河口暮色 小島丹漾

牡丹 芳太田聰雨

残雪(無鑑査) 今野忠一

正倉院(無鑑査) 羽石光志

鶴の群 熊坂東以

黄庭松 阿政信

暮色 後藤純男

薰風 西丸静園

宇治の姫君 真野満

蔵王高原ニテ 小松均

祇園 神田三千枝

樹根と石 土生勝宣

氷の讃歌 西沢周一

森の讃歌 高浪勢以

夏立 照船田玉樹

残立 宮本青架

北辺の漁場 本間莞彩

小北倉遊亀

二北沢映月

曉 郷倉千靱

浴女群像 前田青邨

群魚 富取風堂

爽涼 中村貞以

伏見の茶亭 安田靱彦

踊り子 奥村土牛

月夜 小谷津任牛

水一 酒井三良

水仙波 久柴

舞妓 中庭煖華

花扇 村田瑞枝

蛇皮 線村田福

牛 達堀川公子

子供 濱崎左髪子

初さ 夏安沢阿弥

午さ 村大河内三代女

湖畔の村 岩橋英遠

新山生 成岩橋英遠

虹 堅山南風

菊多 郷倉和子

冬 池田憲二

房総の家 友田白萌

二女 大西瑛都

秋陽 伊藤誠二

石仏 後藤誠二

真昼の夢 岡本弥寿子

清津峽新雪 番場春雄

飛雪 村田泥牛

花の下かけ 加藤将郎

磯 関口正男

禪庭 前田暉

おはよう 小谷津雅美

神苑 今井昭吾

桜池 田栄広

初夏の朝 上垣候鳥

閑庭 青木英夫

作庭 牧野秀一

房総前庭 高野常吉

産所 見相沢義二

梵網会(三蓮開) 養佐田芳郎

白浜 荒井草雨

湖畔 鈴木孝之

湖光 南摩朱鳥

海畔 山中雪人

黄昏 川手青郷

池光 大矢黄鶴

夏山 大野重幸

新国 吉川朝衣

座つたトルソ 古島 実
立像 本田道子
胸像(無蓋査) 山口信子
青年の像 矢崎虎夫
男の首 河野耕造
老人習作 高木英世
俳人M氏 池田佳穂
木の女神 小栗武
檜の女 松岡隆範
青年労働者 小林三郎
積導成道 大内青圃
持戒二尊(野沢
薬師如来十二願
像一具中)
積迎如来像 喜多武四郎
裸婦習作
立像 矢形 勇
作家S氏像 松原松造
トルソ 土屋瑞穂
顔 神戸武志
立てる裸婦 村田徳次郎
着衣人物
少女の首 佐々木孝
馬 福家靖夫
詩人G氏の顔 河内滋子
裸婦 村上丙
Sの首 半藤政衛
婦人の像 大野清
裸婦立像 寺内幸雄
不可侵 小林あや
女の顔(S) 染谷英五

美術展覧会(9月)
11回行動展 1-19 東京都美
術館

〔批〕
毎日8月30
毎日4
読売夕刊4
東京タイムズ6
東京夕刊6
7
朝日7
日経8
サンデー毎日16
美術批評10月
アトリエ10月
みづゑ10月合評
美術手帖11月
美術手帖11月
〔記〕
美術手帖11月
向井潤吉、田辺三重松、伊
谷賢蔵、津高和一、村田箕
史雄、田中阿喜良、鬼頭正
人、建島寛造
〔受賞〕
行動美術賞—深見隆、松岡卓
会友賞—長谷川晶
新人賞—井原康雄、戸津佩、
広重昌子
会員推荐—保地謙也
主要出品目録
△印会友
△印会友

彫 炬(A) △平川 勇
彫 炬(C) △平川 勇
孤獨の部屋 △深見 隆
飯面の二人
黒い椅子の久々
無題(A) △佐藤 真
人 大谷久子
男 達
おしゃべりや △高井寛二
二つの行為(A) △田中稔之
二つの行為(B)
鴟 保地謙哉
ト 野尻 弘
民 話(情) △野尻 弘
民 話
作 品(A) △吉川家永
宵 (C) △篠田正昭
風 あそならの記 △河端亮治
夜 光 虫
三 人(A) △渡辺 彰
作 品(C) △植 太
即 興 △坪内節太郎
風 景 △興 太郎
夏の静物 △福井 勇
流れと石
夏真の庭
高 原 △生沢 朗
風 景 △古家 新
砂 丘 △古家 新
網 屋 △古家 新

驟 雨 △古家 新
函館港風景 △田辺三重松
秋の草原
断崖の海
魚屋の店先 △島田徳三
魚 倉 △倉省吾
東京街楼門 △榎倉省吾
東京港麦秋
東京博物館
煙雨の岬 △向井潤吉
柿などの静物 △伊谷賢蔵
柿などの静物 △伊谷賢蔵
万年山(はねやま)
柘榴などの静物
砂上静物 △伊藤信夫
海浜静物
島の漁港 △柏原覚太郎
瀬戸内海の秋
朝の海
嵐の海峡 △小出卓二
北陸の海峡 △津高和一
構 体 △津高和一
磁 場 △津高和一
いのち △江見絹子
陽 光 △江見絹子
解氷期 △村田實史雄
ツンドラ
モーゼ十戒を示す △田中忠雄
土 田 △田中忠雄
夏 高橋 進
ふ 高橋 進
浜 藤真一

島の人 斎藤真成
馬と人 山中春雄
糸 山 中 春 雄
刑 田 中 阿 喜 良
トロイの馬 田中阿喜良
ふ だ
ク ビ 貝 原 六 一
墓 地 △大場 厚
雪 景 △大場 厚
庭 景 △大場 厚
作 品(A) △里見常夫
く (C) △河野通紀
あ つ 子 △田中勇次郎
母 子 △田中勇次郎
家 族 △田中勇次郎
起 伏 △田中勇次郎
基 地 海 辺 △下高原龍己
護られた平和
遠 い 島 △水井 保
蓮 小 林 武 夫
街 (A) △川原章二
五 月 △高須国
鶴 フロアットと △井寄武夫
其の弟子
苦 行 者
落 日 △難波香久三
立 ち 話 △玉沢潤一
掃 除 の 譜
海 村 △西村 清
太陽族の審判 △全 和 光

二つの太陽と白。全。和光
衣の男
魚 彩竹内一
埃 及 行古田十郎
草 の 中。三芳徳吉
森 の 中。富岡賢二
鳥 富岡賢二
水 富岡賢二
花のあるていふ 上山哲夫
カ マ(一) 長谷川晶
カ マ(二) 尾崎悌之助
石 五体 尾崎悌之助
雪のガス工場
煉瓦 武木憲太郎
枯花 江信四郎
別 像 荒木由三
群 像 荒木由三
こども 龍
庭 人 上嶋 龍
別 離 船越かつ美
銀座コットン横 長谷川勝人
丁 ラク町河岸終日
作 品(A) 下高原千歳
シ 品(B) 増田悟郎
作 品(1) 増田悟郎
意 志 西田秀雄
作 品 石倉喜美男
断 品 荒井秀宣
夜 品 中畑美那子
花 品 中畑美那子
静 物(B) 中畑美那子

彫 望
因はれし人 I 藤庭賢一
II 立てる人 白井謙二郎
習 作 篠井欽治
能く求塚より 石膏と流木と。向井良吉
顔 今村輝久
イ ヴ。中島快彦
作 品 32。阿井正典
像 品 阿松岡 卓
作 品 野崎一良
女 板谷 慎
隊 像 林 是
貌 (かお)。建島覚造
立 像 伊藤典賢
日本の彫刻(上代と現代)展 1
— 30 国立近代美術館 [批]
東京夕刊10(本郷新)読売夕刊
14(中原佑介)
現代彫刻10人展 1—10 新宿
ギヤラリー [批]朝日4読売
夕刊8(中原佑介)、美術批評
10月(針生一郎)、美術手帖11
月(植村鷹千代)
佐分真油画遺作展 1—7 日
動画廊 [批]朝日4
長沢節モードデッサン展 1—
5 銀座・松屋
加納光於個展 1—9 タケミ
ヤ [批]美術手帖11月(植村
鷹千代)

真鍋博作品展 1—15 新宿・
風月堂 [批]美術批評10月
(中原佑介)
いとう・ときわデザイン展 1
15 渋谷・風月堂
徳川文化展 1—30 名古屋・
徳川美術館
名家俳画展 1—25 市立神戸
美術館
南蛮美術展 1—16 酒田・本
間美術館
菊池契月展 2—22 京都市美
術館
6回新工芸協会展 3—14 銀
座・和光
原照夫作陶展 3—8 養清堂
2回孤立地帯グループ展 3—
7 京都書院画廊
羽田信弥個展 3—7 新潟・
永井画廊
円山忠孝名作展 4—16 日本
橋・白木屋
8回工芸会工芸展 4—9 日
本橋・高島屋
住谷馨根東洋画展 4—8 日
本橋・丸善
神奈川県文化史展 4—16 鎌
倉・近代美術館
1回陶紀会展 4—9 上野・
松坂屋 [批]前春36号
南画院同人小品展 4—9 新
宿・伊勢丹
福岡青嵐日本画遺作展 4—9

大阪・阪急
野原鳥聖六甲山日本画展 4—
9 大阪・阪急
服部保洋画個展 5—8 中央
公論社画廊
遠藤啄郎個展 5—10 村松
[批]美術批評11月(東野芳明)
益田芳徳個展 5—10 村松
宮崎利行個展 5—10 三省堂
十屋 5—10 樺画廊
土味川独歩個展 5—13 サト
ウ
英國児童画展 5—9 新宿・
伊勢丹
品川版画院版画展 5—9 新
宿・伊勢丹
関谷一夫個展 6—9 美松画
廊
駮面図案展 6—7 京都市美
術館
林武デッサン展 7—12 銀座・
松屋 [批]毎日9(船戸洪
吉)、朝日10、アトリエ11月
(浜村順)
稲垣稔次郎染色工芸展 7—11
京都府ギヤラリー
青々会陶藝展 7—12 銀座・
松坂屋
2回洋々水彩展 7—12 東
京・大丸
京都時代祭展 7—12 東京・
大丸
黒旗デッサン展 8—14 日比

谷画廊
現代作家八人自選展(児島善三
郎、鈴木信太郎、高島達四郎、
鳥海青児、野口弥太郎、林武、
三岸節子、山口薫) 8—17
日本橋画廊
久山祥次、中村哲雄彫塑二人展
8—20 新宿・シャトオ
菱田安彦アクセサリー展 8—
16 銀座・松坂屋
中東学術調査展 8—30 大阪
市立美術館
ギリシャ・ローマの美術展
(彫刻と工芸) 8—10月21
大阪市立美術館
7回染織名作展 9—12 銀座・
松坂屋、9—13 上野・松坂
屋
京都学藝大特修美術工芸科ホス
タ1展 9—12 京都書院画
廊
高見泰蔵彫刻展 10—16 樺画
廊
杜子会日本画展 10—15 美松
画廊
西欧工芸小品展 10—15 中央
公論社画廊
有秋会日本画展 10—18 大阪
市立美術館
津田青楓回顧展 11—16 日本
橋・高島屋 [批]産経14、毎
日15(船戸洪吉)、三彩11月
津田青楓新作日本画展 11—15
壺中居 [批]産経14、毎日15

(船戸洪吉)、三彩11月
8 回立軌会展 11-16 日本橋・三越

毎日13
東京夕刊14
産経14
朝日14

美術手帖11月
アトリエ11月
みづゑ11月

植村鷹千代
浜村順
岡本謙次郎

須田寿
榎戸庄衛
有岡一郎

僧院の歌有岡一郎

祖父と孫たち
祭の日
アッシジの聖

習作
農民秋野卓美

一人
一人

品(1)
品(2)

海を想ふ飯島一次

南海の教会

人魚の彫刻
オダリスク

品(1)
品(2)

美術手帖11月

出品目録

美術展覧会(9月)

二人(A) 五百住乙

テント(二人) 牛島憲之

あらせい 台

燈 雲

夏 雲

風の分譲地

山景

風景

作景

集品

親子 内田光之助

悪夢

夜 夢

網をつくろう

埋れた歴史(その三)

の四(その)

の五(その)

の六(その)

作品56の11 河村俊子

売られる牛須田寿

立話 須田寿

牛と人

農夫 遠

カタドラル

風景

作品

母子 玉置弘三

街(イ)

街(ロ)

木馬

沈黙 辻 茂

二人 人

作品

子 供 A 藤橋正枝

失調 山下大五郎

帰ってきた人

〔批〕美術批評10月(中原佑介)

美術手帖11月(植村鷹千代)、アトリエ11月(浜村順)

〔記〕美術手帖11月(加藤正) 肥島庸二個展 11-16 上野・松坂屋

美術文化協会秋季会員展 11-16 村松〔批〕朝日14

青々会展 11-15 日本橋・丸善

書の南画四人展 11-16 新宿・伊勢丹

水墨画展 11-16 日本橋・高島屋〔批〕三彩11月、前春37号

現代有名作家浮彫展 11-16 なびす

加賀工芸小品展 11-16 日本橋・三越

幽光会展 11-16 クレパス画廊

高浜虎子揮毫秋の句表装展 11-15 ヤナセ

正岡子規と夏目漱石の遺墨を偲ぶ会 11-16 大阪・阪急

丹波焼即売会(たくみ主催) 11-16 大阪・阪急

現代大家絵画展 12-22 サエグサ

佐伯和美個展 12-17 三省堂

〔批〕読路夕刊21(中原佑介)

〔記〕美術手帖11月(佐伯和美)

後藤又兵衛個展 12-15 養清堂

油絵と素描展 12-22 新宿ギヤラリ

2 回蒼国会人形展 14-19 銀座・松坂屋

以百会表装展 14-19 東京・大丸

新商美展 14-20 サトウ

古丹波特別展 15-10月28日 本民藝館

荻野康児グワッシュ展 16-30 新宿・風月堂

金野宏治、易川童章、渡辺伊八郎、佐藤弘四人展 16-20 美松画廊

沢田重隆、田名綱敬一二人展 16-30 渋谷・風月堂

漆原英子個展 17-22 養清堂

〔批〕読路夕刊21(中原佑介)、美術手帖11月(植村鷹千代)、アトリエ11月(浜村順)

〔記〕美術手帖11月(漆原英子) 素玄会展 17-22 村松

杉山寧写生画展 17-22 フォルム〔批〕前春37号

ヌードデッサン7人展 17-22 産経画廊

中村節個展 17-22 中央公論社画廊

木村百木個展 17-20 日本橋・丸善

花田時子個展 17-20 国際観

- 光ギャラリ 17-22 中央公論
- 中節也個展 17-22 中央公論
- 社画廊
- 11回新匠会秋季展 18-23 日
- 本橋・高島屋
- 2回いづみ会展 18-24 なび
- 日本水墨会展 18-23 渋谷・東横
- 仲秋会日本画展 18-23 上野・松坂屋
- 1回新創会木竹工藝展 18-28
- 新宿・伊勢丹
- 秋の染織白美会 18-23 日本
- 橋・白木屋
- 龍村平蔵錦帯展 18-23 日本
- 橋・高島屋 [批] 東京20
- 野口功造染織美術展 18-23
- 日本橋・高島屋
- 金重陶陽新作陶展 18-23 日
- 本橋・三越
- 丹波立杭森本陶谷作品展 18-23 大阪・阪急
- 島田修油絵展 18-23 大阪・阪急
- 大野新三個展 19-24 三省堂
- 1回グループ、ネオエスパス展 19-23 樺田廊 [批] 美術手帖11月(植村鷹千代)
- 9回創造美術協会展 19-28 大阪市立美術館
- 関西水彩画展 19-10月10日 大阪市立美術館

- 園燒茶陶展 20-10月21 根津美術館
- 9回現代版画展 20-26 渡辺木版画店
- 佐々木邦彦、佐野猛夫、八木一夫写生展 20-24 京都府ギヤラリ
- 16回まはに工藝展 21-25 日
- 清水鍊徳作品展 21-25 日動画廊
- 4回島田洗耳日本画展 21-26
- 銀座・松屋 [批] 萌春37号
- パンと薔薇の会七人展 21-30 タケミヤ
- 連環会蠟染展 21-26 銀座・松坂屋
- 物故諸大家日本画小品展 21-26 東京・大丸
- 亜吐会展 21-25 美松画廊
- L Pレコードジャケット美術展 21-10月1 日本楽器
- 20回新制作協会展 21-10月7 東京都美術館
- 読売夕刊25 花田 清輝
- 毎日26 土方 定一
- 朝日27 瀬木 慎一
- 東京タイムズ28 田近 憲三
- 東京夕刊28 今泉 篤男
- 産経29 大河内信敬
- 東京夕刊30 今泉 篤男
- 日経10月3 福島繁太郎

- 週刊朝日10月7 中原 佑介
- 美術批評11月 柳 亮
- 美術手帖11月 浜村 順
- アトリエ11月
- みづゑ11月対談 [植村鷹千代 針生 一郎]
- 萌春37号 嘉門 安雄
- 美術手帖11月 [記]
- 野崎貢、加山又造、麻田鷹司、角浩、川端実、田中田鶴子、斎藤正夫、山内杜夫、豊福知徳
- 新制作協会賞—豊福知徳(彫刻)
- 新作家賞
- 油絵—斎藤正夫、館石昭、鎌田正蔵、近藤茂、城口幸男、久野真
- 日本画—工藤甲人、野崎貢
- 彫刻—大岡丈夫、加藤昭男、高雄自治、細川宗英、石場清四郎
- 建築—川島甲士、川島享新会員
- 油絵—若松光一郎、中尾進、小関利雄、合田小三郎、赤穴宏、山東洋、油野誠一、宮脇公実
- 日本画—加山又造、石木正彫刻—五十嵐芳三

出品目録		印会員	
日本画		印会員	
ガスタンクのある風景	黒沢吉蔵	河の附近の風景	森井昭治
冬の森	堀信夫	近尾風景	村嶋
荒野	道	村嶋	石木正
野鳥	川辺隆啓	及	鶴
河のある風景	川辺隆啓	夜明	野崎貢
豊饒	星野和子	水	星野和子
池	上野泰郎	裸婦群像	上野泰郎
花の樹	近藤弘明	冬の樹	工藤甲人
樹木のうた	藤甲子	風景	限部琴子
対岸	梁取幹雄	幼いひと	毛利やすみ
初夏の朝と建物	荒巻大祐	冬の陽のあたる建物	荒巻大祐
月と鳥	松濤達文	月	下森運夫
いこい	棚橋文子	ひまわり	黒川富士雄
夜の漁村	中塚弘	母子像	岡彦次郎

夏の人	北村美智子	春日	野松平春樹
岩	松井祥太郎	漁	火富田利吉郎
水	上村淳	休滅した漁夫	小野具定
群花	生駒沢子	集	大森青楓
田園風景	浜田泰介	座	信太幸夫
工場の地蔵	宮川啓魚	杉生の地蔵	白藤朱根
丘	木の下章	沼の	林能理
窓に寄る子A	大槻四郎	森の	上村賀子
植の	中井浩一	仕切	西井正気
凍	岩松古径	荒	原稗田一穂
淵	奥村厚一	浄土	谷沢宏毅
草原八月	上村松篁	裸	童秋野不矩
坐	像	網千	丘村山好生
山	稜	山	信時次郎
何	向井久万	田	園2 五十嵐操一

山 丘 野 成 二
 楽しい仲間。堀 文子
 海 樹 岸 本 聖 四 郎
 蒼 樹 A 毛 利 武 彦
 冬 太 田 正 弘
 岳 物 今 井 外 男
 人 愁 B 仲 村 進
 郷 物 仲 村 進
 樹 馨 麻 田 鷹 司
 樹 と 石 垣 鈴 木 野 分
 狼 加 山 又 造
 残 雪 の 頃 熊 谷 仙 真
 風 車 (1) 佐 藤 勝 彦
 橋 大 河 内 正 夫
 屋 根 大 河 内 正 夫
 池 と 鳥 西 村 昭 二 郎
 樹 と 籠 西 村 昭 二 郎
 家 並 笠 城 竜 杖
 地 帯 海 老 原 徳 造
 岩 杉 山 吉 茂
 長崎南山海岸。岩 崎 鐸
 通 高 原 母 子 像
 長崎南山手一丁
 目 鶴 川 上 恒 一
 花 と 鶴 川 上 恒 一
 石材のある街 福 田 達 夫
 夏 福 田 園 子
 灯台のある岡 高 橋 忠 久
 山 松 下 邦 夫
 木 魂 花 村 京
 群 鷓 鳥 頭 尾 精
 作品一三三 矢 谷 長 治
 母 子 上 原 卓

姉 大 城 載 子
 足場のある風景 川 上 三 郎
 魚 と 人 渡 辺 学
 舟 と 人 福 田 豊 四 郎
 濤 雪 山 本 丘 人
 晩 善 鳩 人
 暮 川 ぞ 之 の パ ラ ッ 上 田 康 雄
 川 岸 の 建 物 志 津 輝 雄
 木 A 渡 辺 重
 青 い 山 宮 本 和 子
 夕 映 え 其 阿 弥 赫 土
 煙突の下の子供 菊 地 養 之 助
 遠 菊 地 養 之 助
 青 い 岩 平 川 敏 夫
 黒 い 花 平 川 敏 夫
 白 い 家 福 田 鑿 治
 梓 川 福 田 鑿 治
 午後 の 庭 城 貞 男
 沼 の ほ と り 成 田 伸 溢
 土 偶 高 橋 周 桑
 学 園 A 上 田 晴 也
 夏 の 子 羽 根 節 子
 木 陰 羽 根 節 子
 樹 林 船 越 修
 道 竹 村 掬 二
 樹 横 山 朱 実
 求める人々。朝 倉 撰
 くじやく。吉 岡 堅 二
 冬 岩 信 太 金 昌
 油 画
 夜の洗濯糸 田 芳 雄
 黄 布 糸 田 芳 雄

作 品 V 根 城 良 夫
 エネルギ 武 井 佐 智 子
 陽のある部屋 飯 田 四 郎
 科学者S氏の肖像 赤 穴 宏
 喧嘩なる集会 油 野 誠 一
 因 兆 油 野 誠 一
 烙 相 場 秀 夫
 ある風景 伊 佐 地 郁 郎
 作 品 (A) 加 藤 金 一 郎
 と か い 齊 藤 正 夫
 馬 と 人 齊 藤 正 夫
 独立する生命 上 田 鷹 市
 白馬の構図 上 田 鷹 市
 魚 松 浦 正 雄
 或る秩序 大 国 章 夫
 休息する芽 佐 々 門 恭 三 郎
 発 芽 佐 々 門 恭 三 郎
 浮遊 宮 原 武
 逆 転 宮 原 武
 流 刑 地 橋 本 武
 夢を追う鳥 片 山 勉 子
 くるまをつむく 佐 野 ぬ い
 車 庫 佐 野 ぬ い
 「ANIKI」 茂 木 稔
 「KASIRA」 茂 木 稔
 手、頭、足B。桑 田 道 夫
 手、頭、足A。西 川 孝
 「劇」よりパド・トロワ 西 川 孝
 上 昇 神 吉 足
 坑 林 神 吉 足
 道 化 扇 谷 幸 義
 真 昼 の 愛 田 村 道 郎

海 溝 館 石 昭
 海 瀬 田 沢 茂
 形 骸 川 崎 和 雄
 争いと日記 堀 越 政 寿
 自殺者の日記 堀 越 政 寿
 蛾と太陽 白 井 弘
 作 品 (A) 青 玉 置 正 敏
 化石する人間。玉 置 正 敏
 海 辺 の 歌 城 口 幸 男
 汀の幻想 佐 藤 尚
 佐 渡 の 夕 暮 佐 藤 尚
 布 (No. 20) 波 辺 麗 子
 ブランコ等 村 川 京 子
 三 美 神 角 浩
 夜のサーカス 村 川 京 子
 鍵 路 中 修
 セゴヴィア 居 中 修
 作 品 A。佐 藤 敬
 花 を 持 つ 脇 田 和
 母 の 物 故 会 員 作 品 脇 田 和
 赤いきれをもつ 内 田 巖
 肖像 内 田 巖
 労働者 野 田 英 夫
 風 興 の 時 中 西 利 雄
 楽 興 の 時 中 西 利 雄
 人 物 今 村 俊 夫
 静 物 A。今 村 俊 夫
 枯 葉 の 頃 関 屋 俊 彦

石 油 工 場 関 屋 俊 彦
 メリーゴーラウ 伊 坂 芳 太 郎
 花 火 鈴 木 新 夫
 休 息 鈴 木 新 夫
 物 壳 赤 穴 桂 子
 接 触 赤 穴 桂 子
 スペースに於ける三つの物体 鎌 田 正 蔵
 作 品 B 鎌 田 正 蔵
 黒 い 火 鎌 田 正 蔵
 牛の頭蓋骨によるコンポジション 谷 上 信 博
 海 草 塚 原 明 義
 唄うパンパン。風 間 完
 JAPANの土地 風 間 完
 按 舵 手 の 話 和 田 徹
 八 点 鐘 下 近 藤 茂
 落 下 近 藤 茂
 凧 と 人 と 石 堀 米 勢 吉
 追われる鹿 堀 米 勢 吉
 デュエット 中 島 節 子
 作 品 (最後の晩餐) 中 島 節 子
 時 間 中 島 節 子
 祭 日 中 島 節 子
 変 身 中 島 節 子
 形 象 A。川 端 実
 作 品 C。藤 巻 貞 夫
 都会の憂鬱 柏 原 研 二
 ナルシスの末裔 山 東 洋
 少女とたまね B 合 田 小 三 郎

少女とたまね	C	合田小三郎
控え目の場所	松崎守	
顔の影のピエロ	関根美夫	
オプジェ(II)	蛭子善悦	
くり返し	毛利照	
煤けた天国	竹谷富士雄	
農夫		
木と人		
鳥と女と	三岸節子	
三つの鳥		
楯を持った武士		
二つの鳥		
六つのハニワ		
穴を狙う	中村貞夫	
夜	長野祥三	
鏡	西田勝	
円		
金魚		
ピエロの失墜	谷川彰	
動いてゆく夕暮	尾崎幸雄	
凝結	田村正弘	
船上の家族	小関利雄	
塩辛い記憶	佐善明	
古い家新しい家	浜口忍翁	
風景	桑名清史	
抵抗	新井亮	
時計台と周りの家	工藤滋	
作品	品1。古茂田守介	

壺博者	A	安宅礼子
賭博者	熊木利一	
中毒者	佐藤平七郎	
下をむく男	内田武夫	
小猿と少女		
鴉・少女・裸婦		
花を持つ少女		
腕を組む少女		
猿を抱く少女	小磯良平	
母子群像	富岡惣一郎	
作品	品一	
工場風景	鈴木泰正	
夕映(化粧した)	堤延樹	
緑の静物	丸山東美男	
少年	伊勢正義	
夜		
存在者	辰野宗一	
狂女の踊り	増井寛	
すなごる	細野莊吉	
おびえる馬	床枝清	
むれ	成田真澄	
建造	設西村元三朗	
白船	有賀良治	
ねている二人		
石と草	杉浦行男	
愛の化石	坪井英雄	
乾杯	前芝菜莉	
母子像(市場の)	服部和益	
型取	吉田友三	
肉塊と犠牲者	田中早苗	
海岸	牧野千里	

もにゆまん	坂根進
ヤツカイナ奴	犀川浩佑
転化B	近藤竜男
赤沼の伝説	竹内幸昭
作品	品
重なる	石川勇
YOKOHAMA No.2	真鍋一男
飯島毅彦	
ハイライド	相原久太郎
作品	品2
タンクと橋	溝部都
闘争(A)	草野誠
三〇〇の風景(K)	西田紘
五月の測定	大江孝
作品	品B
芽ばえる	加治矢隆
愛	神田美恵子
虐げるもの虐げられるもの	戸田綾子
裂かれた樹	小林義範
落ちて来た人	寺戸恒晴
たおれた人々	
作品	品G
作品	品B
IOHII	平岩幸郎
男	陶山寛義
独航	堀木俊介
一九五六一	伊藤昌夫
手品	鈴木元治
動き始まるとき	青峰重倫
昇華するエネルギー	柴田寿江
意識	中山府仁夫
高柳逸雄	

座す	中尾進
踊る(3)	
仰向く女	上野卓
めばえ	田崎昭作
黒の季節	
機動	綿井寛治
階	野中曜子
玉ネギのあこが	後藤歌子
黒い太陽	宮脇公実
ほくのアトリエ	
庭の動物たち	斎藤誠一
河口	吉田親
魚屋	
小田炭坑部落	若松光一郎
(A)	
石炭をはこぶ女	
小田炭坑部落	
(B)	
アイーダ	大住閑子
野分	
ユダ	渡辺恂三
ヨブ	
風船	原田ミナミ
港の幻影	水田寛
湿地の花	藤井文明
竹地	坂井範一
おびえる鳥	木幡朋介
海水浴	鈴木大典
風景(A)	野田典男
作品	品3
伊藤継郎	

御参之宮橋	柴田善登
日之出町風景	
墮落	落谷光紀
盗人	鈴木誠
M夫人像	
ブッフエと子供	
舞	
モデルB	
船と人	瀬島好正
たなぼた	
むしぼし	
作品	品Q
魚網	高田一郎
Composition	三島茂司
機械	
一人	網谷義郎
一人	
二人	入江利治
憩を求め鳥	大垣禎造
鳥	
逃避する人	丹羽和子
門	
ダムに見える	太田忠
風景	
葬送	関光行
馬と静物	名柄禎子
北国	丸山正三
きこりと子供達	
赤衣	三田康
風	
彫刻のある部屋	
夢	

海の思い出一 三宅 章子
 変 貌 志田 弥彦
 目 撃 者 浮谷 知子
 作 品IV 池田 錦太郎
 く 橋のある風景。小松 益喜
 残つた神戸居留
 地の宮風景
 夜の雪 小野 武司
 花火と建物A 平岩 郁郎
 黒い鳥 深尾 庄介
 二人 村尾 隆栄
 三つの立像
 カリアチッド 高津 鉄朗
 積まれた椅子
 空回とメカニズ
 ム2 葵 とも子
 ム1 空回とメカニズ
 かたらい 戸張 昌子
 きずつけた神経 小山 太郎
 海辺 山口 貞次
 貨車 福島 誠
 海辺の岩(室戸 桑原 正昭
 岬とドックと起重機 野中 一二三
 山(C) 高橋 昭
 ビルの裏 三沢 弘
 れんたい 西田 信一
 運ばれる 有安 隆
 The Joy 石原 薫

The Joy 石原 薫
 作 品十九 玉置 吉郎
 おしやべり 岡本 信治郎
 縫 井上 篤
 河 小野 忠重
 橋 坂江 重雄
 景 伝(説独白) 山野 一
 メリーゴーラウンド 有田 守成
 ドラム罐のある風景 筑間 尚子
 浜木綿 松田 穰
 砂アノ町 中西 喜一
 浜の網 永井 潔子
 昔の歌 神門 四郎
 むらがる核内 誠二
 河岸風景(B) 山塚 義昭
 工場風景 竹本 三郎
 彫 刻
 首 井岡 俊子
 空をにらんで 横田 栄
 試作 後藤 光行
 習作トルソ 佐藤 昌代
 エチユード 城田 孝一郎
 作 品A 山口 幸子
 かたまり 小田原 光禧
 男の首 田村 興造
 裸 婦

首 佐々木 康典
 別れる前に 大谷 文男
 首習作A 岡野 比呂子
 トルソ 星野 祐二
 女立像 内田 義夫
 習作Tの首 上村 和子
 裸 八十六翁の像 長浜 建樹
 トルソ 伊藤 礼太郎
 山の少年 仲本 道弘
 裸婦立像 河野 新
 家 岩田 健
 裸婦 本田 明二
 女の首 内田 曙
 不の安 寒川 典美
 女の首 松阪 節三
 酒造 田畑 一作
 少 榑原 達之
 少 新井 健司
 首 高橋 米吉
 M子の首 二口 金一
 女 嘉野 稔
 首 (自刻像) 山本 栄一
 首 牧野 英
 子 初馬 正治
 裸 小田 部徹
 トルソ 中島 明子
 手を組む男女 今井 浩勝
 若い男 岩野 勇三
 少年像 井上 和子
 女 照井 栄

少 女 吉田 大象
 習作 柴本 元秀
 少 女 大矢 由造
 放浪 児 白崎 金次郎
 首 阿部 米蔵
 裸婦A 久保 孝雄
 貯金箱 佐藤 忠良
 さか 吉田 芳夫
 青 年 芥川 永
 「訴える人」エチユード 高橋 清
 首 トルソ 舟越 保武
 鳥 船 常雄
 魚 プリンクスハイ 西 常雄
 ム教授首 石場 清四郎
 坐 一九四五年 豊福 知徳
 軒 野 田畑 一作
 橋 足を抱く女 五十嵐 芳三
 立ひざをする女 海辺の女
 首 N・V 滝山 茂男
 うずくまる女 S・S 武次 郎
 若い女 水災架空記念碑「流水」 山内 壮夫
 宇部産業祈念像 おとが 村田 勝四郎
 ヴイオロニスT 菅原 安男
 大江 賢二 像

香取 先生 菅原 安男
 腰かけた女 B 岡本 庄三
 腰かけた女 A
 エリザベツ 山本 常一
 フクロウ 土谷 武
 ひかりに 長島 伸夫
 首 O 本郷 暁
 裸婦立像 本郷 暁
 立像 本郷 暁
 トルソ 成田 紀男
 やせた女 近藤 鑑享
 寝ている 佐藤 祐司
 首のない立像 細川 宗英
 兜をかぶる男 三人の立像
 うつむく女 澄川 喜一
 トルソ 明田 川孝
 手を腰に立つ 高 雄自治
 足を組んで坐る 大 国丈夫
 トルソ 大 国丈夫
 影 天 菊池 一雄
 飛 天 加藤 昭男
 女 振り向く人 大岡 英代
 駱駝に乗る娘 習作A 長浜 虎雄
 穹 本郷 新
 食 腕をくむ女 伊東 傀
 牛

女と木の構成 山県寿夫
 女立像Oシ
 若鳥 鳥 番浦有弥
 坐像 山本格二
 トルソ 浜岡登美子
 デッサンA 柳原義達
 シ C
 シ B
 シ C
 建築
 住宅(模) 池 辺 陽
 型、図面)
 No.8
 事務椅子シ
 モルビル(図面、山口文象
 写真、模写)
 セメント工場 谷口吉郎
 志賀直哉邸シ
 岐阜県関市庁舎
 幼児の為の家具
 佐藤 潔
 土屋 晃一
 川島 甲士
 川島 亨
 方形のシンフォ
 ニイ
 日治見正三
 市川直人
 谷口真美
 田中 仁
 千葉 周子
 廻る収納具C
 ガーデンチェ
 アー
 スツール三種A
 島崎 信
 児童教室用棚
 (一研究所特別
 養護教室の為め
 に)
 渡辺寿美子

小 崎 子 佐々文夫
 子(五点) 松村勝男
 渡 辺 優
 油 画
 レリフによる 久野 真
 作品3
 18回一水会展 21-10月7 東
 京都美術館
 (批)
 読売夕刊25 花田清輝
 毎日26 土方定一
 朝日27 瀬木慎一
 東京タイムズ23 田近憲三
 東京夕刊28 今泉篤男
 日経28 福島繁太郎
 産経29 大河内信敬外
 週刊朝日10月7
 美術批評11月 中原佑介
 美術手帖11月 柳 亮
 アトリエ11月 浜村 順
 みづる11月対談(植村鷹千代
 針生一郎)
 (記)
 美術手帖11月
 田崎広助、深沢紅子、仲田
 好江、中村善策、小山敬三
 [受賞]
 一水会優賞一 片山芳樹、三浦
 俊輔、野村光司
 一水会賞一 巻島友治、林登
 美、小松崎邦雄、関口和子
 新会員推挙一 青野馬佐奈、岡
 崎陽子、許長貴、佐藤進、鷲

見憲治、徳田良仁、中川藤
 次郎、久富邦夫、松野輝彦
 主要出品目録
 〇印委員
 △印会員
 机の前の裸婦△中 川 力
 ねむる裸婦シ
 M 嬢 像△申 斐仁代
 花 翠△名 取明德
 翳 猫シ
 愛 嬢(西室のM △尾崎 正章
 横顔)シ
 忘れられた手袋シ
 勢 獅 子△高野三三男
 ポプラの牧場△中村善策
 牧 場シ
 牧場の道シ
 室内 婦人△木下孝則
 M 君 像シ
 パレードンサーシ
 浅 間△矢野雄蔵
 新 雪シ
 踊り子(チュチ△菅沼金六
 シ)
 首 飾 シ
 虫取りの少女△金丸直衛
 花咲く梅樹シ
 赤い牧舎△伊藤 正
 座 像シ
 早春の浅間山麓△高田 誠
 武 甲 山シ
 漁 港△山川勇一郎
 造 船 所シ

Y 子 像△安藤軍治
 客 室の静物△丸野豊司
 青 衣 像シ
 小さな池のある△木下米子
 風景
 六 郷 展望シ
 日本橋雪景△田 坂 乾
 新子安風景シ
 青 い 船△野村光司
 港の見える風景シ
 断 崖A△酒見恒平
 お茶の水△三浦俊輔
 永 田 町シ
 夕映えの蔵王△菅野矢一
 黒 戸 北野△林 鶴雄
 神 戸 風景シ
 神 戸 風景シ
 静 物△仲田好江
 山 の 花シ
 猫 と 花シ
 鏡 アイリスシ
 ア イ リ スシ
 網 和 田の娘△中村琢二
 十和田の女シ
 田 圃シ
 高原の猫岳△田崎広助
 夏の阿蘇山(夜
 明の風景)
 冬の九重山シ
 龍王風景△納富 進
 樟若葉(長崎)
 雪のめがね橋シ

白 い 岩△広瀬 功
 あぢさい△林 貞 子
 梅 千シ
 東京風景△菊地秀一
 東京の一隅シ
 御濠の樹△天津鎮雄
 箱 根シ
 増 長△天松田忠一
 阿 修 羅シ
 白卓の静物△与志美登野
 静物(四十九の
 B)
 風 景△藤島 燐
 静 物シ
 核島夕照△鈴木良三
 能登路の雨シ
 ある 日シ
 皐月の頃△石川真五郎
 天主閣ノ一隅△小山敬三
 (白鷺城)
 ベルギー大使像シ
 白 鷺 城シ
 奈良風景△山下新太郎
 雨あがり△池部 鈞
 おもちゃ屋の娘シ
 静 物△木村辰彦
 三宝寺池畔シ
 村 嬢 肖 像△有島生馬
 大山崎晩春△石井柏亭
 裸 身シ
 中州風景△鍋谷伝一郎
 秋 の 湖△松村三冬
 湖畔の庭シ
 赤い帯のひと△深沢紅子

あおい季節。深沢紅子
窓 辺△日塔笑子
タイツの人△
樹 氷△源川雪
少 女△
「お母さんたい△田中春弥
へんだね」
洗濯日和△
浴衣の女△野崎利喜男
樹 蔭△
冬 景色△真下慶治
夏 景色△
R氏の肖像。池辺一郎
九月の絵△
春先きの畑道△
海浜着の女。安宅虎雄
三人のコンボデ△
シヨソ
花 菖蒲△
山と並ぶ家△筒井広道
菜の花を持つ△
アルルの屋根△寺田春武
(南仏)
教会の屋根(サ
アレシヤ)
星 △北村 巖
白籠の静物(A)
シャルトル(夏)△福田新生
オランダの少女△
シヤトウのある
風景△
やつれた女△
シャルトル(秋)△
初 夏△棚田貞治
静夜の調べ(京都 △弦田英太郎
静蓮院庭)

踊り 子△弦田英太郎
天使主の御復活△木下寿々子
を告ぐ
カルワリオの悲
しみ△
染付中皿題(み
のりの秋)△。陪 三彩亭
九谷上絵狗透彫
菓子皿△
九谷上絵梅花香
炉△
九谷上絵木蓮と
ふくろ図大皿△
染付恰木蓮図
九角皿△
釉裏紅桜花香合。木下義謙
染付山吹絵茶碗
染付香合△
色絵九谷魚譜大
皿△
青九谷線刻木葉
文菓子皿△
高遠焼松絵平鉢
色絵九谷銀杏葉
文九角皿△
染付かながしら
絵飾皿△
染付ひこいわし
絵飾皿△
染付錆釉ひこい
わし絵飾皿△
幼児浮彫瑠璃文
鎮△
瑠璃釉籠目文ぐ
いのみ△
春 日△堀 忠義
犀川核満開△
佃の渡し△滝川太郎

東京港の風△滝川太郎
冬ちかし△池谷寅一
函館港冬晴△
峠の部落△須山計一
大平街道△
玉 葱△泉 治作
五月の信濃路△小平 照
港 △森 寅雄
野良支度く△岡田高平
野間風景△
山 莊△幸 雅二
浅 間 山△
ヴァイオリン△荒井一郎
静 物△
自 画 像△笠置イツ子
男 の 像△
ト マ ト△
花 △見島三吉
卓上静物△
天龍河岸△高橋貞一郎
諏訪湖風景△
フオンテンプロ
ウ風景△
厨房の午後△金子博信
伊豆風景△
木 の 蔭△泉 治彦
父 の 像△
小川のほとり△中畑岬人
楡の牧場△
クシロの河港△小竹義夫
サーカスの女△
富士のある風景 △片山芳樹
(於秦野)

蓼科春望△片山芳樹
果樹園春雪△木万寿三
リンゴ箱と女△
国鉄労働者スケ
ッチ3 △新海覚雄
椅子に倚る裸婦△富田通雄
奥入瀬の秋△
少 年△新井邦雄
椅子による少女△
仰臥裸婦△荒谷直之介
母 子△
オ ボ △上田哲農
アラデンのラン
浜 の 夕 △阜出守雄
浜 の 晨△
函館風景△山中仁太郎
室 戸 △千ヶ崎悌六
冬 △萩原 実
六月の木立△
山 △斎藤 大
池 △岡崎祇容
谷間の竹林△別車博資
鶴沼風景△不破 章
燈 下△
たんぼの春△宮部 進
ハ ー プ△田辺朋子
追分原の浅間△谷内俊夫
手賀沼風景△末松 勇
ポプラの林△能勢真美
出漁の前△高見耿太郎
湖畔夕景△加藤一豊
麦 秋△本郷 惇

裏庭の初秋△矢崎重信
初秋風景△吉原義彦
火(白) △高森捷三
海(白) △柚木祥吉郎
雪 △
離 山△荻原孝一
壺 △田代 光
谷 川△小栗 精
稲 葉 山△松田晃八
前穂の朝あけ△等々力巳吉
大若風景△酒井精一
丘の松林△朝倉力男
秋の坂道△高橋卯八
青い布の静物△近藤吾朗
枯れた花△
六 甲 山 系△伊藤立己
やよひ像△坂本正春
秋の三俣山△三角嘉寿男
初夏の星生山△
鏡 △坂元一男
読書する男の像△
裸 婦△坂本正春
裸 婦△渡辺祐一郎
塩鮭のある静物△
三つの幸△岡田行一
ベッドの裸婦△
赤目の石橋△河上一也
調 絃△大館健三
河 岸△岡 勇
暮 色△
ルーム207の△高橋祐二郎
客 壊△岡戸伊三郎
破 夫 像△渡辺正一

釣橋 安井曾太郎
 蟹景 23
 風景 23
 瀟雲 23
 連雲 23
 林檎 23
 桜咲く頃 23
 鹿と人 23
 鉢形城跡(寄居) 23
 湯河原風景 23
 前庭 23
 秋庭 23
 バリ雪景 23
 紅衣の婦人 23
 風景 23
 寄居風景 23
 連雲 23
 デッサン人物 23
 城山 23
 パラ 23
 初夏 23
 静物 23
 虹 23
 相原、鳥羽、藤田、清水、小原 22-29 サトウ
 五人展 22-29 サトウ
 東西大家絵画作品と応用織帯展 22-30 新宿・伊勢丹
 高村光太郎、智恵子展 22-11 月4 鎌倉・近代美術館
 (記)毎日23(佐藤春夫)、読売 夕刊23(菊池一雄)
 古川吉重個展 23-28 村松
 (批)美術批評11月(中原佑介)

[記]美術手帖12月(古川吉重) あるしみすとの会三人展 23-28 村松
 黒木不具人、朱マリノ、小原よしお三人展 23-28 村松
 シャトル三人展(アジア文化財団後援) 24-29 養清堂
 デッサンと血絵展(新制作日本画部員) 24-29 三原橋画廊
 ヴィジュアルデザイン展 24-29 ヤナセ
 手工藝作品展 24-29 中央公論社画廊
 論社画廊
 浅野廉(陶藝)、彼谷芳水(漆藝) 近作二人展 25-30 渋谷・東横
 2回全日本産業工藝展 25-30 上野・松坂屋
 蕭黎宝近作賀良寿絵展 25-29 兜屋 [批]産経28(花柳章太郎) 4回「民家を主とした」向井潤吉油絵展 25-30 日本橋・高島屋 [批]産経28、朝日29、毎日29(船戸洪吉)
 別府貫一郎滞伊作品展 25-30 大阪・高島屋
 佐藤努写真水墨画展 25-29 文房堂
 磯部草丘日本画展 25-30 日本橋・三越 [批]萌春37号
 桜田精一個展 25-30 上野・松坂屋 [批]産経28

松下兄弟三人展(明治、隆治、恵治、油絵・彫刻) 25-30 産経画廊
 鳥居雜隆滯仏作品展 25-29 フォルム [批]東京タイムズ
 2回萩原寛子個展 25-29 エグサ
 沼田一郎ガラス絵展 25-29 壺中居
 雜草会日本画展 25-30 新宿・伊勢丹
 嘉藤昭二油絵展 25-30 大阪・阪急
 日比野近三近作並に茜染染色展 25-30 大阪・阪急
 朝鮮の美術と拓本展 26-28 東京藝大
 松田康一「新造型」発表展 26-30 日動画廊
 白木博也油絵個展 26-29 日本橋・丸善
 宇夫方隆土個展 26-10月1 三省堂
 黒沢禧朗個展 26-30 美松画廊
 6回日本宣伝美術展 27-30 名古屋・愛知県美術館
 深谷徹滯歐作展 27-30 大阪・梅田画廊
 2回青年造型集団展 27-30 岡山・日米文化センター
 錦絵に残る「銀座の昔」展 28-

10月3 銀座・松屋
 画と素描の会展 28-10月3 銀座・松坂屋
 大東京を描く展覧会(第一会場) 28-10月3 東京・大丸
 「日経」色刷原画展(日本画壇の名作を集めた) 28-10月8 池袋・西武デパート
 ザイヌル・アベディン個展 28-10月3 東京・大丸 [批] 毎日10月2(阿部展也)
 塩見、木下、黒川日本画展 28-10月2 京都府ギャラリー
 佐藤一章新作展 28-30 岡山・岡山美術クラブ
 行動美術協会展 29-10月11 大阪市立美術館
 速水御舟スケッチ展 28-10月4 銀座・村越画廊 [批]三彩11月

一〇月

中村琢二個展 1-5 日動画廊 [批]東京4(岡本謙次郎)
 斎藤博之人間坐像連作展 1-15 新宿・風月堂 [批]朝日15
 近藤せい子、良悦二人展 1-9 産経画廊
 森哲夫ガラス絵展 1-5 兜屋
 秋草美術小品展 1-6 中央公論社画廊
 田辺竹次個展 1-4 美松画廊
 吉仲太造個展 1-10 タケミヤ
 Y M C A 児童画展 1-6 草土舎
 島雄たけし個展 1-6 求龍堂画廊
 加藤草兵衛、安藤知山陶器展 1-10 銀座屋
 臼井勝利油絵個展 1-7 日本橋・白壁
 大東京を描く展覧会 1-6 (第二会場)クレパス画廊
 グループ・ゼロ展(増沢達也、中島勇、藤井清志、福島完爾) 1-7 日比谷画廊
 加藤鐵男陶個展 1-4 日本橋・丸善
 田中忠雄作品展 1-5 大阪・梅田画廊
 田岡香逸氏収集拓本展 1-21 大阪市立美術館
 南蛮美術展 2-30 市立神戸美術館
 岩佐清個展 2-8 サトウ
 小泉清水彩個展 2-7 安藤七宝店画廊
 木村莊八東京風俗展 2-7 渋谷・東横
 福沢一郎油絵展 2-7 渋谷
 谷・東横 [批]読売夕刊4 (滝口修造)、朝日5、毎日6

(土方定一)、東京6 (岡本謙次郎)、美術手帖12月(徳大寺公英) [記]美術手帖12月(福沢一郎)

木彩会作品展 2-10 日本橋・高島屋

4回福星会油絵展 2-7 日本橋・高島屋

橋本眞家版画展 2-7 日本橋・三越

金原昌平個展 2-6 サエグ

比田井南谷墨像展 2-6 養清堂

グループ人間展 2-8 なび

観音美術展 2-14 日本橋・白木屋 [批]三彩12月

上松画廊新設記念展 2-11 渋谷・上松画廊 [批] 萌春37号

5回潮会洋画展 2-7 上野・松坂屋

藤本能道、熊倉順吉二人展 2-6 フォルム

版画四人展 2-6 文房堂

丹桂会日本画大家展 2-10 新宿・伊勢丹

開都五百年記念江戸商売繁昌展 2-14 上野・松坂屋

鳥取新作民藝展 2-7 渋谷・東横

広重江戸名所絵展 2-7 日

本橋・白木屋 [批]三彩12月 開都五百年記念大東京展 2-14 日本橋・三越

九重年支子作品展 2-7 日本橋・高島屋

8回新匠会展 2-7 日本橋・高島屋 [批]萌春37号

五代尾形周平作陶展 2-7 大阪・阪急

飯島貞子油絵個展 2-7 大阪・阪急

具体美術小品展 3-8 三省堂

辻晋六作陶展 4-6 京都府ギャラリー

東西大家染の美展 4-6 新宿・伊勢丹

巨匠ブルデル彫刻絵画展 5-11月7 ブリジストン

[批]朝日6(本郷新)、東京夕刊9(清水多嘉示)、産経夕刊12(柳亮)、日経16(田近憲三)、毎日26(船戸洪吉)

マリア(大理石) 1922

ペネロプ(ブロンズ) 1907-12

果物(シ) 1911

(ラクレス(シ) 1909

力(アルヴェアル(將軍の記念碑) 1915

自由(シ) 1916

雄弁(シ) 1915

勝利(シ) 1914

可愛いエロス(シ) 1914

セレネー(鍍金)(シ) 1917

供物(シ) 1912

ダフネ(シ) 1910

年とつたバックカント(シ) 1903

バックカント(シ) 1907

エロスをささげるバックカント(シ) 1920

物質を支配する精神(シ) 1911

憩える女彫刻家(シ) 1905-8

献納(シ) 1905

ブルデル(シ) 1907

風の中のベートル(シ) 1904-8

ヴェン(シ) 1925

ドミエ(シ) 1929

エロス(シ) 1929

小さいバックカント(ブロンズ) 1906

フリース(シ) 1929

聖バルブ(テラコッタ) 1929

絵画

イサドラ・ダン グアッシュ 1914

マリア(シ) 1922

イサドラ・ダン グアッシュ

踊るイサドラ

レダとゼウス

レダと白鳥

ランズ大伽藍の殉教者

裸婦

傷つける精を運ぶサントオル

精とともにいる彫刻家サントオル

精を運ぶサントオル

裸婦

庭場の精

埋葬されたエロス

イサドラ・ダン

白鳥の死

鉛筆

中村岳陵素描展 5-17 銀座・松屋 [批]東京4 (岡本謙次郎)、朝日8、産経12、三彩11月

+6人展 5-11 樺画廊

3回青紀展 5-10 美松画廊

菊池契月遺作展 5-28 国立近代美術館 [批]

朝日20 船戸 洪吉

毎日26

出品目録

車匿童子訣別 明34(1901)

名士古聖を吊す 明41(1908)

供漿蜻蛉 明43(1910)

鉄漿蜻蛉 大2(1913)

ゆふべ 大3(1914)

花野 大3(1914)

夕野 大5(1916)

鶴野 大7(1918)

立女像 大10(1921)

春風 大13(1924)

赤童 大14(1925)

経政 大15(1926)

敦政 大15(1926)

南盛 大2(1927)

波照 大3(1928)

桜間 大4(1929)

聖徳太子 大4(1929)

朱子 大4(1929)

涅槃 大4(1929)

散策 大6(1934)

早苗	昭10(1935)
松明	昭10(1935)
吉法師、竹千代	昭11(1936)
迦楼羅	昭12(1937)
草紙洗小町	昭12(1937)
交	昭12(1937)
華	昭13(1938)
忠	昭13(1938)
孔雀	昭14(1939)
殿	昭14(1939)
親	昭15(1940)
紫	昭16(1941)
北政	昭17(1942)
萩	昭17(1942)
光明	昭18(1943)
皇	昭18(1943)
后	昭19(1944)
被衣	昭19(1944)
富	昭21(1947)
唐	昭21(1947)
不	昭29(1954)
滞歐作品模写	昭30(1955)
草	大11-12
スケッチブック	(1922-23)
染色五人展	5-10 銀座・松坂屋
棟方志功板画欄と民藝花器の会	5-10 東京・大丸
エール・フランスポスター発表展	5-10 東京・大丸
広重江戸百景展	5-14 東京・大丸

ヘルシア美術作品展	5-9
産経国際ホール別室	
5回産経美術展	5-10 京都市美術館
海老原喜之助デッサン水彩展	9-10 日動画廊 [批] 東京
4(岡本謙次郎)、朝日8、毎日9(船戸洪吉)、美術手帖12月(徳大寺公英)	
金襴手磁器(明・嘉靖)展	7-11月11 神戸・白鶴美術館
立軌会関西展	8-14 大阪・フジカワ
荒井映延個展	8-13 養清堂
高津鉄朗個展	8-13 中央公論社画廊
三岸好太郎造作展	8-14 日本橋画廊 [批] 朝日9
舌展	8-14 日比谷画廊
7回Y M C A美術展	8-15 草土舎画廊
龍駿介富士油絵展	8-10 東京駅前日本工業クラブ
横井礼以古稀記念洋画展	8-13 求龍堂画廊 [批] 毎日10
13 産経12、美術手帖12月(徳大寺公英)	[記] 美術手帖12月(横井礼以)
24回独立展(創立25周年記念)	9-26 東京都美術館 [批]
産経夕刊8	

夏	明	足達	裏
有	海	上出穂美	
舟	シ	上出穂美	
受	難	堀口千鶴雄	
夏	歌	佐宗喜久代	
牧			
出品目録			
独立賞	上出穂美、来栖重郎、斎藤紅一、川戸二郎		
会員推挙	仲村一男、織田彩子		
創立二十五周年記念賞	秦森康也		
美術手帖12月	松崎真一、浅羽保治、上出穂美、古川吉重、高島達四郎、鳥海青児、野口弥太郎、桜井浜江、秦森康也		
〔受賞〕			
アトリエ32年1	濱村 順		
月			
〔記〕			
美術手帖12月	松崎真一、浅羽保治、上出穂美、古川吉重、高島達四郎、鳥海青児、野口弥太郎、桜井浜江、秦森康也		
美術批評11月	針生 一郎		
美術手帖12月	徳大寺公英		
みづえ12月	柳 亮		
大河内信敬外	滝口 修造		
産経18	福島繁太郎		
東京タイムズ16	出原 栄一		
朝日13	富永 惣一		
毎日13	土方 定一		

合	奏	佐宗喜久代
海	辺の家	青柳暢夫
かたつむりの		
るくさむら		
さばてんのある		
丘		
休む	人	中間冊夫
眠れる	人	田中佐一郎
織	ものけ	
水蝶花(用水池)	高橋忠弥	
水蝶花(夜)		
千	拓	江田 豊
はり(B)		
造	所	江添栄一郎
鳥	の	川戸二郎
鳥遊	ぶ	
午	后	山本 正
造	所	土井俊泰
船	と	馬安田 謙
人	物	発三浦喜代子
出	物	A 吉浦摩耶
静	物	望永井 宏
魚	市場	西田藤次郎
担	り	人
飯	面争奪	池島勘治郎
窓		
小鳥屋と子供		島村三七雄
秋		
二	人	仲村俊夫
運	搬	
群	像	大楠 豊
処	刑	下山良範

工	場(C)	岩田弘行
瀬	戸	
蟹と女(D)		喜多健男
雪の蔵王		妹尾正雄
雪の浅間山		
雲	仙	末永胤生
西海九十九島		
H	浜	
横	港	斑目秀雄
山	花	
犬吠岬の暗礁		
静	物	中富郁子
生きて行く女		小堺景子
(B)		
家	立(D)	永野敏男
馬	場	大石和寿
工	場	藤原向意
風	土	関根勢之助
曲	馬	故吉川 清
虎を殺したウマ		
魔	性	
作	品	
静	物	A 三島喜美代
引かれる家畜		佐野益男
作	品	東儀 一
あ	み	
魚	族E	西野久子
聖母と孤児		山本鉄男
泉		
江	岸	水島 清

黒い煙突と赤い 佐々木 弘
 屋根A
 夜の片瀬風景。鉄指公蔵
 海女と少女。松山幾三郎
 作品A。岡村芳男
 窓と窓。木村英雄
 工場風景。鈴木英雄
 鉄橋のある風景。鈴木武
 春。吉村醇三郎
 船。高森明
 お茶の水風景B。徳嵩光造
 空。内。加藤陽
 胡人。尾口馨
 壺。佐藤辰治
 魚。貝。藤辰治
 紫陽花。佐藤辰治
 別荘地。中尾彰
 麓の村。中尾彰
 冬の村。中尾彰
 工場風景(B)。橋本春光
 干。橋本春光
 丘。藤井浅太郎
 魚のある静物。宇野亀一
 工事場C。吉村哲夫
 かわはぎ。西村雄一
 出。浦上正則
 石切山脈(5)。須永正道
 運河の表情B。佐藤吉五郎
 運河の静物。菅野恵介
 阿武隈流域。菅野恵介
 黒。潮。菅野恵介
 静。物。菅野恵介
 石。物。中村善種

作。品。尾崎一雄
 水門風景。木下新
 微塵(B)。木村武男
 静。夜のサーカス。井手誠一
 魚。A。井原敏夫
 静。物。樋口加六
 風。景。樋口加六
 野。に遊ぶ。緑川広太郎
 サ。カ。ス。緑川広太郎
 風。景。山岡和男
 家。と。樹。と。森。通
 若。い。漁。婦。故。吉。岡。憲
 母。子。故。吉。岡。憲
 笛を吹く少年。本泉喜好
 笛を吹く人。本泉喜好
 窓。レ。ン。的。表。白。本泉喜好
 塵。勝。俣。泰。蔵
 魚。レ。ニ。ヨ。ジ。バ。西田哲郎
 虚。立。森。健
 樹。立(B)。横地康国
 城。立(動)。横地康国
 女と花の实。田中行一
 立。母。子。田中行一
 田園の主題によ。岸正豊
 浜。作。品。中塩勝郎

海浜の静物。岡田寿子
 馬。市。久保一雄
 ニュ。ン。の。い。る。久保一雄
 風景。市。久保一雄
 雪の中の市場。斎藤長三
 若。い。漁。夫。斎藤長三
 井。戸。斎藤長三
 岬。三。瓶。昭。蔵
 欄。二。三。瓶。昭。蔵
 樹。の。ぼ。り。が。ま。鳥。居。敏。文
 つ。ぼ。つ。くり。鳥。居。敏。文
 つ。ぼ。つ。くり。鳥。居。敏。文
 残された生物D。石原百合子
 山頂の雲。中村節也
 眠る湯釜。中村節也
 髪。湯。釜。中村節也
 海。子。藤。求
 母。子。藤。求
 紫。の。静。物。河村春
 花。の。静。物。河村春
 窓。立。ち。並。ぶ。樹(E)。植松真治
 立。ち。並。ぶ。樹(E)。植松真治
 静。物。A。山田依子
 鍋島御神酒徳。藤岡一
 利。裸。体。藤岡一
 半。裸。体。藤岡一
 炭。坑。婦。吉岡一
 炭。坑。婦。吉岡一
 黄。衣。吉岡一
 家。族。B。佐野賢
 瓦。屋。根。佐野賢
 ア。パ。ラ。ー。ト。A。大塚三千代
 水。を。や。る。鈴。木。亜。夫
 ば。ら。の。花。鈴。木。亜。夫

夜室婦人。鈴木亜夫
 静。物。高須鞆子
 花。門。中。山。茂
 水。と。家。門。正。雄
 山。村。景。岩。瀬。憲。一
 漁。村。景。岩。瀬。憲。一
 風。景(B)。太田啓介
 花。の。あ。る。静。物。野口弥太郎
 花。の。あ。る。静。物。野口弥太郎
 黒。と。白。の。静。物。野口弥太郎
 夜。の。窓。辺。の。花。中。山。巍
 女。の。葉。を。銜。え。た。中。山。巍
 花。咲。く。庭。高。間。惣。七
 鳥。庭。高。間。惣。七
 月。と。ハ。ー。マ。ー。高。間。惣。七
 風。景C。吉田翠
 プ。リ。ス。タ。ン。の。屋。青。木。四。郎
 根。ぐ。れ。内。島。淑。行
 ひ。ぐ。れ。内。島。淑。行
 町。の。も。の。と。人。宇。根。元。警
 海。の。も。の。と。人。宇。根。元。警
 集。果。小。島。善。太。郎
 さ。く。ろ。小。島。善。太。郎
 静。物。小。島。善。太。郎
 鳥。籠。豊。田。逸。二
 静。物。豊。田。逸。二
 樹。木。B。森。兵。五
 樹。木。B。森。兵。五
 回。想。A。寺。尾。半。次。郎
 旗。の。誘。惑。和。氣。史。郎
 夜。の。対。話。和。氣。史。郎

崩壊。飯田実雄
 マ。リ。ア。と。キ。リ。ス。飯田実雄
 夜。空。五。木。繁。志
 か。い。が。ら。川。村。護。市
 双。生。児。永。井。功
 石。の。対。話。杉。原。香。子
 空。地。鈴。木。保。徳
 七。面。鳥。鈴。木。保。徳
 群。が。る。家。山。岡。恒。二
 戦。瓜。の。あ。る。静。物。益。田。遠。吉
 南。瓜。の。あ。る。静。物。益。田。遠。吉
 風。景。伊。藤。洋。一。郎
 山。手。風。景。伊。藤。洋。一。郎
 西。春。近。風。景。伊。藤。洋。一。郎
 裸。木。高。島。達。四。郎
 樹。木(熱海風景)。高。島。達。四。郎
 花。と。浅。間。高。島。達。四。郎
 婦。人。座。像。A。兒。島。善。三。郎
 三。又。路。の。家。柳。沢。真。一
 小。川。路。下。平。善。三
 海。女。山。田。貞。実
 工。場。街。平。岡。誠。治
 画。架。と。パ。レ。ッ。ト。松。原。久。明
 藪。の。村。宮。島。佐。一。郎
 里。の。木。宮。島。佐。一。郎
 字。吉。の。里。宮。島。佐。一。郎
 サ。ー。カ。ス。の。象。江。口。賢。一
 風。景。4。吉。平。泰。明
 だ。ん。ら。ん。山。田。文。子
 豊。漁。讚。歌。有。本。弘
 船。と。ろ。く。ろ。C。四。方。長。夫
 ア。ベ。ノ。橋。附。近。赤。尾。長。二

マリアたち	千葉郁世	夜のペランダ	井上寛信	牛	飼片岡清	静	奥村日出雄	天使墮ちる。海老原喜之助
晩秋	稲森祐一	壁	芝田耕	木箱とひまわり	阿久津伝次	工事	小原稔	彫刻(白) ヲック。鳥海青児
とげのある花	米山信子	土	中村綾子	裸婦A	久保郷之	水門	新見棋一郎	黄色い人
(D) 家	大久保泰	二人の母	金井滋	羅漢二体	久保龍夫	風景(B)	熊谷登久平	彫刻(黒) ヲック
寺田氏の像	真鶴の夕映え	板	仲村一男	窓辺の花B	池田恭子	夏去りし海	佐川敏子	少女と鳥
真鶴の夕映え	真鶴の夕映え	鬼	蓮	建	横森政明	木	眠る踊子	裸婦
眼科医K氏	樹	鯉のぼり	中島靖侃	魚・枯	設村田東作	レ	骨のコンボジ	風景
樹	木戸史郎	ギタ	三浦洋一	肉と	林若林和夫	野	野	風景
はな	平井憲迪	鉄	筒井孝	地蔵さん	八木昌一	牛	小野教治	風景
奇怪な鳥	熊代駿	群像(一)	宮崎万平	取	篠森本岩雄	雨	後宮之原和親	橋のある風景
月夜の対話	白野文敏	女	上野菊	屋台の静物B	篠原国治	羽	羽	とりと人
二つの像	織田彩子	洗濯	大内のぶ子	建	鶴谷浩	二	飯田健治	密集する屋根
鉢	織田彩子	花と葡萄	丸の内風景	裸女群像B	下川都一朗	浜	飯田武夫	ダリヤと女
二	入江一子	さかなB	山畑泰治	声のない叫び	大庭シヅ子	赤	片山公一	立
さかなC	秋田寅雄	静	大久保三三	街角のくるま	幸形栄治	静	塚田とほる	月
静	秋田寅雄	平和への願望	小出三郎	生れる昆虫	鈴木慶則	静	藤本忠雄	牛
静	秋田寅雄	ほりわり	赤いサツシユ	道路工事	吉田俊雄	静	藤本忠雄	田
静	秋田寅雄	日は沈む	赤いサツシユ	巨	大阿久恒章	静	藤本忠雄	寧
静	秋田寅雄	壁にある魚	赤いサツシユ	工	下野二哥恵	静	藤本忠雄	寧
静	秋田寅雄	いろりばた	赤いサツシユ	修船場の一隅	空野末人	静	藤本忠雄	寧
静	秋田寅雄	赤の部屋	赤いサツシユ	入江の家々	岡田弥生	静	藤本忠雄	寧
静	秋田寅雄	冬の葎	赤いサツシユ	北信の秋	菅原尚	静	藤本忠雄	寧
静	秋田寅雄	山	赤いサツシユ	信濃路の秋	山道栄助	静	藤本忠雄	寧
静	秋田寅雄	後楽園外苑	赤いサツシユ	メーター	今井憲一	静	藤本忠雄	寧
静	秋田寅雄	石切場	赤いサツシユ	湖	今井憲一	静	藤本忠雄	寧
静	秋田寅雄	耕す人	赤いサツシユ	雨	今井憲一	静	藤本忠雄	寧
静	秋田寅雄	道化の水葬	赤いサツシユ	静	今井憲一	静	藤本忠雄	寧
静	秋田寅雄	花	赤いサツシユ	静	今井憲一	静	藤本忠雄	寧

野 外 婦 人 林 武
 ある 建 築 家 の 肖 須 田 国 太 郎
 る り み つ と り
 静 和 田 湖 長 谷 川 善 四 郎
 十 和 田 湖 長 谷 川 善 四 郎
 漁 夫 斎 藤 満 温
 工 夫 明 石 巖
 室 内 静 物 木 村 昭 三
 伝 馬 船 中 島 啓 匡
 丘 の 農 家 赤 堀 佐 兵
 馬 の 農 家 赤 堀 佐 兵
 巨 木 渡 辺 郁 夫
 夜 上 静 物 水 野 恭 子
 卓 上 静 物 水 野 恭 子
 葉 鶏 頭 鈴 木 泰 江
 小 奴 可 雪 景 武 田 諒 治
 風 景 亘 理 尚 寛
 河 岸 伊 藤 彪
 越 前 堀 木 村 健 児
 作 品 B 木 村 健 児
 炉 業 A 古 賀 猛
 重 工 業 B 寺 沢 宏 三 郎
 働 ら く 人 (C) 寺 沢 宏 三 郎
 ひ る ね 坂 井 俊 雄
 風 景 白 鳥 三 郎
 工 場 森 田 修
 石 彫 A 中 村 幸 平
 赤 坂 風 景 矢 崎 牧 広
 漁 村 矢 崎 牧 広
 ト ン ネ ル の あ る
 風 景 矢 崎 牧 広
 コ ン ポ ジ シ ョ ン 松 島 一 郎

海 と 崖 松 島 一 郎
 海 産 物 A 佐 藤 仁
 窓 ご し の 世 界 妹 尾 正 彦
 自 由 体 操 妹 尾 正 彦
 西 瓜 と 子 供 国 井 澄
 教 会 の あ る 風 景 国 井 澄
 網 走 港 に て 岡 部 文 之 助
 造 船 所 (鋼 路) 柳 沢 毅 一
 静 物 B 柳 沢 毅 一
 座 像 荒 井 勝 子
 エ イ の あ る 静 物 織 田 昇
 鳥 語 芝 田 米 三
 丘 上 高 杉 昭 子
 黒 い 帯 高 杉 昭 子
 天 神 橋 江 川 平 三
 丸 の 内 風 景 江 川 平 三
 静 物 妹 尾 民 子
 早 春 の 蔵 王 妹 尾 民 子
 鳥 の 工 場 三 浦 義 也
 魚 友 近 琢 男
 静 物 B 福 島 瑞 穂
 横 浜 ・ 居 留 地 窓 長 島 常 吉
 外 に わ A 泉 田 安 治
 は に わ A 泉 田 安 治
 広 場 の バ ス 乗 場 佐 々 田 憲 一 郎
 磯 に て 島 津 冬 樹
 舗 道 狭 間 二 郎
 早 春 の 山 清水 鍊 徳
 馬 (駒 方 岳 山) 清水 鍊 徳
 夏 山 (駒 方 岳 山) 清水 鍊 徳
 麓 (甲 斐 駒 方 岳 山) 清水 鍊 徳
 山 麓 (甲 斐 駒 方 岳 山) 清水 鍊 徳
 裸 婦 清水 鍊 徳

煙 火 鳩 川 誠 一
 花 山 口 孝 雄
 女 骨 山 口 孝 雄
 牛 骨 山 口 孝 雄
 裸 女 三 人 花 野 五 壤
 黄 色 い 卓 子 中 島 了 象
 春 の 畑 (B) 関 喜 一
 雨 の 日 の 停 留 場 東 平 哲 弥
 つ く え 堀 越 鬼
 千 網 福 富 栄
 「 運 ぶ 」 A 大 沼 貞 夫
 河 岸 B 大 沼 貞 夫
 鉄 骨 G 浅 羽 保 治
 街 に て 金 子 徳 之
 行 列 を 見 る 人 た ち (其 の 2)
 可 留 多 を う つ 人 能 登 谷 正 樹
 々 々 々 々 能 登 谷 正 樹
 飯 死 生 誕 秦 森 康 屯
 人 々 々 々 秦 森 康 屯
 観 客 赤 星 信 子
 田 園 赤 星 信 子
 晩 秋 池 田 林 一
 晴 れ ま 池 田 林 一
 あ ま だ れ 岡 部 繁 夫
 立 て る 岡 部 繁 夫
 ひ と り 岡 部 繁 夫
 風 景 来 栖 重 郎
 静 物 B 来 栖 重 郎
 墮 ち 行 く 者 達 吉 田 照 子
 街 の 所 見 B 大 泉 い か り
 魚 市 の 女 達 山 中 徳 次
 漁 港 山 中 徳 次

向 透 進 古 川 吉 重
 滲 透 小 林 茂
 變 わ れ る 女 小 林 茂
 平 和 を 乱 す も の 吉 村 清
 笛 吉 村 清
 白 い ポ ッ ト 松 本 富 二
 梨 の あ る 静 物 佐 々 木 耕 成
 欽 山 B 菊 地 敏 雄
 と も し び 国 清 勝 美
 顔 宮 崎 弘
 首 桜 井 寛
 生 物 C 嵯 田 重 孝
 港 引 松 樹 路 人
 取 小 屋 池 野 清
 船 を 洗 つ て い る 池 野 清
 人 足 を 洗 つ て い る 池 野 清
 キ リ ス ト よ …… 国 頭 繁 次 郎
 主 族 佐 藤 道 功
 家 族 佐 藤 道 功
 ガ ー ド 世 利 徹 郎
 家 の あ る 丘 高 木 幸 太 郎
 あ つ ま り 渡 辺 学
 黄 昏 の 駅 前 正 木 智 海
 樹 間 (B) 木 村 初 男
 ナ イ タ ー の 灯 の 見 える 風 景 岡 秀 四 郎
 風 景 A 岡 秀 四 郎
 は か る 井 上 勝 衛
 机 上 静 物 II 平 田 峻 三
 花 上 静 物 I 谷 川 歳 男
 静 物 C 佐 藤 喜 朗

静 物 A 右 近 茂 々 代
 船 の あ る 風 景 B 稲 田 顕 吾
 和 景 B 大 垣 泰 次 郎
 風 を 売 る 人 吉 田 正 敏
 芋 を 売 る 人 吉 田 正 敏
 紫 蘇 と ホ ウ キ 新 津 文 紀
 人 と 鳥 岡 田 克 子
 つ と う 人 々 小 津 卓
 青 い 壺 小 田 切 正 三
 流 木 小 田 切 正 三
 静 物 尾 崎 良 二
 屠 牛 田 村 増 明
 乳 牛 望 月 鏡 一
 幹 望 月 鏡 一
 樹 蒼 々 望 月 鏡 一
 花 の 男 達 高 崎 文 夫
 海 の 男 達 高 崎 文 夫
 車 中 群 像 有 馬 良 昨
 静 物 山 口 義 朗
 少 女 古 川 盛 雄
 広 目 天 吉 田 安 夫
 漁 村 風 景 高 橋 正 武
 脇 岬 額 田 晃 作
 夜 銅 管 工 場 風 景 大 沼 亮 之 助
 森 人 A 菊 地 義 彦
 三 人 中 安 徹
 石 上 の 花 青 山 照 夫
 機 上 の 花 青 山 照 夫
 魚 と 花 の あ る 静 物 青 山 照 夫
 物 と 花 の あ る 静 物 青 山 照 夫
 ひ ま わ り III 神 原 高 枝
 少 年 菊 地 茂 雄
 漁 場 東 英 学

山手風景 早川すみ
町工場 小川秀雄
花 寺田一男
女 岡本陽
作(品R) 長谷川常雄
裏口に立つ母子 佐野比呂志
ランプとひまわり 浜本京子
静物 正信茂登喜
ク 小松恒太郎
丘 殿南照賢
積尊選妃 松藤真澄
船 伊東郁三郎
ひととき 秋田寅雄
静物C 砂田友治
コムボジション 森崎幸
伝説によせて 大越宏純
俱利伽羅谷 荒井不可志
研究室A 木村順子
風(景山) 荒井不可志
帝釈神龍峽 徳永豊
風 細合仁一郎
静物(四) 梶原寿雄
生垣 梶原寿雄
木立 荒木絢子
牛 寺林金次
魚を売る女(B) 戸野昭治郎
ひもの(A) 松永繁雄
海浜(2) 中間嘉通
風 景サイタ亭
鹿 山吉野公脩
古 蹟木山修一
造 船 所佐藤富治郎

スコップを持つ 鈴木正教
青年 山下充
古本 山下充
海 辺 富山尚暉
勤く人々B 米田持
群(一) 岩永忠喜
雑木 斎藤清
無題 市川光徳
レモン 斎藤鉄洲
暮しの友(A) 松島砂子
両神 山岡謙二
黄 昏 吉岡美朗
二つの卓B 後藤昭人
装 飾 倉内田公雄
馬 倉沢国夫
静物 松村薫
日向の二人 杉内忠男
捲く人 杉実平
藍町 西条茂
港 大浦正江
牛車と農婦 原欣三
花 浅田智三
顔の様なもの 横田智男
ライオン 山中馨
若者A 田辺一雄
魚 広原長七郎
風 宮沢義郎
風 田中義太郎
赤い魚 徳橋昭三
月と給水塔 宮本宏
建築場A 藤原常次
春のみかん 朝比奈靖司
花と私A 吉島昭子
屠殺場 上田朗

化成工場 遠藤正三
二 人 菊畑茂久馬
釣 具 西川武人
石はこび 井出陽一郎
西瓜を持つ少女 大田俊子
サイレンのある 田中米吉
家 辺 中村弘
浜 野古栄
静物 野村榮
魚のある静物A 俵繁徳
風 景B 小幡博志
工場の一隅 福島正治
給 物(C) 佐々木毅
静物 森満徳
林中にて 斎藤紅一
樹 木 斎藤紅一
男と壺 稻村洋
風 景 古宮節二
20回自由美術展 9-26 東京
都美術館
〔批〕
産経夕刊8
毎日13 土方定一
朝日13 富永惣一
東京タイムズ16 出原栄一
日経18 福島繁太郎
産経18 大河内信敬
読売夕刊18 滝口修造
美術批評11月 東野芳明
みづる12月 柳亮
美術手帖12月 岡本謙次郎
アトリエ32年1月 浜村順
〔記〕
美術手帖12月

小野忠弘、鶴岡政男、井上長三郎、末松正樹、糸園和太郎、難波田龍起、麻生三郎、森堯茂、森芳雄
主要出品目録
母 子 山田光春
樹の 木 寺田政明
夜の 花 難波田龍起
原 子 時代 難波田龍起
天体の運行 西良三郎
クレインと人 中島保彦
砂利堀り場 中島保彦
いこい 森田正治
雪 森田正治
丘の上(A) 賀川孝
勤く人 川合喜二郎
休 息 藤田清
画をかく人 藤田清
〔都 市 機〕 藤田清
〔信号機〕 藤田清
岐 路 永田力
憩のかたち 永田力
脱けきれない空 根岸正
蝶のいる空間 根岸正
樹木とマキ 吉城弘
譜 A 田中健三
山 B 清水七太郎
裸婦(彫刻) 井上信道

叫び(彫刻) 西谷富士雄
虚な女(シ) 藤田昭子
道 身(シ) 野崎南海雄
鳥 化 野崎南海雄
夏の静物 小林邦二
少 女 小山田二郎
昔の 聖者 小山田二郎
聖骸 布 迫田潤一
昆虫 迫田潤一
作 品 迫田潤一
歯 車 水谷武彦
雪 末松正樹
日 末松正樹
漁 船 堀内規次
赤い空3 麻生三郎
壁 糸園和二郎
一つの構図 西田信一
ユートピア 富成忠夫
L倉 曹良奎
母と子 峰村リツ子
蒼穹の対話 荒木道夫
群 像 小菅徳二
二 人 小菅徳二
脱 殻(彫刻) 森堯茂
殻の発展(シ) 森堯茂
いるか(シ) 昆野恒
風に向う(シ) 昆野恒
ヘリクレサムト 小野忠弘
ダンス(シ) 小野忠弘
ダルゲのゾロ(シ) 小野忠弘
釣舟と魚 鶴岡政男
工場地帯 佐田勝

裸婦佐田勝
メタモルフオー
ゼ(1)大村連
食卓中野淳
重い首西村保史郎
人坑地吉井忠
炭坑山富山妙子
欽節の顔中条顯
季節の顔赤塚徹
プロメテウス
男二人三井滋夫
花刻室比田井仁史
彫刻室比田井仁史
女(A)(彫刻)安藤士
人(B)(彫刻)井上武吉
裂開(シ)井上武吉
無題(シ)渡力敷唯信
沖繩と共に渡力敷唯信
作品B矢島甲子夫
蠶A沢野井信夫
樹木井上照子
風景井上長三郎
自景由井上長三郎
家景由井上長三郎
裸族婦A奈知安太郎
整列A小谷博貞
造列B小谷博貞
榕樹大野五郎
鶴飼小谷良徳

作品品B文挾克明
M氏の家族前田常作
K氏の肖像松野庸子
群Catcombesに竹中三郎
生き残るもの野ざらし田中朝吉
野ざらし田中朝吉
象山内豊喜
河岸の街山内豊喜
ムードン風景大村清隆
鉄工(彫刻)三雲祥之助
女の立像(彫刻)森川昭
踊り(シ)新田実
浜の人(シ)塩水流功
裸婦立像(シ)池田淑人
クレエーン塩水流功
仏心塩水流功
セメント山塩水流功
牛飼中本達也
洪水松本忠義
えびがになど松本忠義
心象風景松本忠義
断層境野一之
桃色の部屋上原二郎
箱タキスの天小野忠弘
ロマンスの天小野忠弘
4ツの丸(1)オノサトトシ
静物(2)故中筋幹彦
秋物松本正子

農夫森芳雄
画家と家族小山田チカエ
どなべと玉子八幡健二
乗る八幡健二
人物中山一郎
無題伊藤昭二
朝のカノン山口正城
どこのかに上野省策
元軍人だま杉原清司
つてはいられ
ない
元軍人健在
顔(彫刻)是松勝美
二(人)(シ)手島脩
F嬢(シ)峯孝
かがむ(シ)峯孝
立つ(シ)峯孝
作品(シ)木内岬
台風と落日小林良曹
はかい清希卓
陽の神話清希卓
心象(シ)清希卓
パリア景南桂子
風景景南桂子
みづ稲田三郎
柳セシ
キソンセシ
横たわつてゐる(彫刻)岡弘
女(彫刻)岡弘
10回記念第二紀会展 9-26
東京都美術館

〔批〕
産経夕刊8
東京夕刊12
毎日13
朝日13
東京タイムズ16
産経18
読売夕刊18
美術批評11月
みづゑ12月
美術手帖12月
アトリエ32年1月
〔記〕
美術手帖12月
佐野繁次郎、金田辰弘、田村孝之介、中西勝、鍋井克之、高山道雄
〔受賞〕
同人優賞—真鍋博、島田しづ子
同人努力賞—浜田信
同人賞—久野修男、丹羽庸晴
二紀賞—松井正雄、吉野純
努力賞—橋野惠委子、荒井堅
委員推挙—岡田登志男、小島真佐吉、西村功、加藤敏子、坂上政克、斉藤聖香、長野隆業
主要出品目録
△印委員
△印同人

語り合う古賀筆
受難の魚森本健二
争魚森本健二
逃魚森本健二
仲間3佐野繁次郎
仲間1
奇怪な鳥と萬金田辰弘
生と子山口操助
親と子山口操助
教師と子ども
作品BY佐々木孔
作品TC
洪水の岡田登志男
森の仲間たち
白い鳥
哀愁
船と流木兒玉幸雄
船と雲
花と実高山道雄
色割
集団(雪中島)小島真佐吉
こわれた傘三宅輝夫
あやとり
杉の木土岐国彦
森の母、子島岡実
母、子、雲、犬
椅子子藪野正雄
臥婦
初秋の景物鳥取敏
冬の景物
蒼い太陽宮永岳彦

歸 鉄△石 勝悦三
 丘 青木 寿
 転 △景 植田 彰子
 風 ふもとの樹△森 英
 人 など△森 英
 栗 など△森 英
 龜の子 童子△横井 礼以
 姥 子△熊野 俊一
 田園の 秋△熊野 俊一
 漁夫の 家族△田村 孝之介
 海の 幸△三 郎
 笛を吹く 子△三 郎
 田舎の 子△三 郎
 小公園の 午後△山 田 等
 室の中の 子供達△山 田 等
 都会の 裏街△宮嶋 美明
 水溜り△近藤 嘉男
 子 供△水清 公子
 姉 妹△水清 公子
 置き 船△秋保 正三
 修理 場△成井 弘文
 巴里の ねつと△成井 弘文
 カイロ 風景△井克 之
 月光と 海水△井克 之
 大浦天主堂(内 部)
 田辺 湾遠望△原 勝四郎
 老人 像△黒田 重太郎
 桃 北秋 暑△黒田 重太郎
 湖 北秋 暑△黒田 重太郎
 空白の 記録△峰岸 義一
 三文 絵の 詩△東山 紗智子
 赤い パジャマ△東山 紗智子

み な と△坂本 益夫
 翌 朝△青木 一夫
 道 △大石 俊彦
 海 浜△山陽 子
 習 作△山陽 子
 秋 果△佐伯 米子
 秋 香△大兼 実
 窓 庫の一 隅△大兼 実
 艇庫の 一隅△大兼 実
 地 下道△山田 豊
 夜の 色△山本 直治
 失 楽△津田 周平
 土を愛する 女達△津田 周平
 家 族△宮本 三郎
 箱 根△宮本 三郎
 山 湖△栗原 信
 大 阪△久野 修男
 校 倉△久野 修男
 瓦 窯△三浦 和志
 花 三△三浦 和志
 府 中 駅△正宗 得三郎
 府 中 釋並木△正宗 得三郎
 母 子 像△奥村 隼人
 海のみえる 丘△結田 信
 みどりの 丘△結田 信
 戯 れ△中野 安次郎
 御 岳 山△中野 安次郎
 セラミックス 山林 健造
 パンド ソーシ 健造
 夜の 店頭△山田 一雄
 楽 器 斜陽△井上 安男
 岬 端 斜陽△井上 安男

赤目の 溪流△井上 安男
 "CIRCUS," △鈴木 猛人
 "OUTRAGE," △鈴木 猛人
 高 取 山(表)△品川 祐治郎
 し △吉田 富士夫
 ライ オン △吉田 富士夫
 女 A △島田 しづ子
 休 日 △島田 しづ子
 女 計 △島田 しづ子
 時 計 △島田 しづ子
 コワレタ 時計 △島田 しづ子
 六災図(早ばつ) △真鍋 博
 壁画・キリスト △真鍋 博
 憩 息 △赤西 村 功
 野 外 の 赤帽 △赤西 村 功
 野 外 の 子供 △赤西 村 功
 星は 輝く △赤西 村 功
 開放された 窓 △赤西 村 功
 鳩・子供 △赤西 村 功
 舞 踏 △赤西 村 功
 海 辺 △赤西 村 功
 うずくまる 山羊 △赤西 村 功
 婚 儀 の 後 △赤西 村 功
 拳闘 家 夫婦 △赤西 村 功
 鶏 △赤西 村 功
 川 畔 △赤西 村 功
 石 灰 岩 の 山 △赤西 村 功
 マスカン づくり △赤西 村 功
 ペンキ 塗り △赤西 村 功
 川 岸 の 風景 △赤西 村 功
 森 門 △赤西 村 功
 緑 門 △赤西 村 功
 操 車 場 の 雪 △赤西 村 功

三人の パンサン △北村 修
 庭 △北村 修
 対 局 △北村 修
 さい づり △北村 修
 牛の クリスマス △北村 修
 魚 群 △北村 修
 二羽 の 鳥 △北村 修
 黒 い 河 △北村 修
 出水 の あと △北村 修
 栄 小 路 △北村 修
 自由 ケ 丘 △北村 修
 横たわる 木 △北村 修
 作品 生物 A △北村 修
 赤 と 青 △北村 修
 刃 物 △北村 修
 井 戸 直 子 △北村 修
 郷 愁 △北村 修
 食 卓 の 人 △北村 修
 人 形 △北村 修
 屋 根 裏 の 営 営 △北村 修
 館 跡 △北村 修
 工 場 の 一 隅 △北村 修
 鳥 と 女 △北村 修
 い か り △北村 修
 馬 が いる △北村 修
 帆 △北村 修
 船 渡 △北村 修
 降魔 成道(仏伝) △北村 修
 太子 降誕(シ) △北村 修
 海 底 △北村 修

秋 果 △伊藤 泰造
 小さい 駅の うち △伊藤 泰造
 黒 い 河 △内海 九郎
 漁 夫 △内海 九郎
 画家と モデル △市野 長之介
 影 刻 家 △市野 長之介
 夕暮れ の 街角 △中原 四十二
 枯れ 日向葵 と 鳥 △中原 四十二
 瓜 △中原 四十二
 生命の 畏敬 △島あふひ
 (アルベルト・シュ
 ヴァイチエル)
 彫 刻
 会 瀬 由 来 △松村 外次郎
 波 の 歌 △中川 為延
 作 品 A △坂上 政克
 女 座 像 △長谷川 八十
 浴 水 △野欣 三郎
 ト ル ソ △菅沼 五郎
 作 品 △菅沼 五郎
 夢 八 △柳 恭次
 二 人 △柳 恭次
 作 品 △藤 聖香
 作 品 J の 8 △長野 隆業
 石 D の 2 △片丹 羽康晴
 石 片 △片丹 羽康晴
 男 の 顔 △片丹 羽康晴
 作 品 B △坂上 政克
 ト ル ソ △真鍋 忠
 失 える 柱 △滝川 美一
 1 回来長道博日本画個展 9
 14 安藤七宝店画廊

青龍社展 9-14 大阪・大丸
青龍社小品展 9-14 大阪・大丸

矢野鉄山日本画展 9-14 神
戸・大丸

3回日本伝統工藝展 9-21
日本橋・三越 [批] 東京夕刊
19 (剣持勇)、朝日19 (前田泰
次)、萌春37号(西沢笛吹)

高田保雄、中沢直三郎二人展
9-13 文房堂

木内広個展 9-13 フォルム
[批] 産経夕刊12 (中原佑介)、
美術手帖12月 (徳大寺公英)

美術文化関西秋季展 9-14
心斎橋ギャラリー

醍醐寺展 9-18 渋谷・東横
[批] 三彩12月

千葉かつと、三岸黄太二人展
9-13 サエグサ [批] 美術
手帖12月 (徳大寺公英)

井上恒也日本画展 9-14 日
本橋・三越

福田新生滞欧作色紙展 9-14
なびす

制作者集団「極」展 9-14 大
阪・阪急

1回淵田安子発表展 10-14
兜屋

1回深沢孝・小林孔二人展 10
-16 サトウ

2回東京展 10-14 産経画廊
美術文化会友八人展 10-15

三省堂
源川豊油画個展 11-15 日動
画廊

2回宮城音蔵油画展 11-16
美松画廊

平岡忠風景画展 11-16 村松
勝呂忠個展 11-16 村松 [批]
産経夕刊12 (中原佑介)、朝日
15、美術手帖12月 (徳大寺公
英) [記] 美術手帖12月 (勝呂
忠)

利根山光人個展 11-20 タケ
ミヤ [批] 読売夕刊12 (中原
佑介)、朝日15、美術手帖12
月 (徳大寺公英)、アトリエ32
年1月 (浜村順) [記] 美術手
帖12月 (利根山光人)

桃山障屏画名作展 11-11月11
久留米・石橋美術館

2回具体美術展 11-17 青山
六丁目・小原会館 [批] 朝日
15、アトリエ32年1月 (浜村
順)

相愛美術教室展 11-13 京都
府ギャラリー

歴史物語壁面展 11-17 名古屋
屋・愛知県美術館

秋季古美術展 12-11月15 大
阪・藤田美術館

江藤環子個展 12-16 樺画廊
[批] 美術批評12月 (徳大寺公
英)

油絵彫刻46人展 12-17 銀座・

松坂屋 [批] 朝日15、美術手
帖12月 (徳大寺公英)、美術批
評12月 (中原佑介)

秋の皇居風景画展 12-17 東
京・大丸

新制作協会展 12-25 大阪市
立美術館

一九五六年イタリアン・フェア
13-21 日本橋・高島屋 [批]
東京夕刊19 (剣持勇)

武家文書展 13-15 慶応義塾
図書館

山田皓齋新作展 13-18 大阪・
三越

行動美術展 14-28 京都市美
術館

青峰重倫個展 15-18 日本橋・
丸善

加山又造個展 15-20 養清堂
[批] 美術手帖12月 (徳大寺公
英)、三彩12月、アトリエ32年
1月 (浜村順)

フランスの巨匠石版画展 15-
20 大阪・日仏画廊

安藤重治個展 15-20 中央公
論社画廊

寺田春武個展 15-21 大阪・
フジカワ

多田栄二個展 15-19 産経画
廊 [批] 産経夕刊19

山下清作品展 15-21 川崎・
さいかや五階

青龍社展 16-21 神戸・大丸

田辺穉アメリカ・ハワイ写生展
16-20 日動画廊

14回野水会日本画展 16-21
日本橋・高島屋

6回川合修二新作陶藝展 16-
21 日本橋・高島屋 [批] 三
彩12月

小山田二郎作品展 16-31 新
宿・風月堂 [批] 美術手帖12
月 (徳大寺公英)、美術批評12
月 (東野芳明)、みづる12月 (岡
本謙次郎)、アトリエ32年1月
(浜村順) [記] 美術手帖12月
(小山田二郎)

手塚益雄個展 16-20 サエグ
サ [批] 美術批評12月 (徳大
寺公英)

2回一土会展 16-20 ヤナセ
ギャラリー

晴山英個展 16-20 文房堂
国松登個展 16-20 フォルム
[批] 美術手帖12月 (徳大寺公
英)、みづる12月 (徳大寺公英)

萩谷巖個展 16-21 上野・松
坂屋 [批] 産経夕刊19

第二紀会10周年記念新人特選展
16-21 日本橋・三越

まつい・ひろし個展 16-22
なびす

中村忠二個展 16-31 渋谷・
風月堂

山下清新作品展 16-31 東京・
大丸

風霧会日本画展 16-21 日本
橋・三越

岡崎桃乞個展 16-20 壺中居
墨の藝術「馨香会」同人展 16-
21 日本橋・三越

東素会余技作品展 16-21 日
本橋・三越

中国・朝鮮古美術展 16-21
大阪・阪急

岡本保宝塚舞台美術展 16-21
大阪・阪急

5回視群展 17-21 美松画廊
宮芳平個展 17-21 兜屋

岸田隴子色紙展 17-21 南画
廊

岡島茂夫個展 17-21 樺画廊
1回伸起会展 17-22 村松画
廊

荻太郎、舟越保武二人展 17-
22 村松 [批] 東京夕刊20 (岡
本謙次郎)、朝日22、美術手帖
12月 (徳大寺公英)、[記] 美術
手帖22月 (舟越保武、荻太郎)

田中亚木男個展 17-22 三省
堂

道(北海道)展 17-24 札幌・
今井百貨店

裝飾織物応意匠展 17-18
京都府ギャラリー

木村探元展 18-11月4 鹿兒
島市立美術館

森若正孝デザイン展 18-24
サトウ

- 2 回蒼樹會展 19—20 銀座・東電サーピスセンター
- 3 回ヴォロンテ展 19—21 安藤七宝店画廊
- 3 回新版画展 19—24 銀座・松坂屋〔批〕産経夕刊19〔近藤市太郎〕
- 絵更紗美術展 19—24 銀座・松屋
- 3 回巨匠日本画展 19—24 東京・大丸
- 濶工会新工作藝展 19—25 新宿・伊勢丹
- 匹亜會展 19—23 日本橋・丸善
- 菅公資料展 20—11月10 鎌倉・国宝館
- ジュネエ展 20—26 美松画廊
- 佐野正堂個展 20—30 早稲田・一言堂書房
- 関西日彫展 20—25 大阪・松坂屋
- 新野一弘個展 20—24 産経画廊
- 愛知県教育職員並びに生徒美術展 20—25 名古屋・愛知県美術館
- 立花一花個展 21—26 樺画廊
- 渡辺一郎個展 21—27 求龍堂画廊
- 〔批〕みづる12月〔柳亮〕
- 小山田二郎個展 21—31 タケミヤ
- 正倉院展 21—11月3 奈良国

- 立博物館 會宮一念個展 22—27 大阪・フジカワ
- 女流創作版画展 22—27 養清堂〔批〕美術手帖12月〔徳大寺公英〕
- 日高昌克個展 22—27 壺中居
- 林武壁画エチュード展 22—27 兜屋〔批〕毎日26〔船戸洪吉〕アトリエ32年1月〔浜村順〕
- 芥沢銚介染織小品展 22—27 中央公論社画廊
- 全日本学生美連交歓展 22—28 京都市美術館
- 4 回ゲンビ展 22—30 京都市美術館〔批〕美術手帖32年2月〔杉本亀久雄〕
- 青龍社展 23—28 名古屋・松坂屋
- 河井寛次郎新作陶磁器展親並に陶硯五十趣陳列 23—28 日本橋・高島屋
- 2 回墨人展 23—28 上野・松坂屋
- 2 回小西平内〔太閤〕茶陶展 23—28 渋谷・東横
- 7 回日本版画院展 23—28 日本橋・白木屋
- 2 回関口俊吾滞欧作品展 23—28 日本橋・高島屋〔批〕毎日26〔船戸洪吉〕、美術手帖12月〔徳大寺公英〕、みづる12月〔嘉門安雄〕、アトリエ32年1

- 月〔浜村順〕〔記〕美術手帖12月〔関口俊吾〕
- 橋本三郎個展 23—27 フォルム
- 近代洋画家群展 23—27 大阪・日仏画廊
- 8 回国際学童水彩展 23—28 日本橋・三越
- 小谷津任牛個展 23—28 上野・松坂屋
- 石川果工藝美術展 23—28 日本橋・三越
- 白申社小品展 23—28 日本橋・三越
- 菅橋彦個展 23—28 日本橋・三越
- 小久保晴行、中井勝郎、村上善男、易川昌、須賀通泰五人展 23—29 なびす
- 會宮一念個展 23—27 大阪・フジカワ
- 芥川紗織、河原温、池田龍雄、吉仲大造四人展 23—28 村松
- 井上忠行個展 23—28 村松
- いざよい会押絵展 23—28 日本橋・三越
- 島成園美人画展 23—28 大阪・大丸
- 益子煥新作発表会 23—28 日本橋・三越
- 荒井秀宣油絵展 23—28 大阪・阪急

- 京都新人作陶十人展 24—31 日本橋・高島屋
- 2 回白木正一、早瀬菴江展 24—29 三省堂
- 黄青會展 24—27 文房堂
- 創軌會展 24—27 ヤナセギヤ
- 一九五〇年協会展 24—27 日本橋・丸善
- 2 回白流會展 24—27 三原橋画廊
- 長尾美術館「能」衣装展 24—11月7 光輪閣内・シルクギャラリー
- 中国名作展 (ユネスコ世界巡回展) 25—27 東京都美術館 館佐藤記念室
- 仏教美術展 25—11月25 東京国立博物館
- 山脇敏子創作きもの展 25—31 新宿・伊勢丹
- 伊藤直臣個展 25—28 銀座・東電サーピスセンター
- 釉彩工藝展 25—29 京都府ギャラリー
- 村島鉄雄個展 25—30 産経画廊
- 岡常次個展 26—29 日動画廊
- 岩中徳次郎、岡本治男二人展 26—11月1 サトウ
- 備前焼名工作品展 26—31 銀座

- 一四八
- 座・松屋 三宅手藝グループ展 26—31 銀座・松坂屋
- 京都新人作陶十人展 26—31 日本橋・高島屋
- 鈴木信太郎、田崎広助、宮田重雄新作水墨画三人展 26—31 東京・大丸
- 二科展 26—11月14 大阪市内立美術館
- 陰山光義個展 26—30 大阪・梅田画廊〔批〕美術手帖32年2月〔杉本亀久雄〕
- 川原章二個展 26—30 大阪・梅田画廊〔批〕美術手帖32年2月〔杉本亀久雄〕
- 宋元、室町初期水墨画展 27—11月 根津美術館〔批〕三彩12月
- 香取忠彦、村上曉郎二人展 27—31 樺画廊
- 新興美術院会員日本画小品展 27—31 成田山・信徒会館
- 張替正次個展 27—31 美松画廊
- 創立二十周年記念館藏品展 28—11月23 大阪市立美術館
- 佐藤文雄個展 28—11月1 兜屋
- 12 回日展 28—12月1 東京都美術館〔批〕
- 東京夕刊11月1 嘉門安雄

読売夕刊11月2

東京夕刊3

日経11月3、4

東京夕刊11月5

朝日11月5

東京タイムズ11月5

伊福部隆彦

河北倫明

今泉篤男

嘉門安雄

岡田謙

中原佑介

東京夕刊11月6

本間正義

横川毅一郎

日野耕之祐

三輪福松

野間清六

田近憲三

田近憲三

原田良友

週刊朝日11月11

サンデー毎日11月18

美術手帖12月

みづゑ12月

萌春38号

アトリエ32年1

浜村順

柳亮

鈴木進

出品目録

(会)は日本芸術院会員の略

(参)は日風連営会参事の略

(審)は審査員の略

(依)は出品依頼者の略

(無)は無鑑査の略

(特)は特選の略

(白)は白寿賞の略

(買)は川合玉香氏資金により買入文部省寄贈作品

日本画

叢 斎藤清策

水 陰 加倉井和夫

足場と黒い (依)山本知克

窓 山本知克

熔岩ノ入江下 保 昭

水田 (特)白海老名正夫

暮色 (特)白鈴木竹柏

淀の河川 (特)白沢野文臣

日暮 (特)白杉原元人

三人 (特)白望月美江

橋 山口吉三郎

店 (依)伊藤万耀

新緑の山 (依)加藤美代三

月輪 (依)関主税

造 船 (依)堂本元次

山の 沼川崎春彦

池の 米原忠夫

しじま 大田歳夫

牛と太陽 米蛇寛

遊泳 (依)尾山 轍

人 物 浜田昇 兒

樹 (依)佐藤太清

朴 (依)羽田陽吉

細雨 (依)浜田台 兒

流水 (依)村松乙彦

石組の庭 (無)水野深草

サーカスの馬 三谷青子

水辺 (無)浦田正夫

ピロロ (無)松本郭南

子供を洗う (依)堂本阿岐羅

耕 牛 川村憲邦

京舞 古 磯田又一郎

藤 望月定夫

曳 大 山 忠 作

縞 馬 西 野 新 川

いこい (無)関根雅雄

午 后 丸 山 石 根

秋 瀑 (依)川本末雄

ビール工 (特)白川崎鈴彦

場 黄 牡 丹 黒 (参)審望月春江

牡丹 舍 (参)岩田正巳

禽 (特)白中野蒼穹

たそがれ (特)白三輪良平

裸像 (特)白三輪良平

シクラメン 都路華明

石灰工場 岩沢重夫

砂防の浜 (依)吉田登毅

立女 (依)梶原緋佐子

朝暉 (参)審堅山南風

意識 (会)審堂本印象

山 涼 (依)寺島紫明

新 晴 (会)審中村岳陵

雪 松 (参)德阿神泉

赤原 (会)審小野竹喬

高 椿 (参)審金島桂華

古曲の人た (参)伊東深水

竹林幽趣 (会)松林桂月

ポポー果 (会)結城素明

夕涼 (参)審宇田荻郎

魚と果 (依)富取風堂

遊華童女 (参)服部有恒

月光 (依)水田竹圃

春の伊豆 (依)田中以知庵

むれ遊ぶ (依)山本倉丘

薄氷 (参)川崎小虎

犬と少年 (依)森田沙伊

淡鳥 (参)池田遙郎

白鳥 (参)森白甫

七面鳥 (参)審見玉希望

松庭 (参)東山魁夷

虎津箕面 (参)矢野橋村

三人の裸婦 (依)三谷十糸子

栗栖の岩 (依)嶋谷自然

足場のある建築 池田道夫

最上川残雪 (依)遠藤桑珠

記南ノ山 宇田裕彦

樹 日比野嘉徑

山 峽 河合健二

北浜所 見 五十榎子元

樹 間 中 沢 博

高 原 大 嶋 秀 信

残雪 (依)中野草雲

煙 突 高 橋 津 根 於

た に ま 安 島 雨 晶

参 道 天 野 大 虹

路 池 田 長 三 郎

静 苑 奥 田 正 治 良

サイロのある風 笠尾浩道

景 花 猪 田 青 以

白 い の 前 吉 田 百 斗 子

ピアノの 人 宮 内 英 好

S 夫 蓮 加 藤 柴 子

睡 蓮 加 藤 柴 子

久住 山 福 井 沢 太

笛 具 志 堅 古 雅

谿 谷 大 平 華 泉

梨 依 晶 山 錦 成

浴 依 中 谷 光 炎

風 景 村 山 徑

猫 笠 原 可 雄

埠頭 (依)松浦 満

バナナ (依)常岡文 亀

少女ト仏頭 (依)江崎孝 坪

若 松 黒 光 茂 樹

樹 (依)松本姿 水

僧 徒 (依)立石春 美

粧 谿 (依)白井烟 崑

沖繩の踊り子 渋谷江 津

静 夜 鈴 木 由 太 郎

鳳冠 鳥 橋 爪 堆 恩

熱帯 魚 渡 辺 阿 以 湖

夜の 店 池 田 真 澄

鯉 梶 喜 一

午後のお客 (依)田代正 子

恋 (依)野島青 玆

妙義晩秋 (依)奥田元 宋

溪内 (依)我妻碧 宇

室 (依)加藤長 明

樹 映 (審)買 浜 田 観

孔 雀 (審)買 杉 山 寧

沼 (審)買 高 山 辰 雄

水 光 (審)買 藤 田 弁 次

篝 火 (依)加藤 柴 三

劍 岳 (依)西山 英 雄

雨 後 (依)山田 申 吾

木屋町の家 (依)三輪 晃 博

千 湯 (依)加藤 東 一

屋	黎	ボート屋の休日	柿生の夕べ	暮るる丘	東尋坊	風景	椿景	吾妻の沼	奥羽山脈	だりや	きく	芥子	南天	庭芋	製糖工場	洛北小野郷	画室	鳶	X管	ゆか	夕映	残映	跨線橋	薄線	杉止	波止	日吉ヶ丘	樹(無特)白野村	孔雀(無特)白野村	月生	暮田	秋葉長生
根	明	川口金作	秋元清治	山本昌平	佐藤昭三	長島千春	石塚青我	塚本武三	杉原盈二	大宮興俊	西原園子	大野藤三郎	杉岡宗一	下川千秋	湯浅清香	大日躬世子	幸田大虚	宇田大虚	赤松燎	猪木匡四郎	水田慶泉	寺沢万象	暮羽根	山田規代	白鳥映雪	三尾雄治	稲田和正	野村一生	猪原大華	小沢春子		
鉄	禽	残	尾	「モデル」たち	北山	鹿渡風	ゆかた	霧ヶ	つ	漁	月	風	巽	暮	母	鷹	奥	エウロ	葡萄	端	本	稽	月	池	杉	朝	高	花	牧	店	樹	印
仙	舎	(依)木本大果	照中路勝博	小栗本榮	高木富三	宮沢和雄	(依)勝田哲	峯桑原清明	橋口幾三郎	(依)近藤浩一路	(依)西沢笛畝	(依)山口玲照	中瀬昂	色中瀬昂	子中瀬昂	峰野圭一	弾後藤貞之介	永山富士太郎	山直原玉青	家福本達雄	牧河部貞夫	場石田重子	(依)田之口青晃	藤谷雅春	山石川義実	原長嶺雅男	場塩原友子	馬池田尚志	頭栗原慶果	間小岩井秀鳳	郷川村暢洋	
土湯	河	小豆島風景	はまゆり	岳	山	湖	古里村風景	陶	月	石倉風	冠	彩	た	木	松	木	落	室	湖	黄	河	赤	曉	草	ボート小屋	林	綜	日暮れの神戸市	星	発		
飯塚	加藤秋	野村東山	北越珠光	間宮正美	成田陽	水野陽翠	木村史朗	竹島静子	飯田吉	鶴田蕪泉	浅田蕪泉	浅田蕪泉	青島淑雄	蓮荒木天立	(依)樋口富麻呂	高橋立州人	陽永山十志夫	野棚田泰生	畔柴田一雄	昏戸田英二	原是永伸一	岡堀史明	細谷達三	石曾根貞芳	佐藤永芳	小倉芳司	那波多目輝星	伊東隆雄	小川翠村	加藤彩華		
馬湖	木	林	午	御室の座	斎	保津の堤	し	早	西	鏡	杏	風	植	夕	山	松	足	花	停	紅	知	黄	獻	家	海	萌	鶏	真	港	運		
久	佐	國	恩	睡	塔	(依)川上拙以	(依)山本紅雲	鈴木石甌子	春原田太乙	伊藤王	森村宜永	佐藤高越	太田竜一	杉山丈夫	伊坂公完	野原鳥聖	林芹生清	蒲三河義太郎	泊竹内潤	道久保田魁	(依)幸松春浦	昏菖蒲大悦	高橋克明	石垣彰夫	浜宮原明良	春太田稲吉	舍寺井重三	鶴田如豊秋	景宮坂一義	(依)堀井香坡	河	
雪	女	エスカレーター	蓮沼風景	鉦山風景	樹	港	た	緑	陶	雪	茶	睡	庭	小園に秋立つ	花	造	黒	洛	月	駅	麦	橘	花	夏	平	ふ	鴨	丘	台	室		
宮	大	武	高	加	柳	柳	柳	高	田	鬼	小	由	幸	長	庭	小園に秋立つ	花	造	黒	洛	月	駅	麦	橘	花	夏	平	ふ	鴨	丘	台	
沢	獄	田	橋	戸	野	野	野	木	場	頭	岩	里	野	久	庭	小園に秋立つ	花	造	黒	洛	月	駅	麦	橘	花	夏	平	ふ	鴨	丘	台	
鉄	智	良	澄	五	柳	柳	柳	木	場	頭	岩	里	野	久	庭	小園に秋立つ	花	造	黒	洛	月	駅	麦	橘	花	夏	平	ふ	鴨	丘	台	
夫	弘	三	爽	郎	榮	榮	榮	義	義	義	義	義	義	義	義	義	義	義	義	義	義	義	義	義	義	義	義	義	義	義	義	義

池 畔松本精三
 彩 園 児玉繁津衣
 左記の作品は十一月十四日まで陳列
 ある部 落戸島光基
 か ん な 福井宗之助
 紫陽花と少女 前田礼子
 畳まれたる石 河田賢三
 廢工 場 利倉群青
 八 仙 花 中村白玲
 ら く だ 有元一雄
 暮 色 野々内良樹
 太海風景 三輪敏夫
 湘南風景 川合貴代
 少年 達 今井守彦
 おんごくの浜 岸田蒼坪
 木の 街 牧野雅彦
 駅ある風景 妹背平三
 冬 線 工 日 横江正義
 電 線 工 事 小川立夫
 冠 堂 修 鶴 西内利夫
 鳳 堂 修 建 河原悦人
 岬 加藤重寿
 湖 畔 樋口辰志
 樹 間 小野踏青
 浦 の 家 小豆沢礼
 淵 の 庭 戸田浩堂
 中 庭 正井和行
 築 地 河 岸 三宅秀雄
 壺 山崎忠明
 海と砂丘 石川景眺
 瀬戸風景 仁志出高福

印度の女 遠山唯一
 禽舎 佐藤晴行
 アコーデオンを
 持つ少女 伊藤 昇
 葡 萄 利倉喜久子
 工 場 白井青淵
 浅 春 今田青宏
 船 今久周祥史
 残雪の内湖 岩本周照
 双 門 内 岡村房柄
 晨 朝 喜井黄羊
 森 朝 芳野宗石
 山 湖 福与悦夫
 樹 湖 佐藤鳳山
 巖 那波多目功一
 丹 波 路 仙田雪山子
 果物の店 太尾 美
 西洋画
 室 内 平野一男
 白い階段 御正 伸
 セロを弾く人 由里 明
 高砂の街角 卓
 魚と舵輪 (依)杉村 惇
 漁船の一隅 江崎寛 友
 河 港 (無)国領経郎
 手をくむ女 (依)金沢秀之助
 ござぼろし 西出外 信
 静 物 (依)伊藤四郎
 緑 物 (依)藤野 經
 静 物 (依)黒田頼 綱
 モ デ ル 桜川洋子
 裸 婦 (審)森田 茂
 田舎の家 山尾 平

長崎風景 (依)納富 進
 村の像 (依)高光一 也
 娘の 舎 盛 国 春
 サンジャ
 ック通り (審)實 西山 真一
 の壁
 長 崎 (依)中村善 策
 消 毒 作 業 浅井政 勝
 印度の女 (依)南 政 善
 チェロ持つ女 伊藤 応久
 サント・シ
 ャベル (依)新保兵 次郎
 峡谷の 秋 清原武 則
 春 日 (依)佐藤一 章
 繫 船 岸 壁 池田 隆
 マリモと少 女 (依)笹 鹿 彪
 牛と農婦 (依)西村 愿定
 橋 畔 高橋規矩治 郎
 シャートル
 の家 (依)山下忠 平
 二 人 (依)西尾善 積
 椅子の上の 供 檜崎重 視
 静物 (依)小 泉 繁
 山近くの村 三好準 治
 八 部 衆 (特)西岡 義一
 大浦天主堂 三輪 孝
 CIRQUE
 (依)阪倉宜 暢
 あ ま 女 寺田静 子
 天主堂 (特)山中清 一郎
 室 内 宮崎 淳
 受 難 (依)笹岡了 一
 卓 上 静 物的 場 勇

新聞を読む (依)山本日子士 良
 男 工 場 木原唯 夫
 巴 里 の 街 角 戸谷賀 一
 室 内 小 林 藤四郎
 建 物 早川二三 郎
 肉 塊 矢野 馨
 夏の午 後 豊岡 稔
 爽やかな港 (無)川端 謹次
 石 仏 手塚義三 郎
 神 将 武永楨 雄
 漁 村 有馬 侃
 大 曲 風 景 境元 資
 工 場 立花久 人
 室 内 福井重 男
 店 頭 海道重 弘
 浴 衣 根岸 敬
 御 仏 手 佐野隆 人
 街 角 坪内正 夫
 山 の 手 風 景 井原智 義
 潮 風 寺島脩 治
 三 面 鏡 高須敬 司
 ダムの有る風景 篠原新 三
 正子十一歳 B 山田鶴左 久
 河 岸 豊 千 里
 夏 池 水野以 文
 台 湾 風 景 楊 啓 東
 鶴舞公園附近 浪打栄 光
 工 場 (無)柴田裕 作
 読 書 細島昇 一
 月 見 草 茂木直 喜
 裸 婦 小林哲 夫
 夜 の 街 青野馬左 奈

入 江 の 青 氏 家 秀之 進
 蝶 な ど 宮 地 茂
 湖 岸 の 砂 利 取 船 久保田保 久
 窓 辺 雑 談 黒沢真 頼
 構 内 風 景 栗原七 三
 初 秋 の 池 畔 東本貞 治
 漁 村 林 博 史
 紡 績 工 場 新井 茂
 から たら ち 大桐秀 光
 べんがら 工場 宗次秀 男
 乗 鞍 へ の 道 牧原万之 助
 草 園 夏 日 今井英 光
 修 理 船 小野瀬 進
 御 神 渡 (祇園祭) 朝井 清
 や も い 船 伊東明 子
 お茶の水附 (依)故織田一 磨
 近 勝 関 橋 の 見 える 中田幾 久治
 風 景
 焼 け あ と 武 藤 完 一
 踊 り 子 (依)前川千 帆
 ステンドグラス (大浦天主堂) 木和村創 尔郎
 ハッ岳に て 山口 進
 裸 女 相 対 (依)永瀬 義郎
 熔 鉱 炉 東 一 雄
 大 岩 不 動 滝 (連 泉田康 治
 作品第五) 峯 守 洞 春
 土 原 (依)棟方志 功
 城 堀 守 洞 春
 越 の 冬 暮 森川喜 夫
 外 房 波 太平山 猛
 創作 木 版 画 (依)勝平得 之

花 武田由平
 こぶしの花 石橋正秋
 滯 船 鈴木信男
 あけほの山倉克己
 いもの工場 原田貞嘉
 聖 衣 相沢光朗
 湖 来 風景 大崎善生
 野 尻 湖 風景 秋山文雄
 姉妹三 (岡田賞) 不破 章
 冬の田圃 青木 烈
 勝 手 口 川 口 竊
 雪の東大寺 森下喜文
 さかなとランブ 斎藤克己
 冬の公園 比家 和夫
 長崎風景 林 正美
 雪 景 万羽 孝康
 漁 港 大橋 皓志
 う ち わ 乾 一 雄
 林 梢 富田 通雄
 観音大士 萩原 実
 陶 房 酒 泉 淳
 鮮 魚 恩田 孝徳
 静 物 (依) 山本 彪一
 病院の見える風 井上 桂一
 裸女たち (依) 荒谷直之介
 長崎風景 田中 君江
 不動の滝 (依) 漆畑 広作
 か げ 前 島 国男
 丘 の 道 佐 藤 進
 婦 人 像 町田 源三郎
 石段のある風景 中岡 恒雄
 銀 座 阿部 広司

少年 (依) 田中 実
 雪の夜の構内 西沢今朝夷
 池の片ほと (依) 宮部 進
 門 矢 沢 功
 平河門 (会・審) 石井 柏亭
 白い橋に寄 (依) 早出 守雄
 雨の 日 池田 正司
 蔵王村の残 (依) 渡辺 義一
 雪 越前堀 風景 島村 宇三郎
 横 浜 風景 難波 栄子
 室内少女 (無) 新井 邦雄
 石切場の昼時 益子 洋
 花と雲 (依) 小堀 進
 盛 夏 (江島) 進 藤 清
 画家の食卓 (依) 上田 哲農
 朝 の 光 堀 英 治
 夕 支 度 (依) 古川 弘
 伊豆山の春 内藤 秀因
 曠 原 (参・審) 三上 知治
 四月の妙高原 長尾 真佐栄
 姉 妹 (審) 河井 清一
 中禅寺の (会・審) 川島 理一郎
 秋 バルコン (参・審) 大久保 作次郎
 女 (審) 中村 琢二
 裸 婦 (参) 長谷川 昇
 読 書 (参・審) 木下 孝則
 つゆの晴 (会・審) 辻 永
 九 間 (会・審) 山下 新太郎
 奈良新緑 (会・審) 山下 新太郎
 マドモアール (参) 鬼頭 鍋三郎
 ゼル L

雪の中禅寺 (依) 小寺 健吉
 湖 白鷺城 (参・審) 小山 敬三
 山 粧 ふ (参・審) 小糸 源太郎
 月のぼる (会・審) 中沢 弘光
 ハンモツ (会・審) 中村 研一
 裸 婦 (参) 寺内 万治郎
 秋晴れの高 (参) 木下 義謙
 遠 演 (依) 池部 鈞
 熱 ベルギーの (依) 福田 新生
 娘 後 (参) 石川 寅治
 雨 秋 (参・審) 斎藤 与里
 晩 静物カラ (参・審) 耳野 卯三郎
 ギューム (依) 有馬 三斗枝
 竜 オリーヴの (依) 深谷 徹
 丘 座 像 三宅 次郎
 凝 視 (依) 柳瀬 俊雄
 フ ク (依) 秋久 多稔士
 樹 小野 彦三郎
 H 神 父 像 山名 武
 船 (岡田賞) 井上 武
 石の宝殿 有岡 正治郎
 縁 先 橋詰 英一郎
 花 土 屋 堀 みさ子
 鳥 (依) 堀田 清治
 今日の日 (依) 光安 浩行
 水田のある風景 兵動 健吾
 丘 の 家 (依) 渡辺 武夫
 窓際の静物 熊岡 まゆみ
 田を耕す (依) 山喜多 二郎太

塔のある風景 大倉 克次
 説 書 (依) 島野 重之
 S夫人 像 北島 精一
 八月の山 (依) 辻 光朗
 花 道 小 又
 休 日 (依) 遠山 清
 自転車置場 田辺 恭一
 頬 ずり (依) 弦田 英太郎
 海 辺 の 村 高橋 道雄
 静 物 (依) 岩井 弥一部
 一隅にて (特) 竹 沢 基
 曇 り 日 板橋 正邦
 林道の秋 (依) 樽松 正利
 ポスター (岡田賞) 矢口 洋
 ぶどうを持 (依) 長屋 勇
 白布のある静物 浅野 新子
 若 葉 (依) 奥瀬 英三
 レイスの服 (審) 田中 繁吉
 座 像 (依) 江藤 哲
 中野 駅 前 黒沢 信男
 栗林 雪 景 山川 忠義
 室内の二人 高橋 政文
 室内婦人像 徳田 良仁
 コニアイラン 高田 武夫
 ドにて
 湖畔のボイ (依) 山田 新一
 トハウスに (依) 山田 新一
 祭 壇 梶 井 春雄
 港 友 (依) 舟木 徳重
 お 友 達 出口 かほる
 ひ と り (依) 買 森田 元子
 一 隅 木下 邦子

漁 港 (依) 朝比奈 文雄
 家 炭 礫 の 町 小林 一雄
 部 屋 隅 (依) 広瀬 功
 雨後の漁港 島 戸 繁
 二つの橋の (依) 高田 誠
 ある風景
 運河端の建物 石河 彦男
 京マチ子さ (依) 高野 三三男
 人 白い椅子 (依) 土佐 林豊夫
 窓 あざみ (依) 長原 坦
 若 蓮 夏 名 渡山 愛順
 蓮 坂田 虎一
 古城の朝 (依) 井手 宣通
 窓 辺 の 静 物 後藤 秋生
 雪 山 (依) 倉員 辰雄
 船 磯 風景 日原 晃
 奥入瀬 (参・審) 佐竹 徳
 姉 グラナダの (審) 田村 一男
 丘 てつせ (参・審) 買 鈴木 千久馬
 ん 阿蘇の根子 (依) 田崎 広助
 岳 盛 夏 島 谷 源夫
 絵を描く (参・審) 中野 和高
 少女 ルノアール (依) 藤本 東一良
 運 茶色の服 (依) 江藤 純平
 風 景 福田 成美

稿のセー
 ターの女
 (依)安宅后雄
 白
 橋海老沢殿夫
 沙見
 (依)和田清
 池畔
 (依)胡桃沢源人
 川べり
 (依)藤巻正憲
 坐像
 (依)村岡平蔵
 小閑
 (岡田賞)塚本張夫
 燈台遠望
 (審)橋原健三
 樹
 間林泰二
 憩い
 (審)伊藤清永
 柿の木のあ
 (依)緒方亮平
 庭
 街
 山之内弘
 西瓜のある
 (依)安達貞太郎
 静物
 (依)高谷重夫
 水辺の家
 (依)渡辺浩三
 朝顔
 (依)松永和夫
 大川
 (依)吉村芳松
 手鏡
 (依)松永和夫
 巴里風景
 (依)桜井悦
 ヌ
 (依)桜井悦
 みなどの朝
 家永三郎
 横隊裸婦
 (依)伊藤三
 日ざかり
 (依)大坪実
 冬の貯水池
 (依)高木春太郎
 裸婦
 (依)石木秀雄
 室
 (依)吹上たか子
 石狩川
 (依)西村喜久子
 古い建物
 (依)中山定男
 赤いブラウ
 (依)菅野矢一
 ス
 (依)菅野矢一
 木馬館
 (依)水野富蔵
 楽屋
 (依)矢島堅土

桐畑
 (依)桜田精一
 家
 青山兵吉
 S座像
 (依)辻村八五郎
 北海道糖平
 (依)関口隆嗣
 湖
 (依)関口隆嗣
 田植えの頃
 瀬田忠司
 マロニエ萌ゆる
 金子千恵子
 ダム工事風景
 中島覚雄
 海女
 (依)小川博史
 朝の日本橋
 (依)瀧江勘二
 二人
 (特)柳沢淑郎
 姉の像
 (依)高宮一栄
 石切場
 (依)吉田民尚
 七面鳥
 (依)大沼静人
 山の牧場
 (依)刑部善道
 雨後の野
 花井善道
 裸婦
 (依)安藤信哉
 踊り子
 (依)菅沼金六
 能
 (依)梶原貫五
 順番を待つ
 秋吉匠
 黒いドレス
 (依)小早川篤四郎
 花籠のある静物
 豊嶋利右衛門
 内苑の森
 戸田定
 金堂
 岡田竹男
 鏡
 (依)上島一司
 爽
 (依)上島一司
 涼鶴
 西寺鉄舟
 雪
 西寺鉄舟
 陶都の工場
 古川治
 来ノ宮の丘
 (依)鈴木良三
 より
 (依)鈴木良三
 魚の静物
 (特)益山英吾
 初雪
 (依)細梅久弥
 雪
 (依)細梅久弥
 学級
 (依)大沼永治

坐せる女
 (依)水上信雄
 崖
 兼行武四郎
 水戸の町堀
 (依)石橋武治
 瀬戸の町堀
 (依)石橋武治
 街人
 (特)宮脇憲三
 夕陽の海
 (依)河上一也
 裸掛けた女
 (依)奥野康春
 腰掛けた女
 (依)庄司栄吉
 ひるさがり
 柏木治子
 四谷風景
 (依)山口猛彦
 調理場
 (特)梅津五郎
 海の静物
 (依)高田正二郎
 裸婦
 (依)高田正二郎
 橋の見える
 (依)岡田又三郎
 鶏
 清原啓一
 丘
 角田耿一
 裸婦
 (依)川村精一郎
 松
 林土井六郎
 晩秋の河畔
 (無)田代順七
 風
 景三上義人
 赤い扇
 (依)山田説義
 初切風景
 (依)中条茂
 波切風景
 (依)中条茂
 商工
 館杉山富夫
 乳
 牛桑原福保
 車と桶など
 玉ノ内満雄
 座像
 (依)小林易夫
 三条河原
 (依)加藤淑子
 樹草茂る
 (依)能勢真美
 ブルータス
 (依)中村新次郎

画
 室浅井光男
 冠鶴
 (無)時田幸彦
 法堂内
 (依)高倉一二
 初秋
 (依)鈴木三五郎
 力
 (無)田原輝夫
 窓ぎ
 (無)田原輝夫
 リボン
 (依)平松利平
 鋼路港暮色
 望月正男
 街
 (無)鶴飼幸雄
 憩う
 母津田克己
 グラスを持つ
 (無)飯田弥生
 朝
 遠山義春
 都市の一隅
 (依)河井達海
 静物
 (依)中山節子
 椅子にかける人
 三津野予
 形
 (依)大津鎮雄
 蕨
 (依)大津鎮雄
 白い船
 岡崎勇次
 ドックを堀る
 川島実
 水のいると
 (依)三尾文夫
 女のいると
 (依)三尾文夫
 穂岐風景
 栗林秀雄
 街
 (依)菅谷邦敏
 岡山の街
 権田直良
 裸婦
 (無)根津莊一
 秋
 (依)青地秀太郎
 早春風景
 今仲英夫
 婦人像
 (依)藤井芳子
 シュミーズの女
 朝関口茂
 教
 会添田定夫

鳥の朝
 (依)久本弘一
 窓
 (依)伊藤館一
 或る科学者
 (依)真下慶治
 画室にて
 (依)梶重雄
 水鳥
 (依)幸重雄
 水族館
 (依)幸重雄
 トルソを背に
 丸野豊司
 日除のある建物
 手塚忠一
 七面鳥
 (無)高島常雄
 浴後
 (依)平通武男
 六波羅蜜寺
 岩田順三
 サンクール
 (依)樋口一郎
 松王丸
 (依)樋口一郎
 山吹く
 (特)松本富太郎
 笛吹く
 (特)松本富太郎
 牛と鶏
 (特)松本富太郎
 工場地帯
 内山孝
 禪寺の庭
 細川浩
 裸婦
 富山芳男
 坐像
 山本仁朗
 水禽
 舎長岡富子
 池
 北川三
 木の道
 菱川長次郎
 牛
 平光軍一
 風のある家
 和田昌郎
 葛のある家
 和田昌郎
 室
 (依)伊藤朝子
 恵美子さんの像
 L.H.G.A.G
 黒卓の静物
 丸山豊一
 貨車
 (依)藤孝一
 青熊井
 魚市場
 (依)大島勲

函館風景	娘鏡	作	緑	花	画	小	金	雪	午	粧	秋	川	午	古	風	造	庭	室	建	霧	門	建	ス	鳥	山	お	街	高	景	ガ			
森桂一	末原晴人	西川高次	中山忠彦	花輪明美	室島村剛生	憩岡喜八郎	隅宮崎集	後の丘片山健吉	後の庭小合保一郎	色の松本邦博	暮岸丸珠枝	川岸丸珠枝	午杉浦温子	古い木目松山春秋	風景岡田陸夫	造船所の見える岡田陸夫	庭橋本直敏	室内藤田義雄	建物鈴木文雄	霧り降り高原灰野文一郎	門早田嘉之	建高田博	ス三好和雄	鳥籠のあるテラス三好和雄	山間の駅(谷峨)吉崎道治	お茶堂寺坂行雄	街川口栄	高台雪景村上鉄太郎	景さつまどり横山宝蔵	ガードのある風景谷淵正			
街	入江の街	二人の裸婦	静の女	山の羊美和隆治	夏女	造船所風景	少女と朝顔	波室の女	おにあざみ	北の原雪景	横浜	鷗ミヤコ	網(利尻島)	山村の雪景	内海の島と工場	発送近し	神戸晩春	朝かけ	黒い椅子	小女、ストロウヰ	イ	室	ス	街	馬	提	馬	街	馬	街			
岡本順之	梶谷寿美子	等々力巳吉	藤原成一	老根桂二	女	千原成一	小池鉄太郎	新延輝雄	山田キミ	加藤五郎	藤谷光磨	原田博介	依渡辺祐一郎	西川信一	松野輝彦	中畑紳人	岩下三四	金子仁三郎	川口雄男	内岩月光金	内岩月光金	内岩月光金	豊原政枝	豊原政枝	豊原政枝	豊原政枝	豊原政枝	豊原政枝	豊原政枝	豊原政枝			
工場風景	午後の細雨	鮭店	陽信濃川の夕	室	土器静物	部屋の一隅	裸休	少	或る日の父	兼六園海石塔	登	稽	作北の農家	裸婦	石膏のある室内	窓辺の母子	モルモット	原の構想	ベテカリ雪	入江の雨日	水辺の鹿	物	ランブなどの静	物	物	物	物	物	物	物	物		
小牧盛行	藤川光治	白石隆一	橋本花	内波多野光臣	依野司郎	和田香苗	万羽章	女	松崎喜美	喜多善三郎	水野一好	古吉田富美	坂手得二	大島士一	筒井広道	長見昭夫	上野山清貢	村田省蔵	東海林広	藤野嘉市	藤野嘉市	藤野嘉市	藤野嘉市	藤野嘉市	藤野嘉市	藤野嘉市	藤野嘉市	藤野嘉市	藤野嘉市	藤野嘉市	藤野嘉市		
郊	山	老	緑	新開地風景	午後の湖	京都の路地	木かげにて	乾	溶	工	黒いきもの	け	立	六朝の馬	R	真鶴驟雨	佃島	雨後の十和	少	貝	中津溪流	出	食	茶をつくる村	黒いブラウスの	爽	爽	爽	爽	爽	爽	爽	
外有富茂	内海太吉	山下繁雄	星野正三	松本久男	足立真一郎	空周嘉一郎	依角野判治郎	依鶴田吾郎	依長井功	依北八代	依白川一	依川原三千古	依高橋庸男	依滝川太朗	依福田義之助	依妹尾寿信	依里見明正	依番藤坂太郎	依春若光佐	依金子正	依鳥居昇	依江原全秀	依清水敦次郎	依清水敦次郎	依清水敦次郎	依清水敦次郎	依清水敦次郎	依清水敦次郎	依清水敦次郎	依清水敦次郎	依清水敦次郎	依清水敦次郎	
曹源寺にて	窓	鯉	夢	龜崎の町	近所の花家にて	F君の像	海辺の丘	足場のある家	魚の店	温	多治見の丘	古	室	青	木	河	水	雞	グラチオラス	木	雨	庭	師	引	緑	高	暮	眸	眸	眸	眸	眸	眸
奥田一朗	橋本正躬	盛忠七	松浦莫章	戸塚孝三郎	山本吉雄	大原省三	宇野千里	東成田浩子	高橋和子	西尾為一	渡辺一美	久米小夜子	坂田憲雄	山本義次	相川昭二	福永正雄	杉本貞一	毛利一就	鈴木隆	太田美代子	坂口義幸	片山昭博	林記久子	藤彦衛門	矢野雄蔵	依堀忠義	依堀忠義	依堀忠義	依堀忠義	依堀忠義	依堀忠義		

静 少女の部屋 柳田 久
 画室の一隅 古屋 浩蔵
 サンドレスの女 伊藤 健治
 H 子 像 大道 健治
 楽屋の二人 根岸 秀雄
 室の 内 佐々木 真夫
 雪の 馬 伊藤 正
 アトリエ 静 多和 薫
 瀬戸 風景 小川 武雄
 山 羊 (特) 奈良岡 正夫
 港の貯炭場 米田 重博
 神田 風景 筒井 博
 庭 多比良 久人
 陶工 大井 良知
 古風な椅子のあ 近藤 喜義
 る静物
 秋 色 石村 圭子
 木 立 池田 功
 八月の海辺 境 保博
 瀬戸の風景 武蔵原 鐘二
 I 駅 周 樋口 善一
 裏 庭 有元 康道
 三人の海女 平沢 定人
 船と 網 山口 武
 路 地 裏 葦名 芳夫
 工 場 横山 好
 暮 色 西田 亨
 河 岸 風景 三上 浩
 工 場 青井 幸雄
 雪 の 街 佐々木 隆夫
 う つ ぎ 齋藤 二男
 道 子 像 (特) 泉 治彦
 丸山ダム取水口 八代 武夫

太陽の季節 二重作 竜夫
 静 物 星野 篤之助
 裸 婦 千名 恒
 たそがれ 内波 脩一郎
 百日紅(成田) 大橋 清
 風 景 沼本 清
 M 製煉所 石塚 三郎
 早 春 渡辺 良雄
 窓 辺 佐々木 福基
 雪 後 秋元 松子
 流 中谷 健次
 旧聖アンデレ教 三 樹 保
 会 小泉 政孝
 漁 村 野沢 寛
 陶工の家 沼倉 正見
 花束持つK子の 像 沼倉 正見
 湖畔の村 山上 文
 赤 衣 加藤 久幹
 荷 役 反町 博彦
 水 辺 の 家 坂本 正
 静 物 森 昌 俊
 ネタ場(材料置 場) 石川 甚栄
 雪の山村 矢田 清四郎
 ランプのある部 石原 梅男
 S 子の像 宮原 鹿蔵
 島の精銅所 大槻 達二
 麻生風景(霞ヶ 浦) 大滝 斗良樹
 こともたち 坂元 一男
 デパートの駅 山口 草城
 静 物 竹本 保

平家の家(五ヶ 山) 森 清彦
 新緑の酒蔵 佐藤 繁雄
 二人の像 円地 信二
 山 畑 えの道 加藤 水城
 今右衛門工房 田中 太郎
 工 場 梶 悦次
 ひととき 小 山 宇司
 ポプラのある家 片山 秀志
 梳毛紡績トツ 杉山 元輝
 工場 森 正一
 南国の港 林 男
 土 蔵 野 林 男
 招待客 河野 磐
 横顔(画室のM 嬢) 尾崎 正章
 白 い 街 藤原 昭三
 能 穴 焼 窯 堀内 孝恵
 朝 涼 黒田 尚文
 ドームの見える 風景 青木 春見
 町 は ず れ 松本 恵行
 静 物 青木 純子
 石燈籠の見える 川 辺 外治
 初 秋 の 女 山本 茂一郎
 春 禽 越智 旭輝
 初秋の飛驒馬瀬 淡谷 三
 ゆかたの女 仲町 謙吉
 落葉 磯野 常雄
 白い橋のある水 門 八木 茂雄
 室 内 稲留 哲子
 子供たち 三井 滋雄
 婦人座像 松居 均

室内 内 牧田 敏子
 窓 辺 宮島 武男
 風景 斎藤 広樹
 方 景 野 正樹
 裸 婦 天野 文作
 聖母像の立つ岡 石野 安親
 二人の道化 石原 政之
 朝の映画館 中山 鎗三郎
 数寄屋橋附近 松本 正人
 本を観る人 中山 義憲
 明 スカートの 石崎 五郎
 赤いスカート 松尾 正己
 水 棚 辺 北川 威夫
 本棚の前 高 光 寂
 ユニットの 鳥取 和子
 蔵と唐 渡 辺 稔
 室 内 佐野 智子
 北 国 の 港 久山 章
 町の小島屋 居 関 金一
 島の造船所 青木 広光
 漁 港 に て 松宮 昂
 輛 藤井 軍三郎
 母 と 子 神戸 文子
 山城の古寺 吉田 光慶
 画 室 山 川 利夫
 競 技 の 前 井上 正勝
 裸 婦 森谷 重夫
 壺 台 の 前 工藤 靖彦
 画 室 に て 熊野 礼夫
 晩 秋 千葉 精三
 海 辺 の 老 梅 平 喜雄
 曇り日の山手風 景 小池 喜雄
 風 景 河本 一男

水 辺 安藤 隆郎
 楽器持つ青年 島田 四郎
 美術館窓外 出口 清一
 三月室内(岡田賞) 松田 忠一
 陣 荒井 邦朝
 灯とる 奥田 憲三
 肉屋の調理台 樋口 治平
 風 景 桃井 耕一
 猫のいる静物 鶴田 重郎
 農家の庭 福島 隆寿
 風 景 福島 隆寿
 小 船 渠 風景 篠原 薫
 静物 古賀 文子
 入海の港 梅谷 彰義
 の り 舟 佐川 忠金
 漁 港 滝 川 清
 裸 婦 稲垣 久治
 ポ プ ラ 岡本 肇
 南 座 小島 清雄
 庭 中島 音次郎
 窓 辺 大木 茂
 む す め 園山 省兵
 三四郎 池 吉野 谷幸重
 木のある風景 小周 政男
 湖北の冬 山口 信太郎
 黒 い 服 山 口 信太郎
 花 の 店 岡本 由郎
 滞 船 新庄 拳吾
 庭 先 藤森 兼明
 雪 の 街 大森 兼明
 石 切 景 宇野 博

樹 間 伊木市郎
庭 奥森太可志
農 齋藤弥平
柿の木と小屋 飛田昭喬
縞 三田村築
少女三人 橋本百合子
厨 山下令郎
漁 村森新市
室 内 菊田俊次郎
出漁のあと 齋藤俊雄
外房風景 内山又輔
溪 流水 清水昌一
静 物 井上 和
作業場の斜光 早川孝佳
肉 屋 加藤孝造
港 江口 明
(朝) 映画街の横通り 関口初太郎
神田風景 三浦俊輔
海への道 大桃 寛
婦人像 氷室幸吉
水道橋附近 神尾俊一郎
室 内 三島利正
大仏殿の裏 中川計子
宝淵の巖 長谷川竜甫
山麓の冬 飛塚安吉
植物園にて 森 尚子
秋の校庭 善浪 迪
植物園にて 小村平八
映る倉庫 野崎兼俊
巖 兒子満志
道 ガスタンクへの 川村嘉久
神 戸 風景 吉田道良

晩 路 春 広政みどり
姫 城 小野 勉
土浦風景 内野次郎
寝ている裸婦 許長 貴
門の目ざし 田中祐一
戒壇院広目天 岡本 務
築 地 松板倉幸昌
築 地 早川一郎
合掌造りの家 塩原文二
室 内 関 真
鑑戸のある建物 村瀬 徹
路 地 裏 八景正義
川のある風景 三橋節子
ひなげしと鶏 半田圭治
画 室 森田芳治
座 像 寺島竜一
浅草の街角 竹留一夫
高架駅の入口 田中良尊
室 内 安藤博子
鶴 見 川 岩館知義
静 物 大野昌男
室 内 野生司行正
造船場風景 金山慶子
庭 景 浜口佐蔵
晩 春 竹内梶夫
閑 日 山口 勝
園 山 口 裕夫
晩 秋 富田裕夫
画 室 寺坂公雄
池畔晩秋 樽見盛衛
吾妻の五月 田中稲三
廃虚の建物 渡辺晴巴
練 習 畑 勇隆
伊豆熱川風景 本多正勝

三 人 進 来 哲
黄 須崎風景 村松茂男
つぼのある静物 吉田義英
夏朝室内 中野 恒
ギターをひく男 金田新治郎
東 大 寺 留岡 彬
南 紀 の 丘 藤原昇一
初 秋 の 頃 花田忠吾
ガソリン工場全景 堀 太郎
裏 街 熊沢 欽三
憩 谷 内 尚文
爽 秋 梶田英一
齒科治療室 矢野太郎
運 河 畔 風野信雄
鶏 舍 梶田 鎌市
田 家 秋 木村八郎
ドラム罐のある風景 水野友行
風 景 河 相 優
家 内 座 像 大河内幸俊
室 内 佐久間ダム 磯村敏雄
父 像 石井 実
街 初 秋 中西 学
初 都へ行く道 長谷川 進
陶 場 展 望 野 平 上
工 場 展 望 野 平 上
港 都 展 望 野 平 上
川のある裏街 滝川武雄
川のある裏街 滝川武雄
風 景 錦 織 保久
開港記念館 氏田喜八郎
雪 景 大村 浄一
午 後 川口四郎

ガソリンスタン 佐守達雄
下 工 場 西 洋 雄
麿 工 場 高 野 清二
対 岸 秋 元 清弘
海 目 溪 流 山 本 道 乘
赤 目 溪 流 山 本 道 乘
早 上 の 静 物 河 野 文 男
床 上 の 静 物 河 野 文 男
風 上 の 静 物 河 野 文 男
晴 日 香 取 晋 德
裸 婦 大 附 晋 德
画 架 と 小 谷 薰
鶏 舍 初 鹿 野 玲子
静 物 柏 原 陽子
長 崎 の 丘 西 野 芳 丸
少 女 像 小 野 政 吉
こ かげ (参) 北村正信
輪 廻 し を す (依) 水船六洲
追 想 (依) 宮地寅彦
少年の首 (依) 安田周三郎
雲 の 首 (依) 靱山三毅
女 の 首 (依) 吉田 晓 禾
薰 華 (参) 後藤清一
一 九 五 六 年 作 品 第 二 十 (依) 安永良徳
仲 次 代 (参) 審 古 賀 忠 雄
青 年 (参) 審 古 賀 忠 雄
祈 り (参) 審 堀 進 二
鹿 氏 像 (依) 杉浦藤太郎
M 氏 像 (依) 杉浦藤太郎
女 帝 野 牛 (依) 野々村一男
(試作)

ユースティスの 富岡 泰
首 鳥 (無特) 伊藤芳雄
駝 女 献 糜 (依) 大内青圃
琢 像 (依) 太田良平
憩 像 (依) 中野 五一
座 像 (依) 倉持 芳
朝 像 (依) 柳 沼 曹 雲
一 九 五 六 (参) 審 堀 江 嘉 純
軽 羅 (依) 羽 下 修 三
か が み (依) 円 鏝 勝 二
魚 行 如 魚 (依) 小笠原貞弘
立 女 (依) 服部仁郎
女 子 (依) 杉本宗一
夏 女 (依) 杉本宗一
疲 れた 男 成富保武
坐 せる 女 齊藤吉郎
伏 見 社 長 胸 (依) 小倉右一郎
裸 像 婦 金子直裕
船 倉 鳥 の 女 池 上 舜
女 子 像 上 条 俊 介
い づ み 石 田 清
野 に 生 きて (依) 山根八春
裸 婦 (依) 矢野判三
或るボーイズ 霜田大次郎
少 年 立 像 丸 山 芹 司 朗
仰 瞻 渡 部 星 村
把 握 久 岡 秋 夫
む す め 山 脇 正 邦
八 等 身 長 田 平 次
若 い 女 水 野 桂
初 光 小笠原安兵衛

立 膝 飛岡文一
花をもつ女 米林勝二
青年 譜林 勘五郎
高 尾形喜代治
デイスコポロ 古開伊喜蔵
秋 山崎正義
女性立像 中荃久男
鏡 山脇正司
心 清水礼四郎
裸 佐々木日出雄
青年 山家初枝
追憶 陶山定人
青 藤沢古実
舞踊構想 S 田村審火
裸 丸松谷謙司
砲 丸宮尾応栄
水泳選手 (依)中野素昂
若い人 木内礼智
風 児島正典
南 華村岡久作
清 立(無特)佐藤助雄
流 依(依)分部順治
恵 雨 (依)中野桂樹
連 審(審)山畑阿利一
想 依(依)長谷川塊記
踊り子(特)買高橋剛
現 成(參)橋本朝秀
空 港(特)阿部正基
冥 想(參)藤野舜正
黎 明(明)坂口晴風
暁 闇の涯 (依)木村珪二
巖に立つ (參)松田尚之
腰かけた女 (審)木島正夫

あこがれ(審)宮本光庸
青年像(會)審朝倉文夫
女の首 池田秀雄
畏レル女 (無)羽紫小枝子
牛 福井庸賢
光 中西弘馨
は に わ堤達男
T子の像 後藤俊太郎
夕 焼 大塚真須美
美術展にて (依)森野円象
立 像 岸崎夜光
海 (依)三国慶一
潮 風 矢野秀徳
寧かなれ (特)小田寛一
裸 婦 (依)古川順三
ふた 堀江 赴
働く人 (特)原田新八郎
友愛清清 (依)岡本錦明
大 青年の立像 藤川 基
更衣の女 (依)佐藤静司
脈 動市之瀬広太
青 年 橋本次郎
若 人 (無)長嶺武四郎
あきこ 中村喜平
ボーイズする女 坂手 謙
明 星 笹野恵三
立 女 鈴木利一
黒 潮 神野義衛
裸 婦 立 像 名久井十九三
深 秋 中村博直
淳 (じゆん) 三坂耿一郎
青 年 松本久昭

群像(浮彫) 永原 広
カ、五、六 藤本美弘
九、子 山脇敏男
母 子 像 南庄作
裸 婦 立 像 横山文夫
選 手 板橋一歩
な 加 藤 潮 光
感 動 渡 辺 弘 行
腰かけた裸 依(依)渡辺弘行
女 性 石田康夫
青 年 像 荒木文夫
母 子 像 石塚輝雄
朝 婦 西田 秀
裸 婦 大桐 国 光
トルソ 田 中 昭
高層雲の下で 潮田 皓 哉
想 志 橋本 昭 子
園 志 山口伊之助
裸 女 立 像 真海徳太郎
少 女 像 鈴木仁亮
伸 展 高 藤 鎮 夫
防 災 花 田 一 男
鉄 植 投 (特)難波孫次郎
青 年 諷 訪 与 里 於
砂 丘 伊 奈 重 孝
裸 婦 稲 垣 勝 美
華 後 藤 白 童
丘 エテユード 斎 藤 二 郎
大 (Eande) 手 塚 又 四 郎
裸 婦 地 今 川 良 雄
腰かけた女 (無)片山義郎

大 おん 地 水野博史
裸 婦 第一 渡 辺 徹
愁 林 和 宏
朝 清 水 源 可
清 風 西 島 義 孝
芽 生 小 島 義 孝
浴 後 宮 崎 辰 兒
粧 ひ 伊 藤 鉦 次
裸 婦 龜 貝 保
山 地 の 男 戸 張 幸 男
裸 婦 向 山 峽 路
吾 が 世 代 北 条 明 義
ボーイズする女 大 木 祥 作
立 女 星 野 宜
触 角 今 城 国 忠
爽 Hのボーイズ 遠 藤 松 吉
わ か も の 横 山 五 郎
黎 明 末 松 多 寿 子
校 庭 田 村 巖
潮 (依)矩 幸 成
爽 第十の女 (依)長谷川義起
清 沢 大 村 政 夫
ボーイズする女 谷 口 百 馬
裸 婦 坐 像 石 原 昂
高 Kさんの裸 原 中 村 青 田
若 い 女 (無)特)小 森 邦 夫
岩 場 熊 谷 幸 太 郎
二十 二 の 女 杉 村 尚

腰かけた人 広井吉之助
白夜の夢 (依)和田金剛
首 長谷川和幸
爽 風 (依)綿引司郎
腰かけた裸 (無)池辺瑠璃子
女 依(依)富永朝堂
三 神 (依)池田勇八
七 夕 (依)池田勇八
犬 依(依)一色五郎
読 書 (依)後藤寿雄
放 須 藤 力 二 郎
山 羊 辻 四 郎
母 子 像 吉 野 康 彦
舞踊鳥の (會)審)北村西望
母 親 (會)審)伊藤五百亀
県 河 (依)北村治禧
雅 歌 (依)北村治禧
黄泉のしこ (參)沢田政広
裸 婦 立 (無)特)買高橋剛
阿蘇に登る (依)赤堀信平
春 日 野 太 田 昭 夫
秋 の 作 吉 田 鎮 雄
立 っ て いる 女 溝 口 寛
少 年 長 江 録 弥
裸 婦 (依)黒田嘉治
若 い 人 (特)平野敬吉
思 い 出 の 町 仏 子 泰 夫
旁 婦 立 像 山 本 民 二
海 女 阪 本 良 武
若 い 女 阪 本 良 武
裸 婦 立 像 橋 本 堅 太 郎

静 思 野々垣 幹雄
 月 の 出 長谷川 昂
 栗 の 実 竹内 不忘
 女 の 像 緒方 敏雄
 裸 の 婦 日下 寛治
 男 の 像 小柳 栄二郎
 裸 の 女 中村 宏
 女 標 (依) 中川 清
 青 年 松野 伍秀
 希 望 山口 直邦
 ひ め ゆ り 中村 晋也
 海 辺 佐藤 義信
 黒 耀 内堀 功
 若 い 裸 像 宮本 隆
 立 女 立川 義明
 清 澄 三枝 惣太郎
 勤 く 人 花里 連城
 想 片岡 静観
 影 慕 古川 武治
 思 得 能 節朗
 若 い ひと (依) 久原 濤三
 黙 想 草野 睿三
 時 女 柴田 佳石
 腰 かけ た 女 小川 由加里
 悠 遠 永井 浩
 うすい 服を きた 斎藤 高德
 女 齋 藤 高徳
 競 技 前 北地 莞尔
 グ リ ー ン 松田 喜三郎
 女 (会・審) 吉田 三郎
 湖 (会・審) 国方 林三
 裸 女 (参) 志田 達三
 四十代 の 首 志田 達三
 牛之 親子 (依) 岩田 千虎

Y 子 宮島 嘉子
 秋 小池 藤雄
 自 刻 像 志賀 修一
 鍛 鍊 の 道 中垣 秀吉
 女 子 像 (依) 毛利 教武
 若 い 女 (依) 朝倉 馨子
 出 美 (参・審) 佐々木 大樹
 婦 路 村田 竜正
 女 (依) 長沼 孝三
 裸 婦 (依) 木下 繁
 青年 の 像 (依) 山本 雅彦
 座 裸 婦 (依) 大須 賀力
 若 い 女 (依) 畠 村直久
 新 し き 十 字 (参) 加藤 顕清
 架 庄内 の 少女 (参) 吉田 久継
 白 衣 の M 氏 (依) 森 山朝光
 像 トルソー (依) 進藤 武松
 裸 婦 (参) 清水 多嘉示
 黎 明 立川 金禄
 直 立 (依) 瀬戸 団治
 え ぞ 鹿 大島 駒蔵
 直 珠 の 首 飾 (依) 富永 直樹
 光 昏 三木 貞夫
 女 矢 田 常和
 T 氏 像 (依) 昼間 弘
 師 女 (会・審) 藤井 浩佑
 七十 近 し (会・審) 斎藤 知雄
 喜 多 小 長 世 師
 能 姿 小 鏡 治 (依) 後藤 良
 前 シ テ 健 人 (参) 雨宮 治郎
 健 人 (参) 雨宮 治郎
 美術 工 藝 鳥 高木 晃

漆 壁 面 装 飾 都 会 (依・買) 高橋 節郎
 に だ っ て (依・買) 高橋 節郎
 は あり (依・買) 高橋 節郎
 花 器 焼 締 川波 太一郎
 鑄 金 花 器 (双) 木村 庄太郎
 魚 器 (北斗賞) 中里 忠夫
 麦 秋 五味 文郎
 風 寒 し (北斗賞) 大極 年郎
 「青 釉 花器」 器 大橋 桃之輔
 花 器 大橋 桃之輔
 鍛 鉄 象 嵌 文 花 瓶 井尾 敏雄
 線 釉 花 器 前田 五雲
 貝 文 花 瓶 大津 健
 「惑 星 と 遊 ぶ」 壺 田沼 起八部
 緑 釉 葉 文 花 瓶 川上 徹
 萌 生 (無・特) 岩田 久利
 壺 「神話」 藤平 正文
 花 瓶 小森 十九
 人 形 希 望 信田 躍子
 牛 頭 壺 鈴木 貫尔
 花 器 (北斗賞) 吉賀 寿男
 草 文 の 花 器 松本 為佐 祝
 青 銅 花 瓶 (依) 松崎 福三郎
 陶 叩 三 (北斗賞) 中里 忠夫
 器 花 (北斗賞) 中里 忠夫
 魚 文 壺 滝 一夫
 「百 子 同 室」 野口 園生
 「狸」 置 物 田中 勇
 鉄 骨 の 街 滝川 鉦一
 螺 鈿 飾 宮 金江 宗観
 壺 (打込) 象 嵌 松原 春男

牧 歌 (特) 飯田 美郎
 緑 釉 花 器 桶谷 定一
 姫 石 楠 花 彫 金 花 三村 昌弘
 花 生 踊 (特) 山本 正年
 切 嵌 象 嵌 葉 (北斗賞) 寺本 美茂
 文 花 瓶 (北斗賞) 寺本 美茂
 ク リ ス タ ル プ レ 各 務 満
 ン 花 器 各 務 満
 春 陽 花 瓶 (特) 河合 喜燕
 黄 瀬 戸 釉 花 瓶 白井 守久
 仔 馬 龜倉 康之
 白 磁 花 瓶 (番) 井上 良齐
 光 の 交 錯 花 器 山沢 義輔
 無 釉 花 瓶 長倉 三朗
 粉 引 手 花 器 水野 双鶴
 鍛 鉄 野 猪 山 下 恒雄
 陶 「ふくろ」 城下 久実
 太 陽 神 エ リ オス (建築) (特) 辻 光典
 内 部 装 飾 (特) 辻 光典
 或 る ミ ュ ー ジ ャ ッ ク (特・会) 岩田 藤七
 シ ョ ウ 志 野 釉 花 器 竹内 蘭山
 染 付 (群 像) 壺 青木 稔雄
 花 器 (特) 坂辰 治
 球 器 (特) 坂辰 治
 竹 花 器 (北斗賞) 生野 祥雲 斎
 怒 濤 (北斗賞) 生野 祥雲 斎
 線 模 様 花 瓶 谷口 良三
 ユ ニ ッ ト 花 (特) 槻尾 宗一
 器 ユ ニ ッ ト 花 (特) 槻尾 宗一
 妬 肌 鳥 壺 (依) 内田 邦夫
 漆 花 生 (月 牙) 東端 真筈

天 藍 印 花 花 (依) 叶 光夫
 瓶 和 文 花 器 清水 洋
 白 晶 瓷 花 壺 武岡 信夫
 鉄 花 器 折原 久左衛門
 人 「集い」 スクリー 安達 勝二
 パ ネ ル 「追憶」 小田原 俊雄
 ド ア ー (参・審) 山崎 寛太郎
 「極 光」 二 枚 (特) 寺井 直次
 折 屏 風 (特) 寺井 直次
 ち ぜ ん ま (特) 春日 井秀雄
 い ぶ ど う 重光 祥子
 屏 風 (北斗賞) 吉田 左源二
 「花」 器 (北斗賞) 中村 光哉
 染 器 (北斗賞) 中村 光哉
 毳 藻 へ の 幻 想 勝 正 弘
 魚 (壁 面 装 飾) 木下 純寛
 染 屏 風 「木 場」 青木 滋芳
 プ ラ ミ ネ に 行 く 三輪 智一
 道 染 屏 風 室 内 北嶋 公惠
 残 照 黒 田 暢
 か ん な 中島 むつ美
 染 四 枚 折 屏 風 (無) 成竹 登茂 男
 風 「窓」 (依) 成竹 登茂 男
 押 出、 壁 懸 (依) 信田 洋
 壺 冠 (依) 信田 洋
 童 心 戲 笛 (依) 野口 光彦
 小 屏 風 (参) 福沢 健一
 緑 釉 壺 栗木 枝茶 夫
 泰 山 木 飾 宮 (依) 河合 秀甫

白磁花瓶 県多須良
八稜口釜 (依)根来実三
花文線描時 (依)三田村自芳
繪乾漆盛器
銅銅花瓶 (依)北原三佳
乾漆彩紅水 (依)中川哲哉
陶籠郷愁 (依)河村喜太郎
泥亀譜花器 (依)丸山不忘
銅銀四分一 (依)小川友衛
切嵌花瓶
野草文壺 久保駒太郎
野銅花瓶 米納三泰
登流彫金置 (依)平松宏春
物
春香飾皿 (無)宮下善寿
草花文飾瓶 (依)鴨幸太郎
白銅木鬼花 (審)長野埜志
朝 (壺) (依)浅見隆三
つづみ (無)川上南甫
萌 月久保英雄
金彩鳥 (審)山脇洋二
銅銅花器 (依)原直樹
黒銅彫金花 (依)小川英鳳
器
伊羅保動静花器 小川欣二
青い花挿鳥 政雄
白瓷桃文花 (依)岡本為治
陶花器 中里重利
銅金軍鶏置物 辻 菊介
銅銅花器 平井 昇
花 器 谷口祥八
青銅壺(芽) 神高義隆
濃彩百合文 (依)伊東翠壺
花瓶

塩菜長方形 (依)森野嘉光
花器
瑪瑙八角箱 相原正夫
青銅双禽花 (依)会田富康
器
刺繡きもの (依)平野利太郎
スクリーン幻想 染川鉄之助
竹連鎖(北斗賞) 林尚月齋
文屏風(北斗賞) 森 俊三
林 色屏風石庭 鶴飼 菁
衝 立 飯塚小玕齋
漆スクリーン雪 中野謙二
園
軌流(壁面照明) 浅見 薫
裝飾
漆透彫衝立木魂 中村弘子
陶 板 加藤元男
彩条花器 宮地幸彦
広間の花器 (依)芳武茂介
銀 瓶 鈴木幸平
砂張「春」花器 山崎 宏
銅銅花器 安田繁成
青銅スクリ (依)蓮田脩吾郎
イン
トグラスタルカッ
クリラスによる 吉田丈夫
置物花の構成
殿憲指湯文花瓶 寺池旬妹
青 想 (無)帖佐美行
『鉄と大理石に
よるアンサンブ
ル』花器 新山多々志
長 光 (審)伊東陶山
燈籠花挿 (依)安原喜明
鳥文花器 (依)海野建夫

払 市橋敏雄
粒 生 (參)楠部弥式
岬 神成 澤
瑪瑙香炉 宅周正一
女鸞騎馬群 (參)清水六兵衛
像壺
花 器 小林文一
青銅置物「遊牛」 麻生三郎
結 集 清水正次
緑釉線条花器 熊本喜一
花 器 加藤光昭
ある公共建築の
ホールへの花器
燵炉裝飾として
の陶板S市新市
庁舎の為に
漆パネルスポ
ツの森
蠟染サギ屏風 山本木平
孔雀パネル 岸田宗三郎
尾長 保
紅蜀葵小屏風 鈴木雅也
碧い夜(漆面衝
立) 稲塚芳朗
型染屏風「鋤く
人」 中堂憲一
漆器飾棚花文様 藤沢淳二
彫漆小屏風 彼谷芳水
漆 飾 棚 横山玉抱
漆花小屏風 板谷光治
花鳥扇面二 (依)北出塔次郎
折屏風
棚 百塚正也
彫漆風呂先夜光 加茂辰蔵
日本の民家染屏 皆川泰蔵

線の構成の図 (徳立) 島田文雄
水 鳥 来野月乙
瀬戸の潮堀 友三郎
静 日 高野千之
彫漆「残照」 音丸 淳
小屏風朱と黒 後藤義雄
麦 秋 高山 誠
線のある平 (依)豊田勝秋
壺 截金隅屏風「山
湖」 駒井直堂
七宝電気スタン
ド 会田裕宣
青銅象嵌花瓶 金森栄一
白彩流線文花瓶 松原保広
にらみつこ 綿貫前春
花 器 樹 横倉嘉山
七宝焼花器 太田良治郎
鉄の花器 越智健三
まんぼ 石川義夫
紅葉小屏風 河合久仁雄
鉄透し葉文風呂 牧田久義
先 雙 魚 (依)渡辺紫鳳
線巻文壺 川上正三郎
『錦葉文』文庫 三田村秀雄
セビヤ手付扇壺 林 茂松
青銅水盤 高木幾望
吸坂鶯花瓶 松本佐吉
漆初夏ノ朝手宮 川端三義
竹小屏風 小菅小竹堂
魚文花瓶 城戸夏男
花 指 し 山本 卓

染付花瓶(けい) 松風栄一
と) 燵 変花器 中村雅臣
置物(黄昏) 小川正波
彫漆ホトト 影漆ホトト
ギス草色紙 (依)音丸耕堂
箱
飾皿山岳雪溪図 勝尾青竜洞
線文花瓶 壺 永沢永信
二枚折屏風 花 山浦 等
萬蒲
条紋漆 宮 田伏生石
涼 (依)平田郷陽
黄銅豹置物 (依)八井孝二
河畔米福屏 風 (依)小松芳光
壺 加藤滝川
銅黒い蟹花 中島保美
瓶
形象 壺 新山 栄
ほし柿蒔絵宮 関谷浩二
麻之図花器 中島 実
はなさし 田所茂男
盛 器 (依)六角穎雄
西瓜の花器 加藤庄造
彫金栗風置物 小林美春
青銅飛天文 (依)丸谷端堂
花器
色 絵 花 器 武腰善太郎
鱗 花 瓶 中村彦一
赤 い 櫛 鈴 木 賢一
渦紋傾黄釉花器 浅蔵五十吉
鍛鉄「みづく」 那賀清彦
内海のトト 力丸卓二
の ど か 宮田修平
浴 泉 (依)山形駒太郎

台風 三題 山本直久
海芋小屏風 純木陸二
漆器小屏風群 村田吉生
白い花の三曲 張周麻佐緒
沈金手法松隅小
屏風 角野岩次
深秋葛縷屏風 芳浦美好
騒音漆パネル 今雪皓
緑 陰 小幡富恵
花瓶「海」 山本 曠
板金迦陵頻 (依)中野恵祥
迦陵頻 (依)吉田醇一郎
彩漆文球 (参)吉田醇一郎
ウイスキー (依)佐藤潤四郎
セツト
モザイク飾 (依)板谷梅樹
皿 丘片桐 信
硝子木の葉文様 青野武市
花瓶 刺繡 酒井栄一
水門之図 刺繡 酒井栄一
二曲屏風
漆「壺」(北斗賞)河合匡造
棚 スクリーン夜空 小松暁一
漆葱の花と蝶ス クリーン 坂根 博
彫漆「樹幹」屏風 常盤木隆正
鳥 舎 長沼豊子
渦の階段衝立 大場松魚
かんむりづる 大井見太郎
葛縷臥竜松 (依)小合友之助
語ら い 中明良一
「階段」染色屏風 山岸登美
漆二曲屏風 山下悦夫
漆衝立(無)榎木 盛

染屏風「緑地」 皆川幸恵
飾棚登いか (審)山崎立山
四曲屏風 (参)審)吉田源十郎
菊 山口花 籃 田辺竹雲斎
廣口花 籃 山本 実
鉢銅水鳥「置物」 山本 実
貝 文 有田利章
カラジユム文陶 横山朝陽
器花瓶 「たそがれ」花瓶 藤村正美
カリス (依)福田三郎
鶯 鶯 (依)大下雪香
春譜、飾皿 徳田魁星
「月を呼ぶ」紙塑 鶴巻三郎
毛装人形 角谷一圭
えび文様 釜 角谷一圭
純銀打出 依)河内宗明
鍍金花瓶 (依)河内宗明
縹紗紋様八角花 辻 貞男
木の実と蝶 (依)鴨 政雄
花瓶 (依)佐々木象堂
鹿 (鑄銅) (依)前田竹房齊
花 籃 前田竹房齊
辰砂紅梅之 (依)加藤土師萌
壺 壺 加藤土師萌
ふり 鼓 (依)岡本玉水
そば釉花瓶 井上治男
吉 羊 釜 鈴木盛久
冬 木 立 大塩正人
平脱文飾 棚 中 清太郎
鉢銅花瓶 林 万寿人
天目釉鉢置物 八井孝二
「寂光」花瓶 大丸谷辰男
硯 秋稔 (依)雨宮静軒

圓 魂 加藤宗巖
彩 磁 釉 鉢 鈴木青々
鉢銅水辺「花器」 原 直久
「黒い像」彫金皿 添田 勇
柿 手箱 (依)本間壽華
遊魚之図 (依)磯井如真
乾漆水盃 (依)磯井如真
彫漆雨情手文庫 音丸 謙
あかつきの (依)佐野猛夫
詩 詩 佐野猛夫
漆器鶯二曲屏風 泉 篤彦
「春近し」 (依)中村鵬生
手織錦壁掛 (依)堂本漆軒
「バラ」漆棚 (依)藤陽雲
彫 漆 額 (依)岸本景春
刺繡額冬眠 (参)岸本景春
彩 漆 飾 棚 平石晃祥
荒 磯 磯山竹司
漆紅葉ノ棚 (依)竹園自耕
染彩屏風布 (無)皆川月華
哇之蘭花 (無)皆川月華
楽しき 杜 大久保婦久子
壁面裝飾「働く」 関 稔
女 と 牛 友田昌敏
孤(ひとり)七宝 上 枝 久
焼 久 久 久 久
染屏風「神戸夜 久 保 翠
景」
月と太陽と飛行 風間満知子
機 機 風間満知子
漆海芋図 棚 明石朴景
青銅鳥 (参)内藤春治
陶製花瓶 (参)宮之原 謙
「空」
彫金打出 影金打
刻吉祥果 (参)審)二橋美衡
紋銀花瓶 (参)審)二橋美衡

クリスタ (参)審)各務鉦三
ル花器 (参)審)各務鉦三
唐花文花瓶 (会)板谷波山
龍銀ずん (会)審)高村豊周
ど花入 (会)審)高村豊周
くろい影(会)審)岩田藤七
古稀稀花瓶 (会)清氏六和
金 大 皿 (会)故海野 清
鉢銅相和文 (参)香取正彦
花器 (参)香取正彦
彫金銀花盛 (参)三井義夫
鏡 鏡 (無)大西忠夫
紫山 瓶 (依)河合栄之助
仙人掌文飾 (参)大須賀 喬
聖 域 (依)堀 柳女
木地蒔絵牡 (参)高野松山
丹手箱 (参)高野松山
鉢銅一耳扁 (依)山室百世
壺 壺 (依)山室百世
草の穂と雑 草二段色紙 (参)前 大峰
宮 宮 (参)前 大峰
水注金網 (参)審)河村靖山
手春光 (参)審)河村靖山
飛天文花器 (依)鹿島一谷
雲梯文八方形釜 晶 春 齋
鯉跳る壺 (依)宮坂房衝
巖 浪 宮 龜倉蒲舟
夏の朝花瓶 高田伝一郎
金銅舞人置物 大谷春彦
雷文卓 (依)稲木東千里
彫金鸞黃銅 (依)介川芳秀
花瓶 (依)介川芳秀
四方肩平釜 高橋敬典
手織錦弦 (参)審)山鹿清華
月屏風 (参)審)山鹿清華

阿 蘇 河村坦子
「樹」三曲屏風 新敷孝弘
あゆの風 須賀木仙
漆「狐」衝立 三村比呂志
額 皿「山羊」 金田正士
秋、染二曲 (依)談議所栄二
屏風 (依)談議所栄二
牛之図四曲 (依)佐 治 正
屏風 (依)佐 治 正
ジャズバンド (依)佐 治 正
風 伊藤裕司
柳 秀 男
青銅花瓶 鳥田精二
花 器 加藤賢三
鳥文花瓶 (依)米沢蘇峯
鉢銅花瓶 中村勝雄
茄子ノ図乾漆壺 真鍋光男
青銅花瓶 津田永寿
紫陽花花瓶 伊東 奎
乾漆 盛器 増村成雄
黒釉線象嵌花器 タテノゼンジ
鳥の置物 (審)三井安蘇夫
堆彩磁茄子文花 古宇田正雄
瓶 瓶 古宇田正雄
平 壺 市川通三
板金鸞置物 小川健次郎
青銅月兔文花瓶 中条青香
青織部纏席瓶 加藤嶺男
「孔雀」花瓶 藤村豊秋
暖流花瓶 (依)新開寛山
パネル「朱と緑」 八木 一
M庁舎文庫のた めの鉄スクリー ンを手をつな ぐ 三橋国民

漆花器のあ
るスクリー
ン (無)久保金平
秋 床次 光
朝光庭衝立 横山一夢
染屏風塩田 (依)楠田撫泉
リオンとき漆スク
横山白汀
萬染屏風「黒部
峡谷」 野上 隆
軍 鷗 衝立 山口志風
塩 田 田村文字
彫漆「溪畔」衝立 目黒順三郎
スクリーン「冬
(四季連作の三)
漆「松」屏風 武石 勇
鷗モザイク二曲 片田明雄
屏風
花と仏頭 (依)般若若侑弘
きのご壁掛 二口志保子
隴銀宝石宮 若林作司
堆朱香盆 (依)吉田樑堂
硝子香炉 小柴外一
蟹 香 合 小杉芳盛
鶉 金 具 (依)大木秀春
翁 草 金 具 下田聖比古
色金覆打霞文香 吉田宗入 斎
炉
魚と鳥小宮 (依)島野三秋
一對
水 盤 野原俊男
花 器 横倉友次郎
梟 扁 壺 里見駿吉
彫漆秋豆ノ図飾 真子実也
盆
彫漆紅蜀葵之図 岡田章人
手宮

白い花瓶 岸沢武雄
緑 蔭 河合晋徳
菱 紋 卓今藤晴一
からたち文透盛 宮入袈裟雄
器 花 籃 (参)飯塚琅玕斎
青銅変型花瓶 宮沢 鼎
木象嵌入稜飾宮 氷見晃堂
魚文花瓶 山田健吉
灯 影 萩原行雄
壺 (無)西 大由
鍛金李白銅花器 進藤玉明
蘭 硯 堀尾卓司
郁子小宮 井伏圭介
宝 石 宮 金子俊二
華文首飾 (依)岡部達男
双螭図漆貨 (依)番浦省吾
重品宮 研 雨宮 誠
円 面 加賀象嵌置 (依)高橋介州
物 彫漆牡丹に蝶の 池内 荷芳
花器「作品E」 滝井与志司
彫漆牡丹に蝶の 池内 荷芳
図手箱 秋草文四方釜 菊地 熊治
鑄 銅 壺 今井千尋
鍛金黄銅鐵流し 香取宏臣
鳥置物 群鶏文花瓶 (依)中村翠恒
荒磯文様 (依)富樫光成
清遊鉄打出置物 小林尚珉
草花文化瓶 (依)土肥刀泉
栗鼠片切沈 (依)藤井 観文
金彫小笠笠 (依)藤井 観文
蝶紋四方花籃 中島鳳窓

月の河畔花瓶 谷口 勇
朝の河津花 宏きよ子
蝸 陶漆花 (依)結城哲雄
瓶 芽 文 筐 大島唯史
萌 芽 文 筐 大島唯史
白 鷺 屏 風 山田 豊
空 高 宮 沢 貞 子
庭先に遊ぶ衝立 小森克己
和紙漉込屏風岩 山内 一生
と雪
ハンガール
ド壁のあ
る壁面裝飾
瑞 鳥 酒 井 光 閑
パ ネ ル 保 谷 美 成
生 き る 武 田 武 弘
三面衝立魚華之 佐藤貞一
模様
染色屏風丘 (依)山岸堅二
染色パネル (依)高久空木
スクリーン「硝
子」美以登炉頰 浅野 廉生
栄 触角のでた花器 船越次郎
冬 木 立 壺 安 田 友 彦
黒 い 花 中 野 馨 一
着物露地ノ 石敷キ (依)木村雨山
書

積布世作応制天 奥本朝雲
ノ橋立詩 戸田提山
出 門 小島釣舟
漱石詩二首 芝山天行
望 野 堤 素 江
梨園弟子 福中賢外
王維詩秋夜独坐 江口翠楊
唐詩襄陽歌 米田玉泉
南 池 渡 辺 秀 華
来開黎新亭作 伊藤昌山
陶淵明の詩 務台霽洞
五 律 田 中 碧 濤
業 根 譚 井 野 大 雲
醉古堂劍掃之語 植木九仙
唐詩香積寺 大岡皓崖
祖詠之詩江南旅 陸放翁詩夜聞姑
懷 惡 柳 宗 元 詩 湯 本 雀 嶺
秋 柳 宗 元 詩 湯 本 雀 嶺
高 青 邱 詩 月 水 嶋 鶴 山
李 白 五 言 律 詩 岩 森 富 堂
良 寬 之 詩 山 本 夢 園
七 言 二 句 都 築 西 叡
李 白 贈 錢 徵 君 少 陽 之 詩
陽 之 詩 昆 布 栖 嶽
唐詩七絶長江秋 高野流居
色 田 車 既 好 榎 本 玄 遠
湯 飲 易 水 流 佐 々 木 祥 石
白 兔 搗 藥 山 田 桃 源
心 寬 忘 地 空 山 崎 方 石
積 粟 万 鍾 土 屋 雪 竹
單 馬 重 裘 森 田 緑 山

浴泉養老是 (依)高畑翠石
長生
窮 鼠 嚙 猫 松 原 蒼 州
豪 氣 未 除 定 森 雪 堂
軼 迷 解 悟 大 久 保 翠 洞
月入斜窓 (参)石井雙石
曉寺鐘 (参)石井雙石
百 家 争 鳴 辺 見 仿 厓
白雲千載空悠悠 宗田周卿
山村雨過暮煙青 福村雪華
不如生前一樽酒 富樫休軒
武 斷 郷 曲 杉 本 昭 夫
世 外 別 有 壺 中 天 酒 井 康 堂
醉古堂劍掃語 原田青邨
採 蓮 曲 長 谷 川 翠 淵
李 白 詩 二 首 塩 原 雲 浦
岑 參 詩 木 村 尚 軒
李 頌 詩 題 叔 公 山 池
杜 甫 詩 秦 州 雜 詩 武 馬 岳 陽
二 十 首 之 一
杜 甫 詩 飯 田 東 籬
詠 歌 赤 塚 子 葉
杜 甫 七 律 登 高 藤 川 惠 堂
寒 山 詩 佐 々 木 文 陽
陳 伯 玉 白 帝 城 懷 古 詩
山台曉望懷王僅 西奥鳴琴
初 不 至 詩
東 坡 詩 細 貝 映 洲
李 白 詩 二 首 塚 本 樹 石
白 詩 二 首 本 間 壁 宛
英 氣 外 口 静 葉
杜 甫 七 言 律 詩 小 佐 川 泮 堂
良 寬 詩 斎 藤 八 溪

岳陽の晩景	田畑昭典	宋蘇子美詩	大月海山	黃山谷之詩	古谷蒼韻	宿江詩	栗原蘆水	戴叔倫七絶二首	高井望山	李太白詩	高木天祐	李白詩(將進酒)	平野公桑	陶淵明詩	青山祖燕	朱竹垞縉雲雜詩二首	中村旭坡	登岳陽樓	仲田重總	李白五律	小名木東郎	杜甫詩(客至)	結城巨流	楊帝行宮劉滄の詩	草川春江	杜甫潼關史	中田大雪	良寛詩三首	小川南流	白楽天詩	大橋堯山	業根譚の一章	酒井釣雲	良寛詩五言律詩	沖野逸堂	同王徵君同庭有懷(張謂の詩)	大滝如水	唐詩七律	北田岳洋	被逮道經故人里門	中村青園	初冬陸游	近江見諷	咸陽城東樓	窪田華堂	張均岳陽晚景之詩	小野田湖南	杜甫「竜門」五律	大沢碧水	陶淵明詩移居	中平南海	開官軍取河南河北(杜甫)	佐伯鳥海	杜甫詩	土肥春岳	白詩五鳳樓晚望	花巻景山		
諫書幽居韋応物	水本和堂	秋杜桓之懷	倉持濤峰	杜桓之詩	中川白麟	和賀至舍人早朝大明宮之作	加藤梅香	草書白楽天池上篇	樋口香菊	鸚鵡詩梅花二首	板井松居	岑參詩	大野篁軒	李白詩二首	佐藤鳳城	杜甫詩	成田塊東	白楽天の詩間居白題	岩間祥霞	客白	船橋快山	李太白詩	沢井青楓	杜甫詩紫宸殿退朝口号	中村久雄	李太白詩	林孤石	唐詩	池田松堂	高青邱詩	石橋梅頤	陶淵明詩	松永凌雲	白楽天詩二首	篠田一鳳	崔署詩	種村山童	秋雨	中芝竹	宋之問の詩	富田翠江	高適詩	大沢史峰	齊詩	小西峽川	白楽天の詩	渡辺錦虹	唐詩「長安秋望」	松田松畔	七言律詩	荒井君石	七言絶句二首	毛利柳邨	富岳二首(七絶)	渡辺何有	基母潛宿竜興寺	河村素史	杜甫詩	関根薫園
王維終南別業	大田左郷	杜甫の詩登高	松下芝堂	孟貫の詩	中野南風	李青蓮遊太山詩	桑沢子雪	白楽天詩浦中夜泊	江川蒼竹	岑參七言律詩一首	新竜州	廖燕詩「飲酒」	中川雨亭	送儲邑之武昌	矢島大因	杜甫詩九日	塚本思陽	友人會宿	大内枝翠	李欸の幽居に題	白井聖雲	秋日偶成	吉田豊照	陶淵明飲酒詩	比企野起延	夜泊旅望(白楽天)	稻田雲道	寒山詩	長江左翁	白居易題「破王	舊山池石壁	白居易題「破王	舊山池石壁	造化	兎靈	岡本憲一郎	登樓望水	平井麗水	良寛詩二首	栗田玉翠	白維之詩	藤田葦邦	寓山詩	石川筑舟	寒山詩	原田曉華	良寛詩七絶四首	小出豊園	寒山詩	中川香堂	秋日偶成(程明道)	宮下大鳳	膝王閣王勃之詩	松永凌雲	関雪「楊子江舟中所見」之詩	村上白山			
山陽詩(山水小景)	船橋碩城	雨夜沈二丈至詩	永井白山	紅樓院応制	生田碧蘭	夏日漱石之詩	西橋香峰	唐詩七絶	小林蒼松	唐詩一首	角田朴水	唐詩二首	長谷川悟石	桂席江上待月有懷	紺野聰秋	楚山秋晚	吉田桂秋	滁州西澗	永倉洗石	遊洞庭	氏家史山	杜甫詩	石黒臥竜	贈高式顔	佐野松岳	寒瀾之詩	江本勝谷	宿瑩公禪房聞梵	小川竹城	唐詩	佐々木如空	劉長卿詩	影山磐溪	発靈溪館	山下峰月	陶淵明詩	大森万里	古詩一首	山舖鴻芳	秋詩	川瀬真洞	山居秋暝	栗田溪州	白詩七律	黒川研水	遊支硎南峰	近藤碧峯	仙の歌	宮川翠雨	李太白詩	鈴木天城	李太白詩	三田清白	慈鳥夜啼	藤田霞畦	陋室銘	小林孤秋		
永王東巡歌	吉田栖堂	吳融僧舍白牡丹	大田桃曉	李白五絶二首	尾崎邑鵬	寒山の詩	今井凌雪	廬山三絶	秋山公道	李長吉詩	岡本松堂	送柴司戸充劉判官之嶺外	水原玉舟	登瀛空閣	阿部醒石	遊宝称寺	小森五陽	安身の処	上松義山	高青邱采茶詞	貞広春山	李太白詩	島津半仙	岐阜勝遊四首	武市秀峯	夜喜雨	浅見錦竜	春夜喜雨	浅見錦竜	王維の詩「終南	三原研田	涼州詞	田中松亭	宋之問詩	中村大濤	放言	浅見寛洞	杜甫詩	高畑雲汀	蓬萊山之詩	北林華山	歸舟	太田慎齋	遊南高峰	篠塚新峯	白詩	鷺友井篁村	秋夕旅懷	藤田蒼碩	廬山詩二首	谷村意齋	洞山供真(無泉)	原寿石	擬古(無)	小西翠山	陶淵明詩和劉紫	小菅秩嶺	芙蓉樓送(無)	藤岡九波

東坡詩飲首 近藤 嶺南
 木馬泥牛 (依) 菅谷 幽峯
 詠七宝扇 重松 凶南
 破山寺後禪院 金杉 竜峯
 秋風 小野寺 一乘
 陶淵明詩 西村 桂洲
 五律二首 川上 柏翠
 春宵 淺田 蓬邨
 高青 邱詩 壘谷 鶴村
 李太白詩 林雪 骨
 項斯の詩 上原 爽園
 陶淵明ノ詩 水本 愛堂
 早発交崖山還太 阿部 翠竹
 沈石田、安居歌 小野里 静雲
 韓愈詩調張籍 花田 峰堂
 代悲白頭翁 細川 墨水
 老杜之詩 岩井 韻亭
 五言律詩二首 秦 草洋
 杜甫詩 村寄 鴨畦
 劉祁詩贈鮮于伯 高木 桑風
 機 富 士 山 安富 溪雨
 心王銘 (依) 沖 六 鷗
 李白詩 加藤 子華
 王摩詰詩 加藤 光城
 百花齊放 (依) 德野 大空
 秋興 (依) 西脇 呉石
 三輪山を 高橋 英子
 紅樓院応制 米倉 大謙
 班婕妤 好吉 田浩堂
 醉古堂劍掃 (依) 藤本 竹香
 語 韋応物詩 藤州 西 律 田 翠 俗

皮日休之詩初冬 阿部 翠屋
 偶作 湘中送友人 林 錦 洞
 高青 邱詩 安原 臯雲
 秋 北村 九臯
 清趙翼赤壁詩 川村 佩玉
 唐詩五律二 (無) 岡本 白濤
 何景明詩 小島 誦言
 過李揖宅 荻原 映華
 杜工部詩 荻原 竜碩
 古今和歌集秋歌 南 東 河
 抄 萬葉集抄 奥田 家山
 古今和歌集抄 稲垣 華堂
 山家集雄の歌 横溝 溪舟
 後撰和歌集抄 清水 影村
 山家集抄 後藤 西香
 泉 渡辺 寿和子
 八尺集抄 吉田 黄桂
 兼輔集抄 坂本 静玉
 秋の野 大山 俊堂
 しげゆき集 仲 翠玉
 和泉式部集 宮田 方舟
 山家集抄 中野 斗南
 山家集抄 森 玉苑
 長塚節の歌 有城 青柳
 万葉集抄 古久保 若石
 元輔歌集抄 桑田 三舟
 十 十 上嶋 茂夫
 後撰集抄 上池 鷺峰
 牧水の歌 松田 愛香
 良寛の歌 中尾 一草
 あをやぎ 源元 芳子

西行の歌 兒玉 明子
 小大君集 下前 香溪
 玉葉和歌集 松田 鶴山
 谷 池田 鳥川
 古今和歌集抄 星野 清宇
 金槐和歌集抄 久米 桃仙
 山家集抄 野尻 秀香
 草の 花原 秀子
 小大君集抄 難波 祥洞
 貫之の歌 河藤 正子
 夕 茜 奈良島 ます
 禪牀夢美 (参) 審 鈴木 翠軒
 人 (審) 日比野 五鳳
 橋 向 宇賀 寿子
 日 秀 (参) 審 松本 芳翠
 岑参五律 (参) 審 辻本 史邑
 長塚節氏西遊歌 氏田 菖軒
 抄 一引 柴 盲 (参) 手 島 右 卿
 磊 磊 (参) 柳 田 泰 雲
 白楽天詩 (依) 炭 山 南 木
 くるす 野 豊 田 文
 いろは歌 (審) 津 金 雀 仙
 思ふどち (依) 高 塚 竹 堂
 拾遺集抄 江野 美代子
 杜甫詩 (依) 赤 羽 雲 庭
 山 幾 重 (依) 内 田 鶴 雲
 翼賢扁舟詩 (依) 村 上 三 島
 郷 思 (依) 松 井 如 流
 山 彦 (参) 相 沢 春 洋
 曠 野 (依) 谷 辺 橋 南
 大般若波羅蜜多 北垣 華洞

寄友 (参) 大池 晴嵐
 王維詩 (審) 近藤 秋篁
 万葉集の歌 (依) 鈴木 梅溪
 観音 経 松崎 春川
 茉莉花詩 (依) 平尾 孤往
 高青邱詩 (特) 広津 雲仙
 試 楽 (依) 羽田 春 埜
 万葉歌 (依) 宮本 竹 逕
 白楽天の詩 (依) 青山 秋 雨
 李太白之詩 永田 鶴 風
 たのしみ (審) 桑田 笹 舟
 ふるさと 井上 青 香
 良寛詩 (参) 審 川村 驥 山
 八字句 (会) 審 豊道 春 海
 道 (会) 審 尾上 柴 舟
 猿 丸 集 池 辺 松 堂
 文字戯劇 (参) 西川 寧
 あし 辺 (参) 安東 聖 空
 陸湘客の語 (審) 小坂 奇 石
 後撰和歌集抄 小沢 神 魚
 西行物語ノ (審) 中村 春 堂
 一節 篆書七言二 (審) 山崎 節 堂
 句のゆくへ 森本 妙子
 静 虚 (参) 江川 碧 潭
 夜 歌 (審) 印南 溪 竜
 藤原公任歌 (特) 山本 御 舟
 集 藤原 公任 歌
 李花集抄 高木 聖 鶴
 小くさ山 渡辺 貞子
 西行の歌 村上 翠 亭
 心の動き 浅井 素 堂
 和泉式部集抄 川北 春 江

紫式部日記歌 小山 素 洞
 六帖詠草抄 西井 林 亭
 良寛歌集抄 西尾 師 鋒
 苔の下水 森本 鳳 久
 山家集抄 水野 康 子
 貫之の歌 出口 草 露
 山家集抄 高田 尾 舟
 清正集抄 浮乘 水 郷
 後撰和歌集抄 山下 获 舟
 任二集抄 坪井 正 庵
 李花集抄 東野 梅 軒
 おち 葉田 中 江 舟
 後撰和歌集抄 東山 一 郎
 紀將歌集 岡田 芦 舟
 和泉式部集 (無) 深 山 竜 洞
 第二抄 新古今和歌集抄 細見 桃 華
 絵 合 鴨 居 道
 晴 夜 (特) 買 松 本 直
 兼 盛 集 岡田 秋 翠
 友 則 集 増田 節 堂
 山 家 集 池内 艸 舟
 山 家 集 抄 渡辺 華 風
 なぎ さ 上田 星 邨
 朝のよろこび 杉岡 正 美
 古今集抄 藤原 勝 子
 和泉式部集抄 二宮 柏 竜
 (松井本)
 後撰和歌集 (秋 歌)
 相模集抄 小野 桂 華
 公任集抄 井上 玲 玉
 富 士 (無) 大石 隆 子
 普門品 (参) 田中 塊 堂

一重 桜橋崎弥生
 山家集 西谷如木
 草まくら 平田華邑
 源順集抄 猶原虛舟
 ほととぎす 玉城紅竹
 和泉式部歌集抄 倉重天拜
 金槐和歌集抄 前原敏子
 范成大七言絶句 辻本翔鶴
 唐詩 津金孝叔
 桂尊蘭燈 (依) 森田翠香
 寒山詩 兼松泛香
 哀江頭 鈴木竜雲
 五絶木瓜 (依) 石田泉城
 陶淵明詩 田中海庵
 王維詩 中林子鶴
 陸游詩 菊枕森岡峻山
 杜甫詩 登樓安井寿泉
 題張氏隱居 (特) 伊東參州
 寒山詩 中野蘭晴
 愛山 (無) 山崎大抱
 寒山詩 安藤堀石
 七絶 高須翠雲
 謙柳 (特) 阿部鉄蕉
 高青邱詩 (依) 木村知石
 白詩二首 (特) 天石東村
 放鶴 (依) 高木哲洲
 周詠 (特) 實亀井清堂
 菜根 譚神谷葵水
 雙蝶 (依) 殿村藍田
 醉古堂劍掃 (依) 佐藤祐豪
 語 依 藤祐豪
 晚眺 (依) 鈴木汪亭
 黄山谷の詩 (無) 高橋蒼峰

大字 (白雲自悠 岩谷青海
 々々) (無) 阿部珂山
 聖德太子頌 (無) 阿部珂山
 文懐 (魏徵の詩) 川上南溟
 述懐 (魏徵の詩) 川上南溟
 停雲 黒田芳汀
 白樂天七絶 (特) 中平南谿
 [浦中夜泊] (依) 上条信山
 李白五律 (依) 小出聖水
 三休詩 (特) 小出聖水
 生而不有 (依) 保多孝三
 何遠之有松谷石韻
 大勇不圓 (審) 生井子華
 竜蟠虎踞 外口匿盒
 無何 有野阪叫星
 頼祭 魚佐藤桃巷
 老子語御走 (參) 中村蘭台
 馬以養
 心苦醉六経 田淵晏齋
 人生如寄 (依) 松丸東魚
 篆刻五車之學 吉野松石
 謂我宜驕 (審) 梅丁齋
 信及豚魚 金山鋤齋
 聽人穿鼻 山口清郷
 戎車既駕 路熊隨処
 薄々酒勝茶 (依) 内藤香石
 湯々酒勝茶 (依) 内藤香石
 分疎不下 (無) 殿木春洋
 詩情画意 (依) 山田正平
 渴心生塵 (特) 中村淳
 淵黙雷 菅原石盧
 追疑秦漢 古川梧
 白受 采小林斗齋
 好詩空抱山 伏見冲敬
 麟跡呈祥 森川和男

為而不争 (依) 関野香雲
 (銀印) 廊廟之器 二葉一成
 左記の作品は十一月十四日
 まで陳列
 李白の詩 野田紫城
 五言古詩 橋本素華
 百花亭望夜歸 坂口碩峯
 古風 坂田聖峯
 白樂天詩池上周 堀江翠峽
 詠 蘇東坡之詩 千草光洞
 唐詩 陶居 北見雨洋
 司馬君実独樂園 石村石城
 寒山詩 垣内青松
 王文治ノ詩 川浪青漣
 李白詩 觀胡人吹 平林舟鶴
 江南謫居 神崎紫峰
 天門山を望む 織田英鶴
 宋中 白木柳城
 初夏偶成 湖翠石
 唐詩 (今參の詩) 細田研宗
 許渾の詩 川上燦堂
 良寛の詩 三上翠峯
 孟浩然詩 杉本長雲
 高適 醉後贈 児玉光堂
 張九旭 山中有流泉 甫田鷄川
 般若心經秘鍵 島田芝香
 阮瑀 隱逸詩 河合大穹
 頼山陽の詩山水 鬼頭大愚
 山下晚晴唐畫曙 広実泉城
 高青邱の詩 中塚宜風
 白樂天の詩 福沢華雪

「白詩七律」 足立豊山
 唐詩吟 洞庭孟浩 神野雲山
 桃源小方千鳥詩 青木研碩
 良寛の詩 中村容山
 送宇文太守赴 八木山鈴
 宣城 寒山詩七言絶句 中岡豊園
 唐詩五言絶句 能勢紫香
 宿竜興寺 蘇東坡之詩 千草光洞
 李頎ノ詩 中里景雲
 頼山陽文房詩 樋口雪峯
 李白詩 大菊秋坪
 李太白詩 大坪藍海
 唐詩二首 清水雲梯
 杜牧七言律詩 望月柳涯
 七言律詩 草野霨田
 小隱自題宋林和 花井峰昇
 靖 鶯歌行詩 椎葉翠嶺
 登 繪持園 田中双鶴
 山陽之詩 天野湖香
 杜甫七言律詩夜 吉田柳江
 送顯上人還天平 高島丈山
 山 太白詩 網干翠峯
 李太白詩 中村篁雪
 題岳陽樓 杉山紫水
 飲説の詩 幽州夜 山田松鶴
 山居雜詩 山田松鶴
 良寛の詩 保谷竜湖
 王維五律 森神紫陽
 陶淵明詩 榎本翠邦
 寒山詩 川奈部尚石

苦辛 行 梶田東嶺
 夜 歩 楠見然山
 元政上人詩 神部雲濤
 杜甫の詩 福田翠舟
 草員外家花 小林大象
 樹歌 日 新谷晴香
 秋 間臥 (白樂天之 道倉之葉
 詩) 宿雲門寺 富永眉峰
 白詩七律城上夜 大森稚水
 宴 李白之詩 峴山懷 中道春陽
 古 文衡山七律 奥山素城
 李白將進酒 古賀井郷
 唐詩二首 鷲尾翠溪
 李太白詩 織田子鶴
 林逋の詩 浅野五牛
 周居自題 小高暎帶
 南 七言絶句二首 柴田碧山
 王維詩 過香積 竹脇曇卿
 寺 蕪邱 覽古 藪野柏庭
 坡公看潮詩 吉井天外
 唐 蘭と庭竹の詩 張替秋亭
 王維終南山詩 栗原瑞雲
 遣興三首の一 井上芝翠
 陳沂之詩 登嶽 今泉海陽
 西園 周興 窪田瑞穂
 服部南郭詩二首 荒木志峯
 無 李太白詩 礙 青山楓谷
 李太白詩 橋本梅屋

杜甫 詩桑名巨史
 閑遊 岸本整湖
 女都壇 歌藤原露眠
 陸士衡五言古詩 岡本靜陽
 陶淵明飲酒詩 相原墨峽
 陸放翁詩二首 德永玉樹
 寒山之詩 飯田秋光
 寒山之詩 飯田秋光
 四季之歌 山田清郷
 蘇東坡之詩 山田清郷
 秋 興有田宙外
 元結の詩 綾村坦園
 高青邱の詩 森村坦園
 夜泊旅望 池田太然
 李白 詩森村坦園
 高青邱の詩 清水大流
 唐詩五言二句 土田雲峯
 唐詩五言二句 土田雲峯
 閑遊 宿穴戸東畝
 杜甫詩 夜吉田蒼月
 高青邱詩漫成 田中燕齋
 送秋山人遊湖 望月祥堂
 寒山 詩中島山壽
 贊仏 偈名郷紫山
 題元十八溪居 宗田明峰
 聖果 寺後藤田香石
 幸美中之詩 神秀峯
 高青邱の詩 池田青軒
 馬戴詩「楚江懷古」 水崎素雲
 溪 聲佐々木坡唐
 明月 上原欣堂
 李太白詩 中野白呂

岑參之詩 津村枕石
 羊士諤七言絕句 野津閑水
 登板 高田折桂
 夜泊古崎 太根啓山
 人日寄杜二拾遺 井上澄慶
 張船山五律 坂井八空
 白樂天詩五律 安永竜峯
 王維扶南曲歌詞 黒田桂舜
 南 関 黒田桂舜
 出 門 中台邱園
 心 の 鐘 杉上鶴峯
 載叔倫詩五言律 池上蒼江
 秋夜ノ作唐李昌 萩原櫛風
 符 果 寺市川光苑
 聖 不 盡 山 三浦春汀
 望 不 盡 山 三浦春汀
 秋 の 歌 石井鮮艸
 唐詩五律 長井蒼子
 王漁洋作遇仙橋 溝口碧山
 即事 鶯見清嶽
 宋婉詩「送王俞明遊白下」 鶯見清嶽
 明 居 感 懷 美素高山
 陶淵明飲酒 奥村青峰
 白樂天之詩 成瀬映山
 幽 居 周藤緑園
 西湖孤山寺後舟中寫望 佐々木心華
 高青邱詩 渡辺江石
 慈 姥 磯 山本興石
 細井広沢古詩十首の一 松田海軒
 菜根譚一節 森郷水
 感 懷 服部大鷗
 唐詩五律 加藤芳竹

山中有仙室 行武明山
 臨 洞 庭 深尾月泉
 王 維 詩 渡辺求古
 晚 晴 吉田晴翠
 吳 融 の 詩 清水爽楓
 李頎詩七律 竹來嵐翠
 唐 詩 田村鴨春
 高青邱為因師題 高木鳴鳳
 松梢飛瀑圖 高木鳴鳳
 杜甫詩飲中八仙歌 佐藤蕪堂
 李 白 詩 木下玉泉
 王 漁 洋 詩 永原楓里
 唐 詩 七 律 佐々木春芳

清川泰次個展 29—11月3日 村松
 松〔批〕みづゑ12月(徳大寺公英)、美術手帖32年2月(徳大寺公英)
 フレデリック・オハラ個展 29—11月3日 養清堂
 長沢久敏個展 29—11月2日 中央公論社画廊
 グループ21展 29—11月3日 村松
 華嚴會展 29—11月4日 安藤七宝店画廊
 5回菱會展 29—11月3日 日本橋・丸善
 岡部敢作陶展 29—11月3日 壺中居
 7回丹楓會展 30—11月4日 木橋・高島屋〔批〕産経夕刊 11月2日

佐々木宗一郎個展 30—11月2日 サエグサ
 7回水彩展 30—11月3日 文房堂
 美大彫刻科展 30—11月3日 京都府ギヤラリー
 行動美術展 30—11月8日 名古屋・愛知県美術館
 池田勇八彫刻展 30—11月4日 渋谷・東横
 2回菊池良爾日本画展 30—11月4日 日本橋・三越〔批〕前春39号
 菅橋彦個展 30—11月3日 日本橋・三越〔批〕前春39号
 瀧美栄峰門展 30—11月4日 新宿・三越
 居串佳一遺作展 30—11月2日 ヤナセギヤラリー〔批〕東京夕刊11月1日(岡本謙次郎)、産経夕刊11月2日、アトリエ32年1月(浜村順)
 油谷達油絵展 30—11月4日 大阪・阪急
 2回群青展 30—11月5日 日比谷画廊
 全国漆器展 30—11月4日 日本橋・三越
 佐野猛夫ろうけつ作品展 30—11月4日 大阪・高島屋〔批〕美術手帖32年2月(杉本亀久雄)

11月
 1回風土派展 1—5 三原橋画廊
 山口長男作品展 1—15 新宿・風月堂
 創元会五人展 1—7 産経画廊
 新表現主義四人展 1—16 美松画廊
 2回西部美術展 1—6 東電サービスセンター
 東京藝大美術祭デザイン展 1—4 東京藝大
 8回川崎市展 1—4 川崎市民會館
 錦絵に残る昔の通信展 1—7 通信博物館
 山本祥三東京百五十景展 1—5 池袋・西武デパート
 染織美術展(高島屋創業一二五年記念) 1—4 日本橋・高島屋

「明治の民衆と文化」に関する展
 示会 1—7 国立国会図書館「羽衣の間」
 大住閑子作品展 1—10 タケミヤ
 南蛮美術と幕末維新史料展 1—25 市立神戸美術館
 第二紀展 1—10 名古屋・愛知県美術館

- 4回ゲンピ展 1-6 大阪・阪神百貨店
- 藤本東一良瀧歌作品展 2-7 銀座・松屋〔批〕朝日6、みづる12月(柳亮)
- 池田憲二日本画展 2-7 銀座・松坂屋〔批〕三彩12月
- 4回京都陶藝博覧會展 2-7 銀座・松屋
- 福田平八郎写生画展 2-13 銀座・松屋〔批〕朝日6、産経夕刊9、三彩12月
- 日本の風刺絵画展 2-12月2 国立近代美術館〔批〕読売夕刊9(中原佑介)、東京夕刊24、25(柳亮)、東京タイムズ24(渡辺鴻)、毎日30(船戸洪吉)、産経夕刊30
- 名品展 2-12 箱根美術館
- 1回学生漫画展 2-7 東京・大丸
- 中古美術の会 2-7 東京・大丸
- 染画展 2-8 日本橋・三越〔批〕前春41号
- 3回万人のための展覧會 2-12 大阪・フジカワ
- 鬼集会小品展 3-7 渋谷・上松画廊
- 日本民藝協會新作展 3-25 日本民藝館
- 京都文華展 3-12月9 京都市二条城

- 西洋版画展 3-25 市立神戸美術館
- 小柳創生水墨展 4-9 村松
- 大口登個展 4-9 村松
- 叶敏陶器個展 4-9 村松
- 〔批〕読売夕刊9(中原佑介)、アトリエ32年1月(浜村順)
- 林武壁面原画展 5-10 大阪・梅田画廊
- 吉田一家版画展 5-10 養清堂
- 4回富ノ井政文個展 5-10 サトウ
- 1回榎栗會展 5-10 ヤナセギヤラリ
- 渡辺聖空墨絵個展 5-10 中央公論社画廊
- 三浦漱水彩展 5-10 銀座西五丁目・プロポイント
- 川端龍子江戶愛着展 6-11 日本橋・三越
- 〔批〕三彩12月、前春39号
- 〔記〕東京夕刊3、毎日7、産経夕刊11月9(横川毅一郎)、朝日10
- 徳田俊三展 5-12 なびす
- 京窯東哉展 6-11 日本橋・高島屋
- 樋口一郎瀧仙油絵展 6-11 日本橋・三越〔批〕みづる12月(柳亮)
- 辻弘徳、辻輝子江ノ島の陶器展 6-11 日本橋・高島屋

- 〔批〕朝日10
- 小林邦報油絵展 6-10 フォルム
- 児玉希望新作日本画展 6-11 日本橋・高島屋〔批〕産経夕刊9(横川毅一郎)、朝日10
- 2回久野修男個展 6-10 サエグサ〔批〕産経夕刊9
- 白井畑富日本画展 6-11 渋谷・東横
- 丹阿弥岩吉日本画個展 6-11 日本橋・白木屋
- 4回フォーレル同人展(大倉道昌白木博也等) 6-10 日本橋・丸善
- 大聖寺古郷日本画展 6-11 上野・松坂屋
- 紫晨会工藝展 6-11 日本橋・三越
- 五人展(岩崎良信、島村舜児、霜村二彦、谷口健雄、花房英樹) 6-10 安藤七宝店画廊
- きぬた会染色展(野口道方主宰) 6-11 大阪・阪急
- 海南紀生苑新漆器展 6-11 大阪・阪急
- エッチング小品展 6-11 大阪・阪急
- 4回金曜會展 7-11 美松画廊
- 7回新工人展 8-12 産経画廊

- 秀島虎登展 8-14 自由ヶ丘・ひかりデパート
- 高橋忠弥個展 9-13 兜屋
- 〔批〕アトリエ32年1月(浜村順)
- 7回サロン・ド・ジュワン展 9-14 銀座画廊
- 9-14 銀座画廊
- 新興美術院秋季展 9-13 銀座・松屋〔批〕前春39号
- 皆川泰蔵和染展 9-14 東京・大丸
- 素仙洞日本画展 9-15 新宿・伊勢丹
- 雪舟展 10-24 京都国立博物館
- 最近の世界版画展 10-12月9 鎌倉・近代美術館
- 中川紀元作品展 10-15 村松
- 〔批〕東京夕刊12(岡本謙次郎)
- 竹谷富士雄個展 10-15 村松
- 〔批〕アトリエ32年1月(浜村順)
- 西郊會展 10-15 京都・丸物
- 外山卯三郎指導「子供の美術展」 10-18 中野・丸井百貨店
- 3回中部美術文化展 10-18 名古屋・愛知県美術館
- 小場恒吉模写「東大寺法華堂佛像文様展」 10-12月10 奈良国立博物館
- 彫刻六人展(飯島三四二、岩井藤吉、喜多武四郎、中島武、宮本重良、村田勝四郎) 12-1

- 17 中央公論社画廊
- 4回MITANA展 12-17 養清堂
- 2回伍伸會展 12-17 サエグサ〔批〕東京16
- 奥瀬英三油絵発表展 12-16 日動画廊
- 新しい児童画指導展 12-16 安藤七宝店画廊
- 開設記念一回展 12-20 トキワ画廊
- 深沢幸雄銅版画展 12-17 サトウ
- 3回国立名古屋工業技術試験所陶磁工藝展 12-17 和光
- 佐藤真一個展 12-16 大阪・梅田画廊
- 郭仁植個展 12-16 国際観光會館画廊
- 古川惇個展 12-18 樺画廊
- グループ「ラ・ウイ」展 12-16 美松画廊
- キャンドル會展 12-15 日本橋・丸善
- 世界・今日の美術展 13-25 日本橋・高島屋
- 〔批〕
- 東京タイムズ15
- 東京夕刊15
- 読売11月15 滝口 修造
- 朝日15 富永 惣一
- シ22 東京タイムズ22 出原 栄一

毎日25 船戸 洪吉
アトリエ32年1月浜村 順
みずゑ32年1月

合評
德大寺公英
村井 正誠
井上長三郎
白井 浩司

アンケート―福沢一端、田中
田鶴子、藤松博、川端実、
昆野恒、利根山光人、岡本
太郎、末松正樹、佐野繁次
郎、江見絹子、麻生三郎、
中谷泰、三雲祥之助、益田
義信、五味秀雄、林武、今
泉篤男、田近憲三、江川和
彦、北園克衛、中原佑介、
東野芳明、岡本謙次郎、瀬
木慎一、植松鷹千代、久保
貞次郎

本年度日展工藝特選作家展 13
―18 上野・松坂屋

2回凡樹画社展 13―17 ヤナ
セギヤラリ

40周年記念尚美展 13―17 壺
中居〔批〕東京夕刊16〔河北
倫明〕朝日17、三彩32年1月
日本藝術院会員美術作品展 13
―25 日本橋・三越〔批〕朝
日17、萌春41号、三彩32年1
月

2回漆絵作家協会展 13―18
日本橋・三越

1回深沢孝油絵展 13―19 な
びす

秋季日本画府展 13―14 産産
画廊
海老原喜之助デッサン水彩展
13―18 大阪・フジカワ

難波田龍起個展 13―18 南画
廊〔批〕朝日17、アトリエ32
年1月〔浜村順〕

加藤溪山青瓷百趣展 13―18
日本橋・高島屋

小島善太郎個展 13―17 洪
谷・東横〔批〕朝日17

河合卯之助陶藝展 13―18 日
本橋・三越

入山白翁ウルシエツチンク展
13―18 日本橋・三越

日仏交歓「パリー展」13―15
日本橋・三越

秀作さくら人形美術展 13―18
日本橋・三越

服部育夫、坂巻恭子、土田雅敬
三人展 13―17 文房堂

上野山清賞個展 13―18 産経
画廊

松林桂月日本画展 13―18 大
阪・高島屋

京人形柳桜会展 13―18 大
阪・阪急

異彩洋画家油絵展 13―18 大
阪・阪急
松岡吉一、吉田隆二人展 14―
19 三省堂
自由美術展 14―25 京都市美
術館

1回木場孝信・中沢金四郎二人
展 15―17 新宿・東電サ
ビスセンター
独立美術展 15―25 大阪市立
美術館

安井曾太郎遺作展 16―12月2
久留米・石橋美術館

勝本富士雄作品展 16―30 新
宿・風月堂

27回JAN展 16 21 村松
〔批〕朝日21

2回西方展 16―21 村松
村上華岳・佐伯祐三展 16―12
月3 銀座・松屋

〔批〕
朝日20 河北 倫明
朝日夕刊21

読売夕刊23 中原 佑介
毎日28 船戸 洪吉

産経夕刊30 田近 憲三
日経12月5 (記)

東京夕刊11月25 志賀 直哉
宮田 重雄

シ 26 東山 魁夷
シ 27 佐伯 米子

朝日11月28 村上華岳
出品目録

細 夜 瀑
樹 下 核
瓜 と 豆

樹 下 禪
雪 峰 雨
裸 婦 人
天 壁 花 橋
嶗 花 橋
柳 子 橋
舞 菜 永 春
蓬 菜 永 春
聖 觀 自在 菩薩
宝 冠 蓮 華
山 中 朝 霧
老 梅 凶

海 間 之 月
樹 下 積 迦
菊 花 水 盤
寒 山 空 林
聖 蓮 音
聖 蓮 華
竹 林 林
稚 の 林 林
松 山 雲 烟
雲 中 散 華
印 度 聖 者
阿 弥 陀 三 尊
太 子 樹 下 禪 那
日 高 樹 川
二 月 高 頃
熊 者 死 像
自 聖 者 死 像

雪 解 け の 庭
松 山 の 雲
秋 の 林
女 の 顔 (四点)

タゴ 九郎
演 劇 定 九郎
法 蔵 山 仏
夏 の 山 山
岩 の 山 山
紅 葉 の 山
菩 薩 の 像
觀 世 音 像
残 世 音
牡 高 雲 蒸 丹 (絶筆)

山 高 雲 蒸 凶
山 岩 之 凶
山 岩 之 凶
鶴 巖 松 柏 凶
松 巖 雪 翳 凶
雨 柳 早 春 霽 (又幅)

梅 柳 早 春
牡 柳 早 春
冬 ば れ の 山 丹
野 生 清 興 山
高 原 長 風 顔
仏 華 觀 音 像
拈 華 觀 音 像

地 華 觀 音 像
羅 漢 の 頭 蔵
月 漢 の 頭 蔵
觀 世 音 菩薩
秋 谿 瀑 流

聖觀世音坐像
 高岳雨霽
 懸崖夕照
 武庫山春雲
 柳枝觀世音
 文殊菩薩
 夏山青嵐
 夏樹積翠
 聖蓮華觀音立像
 雨中牡丹
 山澗含春
 巖山松樹之図
 初夏新樹之図
 紅焰不動
 秋山暮鳥之図
 洞窟老子
 松岡石門
 巒峰茂松
 不動の菩薩
 月輪中の菩薩
 山楓澗梅
 青楓澗
 秋山紅樹
 野辺閑鳥
 山雨空濛
 聖觀音仏顔
 寒瀑
 朝顔
 閑艶妍
 餞瓜茄
 觀世音菩薩
 聖觀世音立像

芬陀利華
 釈迦尊像立像
 地蔵尊像
 觀音像
 羅巖冬樹漢
 寒巖古樹
 寒巖楓岳
 秋晚楓岳
 巒峰春雪
 味爽の海
 新樹喜雀之図
 山の絵
 秋巖鳥窟
 海巖鳥窟
 林之鳥窟
 春泥
 瀑布
 澗之墨
 椿嶂之墨
 壁嶂鳴之図
 秋谿啼鳴之図
 柳堤放牛
 白梅之図
 聖蓮華
 白描觀音
 觀世音菩薩尊像
 觀世音菩薩尊像
 觀世音菩薩尊像
 菩提樹下菩薩之図
 菩提樹下觀法
 虚空思惟之菩薩
 釈尊叢林中禪思
 觀世音菩薩
 不動尊像

(二点)

林響清寂之図
 秋山遠渚
 層巒積翠
 觀世音菩薩
 松竹の図
 懸崖夏景
 山月之図
 晚照歸鴉之図
 寒岫粧霜之図
 秋巒雲曳
 寒巖枯樹
 寒峰秋景
 海邊
 春鳩
 山二題
 山嶽
 雲山之図
 夜摩天
 白頭翁詩意
 觀世音菩薩立像
 椿の舞
 春の舞
 樹石霜寒
 樹下釈迦仏之図
 四条河原の春の雨
 婉山鬱樹
 舞の妓
 列仙
 六甲の雪
 峰頭円月

(六六)

人形障
 魔九郎
 定九郎
 山拾得
 寒山孤鳴
 野頭孤鳴
 墨絵の牡丹
 椿の春
 京の妓
 舞の妓
 風前牡丹
 佐伯祐三
 ロシヤの少女
 レ・ジュ・ド・ノエ
 郵便達夫
 村と丘
 カフェレストラン
 共同便所
 モランの寺
 巴里十五区街
 広告(サエルダン)
 村の教会堂
 寺の院
 人形
 オブセルヴァトワル街附近
 カフェのテラス
 町はずれの寺
 場の末の町
 夜のノートルダム
 ガス燈と広告

(双幅)

靴屋
 工場
 モラン風景
 黄色いレストラン
 煉瓦焼
 サクレキヨール
 アンヂェノの広告
 モランの寺
 壁
 カミオン
 ヴォーデ・ラトルの家
 酒場
 納屋
 洗濯屋
 パリの街景
 スカイナ
 オブセルヴァトワル街附近
 夜のノートルダム
 牧場
 自画像
 屏風
 鯖炭
 石炭
 滞船
 教会堂
 リュクサンブールの木立
 サンミシエルの町
 セーヌ河附近街
 パリのカフェ
 カフェのテラス
 ストール

モラン 風景
橋 風景
風 風景
自 画像
菜 花
雪 景
絵 具
村 役場
白 壁の家
クラマール
ロカシヨンボワチュ
モンパルナスの広告
増
店頭の広告
スケッチ(二〇点)
1 回壁四人展 16—22 日比谷
画廊
2 回玄皎会展 16—21 銀座・
松坂屋〔批〕前春39号
3 回錦虹会日本画展 16—21
東京・大丸
クレバス画8人展(鳥海、中村
研一、鍋井、小林、小磯、寺
内、三岸、宮本) 16—21
東京・大丸
3 回美鳳会日本画展 16—23
新宿・伊勢丹
源氏物語繪巻展 16—12月3
根津美術館〔批〕三彩32年1
月
墨画院同人展 16—18 横浜市
図書館ホール
小野政吉、近藤喜義、柳田久油

絵三人展 16—20 日本橋・
丸善
上田久之北海道風景油絵展 17
—20 日動画廊
12 回日展受賞作家展 17—30
光風会館ギャラリー
グルーブ9展 17—23 美松画
廊
勤労者美術展 17—22 京都市
美術館
小柴錦侍作品展 18—23 安藤
七宝画廊
新制作協会展 18—28 名古屋・
愛知県美術館
田村興造・岩田健彫塑二人展
19—24 サトウ
岩崎鏝新作展 19—24 養清堂
〔批〕三彩32年1月
11 回現代版画展 19—24 渡辺
木版画廊
女流三人展 19—20 産経画廊
津辺一郎個展 19—24 大阪・
フジカワ
風景画新作展 19—22 ヤナセ
ギャラリー
真垣武勝小品展 19—24 中央
公論社画廊
桜井富美栄個展 19—25 樺画
廊
伊藤勉、小野賢二版画展 19—
24 文房堂
版画11人展 20—25 渋谷・上
松画廊

9 回自寿会絵画展 20—25 日
本橋・高島屋〔批〕前春39号、
三彩32年1月
成木浩二、細井督二二人展 20
—24 サエグサ
10 回丁亥会展 20—25 上野・
松坂屋
東西大家日本画展 20—28 涉
谷・東横〔批〕前春39号
平田郷陽門衣裳人形の会 20—
25 日本橋・三越
千総の染、川島の織両名家展
20—30 日本橋・高島屋
奈良県伝統工芸品展 20—25
日本橋・三越
常滑陶藝展 20—25 大阪・阪
急
小林武夫、小野与志近作油絵展
20—25 大阪・阪急
なにわ余洋画展 20—25 大阪・
梅田画廊
川島理一郎展 20—25 大阪・
高島屋
魯山人作陶備前焼個展 21—25
日本橋・高島屋
現代代表作家新作展(中央公論
社新社屋落成記念展) 21—
12月1 京橋・中央公論社画
廊
3 回佐藤多持個展 21—26 三
省堂画廊〔批〕アトリエ32年
1月(浜村順)

大森啓助作品展 21—25 兜屋
2 回トキワ画廊開設記念展 21
—30 トキワ画廊
前田常作個展 21—30 タケミ
ヤ〔批〕朝日30
4 回白合展 21—23 日本堂時
計店二階ホール
麓人展 21—24 日本橋・丸善
日本大学藝術学部美術展 21—
12月5 銀座画廊
VERA展 21—25 産経画廊
1 回中部春陽会展 21—25 名
古屋・愛知県美術館
佐藤智秀個展 22—27 村松
グラフィックアートと生活展
22—27 村松
表紙原画展(オール読物、文学
界、文藝春秋ほか) 22—12
月15 文藝春秋画廊〔批〕東
京夕刊9
3 回対象鑄金工藝展 23—29
和光
宮本三郎新作展 23—28 東京・
大丸〔批〕毎日25(船戸洪
吉)、朝日27、東京タイムズ29
(大久保泰)、美術手帖32年2
月(嘉門安雄)
田中朝吉、栄作展 23—25 高
崎市・貿易会館
戦後日本画名作展 23—12月3
池袋・西武百貨店
エジプト展 23—28 池袋・西

武百貨店
茶道工芸金盃会展 23—25 名
古屋・愛知県美術館
新人グループ展 23—29 京都
市美術館〔批〕美術手帖32年
2月(杉本亀久雄)
2 回不木会展 24—28 美松画
廊
田中佐一郎新作展 24—28 京
都府ギャラリー
アイトクラブ展 24—30 なび
す
4 回丹匠会大家工藝展 24—30
新宿・伊勢丹
藤井二郎個展 25—30 大阪・
フジカワ
22 回デッサン社展 26—12月1
丸ビル・中央公論社画廊
2 回山野久郎個展 26—12月1
サトウ
1 回六葉会展 26—12月1 養
清堂〔批〕東京夕刊29(大久
保泰)
三岸黄太個展 26—30 兜屋
〔批〕朝日30、読売夕刊30(中原
佑介)、アトリエ32年1月(浜
村順)
1 回山本雅彦彫刻展 26—12月
1 ヤナセギャラリー〔批〕
東京夕刊29、産経夕刊30、ア
トリエ32年1月(浜村順)
原叶八個展 26—30 樺画廊
佐藤太清、加藤東一、大山忠

- 作日本画三人展 26—30 産経画廊
- 自由美術展 26—12月4 大阪市立美術館
- 長谷川昇歌舞伎絵展 27—12月2 日本橋・高島屋
- 15回青々会展 27—12月2 日本橋・三越 [批]東京夕刊29 (久富實)、萌春41号、三彩32年1月
- 10回踏青会展 27—12月2 日本橋・三越 [批]東京夕刊29 (久富實)、萌春41号、三彩32年1月
- 恒川俊明個展 27—12月1 フォルム
- 鎌倉彫逸品会 27—12月5 日本橋・高島屋
- 坂倉新兵衛萩茶盃の会 27—12月2 日本橋・高島屋
- 松岡正個展 27—12月1 サエグサ
- 榎倉省吾個展 27—12月3 渋谷・上松画廊
- 花明山黛織込手陶展 27—12月2 日本橋・三越 [批]産経夕刊30(今泉篤男)
- 山口華揚、上村松篁、池田達山人三人展 27—12月3 日本橋・三越 [批]萌春41号、三彩32年1月
- 七番館工藝品展 27—12月2 大阪・阪急

- 砂丘会俳画展 27—12月2 大阪・阪急
- 河井寛次郎作陶展 27—12月2 大阪・高島屋
- 金重陶陽記念展 27—12月2 京都・大丸
- セヤー・リー・エリオット個展 28 銀座・松坂屋 [批]朝日26
- 田中隆盛個展 28—12月3 村松
- 名井万亀個展 23—12月3 村松 [批]読売夕刊30(中原佑介)、美術手帖32年2月(植村鷹千代)
- 豊田寿生個展 28—12月3 村松
- 2回京都名匠陶藝展 29—12月7 渋谷・東横
- 野間仁根近作発表展 29—12月3 日動画廊 [批]読売夕刊12月1(岡本謙次郎)
- 日大藝術学部美術学科デザイン絵画彫刻展 29—12月5 銀座画廊
- 山田禎子清政作品展 29—12月3 美松画廊 [批]アトリエ
- 32年2月(宇佐見英治)、美術手帖32年2月(植村鷹千代)
- 2回リアリズム美術家集団展 29—12月4 大阪・阪神百貨店 [批]美術手帖32年3月(杉本亀久雄)

- 松本正司空間造型展 30—12月2 京都書院画廊
- 一 二月
- 高美展(第二会場) 1—5 銀座・松坂屋 [批]萌春39号
- 榎戸庄衛作品展 1—20 新宿・風月堂
- 宋元水墨花鳥画展観 1 東京国立文化財研究所 [批]三彩32年1月
- 坪井鶴吉個展 1—5 産経画廊
- 2回黒旗展 1—5 樺画廊
- 佐藤桂一郎、菊地昇栄二人展 1—15 渋谷・風月堂
- 田中岑、斎藤正夫、五味秀夫三人展 1—5 兜屋 [批]美術手帖32年2月(植村鷹千代)
- 斎藤愛子個展 1—9 タケミヤ [批]朝日6、アトリエ32年2月(宇佐見英治)、美術手帖32年2月
- クリスマス、歳末油絵特価奉仕展 1—31 日動画廊
- 2回たぶろう会洋画展 1—6 日比谷画廊
- 白眉会新作展 1—10 なびす空間装飾美術展(山口勝弘、清家清) 1—7 和光 [批]美術手帖32年2月(植村鷹千代)
- 新葦会日本画新鋭作家展 1—6 新宿・伊勢丹

- 女流作家洋画展 2—8 トキワ画廊
- 上口愚朗コレクション展(和時計と古陶) 2—3 上野真島町・上口和時計保護協会
- 小関きみ子個展 3—4 丸の内・日本工業クラブ
- 田部井石南個展 3—8 日本橋・丸善画廊
- いわさき・かつひら続女十二題展 3—8 丸ビル・中央公論社画廊
- 20回大潮会展 3—18 東京都美術館 [批]産経夕刊7
- 小牧源太郎個展 3—8 養清堂 [批]美術手帖32年2月
- 中川一夫、山本曉子展 3—8 サトウ
- 林鶴雄油絵近作展 3—7 大阪・フジカワ
- 会津八一遺墨展 3—8 京橋・中央公論社画廊 [批]産経7
- 安宅扁雄個展 3—5 丸ノ内・日本工業クラブ
- 小山敬三画業三十年展 4—9 日本橋・三越 [批]朝日6、産経夕刊7、東京夕刊8(今泉篤男)、東京タイムズ8
- 七宝新作展 4—9 上野・松坂屋 [批]毎日5
- 奎星探珠展 4—9 村松
- 渡辺貞一展 4—9 村松
- 金子三蔵個展 4—8 サエグ

- 6回芝英会展 4—9 日本橋・高島屋 [批]朝日8、毎日11(船戸洪吉)、萌春41号、三彩32年1月
- 新指定国宝及び重要文化財特別展観 4—13 東京国立博物館
- 2回染彩画展 4—9 日本橋・三越 [批]中日6
- 「仮名手本忠臣蔵」舞台スケッチ展 4—9 日本橋・高島屋
- 萩谷巖油絵展 4—8 日動画廊
- 半田知雄ブラジル風景画展 4—9 日本橋・三越 [批]毎日7
- マイナック・グループ展 4—8 美松画廊
- 一九五六年度建築サロン 4—9 名古屋・愛知県美術館
- 西垣清作品展 5—25 池袋・文藝地下
- 八大人書画展 5—8 壺中居
- 本郷新彫刻デッサン展 5—14 渋谷・上松画廊 [批]朝日8
- 元祿文化と忠臣蔵展 5—14 上野・松坂屋
- 矢部連兆小品展 6—9 日本橋・高島屋
- 上代手法による草木染展 6—8 京都府ギャラリー

荒明実油画個展 7-11 兜屋
 日本画新銳作家五人展(相原万里子、佐多芳郎、友田白萌、森田曠平、吉田善彦) 7-13
 新宿・伊勢丹
 新作春掛展 7-22 三原橋画廊
 東京絵更紗彩路会小品展 7-12
 銀座・松坂屋
 9 回勤労者美術展 7-18 東京都美術館
 松籙会日本画展 7-12 東京・大丸
 田辺種風景画展 8-12 大阪・フジカワ
 「近代日本の名作展」8-32年
 1月31日 国立近代美術館
 (批)読光夕刊14(中原佑介)
 ミニアチュール三人展 9-14
 産経画廊
 青のグループ展 9-13 美松画廊
 現代美術協会27人展 9-15
 クレパス画廊
 朱葉会々員展 10-15 村松六日展
 10-15 サトウ河野通紀個展 10-15 養清堂
 (批)美術手帖32年2月(植村鷹千代)
 坂本繁二郎「二馬壁面」発表会
 10-18 京橋・中央公論社画廊
 (批)毎日16(船戸洪吉)、東京夕刊17(岡本謙次郎)

鈴木正彦油絵小品展 10-15
 丸ビル・中央公論社画廊
 加山四郎陶画展 10-17 トキワ画廊
 東西大家日本小品展 10-18
 銀座・松屋 (批)三彩32年2月
 12 回現代版画展 10-15 渡辺木版画店
 田村一男油絵展 10-15 サエグサ (批)東京14(岡本謙次郎)
 1 回三彩会展 10-20 三彩堂
 日本橋画廊 (批)朝日18
 玄々会彫金工藝展 10-15 和光
 京ほり人形作品展 10-15 村松
 造形教育センター展 11-16
 なびす
 国際主観主義写真展 11-16
 日本橋・高島屋 (批)読光夕刊14(瀬木慎一)、産経15(福沢一郎)
 彼末宏、宮田農哉、吉田清志展 11-16 フォルム
 岡田徹個展 11-15 文房堂
 桜谷房ハリー風景油絵展 11-17
 日本橋・三越 (批)毎日13(船戸洪吉)、朝日13、産経14、東京夕刊16、東京タイムズ17 美術批評32年2月(植村鷹千代)

勁草会展 11-15 京都府ギヤラリー
 杉原清司個展 11-20 タケミヤ
 山川勇一郎個展 11-15 ヤナセギヤラリー
 安井曾太郎遺作特別陳列 11-27 プリヂストン
 雨宮喜能登窯彩硝子の会 11-16
 日本橋・高島屋
 5 回松山雅英新作陶展 11-16
 日本橋・高島屋 (批)萌春41号
 6 回初霜会展 11-17 日本橋・三越
 新世紀美術協会会員会友作品展 11-16
 日本橋・高島屋
 浜田庄司新作陶展 11-17
 日本橋・三越 (批)萌春41号
 半月会日本画展 11-16 大阪・阪急
 赤とんぼ会「ろうけつ染」展示会 11-15
 ヤナセギヤラリー
 日展 12-32年1月6日 京都市美術館
 旺玄会展 13-19 大阪市立美術館
 (批)萌春41号、美術手帖32年3月(杉本龜久雄)
 中部旺玄会展 13-16 名古屋・愛知県美術館
 信時次郎、長森敏二人展 14-19 美松画廊
 8 回年末日本美術家連盟たすけ

あい展 14-19 銀座・松坂屋 (記)産経14(阿部展也)、読光夕刊21(中原佑介)、毎日23
 五耀会陶藝展 14-19 東京・大丸
 萌木会染色展 14-19 渋谷・東横
 くぬぎ会染色工藝展 14-19
 新宿・伊勢丹
 「八月十五夜の茶屋」入選ポスター展 14-31 銀座・松屋
 6 回墨洋会水墨展 15-19 渋谷・上松画廊
 門協正一個展 15-20 産経画廊
 高間惣七・小倉遊亀展 15-23、32年1月1-27 鎌倉・近代美術館 (批)朝日21、三彩32年2月
 全日本工芸美術家協会扶けあい工芸品バザール 15-19 上野・松坂屋
 有安隆、川村浩章、左京武允、信清誠一四人展 16-21 村松
 中山爾郎個展 16-21 村松
 (批)美術手帖32年2月(植村鷹千代)
 林田重正長崎風景展 16-31 渋谷・風月堂
 さんどる会工芸品展 16-20 大阪・阪急

入江しげる石版画展 16-20 大阪・阪急
 川端龍子展 17-25 大阪・高島屋
 大家洋画展(梅原、安井、林、中川、東郷、高島等) 17-22 大阪・カワスミ画廊
 東邦美術院小品展 17-22 丸ビル・中央公論社画廊
 23 回アートのクラブ展 17-22
 なびす
 浅野竹二版画展 17-22 養清堂
 前衛工人展 17-22 サトウ
 4 回成和会展 17-20 兼素洞 (批)朝日18、萌春40号、三彩32年2月
 花明山黨新作作品展 17-21 大阪・阪急
 東陶会新作陶展 18-24 日本橋・三越 (批)萌春41号
 桑原正昭個展 18-22 サエグサ
 飯山勇、白根光夫油絵展 18-23 日本橋・三越 (批)毎日21(船戸洪吉)
 芝田耕個展 18-22 京都府ギヤラリー
 相馬其一油絵展 18-23 文房堂
 萩野康児個展 18-27 トキワ画廊

- 棟方志功、斎藤清二人展 19 |
 27 京橋・中央公論社画廊
 [批]東京夕刊24 (岡本謙次郎)、読売夕刊28 (中原佑介) 美術人集団A層團展 19 | 23
 日比谷画廊
 現代版画展 19 | 22 渡辺版画店
 ザッキン近作展 19 | 29 文藝春秋画廊 [批]読売夕刊21 (中原佑介)、東京夕刊27 (岡本謙次郎)
 朱富士会展 20 | 25 大阪・フジカワ
 独立美術協会友の会油絵展 20 | 25 東京・大丸
 生活工藝集団展 20 | 25 渋谷・東横
 物故大家作品展 20 | 大
 阪・梅田画廊
 [F]美術展 21 | 27 大阪市立美術館
 品川工光の版画展 21 | 32年1月10 新宿・風月堂
 亀井玄兵衛版画展 21 | 25 大阪・阪急
 石井弥一郎小品個展 21 | 24 産経画廊
 岡村吉右衛門染色展 21 | 22 銀座・東電サービスセンター [批]東京22
 川上澄世木版画展 21 | 25 大阪・阪急洋画廊
 笠井一、奥口徳雄、伊藤好一郎 三人展 22 | 27 村松
 4回吉城弘個展 22 | 27 村松
 石川糧一個展 22 | 27 村松
 寂茶道具と民藝品展 23 | 28 日本橋・高島屋
 久保田春江、諸岡すみ子二人展 23 | 26 丸ビル・中央公論社画廊
 国立公園風景画展 25 | 31 日本橋・三越
 荻野康児沖繩スケッチ展 25 | 30 日本橋・高島屋
 現代詩画展 26 | 30 美松画廊
 6回21世紀展 27 | 30 産経画廊

「物故者」 ページ (173～181 ページ)

個人情報保護のため非公開

Pages of the Articles of the Deceased (pp.173-181)

Cut for protection of the personal information

美術文献目録 (昭和三年)

凡例

- 一、ここに採録した文献はわが国において昭和三年中に発行された単行図書、定期刊行物、および諸新聞に掲載されたものである。但し、三〇年の文献の補遺も適宜組み入れた。
- 二、単行図書の形で刊行されたものうち多数の論文を集録したものは単行図書としてあげた他、その内容を定期刊行物中にも組み入れた。
- 三、現代美術文献目録は明治大正以後の美術に関するものを集めた。
- 四、建築ならびに工藝の範囲は本文最初の凡例に記した範囲にとどめた。
- 五、各項目内の配列は内容別順とした。
- 六、この目録をつくるために採録した定期刊行物および新聞は下のとおりである。但し例外の特殊刊行物等は記載しなかつた。
- 七、雑誌の号数は主として通巻番号を採用した。が、通巻番号によらない場合は括弧を用いて区別した(例、(五)は昭和三年五月号を示す)尚三〇三―三〇五は三〇三号、三〇四号、三〇五号に亘ることを示し、九・一―三は昭和三十一年九月一日から三日附に亘る新聞を示す。

朝日新聞	大谷リエ	岩手史学新報
藝林研究	研究集録	藝術新潮
建築学会研究報告	建築学会論文集	現代の眼(国立近代美術館ニュース)
建築史研究	建築文化	建築雑誌
工芸ニュース	国文学解釈と鑑賞	国立博物館ニュース
国際建築	古代理学	三代研究
心文化財之科学	史迹と美術	史海
史学淵	信濃	史論
史代文	神道	宗教公論
上代文	新築	宗部紀
史文論	新築	宗部紀
新文論	淡交	真宗研究
大造法	淡交	石器時代
朝鮮学	東京日日新聞	中央公論
東京タイムズ	銅洋史	東都美
東方古代研究	日本美術工	南都史
日本経済新聞	美術研究	日本史
美術手帖	美術批評	日本美術史
美術工	美術研究	日本美術史
文藝化	美術研究	日本美術史
萌春	美術研究	日本美術史
毎日新聞	美術研究	日本美術史
ミュージアム	美術研究	日本美術史
ユースピア研究会	美術研究	日本美術史
研究報告	美術研究	日本美術史
歴史教育	美術研究	日本美術史

(五〇音順)

目次

〔定期刊行物所載文献〕

現代美術・西洋美術

総説	内容別順	一八四
絵画	シ	一八五
彫塑	シ	一八七
工藝・デザイン	シ	一八七
建築	シ	一八九
時評	シ	一九三
展覧会	シ	一九三
教育	シ	一九四
作家	人名別五〇音順	一九四
身辺雑記・隨筆	シ	二〇〇
物故作家	シ	二〇三
美術関係者	シ	二〇五
その他	内容別順	二〇五
東洋古美術		
総説	シ	二〇七
絵画	シ	二一〇
日本	シ	二一〇
朝鮮・中国・其他	シ	二一四

美術文献目録

書蹟・附篆刻・文房具

日本	三三五
朝鮮・中国	三三五
篆刻・文房具	三三五
彫刻	三三五
日本	三三六
朝鮮・中国・其他	三三六
建築	三三七
石造美術	三三〇
庭園	三三〇
工藝	三三〇
総記	三三〇
陶磁工	三三〇
金工	三三三
刀剣	三三三
木漆工	三三三
染織工	三三四
ガラス工、玉工	三三四
考古学関係	三三四
歴史関係・其他	三三六

〔単行図書〕

現代美術・西洋美術	三三七
東洋古美術	三三一

定期刊行物所載文献

現代美術
西洋美術文献

総説

美の伝統	保田与重郎	知性	三
藝術における伝統について	針生 一郎	理想	四
伝統と藝術(あすへの話題)	中谷宇吉郎	日経	二・三
評論・近代における伝統 ³	河北 倫明	日本文化	九
日本近代美術の性格	吉沢 忠	国立近代美術館	三五
近代美術をどう考えるか	石川 公一		三五
近代美術の見方 ^一	今泉 篤男	社会人	四一五
美術の見方 ^二	武者小路実篤、福島繁太郎	知性	三三
美術への情熱—美術のたのしみ—	山本 正男	彩	六
やさしい美学・美への窓	関口 俊吾	藝術新潮	七〇八
新しい写真のために(座談会)	寺田 春式		
随筆明治美術(13)	岡本謙次郎	萌	四〇七
文展初期のころ(対談)	添田 達嶺	春	二七
戦後園壇史(20)、(21)	中沢 弘光	美術手帖	二〇五、一
	木村 荘八		
	船戸 洪		

雪舟と現代	河北 倫明	萌	四〇四
文明と文化(論壇)	河上徹太郎	朝日	二・三
戦争と平和	滝口 修造	藝術新潮	七〇二
戦争と平和—ヘブライズムの系譜とヘレニズムの系譜—	瀨木 慎一	みづゑ	六〇
日本美術の民族性と世界性 ² 、 ³	長谷川三郎	彩	七・三三
美術の国際性と民族性上、下	富水 惣一	東京夕刊	三・二五、三・二六
古典と風土と世代上、下	柳 亮		七・三三、七・三三
表現主義的傾向の深化(座談会)	嘉門 関口、難波田、佐藤、寺田	みづゑ	六・三三
抽象と具象	植村鷹千代	朝日	八・二四
藝術はどう変わるか—藝術における秩序と生命—	伊藤 整	藝術新潮	七〇九
藝術の秘密(対談)	林 武		七〇二
前衛のいい分	伊藤 整		七〇二
農民美術の伝統	岡本太郎、篠田桃紅、勅使河原蒼風他	東京タイムズ	四・三三
美術の方法と条件	山中 省三	日経	二・三三
無意識の内容(座談会)	新海 覚雄	新日本文学	(七)
ヴァイタル・イメージ—造型像と観念(1)	村上 勉	墨	六
	井島 勉		
	園原 太郎		
	ト・リード		
	ハ・ハーバード		
	宇佐見英治	美術批評	三三—三六

藝術の不易と流行	フランシス・ハール	三	彩	七
現代美術とオリエンタル	瀨木 慎一	藝術新潮	七〇三	
モダンアート—一九五六年まで—(座談会)	瀨木 慎一		七〇五	
未知なるものに対する象徴—造型像と観念(5)、(6)	針生 一郎			
理想としての人間—造型像と観念(7)、(8)	ハ・ハーバード	美術批評	七〇、七〇	
イマジユについて	東野 芳明		(九、二)	
シュルレアリズムその後	滝口 修造	みづゑ	六〇六	
シュルレアリスム研究(1)シュルレアリスムと現在	東野芳明、江原順、大岡信他三氏	美術批評	六	
日本のシュルレアリスム(1)(2)	中村 義一		(七、九)	
形象の誕生(造形的思考の道)	ヴェルナー・ハフトマン		(四)	
近代藝術の革命	吉村博次		(三)	
原始美術における藝術観の問題	H・ゼーデルマイヤ		(三)	
現代美術入門・抽象とは何か—村井正誠氏に訊く	石川公一		(三)	
抽象か具象か	木村 重信	美学	三五	
テーマと造型	関口 俊吾	美術手帖	二五	
現代のバースペクティヴ—否定的空間と肯定的空間	岡本 太郎	美術新潮	七〇二	
閉された古典と開かれた古典	中村 義一		(四)	
	滝口 修造		(二)	

現実化

アンナ・ゼーガース 美術批評 (三)
新村浩訳

二十世紀の西洋美術

青柳 正広 綜合世界 一〇
文藝

(座談会)

富永惣一 他 心 (五)

現代藝術の人間像

針生 一郎 建築文化 一ノ七

二十世紀の人間像 (対談)

土方 定一 藝術新潮 七ノ八
岡本 太郎

パリ便り上、下

中村 直人 東京 一ノ五
二ノ六
三ノ八

パリ画壇の断層上、下

富永 惣一 読売夕刊 一〇ノ八
一〇ノ九

米、仏美術士産ばなし

濫田 義信 東京夕刊 七ノ三
関口 俊吾

アメリカ美術への期待

北川 民次 朝日 六ノ二

美術国アメリカの実体

山田智三郎 藝術新潮 七ノ七

アメリカ便信・ブルックリン横町のテイ・ルームにて

松沢 有 美術批評 (五)

アメリカ画廊だより

篠田 桃紅 読売夕刊 二ノ三
二ノ三

アメリカの日本文化

山屋 三郎 二ノ三

イタリヤ・ルネサンスの幻想

富永 惣一 みづゑ 六ノ六

エトルスクの藝術

今泉 篤男 美術手帖 六ノ五
二ノ五

ラスコオの洞窟

村田敷之亮 歴史教育 四ノ四

エーゲ文明の発見

柳 宗玄 美術史 一ノ三

十二世紀におけるモザン美術の役割

柳 宗玄 美術史 一ノ三

ゴシック美術における自然主義

乾 由明 美術学 七

中世ローマのモザイク美術について

大類 仲 駿台史学 七

一九五三年発見のゴルゴニニユ・VIXの遺宝

穴沢 一夫 美術史 三〇

聖グリネアルトの誘惑

東野 芳明 美術批評 三三

のグロテスク藝術について

上野 直昭 藝術新潮 三三

古都随想三

矢代 幸雄 七ノ二〇

ヨイロップ美術の再発見

今泉 篤男 東京夕刊 七ノ九
三

ヨイロップの美術界を見て上、中、下

井上長三郎 読売夕刊 八ノ六

ロシア美術の伝統

ソ連美術のアカデミズム

造形の問題ソヴェトの「構図」論争から

松谷 彊 萌 春 四ノ三

東西美術論(6)

マルロ・小松清訳 藝術新潮 七ノ一

日本藝術への覚書

アンスウエト寿岳文章 産 経 一ノ六

ヨイロップにおける日本美術

マシエル・タビエ 読 売 二ノ三

パリでの日本美術紹介

ロジェ・ヴァン・エック 朝日 四ノ七

美術の海外宣伝

川端 実 読売夕刊 五ノ三

日本美術を世界へ

富永 惣一 読 売 五ノ三

東西交流の場

K・Dゲツ ツ 美 五ノ五

美術の交流と国際組織

河北 倫明 読売夕刊 七ノ三

中国画壇を覗く

裕 伊之助 藝術新潮 七ノ六

燉煌を訪ねて上、下

福田豊四郎 東京夕刊 七ノ七
七ノ八

一旅行者の手記(ネパールにて)

古田 紹欽 二ノ六

インドの十日間上、中、下

谷川 徹三 東京夕刊 五ノ三
二ノ五

パキスタンの美術と生活

ヘンリ・W・コラー 美術手帖 一〇五

世界藝術十六の問題

藝術新潮 七ノ二

藝術界十二の話題

藝術新潮 七ノ三

藝術界十二の流行

藝術新潮 七ノ六

失われた名作・十二の話題

藝術新潮 七ノ八

実験藝術十二の問題

藝術新潮 七ノ二〇

京都十二の問題

藝術新潮 七ノ二二

近代絵画(1)

小林 秀雄 藝術新潮 七ノ一

二十世紀の絵画

平沢 悦郎 綜合世界 三

二つの空間

阿部 展也 文藝 二〇

西洋の花鳥画

三輪 福松 三 彩 七

近代日本の風景画概説

石井 柏亭 国立近代美術館ニ 二〇

日本の風景画(座談会)

林 武 藝術新潮 七ノ八

現代スペイン絵画の展望(対談)

三雲祥之助 宮本三郎 みづゑ 六ノ八

展覧(対談)

朝倉 撰 読売夕刊 七ノ六

日本画というものの中心

伊東 深水 北川 桃雄 世 界 二

新しい日本画のため(対談)

加山 又造 朝日 三ノ六

日本画への反省

鹿兒島貞良 藝術学 四

日本画壇

裕 伊之助 藝術新潮 七ノ二〇

絵画(日本の藝術)

佐々木基一 群 像 五

世界の風俗画(対談)	富永 惣一	藝術新潮	セノ三
美人画といふもの・序説	宮本 三郎	藝術新潮	セノ三
美人画へのあこがれ	水沢 澄夫	三 彩	七
美人画へのあこがれ	室生 犀星	藝術新潮	セノセ
明治以後の風俗画	近藤市太郎	国立近代美術館ニ	二五
美人風俗画のはなし(対談)	石井 柏亭	美術手帖	二二
美人風俗画のはなし(対談)	木村 荘八	美術手帖	二二
浮世絵と美人画	近藤市太郎	三 彩	七
特集・世界の風刺絵画	野間 清六	アトリエ	三六
日本風刺絵画の系譜	須山 計一	シ	シ
欧米・カルカチュアの系譜	辻 まこと	シ	シ
現代絵画への風刺としての現代絵画について	滝口 修造	シ	シ
現代絵画の風刺性	諸 家	シ	シ
自作の現代性	瀨木 慎一	シ	シ
現代商業美術の風刺とユーモア	滝口 修造	国立近代美術館ニ	二〇
現代絵画の風刺性	須山 計一	シ	シ
現代絵画と風刺性	飯沢 匡	シ	シ
明治以降の風刺画の流れ	須山 計一	シ	シ
このごろの日本漫画	須山 計一	美術手帖	二〇六
近代日本のまんが	柳 亮	シ	二〇七
新聞の挿絵	中村 義一	美術批評	三三
具象絵画の再認識のために	針生 一郎	みづゑ	六〇六
夜の世界的藝術家たち―表現主義と幻想―	針生 一郎	美術批評	三三
絵画―	中原 佑介	美術批評	三三
密室の絵画	中原 佑介	美術批評	三三
風景画の復活―フランスにおける絵画論争―	大島 博光	美術批評	三
フーリッシュ批判とその結果―フランスにおける絵画論争(二)―	黒田英一郎	美術学	七
非物象絵画の限界	黒田英一郎	美術学	七
特集・シニフィアン・ド・ランフォルメル	富永 惣一	みづゑ	六七
今日の空間	富永 惣一	シ	シ
別の美学について	タビエル	シ	シ
現代美術入門・抽象絵画とは何だろう	阿部 展也	美術手帖	二七
現代美術入門・抽象絵画とは何だろう	津高 和一	シ	二八
現代美術入門・抽象絵画とは何だろう	今泉 篤男	シ	シ
でなく感じるものタルクイニアのエトルスク壁画	宮本 三郎	藝術新潮	七〇五
壁 画(座談会)	阿部 展也	シ	七〇七
モダン 障壁画	丹下 健三	シ	七〇七
アメリカの現代版画	勝見 勝	美術手帖	二四
寸感	斎藤 清	美術手帖	二四
フランスの現代版画	滝口 修造	国立近代美術館ニ	一六
日本の現代版画―数と版を話題に―	小野 忠重	シ	シ
現代の版画(対談)	久保貞次郎	藝術新潮	七〇六
油えのぐでできるオフセット版画	駒井 哲郎	美術手帖	二五
亡びゆく浮世絵木版(座談会)	鈴木わたる	美術手帖	二五
亡びゆく浮世絵木版(座談会)	大倉半兵衛	シ	二四
亡びゆく浮世絵木版(座談会)	安藤 豊久	シ	二四
亡びゆく浮世絵木版(座談会)	植田 秀	シ	二四
亡びゆく浮世絵木版(座談会)	木村 荘八	シ	二四
技法・空間を描く―人物・静物の場合―	宮本 三郎	美術手帖	二五
技法・空間の表現(風景画)	末松 正樹	シ	二〇六
技法・空間の表現(抽象絵画の場合)	末松 正樹	シ	二〇七
技法・まずスケッチから	斎藤 長三	シ	二〇八
スケッチの材料	田中せい子	シ	二〇八
スケッチ日記1(野)	田中せい子	シ	二〇八
スケッチ日記2(公園)	田中せい子	シ	二〇八
スケッチ日記3(花)	野間 佳子	シ	二〇八
スケッチブック拝見	仲田 好江	シ	二〇八
スケッチブック拝見	利根山 光子	シ	二〇八
スケッチブック拝見	難波 竜起	シ	二〇八
技法・まずスケッチから	加山 四郎	シ	二〇八
スケッチ日記4(工場)	佐田 隆勝	シ	二〇八
スケッチ日記5(町)	阿部 隆吉	シ	二〇八
スケッチブック拝見	向井 潤吉	シ	二〇八
スケッチブック拝見	阿部 隆吉	シ	二〇八
スケッチブック拝見	阿部 隆吉	シ	二〇八
技法・まずスケッチから	杉全 魁夷	シ	二〇八
スケッチ日記6(河)	田中田 鶴子	シ	二〇八
スケッチ日記7(池畔)	青山 義雄	シ	二〇八
スケッチブック拝見	木下 義謙	シ	二〇八
スケッチブック拝見	上田 洋子	シ	二〇八
スケッチブック拝見	福田 豊四郎	シ	二〇八
スケッチブック拝見	田中せい子	シ	二〇八
スケッチブック拝見	小川 マリ	シ	二〇八
スケッチブック拝見	風間 芳雄	シ	二〇八

技法・海を描く	山本 正三	美術手帖	二二
技法・人を描く	中谷 泰	美術手帖	二二
技法・港街を描く	石川 滋彦	美術手帖	二二
技法・画面を構成する―静物を扱つて―	三雲祥之助	美術手帖	二二
技法・フォルムの把握―人体によつて―	久保 守	美術手帖	二二
特集・素描による人間追求	宮本 三郎	アトリエ	三〇七
特集・一人のモデルと五人の画家(如何にとらえたか)	山口 節子	美術手帖	二七
特集・風景画の実技	中村 善策	美術手帖	二五
特集・肖像画入門	石井 柏亭	美術手帖	二五
特集・洋画の生きたメチエ	高橋 忠弥	美術手帖	二五
特集・モデルによる人物画入門	小磯 良平	美術手帖	二五
特集・壁面・デッサン	林 武	美術手帖	二五
特集・裸体のクロックキーの描き方	黒田 頼綱	美術手帖	二五
特集・抽象絵画はどうか	難波田龍起	美術手帖	二五
風景の写生(日本画初歩4)	東山 魁夷	美術手帖	二五
日本画技法の流れ(一)	中村 岳陵	美術手帖	二五
日本画技法の流れ(二)	中村 深男	美術手帖	二五
黎明期の日本の洋画(口絵解説)	嘉門 安雄	美術手帖	二五

美術文獻目録

彫 塑	日本の彫刻―上代と現代	野間 清六	美術手帖	三
彫 塑	彫刻発見の時代―ロダニズムからポスト・ロダニズムへ―	柳 亮	美術手帖	三
彫 塑	明治時代の彫塑団体青年彫塑会について	中村伝三郎	美術研究	一八四
彫 塑	ゼンナー銅像について	国立博物館	美術手帖	二二
彫 塑	日本前衛彫刻の成長近代彫刻への反省(新人の発言)	植村鷹千代	美術手帖	三
彫 塑	銅像彫刻は何処へ行	向井 良吉	美術手帖	三
彫 塑	彫刻界の暗流	土方 定一	美術新潮	七〇九
彫 塑	世界の彫刻(1)(2)	伊東 繁	美術手帖	七〇八
彫 塑	ギリシア彫刻―一つ	アンドレ・キルロフ	美術手帖	七〇二
彫 塑	の青年像の思い出	小松 清沢	美術手帖	七〇三
彫 塑	二十世紀の彫刻	三輪 福松	美術手帖	七〇三
彫 塑	西歐現代彫刻の展望	瀬戸 慶久	総合世界	二〇
彫 塑	ヨーロッパ彫刻の動き	本郷 新	美術手帖	三
彫 塑	ユーゴ・スラヴィアのステチャク	富永 惣一	美術手帖	三
彫 塑	倉田 三郎	美術手帖	三	

工 藝 ・ デ ザ イ ン	現代彫塑に関する文献(美術閲覧室)最近の洋書から	倉田 三郎	国立近代美術館	三
工 藝 ・ デ ザ イ ン	ユーゴスラヴィアのステチャク(続)	倉田 三郎	国立近代美術館	三
工 藝 ・ デ ザ イ ン	北欧のブリレイ・スカルプ	由良 玲吉	美術手帖	二〇八
工 藝 ・ デ ザ イ ン	ブリレイ・スカルプ	中村 伸	国際建築	三三〇六
工 藝 ・ デ ザ イ ン	時評・ブリレイ・スカルプ	中村 伸	美術手帖	二〇八
工 藝 ・ デ ザ イ ン	北欧のブリレイ・スカルプ	手塚又四郎	美術手帖	二〇八
工 藝 ・ デ ザ イ ン	E・Mニールセンの作品	手塚又四郎	美術手帖	二〇八
工 藝 ・ デ ザ イ ン	アメリカのブリレイ・スカルプ	手塚又四郎	美術手帖	二〇八
工 藝 ・ デ ザ イ ン	名古屋東山公園のブリレイ・スカルプ	手塚又四郎	美術手帖	二〇八
工 藝 ・ デ ザ イ ン	チユア	手塚又四郎	美術手帖	二〇八
工 藝 ・ デ ザ イ ン	明治期窯業と宮川香山	中川 千咲	美術研究	一八九
工 藝 ・ デ ザ イ ン	陶藝(対談)	富本 憲吉	美術研究	一八九
工 藝 ・ デ ザ イ ン	陶技随想	内藤 匡	美術研究	一八九
工 藝 ・ デ ザ イ ン	西洋で見た焼物(一)	富本 憲吉	美術研究	一八九
工 藝 ・ デ ザ イ ン	西洋で見た焼物(二)	富本 憲吉	美術研究	一八九
工 藝 ・ デ ザ イ ン	洋陶隨筆	谷川 徹三	美術研究	一八九
工 藝 ・ デ ザ イ ン	ソ聯の陶業	富永 惣一	美術研究	一八九
工 藝 ・ デ ザ イ ン	北欧の陶磁器(対談)	加藤唐九郎	美術研究	一八九
工 藝 ・ デ ザ イ ン	窯のある国(アメリカ)	加藤 顕清	美術研究	一八九
工 藝 ・ デ ザ イ ン	アメリカの陶器	芳武 茂介	美術研究	一八九
工 藝 ・ デ ザ イ ン	アメリカの陶器	M・グロス	美術研究	一八九
工 藝 ・ デ ザ イ ン	アメリカの陶器	河井 博次	美術研究	一八九

陶器にむすぶ心	リチャード・ヒューブ	淡交	五九	窯のある国(オーストリア)	リチ・ウエス・ノ・リツク	ス	五九	窯のある国(オーストリア)	リチ・ウエス・ノ・リツク	ス	五九
埃太利の陶磁器	上野伊三郎	ス	五九	窯のある国(メキシコ)	ルベン・デ・ラ・ボルボリヤ	ス	五九	窯のある国(メキシコ)	ルベン・デ・ラ・ボルボリヤ	ス	五九
メキシコ古代文化とその土器	イサベル・マリ	ス	五九	メキシコ民藝の土器と陶器	イサベル・マリ	ス	五九	メキシコ民藝の土器と陶器	イサベル・マリ	ス	五九
窯のある国(イタリ)	サンドロー市川	ス	五九	窯のある国(イタリ)	サンドロー市川	ス	五九	窯のある国(イタリ)	サンドロー市川	ス	五九
イタリーの陶器	山田智三郎	ス	五九	イタリーの陶器	山田智三郎	ス	五九	イタリーの陶器	山田智三郎	ス	五九
イタリー陶器の美しさ	シャロツテ・オツプラー	ス	五九	イタリー陶器の美しさ	シャロツテ・オツプラー	ス	五九	イタリー陶器の美しさ	シャロツテ・オツプラー	ス	五九
窯のある国(ドイツ)	岡崎敬	ス	五九	窯のある国(ドイツ)	岡崎敬	ス	五九	窯のある国(ドイツ)	岡崎敬	ス	五九
独乙の陶藝の歴史	会田裕宜	ス	五九	独乙の陶藝の歴史	会田裕宜	ス	五九	独乙の陶藝の歴史	会田裕宜	ス	五九
ドイツの陶藝	淡島雅吉	ス	五九	ドイツの陶藝	淡島雅吉	ス	五九	ドイツの陶藝	淡島雅吉	ス	五九
窯のある国(イラン)	神谷栄子	ス	五九	窯のある国(イラン)	神谷栄子	ス	五九	窯のある国(イラン)	神谷栄子	ス	五九
イラン高原の旅	清水幸太郎	ス	五九	イラン高原の旅	清水幸太郎	ス	五九	イラン高原の旅	清水幸太郎	ス	五九
中共の七宝焼	自由学園工芸研究所	ス	五九	中共の七宝焼	自由学園工芸研究所	ス	五九	中共の七宝焼	自由学園工芸研究所	ス	五九
ガラス器難解	美術手帖	ス	五九	ガラス器難解	美術手帖	ス	五九	ガラス器難解	美術手帖	ス	五九
明治の型友禪千絵の見本製調査を主として	日経	ス	五九	明治の型友禪千絵の見本製調査を主として	日経	ス	五九	明治の型友禪千絵の見本製調査を主として	日経	ス	五九
忘れられた「長板中形」	日本美術	ス	五九	忘れられた「長板中形」	日本美術	ス	五九	忘れられた「長板中形」	日本美術	ス	五九
紙の夾染	三隅貞吉	ス	五九	紙の夾染	三隅貞吉	ス	五九	紙の夾染	三隅貞吉	ス	五九
鍍絵と具先生	日本美術	ス	五九	鍍絵と具先生	日本美術	ス	五九	鍍絵と具先生	日本美術	ス	五九
デザイン展望	岩田知夫	ス	三〇	デザイン展望	岩田知夫	ス	三〇	デザイン展望	岩田知夫	ス	三〇
建築デザイン	長狂平	ス	三〇	建築デザイン	長狂平	ス	三〇	建築デザイン	長狂平	ス	三〇
工業デザイン	浜村順	ス	三〇	工業デザイン	浜村順	ス	三〇	工業デザイン	浜村順	ス	三〇
商業デザイン	浜口隆一	ス	三〇	商業デザイン	浜口隆一	ス	三〇	商業デザイン	浜口隆一	ス	三〇
デザイン各分野の連係性	前田泰次	ス	三〇	デザイン各分野の連係性	前田泰次	ス	三〇	デザイン各分野の連係性	前田泰次	ス	三〇
現代における工藝の意義	芳武茂介	ス	三〇	現代における工藝の意義	芳武茂介	ス	三〇	現代における工藝の意義	芳武茂介	ス	三〇
グッド・デザインと日本のクラフト	渡辺力	ス	三〇	グッド・デザインと日本のクラフト	渡辺力	ス	三〇	グッド・デザインと日本のクラフト	渡辺力	ス	三〇
グッドデザインをめぐって—ジョージ・ネルソンの意見など—	ニユース	ス	三〇	グッドデザインをめぐって—ジョージ・ネルソンの意見など—	ニユース	ス	三〇	グッドデザインをめぐって—ジョージ・ネルソンの意見など—	ニユース	ス	三〇
現代デザインの六章(現代のフォルム、使用性、アイディア、生産性、新しい材料、外観のアップビル)	ニユース	ス	三〇	現代デザインの六章(現代のフォルム、使用性、アイディア、生産性、新しい材料、外観のアップビル)	ニユース	ス	三〇	現代デザインの六章(現代のフォルム、使用性、アイディア、生産性、新しい材料、外観のアップビル)	ニユース	ス	三〇
デザインにおける協同について	杉本哲夫	ス	三〇	デザインにおける協同について	杉本哲夫	ス	三〇	デザインにおける協同について	杉本哲夫	ス	三〇
ワックスマン教授の提案する協同設計の方法	GKデザイン研究室	ス	三〇	ワックスマン教授の提案する協同設計の方法	GKデザイン研究室	ス	三〇	ワックスマン教授の提案する協同設計の方法	GKデザイン研究室	ス	三〇
グループ活動について—共同体の構成	KAKデザイングループ	ス	三〇	グループ活動について—共同体の構成	KAKデザイングループ	ス	三〇	グループ活動について—共同体の構成	KAKデザイングループ	ス	三〇
痛感されるパートナーの有難味	小杉二郎	ス	三〇	痛感されるパートナーの有難味	小杉二郎	ス	三〇	痛感されるパートナーの有難味	小杉二郎	ス	三〇
工業デザインにおける協同について	豊口克平	ス	三〇	工業デザインにおける協同について	豊口克平	ス	三〇	工業デザインにおける協同について	豊口克平	ス	三〇
戦後日本の工業デザイン	会田太夫	ス	三〇	戦後日本の工業デザイン	会田太夫	ス	三〇	戦後日本の工業デザイン	会田太夫	ス	三〇
工業デザインと幾何学的線などについて	勝見勝	ス	三〇	工業デザインと幾何学的線などについて	勝見勝	ス	三〇	工業デザインと幾何学的線などについて	勝見勝	ス	三〇
機能と形態(一)	岡本太郎	ス	三〇	機能と形態(一)	岡本太郎	ス	三〇	機能と形態(一)	岡本太郎	ス	三〇
デザインと人間—現代造形への批判—	建築文化	ス	三〇	デザインと人間—現代造形への批判—	建築文化	ス	三〇	デザインと人間—現代造形への批判—	建築文化	ス	三〇
金庫の加工とデザイン	芳武茂介	ス	三七	金庫の加工とデザイン	芳武茂介	ス	三七	金庫の加工とデザイン	芳武茂介	ス	三七
次代のデザインを語る(懇談会)	五大大学デザイン専攻学	ス	三七	次代のデザインを語る(懇談会)	五大大学デザイン専攻学	ス	三七	次代のデザインを語る(懇談会)	五大大学デザイン専攻学	ス	三七
新しい家具デザイン	渡辺力	ス	三七	新しい家具デザイン	渡辺力	ス	三七	新しい家具デザイン	渡辺力	ス	三七
生活・家具・デザインの展望	剣持勇	ス	三七	生活・家具・デザインの展望	剣持勇	ス	三七	生活・家具・デザインの展望	剣持勇	ス	三七
暮らしの中の家具・什器	浜口隆一	ス	三七	暮らしの中の家具・什器	浜口隆一	ス	三七	暮らしの中の家具・什器	浜口隆一	ス	三七
アメリカの家具	豊口克平	ス	三七	アメリカの家具	豊口克平	ス	三七	アメリカの家具	豊口克平	ス	三七
ノル・グループ家具のコレクションとインテリア・デザイン	水之江忠臣	ス	三七	ノル・グループ家具のコレクションとインテリア・デザイン	水之江忠臣	ス	三七	ノル・グループ家具のコレクションとインテリア・デザイン	水之江忠臣	ス	三七
ハーマンミラー家具会社の足跡	森田良夫	ス	三七	ハーマンミラー家具会社の足跡	森田良夫	ス	三七	ハーマンミラー家具会社の足跡	森田良夫	ス	三七
椅子のカタチと腰かけのフォルム	豊口克平	ス	三七	椅子のカタチと腰かけのフォルム	豊口克平	ス	三七	椅子のカタチと腰かけのフォルム	豊口克平	ス	三七
デザイン・ポリエス	IAI意匠部	ス	三七	デザイン・ポリエス	IAI意匠部	ス	三七	デザイン・ポリエス	IAI意匠部	ス	三七
テール樹脂の桶と杓子	ニユース	ス	三七	テール樹脂の桶と杓子	ニユース	ス	三七	テール樹脂の桶と杓子	ニユース	ス	三七
デザイン・サラダ	ニユース	ス	三七	デザイン・サラダ	ニユース	ス	三七	デザイン・サラダ	ニユース	ス	三七
デザイン・和食器	浦松佐美太郎	ス	三七	デザイン・和食器	浦松佐美太郎	ス	三七	デザイン・和食器	浦松佐美太郎	ス	三七
登山用具のデザイン	長狂平	ス	三七	登山用具のデザイン	長狂平	ス	三七	登山用具のデザイン	長狂平	ス	三七
時計の機能とフォルム	山口正城	ス	三七	時計の機能とフォルム	山口正城	ス	三七	時計の機能とフォルム	山口正城	ス	三七
光の造形	黒瀬英雄	ス	三七	光の造形	黒瀬英雄	ス	三七	光の造形	黒瀬英雄	ス	三七
照明器具のデザイン	工ニユース	ス	三七	照明器具のデザイン	工ニユース	ス	三七	照明器具のデザイン	工ニユース	ス	三七
最近の照明器具とそのデザイン	佐藤章三	ス	三七	最近の照明器具とそのデザイン	佐藤章三	ス	三七	最近の照明器具とそのデザイン	佐藤章三	ス	三七
自動車・デザインとファッショナーデザイン	本島三良	ス	三七	自動車・デザインとファッショナーデザイン	本島三良	ス	三七	自動車・デザインとファッショナーデザイン	本島三良	ス	三七
イナナーの本音	高林盛久	ス	三七	イナナーの本音	高林盛久	ス	三七	イナナーの本音	高林盛久	ス	三七
機関車の形体美	ニユース	ス	三七	機関車の形体美	ニユース	ス	三七	機関車の形体美	ニユース	ス	三七
輸出入鉄道車両のデザイン	ニユース	ス	三七	輸出入鉄道車両のデザイン	ニユース	ス	三七	輸出入鉄道車両のデザイン	ニユース	ス	三七

住居とインダストリアルデザイン 柳 宗理 建築文化 二四

船の室内装飾 水谷 文平 工ニユース 二四ノ八

書と室内デザイン 浜口 隆一 リビングデザイン 二九

化粧のためのデザイン 由良 玲吉 多 二五

写真とデザイン 原 弘 国立近代美術館ニユース 三〇

原子力平和利用のポスター 東野 芳明 リビングデザイン 三三

マークの歴史 亀倉 雄策 多 三六

自然にみるデザイン・ソリス新しいデザイン 高橋 正人 多 三六

ザイジョンの発見 山口 正城 多 三〇

微視と巨視への眼 丹下健三・柳宗理・力 多 三六

古いもの・新しいもの(座談会)日本の伝統的テクスチュアを中心に 渡辺 多 三六

インダストリアル・デザインへの道 山口 正城 工ニユース 二四ノ二

私は工業デザイナーに必要な素質と知識をこのように考えます 小杉 二郎 多 三

グット・デザインは売れるか 剣持 勇 藝術新潮 セノハ

今日のフォルム(スビードとデザイン) 小杉 二郎 リビングデザイン 二八

モダンアート・流線形・近代日本調・デザインをこう思う 須賀 通泰 建築文化 二二三

生活に役立つ造形 勝見 勝 読売夕刊 六六

デザインは過多か 朝 日 三・六

軽美学はんらんへヤイ・スタイルから高層ビルまで 今 和次郎 産経時事 二・二二

街でひろったデザイン(一) 勝見勝・山口勝弘・北山 三 リビングデザイン 一八一三

デザインと色彩心理 大智 浩 多 三二一七

デザイン十二の問題 剣持勇・小池岩太郎・小杉二郎・豊口克平・他四氏 工ニユース 二四ノ三

これからの日本の工業デザイン(第四回新日本工業デザイン・コンペティションの審査を終えて) 勝見 勝 多 二四ノ七

第二回(一九五五年)毎日産業デザイン賞選考に加えて アスベンの国際デザイン会議 清家 清 多 二四ノ五

アスベンの国際デザイン報告 柳 宗理 リビングデザイン 三三

アメリカ視察から帰つて(座談会) 豊口・柳・木・三輪・真野・淡島 工ニユース 二四ノ二〇

英国産業のデザイン・センター 一九五五年度イタリ黄金コンパス賞イタリアのインダストリアル・デザイン 明石 一男 リビングデザイン 二七

建築美学(一) 板垣 鷹穂 国際建築 一三三

建築という藝術(内) 中村 順平 多 一三三

建築藝術学の提案―デザイン科学はいかにして可能か― 井上 充夫 建築雑誌 八三

近代建築における空間構成の問題 阿部 公正 学芸 三ノ八

機能主義ノイローゼ 中村隆臣 国際建築 三ノ八

合理主義の危機・コルビュジェのロンシヤンの教会によせて 向井 正也 日本建築学会論文報告集 三

センセーションリズムの建築・序説(その一)―極限主義的指向性について― 山本 学治 国際建築 三ノ一

現実の発展と近代化の努力との結合 浅田 孝 新建築 三

文明を築くもの―建築創造におけるわれわれの態度― 藤井 三郎 国際建築 三

社会主義リアリズム 建築の歴史の意義 人建築家 多 三三ノ二

建築実務の変遷と個人建築家 葉山 一夫 新建築 三ノ二〇

建築創造におけるレアリズムの方法 生田 勉 建築文化 二二五

通信省建築の系譜 西山 卯三 新建築 三ノ四

日本建築運動の三十年 村松貞次郎 多 三

建築の昭和史・年表 一八五一年のCrystal Palace 嶋田 勝次 日建学会研究報告 三

一八五一年のCrystal Palace 嶋田 勝次 日建学会研究報告 三

一八五一年のCrystal Palace 嶋田 勝次 日建学会研究報告 三

一八五一年のCrystal Palace 嶋田 勝次 日建学会研究報告 三

一八五一年のCrystal Palace 嶋田 勝次 日建学会研究報告 三

一八五一年のCrystal Palace 嶋田 勝次 日建学会研究報告 三

一八五一年のCrystal Palace 嶋田 勝次 日建学会研究報告 三

一八五一年のCrystal Palace 嶋田 勝次 日建学会研究報告 三

一八五一年のCrystal Palace 嶋田 勝次 日建学会研究報告 三

一八五一年のCrystal Palace 嶋田 勝次 日建学会研究報告 三

一八五一年のCrystal Palace 嶋田 勝次 日建学会研究報告 三

一八五一年のCrystal Palace 嶋田 勝次 日建学会研究報告 三

二十世紀の建築	瀬戸 慶久	綜合世界	二〇	現代建築の表現と不安の意識をつく	村松貞次郎	新建築	三ノ五	建築家はファシストか	池辺 陽	藝術新潮	七ノ四
ソヴェト建築の民族主義的傾向性	藤井 三郎	国際建築	三ノ八	現代の建築感情・不安感論争をめぐつて	武藤 清	新建築	三ノ五	日本の近代建築と窓	田村 育生	日本工藝	九
メキシコ建築の伝統・ホルスト・ハルトウング教授の講演によせて	岩田 知夫	建築雑誌	八三	不安感論争をめぐつて	戸川 行高	建築文化	二八	日本のカーテンウォールのあゆみ	雨宮 亮平	国際建築	三ノ三
イギリス封建城郭雜考	小室 栄一	駿台史学	六	構造設計は過信されていまいか	竹山謙三郎	シ	シ	コンクリート建築	大高 正人	建築文化	二九
インドの建築に学ぶ—民家と近代建築をめぐつて—(対談)	イサムノグチ	丹下 健三	六〇	ガラス建築の不安感	浜口 隆一	シ	シ	住いにおけるコンクリートの意味	池辺 陽	新建築	三ノ二
建築家と魔術師—ドニーズ・アトランに捧ぐ	ラゴン・ミシエル・東野芳明訳	美術批評	四	不安感論争の社会的背景	渡辺 保忠	シ	シ	過去の旗じるしを見なおす	中村 隆臣	国際建築	三ノ八
写真(その一、二)	向井 正也	日建学会 研究報告	三	現代建築の健康さ	阿部 公正	シ	シ	伝統をどう克服するか?(討論)	諸 家	新建築	三ノ三
近代建築(世界の日本人)	柳 宗理	国際建築	三ノ三	現代建築の課題(対談)	丹下 健三	朝 日	四・三	日本の古典とどう取りかか(対談)—建築の作家として—	丹下 健三	美術手帖	二五
ジャポニカの喜劇	清家 清	藝術新潮	七ノ三	現代の表現・建築家としての現代のとりえ方(座談会)	阿部 公正	シ	シ	現代建築の発展と伝統の意識	山本 学治	新建築	三ノ七
世界に流行するジャポニカ調	柳 宗理	国際建築	三ノ三	建築家と現代の意識	柳山 英男	シ	シ	生きている日本の伝統	清家 清	産経夕刊	二〇・二〇
建築・デザインにおけるオリエンタリズム	浜口 隆一	藝術新潮	七ノ三	建築設計家として民衆をどう把握するか?	池辺 陽	シ	二九	かくれたる原動力—現代建築と伝統の問題—	岩田 知夫	美術批評	五
近代デザインにおけるテクニチュアとオートマテイズム	向井 正也	研究紀要	三	右同池辺・丹下・西山論文を読んで(シンポジウム)	丹下 健三	シ	二九	現代建築の創造と日本建築の伝統	丹下 健三	新建築	三ノ六
形態の「よまひ」に関する諸問題	井上 充夫	日建学会 研究報告	三	西山卯三の「現代の建築」をめぐつて	池辺 陽	シ	二九	現代における和風建築の問題(座談会)	神谷 安治	建築文化	二〇
アーバンデザインについて(一)	波多江健郎	建築文化	二〇、二三	特集・建築家は民衆をどう把握するか(討論会)	諸 家	シ	二〇	内部の問題としての数寄屋	渡辺 昌二	建築文化	二〇
家—街路—都市	ピエト・モンドリアン	工藝ニュース	二四ノ五	創立七十周年記念ゼミナール・現代建築の探究	丹下・高橋・岩田・池部・林・針生・大高・葉山	美術批評	二二	数寄屋建築について	堀口 捨己	建築文化	二〇
現代建築と不安感	出原栄一訳	朝 日	一・二〇	現代建築のクロスロ	丹下・森・橋尾・佐野	建築雑誌	八四	数寄屋建築ノート	岡田 哲郎	シ	シ
現代建築の不安感—藝術性と実用性の問題—	浜口 隆一	朝 日	一・一九	現代建築十二の問題	外 田 員人	国際建築	八	「人形浄るり劇場」の型を創る	中村 登一	シ	シ
	森本 良平	シ	二・二五		田 員人	国際建築	八		吉田五十八	国際建築	三ノ三
	伊吹 弘	シ	二・二五		田 員人	藝術新潮	七ノ五		今 和次郎	新建築	三ノ八

現代の眼における民家の帯域空間	西川 驍	建築文化	二六
建築設計と現代の意識に関する一つのエッセイ	神代雄一郎	シ	二八
五万人の広場(広島ピアス・センターの完成まで)	丹下 健三	藝術新潮	七〇一
カラカスの近代美術館・ヴェネズエラ	吉阪 隆正	国際建築	三三〇二
ピエンナレ日本館	吉阪 隆正	シ	三三〇二
日本館のこと	吉阪 隆正	国立近代美術館ニ	一六
ヴェニス	シ	藝術新潮	七〇二〇
ヴェニス	シ	シ	七〇一
ヴェニス	シ	シ	七〇一
石橋文化センターについで	菊竹 清訓	新建築	三三〇九
大天龍佐久間ダム(絵と文)	利根山光人	シ	三三〇〇
慰霊碑	岸田日出刀	建築文化	一三
日本民藝館(建もの漫歩)	朝 日	シ	六二五
武蔵野郷土館(建もの漫歩)	シ	シ	六二六
鳩林荘の建武庵(建もの漫歩)	シ	シ	六二九
湯島聖堂(建もの漫歩)	シ	シ	六三三
哲学堂(建もの漫歩)	シ	シ	六三三
大倉集古館(建もの漫歩)	シ	シ	七一
国会図書館・旧赤坂離宮(建もの漫歩)	シ	シ	七五
龍土軒(建もの漫歩)	シ	シ	七三
新しい建築・建てる人と住む人	池辺 陽	リビングデザイン	二六

木で家をつくること	近藤 正一	国際建築	三三〇四
(I) 設計者の立場	清田 清勉	シ	シ
(II) 設計者の立場	木下 正夫	シ	シ
木造住宅のデザイン	岡本 敦	リビングデザイン	二七
小住宅設計のために	シ	シ	シ
現代のすまい・森曉邸	石本喜久治	藝術新潮	七〇一
設計者の立場	森 暁	シ	シ
茶の間重点	山口 芳春	シ	シ
現代のすまい・武者小路実篤邸	武者小路実篤	シ	七〇二
設計者の立場	シ	シ	シ
仕事場のこと	田喜一郎	シ	七〇三
現代のすまい・井ヶ田喜一郎邸	井ヶ田喜一郎	シ	シ
設計者の立場	鉢之原捷夫	シ	シ
全実族のための家	清水 一	シ	七〇四
現代のすまい・正田貞一郎邸	正田貞一郎	シ	シ
設計者の立場	森 京介	シ	七〇五
住みなれた場所	津村 重孝	シ	シ
現代のすまい・津村重孝邸	シ	シ	シ
設計者の立場	天野 太郎	シ	七〇六
建築家への協力	石川 六郎	シ	シ
現代のすまい・石川六郎邸	シ	シ	シ
設計者の立場	シ	シ	シ
ライト風の家	シ	シ	シ
現代のすまい・柴山寿雄邸	シ	シ	七〇七
設計者の立場	松本 昭	シ	シ
憩いの場として	柴山 寿雄	シ	シ
現代のすまい・渡辺曉雄邸	横山 公男	シ	シ
設計者の立場	渡辺 曉雄	シ	七〇九
防音と展望と	シ	シ	シ
現代のすまい・山脇敏子邸	柳 英男	シ	シ
設計者の立場	山脇 敏子	シ	七〇〇
超モダンの家	網戸 武夫	シ	シ
現代のすまい・金田一郎邸	金田 一郎	シ	シ
設計者の立場	シ	シ	シ
設計者の立場	福永 満八	シ	七〇二
畳から椅子へ	菊田 一夫	シ	シ
現代のすまい・菊田一夫邸	シ	シ	シ
設計者の立場	大江 宏	シ	七〇三
我が家の設計	茂木佐兵治	シ	シ
現代のすまい・茂木邸	池原謙一郎	美術手帖	二〇七
設計者の立場	池原謙一郎	シ	シ
古い町の新しい家	池原謙一郎	国際建築	三三〇八
現代の庭について	シ	シ	三三〇六
—その造形的・生活的断面—	前野淳一郎	シ	シ
造園の研究サークル	田中 正夫	シ	シ
現代造園をめぐる諸問題	金子 九郎	シ	シ
展開する庭園の概念(明日の庭)	池原謙一郎	シ	シ
日本造園史の反省	塩田 敏志	シ	シ
自然感情と造型	シ	シ	シ
庭空間の計画論的考察	シ	シ	シ
建築家と造園家の間	シ	シ	シ

時評

現代文明の病弊と造形文化

特に日本画の領域におけるその影響について

河北 倫明

横川毅一郎

春 四ノ一

レアリティー寸惑

結社と作家の意欲

国際進出の条件

具象と抽象の根底

日本画に望むもの

田近 憲三

田近 憲三

田近 憲三

田近 憲三

田近 憲三

田近 憲三

田近 憲三

田近 憲三

田近 憲三

田近 憲三

田近 憲三

田近 憲三

田近 憲三

田近 憲三

田近 憲三

田近 憲三

田近 憲三

田近 憲三

田近 憲三

田近 憲三

田近 憲三

田近 憲三

田近 憲三

田近 憲三

美術・一年のあゆみ
一九五六年をふりかえつて(建築)

横川毅一郎
日野耕之祐

産経夕刊 三・三
建築文化 三三

一九五六年雑誌に現われた建築写真

浜口 隆一

三

一九五六年の住宅設計を通して

みねぎしや
すお

三

一九五六年の住宅建設の歩み

金子勇次郎

三

雑誌に現われた建築評論の評論

他

三

(美術時評) 共通の言葉の発見

針生 一郎

美術批評 (四)

画壇・中央と地方

船戸 浩

五・三

上半期の美術界

瀬木 慎一

六・三

上半期の美術界 | 新入の方法を中心にして

針生 一郎

美術批評 (七)

グループ活動と新人 | 美術界の動きから

中村 義一

(七)

洋画・秋への期待

瀬木 慎一

朝日 八・三

美術記者によるアンケート・一九五六年度の日本美術界をどうみる?

美術記者
十二氏

美術手帖 二八

世界美術二つの焦点

今泉 篤男

七ノ九

美術(座談会)

益田 義信

七ノ九

存在の限界に、どむもの(一日美術批評家)

推名 麟二

美術手帖 二八

世界性と民族性(一日美術批評家)

武智 鉄二

二〇

美術というもの(一日美術批評家)

徳川 夢声

二四

ELORA異聞(一日美術批評家)

芥川也寸志

二五

複製画による古美術のライブラリーを(一日美術批評家)

中島 健蔵

美術手帖 二七

パンチユール・シヨオ(一日美術批評家)

山崎 清

二八

日本古美術の国際的進出

石沢 正男

国立博物館ニューズ 一〇四

現状調査と紙上保存

榎本 杜人

二〇五

昭和三十一年度の展望

深見吉之助

二〇六

雪舟展の意義

石沢 正男

二〇七

表慶館の考古資料展

矢島 恭介

二〇八

雪舟展を終えて

石沢 正男

二〇九

伝統と現代工藝

岡田 譲

二一〇

社寺の拝観料と観光税問題

深見吉之助

二一一

美術交流の意味

嘉門 安雄

二一二

国際博物館週間に寄す

野間 清六

二一三

仏教美術展に思う

佐藤 貫一

二一四

雪舟展と仏教美術展

岡田 譲

二一五

政治から忘れられた文化財保護

桐谷 俊二

美術批評 (三)

文化勲章と文化の新解釈(社説)

読光

九・三〇

打放しコンクリートの美学

建築文化

二二三

デザイン研修の場

工 藝 ニューズ

二四ノ六

現代様式の創造に歩調をそろえる?

神代雄一郎

国際建築 三三ノ一

アパート設計にのぞむ

葉山 一夫

リビニング デザイン 三

展覧會

新人の問題
今日の新人—一九
五五年展を機会に

二つのアンデパンダ
反自然主義の安全弁
—光風・国画・春陽會
展評

特集・第二回現代日
本美術展
現代日本美術の成
長・変貌・停滞の姿
ば
作品と作家のこと

特集・第二回現代日
本美術展
日本の非具象絵画
の一断面

主流派の三つの顔
日本の感性的の壁

現代日本美術展ベス
ト・テン(座談會)

立軌會展評
新制作・一水會展を
めぐつて(対談)

独立・二紀・自由・
日展を觀て

特集・日展号
日展戦後十年の回顧

作者行方不明の展覧
會
転換期の美術(夏の
個展を中心に)

植村鷹千代 美術手帖 二六

岡本謙次郎 美術新潮 七〇四

針生一郎 美術手帖 六二

柳亮 美術手帖 二二

植村鷹千代 美術手帖 二二

諸家 美術手帖 二二

滝口修造 美術手帖 二二

柳亮 美術手帖 二二

針生一郎 美術手帖 二二

田近憲三 美術手帖 二二

河北倫明 美術手帖 二二

岡本謙次郎 美術手帖 二二

久保貞次郎 美術手帖 二二

瀨木慎一 美術手帖 二二

岡本謙次郎 美術手帖 二二

植村鷹千代 美術手帖 二二

針生一郎 美術手帖 二二

柳亮 美術手帖 二二

私の見た蒼風展
ほんもの・にせもの
展余録

「現代の眼」アジア
の美術史から」展か
ら

「現代の眼」というこ
と

敦煌の壁画模写展
東西美術の激突—明
治・大正・昭和名作
絵画展

国立近代美術館・日
本の彫刻展より

「日本の彫刻」展現代
の部・鑑賞のために

日本の諷刺画—諷刺
画展を綴る—

仏教美術と現代—仏
教美術展をみて—

美術展の眼

第五回現代日本陶藝
展見たまま

仁清展

グットデザイン展を
みて

東洋のデザイン(ス
テューベン・グラス
展)

日本伝統工藝展につ
いて

新匠展を見て

精神な若さの表現
—具体美術展—
日仏新具象派美術展
評

世界今日の美術展
ヴェニス・ビエンナ
1レへの選考

北代 省三 美術手帖 二〇六

大河内菊雄 シ

青野 季吉 新建築 三ノ三

今泉 篤男 日本文化 三

長広 敏雄 朝日 四・四

河北 倫明 毎日 八・九

久世 充 建築文化 二九

本間 正義 国立近代
美術館ニ 三

飯沢 匡 美術新潮 七ノ三

岡本 太郎 シ

内藤 匡 陶 説 四〇

佐藤 進三 陶 説 四〇

中川 千咲 毎日 四・五

浜村 順 リビング
デザイン 七

阿部 展也 美術新潮 七ノ九

西澤 笛舩 萌 春 四ノ二〇

内藤 匡 陶 説 四〇

柳 亮 美術手帖 二八

ヴェニス・ビエンナ
1レ展から(上、下)
レ展(一、四)

ヴェニス・ビエンナ
1レ展(一、四)

ヴェニス・ビエンナ
1レ展(一、四)

ヴェニス・ビエンナ
1レ展(一、四)

ヴェニス・ビエンナ
1レ展(一、四)

ヴェニス・ビエンナ
1レ展(一、四)

ヴェニス・ビエンナ
1レ展(一、四)

ヴェニス・ビエンナ
1レ展(一、四)

ヴェニス・ビエンナ
1レ展(一、四)

ヴェニス・ビエンナ
1レ展(一、四)

ヴェニス・ビエンナ
1レ展(一、四)

ヴェニス・ビエンナ
1レ展(一、四)

ヴェニス・ビエンナ
1レ展(一、四)

ヴェニス・ビエンナ
1レ展(一、四)

ヴェニス・ビエンナ
1レ展(一、四)

ヴェニス・ビエンナ
1レ展(一、四)

ヴェニス・ビエンナ
1レ展(一、四)

ヴェニス・ビエンナ
1レ展(一、四)

富水 惣一 朝日 六・六

今泉 篤男 東京夕刊 六・三

長谷川路可 毎日 六・三〇

阿部 展也 読売 四・五

土方 定一 読売 四・五

滝口 修造 読売 四・五

矢内原伊作 読売 四・五

土方 定一 国立近代
美術館ニ 二六

富水 惣一 美術新潮 七ノ八

長谷川路可 シ

今泉 篤男 美術手帖 二四

今泉 篤男 美術手帖 二四

益田 義信 国立近代
美術館ニ 二六

田淵 安一 東京夕刊 六・五

矢内原伊作 朝日 五・五

岩動 道行 国立近代
美術館ニ 二六

アルコブレ 墨 美 五

今泉 篤男 シ 五

ヨーロッパ展後の書壇へ	今泉 篤男	墨	美	天
経営に表現を与えるもの―第6回世界商業デザイン展	祐葉坊宣明	工藝ニユース		二四ノ七
11回ミラノ・トリエンナーレ展(デザイン展)日本参加計画	亀倉 雄策	リビニングデザイン		三三
イタリアの日本商品展	河野 鷹思	毎日		二二・八
中国で開催の日本商品見本市	橋本 徹郎	リビニングデザイン		三三
今年の展覧会の回顧	河北 倫明	日本文化財		三〇
美術ベスト・スリー(一九五六年度)について	滝口 修造	読売夕刊		二二・五
一九五六年秀作ベスト・テン(座談会)	土方 定一 河北 憲三 河本 謙次郎 瀨木 慎一	藝術新潮		セノ三

教育

よい絵・よくない絵―新しい児童画の教育について	今泉 篤男	美術手帖		二〇六
アメリカの美術教室	上林 澄雄			二〇〇
モダン・アートを教えるアメリカの美術教育(対談)	益田 義信 久保 守			二四
レービン美術学校をみる	井上長三郎			二五
〈教師の記録〉自由学園の場合	山室 光子			二〇八
〈教師の記録〉桜ヶ丘小学校の場合	勝田 寛一			二〇〇
〈教師の記録〉明石小学校	淵上 政夫			二二
〈教師の記録〉落合第五小学校の場合	羽場 徳蔵			二七

〈教師の記録〉岸和田市立山滝小学校の場合	栗岡英之助	美術手帖		二八
新しい教材のために視覚からの心理学夏休みの図工科の課題について(アンケート)	諸氏	小学校教諭		二二三
創造美術第五回セミナー報告	藤田 恭平			二二五
造形教育センターの歩み―展覧会活動を中心に―	小関 利雄	工藝ニユース		二四ノ四
造形教育センター展について―第5回ヴォリュームとオブジュエ―	勝見 勝	新建築		三ノ二
アート・センター・スクールでの教育	原田 昌平	工藝ニユース		二四ノ九
母親と教師のための造形的时间(一)―四	山口 正城	リビニングデザイン		二三一・七
産業デザインと造形教育	勝見 勝 剣持 勇 原 弘他			二七
デザイン教育拝見・桑沢デザイン研究所	高橋 正人 桑沢 洋子他			二五

作家

(絵画・日本)	朝 日	九・九
赤穴桂子(ある生活)	朝 日	九・九
朝倉拱(時の人)	毎 日	二・二
阿部展也(人物メモ)	竹 林 賢	美術手帖 一〇六
有馬生馬(美術人論断)	東 京	三・七
池田遙郎論	加藤 一雄	萌 春 四ノ八
法被物語	池田 遙郎	
裏窓の風景画―石井茂雄論―(新しい世界の作家)	池田 龍雄	美術批評 二二三

「運河に沿える並木」(自作解説)	石井 柏亭	美術手帖		二〇七
特集・伊東深水	造 形	二ノ七		
深水の一面	鑑木 清方			三
伊東君と僕	児玉 希望			三
伊東深水のこと	藤森 淳三			三
深水・寸描	荒城 季夫			三
美術対談(5)美人画について	河北 倫明	三		七
私のスケッチブック	伊東 深水			三
二十代の記録	伊原 宇三郎	美術手帖		二〇八
私の合成樹脂作品	伊原 通夫	リビニングデザイン		三三
今井俊満―	海藤 日出男	美術批評		二〇
岩崎鐸(美術人論断)	鈴木 進	東京夕刊		二二・八
岩橋英遠論	岩田 進	三		九
三十歳のころ	岩田 進	読 売		五・元
岩田専太郎(人寸描)	植村 鷹千代	美術手帖		二二三
植木茂(現代作家小論)	上田 哲農(美術人論断)			
上田哲農(美術人論断)	上村 松篁	東京夕刊		八・三
私のスケッチブック	田 近 憲三	三		五
梅原龍三郎の藝術(口絵解説)	上村 松篁			
梅原龍三郎氏(一筆対面)	嘉門 安雄	文藝春秋		三ノ三
梅原龍三郎(人寸描)	清水 崑	朝日夕刊		四・六
梅原龍三郎氏を訪う	奥野信太郎	朝 日		二・〇
梅原龍三郎の近代	富永 惣一	みづゑ		六二
梅原龍三郎の近代(批評家の三つの意見)	土方 定一 田近 憲三 針生 一郎	藝術新潮		七ノ六
梅原龍三郎と表装裁	川口 松太郎			七ノ一

梅原藝術の三十年 (対談)	梅原龍三郎 宮田 重雄	美術手帖 二〇	美術対談(一〇)	小野 竹喬 河北 倫明	川合玉堂先生	安井誠一郎 尾上 柴舟
四十七年目の再会 (ココとウメハラ)	青山 義雄	日 経 二・三四	私のふるさと	小野 竹喬 ヨシダ・ヨ	玉堂画伯の藝術	吉田絃二郎
榎倉省吾(美術人論 断)	東京夕刊 三・四	東京夕刊 三・四	(新しい世界の作家)	シエ 美術批評(五)	偶庵先生のお正月	河北 倫明
海老原喜之助の近作	久保貞次郎	みづゑ 六六	私の制作とパリ	萩須 高德 毎 日 三・二	私のふるさと	川合 玉堂
海老原喜之助(その 第三時代)(現代作 家小論)	柳 亮	美術手帖 二五	パリの萩須画伯(茶 の間)	今泉 篤男 美術手帖 二〇八	美術対談(六)	川合 玉堂
二〇代の記録	海老原喜之 助	造 形 二〇五	私のふるさと	桑原 幹根 毎日夕刊 三・六	わが変貌の記	河北 倫明
特集 大久保作次郎	荒城 季夫	造 形 二〇三	加藤栄三論	堅山 南風 萌 春 四ノ九	川端龍子(訪問)	川口 軌厓
大久保さんを素描 する	徳川 義親	シ 三	作品(篝火)について	鈴木 進 三 彩 三	川端龍子論	船戸 洪
大久保さんと私 或るエピソード	辻 莊一	シ 三	龍安寺石庭を描く	加藤 栄三 三 彩 三	天井絵の経験	柳 亮
大久保さん一人と 作品	大島 隆一	シ 三	加藤栄三 (美術人論断)	東 京 三・二四	渦潮(私の作意)	川端 龍子
大久保泰(美術人論 断)	東京夕刊 三・五	東京夕刊 三・五	加藤芳郎(シ)	東 京 三・二四	川端実のおしやれ (タンディ列伝1)	産経時事 八・三
大沢昌助(美術人論 断)	柳 亮	美術手帖 二〇	作品「椿」について	東 京 三・二四	加山又造小論	植村鷹千代 三 彩 七
岡鹿之助	岡 鹿之助	美術新潮 七ノ六	金山平三一人と藝術	東 京 三・二四	鬼頭鍋三郎(美術人 論断)	北代 省三
画業三十年	毎日夕刊 六・五	毎日夕刊 六・五	金山平三 (美術人論断)	東 京 三・二四	画家から写真家へ	東京夕刊 七ノ九
クロード・岡本	石原慎太郎	美術手帖 二〇八	(人寸描)	東 京 三・二四	木下孝則(美術人論 断)	東京夕刊 六・三
岡本太郎(訪問)	五味 康祐	美術手帖 二〇八	シ(ふらり見参)	東 京 三・二四	久保守(美術人論断)	東京夕刊 一・七
岡本太郎偶感(一日 美術批評家)	造 形 二二三	造 形 二二三	シ(ふらり見参)	東 京 三・二四	久保守(人物メモ)	東京夕刊 一・七
特集・奥村土牛	荒城 季夫	造 形 二ノ五	縮木清方氏を訪ねて	東 京 三・二四	小糸源太郎氏訪問	東京夕刊 一・七
奥村土牛小論	奥村 土牛	造 形 二ノ五	清方私抄	東 京 三・二四	「日本の風景」展にち なん	東京夕刊 一・七
作家の言葉	河北 倫明	春 四ノ八	亀倉雄策(デザイ ナー訪問)	東 京 三・二四	わが青春記	東京夕刊 一・七
素肌的美と土牛の素 描	奥村 土牛	春 四ノ八	河野鷹思(美術人論 論)	東 京 三・二四	二〇代の記録	東京夕刊 一・七
舞妓の写生	小倉 遊亀	彩 七	求心の絵画(河原温 の作家)	東 京 三・二四	古径さんの事	東京夕刊 一・七
美術対談(八)	河北 倫明	彩 七	名譽都民に顕彰され た川合玉堂翁	東 京 三・二四	古径とその女性画	東京夕刊 一・七

わが筆と墨	近藤浩一路	三	彩	七九	武井武雄(美術人論断)	東京夕刊	一〇六	
坂本繁二郎(訪問)	谷口 鉄雄	美術手帖	二一八	谷内六郎(著)	東京夕刊	五八		
坂本繁二郎	海老原喜之助	藝術新潮	七ノ三	辻まこと(新しい世界の作家)	山本 太郎	美術批評	三	
坂本繁二郎(論)	河北倫明編	シ		島海青児の藝術	富永 惣一	みづゑ	六八	
坂本繁二郎の近作	河北 倫明	みづゑ	六ノ五	島海青児(訪問)	安岡章太郎	美術手帖	二二	
坂本繁二郎氏(文化勲章の人々)	シ	東 京	二〇・三	椿貞雄(美術人論断)	津田青楓先生のこと	東京夕刊	五・三	
坂本繁二郎(文化勲章受賞者訪問)	坂本繁二郎を訪ねて	毎 日	二〇・六	津田青楓(美術人論断)	喜寿回顧展に懐く	津田 青楓	美術手帖	二七
坂本繁二郎を訪ねて	小倉 克之	国立近代美術館	二五	津田青楓さんの日本画	津田青楓	みづゑ	六六	
わが青春記*	佐野繁次郎	ニエース	三七	わが日本画の歴史	津田 青楓	三	彩	
桜井悦(美術人論断)	シ	東 京	三七	津田青楓(美術人論断)	朝 日	二〇・七		
島村三七雄(著)	東京夕刊	九・四	八七	津高和一(美術人論断)	朝 日	二〇・七		
杉浦幸雄(時の人)	毎 日	四・九		寺島紫明私観	武智 鉄二	三	彩	
杉浦幸雄氏(忙月忙日)	東京夕刊	二・三		寺田竹雄(美術人論断)	東 京	三・三		
杉全直(人物メモ)	竹林 賢	美術手帖	二六	はしご酒(私のクセ)	寺田 竹雄	三	彩	
美術対談(四)	杉山 倫明	三	彩	寺田政明(美術人論断)	東 京	三・二		
杉山寧の作風	北川 桃雄	シ	六三	特集・東郷青児	荒城 季夫	シ		
杉山寧について	河北 倫明	文藝春秋	三ノ四	白き手の麗人(東郷青児の描くところの女性)	横川毅一郎	シ		
私のスケッチブック	杉山 寧	三	彩	東郷と二科会	東郷 青児	シ		
作品「孔雀」について	シ	シ	八三	希望	柳 亮	シ		
田代光(美術人論断)	東京夕刊	七・四		東郷青児の作品について	阿部 金剛	シ		
田中忠雄(著)	シ	七・七		初対面	阿部 艶子	東 京	六・五	
田村一男(著)	シ	三・〇		東郷さんの絵(私の美術鑑賞)	本郷 隆	美術批評	六	
高田誠(著)	シ	二・六		「いけにえ」に至る道	利根山光人	朝 日	二・九	
高橋周桑(著)	シ	一〇・三〇		利根山光人訪問(画家と佐久間ダム(新人の発言))	朝 日	二・九		
高間惣七の近作とその多彩性	柳 亮	みづゑ	六四					
高山辰雄訪問記	水沢 澄夫	萌 春	四ノ五					
高山辰雄(美術人論断)	東京夕刊	七・三						

転向日本画家の弁
わが青春記
特集・中沢弘光
中沢氏の特色
中沢先生の藝術
愉しき庶民画家中沢弘光
中沢老を讃える
中沢先生の画業と装幀本
作家の言葉
中村岳陵
中村岳陵作「鉄線花」(解説)
わが青春記
鍋井克之(訪問)
特集・成井弘文
成井弘文の人と作品
日本の成井君に
巴里の成井君
ドイル肖像画によせて
成井君のこと
作家の言葉
成井弘文について
西山翠嶂(美術人論断)
野口弥太郎(訪問)
野田九浦先生を語る
旧臘喜寿を迎えた野田九浦
根岸の思い出
うちの亭主
(野間仁根)

堂本 尚郎 藝術新潮 七ノ八
中川 紀元 東 京 二八
造 形 二ノ六
石井 柏亭
大河内信敬
荒城 季夫
辻 永
鈴木長三郎
中沢 弘光
横川毅一郎 三 彩 七
中村 秀男
永瀬 義郎 東京夕刊 七二
安西 冬衛 美術手帖 二四
造 形 二ノ三
荒城 季夫
藤田 嗣治
宮本 三郎
延原 謙
米川 正夫
成井 弘文
井出 義男
中村 哲 美術手帖 二七
添田 達嶺 萌 春 四ノ二
大野 誠夫
吉岡 堅二
野間志那子 美術手帖 一五
野間 仁根 読売夕刊 九・四

三十歳のころ
(野間仁根)

橋本明治の人と作品 六世歌右衛門を描く わが青春記 浜口陽三(在パリ・ 書簡訪問) 浜田観 浜田知明 (ふらり見参) 原精一(美術人論断) 林武論 林武の横顔 林武論 二〇代のこと 東山魁夷 わが遍歴時代(1)(2) 特集・東山魁夷 東山魁夷の作風 東山魁夷さん 東山魁夷の印象 東山魁夷と私 作家の言葉 東山魁夷を素描する 広田多津 (美術人論断) 福沢一郎 (現代作家小説) 福沢一郎の近作 わが青春記 美術対談(七) 福田豊四郎(時の人) 福田平八郎氏 (二筆対面)	寺田 千壘 三 彩 三 橋本 明治 長谷川春子 東京夕刊 七・三 柳 亮 美術手帖 二・三 猪木 卓爾 萌 春 四ノ七 竹林 賢 美術手帖 二・三 田近 憲三 東京夕刊 六・三 石原 龍一 藝術新潮 七ノ二 石原慎太郎 和泉田正弘 東郷青児 寺田 透 みづゑ 六六 林 武 美術手帖 一〇六 岡本謙次郎 三 彩 七 東山 魁夷 藝術新聞 七ノ九 北川 桃雄 造 形 二ノ二 荒城 季夫 白根 清香 吉阪 俊蔵 東山 魁夷 嘉門 安雄 萌 春 四ノ七 東京夕刊 九・二五	藤田嗣治と古い人形 藤田嗣治との対談 沼の上の花火―藤松 博氏訪問― 堀文子(美術人論断) 前田青邨氏 (二筆対面) 湯治場を描く―制作 余談― 故郷の思い出 ひとつの記録 アパルトを描いて 三岸節子さん (二筆対面) 他流試合―彫刻初入 選の弁― 三谷十糸子(美術人 論断) 宮田重雄(美術人論 断) 宮田重雄(人寸描) 宮本三郎(訪問) 水谷清(美術人論断) 南大路一(訪問) 南大路一(美術人論 断) 向井久万(美術人論 断) 模写修業 三十歳のころ 棟方志功の人と藝術 (座談会) 棟方志功との半日 棟方版画と現代日本 美術 森田沙伊(美術人論 断)	榎本 一夫 美術手帖 二八 伊原宇三郎 読売夕刊 八・七 関根 弘 美術批評 (五) 清水 崑 東京夕刊 六・九 清水 崑 朝日夕刊 一〇・一〇 前田 青邨 藝術新潮 七ノ二 松林 桂月 萌 春 四ノ八 直鍋 博 リビング 六 清水 崑 朝日夕刊 二・五 三雲祥之助 藝術新潮 七ノ三 東京夕刊 二・三 石井 漢 朝 日 八・六 東 京 二・三 結城 信一 美術手帖 一〇七 東 京 三・六 向井 潤吉 藝術新潮 七ノ七 読売夕刊 七・三 柳方 志功 藝術新潮 七ノ八 徳川 宗悦 夢声 松方 三郎 みづゑ 六三 土方 定一 読売夕刊 六・三 東京夕刊 二・七	安田靉彦先生 美術対談(二) 山口薫(現代作家小 論) 藝術院賞を得た山口 華楊 山口逢春の藝術 山口逢春の作品を語 る 美術対談(九) 中国の旅 伝統と戦後―逢春自 薦展の焦点― 山口逢春(人寸描) 山下新太郎の藝術 (口絵解説) 三十歳のころ 山下清と大人の童画 山下清君(二筆対面) 精薄兄は天才でない (山下清君と個性的 藝術家) 横井礼以(美術人論 断) 横山大観炉辺放談 上、中、下 大観と頼十 吉岡堅二について 吉岡堅二の藝術 どせう地獄―吉仲太 造の作品について― (新しい世界の作家) 脇田和(作家訪問) 脇田和(時の人) 統・伝統・選択・創 造1、2、―邦人作 家のことばから	小高根太郎 萌 春 四ノ九 安田 靉彦 三 彩 七 河北 倫明 美術手帖 一〇七 岡本謙次郎 美術手帖 一〇七 猪木 卓爾 萌 春 四ノ六 北川 桃雄 三 彩 七 土方 定一 三 彩 七 井岡 正昭 山口 蓬春 八 河北 倫明 大野 誠夫 萌 春 四ノ二 朝 日 七・三 嘉門 安雄 文藝春秋 三ノ五 山下新太郎 読売夕刊 七・九 小泉 清 藝術新潮 七ノ六 清水 崑 朝日夕刊 二〇・七 島崎 敏樹 産 経 二・三 東京夕刊 一〇・四 野間 清六 東 京 一八・一 藝術新潮 七ノ一 佐波 甫 萌 春 四ノ一〇 和 田 定夫 三 彩 八 河原 温 美術批評 (二) 沢野 久雄 美術手帖 一〇六 毎 日 二・四 水沢 澄夫 美術手帖 一〇七・一〇
---	--	---	---	--	---

3、4、 水沢澄夫 美術手帖 二二、二

画家のリトグラフ (自作解説) 藝術新潮 セノ二

まつり 海老原喜之 〃

鳥と遊ぶ子供たち 脇田 和 〃

朝昼晩 山口 薫 〃

ざくろをもつた女 久保貞次郎 〃

ヴェニス・ピエン ナーレ展出品作家紹介

須田国太郎、小林 和作、脇田和、岡 鹿之助、植木茂、 山口薫、棟方志功、 柳宗悦、山口長男、 松本弘二、山本豊 市、新海竹蔵

国立近代 美術館 二六

梅原と鳥海

ハリイ・バ ッカード 藝術新潮 セノ三

私達の仕事について (対談)

岡 鹿之助 高島達四郎 〃

三人の女性作家(田 中田鶴子、江見絹子、 漆原英子)

中原 佑介 美術批評 二二

新人の言葉

河原 太造 吉仲 宏 赤穴 紗織 芥川 光良 利根山 喜良 田中阿 勝弘 山口 勝弘

新人の問題

東野 芳明 美術批評 二二

期待される新人は何 人いたか—一九五六 年の美術界—

針生 芳一 東野 公英 徳大寺 謙次郎 岡本 慎一 瀬木 慎一

特集・現代優秀作家 選集—其人と作品— (洋画家二十四代) 安井をつぐもの (座 談会)

土方 定一 造 形 二ノ四

田近 憲三 藝術新潮 セノ三

岡本謙次郎 徳大寺公英

飯沢 匡 東京夕刊 四・三

河北 倫明 藝術新潮 セノ四

受賞作家のゆくえ 朝 日 二・三

パリの日本人画家

朝 日 二・三

(絵画・外国)

藝術的断言—カレ ル・アヘルについて—

富永 惣一 みづゑ 六六

ヴラマンクスの復活 (八十歳記念展)

里見 勝蔵 藝術新潮 セノ八

マックス・エルンス トと怪鳥ロブロボ (クローマの画家7)

東野 芳明 美術批評 二二

ラインの思い出

マックス・ エルンスト 江原順訳 〃

クラヴェの挿絵のつ いたガルガンチュワ 物語

佐藤 敬 みづゑ 六九

ボン・ジュール!ク ラーヴェ

岡本謙次郎 藝術新潮 セノ六

サザランンド(現代 美術7人の巨匠)

佐波 甫 みづゑ 六九

マリオ・サンマルテ のこと

寿田 寿 美術手帖 二六

マリオ・シローニウ ルバノ風景(解説)

滝口 修造 〃

デニシヤンのロート ・レリフ

今泉 篤男 東京夕刊 三・六

ベン・ニコルソンの 藝術(クッゲンハイ ム国際賞第一回受賞 者)

今日の絵画について の覚書 末松 正樹 〃

ピカソ(現代美術7 人の巨匠) 岡本 太郎 藝術新潮 セノ三

「人と作品」ピカソ— 青の時代の意味— 富永 惣一 美術手帖 二八

特集・ピカソのデッ サン アトリエ 三〇

ピカソの素描にお ける技法と人間的 なもの 福沢 一郎 〃

上きげんのピカソ (訪問記) 福島繁太郎 日 経 二・三九

ビュッフェの静物に よせて 関口 俊吾 みづゑ 六四

ビュッフェのパレエ 装置 秋山 邦晴 美術批評 (四)

ビュッフェのサーカ ス 朝倉 撰 藝術新潮 セノ九

ビュッフェのサーカ ス展によせて 関口 俊吾 みづゑ 六九

ビュッフェと私 古垣 鉄郎 藝術新潮 セノ三

問題画家ビュッフェ の個展 関口 俊吾 毎 日 二・五

ブラック(現代美術 7人の巨匠・1) 三雲祥之助 藝術新潮 セノ一

ブラック訪問 岡見 富雄 産 経 九・四

プレスマン訪問 関口 俊吾 みづゑ 六〇

アメリカの画家 アメリカの若い画家 益田 義信 読売夕刊 八・七

アメリカの若い画家 たちの動き トウコ・イ ミヨコ 美術手帖 二八

ソ連の藝術家 村松 梢風 毎日夕刊 七・三

ダ・シルヴァとペラ 回想の女流画家 海藤日出男 美術手帖 二六

ウーブランとアパチ 版画を習ふアメリカ 関本 太郎 藝術新潮 セノ五

版画を習ふアメリカ 齋藤 清 美術手帖 二七

版画を習ふアメリカ 齋藤 清 藝術新潮 セノ五

フランス作家五人の
横顔(日仏具象派美
術展)を機会に)

北川 桃雄 東京 九・三
蘭芳と蔭兆和)

画家と劇場

末松 正樹 みづゑ 六・五

ディアギレフのロシ
ヤ・バレエ団を中心
に(舞台と画家たち
1)

吉田 謙吉 美術手帖 二・五

スエーデン・パレエ
団以後の舞台と前衛
画家たち

吉田 謙吉 二・七

(彫塑・日本)

木内克(ぶらり見参)
うちの亭主

竹林 賢 二・四

菊池 綾子 二・七

私のモビール(実験
工房作品展より)

北代 省三 リビング 三

佐藤忠良氏の場合

徳大寺公英 美術批評 (七)

佐藤忠良(人物メモ)

竹林 賢 美術手帖 (一〇七)

佐藤朝山先生圖書抄

今井 達夫 日経 一・六

特集・沢田政広

柳 亮 造形 二・九

沢田政広小論

温情の人

中村 岳陵 二・三

恐畏の業憑

棟方 志功 二・三

沢田先生寸描

水船 六洲 二・三

作家の言葉

佐野 隆一 二・三

沢田君と私

沢田 政広 二・三

沢田さんの一面

荒城 季夫 二・三

向井良吉(美術人論
断)

東京夕刊 一〇・二

ドラマのない即興劇

江原 順 美術批評 (五)

向井良吉氏訪問劇

中原 佑介 二・五

不思議の国の彫刻

家・毛利武士郎(新
しい世界の作家)

思い出のアルバム

土方 久功 東京夕刊 九・四

(彫塑・外国)

エミリオ・グレコの
彫刻

今泉 篤男 みづゑ 六・四

ザッキンのアトリエ
にて(一)(二)

矢内原伊作 美術批評 (六)

ゴッホの像にとりく
むザッキンに会う

柏木 敦子 美術手帖 二・五

メルベルト・ジャコ
ムステイ氏との会話

矢内原伊作 美術批評 (三)

ジャコメッテイ氏と
の対話

矢内原伊作 二・五

ジャコメッテイ彫刻
鏡のうしろに—ジャ
コメッテイへの石—

今泉 篤男 美術新潮 七・二

彫刻と絵

レリス 二・三

ヘンリー・ムア(現代
美術7人の巨匠)

土方 定一 七・二

公共的彫刻の位置

ロバート・メルヴィル 国際建築 三・六

パリの前衛彫刻家た
ち

建昌 覚造 みづゑ 六・九

ブレイスカルブチュ
アの勝利—エゴン・
モラー—ニールセ
ンの作品—

田巻 博道 工藝ニユ 二・四ノ六

(工藝・日本)

大極年郎の陶彫

西町 棚香 日本美術 三・二

心か腕か—岡部政氏
の発表会を見て—

内藤 匡 陶説 三

川合修二という男

朝井閑右衛門 二・三

川合修二作陶展

磯野風船子 二・三

私の家具設計

池辺 陽 リビング 三

魯山人五十回記念展

上口 愚朗 陶説 三

上絵付の名手—北出
塔次郎氏の個展を見
て

内藤 匡 陶説 三

熊倉順吉の近作につ
いて

北川 桃雄 二・三

清水六兵衛(美術人
論断)

東 京 五・九

伝統の赤絵を生かし
たい

十二代酒井 田柿右衛門 日本経済 七・四

ヴェニス国際衣裝
展示会に招待された
酒井恒子(時の人)

毎 日 六・三〇

芹沢銈介(美術人論
断)

東京夕刊 四・五

芹沢銈介(時の人)

毎 日 三・七

本年度藝術院々賞を
うけた六世清水六兵
衛

前 春 四ノ六

龍村平蔵(時の人)

毎 日 一・六

藝術院恩賜賞の龍村
平蔵(人寸描)

朝 日 二・八

恩賜賞を受けた竜村
平蔵(横顔)

産経夕刊 二・八

竜村翁の忍耐と情熱

野間 清六 東京 二・八

富本憲吉(美術人論
断)

今泉 篤男 みづゑ 六・〇

富本憲吉の藝術

藤本 昭三 美術手帖 一〇・五

訪問 富本憲吉

黒田 領治 陶説 三

富本憲吉先生

佐藤 進三 二・三

安堵村の富木さんと
作品

内藤 匡 二・三

作品と作品を通じて
見た富木さん

富本憲吉記念展を観
て

伊之助 二・三

作陶四十五年—富本
憲吉作陶四十五年—

水沢 澄夫 三 彩 七

輝かしい富本陶藝

日本美術 二ノ〇

富本憲吉氏

(二筆対面)

清水 崑 朝日夕刊 三・二〇

般若佑弘拾遺(人物月日)

萌 春 四ノ五

松田権六(美術人論断)

東京夕刊 二・三〇

三井義夫拾遺(人物月日)

萌 春 四ノ九

宮之原謙拾遺(人物月日)

朝 日 四ノ八

山田徳兵衛(人寸描)

朝 日 四・三

山田徳兵衛(時の人)

毎 日 四・三

柳宗理(デザインナー訪問)

水戸 肇 デザイン 二六

私の家具デザイン

渡部寿美子 三三

(工芸・外国)

イロー・サリネンとアメリカ様式(世界のデザインナー研究)

勝見 勝 工芸ニユ 二四ノ八

ハーバート・バイヤー論(世界のデザインナー研究)

ミドリ 藤森 健次 二四ノ二

カイ・フランクと共に歩いて

藤森 健次 二四ノ九

マルセル・ブロイヤールの近況

芦原 義信 二四ノ六

豊口克平(デザインナー訪問)

浜村 順 デザイン 二五

ノグチのあかりについて思うこと

剣持 勇 美術手帖 二四

アルヴァイン・ラスチグとレイ・アウトの抒情(世界のデザインナー研究)

勝見 勝 工芸ニユ 二四ノ五

ステイグ・リンドベルグの陶器

長 狂平 工芸ニユ 二四ノ九

杉野 昌子

英国のホーブロービヤン・デー(世界のデザインナー研究)

勝見 勝 工芸ニユ 二四ノ二〇

(建築・日本)

坂倉準三(美術人論断)

東京夕刊 二・二二

谷口吉郎(人寸描)

朝 日 二・二二

谷口吉郎の人と作品

朝 日 二・三二

丹下健三(人寸描)

朝 日 二・三二

私の造形観

森田 茂介 工芸ニユ 二四ノ七

吉阪隆正(美術人論断)

東京夕刊 八・六

日本の建築家

丹下 健三 建築 三ノ二〇

日本の建築家たち

ワックスマ 浜口隆一 建築新潮 七ノ一

(建築・外国)

スウェーデンの建築家ニルス・アールボム

森田 茂介 国際建築 三ノ二〇

ガウディの設計した教会

向井 良吉 美術手帖 二〇六

ル・コルビュジエ(現代美術七人の巨匠)

吉川 逸治 藝術新潮 七ノ四

ル・コルビュジエの教会—ノートルダム・デュ・オー教会堂—

国際建築 三ノ一

ワックスマン大いに語る

コンラッド・ワックスマン 新建築 三ノ二

アメリカの建築と建築家(フォーラム誌特集)

中村隆臣抄 国際建築 三ノ二

フランスの建築家と建築設計事務所

進来 廉 建築文化 二九

身边雑記・隨筆・紀行

ガラス収集(茶の間)

朝倉 文夫 毎日夕刊 五・〇〇

山の写生

足立源一郎 造 形 二ノ七

ツエ(茶の間)

有島 生馬 毎日夕刊 五・八

生殺年(茶の間)

安藤 更生 六・三

道化の季節

伊藤 逸平 美術手帖 二・四

私のスキー仲間

石川 滋彦 文藝春秋 三ノ二

パパの色彩(茶の間)

毎日夕刊 三・一

画家を育てる画商

石原 竜一 日 経 七・一

ヨーロッパ自動車ある記(写真と文)

井手 宣通 美術手帖 二・八

白夜・レニングラー

井上長三郎 東京タイムズ 八・三

受験期の思い出

今井 兼次 東 京 一・三

欧亜を旅して

今泉 篤男 三 彩 七

ヨーロッパの美術館の現状—海外出張より帰つて—

伊原宇三郎 日 経 二・九

某月某日

上野 直昭 毎日夕刊 三・三

自分の声(茶の間)

羽藤馬佐夫 造 形 二・七

波太

梅原龍三郎 朝日夕刊 二・三

仏伊今昔(えと文)

大河内信敬 東 京 三・三

初出演の記

岡田 節子 東京タイムズ 一・七

ジブシーのいるスベ

萩須 高德 産経夕刊 一・七

パリのお正月(画信)

岡本 太郎 日 経 一・六

銃を忘れて(あのころ)

無意識のアヴァンチュール

萩野 康児 産経時事 二・三

沖繩の美術村

塩壺温泉にて

堅山 南風 産経時事 七・六

チーム・ワーク(茶の間)

勝見 勝 毎日夕刊 四・七

画境と老境	金原 省吾	東京夕刊	六・二三	五月の色	高島達四郎	朝 日	五・三	那智の石坂	野間 清六	文藝春秋	三四ノ七	
A級の偽作	河北 倫明	文藝春秋	三四ノ一	西郷のイヌ秘話(茶の間)	高村 豊周	毎日夕刊	六・九	鳴門の渦潮	野間 仁根	読 売	五・六	
シネマスコープの夢	河原 温	美術手帖	二二五	ほんもの「にせもの」	鷹巢 豊治	国立博物館	二〇	北京新風景(画と文)	橋本 明治	朝 日	九・三	
画材拝見キャンパス	川口 軌外	産経時事	一〇七	西郷の犬と英公使(茶の間)	滝川政次郎	毎日夕刊	七・三	ポーズ(茶の間)	長谷川 昇	毎日夕刊	二・二六	
水族館	川島理一郎	夕刊	八・三	匠気(茶の間)	谷 信一	ス	九・九	風景巡礼	早川 治平	産経時事	八・七	
タルキニア紀行	嘉門 安雄	ミュージアム	六	欧米雑感上、中、下	田口湖三郎	ス	二〇・三	セイロン美術紀行	福田豊四郎	毎 日	八・二	
西郷のイヌ(茶の間)	神崎 清	毎日夕刊	六・四	イタリヤの旅	田村 一男	造 形	二ノ一	中国・モンゴルを訪う(えと文)	福田豊四郎	毎 日	八・二	
デス・マスク	菊池 一雄	読 売	四・五	三次の一夜	鶴岡 政男	国立博物館	二〇五	鬼腕相撲(私の美術鑑賞)	福原麟太郎	東 京	六・二	
メキシコのクリスマス	北川 民次	東京夕刊	二・三三	美術随想	遠山 孝	ス	二	文化の日(随想)	藤松 博	読売夕刊	二・三	
大和早春	北川 桃雄	産経夕刊	二・八	浜辺の「絵がすり」	外村吉之介	日 経	一〇・二〇	随想・雲のいざこに	堀江 知彦	国立博物館	四ノ九	
北京人(茶の間)	ス	毎日夕刊	一〇・二四	星を見る週間	中井 幸一	朝 日	八・三	刀の贖物	木岡 董山	国立博物館	一〇四	
香港風景	ス	文藝春秋	三四ノ二	絵の名取	中村 哲	美術手帖	二二五	女とは妙なもの	松本 弘二	東京夕刊	五・五	
小さなこけし(岡田三郎助先生のこと)	北村 久子	美術手帖	二二七	稚拙と古拙と	中村伝三郎	国立博物館	二四	花の旅	三岸 節子	産 経	一・四	
歳の市(茶の間)	木村 荘八	毎日夕刊	二・三〇	「山を彫るべえ」	流 政之	美術手帖	二〇七	イタリヤ風物誌(1)	三輪 福松	萌 春	一〇一	
にせもの(茶の間)	久保貞次郎	ス	四・六	風流座懺悔録	鍋井 克之	藝術新潮	七ノ二	(10)	霧と馬鈴	水谷 清造	形	二ノ七
画壇将棋列伝	久保 守	美術手帖	二二七	大阪藝術家気質	鍋井 克之	ス	七ノ七	歳末画家(茶の間)	宮本 三郎	毎日夕刊	二・二七	
内弟子志願(茶の間)	黒田重太郎	毎 日	六・三〇	カメラ禍(茶の間)	鍋井 克之	毎日夕刊	二・三三	日本のゴッホ	武者小路実篤	日経夕刊	五・八	
硯墨	小杉 放庵	三 彩	七・九	長崎を絵にして上、中、下	奈良岡朋子	東京夕刊	六・九一	日本の香肌	棟方 志功	産経時事	七・三	
わが筆と墨	近藤浩一路	ス	四・三	こんなことも…	成井 弘文	造 形	二ノ一	童女図	室生 犀星	読売夕刊	六・九	
キセル(茶の間)	ス	毎日夕刊	四・三	パリの空の下画架を抱えて	野上 素一	産 経	三・三三	仏さまは美男ぞろい	望月 孝	日 経	二・三	
酒の徳(名槍日本号物がたり)	佐藤 貫一	国立博物館	一〇七	イタリヤ人の知恵	野口 真造	毎日夕刊	八・三	エッフェル塔とルーブル	矢代 幸雄	文藝春秋	三四ノ二〇	
夏の富士(茶の間)	ス	国立博物館	一〇七	あんどん画展(茶の間)	野口弥太郎	朝 日	七・二六	欧米の旅	安田 臣	建築文化	二・四	
幻の金閣寺	須田国太郎	藝術新潮	七ノ四	御宿と海女	野間 清六	国立博物館	二二	北京とその附近	山口 蓬春	国立博物館	二・四	
文化交流の悲喜劇	高田 博厚	文藝春秋	三四ノ四	モランさん帰米	ス	国立博物館	二二	北京新風景(画と文)	ス	朝 日	九・二	
日本画	高橋誠一郎	ス	三四ノ二									
画材拝見・油	高橋 忠弥	美術手帖	一〇五									
海と私	高岡 惣七	ス	二二五									
わが愛鳥の記	ス	東京タイムズ	五・二〇									
偽名画家逮捕記	高島達四郎	美術手帖	一〇六									

新中国に使いしして
(前)後—わたしの
観た中国—
山口 蓬春 萌 春 四ノ二、
三三

美しい形(茶の間)
ニワトリの碑をつく
る
山本 学治 毎日夕刊 三・三三
山本 常一 東 京 二・二六

サルと彫刻
アトリエの一日(絵
と文)
山本 豊市 東京タイ
ムズ 一・二四

住居の夢
吉阪 隆正 産経時事 六・二九
梅原龍三郎 産 経 一・一六

春宵美術欲談—一六
贖物をつかまされた
話など(対談)
福島繁太郎 美術手帖 二〇八
久保貞治郎 二〇八

メキシコはどう変つ
たか(対談)
北川 民次 シ 二二
久保貞治郎 日経夕刊 五・二三

日曜対談
神原 泰 シ 七・八
桂 ユキ子 サイデンス
テツカー シ 八・二九

物 故 作 家

(絵画・日本)

青木繁の藝術(口絵
解説)
嘉門 安雄 文藝春秋 三ノ二

青木繁作 筑後風景
シ ミュージ
アム 六

「筑後風景」解説
シ 国立博物
館ニュー
ズ 二一〇

上阪雅人の遺作展
ク ロジエ・ヴ
アン・エツ
ク 六〇九

父雅人の生涯
上阪 建 シ

大野静方の屏風(私
の美術鑑賞)
岡田三郎助の藝術
(口絵解説)
小川芋銭のこと
小川芋銭管見—生涯
と作品—
加藤太郎のこと(天
折の画家)
狩野芳崖晩期の作品
菊池契月—その作品
と生涯—
契月遺作の鑑賞
亡き父を想出すまゝ
に
菊池契月先生の思い
出
岸田劉生—と現代日
本洋画の誤謬—
岸田劉生の藝術(口
絵解説)
小出楯重の藝術(口
絵解説)

嘉治 隆一 東 京 七三
嘉門 安雄 文藝春秋 三ノ四
藤森 成吉 萌 春 四ノ九

中村伝三郎 シ
佐田 一勝 美術手帖 二四
隈元謙次郎 美術研究 一八四
河北 倫明 三 彩 八三

古谷 涼子 萌 春 四ノ二〇
国立近代
美術館 ニュース 三三

河北 倫明 シ
菊池 隆志 シ
宇田 萩 萌 春 四ノ二〇

ハリー・パ
ツカード
岩井 寛 美術批評 三
嘉門 安雄 文藝春秋 三ノ六

三隅 貞吉 日本美術 三〇
工藝 三〇

黒田清輝の藝術(口
絵解説)
忘れられた明治の洋
画家—五姓田義松の
人と作品
島村洋二郎の世界
或る画家—島村洋二
郎のこと—
類型的ない清潔さ—
柴田安子のこと—
(天折の画家)

嘉門 安雄 文藝春秋 三ノ九
隈元謙次郎 アム 五
宗 左近 美術手帖 一〇七
宇佐見英治 美術批評 三

堀 文子 美術手帖 二七

竹内栖鳳
中西利雄の藝術(口
絵解説)
中村鍊の藝術(口絵
解説)
速水御舟の藝術
菱田春草筆「黒き猫
図」(解説)
平福百穂先生(私の
履歴書)
藤島武二の藝術(口
絵解説)
牧野さんと酒訓
松本竣介の画室(そ
の後のアトリエ1)
満谷因四郎筆「二階
図」(解説)
追悼・安井曾太郎
生涯と死の記録

小高根太郎 萌 春 四ノ二
嘉門 安雄 文藝春秋 三ノ八

内藤紀久子 史 論 四
隈元謙次郎 国 華 七五

大麻 唯男 日 経 二〇・四
嘉門 安雄 文藝春秋 三ノ一
和達 清夫 美術手帖 二七

嘉門 安雄 シ
富永 惣一 今泉篤男 三
柳 家 亮 六〇七

諸 家 シ
富山 秀男 シ
諸 家 シ

想い出
年譜・文献
追悼・安井曾太郎
安井先生と僕
安井先生の思い出
安井曾太郎・見る
年譜

林 武 アトリエ 三〇八
中村 琢二 シ
編 集 部 シ

徳大寺公英 美術手帖 二〇五
伊藤 廉 シ

美校時代の安井さん
裕伊之助氏の「美校
時代の安井さん」に
安井曾太郎と語る
(1)~(4)

津田 青楓 心 九ノ三一

特輯・安井會太郎追悼 諸 家 心 九ノ三

安井會太郎(対談) 今泉 篤男 藝術新潮 七ノ二

安井會太郎先生 宮本 三郎 日本美術 二〇九

安井會太郎論 山内金三郎 工藝 二〇九

安井會太郎の藝術 荒城 季夫 造 形 二ノ二

安井會太郎追悼 小宮 豊隆 東京夕刊 四・二五

展 限元謙次郎 国立博物館 二〇四

特輯安井會太郎遺作 国立近代 美術館 二七

訣別の藝術—安井會 中村 義一 美術批評 二〇〇

太郎論 嘉門 安雄 文藝春秋 三ノ三

安井會太郎の藝術 (口絵解説) 安井 はま 美術手帖 二〇

安井のこと 安井 文芸春秋 三ノ二

安井會太郎・最後の 表紙絵 細川護立談 三 彩 七三

二つの手拭(安井・ 梅原デザイン) 福島 慶子 藝術新潮 七ノ一

安井登山の話 石原 龍一 毎日夕刊 四・六

勉強家・安井先生の こと(茶の間) 岡村 辰雄 三 彩 七三

安井先生の時計 絵の中に生きる横尾 泥海男 読売夕刊 二・三

吉岡憲の死 中村 哲 美術手帖 二〇六

(絵画・外国) アルキンボルデー 阿部 展也 みづゑ 六〇六

のイマージュ PAUL KLEE 大岡 信 美術批評 七

ポール・クレエ「女 たちの館」(解説) 駒井 哲郎 美術手帖 二八

グリユネワルド祭壇 福沢 一郎 二〇七

グリユネワルト と死の踊り 土方 定一 みづゑ 六〇六

傷められた自画像— チェイム・グロスの ことなど 中村 義一 美術批評 二二

解放者ポール・ゴー ギャン(人と作品) 柳 亮 美術手帖 二二

ポール・ゴーガン 「三匹の仔犬と静物」 (解説) 中谷 泰 二〇五

ヴァインセント・ヴァ ン・ゴッホ(人と作 品) 徳大寺公英 二二五

ゴヤの魔性 福沢 一郎 みづゑ 六〇六

ゴヤの壁画 三雲祥之助 六〇七

ポール・セザンヌ (人と作品) 美術手帖 二四

画聖セザンヌ・死後 五十年を迎えて 大久保 泰 東 京 二〇・二九

セザンヌの「ベルビ ューの鳩舎」につい て 伊藤 廉 みづゑ 六〇四

雪舟とセザンヌ 成田 重郎 萌 春 四ノ九

セザンヌから何を受 取つたか 藤井令太郎 利根山光人 赤穴 正樹 美術手帖 二四

架空会見・ジョット マルク・シャガール 岡本謙次郎 二〇五

(人と作品) 柳 亮 二〇七

シャガール(現代美 術7人の巨匠) 田近 憲三 藝術新潮 七ノ五

ジョージ・スーラ (人と作品) 岡 鹿之助 美術手帖 二八

スーラ略年譜と文献 中山 公男 二

スーラとの六年間— マドモアゼル・ガ ルドの回想録— 柳 亮 藝術新潮 七ノ六

サン・ガレンの「セ ガンチニ展」— 遺子 ゴツタルト氏からの 便り 津田 正夫 朝 日 九・三五

メキシコの歌— パン ジャマン・ペレの詩 とタマヨの画— 北園 克衛 藝術新潮 七ノ七

少女のために) 嘉門 安雄 毎日夕刊 三・三

シュールレアリスト の法王(特派員の眼) 日経夕刊 三・五

エドガー・ドガ(人と 作品) 宮本 三郎 美術手帖 二七

ドガ略年譜と文献 中山 公男 二

エドガー・ドガ「後向 きにうづくまる裸 婦」(解説) 向井 潤吉 二〇七

ドラクロア「聖母の 教育」(解説) 嘉門 安雄 国立博物館 二〇九

ブレイク・その位置 岡本謙次郎 みづゑ 六〇六

「ル・カンネ風景」解 説 鈴木信太郎 美術手帖 二四

ボツシュの藝術 吉川 逸治 みづゑ 六〇六

ミロ(現代美術7人 の巨匠) 滝口 修造 藝術新潮 七ノ七

JOAN MIRO 浦島 飯島 耕一 美術批評 二一

太郎の恍惚と不安 ミロの陶藝 今泉 篤男 藝術新潮 七ノ〇

モンドリアンの格子 ユトリロ「ルノアー ルの庭」(解説) 柳 亮 みづゑ 六二五

ウイフレド・ラム (人と作品) 福島繁太郎 美術手帖 二七

ホセ・リベラ「足な え(部分)」(解説) 阿部 展也 二〇五

ルドンンの眼玉(グロ ッタの画家) 柳 亮 二

オテイロン・ルドン 「青い三つの壺」(解 説) 東野 芳明 美術批評 五

ルノワール「ガブリ エルの像」(解説) 駒井 哲郎 美術手帖 二二

宮本 三郎 二二五

フェルナン・レジェ 「アダムとイヴ」	江川 和彦	美術手帖	二〇六
レムブランドの生涯 特集・レムブランド 生誕三五〇年記念	嘉門 安雄	みづゑ	二〇八
レムブランドとオ ランダの文化	松村恒一郎	シ	二〇四
レムブランドとバ ロック様式	守屋 謙二	シ	シ
レムブランドとカ ラヴァツジエスク	土方 定一	シ	シ
レムブランドとオ リエント	フランツ・ ロー	シ	シ
レムブランド 摸写 の思い出	向井 潤吉 小堀 四郎 小島善太郎	シ	シ
二〇世紀のレムブ ランド研究書(抄)	嘉門 安雄	シ	シ
レムブランド略年 譜			
レムブランド 生誕三 五〇年に思ひ		東京タイ ムズ	七・三
レムブランドの生誕 三五〇年を迎えて		東京夕刊	七・二四
レムブランド断想		ミュージ アム	六四
レムブランド	武者小路実 篤	隨筆	(九)
ロートレックのデッ サン	木下 孝則	みづゑ	六二五
マリイ・ローランサ ンの死	福島繁太郎	美術手帖	二二三
マリイ・ローランサ ン―人と藝術―	神原 泰	みづゑ	六三三
ローランサンの思い 出	堀口 大学	藝術新潮	七ノ八
ローランサンを悼む	森田 元子	東京夕刊	六・九
ローランサンの昇天	仲田 好江	東京タイ ムズ	六・二五
マリイ・ローランサ ンを憶り	佐伯 米子	産経時事 夕刊	六・九
セザンヌとピカソ・ マチスが描いた人々 二つの幻想的個性― ルドンとアンソール	滝口 修造	朝日	二〇・三三
ある画家の話(パリ 物語7)	河盛 好威	藝術新潮	七ノ七
モンマルトルの画家 たち(パリ物語10)			七ノ二〇
特集・画家のことは ―ドラクローア以後―		美術手帖	二〇四
第一部 造形に関 して			
色彩について	柳 亮	シ	シ
フォルムについ て			
構図について	植村鷹千代	シ	シ
主題について	久保貞次郎	シ	シ
第二部 藝術・社 会・生活に関し て	三輪 啓三	シ	シ
十九世紀			
二十世紀			
第三部 邦人作家 のことばから			
伝統・選択・創造	水沢 澄夫	シ	シ
ギルベールとロート レック(ジャンソン と画家たち1)	芦原 英了	美術手帖	二〇〇
ブリュウアンとロー トレック(2)			二二
ブリュウアンとスタ ランその他(3)			二四
ローマの大スター 「インベリア」(美術 千一夜)	三輪 福松	シ	シ
悲運の女性・大公爵 夫人「ピアンカ・カッ ベッロ」(美術千一 夜)	三輪 福松	美術手帖	二二五
聖者に列した人文學 者「ボツジョ」(ブラッ チオリニ)(美術千一 夜)			二二七
ルネッサンスの女丈 夫「カテリーナ・スフ オルツァの恋」(美術 千一夜4)			二二八
(彫 塑)			
萩原守衛作「女」	原田 実	ミュージ アム	六三
カラバツジョ「病め るバツカス」(解説)	田近 憲三	美術手帖	二〇六
高村光太郎(わが人 物評)	山本 健吉	日経	一・二五
高村光太郎氏にきく		国立博物 館ニュー ス	二〇四
焼失作品おほえ書 (アトリエにて九二〇)	高村光太郎	新潮	(四、五)
彫刻家として詩人と しての高村さん	土方 定一	読売	四・二
高村光太郎の死	草野 心平	東京夕刊	シ
雪(高村光太郎追想)	谷口 吉郎	毎日	四・三
彫刻家としての高村 翁	今泉 篤男	東京夕刊	シ
モラリスト詩人の道	伊藤 信吉	シ	シ
高村光太郎の手	菊池 一雄	シ	四・四
高村光太郎氏をいた む	本郷 新	毎日	四・三
高村光太郎の生き方	山本 健吉	東京夕刊	四・三
	伊藤 信吉	シ	四・三
	今泉 篤男	シ	四・四
高村光太郎の終焉日 記	草野 心平	新潮	(五)

高村さんのこと	三好 達治	新潮	五
岩手の高村光太郎先生	森口 多里	美術手帖	二〇
高村光太郎氏の生涯	菊池 一雄	みづゑ	六〇
高村光太郎の彫刻	今泉 篤男	ミ	六二六
高村さんの断片	草野 心平	藝術新潮	七〇一
高村光太郎の死	菊池 一雄	ミ	七〇五
兄の知られざる彫刻	高村 豊周	ミ	七〇八
一つ of 精神絵和光太郎・智恵子展を觀て	北畠 八穂	ミ	七〇二
高村光太郎讀本(現代文豪讀本9)	外山卯三郎	造 形	ニノ三
武井直也の藝術を回想して	今泉 篤男	みづゑ	六〇九
日本近代彫刻の出発	今泉 篤男	ミ	六〇九
四人の作家・高村光雲、萩原守衛、藤川勇造、橋本平八	清水多嘉示	藝術新潮	七〇三
ブルデルの彫刻(対談)	今泉 篤男	美術手帖	二八
ブルデルの女性像	清水多嘉示	ミ	二八
アンリ・ロオランス	アル・ベル	美術批評	三
人と作品・アンリ・ロオランス	ト・ジャコ	美術批評	三
	メッテイ宇	美術手帖	二〇六
	佐見英治訳	美術手帖	二〇六
	建畠 寛造	美術手帖	二〇六

(工 藝)

陶工鶯谷庄平

木村 弘道

金沢美術工藝大学

一

北原大輔行状記(2)

伊藤喜一他

陶 說

三五一七

(建 築)

建築家吉田鉄郎とく

内田 祥哉

国際建築

三三〇一〇

吉田鉄郎の思想と

内田 祥哉

国際建築

三三〇一〇

吉田鉄郎氏の死去を悼む	坂垣 鷹穂	国際建築	三三〇二〇
ヨセフ・ホフマン教授をおもひ	山田 亮吉	ミ	三三〇二〇
	小坂 秀雄	ミ	三三〇二〇
	リチ・ウエ	建築文化	二八
	ス・野伊三郎	建築文化	二八
	青野 季吉	東京夕刊	九・二四
	秋田 雨雀	産経時事	二・三三
	亀井勝一郎	東京夕刊	二・三三
	毎 日	日 五・五	
転機的美術界(文学五十年)	上田 桑鳩	藝術新潮	七〇六
会津八一君のこと	井上 庄七	日本美術	三〇八
会津八一先生のこと	産経時事	二・二七	
石田幹之助氏(書齋めぐり)	東京夕刊	四・二〇	
日展離脱始末記	新村 出	朝日夕刊	二・三九
奥田誠一先生と掬粋巧藝館	清水 崑	国立博物館	二〇
河井弥八(横顔)	朝日夕刊	二・三九	
篠田桃紅(美術人論断)	東京夕刊	四・二〇	
わが生涯を顧みて	国立博物館	二〇	
高橋誠一郎氏(一筆対面)	東京夕刊	二・三三	
中山平次郎博士の死	東京夕刊	二・三三	
藤本四八(美術人論断)	東京夕刊	二・三三	
美術対談	河北 護立	三 彩	七三
細川護立氏(黒幕の素顔)	東京 四・二六		
森鷗外の思い出(博物館総長時代の逸話)	国立博物館	二〇五	
矢代幸雄(横顔)	産 経	二・三三	

美術関係者

そ の 他

文化使節としてイタリヤへゆく矢代幸雄(時の人)	諸 家	美術手帖	二七
和島誠一(人寸揃)	中原 佑介	美術批評	七
美術批評家の某日メモ	芝 清福	美術手帖	二〇五
マン・レイ論	岩手県	森口 多里	二〇六
	石川県	森田亀之助	二〇八
	群馬県	桜井 作次	二〇〇
	静岡県	池田 正司	二二
	和歌山県	和田 定夫	二二三
	島根県	野津 利一	二二四
	鹿児島県	瀬戸口武則	二二五
	山形県	岡崎 恭一	二二七
	長野県	田中 磐	二二八
写生地案内I	花むしろの町をたずねて	二川 幸夫	美術手帖 二二五
	益子の町を訪ねて	山口 勝弘	二二七
	藝術都市の発生(バリ物語I)	河盛 好威	藝術新潮 七〇一
	返還される松方コレクション	田近 憲三	七
	リユクサンブルのスキヤンダル・カイユボットのコレクションについて	大森 啓助	七〇二
	私の洋画コレクション	田村泰次郎	七〇六

美術家のコレクション	諸家美術手帖	二〇七	熟青甲社三十五周年をむかえて	西山翠嶂	萌春	四ノ三	日曜画家1—5	林謙一	美術手帖	二〇八、二〇九、二一〇、二一一
取集家と収集品あれこれ	斎藤敏日経	七・三	青甲社三十五周年を顧みて(座談会)	養生諸家	朝	二〇三	暴力と化したネオン塔	大智浩	日経	九・五
ニセモノとともに	久保貞次郎	藝術新潮	西山画塾の沿革	青甲社記録	朝	二〇三	パリは色の都上、中、下	田口湖三郎	東京夕刊	〇
東西贋作物語	東郷青児	文藝春秋	門を閉じたる京都の寺、上、下	野間清六	東京夕刊	八・三	ヨーロッパの色と音色	大智浩	日経	二・六
西欧にせもの・鑑定	三輪福松	みづゑ	破られた古都の眠り—京都の社寺観光施設税をめぐって—	貝塚茂樹	日経	八・九	生活の歴史のなから	小野忠重	リビングデザイン	三
美術館案内	(1)根津美術館	三彩	隠れたひとびと上、下	古田紹欽	東京夕刊	八・四	花火	郡司勇夫	リビングデザイン	三
(2)神戸美術館	大阪市立美術館(一)	三	都市美をもとめて	山口勝弘	読売夕刊	六・八	通貨	小野忠重	リビングデザイン	三
(三)	(四)美術館めぐり	三	オリソピック藝術競技の今後	山崎覚太郎	東京夕刊	二・二六	日本の機能の原型をみる—生活の歴史の中から—	清家清	リビングデザイン	三
東京国立博物館白書	門馬彬	藝術新潮	平和という名の美術	針生一郎	藝術新潮	七ノ二〇	日本の機能の原型をみる—生活の歴史の中から—	吉阪隆正	リビングデザイン	三
宮島宝物館	豊田清史	日本美術工藝	具体美術宣言	吉原治良	藝術新潮	七ノ三	障子	白井晟一	リビングデザイン	三
日本に於ける近代美術施設運動史(一)	隈元謙次郎	国立近代美術館ニユース	画家のかく音楽・作曲家のかく絵画	秋山邦晴	美術批評	三	豆腐	白井晟一	リビングデザイン	三
アメリカの美術館	益田義信	藝術新潮	画家でない人たち(ルポルターージュ)	中原佑介	三	日本の機能の原型をみる—生活の歴史の中から—	障子	清家清	リビングデザイン	三
海外の文化財・中世美術館	石井柏亭	日本文化財	美術工場というユーロトピア	難波田龍起	藝術新潮	七ノ六	番傘	吉阪隆正	リビングデザイン	三
海外の文化財・埋蔵文化財の保護	駒井和愛	三	新しき視覚の誕生(アート写真解説)	山口勝弘	七ノ六	めし	日本の機能の原型をみる—生活の歴史の中から—	清家清	リビングデザイン	三
日本に対する関心・第四回国際博物館会議総会に出席して	望月信成	国立博物館ニユース	二つの視覚	北代省三	七ノ二〇	畳	著	清家清	リビングデザイン	三
欧州に於ける博物館附属研究所(1)(2)	登石健三	古文化財之科学	デパート展覧昌記	勝見勝	七ノ四	著	著	清家清	リビングデザイン	三
阿佐ヶ谷洋画研究所(研究所案内)	編集部	美術手帖	新しいショップペン	山田智三郎	七ノ五	著	著	清家清	リビングデザイン	三
一采社の足跡	横川毅一郎	美術手帖	ルポ・2美術喫茶店	児島徹郎	藝術新潮	七ノ二	パテント・アート	池辺陽	藝術新潮	七ノ二
戦前派から「一采社」への発言—第十五回展を視て—	山口蓬春	三	展覧会プロデューサーの弁	朝	二〇三	特集・太陽のうた	岡本太郎	リビングデザイン	三	
「一采社」と「栗さん」のこと	高山辰雄	三	絵の値段(私は知りたい)	船戸洪	美術手帖	二八	特集・壁	北園克衛	リビングデザイン	三
一采社と栗坂さん	中村溪男	三	美術家のアルバイト	諸家	二〇六	壁詩の試み	特集・壁	リビングデザイン	三	

壁障感

中国の壁

石の壁

イタリヤの肌
壁のエピソード

特集・海と造形

一九五六年度カレン
ダーの傾向

フランスの展覧会ポ
スターと招待状・カ
タログ

外国語で書かれた日
本美術書

最近の海外美術書

H・リードの「藝術
と人間進化」

レ・バンドル・テモ
ワンの第五回展「肖像
画の復権」

美術用語の辞典

造形のための事典5

文化という言葉(座
談会)

明治の週刊誌「風俗
画報」をめぐって
(座談会)

明治以後の風俗と体
位

子供の折離から
やさしくできる魚拓
のとり方

だれにもできるすり
ガラスのリトグラフ

青野 季吉
福田豊四郎

生田 勉

福田 勝治

海藤日出男

諸 家

中井 幸一

藤本東一良

桑原 信

石川 公一

安川 定男

芦原 英了

針生 一郎

中谷宇吉郎

岡本 太郎

浦松佐美太
郎

山本 松谷

木村 荘八

安藤 鶴夫

榎田 満文

木村 荘八

伊東 万耀

清水 游谷

大道 武男

リビニング
デザイニング
三

美術手帖
二二三

美術手帖
二一五

美術手帖
二一〇

国立近代
美術館ニ
三

美術批評
四ノ二

美術手帖
二二三

美術手帖
二〇九

美術手帖
四ノ一

産経時事
二・三

美術手帖
二二三

美術手帖
二二三

美術手帖
二二三

美術手帖
二二三

美術手帖
二二三

美術手帖
二二三

美術手帖
二二三

美術手帖
二二三

美術手帖
二二三

美術手帖
二二三

美術手帖
二二三

美術手帖
二二三

美術手帖
二二三

美術手帖
二二三

美術手帖
二二三

美術手帖
二二三

岩絵具(あすへの話
題)

映画ピカソ「天才の
秘密」

映画「ピカソ・天才
の秘密」(対談)

問題の映画「天才の
秘密」(ピカソ)を見
て

絵を描く子供たち
のために

黒い鳥を描いた子
供たち

若い画家たちの生活
記録「映画」若い画
家たち」をめぐって

映画「若い美術家」製
作者の立場から

最近の美術映画三つ

影絵映画三十年

スクリーンの造形(一
四)

マルソー・パントマ
イム

舞台の創造

舞台美術の新しさ

パノラマ・アヴァン
ギャルド

書の美に先行するも
の

ミロと書との出合
(座談会)

現代美術の動向と書
(対談)

中谷宇吉郎

滝口 修造

小林 秀雄

吉川 逸治

滝口 修造

久保貞次郎

羽仁 進

小谷 博貞

小谷 博貞

野間 清六

大藤 信郎

岡田 晋

木村 荘八

山口 勝弘

吉田 謙吉

江原 順

田中 浙草

上平 貢

中村 義一

元井 能

ミシエール・
スィフォル

井島 勉

日経夕刊

美術手帖

美術手帖

美術手帖

二〇・三

二四

七ノ九

八・三

一〇五

七ノ三

七ノ三

七ノ三

二八

二二

二二

二二

二二

二二

二二

二二

二二

二二

二二

二二

二二

二二

二二

二二

二二

二二

現代における日本の
書の動向について

書をさしはさんでの
東西の交流

手紙と作品

前衛自戒(座談会)

書より抽象藝術へ

前衛書道あれこれ

書道と近代性の問題

最近の前衛書道

前衛書道の背後と將
来

わたくしの書(ボス
トン美術館個展よ
り)

美術と短歌

詩とデッサン

西方亜細亜古代学界
の展望(6)ヒッタイト
象形文字解説の近況

井島 勉

小林 龍峰

森田 桃紅

上田 桑鳩

武土 蒼鳳

池田 水城

ミシエール・
クルトフ

本郷 新

伊福部隆彦

船戸 洪吉

野間 清介

篠田 桃紅

大橋 弥生

吉川 守

鹿兒島寿蔵

萌 春

リビニング
デザイニング

美術手帖

美術手帖

美術手帖

美術手帖

美術手帖

美術手帖

美術手帖

美術手帖

美術手帖

美 美

美 美

美 美

美 美

美 美

美 美

美 美

美 美

美 美

美 美

美 美

美 美

美 美

美 美

美 美

美 美

美 美

美 美

美 美

美 美

美 美

美 美

美 美

美 美

美 美

美 美

東洋古美術文献

総 説

古代藝術の原理(一)

上代の造型

復原力について

中村 茂夫

内田 武夫

亀井勝一郎

京都女子
大学紀要

三 彩 七、九

日本文化
財

美術史の研究対象としての作品
美術史の自律について
伝統の問題
伝統論と伝統
伝統技術について
伝統論争(対談)

沢柳大五郎 美術研究 六四
中村 二柄 美 学 五
滝口 修造 みづゑ 六八
伊東 延男 新建築 三ノ三
吉田 光邦 東方学報 京都云
亀井勝一郎 藝術新潮 七ノ二
岡本 太郎 日本文化 二
川端 小松 財 三
小山・松下 美術批評 五
桐谷 俊二 三 彩 七
長谷川三郎 三 彩 七
泉 浩二 藝術新潮 七ノ一
和辻・上野 前田・脇本 七ノ八
日本美術ベスト・テン(座談会)
失われた名作・12の話題 七ノ八
国宝・12の問題 七ノ三
日本美術随想19、20 七ノ三、七ノ四、七ノ五
脇本 栗之軒 七ノ三、七ノ四、七ノ五
上野 直昭 七ノ五、七ノ六
古都随想 1-8 七ノ五、七ノ六、七ノ七、七ノ八、七ノ九、七ノ一〇、七ノ一一、七ノ一二

古美術叢話 一一一
墨の藝術性について
日本建築の背景
日本彫刻の流れ
顕教美術から密教美術へ
密教美術論

細見古香庵 日本美術 三〇八-三〇九
野間 清六 墨 美 五
H・エンゲル J・テイリー 淡 交 六
野間 清六 三 彩 三
小林太市郎 ミュージアム 七

東九州の仏教美術に於ける中古天台の影響―特に三尊形式の問題について―
来迎美術論
仏教美術と現代―仏教美術展をみて―
古典から現代へ
日本の仏たち
文化財風土記
京都の巻
福岡県の巻
神奈川県の巻
佐賀県の巻
東京都の巻
青森県の巻
古寺巡礼
9 会津勝常寺
新古寺巡礼

市場直次郎 国 華 七六
佐和 隆研 京都市立美術大学研究紀要 三
岡本 太郎 藝術新潮 七ノ三
小高根太郎 萌 春 四ノ二
荻野 二郎 日本文化 九
川口 謙二 財 六
木下 之治 七
稲村 坦元 七
山口 寿 七
蓮実 重康 仏教藝術 元
鎌原 正己 ミュージアム 五
原田 実 六
岡田 謙 六
葦田 蔵 七
大西 芳雄 七
関 忠夫 七
佐藤 昭夫 七
金子 良運 七
竹内 高次 七
久野 健三 彩 七
三尊像 三
人里の五社神社 七

3 妙楽寺 久野 健三 彩 七
4 王福寺 〃 〃 〃 七
5 常楽寺 〃 〃 〃 七
6 影向寺 〃 〃 〃 七
7 龍角寺 〃 〃 〃 七
京阪神カメラ紀行
箕面山龍安寺 三村 幸一 日本美術 三〇八
きりしたん史蹟 熊野 紀一 工藝 三〇九
高桐院―大徳寺― 〃 〃 〃 三〇
三島野 〃 〃 〃 三〇
龍光院 〃 〃 〃 三〇
甲山の古寺 〃 〃 〃 三〇
崇禅寺 〃 〃 〃 三〇
久安寺 〃 〃 〃 三〇
再度山大龍寺 〃 〃 〃 三〇
西能勢の古仏 〃 〃 〃 三〇
浄橋寺 〃 〃 〃 三〇
京都千本釈迦堂 〃 〃 〃 三〇
古美術巡礼
早春の洛東清水 齊藤 孝 史迹と美術 三〇
泉山より今熊野へ 〃 〃 〃 三〇
盛夏の梅尾 〃 〃 〃 三〇
文化財の解説 川崎 浩良 羽陽文化 三
龍門寺の岬山 〃 〃 〃 三
禪師袈裟 〃 〃 〃 三
浅川の建久五年禁札 〃 〃 〃 三
陸奥話記―塩竈神社と土津神社― 辻本 直男 刀剣美術 三
尾張四観音・龍泉寺 渡辺 辰典 史迹と美術 三

2 宝城坊の薬師三尊像 久野 健三 彩 七
1 人里の五社神社 〃 〃 〃 七

2 宝城坊の薬師三尊像 久野 健三 彩 七
1 人里の五社神社 〃 〃 〃 七

2 宝城坊の薬師三尊像 久野 健三 彩 七
1 人里の五社神社 〃 〃 〃 七

日光を語る(座談会)

高橋・額田
松田・森田
菅原・田辺
二本松・星野・服部
日本文化 六
財

日光の宝物

辻本 直男
日光の名刀
日光の書跡
日光の工藝
日光の彩色
日光杉並木街道
堀池 春峰
大和文華 六

伊賀赤目の瀧と黄瀧山寺

音代 湘園
大和史談 七

法隆寺をめぐる疑問の解析

田村 吉永
大和文化 五

法華寺考―海竜王寺の前身に及ぶ

佐和 隆研
密教文化 六、七

高野山の美術

川勝政太郎
史迹と美術 六

正伝寺と東岩慧安

土居 次義
日本工藝 二〇

高台寺霊屋雄感

宮城 敏夫
日本工藝 二〇

平等院鳳凰堂

小椋 修
日本工藝 二〇

鳳凰堂とその美術

佐和・村田
大森・蓮実
田中・源
金子・島田
仏教藝術 元

鳳凰堂の焦点(座談会)

佐和・村田
大森・蓮実
田中・源
金子・島田
仏教藝術 元

岬と古寺―最御崎寺を訪ねて

鎌原 正己
日本文化 二〇

正倉院はいかに守られたか

和田 軍一
書陵部紀要 七

献物帳所載の御物と現存品について

松島 順正
日本文化 二〇

正倉院年表

松本 包夫
大和文化 五

資料

水野 平次
大和文化 五

正倉院御物雑考

水野 平次
大和文化 五

美術館めぐり

大阪市立美術館一
三
村松 寛
日本美術 三七一
工芸 三九

絢爛と繊細の美・宮島宝物館

豊田 清史
陶 説 三二七

アメリカ美術館めぐり

井垣 春雄
陶 説 三二七

グラフ・新春

日野西資孝
ミュージアム 三九

雷公物語

岡本謙次郎
みつゑ 六三

雷神の美術

高崎富士彦
みつゑ 六三

歴代好物集一―一二

目片 宗允
交 二一〇

愛蔵辯あり

邑木 千以
日本美術 二〇八―二一三、二一四、二一六、二一八

39 細見古香庵

40 吉野富雄
41 山口彦一郎
42 須磨弥吉郎
43 小平進一
44 内藤匡
47 広田照

45 川瀬竹春

46 山口喜久一郎
47 広田照

48 山上鎮夫

反町 茂作
日本文化 七

私の文化財

反町 茂作
日本文化 七

私の好きな作品・仏教美術展から

軍荼利明王
阿弥陀二十五菩薩
来迎図
大燈国師像
須菩提像

「古経楼清話」(座談会)

高橋 新吉
山口 薫
田島 慶太
斎藤 利助
齋藤 利助
豊治

「ほんもの」と「にせもの」

田中、近藤
小山、土方
藝術新潮 七〇四

「座談会」

田中、近藤
小山、土方
藝術新潮 七〇四

東西にせもの譚

三輪 福松
藤懸 静也
杉村 丁
大和文華 二〇

西歐にせもの鑑定

青柳 瑞穂
古文化財 二〇

日本画にせもの話

江本 義理
古文化財 二〇

中国美術にせもの

見城 敏子
奈良学藝 六ノ二

しろうとの眼

永田 四郎
奈良学藝 六ノ二

放射化分析の古文化財への応用

大槻 虎男
古文化財 三

密閉梱包の温度調節

森 八郎
古文化財 三

堂内気象観測その2

熊谷 百三
古文化財 三

法隆寺諸堂内の気象観測

町田 和江
古文化財 三

美術品微毒防止の研究・第一報

岩崎 友吉
ミュージアム 五九

レントゲン写真による木材・竹材の虫害の診断

石沢 正男
国立博物館 二四

文化財の虫害対策―メチルプロマイドによる燻蒸を中心にして―

石沢 正男
国立博物館 二四

美術時評

石沢 正男
国立博物館 二四

日本古美術の国際的進出

石沢 正男
国立博物館 二四

現状調査と紙上保存

榎本 杜人
国立博物館 二五

昭和31年度の展望

深見吉之助
国立博物館 二六

雪舟展の意義

石沢 正男
国立博物館 二七

表慶館の考古資料展示

矢島 恭介
国立博物館 二八

雪舟展を終えて

石沢 正男
国立博物館 二九

伝統と現代工芸

岡田 謙
国立博物館 三〇

社寺の拝観料と観光税問題

深見吉之助
国立博物館 三一

美術交流の意味

嘉門 安雄
国立博物館 三二

国際博物館週間に寄す

野間 清六
国立博物館 三三

仏教美術展に思う

佐藤 貫一
国立博物館 三四

雪舟展と仏教美術
岡田 謙
国立博物館
二五

古美術界一九五五年
回顧(座談会)
佐和・蓮実
小林剛・小
林太・村田
亀田・浅野
仏教美術 七〇

一九五六年の回顧
東京国立博物館の
展覧と事業
岡田 謙
アム ニュージ
六九

古美術界
鈴木 進
シ
シ

昔の東京国立博物館
一風俗画報に拾う
溝口 三郎
シ
六五

「現代の眼」展から
現代の眼「アジアの
美術史から」
青野 季吉
岡本謙次郎
岡本太・杉
村・針生・
河村
国立近代
美術館
二四

メキシコ美術展・金
銅仏展雑感
原田 実
アム ニュージ
六八

三溪先生の古美術手
記その二一その五
矢代 幸雄
大和文華
二八一三

中川忠順先生追憶
上野 直昭
シ
三

Buddha's Images
Among Asian Na
tions
Osamu
Takada
Asia
Scene
七

朝鮮三国時代の仏教
美術
藤田 亮策
アム ニュージ
六六

中国の美術・現代と
古代 上、下
北川 桃雄
朝 日
九・三
九・三

中国美術とにせもの
中国の初期仏教美術
〈麦積山・炳靈寺石
窟〉
杉村 丁
みづゑ
六〇

麦積山の石窟
町田 甲一
三 彩 七

麦積山石窟藝術紹介
新中国の遺跡発掘一
炳靈寺の再発見
荻田嘉一郎
澁 考 三

敦煌千仏洞
尹 達
藝術新潮 セノ二
秋山 光和三 彩 五

敦煌
福田豊四郎
三 彩 五

敦煌の美術その他
シ
国立博物館
二二

「敦煌」覚え書
敦煌藝術研究五十年
最近における敦煌石
窟の研究
秋山 光和
シ
シ

仏教美術の伝播と源
流インド
高田 修
アム ニュージ
六七

インドの仏教美術に
ついて一、二
イサム野口
シ
シ

死んでる寺・生きて
る寺
イサム野口
藝術新潮 セノ五

〈私の美術紀行〉
アジャンタの洞窟寺
ブッダガヤの遺跡
今泉 篤男
美術手帖 二四

ウダギリのジナ教
窟群
山本 智教
密教文化 二五

セイロン美術紀行
タキンラよりスーサ
まで
ハリイ・パ
ッカード
みづゑ 六〇

バーミヤーンの旅
近東の古美術とその
現状
岡崎 敬
東方学報 京都芸
六

東南アの宗教遺跡を
探る
吉川 逸治
アム ニュージ
六六

イーライン聖樹信仰
の藝術的表現
深井 晋司
仏教美術 二九

三上 次男
産経時事 六・〇

林 良一
美術史 一九

山下新太郎
日本文化 二〇

戦後仏教史学の回顧
と展望 仏教絵画史
高橋 正隆
仏教史学 五ノ三、四

宗教画における空間
表現の問題―玉虫厨
子絵の主題に關する
疑義をめぐつて
上原 和美
学 二

輝南田 既香館画跋
(一)(二)
池田 醇一
村雲 大橋子
三 彩 七
七
七
七

漢語解説
漢画の画題
高崎富士彦
アム ニュージ
三

画題解説
3 禅機図 禅門祖
師図
鈴木 敬
三 彩 七

4 豊干、寒山、拾
得、布袋
真保 亨
シ
七

5 歌仙絵(その二)
古典から現代へ
小高根太郎
萌 春 四ノ二

5 白描画と現代
白描と書(対談)
今泉 篤男
井島 勉
墨 美 五

潑墨と破墨
脇田秀太郎
岡山大学
法文学部
学術紀要 六

世界の風俗画(対談)
美人画といふもの・
序説
宮本 三郎
富永 惣一
藝術新潮 セノ三

外人と水墨画
水沢 澄夫
藤懸 静也
陶 説 七

ベータ線後方散乱に
よる顔料判定の試み
(予報)
山崎 精一
斎藤 文雄
古文化財
之科学 二三

日本画技法の流れ(一)
(二)
中村 岳陵
中村 溪男
萌 春 四ノ二
三
三
三

日本の風景画(座談
会)
林 憲三
東山 魁夷
田辺 憲三
藝術新潮 セノ八

絵 画

日 本

大和絵	鷹巢 豊治	ミュージ	六	正倉院鸕鷀屏風に於ける羊文の源流	林 良一	考古学雑	四ノ四
大和絵盛期と水墨画	下店 静市	史迹と美術	三六五	浄土变相(葛院羅)について	高千穂徹乗	眞眞学苑	四
源氏物語における絵画性の一考察―屏風絵による自然描写について	片野 達郎	文藝研究	三	仏涅槃図の図様について	高崎富士彦	ミュージ	六
近世絵画思潮一―四	檜崎 宗重	歴史教育	四ノ八一	奈良時代及びそれ以前の仏画―とくに形態と機能の変遷過程について	高橋 正隆	大谷学報	三ノ二
江戸絵画の二つの道	近藤市太郎	ミュージ	五	高野山阿弥陀聖衆来迎図	松下 隆章	ミュージ	六
江戸の絵画	多	日本文化	九	弥勒淨土像	亀田 孜	文 化	一七
絵画に現れた喫茶風俗	土居 次義	淡 交	七	弥勒来迎図について	佐和 隆研	仏教藝術	元
音を描く	松本 栄一	ミュージ	六九	法華寺阿弥陀三尊画像の意想	亀田 孜	大和文華	三
日本画にせもの話	藤懸 静也	アム	六〇	信好成就阿弥陀三尊図解説	佐和 隆研	仏教藝術	元
古代落書論	久野 健	みづゑ	七〇二	弥勒菩薩図	橋崎 宗重	国 華	七六
日本の諷刺画	飯沢 匡	藝術新潮	七〇二	ボストン美術館蔵馬頭明王像解説	松下 隆章	美術史	三〇
日本諷刺絵画の系譜	野間 清六	アトリエ	三三八	板絵天部像解説	藤懸 静也	国 華	七三
日本古典絵画の諷刺精神	多	国立近代美術館ニユース	二四	東寺の三副古本兩界曼荼羅について―いわゆる―眞言院曼荼羅―の検討―	高田 修	美術研究	二九
暲潤彩色の源流	多	国学院雑	五七ノ五	理趣経曼荼羅図について	佐和 隆研	国 華	七九
天蓋及び其の裝飾文様の考察	辻合喜代太郎	日本建築学会論文報告集	五	法華堂根本曼荼羅について	松下 隆章	美術研究	一六
資料紹介	坂詰 秀一	考古学雑	四ノ四	大和文華館の春日宮曼荼羅	松村 政雄	大和文華	三〇
千葉県君津郡鹿島に於ける陰刻原始絵画を有する横穴南倉和琴の所謂瑠璃画について	林 謙三	書陵部紀	七	醍醐寺五重塔とその内部の絵画	藤懸 静也	国 華	七三
瑠璃画の復原について	多	多	多	海住山寺五重塔の壁画	浜田 隆	鎌倉仏教文化研究	一
南倉和琴の瑠璃絵の技法	松村 政雄	多	多	鳳凰堂屏の落書	松下 隆章	大和文華	一九
	多	多	多	眞言八相行状図に就いて	森 暢	国 華	七七

藤田美術館の密教部大経感得図に就いて	柳沢 孝	美術研究	一七
十六羅漢像の内第八尊者解説	飯島 勇	ミュージ	六
八幡神像の研究	景山 春樹	神道史研究	三
高山寺の僧形八幡画像について	多	多	七
高山寺新八幡宮と僧形八幡御影	近藤 喜博	仏教藝術	六
大和文華館の女神御影	多	大和文華	一九
聖徳太子絵伝(博物館本)について	高崎富士彦	ミュージ	五
藤原信実に関する仮説―高山寺の場合―	近藤 喜博	美術史	三
高野山水屏風	水尾 博	国 華	七三
絵巻の価値	福田豊四郎	藝術新潮	七〇一
絵巻物の時間性	水沢 澄夫	みづゑ	六〇八
絵巻物の戸籍	山岸 徳平	文 化	一七三
風俗から見た初期絵巻物の特色	鈴木 敬三	多	多
一遍聖人絵伝簡解説	水尾 博	国 華	七六
稲荷縁起絵について	近藤 喜博	神道史研究	二七
荷田氏所伝の稲荷社縁起上、下	西田 長男	多	一六、一七
京都若宮八幡宮祠宮佐佐家及び石清水八幡宮放生会再興絵巻詞	羽倉 敬尚	多	三
北野天神縁起弘安本について―その断簡と復原的考察―	高崎富士彦	国 華	七三
縁起の文学―特に北野天神縁起を中心として	篠田 融	東京教育大学文学部紀要	七

源氏物語絵巻をめくつて	秋山 光和	国語と国文学	三七〇	松崎天神縁起絵巻	高崎富士彦	ミュージアム	五九	雪舟随想	中村 溪男	陶説	二〇
山王靈験記とその成立年代 上、下	近藤 喜博	国華	七三、七五	紫式部日記絵巻の研究	源 豊宗	人文論究	七〇三	雪舟画の特色	中村 溪男	新建築	三〇七
善財童子	梅津 次郎	国立博物館ニユース	二〇五	紫式部日記絵巻解説	秋山 光和	国華	七〇四	雪舟の個性について	中村 溪男	日本美術工藝	三三
信貴山縁起について	奥平 英雄	みづゑ	六八	羅什三蔵絵伝攷	秋山 光夫	金沢美術工芸大学学報	一	雪舟随想	東山 魁夷	萌春	四〇四
信貴山縁起絵巻の文化史的背景	家永 三郎	仏教藝術	七〇	△グロッタの画家/六道絵のイママジュー/地獄草紙を中心に	東野 芳明	美術批評	五	雪舟のこと	野田 九甫	萌春	四〇四
信貴山縁起絵巻の様式的系譜	秋山 光和		七〇	高山寺の繩床樹遺跡―樹上像と石上像について―	景山 春樹	史迹と美術	二七	雪舟の回想	土方 定一	みづゑ	六二
志貴山縁起絵巻の構成について	熊谷 宣夫		七〇	二つの渡唐天神	近藤 喜博	陶説	二〇	雪舟の恭謹性と文人性	谷 信一	陶説	二〇
信貴山縁起虚実雑考	亀田 孜		七〇	伝北条時宗・北条時家像解説	中村 溪男	国華	七二	雪舟を素描する―中国画と関連させて―	林 文雄	萌春	四〇四
「信貴山縁起絵巻」の説話性	むしやこうじ・みのる		七〇	播州法界寺の別所夫妻画像について	田辺 昌平	史迹と美術	二五九	「雪舟画」に就て(座談会)	米沢・田中 吉沢・鈴木	国立博物館ニユース	二〇九
風俗から見た信貴山縁起絵周辺	鈴木 敬三		七〇	北小路大膳大夫像	菅沼 貞三	大和文華	二八	雪舟における問題点(座談会)	米沢・熊谷 松下・中村 嘉門	国立博物館ニユース	二〇九
信貴山縁起の民俗学的考察	宮本 常一		七〇	徳応筆、随元自題法像解説	中村 溪男	国華	七六	雪舟の諸問題	中村 溪男	萌春	四〇四
命蓮聖について	福山 敏男		七〇	白衣観音図と明兆画の特色	中村 溪男	ミュージアム	七〇	雪舟研究の展望	熊谷 宣夫	ミュージアム	三二
信貴山縁起絵巻の詞書はなぜ読みやすいか	井上 光貞		七〇	梵芳筆蘭石図解説	中村 溪男	国華	七六	雪舟研究文献略目録	宮 次男	萌春	四〇四
信貴山縁起絵巻の詞書について―寛文書ふうりに―	藤田 経世		七〇	物外の墨梅	島田修二郎	国華	七〇	雪舟論―雪舟の修業時代(前編)―	熊谷 重康	仏教藝術	二九
信貴山縁起雑感	中村 義雄		七〇	資料	中村 溪男		七六	雪舟彩色画論	熊谷 宣夫	美術研究	一八五
信貴山縁起絵巻勅使登山の図解説	杉山 博		七〇	雪舟	中村 溪男		七六	楊知客	松下 隆章	ミュージアム	六四
信貴山縁起絵巻研究文献略目録	秋山 光和		七〇	雪舟―四百五十年祭に因んで―	松本新八郎	歴史評論	六	周防に於ける雪舟の動勢	中村 溪男	三彩	五
魯迅に見せたかった信貴山縁起	宮 次男		七〇	雪舟―四五百十年祭を機会に―	小高根太郎	萌春	四〇四	雪舟と大分県	立川 輝信	大分県地方史	二〇
駿牛図解説	福本 和夫	三彩	七〇	雪舟の藝術	中村 溪男	美術手帖	二〇	雪舟山水画を中心に	吉沢 忠三	三彩	五
説話としての伴大納言絵詞・詞書	水尾 博	華	七二	雪舟の藝術	松川伊之助	造形	二五	雪舟の山水画	松下 隆章	ミュージアム	三
	新井 寛子	文	五	雪舟の藝術	脇本楽之軒	藝術新潮	七〇六	雪舟筆山水図	松下 隆章	三彩	五
				雪舟の造形	長谷川三郎	みづゑ	六二	雪舟の潑墨山水図	谷 信一	萌春	四〇四
					河北 倫明	新建築	三〇七	雪舟の鎮田滝真景図	田中 一松	ミュージアム	三
					三雲祥之助	美術手帖	二〇				

雪舟の肖像画	谷 信一	アム	三	岡田為恭筆明恵上人 聴琵琶図解説	楠崎 宗重	国 華	七五	浦上玉堂の再発見	鈴木 進	美術手帖	二
雪舟の四季花鳥図屏 風について八木挽町 狩野家摸本を通して	鷹巢 豊治	ス	ス	宗達藝術の基調 俵屋宗達と西行物語 絵―新出の物語図屏 風を中心として―	野間 清六	萌 春	四ノ一	玉堂の再発見 出奔した玉堂 玉堂画鑑賞の復古と 発展	矢田三千男	萌 春	四ノ八
雪舟の書	堀江 知彦	萌 春	四ノ四	光琳初期の習作画 光琳の波	山根 有三	国 華	七九	長町竹石筆讚州十六 勝面帖解説	鈴木 進	ス	ス
雪舟の落款と印章	飯島 勇	アム	三	乾山十二月花鳥歌 絵	相見 香雨	大和文華	九	礦崎波響の人とその 藝術	藤懸 静也	ス	七六
雪舟とその後の展開	中村 淡男	ス	六四	乾山筆十二月月倭歌 花鳥図について	松下 隆章	アム	五	青木木米筆冤道朝暉 図解説	中村 淡男	アム	五
雪舟略年表	田中 一松	萌 春	四ノ四	尾形乾山筆四季花鳥 図屏風解説	松下 隆章	美術研究	一八四	竹田の花鳥画	飯島 勇	ス	六九
雪舟展の感想	山口 平八	国立博物 館ニュー	二〇九	蘆舟筆葛の細道図屏 風解説	相見 香雨	大和文華	三	竹田筆秋江風怒図解 説	楠崎 宗重	国 華	七二
北京の雪舟展	北川 桃雄	藝術新潮	七ノ二	風解説	山根 有三	ス	一八八	中村竹洞画笠置山図 ・頼山陽書遊笠置山 歌雙幅解説	米沢 嘉圃	ス	七七
雪舟ブーム	嘉門 安雄	ス	七ノ四	円山応挙の画業	水尾 博	国 華	七七	貫名海屋筆玉浦図解 説	水尾 博	ス	七四
雪舟と鉄斎	下程 勇吉	淡 交	九	応挙のリアリズム	近藤市太郎	三 彩	六	岡田半江筆林和靖図 解説	水尾 博	ス	七六
雪舟とセザンヌ	成田 重郎	萌 春	四ノ九	応挙画の写実性と発 展	鈴木 進	ス	ス	峯山の肖像画をめく つて(椿山筆画稿)	鈴木 進	アム	六二
雪舟と現代	河北 倫明	ス	四ノ四	応挙名作展を見て 古典から現代へ 若冲	中村 淡男	ス	ス	一掃百態画稿の成立 渡辺崋山筆牡丹に猫 図解説	樋口 秀雄	ス	六三
雪舟秘話	N・T	美術手帖	二〇	五十歳以前の蕉村の 藝術―若干の俳句に ついての考察―	東野 芳明	ス	ス	椿椿山筆花卉図及幅 解説	楠崎 宗重	国 華	七〇
揚子江図巻と唐山勝 景図稿	熊谷 宣夫	三 彩	五	蕉村の藝術―二三の 句図についての研 究―	小林太市郎	研 究	九	黒田綾仙碑について 俳画論	脇田秀太郎	美術史	三〇
拙宗等揚について	田中 一松	ス	ス	謝蕪村筆 桃源行図 解説	梅津 次郎	国 華	七一	伝統と創造	野中 退蔵	文 化	一七三
揚月筆瓜笥図解説	米沢 嘉圃	国 華	七三	池大雅筆児島湾真景 図解説	吉沢 忠	ス	七六	近世初期肉筆浮世 絵における線	岡田 幸一	淡 交	一〇〇
狩野永徳(その一― その四)	横川毅一郎	萌 春	四ノ七一	池大雅筆離合山水図 屏風解説	鈴木 進	ス	七六	湯女図(箱根美術館 蔵)解説	鳥海 青兒	美術手帖	一〇六
桂春院の山水図襖絵 と狩野山楽	土居 次義	術 史迹と美	六四	謝蕪村筆 桃源行図 解説	梅津 次郎	国 華	七一		菅沼 貞三	大和文華	九
狩野秀頼について― 新出の渡唐天神図を 中心として―	中村 淡男	国 華	七四	池大雅筆離合山水図 屏風解説	吉沢 忠	ス	七六				
狩野晴川院の「公用 日記」について	大西 芳雄	アム	六二	池大雅筆離合山水図 屏風解説	鈴木 進	ス	七六				
発見された等伯系譜	中村 淡男	ス	六四	池大雅筆離合山水図 屏風解説	鈴木 進	ス	七六				
堅田図解説	橋崎 宗重	国 華	七五	池大雅筆離合山水図 屏風解説	鈴木 進	ス	七六				
土佐光起筆須磨明 石図屏風	橋崎 宗重	国 華	七五	池大雅筆離合山水図 屏風解説	鈴木 進	ス	七六				

本多平八郎姿絵考	菅沼 貞三	大和文華	三	西洋の影響をうけた	近藤市太郎	ミュージック	五	盛茂輝筆	山水画冊	米沢 嘉圃	国華	七五
江戸末期の浮世絵	橋崎 宗重	歴史教育	四ノ一	版画	アム			解説				
浮世絵と美人画	近藤市太郎	三 彩	七	小出橋重とガラス絵	三隅 貞吉	日本美術	三〇	江塚圃筆	小幅山水	シ		七六
浮世絵の正月	菊地 貞夫	国立博物館	二四	レバント戦國図の屏	西村 貞国	華	七六	図解説				
芝居錦絵	小笹 昇	日本美術	三六	風について				解説	荳棚閑話図	シ		七八
歌舞伎絵考証の一例	工藝			朝鮮・中国・其他				葛尊筆	漁業図解説	シ		七〇
相撲の古画	小林 謙一	三二	三二	黄海南道発見の高句	李 進 熙	駿台史学	六	清画	多子図	シ		七六
菱川師宜の歿年に就	橋崎 宗重	立正史学	一九	麗壁画古蹟	河北 倫明	みづゑ	六六	遼陽発見の三壁画古	藤田 国雄	シ		五九
発見	橋崎 宗重	国立博物館	二七	中国絵画の焦点	川上 溼	美術研究	二六	墓	秋山 光和	シ		七九
春信	高崎誠一郎	国立博物館	二七	顧愷之の魏晉勝流画	島田修二郎	文 化	一七三	遠陽発見の三壁画古	秋山 光和	シ		七九
東洲斎写楽(その一)	横川毅一郎	ス 館ニユー	二七	讚について	米沢 嘉圃	東洋文化	二	敦煌千仏洞一壁画と	松本 栄一	シ		二六、元
その鑑賞に先立つ解	洪井 清	ス 館ニユー	二七	松斎梅譜提要	米沢 嘉圃	研究所紀	二	その歴史	松本 栄一	シ		二六、元
説と写楽の製作	吉田 暎二	ス 館ニユー	二七	中国古代における顔	米沢 嘉圃	要		敦煌壁画の模写	杉村 丁	シ		三三
東洲斎写楽覚書	吉田 暎二	ス 館ニユー	二七	宋元の花鳥画	鷹巢 豊治	ミュージック	五	敦煌本瑞応図巻	松本 栄一	シ		二八四
新発見の写楽	近藤市太郎	ス 館ニユー	二七	評論「明画」について	米沢 嘉圃	日本文化	三	敦煌本白沢精怪図巻	松本 栄一	シ		二八四
懐月堂美人画につい	中村 淡男	ス 館ニユー	二七	評論「明画」について	田中 一松	美術研究	一八四	敦煌本降魔変(牟度	秋山 光和	シ		一八七
と現代性	近藤市太郎	ス 館ニユー	二七	周年記念展観講演	梁楷の藝術	三 彩	七	又關聖変) 函巻につ	秋山 光和	シ		一八七
理想主義者歌麿	近藤市太郎	ス 館ニユー	二七	梁楷について	鈴木 敬	ミュージック	六	いて	小高根太郎	シ		四ノ五
浮世絵師歌麿	菊地 貞夫	ス 館ニユー	二七	梁楷資料(未定稿)	島田修二郎	美術研究	一八四	古典から現代へ	中央アジアの絵画	シ		四ノ五
歌麿美人	風間 完	ス 館ニユー	二七	楼観の作品について	堂谷 憲勇	文 化	一三三	中央アジア壁画昆沙	門天像	シ		一九
「歌麿」名品集	風間 完	ス 館ニユー	二七	張風とその藝術	米沢 嘉圃	大和文華	一八	西域出土胡服美人図	上野 アキ	シ		一八九
グラフ	菊地 貞夫	ス 館ニユー	二七	古典から現代へ	小高根太郎	春	四ノ三	大谷ミツシヨン将来	熊谷 宣夫	シ		一三
東海道の夏(広重	橋崎 宗重	ス 館ニユー	二七	牧谿	小高根太郎	春	四ノ三	の版画須大掇本生図	熊谷 宣夫	シ		一三
筆 東海道五十三	柳原 玲子	ス 館ニユー	二七	銭舜拳	小高根太郎	春	四ノ三	吐魯番将来版画「須	熊谷 宣夫	シ		一三
次より)	柳原 玲子	ス 館ニユー	二七	石涛	小高根太郎	春	四ノ三	大掇本生図」解説	熊谷 宣夫	シ		一三
広重筆腰越図解説	柳原 玲子	ス 館ニユー	二七	作家とその時代	小高根太郎	春	四ノ三	アジヤンタ壁画の模	熊谷 宣夫	シ		一三
絵入狂言本について	柳原 玲子	ス 館ニユー	二七	八大山人	小高根太郎	春	四ノ三	写と図録	熊谷 宣夫	シ		一三
敵討」と水木辰之助	柳原 玲子	ス 館ニユー	二七	臂仲和筆墨竹図解説	小高根太郎	春	四ノ三	アジヤンタ壁画の模	熊谷 宣夫	シ		一三
餞振舞	柳原 玲子	ス 館ニユー	二七	戴文進筆春冬山水図	小高根太郎	春	四ノ三	写と図録	熊谷 宣夫	シ		一三

書蹟・附篆刻・文房具

書蹟

日本

聖武天皇宸翰雜集	堀江 知彦	墨 美 五
雜集をめぐつて	堀江 知彦	墨 美 五
題名・調卷形式より見た聖語藏大智度論について	松本 包夫	書陵部紀 七
伊賀種生の大般若經	大西 源一	大和文化 二五
正倉院御物銘文集	松島 順正	書陵部紀 七
奈良時代の書と空海	藤田 経世	アム ニュージ 六
李嬌雜詠と嵯峨天皇	春名 好重	墨 美 六
藤原有文の申文	堀江 知彦	アム ニュージ 六
聖宝の墨蹟	小野 勝年	大和文化 三
醍醐寺五重塔の戲書	遠藤 嘉基	国語国文 六
青蓮院藏表制集及び灌頂阿闍梨宣旨官牌の紙背文書について	伊東 卓治	美術研究 一八四
佐理隨想	堀江 知彦	墨 美 五
行成の書とその美的生活	上原 欣堂	墨 美 五
行成の手紙	財津 永次	墨 美 五
三十六人集諸本と系	島田 良二	国語と国文学 三二
長谷切本和漢朗詠集	小松 茂美	アム ニュージ 六
平清盛・頼盛兩筆法	小松 茂美	墨 美 五
華經	小松 茂美	墨 美 五
敵島神社の扇について	近藤 喜博	書 品 六
目なし經とその周辺	小松 茂美	アム ニュージ 六

美術文献目録

書状概説

書状集 釈文解説

行政の恋文

平家びとの書状

消息散らし書

豊国大明神と虚堂和尚墨跡

雪舟の書

光悦の書品

乾山の短冊是非

良寛・貞心・由之

山陽の書―その遺墨・の見方など―

韓天寿事蹟―我が国法帖製作の功勞者―

木米の書簡

書の話

座談会「書」一、二

墨跡

用語解説

写本

朝鮮・中国

東大寺藏高麗版「華嚴經疏疏演義鈔」とその影響について

木簡の書法

漢人木簡集一、二

スタイン第三回中垂探検採集木簡

是沢 恭三 墨 美 五

堀江・小松 墨 美 五

町 春草 文藝春秋 三ノ三

小松 茂美 墨 美 五

是沢 恭三 墨 美 五

近藤 喜博 アム ニュージ 六

堀江 知彦 萌 春 四ノ四

樋口 秀雄 墨 美 五

多賀 博 工藝 三二

堀江 知彦 アム ニュージ 五

豊田 清史 日本美術 三五

今関 天彭 書 品 七

島海 青兒 三 彩 三

細野 燕台 陶 説 元

谷川・上田 赤羽・平尾 日本文化 九、一〇

田山 方南 財 交 五

田山 方南 淡 交 五

小松 茂美 アム ニュージ 三

平岡 定海 大和文化 六

松井 如流 書 品 六

西川 率 墨 美 五

日比野文夫 墨 美 五

長沙出土の木簡

中国古代漆器の文字

中国古代漆器の銘

漢・封龍山頌

東魏・敬史君碑

敬史君碑積文

有隣館所蔵の長行馬文書

長行馬

趙子昂の二群の尺牘

趙子昂補記

伊墨卿の書

伊墨卿私見

澄清堂帖

澄清堂積文

文房閑話

「印史」小考

漢委奴国王金印と博多

有隣館所蔵の巨鉢

大和古印

硯墨

彫刻

佛像銘の形式について

蠟型鋳物の「もなか手」新羅仏の「もなか手」

森 鹿三 墨 美 五

梅原 末治 墨 美 五

松井 如流 書 品 六

松井 如流 墨 美 五

藤枝 晃 墨 美 五

西川 率 書 品 七、七

青 關 墨 美 五

松井 如流 墨 美 五

上田 桑鳩 墨 美 五

松井 如流 墨 美 五

澄清堂積文 墨 美 五

文房閑話 墨 美 五

「印史」小考 墨 美 五

漢委奴国王金印と博多 墨 美 五

有隣館所蔵の巨鉢 墨 美 五

大和古印 墨 美 五

硯墨 墨 美 五

彫刻 墨 美 五

佛像銘の形式について 墨 美 五

蠟型鋳物の「もなか手」新羅仏の「もなか手」 墨 美 五

立田 三朗 墨 美 五

丸尾彰三郎 アム ニュージ 六

小川 晴暢 歴史教育 四ノ五、六

朝鮮の仏教美術へ阿
弥陀像造立の問題に
よせて
榎本 杜人
ミュージ
三

錦城山石仏試論
熊谷 宣夫
美術史 三

新羅甘山寺石造弥
勒・阿弥陀像
中吉 功
朝鮮学報 九

博物館の庭にある石
人
矢島 恭介
国立博物
館ニュー
ス 二六

李朝時代の石人と石
羊
山本 豊市
三 彩 七

中国古代彫塑
依放葉出土の嵌石馬
面
梅原 末治
大和文華 九

前蜀始祖王建棺座石
彫の二十四家妓につ
いて
岸辺 成雄
国際東方
学研究会
紀要 一

古典から現代へ
雲岡の仏たち
小高根太郎
萌 春 四ノ七

北齊・天保三年 石
造菩薩立像 解説
千沢 植治
アム ミュージ 六

博物館の石像
石造菩薩像(隋開
皇五年銘)
国立博物
館ニュー
ス 二〇

石造人物像
隋開皇五年・唐崇光
寺石造觀音菩薩立像
千沢 植治
アム ミュージ 六

四川省唐代摩崖窟龕
の造像銘
松原 三郎
美術史 三

五代同光二年石仏
西域出土の双面壺と
人面のアブリケ
松本 栄一
国 華 七三

大谷コレクシヨンの
西域出土佛像二種
熊谷 宣夫
美術研究 一六

紀年銘あるクシヤ
ナ時代のマトウラー
仏について
高田 修
美術研究 一四

ガンダーラ如来坐像
解説
千沢 植治
アム ミュージ 七

グラフィック・アンコール
の彫刻
ミュージ
六

建築
伊藤 延男
新建築 三ノ三

伝説論と伝統
材質とフォルム
二川 幸夫
建築文化 二七

現代の眼における帯
域空間
西川 曉
二六

和風の視覚言語―そ
の歴史的検討
太田博太郎
新建築 三ノ八

日本建築の話(一)、(二)
外人の見た日本建築
藤島玄治郎
羽陽文化 二九、三〇

講座
古建築への入門35
近藤 豊
史迹と美
術 二六三、二六四、
二六五、二六九

最近における建築遺
跡の発掘
浅野 清
仏教美術 元

「間」の建築的研究序
説―空間の表現とし
ての―
内藤 昌
日本建築
学会研究 七

居間中心形住宅様式
の史的位置
木村 徳国
日本建築
学会論文
報告集 五

「づくり」について
井上 充夫
建築史研
究 三

礼堂の諸形式につい
て(その1、その2)
井上 充夫
日本建築
学会研究 七

用語解説・建築
柱
伊藤 延男
アム ミュージ 六

日本建築の窓
古建築の窓
藤原 義一
日本工藝
近藤 豊 九

茶室の窓
廊について―日本建
築の空間的發展にお
ける一契機―
井上 充夫
日本建築
学会論文
報告集 五

大工・引頭・長・連
の成立について
大河 直躬
史迹と美
術 二六五

奈良大工の一性格
元祿町彦根藩の大工
について
西川 幸治
日本建築
学会研究 二六

外宮建築の創立年代
東大寺鎮守社本殿形
式の変遷(その石清
水式八幡宮造形式の
過程)
山本 栄吾
日本建築
学会論文
報告集 五

手向山神社本殿の形
式にみる石清水八幡
宮の影響
筑紫 豊
神道史研
究 三

八幡大菩薩宮崎宮創
建考―大分宮から宮
崎宮へ
田辺 泰
日本文化 元

日光の建築
仏教美術講座
日本の寺院建築一
―三
福山 敏男
国立博物
館ニュー
ス 二〇四―
二〇六

飛鳥寺の発掘調査
飛鳥寺の第一次発掘
調査
榎本 杜人
アム ミュージ 二〇

四天王寺旧境内の第
二次調査
浅野 清
アム ミュージ 六

法隆寺の金堂(古都
随想1)
法隆寺五重塔並びに
金堂の古代釘の冶金
学的研究
齋藤 忠
国立博物
館ニュー
ス 二二三

上野 直昭
藝術新潮 七ノ五

西村 秀雄
古文化財 三

青木 信美

法起寺塔婆露盤銘文と伽藍の造営	田村 吉水	史迹と美術	二六三	中尊寺藏保安三年棟札	福山 敏男	ユネージ ヌム	六	平安京左右京と居住者上、中、下	川勝政太郎	史迹と美術	二五九
薬師寺東塔	滝沢 真弓	新建築	三ノ二	法界寺阿弥陀堂その構成の語る建築の言葉	大倉 三郎	新建築	三ノ九	山城の条里と平安京「平安京私案」への大井氏の疑問に答える	米倉 二郎	史	三ノ三
元興寺極楽坊の復原	浅野 清	アム	五九	蓮花王院本堂	森田 慶一	新建築	三ノ二〇	仁安元年御親点地と左京京程の問題	藪田嘉一郎	史迹と美術	二六〇
古美術巡礼	齋藤 孝	史迹と美術	二六三	金閣	村田 治郎	新建築	三ノ五	後鳥羽上皇の白河殿と鳥羽殿について	川勝政太郎	史	三
元興寺の跡を尋ねて	齋藤 孝	史迹と美術	二六三	東求堂復原考	山本 栄吾	建築史研究	二四	法住寺殿の規模と位置について	杉山 信三	日本建築学会研究	三
興福寺食堂の発掘	浅野 清	国立博物館ニュー	一〇八	清水寺	元良 勲	新建築	三ノ二	法住寺殿の御堂と蓮華王院法住寺殿の御堂に関する研究1	川勝政太郎	日本建築学会研究	三
東大寺の寺院地外郭と主要堂塔配置計画の考察	山本 栄吾	日本建築学会研究	二五	古建築の鑑賞	近藤 豊	史迹と美術	二六三	法住寺殿の御堂と蓮華王院法住寺殿の御堂に関する研究2	川勝政太郎	日本建築学会研究	三
東大寺初期大勧進職の業績	山本 栄吾	日本建築学会論文報告集	二五	焼失した延暦寺大講堂	小林計一郎	信濃	八ノ八	建春門院の最勝光院について法住寺殿の御堂に関する研究	川上 貢	日本建築学会論文報告集	二五
東大寺歴代の大勧進職	山本 栄吾	日本建築学会研究	二五	善光寺金堂の造営	太田博太郎	日本建築学会論文報告集	二五	鎌倉期における冷泉富小路殿とその角御所	川上 貢	日本建築学会論文報告集	二五
西大寺東西両塔	大岡 清実	日本建築学会論文報告集	二五	十利・諸山からみた禅宗建築の発展	横山 秀哉	東北大学建築学報	四	面統迭立期(鎌倉後期)における内裏と院御所の研究序論	川上 貢	日本建築学会論文報告集	二五
大和の観世音寺の所在	田村 吉水	史迹と美術	二六五	曹洞宗伽藍建築の研究(III)(IV)	杉山 信三	日本建築学会論文報告集	二五	南北朝期の内裏土御門殿とその小御所	川上 貢	日本建築学会研究	二五
武威国分寺址の調査	木内 武男	国立博物館ニュー	一〇五	中世別院僧房の家屋構成について	井山 薫	人文・社会科学	四	持明院殿の沿革(持明院殿について、その1)	川上 貢	日本建築学会研究	二五
第一次武威国分寺跡発掘調査	木内 武男	国立博物館ニュー	一〇五	造宮省と造宮司	井山 薫	人文・社会科学	四	持明院殿の施設(持明院殿について、その2)	川上 貢	日本建築学会研究	二五
出土古瓦から見た播磨加西郡の廃寺について	田岡 香逸	大和文化研究	二六	石上安徳宮、石上広高宮、石上渠の所在について	田村 吉水	史迹と美術	二六〇	持明院殿の位置(持明院殿について、その3)	川上 貢	日本建築学会研究	二五
備中国分寺	藤井 直正	史迹と美術	二六二	難波長柄豊崎宮について	喜田 新六	歴史地理	二五三	室町期内裏の小御所とその平面及び会所との関係	川上 貢	建築史研究	三
出雲国分寺の発掘	石田 茂作	考古学雑誌	四ノ三	楊梅宮趾、楊梅天神と法華寺薦枕高御産	田村 吉水	史迹と美術	二六三				
平等院の建立と愚管抄の史観―末世・末法観に於ける三時と四却―	大森 志郎	文化	一七六	長岡庶都考	中山 修一	史想	二五				
				平安遷都試考	安井 良三	文化史学	三				

京都御所 岸田日出刀 新建築 三ノ一
京都御所 二川 幸夫 建築文化 二四
桂離宮を思ふ 堀口 捨巳 建築史研 二四
桂離宮に関する残さ 太田博太郎 シ
れた一、二の問題 伊藤てみぢ 新建築 三ノ二
和辻博士「桂離宮」の疑問 伊藤てみぢ 新建築 三ノ二
狂い咲きの桂離宮 太田博太郎 シ
古典としての建築遺産と歴史家の立場 桂ブームに想ふ 三ノ三

僧最澄の設けた広濟・広孫兩院とその遺跡 市村 威人 信 濃 八ノ九
源氏物語を通して見た寝殿造—六条院について 多淵 敏樹 学会研究 二
寝殿造邸宅に関する造営文書 福山 敏男 美術研究 二八四
本州の西端地方における古代の畳・塚遺跡 小野 忠熈 古代学 二六

壘・塚遺構を有する一古代村落址の研究(山口県光市、岡原遺跡発掘調査・研究報告) 山口大学教育学部記念論文 集
上総国分寺附近の条理制遺構について 平野元三郎 国学院雑 誌 五ノ五
東北地方における館址の調査予報 江上 波夫 東洋文化 研究 二
佐藤 達夫 要 二
環濠住居趾小論(一) 鏡山 猛 史 淵 七、六、八、七

「住宅様式」の基礎概念 木村 徳国 建築史研 究 二四
民家巡礼 斎藤 寅郎 新建築 三ノ四
民家の構成美 西川 駿 建築文化 二五
民家とテクスチャー 二七

「中門造」民家の間取について 白木小三郎 大阪市立 大学家政 学部紀要 七
会所成立の諸要因について(会所について、その4) 川上 貢 日本建築 学会研究 二
光浄院にみる日本建築の木割 伊藤要太郎 新建築 三ノ六
非相称の組み立てと「飛雲閣」 堀口 捨巳 シ 三ノ二
本願寺型対面所考 藤岡 通夫 大和文華 三
三溪園臨春閣の所伝とその前身建物 藤岡 通夫 日本建築 学会論文 集 五
蕪山代官江川邸について 大内 直躬 新建築 三ノ八
纏文的なるもの、江川氏旧蕪山館について 白井 晟一 シ

江戸時代撰家住宅とその性格 平井 聖 日本建築 学会論文 集 五
江戸時代撰家住宅に於ける「寝殿」について 日本建築 学会研究 三
江戸時代武家住宅に於ける配置の性格 日本建築 学会論文 集 五
彦根藩江戸屋敷について 西川 幸治 日本建築 学会論文 集 五

法令よりみた彦根藩の家作制限について 鈴木 楸 日本建築 学会論文 集 五
近世尾西地方に於ける機屋の建築—尾張起村を中心とする— 城戸 久 シ
庄川上流切妻造についての一推論 佐藤 巧 シ
仙台藩に於ける武士と農民の住居の間取に就いて4 川崎 浩良 羽陽文化 二

山形城下町の様相 川崎 浩良 羽陽文化 二

佐渡の民家 二川 幸夫 建築文化 二五
与論島の民家 野村 孝文 日本建築 学会論文 集 五
備中国新見庄の政所建築および名主・百姓住宅について 伊藤 鄭爾 歴史学研 究 一九一
例幣使街道本陣の考察(その3、その4) 松崎 茂 日本建築 学会研究 二
草庵風茶室の源流 伊藤 鄭爾 日本歴史 二〇一
上、下 太田博太郎 建築文化 二五
民家をどうみるか—草庵風茶室の成立と民家— 中村 昌生 淡 交 二
茶室 増田 友也 新建築 三ノ二
西芳寺湘南亭 神代雄一郎 シ 三ノ三
忘筌の発想 伊藤 延男 アムノジ 二
城郭建築の美 鳥羽 正雄 歴史教育 四ノ三
講座 日本城郭(一) 服部 勝吉 日本文化 一六、一七
日本の城郭(建造物篇)(一、二) 松崎 茂 日本建築 学会研究 三
農村舞台考(その7—その13) 後藤 守一 戦台史学 七
弥生時代の倉庫 浅野 清 書院部紀 七
正倉院校倉屋根内部構造の原形について 葦田嘉一郎 史迹と美 術 二六、七
正倉院双倉形溯古 森 政三 アムノジ 二
石の琉球—建造物調査の旅から— ヴァイルミ 新建築 三ノ
日本建築における庭と建物の統一 浜口隆一 史 想 五
長岡京址近傍の古瓦について 植田小太郎 史 想 五

二一九

高柿山の瓦塔遺跡について「瓦塔遺蹟研究」その一	石村 喜英	史跡と美術	二六
天神山瓦窯址発掘調査概報	田岡 香逸	史跡と美術	二六
古瓦略解	小椋 修	日本工藝	四
但馬朝来郡山東町(旧梁瀬町)楽音寺の経瓦について	田岡 香逸	史跡と美術	二七
往古と現代の瓦の製作工程に就て	鈴木 吉治	日本工藝	四

石造美術

講座			
石造美術講義九	川勝政太郎	史跡と美術	二一
一四	藤島支治郎	新建築	三〇七
日本の石造遺産	神代雄一郎	建築文化	二二
明日香の巨石	天岸 正男	密教文化	二七
紀伊高野山奥之院石造美術調査記(第一)	田岡 香逸	史跡と美術	二六
加西町玉野の石造美術	川勝政太郎	大和文化研究	二六
大蔵寺石造層塔と伊行末	天岸 正男	史跡と美術	二六
大谷寺円山石造宝塔の様式	天岸 正男	史跡と美術	二六
大阪市深江法明寺の石造層塔	福家 惣衛	史跡と美術	二六
讃岐持宝院の石層塔	司東 真雄	岩手史学研究	三
古碑から見た三陸沿岸	天岸 正男	史跡と美術	二六
北河内郡四条畷附近の石造十三仏碑	沖野 舜二	徳島大学学藝紀要	六
阿波板碑の研究	酒井 富蔵	大分県地方史	七八
富貴寺の種子石、梅遊寺の墨書十三仏板碑			

庭園

庭園講座			
庭園観賞の要点(一)	森 蘊	日本庭園	二
庭	岡本 太弼	新建築	三〇六
日本の庭・石と木における人間のドラマ名苑を守る	久恒 秀治	藝術新潮	七〇二、三
庭の造型(座談会)	イサム野口 丹下 健三	久恒 秀治	七〇六
石	二川 幸夫	建築文化	二二六
林泉用語解説2	田中 鳥雀	日本庭園	二
日本造園史の反省	田中 正大	国際建築	三三〇六
毛越寺庭園石組の構成形式	星 進	藝術学	四
東山時代の庭園文化について	森 蘊	国学院雑誌	五〇五
名園案内 京都府の部	久恒 秀治	日本庭園	二
大仙院の庭	鍋島 岳生	藝術新潮	七〇三
大徳寺実測図録(真珠庵)	直川 健一	史跡と美術	二六
名園を訪ねて	中塚敬之助	史跡と美術	二六
頼久寺庭園	藤森公次郎	史跡と美術	二六
兵主大社の庭園を見て			
円通寺の庭			

朝鮮・中国・其他

朝鮮の民家	山田万吉郎	日本美術工藝	三三
遼の中京城址	島田 正郎	考古学雑誌	四〇二

工 藝

日本民族と工藝の近代性	小西 美良	岐阜大学研究報告人文科学	四
二、三の文様について	大隅 為三	金沢美術工芸大学学報	一
河内国における歸化人と技藝	今井 啓一	滝澤家政学	七
裝飾技法の研究―象牙彫について―	辻合喜代太郎	大阪市立大学家政学部紀要	七
茶と名器	田中 仙樵	財	二
十二の瞳が輝けば	里見、川端 小山、梅沢 彌山、磯野	陶 説	二
短冊隨筆	多賀 博	日本美術工藝	二〇
4 玉椿象谷と森川 社園			
5 鉄砲鍛冶、刀匠、彫金家			
陶 磁 工			
古い器の美しさ	北川 桃雄	世界	六
古陶甕の美	佐藤 千寿	陶 説	四〇
私と古陶器	広津 和郎	世界	六
東洋陶磁講座			
奈良朝以前	田中作太郎	国立博物館ニユール	二七
平安時代の窯藝			
鎌倉・室町時代の陶器			
桃山時代の陶器			
江戸時代前期の陶器			
江戸時代後期の陶器			

朝鮮の陶器一、二 中川 千咲 国立博物館ニュー 二二、二四

中国の陶磁一 長谷部実爾 シ 二五

赤絵の技術史的考察 鷹巣 豊治 ミュージアム 六九

茶陶 青山 二郎 藝術新潮 七〇二

根津美術館国焼茶陶展と魯山人 青山 二郎 藝術新潮 七〇二

ちやわん抄 加藤義一郎 工藝 三〇八

84中興名物茶盤「楚白」 85長次郎赤「次郎坊」 86繪瀬戸・花唐草 87のんこう黒「霞」 88乾山・杜若の絵 89瀬戸白天目 90繪唐津・蛾の絵 91やまぢやわん 92象谷余技虫の行列 93繪唐津三角 94御深井焼・練上手刻文 95光悦作白狐やきものかんじんかなめ

(1)墨唐津沓茶碗 佐藤 進三 陶 説 四

(2)石皿と馬の目皿 シ 三

(3)天啓染付 久志 卓真 シ 三

(4)李朝白磁 シ 三

(5)李朝の染付 梅沢 曙軒 シ 四

(6)朝鮮唐津 岡田・宗淑 シ 五

形物香合 加藤義一郎 シ 七

日本

日本の磁器一、二 ソーム・ジ エーンス 陶 説 四〇、四一

日本陶磁史連講一 藤岡 了一 日本美術工藝 三〇六

日本陶磁史図譜一 シ 三二

須惠器 小林 行雄 日本工藝 一七、三九

自然釉を囲む問題 沢田 由治 陶 説 五

愛知用水地域の古窯群の出土品 橋崎 彰一 ミュージアム 天

伊勢天目と藤四郎景正一、二 藤田 幸之 陶 説 三、四

白天目茶碗 解説 小山富士夫 国 華 七七

菊花天目茶碗 解説 シ 七八

織部焼の意匠 中川 千咲 美術研究 一八五

膳所焼新致 保田 憲司 陶 説 五

膳所焼の年代など 杉本 捷雄 シ 五

新致「膳所光悦」 保田 憲司 シ 五

仁清の陶器 林屋 晴三 彩 尺 五

仁清伝書 満岡 忠成 陶 説 五

御室焼・仁清作品の種々相 鈴木 半茶 シ 五

御室焼・仁清の文献研究 一、三 山田 曠庵 シ 四、四

乾山・黒染茶碗管見 「佐野乾山」と「佐野伝書」 鈴木 半茶 日本美術工藝 三九

公刊 乾山自筆「佐野伝書」 林屋 晴三 陶 説 三八

光悦作染焼茶碗 銘 園城 解説 小田 栄作 シ 五

初期染焼の世に就いて 初期染焼の印判に就いて 桑吉左衛門 陶 説 三

桑家の系図と過去帳 元永五年の写本「染焼代々」 鈴木 半茶 シ 三

座談「長次郎・常慶見たまま聞いたまま」一、二 保田・満岡 陶 説 三、三

長次郎てんやわんや 磯野風船子 シ 三

苔志水・仙叟銘解説 シ 三

名物長次郎赤茶碗 「長次郎・常慶展」目録並会況 十和田修作 陶 説 五

長次郎・常慶展の意義 満岡 忠成 シ 五

桑家の一入文書を読む 鈴木 半茶 シ 五

初期染焼のこと 林屋 晴三 シ 五

田中宗慶と庄左衛門宗味の作品 磯野風船子 シ 五

古伊賀二、三 満岡 忠成 シ 五

伊賀耳付花入解説 中村 一雄 シ 五

権兵衛の茶碗 中山善三郎 シ 五

丹波の茶陶「大路窯」 桂 又三郎 日本美術工藝 三三

丹波大路窯管見 杉本 捷雄 陶 説 四

岡山県の骨壺 桂 又三郎 シ 四

源内焼といろもの窯のある町(砥部) 加藤 増夫 日本美術工藝 三三

古い砥部焼 阿部紅青子 淡 交 三〇

新しい砥部焼 古田 富夫 シ 三

再び唐津の起原に就いて 水町和三郎 陶 説 三

日本の古染付 秦 秀雄 シ 三

柿右衛門初期作品に就いて 今泉 元佑 シ 三

柿右衛門手古伊万里大皿 解説 佐藤 進三 シ 三

古伊万里梅絵大壺解説 満岡 忠成 大和文華 三

現川焼に就いて 佐羽 未央 陶 説 四〇

高取の茶碗 佐藤 進三 シ 三

薩摩陶磁史要 岡田 喜一 シ 三

朝鮮

鎌倉近代美術館の朝鮮古陶磁展について 小山富士夫 陶 説 三

鳥獸葡萄背方鏡	蔵田 蔵	ミュージアム	五九
中世の和鏡と和歌	シ	シ	五
十六口の鐘を追つて	板橋 倫行	国立博物館ニュー	二〇九
平等院のつりがね	立田 三朗	ミュージアム	三三
大船常楽寺鐘	岩越 二郎	史迹と美術	二六七
重要文化財の「釜」(座談会)	保坂・細見 加藤	日本美術工	三九
蘆屋釜断絶の私見	嶋本久寿弥 太	シ	三三
江戸の金工	佐藤 貫一	日本文化財	一九

刀 劍

日本の刀劍	本間 順治	日本文化財	九
名刀はどうして生れたか(一)(四)	霞 俊夫	刀劍美術	三七、三六、四〇、四三
地鉄の働きと強靱性	シ	シ	三九
研磨の歴史	本間 順治	シ	シ
常州鍛刀たくみの種々	飯島 清	シ	四一
加州刀工炭宮	八田 吉郎	シ	四〇
見直さるべき新刀・新々刀の刀工たち(一)(二)	永 冠峯	シ	四〇、四一
小村神社御霊代頭太刀について	尾崎 元春	シ	三九
本橋大物忌神社太刀の由来上、下	今井誠一郎	羽陽文化	元
ソハヤノツルギと大典太についての一考察	佐藤 貫一	刀劍美術	三九
集古十種所載 備前国五香宮の宝刀について	久山 峻	シ	四〇

年紀のある長光について	加島 進	刀劍美術	三九
清堯の鉄包奉納について	辻本 直男	シ	シ
越前康継の研究一、二	佐藤 貫一	シ	四二、四三
非人清光	上基嘉兵衛	シ	三九
会津刀匠角元興に就て	米内 雲外	シ	四二
左行秀略伝	本阿弥光博	シ	三九
肥後の延寿国秀	福永 醉劍	シ	シ
奥大和守元平の俗名に就て	米山 雲外	シ	シ
資料より見たる後藤一乗伝	村上 孝介	シ	三九
万葉刀劍考	鈴木 敬三	国学院雑誌	五ノ六
槍の形式	沼田 鎌次	ミュージアム	六
「中世に於ける刀劍書」の研究(四)	辻本 直男	刀劍美術	四〇
国広大鑑補遺	佐藤 貫一	シ	シ
中世甲冑の研究(一)、(二)	尾崎 元春	シ	四〇、四一
古銅器によせる中国に於ける銅器の出現とその展開	難波田龍起 杉村 了	三 彩	七四
根津美術館の股周銅器	奥田 直栄	シ	シ
中国古代の金銀器	梅原 末治	ミュージアム	六〇
資料紹介	シ	シ	シ
股代嵌石短劍	岡本 太郎	考古学雑誌	四ノ四
すさまじい美学について	シ	誌	七四

木 漆 工

漆の歴史	松田 権六	日本文化財	二六
------	-------	-------	----

講座	岡田 譲	日本文化財	一六、一七
日本の漆藝上、下	岡田 譲	日本文化財	一六、一七
日本漆工略史 8-11	沢口 悟一	日本漆工	七六、七九
日本漆工史雑感一、二	吉野 富雄	日本工藝	八、一〇
上代漆藝に於ける形の感覺	岡田 譲	シ	二〇
江戸の漆工	溝口 三郎	日本文化財	一九
倭漆のこと—中国に於ける日本時絵の鑑賞—	谷田 関次	日本工藝	二〇
詩絵	野間 清六	淡 交	九
根来塗のよさ	岡田 譲	日本漆工	七〇
高台寺靈屋時絵の針刻について	井田 宣秋	日本工藝	二〇
子の日棚と織部棚	岡田 譲	ミュージアム	六四
織部棚(虎溪三笑時絵棚)東京国立博物館保管 解説	シ	シ	シ
繪扇丸文散時絵手箱	シ	シ	シ
東京国立博物館蔵 解説	シ	シ	シ
琉璃切嵌めの時絵硯箱	シ	シ	シ
技術とお碗の感覺	渡辺 素舟	日本漆工	七〇
大地師の元祖は惟喬親王か	張間 善一	シ	七〇
大地師の元祖は惟喬親王ではない	沢口 悟一	シ	七三
明恵上人の隠几	景山 春樹	ミュージアム	六〇
資料紹介	シ	シ	シ
佐渡泉遺跡出土の木器	大周 嘉晴	考古学雑誌	四ノ四
中国の古代漆器	梅原 末治	日本工藝	八

朱塗花鳥箔絵面盆 岡田 護 大和文華 三

染織工

衣裳の美 山辺 知行 ミュージアム 六

日本服飾意匠史観と新しい美の展開 野村 信三 日本工藝 五

公家の装束とその形と服色の成因について 日野西資孝 ミュージアム 六

新資料紹介 古礼冠 北村 哲郎 ミュージアム 六

春日神社の能装束・岐阜県本巣郡根尾村神所 山辺 知行 国立博物館ニュー 二

戦国大名の陣羽織 太田 英蔵 大和文華 三

伝豊太郎着用の綴錦鳥獸文陣羽織 渡辺 素舟 日本文化 九

江戸の染織 山辺 知行 国立博物館ニュー 二

松竹梅のある衣裳・めでたい衣裳いろいろ 山辺 知行 国立博物館ニュー 二

赤地雪持柳蝶丸紋散籠箔解説 山辺 知行 国華 七

黒地梅樹模様振袖解説 山辺 知行 国華 七

紅ビロード地草花狗兒模様女帯解説 ミュージアム 六

本多平八郎姿絵の服飾書き 遠藤 武 和洋女子大学紀要 一

南蛮伝来の服飾考―合羽に関する研究― 太田 英蔵 書院部紀要 七

犀甲文錦について 林 幹弥 文化史学 三

天寿国縮緬帷考 山辺 知行 ミュージアム 六

桃山刺繍の背後にあるもの 明石 染人 日本工藝 二

近世模様染の発達 明石 染人 日本工藝 二

代表的な模様染・紅地熨斗模様縮箔友禪振袖に就て 明石 染人 日本工藝 五

鳴海有松地方の絞染 神谷 栄子 ミュージアム 六

伊勢型紙について 杉原 信彦 日本工藝 七

長板中形 山辺 知行 ミュージアム 六

長板中形の工程 金山 正好 ミュージアム 六

技術を保持する人たち 鎌倉芳太郎 国立博物館ニュー 二

琉球紅型雑感 林 孝三 古文化財 三

熊野速玉大社所蔵の両面亀甲打組紐の染料 涼野 登元 古文化財 三

日本上代の茜及び「あたね」について 上村 六郎 大阪学芸大学紀要 B 五

紺屋の仕事 北村 哲郎 日本工藝 五

南北朝時代の蓬萊図文―新発見の最古平絹― 上、下 大道 弘雄 国華 七

ヘーデン探検隊発見の漢代の絹 上、下 西村 兵部 考古学雑誌 三

ガラス工・玉工 岡田 護 交々 七

ガラス ガラス器雑解―乾隆薩摩、欧州硝子コレクシヨンの展から― 淡島 雅吉 ミュージアム 六

日本古代のガラス 梅原 末治 ミュージアム 六

長崎諏訪神社祭礼の傘鉾についているガラス細工 山崎 一雄 古文化財 三

中国古代のガラス 梅原 末治 ミュージアム 六

資料紹介 再び南露出土のガラス容器について 平井 尚志 考古学雑誌 四

戦国時代の玉盃玉杯 梅原 末治 大和文華 六

玉の美 杉村 勇造 交々 二

茶杓 高原 杓庵 交々 三

表装美の再認識 野間 清六 日本文化 七

こけし 西沢 笛吹 日本工藝 二

美濃紙 井上吉次郎 大和文華 三

東洋考古学の発達 駒井 和愛 歴史教育 四

遺跡発掘の新装備 江上 波夫 藝術新潮 七

埋蔵文化財の処理 平岡 修 日本文化 三

「埋蔵文化財」をめぐる諸問題(座談会) 後藤・藤田 八幡・瀬口 齊藤 日本文化 三

遺跡の保護状況(大分) 藤田 生穂 日本文化 三

学校教育に於ける埋蔵文化財の活用(広島) 豊元 国 日本文化 三

考古学と博物館 酒詰 仲男 文化史学 三

用語解説・考古 村井 富雄 ミュージアム 六

横穴式石室と横穴 石製模造品 村井 富雄 ミュージアム 六

日本石器時代人の生活と自然環境 妹尾 清人 歴史教育 四

中期縄文文化の諸問題(関東・中部地方を中心として) 野口 義麿 ミュージアム 六

弥生式文化より古墳文化への推移について(長野県安曇平を中心として)
千代 肇 考古学雑誌 四ノ二

北海道奥尻島遺跡調査概報
児玉作左衛門・大場利夫 北方文化 二

根室国温根沼遺跡の発掘について温根沼式押型文遺跡
岩手県水沢市権現堂遺跡調査報告
小岩 末治 考古学雑誌 四ノ二

平の遺跡について
嶋尾 正一 越飛文化 三、四

壬生町上田遺跡の研究
嶋 静夫 下野史学 九

栃木県南大飼村上田遺跡
藺田 芳雄 石器時代 三

栃木県那須町赤坂西丘・北遺跡の調査
北関東早期縄文文化編年資料の3(5の内)
渡辺 龍瑞 三

関東南部の沖積世に關する諸問題
杉村 新 三

千葉県白浜町渉貝塚の調査
野口 義麿 国立博物館ニューズ 二六

神奈川県大丸遺跡の研究
芹沢 長介 駿台史学 七

佐渡岩谷口岩蔭遺跡について
亀井 正道 石器時代 三

飛・美地方の縄文式遺跡を訪ねて
小江 慶雄 史 想 五

前方後円墳の成立とその性格
大塚 初重 駿台史学 六

古墳の墳丘と内部施設との關係
尾崎喜左雄 考古学雑誌 四ノ二

古式古墳に於ける副葬品の呪術的意義
佐野 大和 国学院雑誌 五ノ四

古墳における殉葬例
石部 正志 史 想 三

武蔵国川田谷熊野神社境内所在の古墳
村井 富雄 考古学雑誌 四ノ三

神奈川県座間町鈴鹿横穴古墳
下津谷達男 三

山城古墳出土地名表
岩野 見司 史 想 五

石柳の羨道を有する横穴山古墳
小野 忠熙 上代文化 三

八代市大嵐蔵山古墳(肥後に於ける箱式石棺内合葬について)
乙益 市隆 考古学雑誌 四ノ四

陵墓参考地
鶴塚・秘塚の調査
末永 雅雄 書陵部紀 六

筑後風土記逸文に見える筑紫君磐井の墳墓
森 貞次郎 考古学雑誌 四ノ三

北海道虻田郡豊浦町アルトリ遺跡出土の遺物について
竹田 輝雄 上代文化 三

尼崎市における遺物・遺跡
村川 行弘 兵庫史学 六、七

秋田県下の魚形線刻石
武藤 鉄城 石器時代 三

福島県成田発見の石器について
鳥畑 寿夫 上代文化 三

富山県における「大珠」発見遺跡
早川 莊作 越飛文化 三、四

モヨロ貝塚出土のオホーック式土器
大場 利夫 北方文化 二

縄文式土器の人物意匠について
八幡 一郎 考古学雑誌 四ノ四

山梨県における早期初頭の縄文土器について
山本寿々雄 石器時代 三

志摩国志摩町越加字丸田出土の前期縄文式土器について
岩野 見司 上代文化 三

甕棺と思われる縄文文化中期の土器群
吉田 義昭 石器時代 三

松本平における初期弥生式土器について
藤沢 宗平 信 濃 八ノ六

信濃の後期弥生式土器
桐原 健 上代文化 三

天王山式土器の編年の位置に就いて
磯崎 正彦 三

土器面における横位文様の施文方向
佐原 真 石器時代 三

飛騨小坂川流域の押型土器
大江まさる 史 想 五

箱清水式土器における赤色塗彩の傾向とその意義
桐原 健 信 濃 八ノ二、三

丹後峯山町杉谷出土の合蓋土器
島田 信行 史 想 三

新潟県三島郡藤橋の遺跡―その出土土器に就いて―
寺村 光晴 上代文化 三

対馬発見の丹塗磨研土器
増田 精一 ミュージアム 三

岩手県における土師式文化考
小岩 末治 岩手史学 三

須磨器より見たる出雲地方石室の時期について
山本 清 島根大学論集(人文科学) 六

壱輪製作考
金谷 克己 和洋女子大学紀要 一

円筒壱輪私考
亀井 正道 国学院雑誌 五ノ四

はにわ考 垂仁天皇

紀壇輪創製記事批判

壇輪をつくつた人々

壇輪の呪縛

資料紹介

人壇輪を出土する

備前円光寺遺跡

両手を前についた

男子壇輪

壇輪わざおき

壇輪いのしゝ解説

壇輪猿解説

東大阪出土の独木舟

山城鑄錢遺跡に於ける

二、三の問題

京都府銭司鑄錢遺跡

新出の土釜二例

資料紹介

甲斐国むじな塚出土

土の鋸について

サナギ(銀、鉄銀)と

いうもの

三崎山出土の鑄銅刀

中国・其他

新石器時代の中国人

中国の埋蔵文化財

最近における殷式遺

蹟の研究と発掘上、

下

南シベリヤの古代文

化

サカ諸種族の考古学

的研究(ア・エス・

ベルンシタムの天山

地方の調査から)

資料紹介

ホラズム最古のゴ

ロデインシチュ

イラン・イラク調査

一考古学者の眼から

一七イロン・イラク

の旅を語る

三笠宮崇仁

同妃百合子

増田 精一

香山 陽坪

香山 陽坪

香山 陽坪

香山 陽坪

香山 陽坪

香山 陽坪

香山 陽坪

香山 陽坪

香山 陽坪

香山 陽坪

香山 陽坪

香山 陽坪

香山 陽坪

香山 陽坪

香山 陽坪

香山 陽坪

香山 陽坪

香山 陽坪

香山 陽坪

香山 陽坪

香山 陽坪

香山 陽坪

香山 陽坪

香山 陽坪

香山 陽坪

香山 陽坪

香山 陽坪

香山 陽坪

香山 陽坪

香山 陽坪

香山 陽坪

香山 陽坪

香山 陽坪

香山 陽坪

八相成道変交と今昔

物語集伝説話「我

が国説話文学の演変

と敦煌資料

阿弥陀仏号について

一考察 上

武士社会に於ける三

社信仰の一面

京鎌倉の往還 上

歴史上より見た日光

近畿万葉地誌四

撰津国の部二一五

那智の滝そのほか

正倉院宝物の藥物

茶道の理念

茶道史の対極

栄西と実朝

佐々木道誉と足利

尊氏

足利義政と相阿弥

堺の宗久 博多の

宗湛

遠州と光悦

佗宗且と姫宗和

上林三入と春日局

石州と宗且門下

予楽院と鴻池道億

松平不昧と小林一

茶

井伊直弼と蓮月尼

黄遵憲とラフカデ

イオ・ヘルン

茶道藝林閑歩

茶道藝林閑歩

茶道藝林閑歩

茶道藝林閑歩

茶道藝林閑歩

茶道藝林閑歩

茶道藝林閑歩

茶道藝林閑歩

茶道藝林閑歩

茶道藝林閑歩

茶道藝林閑歩

茶道藝林閑歩

川口 久雄

水上 一久

渡辺 国雄

田中 重久

坂本 太郎

北島 葭江

鍋井 克之

渡辺 武

桑田 忠親

林屋辰三郎

淡 交

淡 交

淡 交

淡 交

淡 交

淡 交

淡 交

淡 交

淡 交

淡 交

淡 交

淡 交

淡 交

淡 交

淡 交

淡 交

淡 交

淡 交

淡 交

淡 交

淡 交

淡 交

淡 交

淡 交

淡 交

淡 交

淡 交

淡 交

淡 交

淡 交

淡 交

淡 交

淡 交

淡 交

金沢大学

法文学部

論集文学

四

国学院雑

誌

五〇/四

刀剣美術

誌

元

史迹と美

術

六

日本文化

誌

六

史迹と美

術

三六、三六

三六、三六

三六、三六

三六、三六

三六、三六

三六、三六

三六、三六

三六、三六

三六、三六

三六、三六

三六、三六

三六、三六

三六、三六

三六、三六

三六、三六

三六、三六

三六、三六

三六、三六

三六、三六

三六、三六

三六、三六

三六、三六

三六、三六

三六、三六

三六、三六

三六、三六

現代美術
西洋美術
単行図

書

唐詩と茶	神田喜一郎	淡交	九二	参天台五台山記について	森 克己	駒沢史学	五	生活の中の近代美術	毎日新聞社
茶の細道	西田直二郎	シ	九四	長安の西明寺とわが入唐僧	小野 勝年	仏教藝術	元	藝術論集第二巻	編、土方 毎日新聞社 今泉他
茶道と遊戯	小林太市郎	シ	九六	宋初の仏教と齋然	塚本 俊孝	仏教文化	四	現代藝術講座 第四巻 (新書版)	エルニエアー 未来社
豊太閣の茶生活上、	横川毅一郎	シ	九二	漢代の七盤舞について	林 謙三	奈良学藝	五ノ三	ソワイエト美術論	現代藝術研 河出書房
下	藤田喜一郎	叢考	九四、九五	西域出土の胡・漢両語文獻	芳村 修基	龍谷大学	三	美と感覚《フランス美術をめぐりて》	富永 惣一 朝日新聞社
雑考	齋藤 考三	考三		チベット及びネパールにおいて新たに発見せられた仏教典籍について	ジウセツペ ッツチ	大谷学報	三ノ一	日本の伝統	日本放送協会
資料	窪田文書(一)	大和文化	六	中国・印度間の古代陸路について	山本 智教	密教文化	三	現代人の眼《伝統美術の批判》	岡本 太郎 光文社
備前安養寺文書丹生屋正頼寄進状	瀧川政次郎	史述と美術	三六	近代藝術の状況	ジャン・カスリ、滝口修造、大久保和郎	河出書房		西洋美術史上、下	森口 多里 東峰書房
李朝随想	井上 昇三	萌春	四ノ八	現代藝術の理解	名取 堯	造形藝術研究会		西洋美術語(図説文庫)	今泉 篤男 小峰書店
古代吳越の文化	市川健二郎	考古学雑誌	四ノ四	藝術の歴史	ヴァン・ルイン	新評論社		世界美術物語(図説文庫)	嘉門 安雄 偕成社
上	ヘーゲル全集美学第一巻	竹内敏雄訳	岩波書店	藝術の草の根	ハーパー	岩波書店		美術のみかた《原始美術からピカソ迄》	井手 則雄 小山書店
美学概論	井島 勉	創文社		現代藝術の体系	島村 民蔵	日本学術振興会		美術の誕生(原色版美術ライブラリ)	今泉 篤男 みすず書房
マルクス・レーニン主義美学(青木文庫)	ソ同盟アカデミー編	青木書店		孤獨な藝術幻想	河上徹太郎	新潮社		古代世界(シ)	新 規矩男 シ
生活の美学(角川新書)	鼓 常良	角川書店		美術と社会	ハーパー	牧書店		ロマネスク、ゴシック	吉川 逸治 シ
新しき藝術(河出新書)	オザンフア	河出書房		生活の中の近代美術	周郷博	周郷博		アジア美術のあらまし(アジア歴史文庫)	小杉 一雄 福村書店
現代藝術入門(河出新書)	古川逸治	河出書房		藝術の歴史	周郷博	周郷博		ペルシアの藝術	深井 晋司 東京創元社
藝術の歩み(河出新書)	現代藝術研究所編	河出書房		藝術の草の根	周郷博	周郷博		キリスト《美術作品を見る》	田中忠雄、中森義宗、柳宗文編

ル・ヴル美術館(岩波写真文庫)	岩波書店編	岩波書店	抽象	難波田竜起	緑地社	ブラック、花と鳥のノート	宇佐見英治	みすず書房
西洋美術館	富水 惣一	修道社	VINCENT VAN GO	里見 勝蔵	読売新聞社	ポッティチエルリイ(フエーバー世界名画集)	スペンダー	平凡社
美術カード、2、4	嘉門、奥平	美術出版社	ゴッホの手紙 一―四	式場隆三郎	創藝社	エル・グレコ	ヒンクス、	
原色版現代世界美術全集 3、4、6、9、10巻	座右宝刊行	河出書房	炎の人ゴッホ 上、下	式場隆三郎	三笠書房	クレール	リード	
現代日本美術全集 7、9、10巻	座右宝刊行	角川書店	ルノアールからピカソへ	アール・ヴイン	紀伊国屋	ゴッガン	久保貞次郎	
明治・大正・昭和・見る美術史(別冊アトリエ)	隈元謙次郎	アトリエ社	レービン伝	グストン	洋々社	ヴァン・ゴッホ	エアートン	
岩波小辞典西洋美術	村田 潔	岩波書店	ルネッサンス、ヴェネツィア派(原色版美術ライブラリ)	ミッシェル	洋々社	1―2	エアートン	
世界美術辞典Ⅲ、Ⅳ	造型教育研究会編	不味堂	北方パロック、北方ルネッサンス	福田 新生	三輪 福松	ジャガール	滝口修造	
世界美術年表	開国百年記念文化事業会編	洋々社	十八世紀の絵画	嘉門 安雄	みすず書房	デュフィ	ク尔特イヨ	
日米文化交流史1、3、	大久保利謙	小学館	十九世紀の絵画	山田智三郎	富永 惣一	ドガ	ウイレンス	
明治文化史8巻 美術篇	原口敬明編	岩波書店	フォーヴィスム	宮本 三郎	瀨木 慎一	ルノワール	ウイレンス	
図説日本文化史大系11巻 明治時代	稲村耕雄訳	日本色彩社	表現主義	徳大寺公英	滝口 修造	ロートレック	ウイレンス	
色彩と造形	岩崎喜久男	美術出版社	シュール・レアリスム	浜田 順	針生 一郎	セザンヌ(岩波文庫)	ボッティチェリ	
メキシコ美術展図録	読売新聞社編	毎日新聞社	抽象絵画	ゴッホ	久保貞次郎	赤城泰舒遺作集	OCULISS(画集)	
第二回現代日本美術展一九五六年	座右宝刊行	角川書店	ゴッガン	デュフィ	田辺 憲三	モゼリアニ	ルソー	
現代日本美術全集7、9	大塚巧藝社	河出書房	シャガール	モゼリアニ	岡本謙次郎	ルドルフ	ピカソ、戦争と平和	
明治・大正・昭和和美人画名作選	座右宝刊行	河出書房	ゴッホ	ルドルフ	片山 敏彦	ピカソ、戦争と平和		
世界名画全集 3 古代、6 ルネッサンス、12 十九世紀印象派等	レ・ヴェン トゥリ、宇佐見英治訳	みすず書房	ピカソ、戦争と平和		滝口 修造			
現代絵画								

佐藤哲三作品集
美術出版社

杉本健吉、新平家面帖
杉本 健吉
筑摩書房

鉄斎画集
まつやま・
五味書院

柳瀬正夢
ふみお
式場隆三郎
栗原書店

山下清作品集
安井會太郎
文藝春秋新社

安井會太郎表紙画集2
安井會太郎(現代日本画
家選)
美術出版社

安井會太郎(角川写真文
庫)
今泉篤男監
編 角川書店
角川書店

現代作家デッサン集
奥村土牛
芸 岬 堂

中村岳陵
林 武
シ

東山魁夷
シ

福田平八郎
シ

北川民次(現代日本画)
ブラックのデッサン(別
冊アトリエ)
瀬木 慎一
黒田 頼綱
アトリエ社

山下新太郎(美術家シリ
ーズ)
ブリジスト
ン美術館編
ブリジストン
美術館

棟方志功(講談社アート・
ブックス)
富水 惣一
講 談 社

湧然する女者達々
棟方 志功
竜 星 閣

青天抄板画巻
棟方志功板
画 原石鼎
宝 文 館

上田富文創作板画集一
上田 富文
現代板画協会

板画の道
棟方 志功
宝 文 館

板画の肌(河出新書)
シ
河 出 書 房

生活版画
木版画
明治図書出版
K・K

正しい木版画の作り方
(増刊アトリエ)
平塚 運一
美術出版社

現代版画の技法
洋画の技法
美術出版社

1 材料と技術篇
2 人物篇
3 静物篇
4 風景篇
美術出版社

パステル・クレヨン・ク
レパス画の描き方(増刊
アトリエ)
美術出版社

水彩画を描くたのしみ
(増刊アトリエ社)
石井柏亭他
アトリエ社

彫 刻
細島昇一他
シ

古代彫刻の膺
児島喜久雄
岩波書店

ギリシャの彫刻
フルトヴェ
ングラー、
ウルリヒス
沢柳大五郎
シ

ミケランジェロ
ロマン・ロ
ラン、上田
秋夫訳
みすず書房

ロダン
ブルデル(彫刻作品集)
清水多嘉示
筑摩書房

世界の現代彫刻
関 義訳
清水多嘉示
関 義訳
筑摩書房

彫刻家荻原碌山
今泉 篤男
人文書院

日本の彫刻 現代(角川
写真文庫)
井研究室編
岡 書 院

粘土彫塑の導き方
大西金次郎
創 元 社

工 藝
埃及コプト染織工芸史
明石 染人
京都書院

南米ブレ・インカ染織図
録(一)(二)
鐘淵紡績K
・K編、明
石染人解説

富本憲吉陶器集
富本 憲吉
美術出版社

Japanese Handicra-
fts(ツーリスト・ライフ
ラリー)
岡田 謙
日本交通公社

基礎デザイン(構成と形
成)
小池岩太郎
美術出版社

現代のデザイン(河出新
書)
勝見 勝
河 出 書 房

インダストリアル・デザ
イン
1 軽機器のデザイン
2 重機器のデザイン
岡 秀行
美術出版社

宣伝デザイン(企画から
印刷まで)
大智 浩編
日本工芸会
編 岡登 貞治
ポ プ ラ 社

現代色彩講座
2 生活と色彩
3 商業と色彩
岡登 貞治
ポ プ ラ 社

第三回日本伝統工芸展図
録
岡登 貞治
ポ プ ラ 社

図画・図案手藝大辞典
現代の建築(宮波新書)
西山 卯三
岩波書店

建築学大系(五)
西洋建築史
編 集 委 員 会
彰 国 社

グロピウスと日本文化
編 行 委 員 会
シ

日本の新建築
山門(建築写真文庫)
小池 新一
浜口 隆一
シ

建築学便覧
日本建築学
会編
九善株式会社

实用英語対訳建築用語辞
典
東京工学研
究会編
工学出版社

建築術語事典

久保田時人
沢田直躬編
オーム社

其他

岡倉天心
アトリエにて

宮川 寅雄 東大出版会
高村光太郎 新潮社

坂本繁二郎文集

坂本繁二郎 中央公論社
石井鶴三編

画家の眼
安井曾太郎論集

安井曾太郎 座右玉刊行会
美術出版社

万花譜

辻 永 平 凡 社
近藤市太郎 鱒 書 房

女の表情
蒐集物語

柳 宗悦 中央公論社
須山 計一 鱒 書 房

漫画の歴史
漫画の歴史

黒田 鷗心 美術出版社
趣味普及会

巴里の思い出

町田甲一 毎日新聞社
鈴木敬 他

美術散歩

川島理一郎 美術出版社
倉田 三郎 日本文教出版

美術の都パリ(みづゑ文庫)

美術出版社
美術出版社

絵画材料の知識

林武、鳥海 青児他
アトリエ社

続藝術家のモデル(アトリエ臨時増刊)

小磯 良平 鱒 書 房

絵になるポーズ(アトリエ臨時増刊)

小磯 良平 鱒 書 房

博物館学入門

日本博物館 理想社
協会編

各国に於ける博物館の教育活動

石原東編 日本博物館協会

美術教育講座原理篇(一)

牛島勉他編 金子書房

構成教育入門

武井 勝雄 造型教育研究会

美術教育のこれから

井手 則雄 有 信 堂

新しい色彩教育
工作による創造教育
岩崎喜久雄 日本色彩社
岡田 清 創元社

図画工作科指導書
美しさはどこにでも(学校図書館文庫)
渡辺 鶴松 光風出版株式会社

版画をつくる子供たち
やさしい銅版面の作り方
福田豊四郎 牧 書 店

(美術教育のために)
新しい転字の版画(U A Lシリーズ)
大田 耕士 竜南書房
碓 清海 門 書 店

版画にみる少年期
幼年の美術へ幼年教育のために
日本エネス コ美術教育 美術出版社
連盟編

子供の美術
1 美術による教育
2 幼年期の指導
3 少年期の指導
4 新しい造型の指導
5 作品の見方
新評論社
藤沢 典明 国民図書刊行
周郷 博 美術出版社

子供の絵へ親と先生への手引
人物画による性格診断法(児童画)
フロエン・フェルド、白 楊 社
勝見 勝訳

幼児と精薄児の絵が訴えるもの
色彩の心理へ子供の心理的記録
大伴 茂 泰明書房
宮武 辰夫

美術の世界へ僕達の研究
今日の児童画
久保貞次郎 大日本出版株式会社
勝見 勝 さえら書房
アトリエ社

東洋古美術単行図書

総説・総録

世界美術大辞典3、4

日本美術史を語る

日本美術館

日本美術の体系

日本の伝統

現代人の眼

原始の美

アサヒ写真ブック

法隆寺

日本刀—その歴史—

角川写真文庫

古寺案内—奈良—

—大和路—

日本の彫刻—上代—

—現代—

雪舟

講談社アートブックス

金鋼仏

面

染織

寺と社

庭と茶室

懐月堂

絵巻物

襖絵

河出書房

田中 一松 学道社

野間 清六 修道社

島村 民蔵 日本学術振興会

岡本 太郎 光文社

岡本 太郎 現代社

他 滝口 修造 現代社

京都美大藝術学研究室 毎日新聞社

朝日新聞社

角川書店

角川書店

角川書店

角川書店

角川書店

角川書店

角川書店

角川書店

角川書店

角川書店

角川書店

角川書店

角川書店

角川書店

角川書店

角川書店

雪舟

浄土教美術

源氏物語大成8(図録篇)

光悦の藝術村

校刊美術史料70—78

国華索引

東京国立博物館収蔵品目録(考古・土俗・法隆寺献納御物)

市立神戸美術館蔵南蛮美術絵目録(旧池永コレクション)

山形県文化財調査報告書

6 山形県の板碑文化

7 置賜地方の豪族聚落

宮城県文化財調査報告書

2 東京都文化財調査報告書

3 多摩地方の古墳群

奈良県国宝図録

奈良県指定文化財1

奈良県史跡名勝天然記念物調査抄報9

奈良県銘文集

霊宝高野

兵庫県史料集影3

大分県文化財調査報告書

4 グプタ時代の印度美術

グプタ時代の印度美術

グプタ時代の印度美術

グプタ時代の印度美術

中村 溪男

石田 一良 平楽寺書店

池田 亀鑑 中央公論社

佐藤 良 創先社

藤田経世編 藤田経世

国華社

東京国立博物館

神戸美術館

山形県教育委員会

宮城県教育委員会

東京都教育委員会

奈良県教育委員会

大和歴史館研究会

高野山出版社

甲陽文庫

大分県教育委員会

山本智教

山本智教

山本智教

山本智教

山本智教

山本智教

山本智教

山本智教

山本智教

絵画

マトウラの古美術
ペルシアの藝術

山本智教 山本智教
深井晋司 創元社

世界名画全集 1 日本

日本の名画

雪舟

歌麿

蕪村

等伯

宗達

北斎

日本の古典

3 俵屋宗達筆風神雷神

図・舞楽図

4 信貴山縁起絵巻

大和絵史—絵巻物史—

鎌倉の肖像画(鎌倉国宝館図録4)

雪舟

画聖雪舟

雪舟(岩波写真文庫)

光琳と乾山

浦上玉堂画集

浦上玉堂真跡集

渡辺崋山

浮世絵全集2、6

秘蔵版歌麿

英泉著作目録

座右宝刊行 河出書房

熊谷 宣夫 平凡社

近藤市太郎 平凡社

鈴木 進 平凡社

土居 次義 平凡社

山根 有三 平凡社

菊地 貞夫 平凡社

山口蓬春他 美術出版社

編 富山房

下店 静市 富山房

鎌倉市教育委員会・鎌倉国宝館

東京国立博物館監修 便利堂

日本美術新報社

岩波書店

中村 溪男 芸艸堂

平木 清光 東京光悦刊行会

鈴木 進 日本経済新聞社

三宅久之助 美術出版社

吉沢 忠 東大出版会

座右宝刊行 河出書房

歌麿研究会 日本美術社

今中 宏 今中 宏

今中 宏 今中 宏

今中 宏 今中 宏

今中 宏 今中 宏

今中 宏 今中 宏

今中 宏 今中 宏

中国の名画

宋の花鳥

Painting in the Ming Dynasty

八山人画集

石濤と八山人

二石八大

金冬心仿唐宋八家山水画册

書跡

定本書道全集 7唐下
8飛鳥・白鳳・奈良 11
墨跡 12鎌倉より現代ま
で(漢字) 13明清 15平
安時代(白)別巻印譜篇
書道全集 10中国唐III五
代元 14日本平安IV 17中
国元・明I 18日本平安
V鎌倉I

彫刻

日本彫刻史

奈良の仏像

京都の仏像

但馬岩屋観音石仏図録
(兵庫県史料集影4)

狂言面

雲岡石窟 第2巻 第3
巻 第12・13巻 第13・
14巻

建築

京都御所

大極殿の研究

修学院離宮

桂離宮

米沢 嘉圃

平 凡 社

福山龍泉堂

東方文化刊行

墨 友 館

墨 友 館

聚 楽 社

河 出 書 房

平 凡 社

河 出 書 房

ウオリーナ
字佐見英治

みすゞ書房

河 出 書 房

田 岡 香 逸

甲 陽 文 庫

野 村 万 蔵

わんや書店

京大人文学
研究所

藤 岡 通 夫

福 山 敏 男

谷 口 ・ 佐 藤

森 蘊 創 元 社

重文二条城修理工事報告
書II

難波宮址の研究

重文大山祇神社本殿及拜
殿修理工事報告書

国宝大善寺本堂修理工事
報告書

重文魚沼神社阿弥陀堂修
理工事報告書

重文遠照寺釈迦堂修理工
事報告書

旧東慶寺仏殿・月華殿旧
燈明寺三重塔・聴秋閣修
理工事報告書

重文信光明寺観音堂修理
工事報告書

重文長光寺地藏堂修理工
事報告書

国宝大報恩院本堂修理工
事報告書

重文妙法院大書院修理工
事報告書

重文勸修寺書院修理工事
報告書

法隆寺国宝保存工事報告
書(新巻)

薬師寺東塔及び南門修理
工事報告書

十輪院本堂及南門修理工
事報告書

鳳閣寺廟塔修理工事報告
書

重文福智院本堂修理工事
報告書

国宝本山寺本堂修理工事
報告書

重文太山寺本堂修理工事
報告書

阿波板碑の研究

恩賜元離宮二
条城市務所

大阪市立大難
波宮址研究会

同修理委員会

同修理委員会

同修理委員会

同修理委員会

同修理委員会

同修理委員会

同修理委員会

同修理委員会

同修理委員会

同修理委員会

同修理委員会

同修理委員会

同修理委員会

同修理委員会

同修理委員会

同修理委員会

同修理委員会

同修理委員会

同修理委員会

同修理委員会

工 藝

世界陶磁全集 3 桃山篇
4 江戸篇上 5 江戸篇下
9 隋唐篇 12 清朝篇附タ
イ・アンナン 14 李朝篇

東洋古陶磁 中国・元・
明・清

愛知県炭投山西南麓古窯
址群

日本の染織

むらさきくさー日本色彩
の文化史的研究I

日本考古学講座3、6、
7

信濃考古綜覧上・下

日本古墳文化資料綜覧3

岩手県水沢権現堂調査報
告

秩父―土師器を中心にし
て

落合(早大考古学研究報
告4)

岡山県笠岡市高島遺跡調
査報告

常陸鏡塚(国学院大学考
古学研究報告1)

珠城山古墳

紀伊の古墳2

志登支石墓群(埋蔵文化
財発掘調査報告書4)

中国考古学研究

同修理委員会

同修理委員会

同修理委員会

同修理委員会

河 出 書 房

美 術 出 版 社

愛 知 県 教 育 委
員 会

創 元 社

河 出 書 房

河 出 書 房

信 濃 史 料 刊 行
会

吉 川 弘 文 館

岩 手 県 教 育 委
員 会

秩 父 市 教 育 委
員 会

早 大 考 古 学 研
究 室

同 遺 跡 調 査 委
員 会

綜 藝 会

奈 良 県 教 育 委
員 会

綜 藝 会

金 谷 克 巳

文 化 財 保 護 委
員 会

東 洋 文 化 研 究
所

関 野 雄

同 修 理 委 員 会

同 修 理 委 員 会

同 修 理 委 員 会

歴史・其他

世界歴史事典22—25

日本歴史大辞典1—5

図説日本文化史大系 1

縄文・弥生・古墳時代 3

奈良時代 8

安土桃山時代 11

明治時代 11

聖武天皇御伝

西大寺叡傳伝記集成(奈良国立文化財研究所研究史料2)

大日本史料二ノ十、三ノ十三、五ノ十八、十九、七ノ十四、九ノ十一、十一ノ十、十二ノ三十八

大日本古文書家わけ十七

大徳寺文書之五、シ二十

東福寺文書之一

大日本古記録 後二条師通記上 江木鱒水日記下

眞信公記

大日本近世史料 小倉藩人番改帳一 諸問屋再興調一

平安遺文7

金沢文庫古文書7—9

岡山桑古文書集3

盛岡市史第三分冊—近世期上—

仙台市史10

鎌倉市史史料編 2 円覚寺文書

下伊那史3

有松町史

昭和二八・九年度東洋史研究文献類目

ハーパード・燕京・同志社東方文化講座

平凡社 河出書房

小学館

東大寺

奈良国立文化財研究所

史料編纂所

東京大学

岩波書店

東大出版会

竹内 理三

東京堂

藤井 駿

金沢文庫

水野恭一郎

岡山大学

盛岡市役所

仙台市役所

鎌倉市

下伊那誌編纂会

有松町史編纂委員会

京大人文科学研究所

同文化講座委員会

1 中国の政治思想 小島 祐馬

2 漢代家族の形態に關する考察 守屋美都雄

4 支那古代に於ける合理的思维の展開 重次 俊郎

6 中国人の天下観念 安部 健夫

8 中国古代史概論 宮崎 市定

9 東洋史上より觀たる古代の日本 和田 清

10 北アジアに於ける歴史世界の形成 田村 実造

東洋史上より見たる日本 橋本 増吉 東洋文庫

上古史 松田 寿男 早大出版部

古代天山の歴史地理学的研究

研究

附
録

便

覧

(昭和三年一月現在)

最近、電話局の新設、編成替え等が多く、記載電話の局名、番号に尚多少変動があることと思ひます。御了承下さい。

美術関係法規

文化財保護法

(昭和二十五年五月三十一日法律第二百十四号)

沿革

昭和二十六年二月二四日法律第三一八号、二七年七月三十一日第二七二号、二八年八月一日第一九四号、二九年五月二九日第一三三号、三一年六月二二日第一四八号、三〇日第一六三号改正

文化財保護法をここに公布する。

文化財保護法

目次

第一章 総則(第一条—第四条)

第二章 文化財保護委員会

第一節 総則(第五条—第十五条)

第二節 事務局(第十六条—第十九条)

条

第三節 附属機関及び事務局出張所(第二十条—第二十四条)

第四節 職員(第二十五条—第二十六条)

第三章 有形文化財

第一節 重要文化財(第二十七条—第五十六条)

第一款 指定(第二十七条—第二十九条)

第二款 管理(第三十条—第三十四条)

第三款 保護(第三十四条の二—第四十七条)

第四款 公開(第四十七条の二—)

美術関係法規

第五十三条)

第五款 調査(第五十四条—第五十五条)

第六款 雑則(第五十六条)

第二節 重要文化財以外の有形文化財(第五十六条の二)

第三章の二 無形文化財(第五十六条の三—第五十六条の九)

第三章の三 民俗資料(第五十六条の十—第五十六条の十八)

第四章 埋蔵文化財(第五十七条—第六十六条)

第五章 史跡名勝天然記念物(第六十六条—第八十四条)

第六章 雑則

第一節 聴聞及び異議の申立(第八十五条—第八十五条の九)

第二節 国に関する特例(第八十六条—第九十七条)

第三節 地方公共団体及び教育委員会(第九十八条—第一百五十六条)

第七章 罰則(第一百零六条—第一百二十二条)

附則(第一百三十一条—第三十条)

第一章 総則

(この法律の目的)

第一条 この法律は、文化財を保存し、且つ、その活用を図り、もつて国民の文化的向上に資するとともに、世界文化の進歩に貢献することを目的とする。

(文化財の定義)

第二条 この法律で「文化財」とは、左に掲げるものをいう。

一 建造物、絵画、彫刻、工藝品、書跡、典籍、古文書その他の有形の文化財

二 演劇、音楽、工芸技術その他の無形文化財

三 衣食住、生業、信仰、年中行事等に関する風俗習慣及びこれに用いられる衣服、器具、家屋その他の物件

四 貝塚、古墳、都城跡、城跡、旧宅その他の遺跡

五 庭園、橋りより、峡谷、海浜、山岳その他の名勝地

六 動物(生息地、繁殖地及び渡来地を含む)、植物(自生地を含む)及び地質鉱物(特異な自然の現象を生じている土地を含む)

七 学術上価値の高いもの

八 国に重要な価値のあるもの

九 学術上価値の高いもの

十 学術上価値の高いもの

十一 学術上価値の高いもの

十二 学術上価値の高いもの

十三 学術上価値の高いもの

十四 学術上価値の高いもの

十五 学術上価値の高いもの

十六 学術上価値の高いもの

十七 学術上価値の高いもの

十八 学術上価値の高いもの

十九 学術上価値の高いもの

二十 学術上価値の高いもの

二十一 学術上価値の高いもの

二十二 学術上価値の高いもの

二十三 学術上価値の高いもの

二十四 学術上価値の高いもの

二十五 学術上価値の高いもの

二十六 学術上価値の高いもの

二十七 学術上価値の高いもの

二十八 学術上価値の高いもの

二十九 学術上価値の高いもの

三十 学術上価値の高いもの

三十一 学術上価値の高いもの

三十二 学術上価値の高いもの

三十三 学術上価値の高いもの

三十四 学術上価値の高いもの

三十五 学術上価値の高いもの

三 この法律の規定(第二十一条第二項)

四 この法律の規定(第二十一条第二項)

五 この法律の規定(第二十一条第二項)

六 この法律の規定(第二十一条第二項)

七 この法律の規定(第二十一条第二項)

八 この法律の規定(第二十一条第二項)

九 この法律の規定(第二十一条第二項)

十 この法律の規定(第二十一条第二項)

十一 この法律の規定(第二十一条第二項)

十二 この法律の規定(第二十一条第二項)

十三 この法律の規定(第二十一条第二項)

十四 この法律の規定(第二十一条第二項)

十五 この法律の規定(第二十一条第二項)

十六 この法律の規定(第二十一条第二項)

十七 この法律の規定(第二十一条第二項)

十八 この法律の規定(第二十一条第二項)

十九 この法律の規定(第二十一条第二項)

二十 この法律の規定(第二十一条第二項)

二十一 この法律の規定(第二十一条第二項)

二十二 この法律の規定(第二十一条第二項)

二十三 この法律の規定(第二十一条第二項)

二十四 この法律の規定(第二十一条第二項)

二十五 この法律の規定(第二十一条第二項)

二十六 この法律の規定(第二十一条第二項)

二十七 この法律の規定(第二十一条第二項)

二十八 この法律の規定(第二十一条第二項)

二十九 この法律の規定(第二十一条第二項)

三十 この法律の規定(第二十一条第二項)

三十一 この法律の規定(第二十一条第二項)

三十二 この法律の規定(第二十一条第二項)

三十三 この法律の規定(第二十一条第二項)

三十四 この法律の規定(第二十一条第二項)

三十五 この法律の規定(第二十一条第二項)

(設置)

第一章 総則

第二章 文化財保護委員会

第五條 国家行政組織法（昭和二十三年法律第二十号）第三條第二項の規定に基いて、文部省の外局として、文化財保護委員会（以下「委員会」といふ。）を設置する。

2 委員会の委員は、独立してその職権を行う。

（任務）

第六條 委員会は、文化財の保存及び活用、文化財に関する調査研究その他第一條の目的を達成するため必要な事務を行うことを任務とする。

（権限）

第七條 委員会は、その所掌事務を遂行するため、左に掲げる権限を有する。但し、その権限の行使は、法律（これに基く命令を含む。）に従つてなされなければならない。

- 一 予算の範囲内で、所掌事務の遂行に必要な支出負担行為をすること。
- 二 収入金を徴収し、所掌事務の遂行に必要な支払をすること。
- 三 所掌事務の遂行に直接必要な事務所の施設を設置し、及び管理すること。
- 四 所掌事務の遂行に直接必要な業務用資料、図書その他研究用資料、事務用品等を調達すること。
- 五 職員の内任及び賞罰を行い、その他職員の人事を管理すること。
- 六 職員の厚生及び保健のために必要な施設をなし、及び管理すること。
- 七 所掌事務の監察を行い、法令の定

めるところに従い、必要な措置をとること。

八 所掌事務の周知宣伝を行うこと。

九 委員会の公印を制定すること。

十 広く利用に供する適当な記録を整備すること。

十一 所掌事務に係る公益法人について許可若しくは認可を与え、又はその許可を取り消すこと。

十二 所掌事務に関する国庫支出金を割り当て、配分すること。

十三 所掌事務に関する物資の確保について援助すること。

十四 所掌事務に関する統計調査の資料及び結果を収集し、解釈し、及び刊行頒布すること。

十五 所掌事務に関する国家的又は国際的関心のある題目について会議、研究会、討論会等を主催すること。

十六 文化財の保護に関する法令案を作成すること。

十七 前各号に掲げるものの外、法律（これに基く命令を含む。）に基き委員会に属せしめられた権限

2 委員会は、その権限の行使に當つて、法律（法律に基く命令を含む。）に別段の定がある場合を除いては、行政上及び運営上の監督を行わないものとする。

（構成）

第八條 委員会は、五人の委員をもつて組織する。

（委員の任命及び欠格事由）

第九條 委員は、文化に関し高い識見を有する者のうちから両議院の同意を経て、文部大臣が任命する。

2 左の各号の一に該当する者は、委員となることができない。

一 禁治産者若しくは準禁治産者又は破産者で復権を得ない者

二 禁こ以上の刑に処せられた者

3 委員は、そのうち三人以上が同一政党に属する者となることとなつてはならない。

4 委員（委員長である委員を除く。）は、非常勤とする。

（委員の任期）

第十條 委員の任期は、三年とする。但し、補欠の委員は、前任者の残任期間在任する。

2 委員は、再任されることができる。

3 第一項の規定にかかわらず委員は、国会の閉会又は衆議院の解散の場合に任期が満了したときは、その後最初に召集された国会において両議院の同意を経て文部大臣が委員を任命するまでの間、なお在任するものとする。

（委員の失職及び罷免）

第十一條 委員は、第九條第二項各号の一に該当するに至つた場合及び既に委員中二人が所屬している政党にあらたに所屬するに至つた場合においては、その職を失う。

2 文部大臣は、委員が心身の故障のため職務の執行ができないと認める場合

又は委員に職務上の業務違反その他委員たるに適しない行為があると認める場合においては、両議院の同意を経て、これを罷免することができる。

3 文部大臣は、両議院の同意を経て、左に掲げる委員を罷免する。

一 委員中何人も所屬していなかつた一の政党にあらたに三人以上の委員が所屬するに至つた場合、これらの者のうち二人をこえる員数の委員

二 委員中一人が既に所屬している政党にあらたに二人以上の委員が所屬するに至つた場合、これらの者のうち一人をこえる員数の委員

4 両議院は、前項各号に規定する事実があると認めるときは、同項各号の規定により罷免すべき員数の委員の罷免の同意を与えるべきものとする。

5 国会の閉会又は衆議院の解散のため、第二項又は第三項の規定による罷免につき両議院の同意を経ることができないときは、その後最初に召集された国会において両議院の承認を得れば足りる。

（委員長）

第十二條 委員会に委員長を置く。委員長は、委員の互選により定める。

2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

3 委員会は、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときにその職務を代表する委員を、あらかじめ、定めて置かなければならない。

(委員の給与)

第十三条 委員長及び委員は、別に法律の定めるところにより相当額の給与を受ける。

(会議)

第十四条 委員会は、委員長が招集する。二人以上の委員から請求があるときは、委員長は、委員会を招集しなければならぬ。

2 委員会は、委員の半数以上の出席がなければ会議を開くことができない。
3 委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

(文化財保護委員会規則)

第十五条 委員会は、法律（これに基く政令を含む。）で特に定める場合の外、その権限に属する事項を執行するため必要な手続について、文化財保護委員会規則（以下「委員会規則」という。）を定めることができる。

2 委員会規則は、官報で公布する。

第二節 事務局

第十六条 委員会に、その所掌事務を遂行するため、国家行政組織法第七条第四項の規定に従い、事務局を置く。

(事務局長及び次長)

第十九条 委員会の事務局に事務局長及び次長一人を置く。

2 事務局長は、委員長の指揮監督を受けて事務局の事務を掌理し、所属職員

を指揮監督する。

3 次長は、事務局長を助け、事務局の事務を整理する。

第三節 附属機関及び事務局出張所

(附属機関)

第二十条 委員会の附属機関として、文化財専門審議会、国立博物館及び国立文化財研究所を置く。

(文化財専門審議会)

第二十一条 文化財専門審議会は、委員会の諮問に応じて文化財の保存及び活用に関する専門的及び技術的事項を調査審議し、且つ、これらの事項に關し必要と認める事項を委員会に建議する。

2 委員会は、左に掲げる事項については、あらかじめ、文化財専門審議会に諮問しなければならない。

一 国宝又は重要文化財の指定及びその指定の解除

二 重要文化財の管理又は国宝の修理に關する命令

三 委員会による国宝の修理又は滅失、き損若しくは盗難の防止の措置の施行

四 重要文化財の現状変更又は輸出の許可

五 重要文化財の環境保全のための制限若しくは禁止又は必要な施設の命令

六 重要文化財の買取
七 重要無形文化財の指定及びその指

定の解除

八 重要無形文化財の保持者の認定及びその認定の解除

九 重要無形文化財以外の無形文化財のうち委員会が記録を作成すべきもの又は記録の作成等につき補助すべきものの選択

十 重要民俗資料の指定及びその指定の解除

十一 重要民俗資料の管理に關する命令

十二 重要民俗資料の買取

十三 無形の民俗資料のうち委員会が記録を作成すべきもの又は記録の作成等につき補助すべきものの選択

十四 委員会による埋蔵文化財の調査のための発掘の施行

十五 特別史跡名勝天然記念物又は史跡名勝天然記念物の指定及びその指定の解除

十六 史跡名勝天然記念物の仮指定の解除

十七 史跡名勝天然記念物の管理又は特別史跡名勝天然記念物の復旧に關する命令

十八 委員会による特別史跡名勝天然記念物の復旧又は滅失、き損、衰亡若しくは盗難の防止の措置の施行

十九 史跡名勝天然記念物の現状変更等の許可

二十 史跡名勝天然記念物の環境保全のための制限若しくは禁止又は必要な施設の命令

二十一 史跡名勝天然記念物の現状変更等を許可を受けず、若しくはその許可の条件に従わない場合又は史跡名勝天然記念物の環境保全のための制限若しくは禁止に違反した場合の原状回復の命令

二十二 重要文化財の現状変更若しくは史跡名勝天然記念物の現状変更等の許可又はその許可の取消の権限の都道府県の教育委員会への委任

3 委員会は、前項各号に掲げる事項の外、文化財の保存又は活用に関する専門的又は技術的事項で重要と認めるものについては、文化財専門審議会に諮問するものとする。

4 前三項の規定により所掌する事項を分掌させるため、文化財専門審議会に分科会を置く。

5 文化財専門審議会及びその分科会の組織及び所掌事務並びに専門委員、臨時専門委員その他の職員については、他の法律（これに基く命令を含む。）に特別の定がある場合を除く外、政令で定める。

(国立博物館)

第二十二條 国立博物館は、有形文化財を収集し、保管して公衆の視覽に供し、あわせてこれに關連する事業を行う。

2 国立博物館の名称及び位置は、左の通りとする。

21 重要文化財の現状変更若しくは史跡名勝天然記念物の現状変更等の許可又はその許可の取消の権限の都道府県の教育委員会への委任

3 委員会は、前項各号に掲げる事項の外、文化財の保存又は活用に関する専門的又は技術的事項で重要と認めるものについては、文化財専門審議会に諮問するものとする。

4 前三項の規定により所掌する事項を分掌させるため、文化財専門審議会に分科会を置く。

5 文化財専門審議会及びその分科会の組織及び所掌事務並びに専門委員、臨時専門委員その他の職員については、他の法律（これに基く命令を含む。）に特別の定がある場合を除く外、政令で定める。

(国立博物館)

第二十二條 国立博物館は、有形文化財を収集し、保管して公衆の視覽に供し、あわせてこれに關連する事業を行う。

2 国立博物館の名称及び位置は、左の通りとする。

名	称	位	置
東京国立博物館		東京	都
京都国立博物館		京	都
奈良国立博物館		奈	良

3 国立博物館の内部組織は、委員会規則で定める。

(国立文化財研究所)

2 国立文化財研究所の名称及び位置は、左の通りとする。

名	称	位	置
東京国立文化財研究所		東京	都
奈良国立文化財研究所		奈	良

3 国立文化財研究所には、支所を置くことができる。

4 国立文化財研究所及びその支所の内部組織は、委員会規則で定める。

(事務局出張所)

2 前条の規定による指定は、前項の規定による官報の告示があつた日からその効力を生ずる。但し、当該国宝又は重要文化財の所有者に対しては、同項の規定による通知が当該所有者に到達した時からその効力を生ずる。

第四節 職員

(職員)

25 委員会に置かれる職員の任免、昇任、懲戒その他人事管理に關する事務については、国家公務員法(昭和二十二年法律第二十号)及びその特例に關して規定する法律の定めるところによる。

26 委員会に置かれる職員の定員は、別に法律で定める。

第三章 有形文化財

第一節 重要文化財

第一款 指定

(指定)

27 委員会は、有形文化財のうち重要なものを重要文化財に指定することができる。

28 委員会は、重要文化財のうち世界文化の見地から価値の高いもので、たぐいなき国民の宝たるものを国宝に指定することができる。

(告示、通知及び指定書の交付)

29 前項の規定による指定の解除は、その旨を官報で告示するとともに、当該国宝又は重要文化財の所有者に通知してする。

30 前条の規定による指定は、前項の規定による官報の告示があつた日からその効力を生ずる。但し、当該国宝又は重要文化財の所有者に対しては、同項の規定による通知が当該所有者に到達した時からその効力を生ずる。

第二款 管理

31 委員会は、当該国宝又は重要文化財の所有者に指定書を交付しなければならぬ。

32 指定書に記載すべき事項その他指定書に關し必要な事項は、委員会規則で定める。

33 第三項の規定により国宝の指定書の交付を受けたときは、所有者は、三十日以内に国宝に指定された重要文化財の指定書を委員会に返付しなければならない。

(解除)

34 国宝又は重要文化財が国宝又は重要文化財としての価値を失つた場合その他特殊の事由があるときは、委員会は、国宝又は重要文化財の指定を解除することができる。

35 前項の規定による指定の解除は、その旨を官報で告示するとともに、当該国宝又は重要文化財の所有者に通知してする。

(所有者又は管理責任者の変更)

36 重要文化財の所有者が変更したときは、新所有者は、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、且つ、旧所有者に対し交付された指定書を添えて、二十日以内に委員会に届け出なければならない。

37 重要文化財の所有者は、管理責任者を変更したときは、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、新管理責任者と連署の上二十日以内に委員会に届け出なければならない。この場

要な指示をすることができる。

38 重要文化財の所有者は、この法律並びにこれに基いて発する委員会規則及び委員会の指示に従い、重要文化財を管理しなければならない。

39 重要文化財の所有者は、特別の事情があるときは、適当な者をもつばら自己に代り当該重要文化財の管理の責に任すべき者(以下この節及び第六章において「管理責任者」という。)に選任することができる。

40 前項の規定により管理責任者を選任したときは、重要文化財の所有者は、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、当該管理責任者と連署の上二十日以内に委員会に届け出なければならない。管理責任者を解任した場合も同様とする。

41 管理責任者には、前条及び第一項の規定を準用する。

42 重要文化財の所有者が変更したときは、新所有者は、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、且つ、旧所有者に対し交付された指定書を添えて、二十日以内に委員会に届け出なければならない。

43 重要文化財の所有者は、管理責任者を変更したときは、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、新管理責任者と連署の上二十日以内に委員会に届け出なければならない。この場

(管理方法の指示)

44 委員会は、重要文化財の所有者に対し、重要文化財の管理に關し必

合には、前条第三項の規定は、適用しない。

3 重要文化財の所有者又は管理責任者は、その氏名若しくは名称又は住所を変更したときは、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、二十日以内に委員会に届け出なければならぬ。氏名若しくは名称又は住所の変更が重要文化財の所有者に係るときは、届出の際指定書を添えなければならぬ。

(管理団体による管理)

第三十二条の二 重要文化財につき、所有者が判明しない場合又は所有者若しくは管理責任者による管理が著しく困難若しくは不適当であると明らかに認められる場合には、委員会は、適当な地方公共団体その他の法人を指定して、当該重要文化財の保存のために必要な管理(当該重要文化財の保存のために必要な施設、設備その他の物件で当該重要文化財の所有者の所有又は管理に属するものの管理を含む)を行わせることができる。

2 前項の規定による指定をするには、委員会は、あらかじめ、当該重要文化財の所有者(所有者が判明しない場合を除く)及び権原に基づく占有者並びに指定しようとする地方公共団体その他の法人 同意を得なければならぬ。

3 第一項の規定による指定は、その旨を官報で告示するとともに、前項に規定する所有者、占有者及び地方公共団

体その他の法人に通知してする。

4 第一項の規定による指定には、第二十八條第二項の規定を準用する。

5 重要文化財の所有者又は占有者は、正当な理由がなくて、第一項の規定による指定を受けた地方公共団体その他の法人(以下この節及び第六章において「管理団体」という。)が行う管理又はその管理のために必要な措置を拒み、妨げ、又は忌避してはならない。

6 管理団体には、第三十條及び第三十條第一項の規定を準用する。

第三十二条の三 前条第一項に規定する事由が消滅した場合その他特殊の事由があるときは、委員会は、管理団体の指定を解除することができる。

2 前項の規定による解除には、前条第三項及び第二十八條第二項の規定を準用する。

第三十二条の四 管理団体が行う管理に要する費用は、この法律に特別の定めのある場合を除いて、管理団体の負担とする。

2 前項の規定は、管理団体と所有者との協議により、管理団体が行う管理により所有者の受ける利益の限度において、管理に要する費用の一部を所有者の負担とすることを妨げるものではない。

(滅失、き損等)

第三十三条 重要文化財の全部又は一部が滅失し、若しくはき損し、又はこれを亡失し、若しくは盗み取られたとき

は、所有者(管理責任者又は管理団体がある場合は、その者)は、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、その事実を知つた日から十日以内に委員会に届け出なければならない。

(所在の変更)
第三十四条 重要文化財の所在の場所を変更しようとするときは、重要文化財の所有者(管理責任者又は管理団体がある場合は、その者)は、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、且つ、指定書を添えて、所在の場所を変更しようとする日の二十日前までに委員会に届け出なければならない。但し、委員会規則の定める場合には、届出を要せず、若しくは届出の際指定書の添付を要せず、又は委員会規則の定めるところにより所在の場所を変更した後届け出ることをもつて足りる。

第三款 保護
(修理)
第三十四条の二 重要文化財の修理は、所有者が行うものとする。但し、管理団体が有る場合は、管理団体が行うものとする。

(管理団体による修理)
第三十四条の三 管理団体が修理を行う場合は、管理団体は、あらかじめ、その修理の方法及び時期について当該重要文化財の所有者(所有者が判明しない場合を除く)及び権原に基づく占有者の意見を聞かなければならない。

2 管理団体が修理を行う場合には、第

三十二條の二第五項及び第三十二條の四の規定を準用する。

(管理又は修理の補助)

第三十五条 重要文化財の管理又は修理につき多額の経費を要し、重要文化財の所有者又は管理団体がその負担に堪えない場合その他特別の事情がある場合には、政府は、その経費の一部に充てさせるため、重要文化財の所有者又は管理団体に対し補助金を交付することができる。

2 前項の補助金を交付する場合には、委員会は、その補助の条件として管理又は修理に関し必要な事項を指示することができる。

3 委員会は、必要があると認めるときは、第一項の補助金を交付する重要文化財の管理又は修理について指揮監督することができる。

(管理に関する命令又は勧告)

第三十六条 重要文化財を管理する者が不適任なため又は管理が適当でないため重要文化財が滅失し、き損し、又は盗み取られる虞があると認めるときは、委員会は、所有者、管理責任者又は管理団体に対し、重要文化財の管理をする者の選任又は変更、管理方法の改善、防火施設その他の保存施設の設置その他管理に関し必要な措置を命じ、又は勧告することができる。

2 前項の規定による命令又は勧告に基づいてする措置のために要する費用は、委員会規則の定めるところにより、そ

の全部又は一部を国庫の負担とする事ができる。

3 前項の規定により国庫が費用の全部又は一部を負担する場合には、前条第三項の規定を準用する。

(修理に関する命令又は勧告)

第三十七条 委員会は、国宝がき損している場合において、その保存のため必要があると認めるときは、所有者又は管理団体に対し、その修理について必要な命令又は勧告をすることができ

る。
2 委員会は、国宝以外の重要文化財がき損している場合において、その保存のため必要があると認めるときは、所有者又は管理団体に対し、その修理について必要な勧告をすることができ

る。
3 前二項の規定による命令又は勧告に基いてする修理のために要する費用は、委員会規則の定めるところにより、その全部又は一部を国庫の負担とすることができ

る。
4 前項の規定により国庫が費用の全部又は一部を負担する場合には、第三十五条第三項の規定を準用する。

(委員会による国宝の修理等の施行)

第三十八条 委員会は、左の各号の一に該当する場合においては、国宝につき自ら修理を行い、又は滅失、き損若しくは盗難の防止の措置をすることができ

る。
一 所有者、管理責任者又は管理団体

が前二条の規定による命令に従わな

いとき。
二 国宝がき損している場合又は滅失し、き損し、若しくは盗み取られる虞がある場合において、所有者、管理責任者又は管理団体に修理又は滅失、き損若しくは盗難の防止の措置をさせることが適当でない認められるとき。

2 前項の規定による修理又は措置をしようとするときは、委員会は、あらかじめ、所有者、管理責任者又は管理団体に對し、当該国宝の名称、修理又は措置の内容、着手の時期その他必要と認める事項を記載した令書を交付するとともに、権原に基く占有者にこれらの事項を通知しなければならない。

第三十九条 委員会は、前条第一項の規定による修理又は措置をするときは、その職員のうちから、当該修理又は措置の施行及び当該国宝の管理の責に任ずべき者を定めなければならない。

2 前項の規定により責に任ずべき者と定められた者は、当該修理又は措置の施行に当たるときは、その身分を証明する証票を携帯し、関係者の請求があつたときは、これを示し、且つ、その正当な意見を十分に尊重しなければならない。

3 前条第一項の規定による修理又は措置の施行には、第三十二条の二第五項の規定を準用する。

第四十条 第三十八条第一項の規定によ

る修理又は措置のために要する費用は、国庫の負担とする。

2 委員会は、委員会規則の定めるところにより、第三十八条第一項の規定による修理又は措置のために要した費用の一部を所有者(管理団体がある場合は、その者)から徴収することができ

る。但し、同条第一項第二号の場合には、修理又は措置を要するに至つた事由が所有者、管理責任者若しくは管理団体の責に歸すべきとき、又は所有者若しくは管理団体がその費用の一部を負担する能力があるときに限る。

3 前項の規定による徴収については、行政代執行法(昭和二十三年法律第四十三号)第五条から第七条までの規定を準用する。

第四十一条 第三十八条第一項の規定による修理又は措置によつて損害を受けた者に対しては、政府は、その通常生ずべき損害を補償する。

2 前項の規定による補償額に不服のある者は、訴をもつてその増額を請求することができる。但し、前項の補償の決定の通知を受けた日から六箇月を経過したときは、この限りでない。

(補助等に係る重要文化財譲渡の場合の納付金)
第四十二条 国が修理又は滅失、き損若しくは盗難の防止の措置(以下この条において、「修理等」という。)につき第三十五条第一項の規定により補助金を交付し、又は第三十六条第二項、第三

十七条第三項若しくは第四十条第一項の規定により費用を負担した重要文化財のその当時における所有者又はその相続人、受遺者若しくは受贈者(第二次以下の相続人、受遺者又は受贈者を含む。以下この条において同じ。)(以下この条において、「所有者等」という。)は、補助又は費用負担に係る修理等が行われた後当該重要文化財を有償で譲り渡した場合においては、当該補助金又は負担金の額(第四十条第一項の規定による負担金については、同条

第二項の規定により所有者から徴収した部分を控除した額をいう。以下この条において同じ。)の合計額から当該修理等が行われた後重要文化財の修理等のため自己の費した金額を控除して得た金額(以下この条において、「納付金額」という。)を、委員会規則の定めるところにより国庫に納付しなければならない。

2 前項に規定する「補助金又は負担金の額」とは、補助金又は負担金の額を、補助又は費用負担に係る修理等を施した重要文化財又はその部分につき委員会が個別的に定める耐用年数で除して得た金額に、更に当該耐用年数から修理等を行つた時以後重要文化財の譲渡の時までの年数を控除した残余の年数(一年に満たない部分があるときは、これを切り捨てる。)を乗じて得た金額に相当する金額とする。

3 補助又は費用負担に係る修理等が行

われた後、当該重要文化財が所有者等の責に帰することのできない事由により著しくその価値を減じた場合又は当該重要文化財を国に譲り渡した場合に、委員会は、納付金額の全部又は一部の納付を免除することができる。

4 委員会の指定する期限までに納付金額を完納しないときは、国税滞納処分例により、これを徴収することができる。

5 納付金額を納付する者が相続人、受遺者又は受贈者であるときは、第一号に定める相続税額又は贈与税額と第二号に定める額との差額に相当する金額を第三号に定める年数で除して得た金額に第四号に定める年数を乗じて得た金額をその者が納付すべき納付金額から控除するものとする。

一 当該重要文化財の取得につきその者が納付した、又は納付すべき相続税額又は贈与税額

二 前号の相続税額又は贈与税額の計算の基礎となつた課税価格に算入された当該重要文化財又はその部分につき当該相続、遺贈又は贈与の時に行つた修理等に係る第一項の補助金又は負担金の額の合計額を当該課税価格から控除して得た金額を課税価格として計算した場合に当該重要文化財又はその部分につき納付すべきこととなる相続税額又は贈与税額に相当する額。

三 第二項の規定により当該重要文化財

美術関係法規

財又はその部分につき委員会が定めた耐用年数から当該重要文化財又はその部分の修理等を行つた時以後当該重要文化財の相続、遺贈又は贈与の時までの年数を控除した残余の年数（一年に満たない部分があるときは、これを切り捨てる。）

4 第二項に規定する当該重要文化財又はその部分についての残余の耐用年数

6 前項第二号に掲げる第一項の補助金又は負担金の額については、第二項の規定を準用する。この場合において、同項中「譲渡の時」とあるのは、「相続、遺贈又は贈与の時」と読み替へるものとする。

7 第一項の規定により納付金額を納付する者の同項に規定する譲渡に係る所得税法（昭和二十二年法律第二十七号）第九条第八号に規定する譲渡所得の計算については、第一項の規定により納付する金額は、同法第九条第八号に規定する譲渡に関する経費とする。

（現状変更の制限）
第四十三条 重要文化財の現状を変更しようとするときは、委員会の許可を受けなければならない。但し、その維持の措置をする場合は、この限りでない。

2 前項但書に規定する維持の措置の範囲は、委員会規則で定める。

3 委員会は、第一項の許可を与える場合において、その許可の条件として同

項の現状の変更に関し必要な指示をすることができる。

4 第一項の許可を受けた者が前項の許可の条件に従わなかつたときは、委員会は、許可に係る現状の変更の停止を命じ、又は許可を取り消すことができる。

（修理の届出等）
第四十三条の二 重要文化財を修理しようとするときは、所有者又は管理団体は、修理に着手しようとする日の三十日前までに、委員会規則の定めるところにより、委員会にその旨を届けなければならない。但し、前条第一項の規定により許可を受けなければならない場合その他委員会規則の定める場合は、この限りでない。

2 重要文化財の保護上必要があると認めるときは、委員会は、前項の届出に係る重要文化財の修理に関し技術的な指導と助言を与えることができる。

（輸出の禁止）
第四十四条 重要文化財は、輸出してはならない。但し、委員会が文化の国際的交流その他の事由により特に必要と認めて許可した場合は、この限りでない。

（環境保全）
第四十五条 委員会は、重要文化財の保存のため必要があると認めるときは、地域を定めて一定の行為を制限し、若しくは禁止し、又は必要な施設をすることを命ずることができる。

2 前項の規定による処分によつて損害を受けた者に対しては、政府は、その通常生ずべき損害を補償する。

3 前項の場合には、第四十一条第二項の規定を準用する。

（国に対する売渡の申出）
第四十六条 重要文化財を有償で譲り渡そうとする者は、譲渡の相手方、予定対価の額（予定対価が金銭以外のものであるときは、これを時価を基準として金銭に見積つた額。以下同じ。）その他委員会規則で定める事項を記載した書面をもつて、まず委員会に国に対する売渡の申出をしなければならぬ。但し、当該譲受人に対して特に譲り渡したい特別の事情がある場合において委員会の承認を受けたときは、この限りでない。

2 前項の規定による売渡の申出のあつた後三十日以内に委員会が当該重要文化財を国において買い取るべき旨の通知をしたときは、前項の規定による申出書に記載された予定対価の額に相当する代金で、売買が成立したものとみなす。

3 第一項に規定する者は、前項の期間（その期間内に委員会が当該重要文化財を買い取らない旨の通知をしたときは、その時までの期間）内は、当該重要文化財を譲り渡してはならない。

4 委員会が第一項但書の規定による承認をしない旨の処分をした場合において、その処分に不服のある者は、委員

二四一

会に対し、異議の申立をすることができ
る。

(管理又は修理の受託又は技術的指導)

第四十七条 重要文化財の所有者(管理
団体がある場合は、その者)は、委員
会の定める条件により、委員会に重要
文化財の管理(管理団体がある場合を
除く)又は修理を委託することができ
る。

2 委員会は、重要文化財の保存上必要
があると認めるときは、所有者(管理
団体がある場合は、その者)に対し、
条件を示して、委員会にその管理(管理
団体がある場合を除く)又は修理を委
託するように勧告することができる。

3 前二項の規定により委員会が管理又
は修理の委託を受けた場合には、第三
十九条第一項及び第二項の規定を準用
する。

4 重要文化財の所有者、管理責任者又
は管理団体は、委員会規則の定めると
ころにより、委員会に重要文化財の管
理又は修理に関し技術的指導を求め
ることができる。

第四款 公開

(公開)

第四十七条の二 重要文化財の公開は、
所有者が行うものとする。但し、管理
団体がある場合は、管理団体が行うも
のとする。

2 前項の規定は、所有者又は管理団体
の出品に係る重要文化財を、所有者及
び管理団体以外の者が、この法律の規

定により行い公開の用に供することを
妨げるものではない。

3 管理団体は、その管理する重要文化
財を公開する場合には、当該重要文化
財につき観覧料を徴収することができる。
る。

(委員会による公開)

第四十八条 委員会は、重要文化財の所
有者(管理団体がある場合は、その者)
に対し、一年以内の期間を限つて、国
立博物館その他の施設において委員会
の行い公開の用に供するため重要文化
財を出品することを勧告することができ
る。

2 委員会は、国庫が管理又は修理につ
き、その費用の全部若しくは一部を負
担し、又は補助金を交付した重要文化
財の所有者(管理団体がある場合は、そ
の者)に対し、一年以内の期間を限つ
て、国立博物館その他の施設において
委員会の行い公開の用に供するため当
該重要文化財を出品することを命ずる
ことができる。

3 委員会は、前項の場合において必要
があると認めるときは、一年以内の期
間を限つて、出品の期間を更新するこ
とができる。但し、引き続き五年をこ
えてはならない。

4 第二項の命令又は前項の更新があつ
たときは、重要文化財の所有者又は管
理団体は、その重要文化財を出品しな
ければならない。但し、委員会が所有
者又は管理団体の申請によりやむを得

ない事由があるものと認める場合は、
この限りでない。

5 前四項に規定する場合の外、委員会
は、重要文化財の所有者(管理団体が
ある場合は、その者)から国立博物館そ
の他の施設において委員会の行い公開
の用に供するため重要文化財を出品し
たい旨の申出があつた場合において適
当と認めるときは、その出品を承認す
ることができる。

第四十九条 委員会は、前条の規定によ
り重要文化財が出品されたときは、第
百条に規定する場合を除いて、国立博
物館所属の職員その他委員会の職員の
うちから、その重要文化財の管理の責
に任ずべき者を定めなければならない
い。

第五十条 第四十八条の規定による出品
のために要する費用は、委員会規則の
定める基準により、国庫の負担とする。

2 政府は、第四十八条の規定により出
品した所有者又は管理団体に対し、委
員会規則の定める基準により、給与金
を支給する。

(所有者等による公開)

第五十一条 委員会は、重要文化財の所
有者又は管理団体に対し、三箇月以内
の期間を限つて、重要文化財の公開を
勧告することができる。

2 委員会は、国庫が管理又は修理につ
き、その費用の全部若しくは一部を負
担し、又は補助金を交付した重要文化
財の所有者又は管理団体に対し、三箇

月以内の期間を限つて、その公開を命
ずることができる。

3 前項の場合には、第四十八条第四項
の規定を準用する。

4 委員会は、重要文化財の所有者又は
管理団体に対し、前三項の規定による
公開及び当該公開に係る重要文化財の
管理に関し必要な指示をすることがで
きる。

5 重要文化財の所有者、管理責任者又
は管理団体が前項の指示に従わない場
合には、委員会は、公開の停止又は中
止を命ずることができる。

6 第二項及び第三項の規定による公開
のために要する費用は、委員会規則の
定めるところにより、その全部又は一
部を国庫の負担とすることができる。

7 前項の規定する場合の外、重要文化
財の所有者又は管理団体から、その所
有又は管理に係る重要文化財を国庫の
費用負担において公開したい旨の申出
があつた場合において、委員会が適当
と認めてこれを承認したときは、委員
会規則の定めるところにより、その公
開のために要する費用の全部又は一部
を国庫の負担とすることができる。こ
の場合には、第四項及び第五項の規定
を準用する。

第五十一条の二 前条の規定による公開
の場合を除き、重要文化財の所在の場
所を変更してこれを公衆の観覧に供す
るため第三十四条の規定による届出が
あつた場合には、前条第四項及び第五

項の規定を準用する。

(損害の補償)

第五十二条 第四十八条又は第五十一条の規定により出品し、又は公開したことに起因して当該重要文化財が滅失し、又はき損したときは、政府は、その重要文化財の所有者に対し、通常生ずべき損害を補償する。但し、重要文化財が所有者、管理責任者又は管理団体の責に歸すべき事由によつて滅失し、又はき損した場合は、この限りでない。

2 前項の場合には、第四十一条第二項の規定を準用する。

(所有者等以外の者による公開)

第五十三条 重要文化財の所有者及び管理団体以外の者がその主催する展覧会その他の催しにおいて重要文化財を公衆の観覧に供しようとするときは、委員会の許可を受けなければならない。但し、あらかじめ、委員会の承認を受けた博物館その他の施設において、委員会以外の国の機関又は地方公共団体が主催する場合は、委員会に届け出ることをもつて足りる。

2 委員会は、前項の許可を与える場合において、その許可の条件として、許可に係る公開及び当該公開に係る重要文化財の管理に關し必要な指示をすることができ。

3 第一項の許可を受けた者が前項の許可の条件に従わなかつたときは、委員会は、許可に係る公開の停止を命じ、

又は許可を取り消すことができる。

第五款 調査

(保存のための調査)

第五十四条 委員会は、必要があると認めるときは、重要文化財の所有者、管理責任者又は管理団体に対し、重要文化財の現状又は管理、修理若しくは環境保全の状況につき報告を求めることができ。

第五十五条 委員会は、左の各号の一に該当する場合において、前条の報告によつてもなお重要文化財に關する状況を確認することができ、且つ、その確認のために方法がないと認めるときは、調査に當る者を定め、その所在する場所に立ち入つてその現状又は管理、修理若しくは環境保全の状況につき実地調査をさせることができる。

一 重要文化財の現状変更の許可の申請があつたとき。

二 重要文化財がき損しているとき又はその現状若しくは所在の場所につき変更があつたとき。

三 重要文化財が滅失し、き損し、又は盗み取られる虞のあるとき。

四 特別の事情によりあらためて国宝又は重要文化財としての価値を鑑査する必要があるとき。

2 前項の規定により立ち入り、調査する場合においては、当該調査に當る者は、その身分を証明する証票を携帯し、関係者の請求があつたときは、これを示し、且つ、その正当な意見を十

分尊重しなければならない。

3 第一項の規定による調査によつて損害を受けた者に対しては、政府は、その通常生ずべき損害を補償する。

4 前項の場合には、第四十一条第二項の規定を準用する。

第六款 雑則

(所有者変更等に伴う権利義務の承継)

第五十六条 重要文化財の所有者が変更したときは、新所有者は、当該重要文化財に關しこの法律に基いてする委員会の命令、勧告、指示その他の処分による旧所有者の権利義務を承継する。

2 前項の場合には、旧所有者は、当該重要文化財の引渡と同時にその指定書を新所有者に引き渡さなければならない。

3 管理団体が指定され、又はその指定が解除された場合には、第一項の規定を準用する。但し、管理団体が指定された場合には、もつぱら所有者に属すべき権利義務については、この限りでない。

第二節 重要文化財以外の有形文化財

(技術的指導)

第五十六条の二 重要文化財以外の有形文化財の所有者は、委員会規則の定めるところにより、委員会に有形文化財の管理又は修理に關し技術的指導を求めることができる。

第三章の二 無形文化財

(重要無形文化財の指定等)

第五十六条の三 委員会は、無形文化財のうち重要なものを重要無形文化財に指定することができる。

2 委員会は、前項の規定による指定をするに當つては、当該重要無形文化財の保持者を認定しなければならない。

3 第一項の規定による指定は、その旨を官報で告示するとともに、当該重要無形文化財の保持者として認定しようとする者に通知してする。

4 委員会は、第一項の規定による指定をした後においても、当該重要無形文化財の保持者として認定するに足りる者があると認めるときは、その者を保持者として追加認定することができる。

5 前項の規定による追加認定には、第三項の規定を準用する。

(重要無形文化財の指定等の解除)

第五十六条の四 重要無形文化財が重要無形文化財としての価値を失つた場合その他特殊の事由があるときは、委員会は、重要無形文化財の指定を解除することができる。

2 保持者が心身の故障のため保持者として適當でなくなつたと認められる場合その他特殊の事由があるときは、委員会は、保持者の認定を解除することができる。

3 第一項の規定による指定の解除又は前項の規定による認定の解除は、その旨を官報で告示するとともに、当該重要無形文化財の保持者に通知してす

る。

4 保持者が死亡したときは、保持者の認定は解除されたものとし、保持者のすべてが死亡したときは、重要無形文化財の指定は解除されたものとする。この場合には、委員会は、その旨を官報で告示しなければならない。

(保持者の氏名変更等)

第五十六条の五 保持者が氏名若しくは住所を変更し、又は死亡したとき、その他委員会規則の定める事由があるときは、保持者又はその相続人は、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、その事由の生じた日(保持者の死亡に係る場合は、相続人がその事実を知つた日)から十日以内に委員会に届け出なければならない。

(重要無形文化財の保存)

第五十六条の六 委員会は、重要無形文化財の保存のため必要があると認めるときは、重要無形文化財について自ら記録の作成、伝承者の養成その他その保存のため適当な措置を行い、又は保持者若しくは地方公共団体その他その保存に当ることを適当と認める者に対し、その保存に要する経費の一部を補助することができる。

2 前項の規定により補助金を交付する場合には、第三十五条第二項及び第三項の規定を準用する。

(重要無形文化財の公開)

第五十六条の七 委員会は、重要無形文化財の保持者に対し重要無形文化財の

公開を、重要無形文化財の記録の所有者に対しその記録の公開を勧告することができ。

2 重要無形文化財の保持者又は重要無形文化財の記録の所有者から、重要無形文化財又は重要無形文化財の記録を国庫の費用負担において公開したい旨の申出があつた場合には、第五十一条第七項の規定を準用する。

3 前項の規定により公開したことに起因して当該重要無形文化財の記録が滅失し、又はき損した場合には、第五十二条の規定を準用する。

(重要無形文化財の保存に関する助言又は勧告)

第五十六条の八 委員会は、重要無形文化財の保持者又は地方公共団体その他その保存に当ることを適当と認める者に対し、重要無形文化財の保存のため必要な助言又は勧告をすることができ。

(重要無形文化財以外の無形文化財の記録の作成等)

第五十六条の九 委員会は、重要無形文化財以外の無形文化財のうち特に必要のあるものを選択して、自らその記録を作成し、保存し、若しくは公開し、又は適当な者に対し、当該無形文化財の公開若しくはその記録の作成、保存若しくは公開に要する経費の一部を補助することができる。

2 前項の規定により補助金を交付する場合には、第三十五条第二項及び第三

項の規定を準用する。

第三章の三 民俗資料

(重要民族資料の指定)

第五十六条の十 委員会は、有形の民俗資料のうち特に重要なものを重要民族資料に指定することができる。

2 前項の規定による指定には、第二十八條第一項から第四項までの規定を準用する。

(重要民俗資料の指定の解除)

第五十六条の十一 重要民俗資料が重要民俗資料としての価値を失つた場合その他特殊の事由があるときは、委員会は、重要民俗資料の指定を解除することができる。

2 前項の規定による指定の解除には、第二十九条第二項から第四項までの規定を準用する。

(重要民俗資料の管理)

第五十六条の十二 重要民俗資料の管理には、第三十条から第三十四条までの規定を準用する。

(重要民俗資料の保護)

第五十六条の十三 重要民俗資料の現状を変更し、又はこれを輸出しようとする者は、現状を変更し、又は輸出しようとする日の二十日前までに、委員会規則の定めるところにより、委員会にその旨を届け出なければならない。但し、委員会規則の定める場合は、この限りでない。

2 重要民俗資料の保護上必要があると認めるときは、委員会は、前項の届出

に係る重要民俗資料の現状変更又は輸出に關し必要な事項を指示することができる。

第五十六条の十四 重要民俗資料の保護には、第三十四条の二から第三十六条まで、第三十七条第二項から第四項まで、第四十二条、第四十六条及び第四十七条の規定を準用する。

(重要民俗資料の公開)

第五十六条の十五 重要民俗資料の所有者及び管理団体(第五十六条の十二で準用する第三十二条の二第一項の規定による指定を受けた地方公共団体その他の法人をいう。以下この章及び第六章において同じ。)以外の者がその主催する展覧会その他の催しにおいて重要民俗資料を公衆の観覧を供しようとするときは、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、観覧に供しようとする最初の日の三十日前までに、委員会に届け出なければならない。

2 前項の届出に係る公開には、第五十一条第四項及び第五項の規定を準用する。

第五十六条の十六 重要民俗資料の公開には、第四十七条の二から第五十二条までの規定を準用する。

(重要民族資料の保存のための調査及び所有者変更等に伴う権利義務の承継)

第五十六条の十七 重要民俗資料の保存のための調査には、第五十四条の規定を、重要民俗資料の所有者が変更し、

又は重要民俗資料の管理団体が指定され、若しくはその指定が解除された場合には、第五十六条の規定を準用する。

(無形の民俗資料の記録の作成等)
第五十六条の十八 無形の民俗資料には、第五十六条の九の規定を準用する。

第四章 埋蔵文化財

(発掘に関する届出、指示及び命令)

第五十七条 土地を発掘して埋蔵物である文化財(以下「埋蔵文化財」という。)について調査しようとする者は、委員会の定める事項を記載した書面をもつて、発掘に着手しようとする日の三十日前までに委員会に届け出なければならぬ。但し、委員会規則の定める場合は、この限りでない。

2 埋蔵文化財の保護上特に必要があると認めるときは、委員会は、前項の届出に係る発掘に関し必要な事項を指示し、又はその発掘の禁止、停止若しくは中止を命ずることができる。

第五十七条の二 土木工事その他埋蔵文化財の調査以外の目的で、貝づか、古墳その他埋蔵文化財を包蔵する土地として周知されている土地を発掘しようとする場合には、前条第一項の規定を準用する。

2 埋蔵文化財の保護上特に必要があると認めるときは、委員会は、前項で準用する前条第一項の届出に係る発掘に関し必要な事項を指示することができる。

る。

(委員会による発掘の施行)

第五十八条 委員会は、埋蔵文化財について調査する必要があると認めるときは、自ら埋蔵文化財を包蔵すると認められる土地の発掘を施行することができる。

2 前項の規定により発掘を自ら施行しようとするときは、委員会は、あらかじめ、当該土地の所有者及び権原に基づく占有者に対し、発掘の目的、方法、着手の時期その他必要と認める事項を記載した令書を交付しなければならない。

3 第一項の場合には、第三十九条及び第四十一条の規定を準用する。

第五十九条 前条第一項の規定による発掘により文化財を発見した場合において、委員会は、当該文化財の所有者が判明しているときはこれを所有者に返還し、所有者が判明しないときは、遺失物法(明治三十二年法律第八十七号)第十三条で準用する同法第一条第一項の規定にかかわらず、警察署長にその旨を通知することをもつて足りる。

2 前項の通知を受けたときは、警察署長は、直ちに当該文化財につき遺失物法第十三条で準用する同法第一条第二項の規定による公告をしなければならぬ。

認められるときは、警察署長は、直ちに当該物件を委員会に提出しなければならない。但し、所有者の判明している場合は、この限りでない。

(鑑査)

第六十一条 前条の規定により物件が提出されたときは、委員会は、当該物件が文化財であるかどうかを鑑査しなければならない。

2 委員会は、前項の鑑査の結果当該物件を文化財と認めるときは、その旨を警察署長に通知し、文化財でないと認めるときは、当該物件を警察署長に差し戻さなければならない。

(引渡)

第六十二条 第五十九条第一項又は前条第二項に規定する文化財の所有者から、警察署長に対し、その文化財の返還の請求があつたときは、委員会は、当該警察署長にこれを引き渡さなければならない。

(国庫帰属及び報償金)
第六十三条 第五十九条第一項又は第六十一条第二項に規定する文化財でその所有者が判明しないものの所有権は、国庫に帰属する。この場合において、委員会は、当該文化財の発見者及びその発見された土地の所有者にその旨を通知し、且つ、その価格に相当する額の報償金を支給する。

2 前項に規定する発見者と土地所有者とが異なるときは、前項の報償金は、折半して支給する。

3 前二項の場合には、第四十一条第二項の規定を準用する。

(譲与等)

第六十四条 政府は、前条第一項の規定により国庫に帰属した文化財の保存のため又はその効用から見て国が保有する必要がある場合を除いて、当該文化財の発見者又はその発見された土地の所有者に、その者が前条の規定により受けるべき報償金の額に相当するものの範囲内でこれを譲与することができる。

2 前項の場合には、その譲与した文化財の価格に相当する金額は、前条に規定する報償金の額から控除するものとする。

3 政府は、前条第一項の規定により国庫に帰属した文化財の保存のため又はその効用から見て国が保有する必要がある場合を除いて、当該文化財の発見された土地を管轄する地方公共団体に對し、その申請に基づき、当該文化財を譲与し、又は時価よりも低い対価で譲渡することができる。

(遺失物法の適用)
第六十五条 埋蔵文化財に関しては、この法律に特別の定のある場合の外、遺失物法第十三条の規定の適用があるものとする。

第六十六条から第六十八条まで 削除。

第五章 史跡名勝天然記念物

(指定)
第六十九条 委員会は、記念物のうち重

要なものを史跡、名勝又は天然記念物(以下「史跡名勝天然記念物」と総称する。)に指定することができる。

2 委員会は、前項の規定により指定された史跡名勝天然記念物のうち特に重要なものを特別史跡、特別名勝又は特別天然記念物(以下「特別史跡名勝天然記念物」と総称する。)に指定することができる。

3 前二項の規定による指定は、その旨を官報で告示するとともに、当該特別史跡名勝天然記念物又は史跡名勝天然記念物の所有者及び権原に基く占有者に通知してする。

4 前項の規定により通知すべき相手方が著しく多数で個別に通知し難い事情がある場合には、委員会は、同項の規定による通知に代えて、その通知すべき事項を当該特別史跡名勝天然記念物又は史跡名勝天然記念物の所在地の市町村の事務所又はこれに準ずる施設の掲示場に掲示することができる。この場合においては、その掲示を始めた日から二週間を経過した時に前項の規定による通知が相手方に到達したものとみなす。

5 第一項又は第二項の規定による指定は、第三項の規定による官報の告示があつた日からその効力を生ずる。但し、当該特別史跡名勝天然記念物又は史跡名勝天然記念物の所有者又は権原に基く占有者に対しては、第三項の規定による通知が到達した時又は前項の

規定によりその通知が到達したものとみなされる時からその効力を生ずる(仮指定)

第七十条 前条第一項の規定による規定前において緊急の必要があると認めるときは、都道府県の教育委員会は、史跡名勝天然記念物の仮指定を行うことができる。

2 前項の規定により仮指定を行つたときは、都道府県の教育委員会は、直ちにその旨を委員会に報告しなければならない。

3 第一項の規定による仮指定には、前条第三項から第五項までの規定を準用する。

(所有権等の尊重及び他の公益との調整)

第七十条の二 委員会又は都道府県の教育委員会は、第六十九条第一項若しくは第二項の規定による指定又は前条第一項の規定による仮指定を行うに当つては、特に、関係者の所有権、鉱業権その他の財産権を尊重するとともに、国土の開発その他の公益との調整に留意しなければならない。

(解除)

第七十一条 特別史跡名勝天然記念物又は史跡名勝天然記念物がその価値を失つた場合その他特殊の事由のあるときは、委員会又は都道府県の教育委員会は、その指定又は仮指定を解除することができる。

2 第七十条第一項の規定により仮指定

された史跡名勝天然記念物につき第六十九条第一項の規定による指定があつたとき、又は仮指定があつた日から二年以内に同条同項の規定による指定がなかつたときは、仮指定は、その効力を失う。

3 第七十条第一項の規定による仮指定が適当でないとき認めるときは、委員会は、これを解除することができる。

4 第一項又は前項の規定による指定又は仮指定の解除には、第六十九条第三項から第五項までの規定を準用する。

(管理団体による管理及び復旧)

第七十一条の二 史跡名勝天然記念物につき、所有者がないか若しくは判明しない場合又は所有者若しくは第七十四条第二項の規定により選任された管理の責に任すべき者による管理が著しく困難若しくは不適当であると明らかに認められる場合には、委員会は、適当な地方公共団体その他の法人を指定して、当該史跡名勝天然記念物の保存のため必要な管理及び復旧(当該史跡名勝天然記念物の保存のため必要な施設、設備その他の物件で当該史跡名勝天然記念物の所有者の所有又は管理に属するものの管理及び復旧を含む。)を行わせることができる。

3 前項の規定による指定をするには、委員会は、あらかじめ、指定しようとする地方公共団体その他の法人の同意を得なければならない。

3 第一項の規定による指定は、その旨

を官報で告示するとともに、当該史跡名勝天然記念物の所有者及び権原に基く占有者並びに指定しようとする地方公共団体、その他の法人に通知してする。

4 第一項の規定による指定には、第六十九条第四項及び第五項の規定を準用する。

第七十一条の三 前条第一項に規定する事由が消滅した場合その他特殊の事由があるときは、委員会は、管理団体の指定を解除することができる。

2 前項の規定による解除には、前条第三項並びに第六十九条第四項及び第五項の規定を準用する。

第七十二条 第七十一条の二第一項の規定による指定を受けた地方公共団体その他の法人(以下この章及び第六章において「管理団体」という。)は、委員会規則の定める基準により、史跡名勝天然記念物の管理に必要な標識、説明板、境界板、囲さくその他の施設を設置しなければならない。

2 史跡名勝天然記念物の指定地域内の土地について、その土地の所在、地番、地目又は地積に異動があつたときは、管理団体は、委員会規則の定めるところにより、委員会にその旨を届け出なければならない。

3 管理団体が復旧を行う場合は、管理団体は、あらかじめ、その復旧の方法及び時期について当該史跡名勝天然記念物の所有者(所有者が判明しない場

合を除く。及び権原に基く占有者の意見を聞かなければならない。

4 史跡名勝天然記念物の所有者又は占有者は、正当な理由がなくて、管理団体が行う管理若しくは復旧又は管理若しくは復旧のため必要な措置を拒み、妨げ、又は忌避してはならない。

第七十二条の二 管理団体が行う管理及び復旧に要する費用は、この法律に特別の定のある場合を除いて、管理団体の負担とする。

2 前項の規定は、管理団体と所有者との協議により、管理団体が行う管理又は復旧により所有者の受ける利益の限度において、管理又は復旧に要する費用の一部を所有者の負担とすることを妨げるものではない。

3 管理団体は、その管理する史跡名勝天然記念物につき観覧料を徴収することができる。

第七十三条 管理団体が行う管理又は復旧によつて損害を受けた者に対しては、当該管理団体は、その通常生ずべき損害を補償しなければならない。

2 前項の場合には、第四十一条第二項の規定を準用する。

第七十三条の二 管理団体が行う管理には、第三十条、第三十一条第一項及び第三十三条の規定を、管理団体が行う管理及び復旧には、第三十五条及び第四十七条の規定を、管理団体が指定され、又はその指定が解除された場合には、第五十六条第三項の規定を準用す

る。

(所有者による管理及び復旧)

第七十四条 管理団体がある場合を除いて、史跡名勝天然記念物の所有者は、当該史跡名勝天然記念物の管理及び復旧に当るものとする。

2 前項の規定により史跡名勝天然記念物の管理に当る所有者は、特別の事情があるときは、適当な者をもつば自己に代り当該史跡名勝天然記念物の管理の責に任ずべき者(以下この章及び第六章において「管理責任者」という。)に選任することができる。この場合には、第三十一条第三項の規定を準用する。

第七十五条 所有者が行う管理には、第三十条、第三十一条第一項、第三十二条及び第三十三条並びに第七十二条第一項及び第二項(同条第二項については、管理責任者がある場合を除く。)の規定を、所有者が行う管理及び復旧には、第三十五条及び第四十七条の規定を、所有者が変更した場合の権利義務の承継には、第五十六条第一項の規定を、管理責任者が行う管理には、第三十条、第三十一条第一項、第三十二条第三項、第三十三条、第四十七条第四項及び第七十二条第二項の規定を準用する。

(管理に関する命令又は勧告)
第七十六条 管理が適當でないため史跡名勝天然記念物が滅失し、き損し、喪失し、又は盗み取られる虞があると認めるときは、委員会は、管理団体、所有者又は管理責任者に対し、管理方法の改善、保存施設の設置その他管理に關し必要な措置を命じ、又は勧告することができる。

2 前項の場合には、第三十六条第二項及び第三項の規定を準用する。
(復旧に関する命令又は勧告)
第七十七条 委員会は、特別史跡名勝天然記念物がき損し、又は喪失している場合において、その保存のため必要があると認めるときは、管理団体又は所有者に対し、その復旧について必要な命令又は勧告をすることができる。

めるときは、委員会は、管理団体、所有者又は管理責任者に対し、管理方法の改善、保存施設の設置その他管理に關し必要な措置を命じ、又は勧告することができる。

2 前項の場合には、第三十六条第二項及び第三項の規定を準用する。
(復旧に関する命令又は勧告)
第七十七条 委員会は、特別史跡名勝天然記念物がき損し、又は喪失している場合において、その保存のため必要があると認めるときは、管理団体又は所有者に対し、その復旧について必要な命令又は勧告をすることができる。

2 委員会は、特別史跡名勝天然記念物以外の史跡名勝天然記念物が、き損し、又は喪失している場合において、その保存のため必要があると認めるときは、管理団体又は所有者に対し、その復旧について必要な命令又は勧告をすることができる。

3 前二項の場合には、第三十七条第三項及び第四項の規定を準用する。
(委員会による特別史跡名勝天然記念物の復旧等の施行)
第七十八条 委員会は、左の各号の一に該当する場合においては、特別史跡名勝天然記念物につき自ら復旧を行い、又は滅失、き損、喪失若しくは盗難の防止の措置をすることができる。

一 管理団体、所有者又は管理責任者が前二条の規定による命令に従わな

いとき。

二 特別史跡名勝天然記念物がき損し、若しくは喪失している場合又は滅失し、き損し、喪失し、若しくは盗み取られる虞のある場合において、管理団体、所有者又は管理責任者に復旧又は滅失、き損、喪失若しくは盗難の防止の措置をさせることが適當でないとき認められるとき。

2 前項の場合には、第三十八条第二項及び第三十九条から第四十一条までの規定を準用する。
(補助等に係る史跡名勝天然記念物譲渡の場合の納付金)
第七十九条 国が復旧又は滅失、き損、喪失若しくは盗難の防止の措置につき第七十三条の二及び第七十五条で準用する第三十五条第一項の規定により補助金を交付し、又は第七十六条第二項で準用する第三十六条第二項、第七十七条第三項で準用する第三十七条第三項若しくは前条第二項で準用する第四十条第一項の規定により費用を負担した史跡名勝天然記念物については、第四十二条の規定を準用する。

(現状変更等の制限及び原状回復の命令)
第八十条 史跡名勝天然記念物に關しその現状を変更し、又はその保存に影響を及ぼす行為をしようとするときは、委員会の許可を受けなければならない。但し、現状変更については維持の措置をする場合、保存に影響を及ぼす

措置を及ぼす

行為については影響の軽微である場合は、この限りでない。

2 前項但書に規定する維持の措置の範囲は、委員会規則で定める。

3 第一項の規定による許可を与える場合には、第四十三条第三項の規定を、第一項の規定による許可を受けた者には、同条第四項の規定を準用する。

4 委員会又はその権限の委任を受けた都道府県の教育委員会の第一項の規定による処分には、第七十条の二の規定を準用する。

5 第一項の規定による許可を受けず、又は第三項で準用する第四十三条第三項の規定による許可の条件に従わないで、史跡名勝天然記念物の現状を変更し、又はその保存に影響を及ぼす行為をした者に対しては、委員会は、原状回復を命ずることができる。この場合には、委員会は、原状回復に関し必要な指示をすることができる。

(復旧の届出等)

第八十条の二 史跡名勝天然記念物を復旧しようとするときは、管理団体又は所有者は、復旧に着手しようとする日の三十日前までに、委員会規則の定めるところにより、委員会にその旨を届け出なければならない。但し、前条第一項の規定により許可を受けなければならない場合その他委員会規則の定める場合は、この限りでない。

2 史跡名勝天然記念物の保護上必要があると認めるときは、委員会は、前項

の届出に係る史跡名勝天然記念物の復旧に関し技術的な指導と助言を与えることができる。

(環境保全)

第八十一条 委員会は、史跡名勝天然記念物の保存のため必要があると認めるときは、地域を定めて一定の行為を制限し、若しくは禁止し、又は必要な施設をすることを命ずることができる。

2 前項の規定による処分によつて損害を受けた者に対しては、政府は、その通常生ずべき損害を補償する。

3 第一項の規定による制限又は禁止に違反した者には、第八十条第五項の規定を、前項の場合には、第四十一条第二項の規定を準用する。

(保存のための調査)

第八十二条 委員会は、必要があると認めるときは、管理団体、所有者又は管理責任者に対し、史跡名勝天然記念物の現状又は管理、復旧若しくは環境保全の状況につき報告を求めることができる。

第八十三条 委員会は、左の各号の一に該当する場合において、前条の報告によつてもなお史跡名勝天然記念物に関する状況を確認することができず、且つ、その確認のため他に方法がないと認めるときは、調査に当る者を定め、その所在する土地又はその隣接地に立ち入つてその現状又は管理、復旧若しくは環境保全の状況につき実地調査及び土地の発掘、障害物の除去その他調

査のため必要な措置をさせることができる。但し、当該土地の所有者、占有者その他の関係者に対し、著しく損害を及ぼす虞のある措置は、させてはならない。

一 史跡名勝天然記念物に関する現状変更又は保存に影響を及ぼす行為の許可の申請があつたとき。

二 史跡名勝天然記念物がき損し、又は喪失しているとき。

三 史跡名勝天然記念物が滅失し、き損し、喪失し、又は盗み取られる虞のあるとき。

四 特別の事情によりあらためて特別史跡名勝天然記念物又は史跡名勝天然記念物としての価値を調査する必要があるとき。

2 前項の規定による調査又は措置によつて損害を受けた者に対しては、政府は、その通常生ずべき損害を補償する。

3 第一項の規定により立ち入り、調査する場合には、第五十五条第二項の規定を、前項の場合には、第四十一条第二項の規定を準用する。

(遺跡発見の届出)

第八十四条 土地の所有者又は占有者が貝づか、住宅跡、古墳その他遺跡と認められるものを発見したときは、その現状を変更することなく、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、発見の日から十日以内に委員会に届け出なければならない。但し、第五

十七条第一項の規定による届出をした場合は、この限りでない。

2 前項の規定による届出があつた場合には、委員会は、当該遺跡の保護上必要な事項を指示することができる。

第六章 補則

第一節 聴聞及び異議の申立

(聴聞)

第八十五条 委員会が左に掲げる処分又は措置を行おうとするときは、関係者又はその代理人の出頭を求めて、公開による聴聞を行わなければならない。

一 第三十八条第一項又は第七十八条第一項の規定による修理若しくは復旧又は措置の施行

二 第四十三条第四項(第八十条第三項で準用する場合を含む。)(又は第五

十三条第三項の規定による許可の取消

三 第四十五条第一項又は第八十一条第一項の規定による制限、禁止又は命令で特定の者に対して行われるもの

四 第五十一条第五項(同条第七項(第五十六条の七第二項で準用する場合を含む。)(第五十一条の二、第五十

六条の十五第二項及び第五十六条の十六で準用する場合を含む。)(の規定

による公開の中止命令

五 第五十五条第一項又は第八十三条第一項の規定による立入調査又は調

査のため必要な措置の施行

六 第五十七条第二項の規定による発

一の禁止又は中止命令

七 第五十八條第一項の規定による発

捆の施行

八 第八十條第五項(第八十一條第三項で準用する場合を含む。)の規定による原状回復の命令

2 委員会は、前項の聴聞を行おうとするときは、前項各号に規定する処分又は措置を行おうとする理由、その処分又は措置の内容並びに聴聞の期日及び場所をその期日の十日前までに当該関係者に通告し、且つ、その処分又は措置の内容並びに聴聞の期日及び場所を公示しなければならない。

3 聴聞においては、当該関係者又はその代理人は、自己又は本人のために意見を述べ、又は釈明し、且つ、証拠を提出することができる。

4 当該関係者又はその代理人が正当な理由がなくて聴聞に応じなかつたときは、委員会は、聴聞を行わないで第一項に規定する処分又は措置をすることができる。

(異議の申立)

第八十五條の二 委員会又はその権限の委任を受けた都道府県の教育委員会がした左に掲げる処分不服のある者は、委員会に対し、異議の申立をすることができる。

一 第四十三條第一項又は第八十條第一項の規定による現状変更等の許可又は不許可

二 第四十五條第一項又は第八十一條

美術関係法規

第一項の規定による制限、禁止又は命令で特定の者に対して行われるもの

三 第七十一條の二第一項の規定による管理団体の指定

2 前項の規定による異議の申立は、処分の相手方及び処分の通知を受けるべき者にあつては処分のあつた日又は処分の通知を受けた日から、その他の者にあつては処分のあつたことを知つた日から三十日以内に、委員会規則の定める事項を記載した申立書を委員会に提出して、行わなければならない。

3 正当な事由により前項の期間内に異議の申立をすることができなかつたことを疎明した者は、同項の期間の経過後でも、異議の申立をすることができる。

(却下)

第八十五條の三 委員会は、異議の申立が不適当であると認めるときは、申立を却下しなければならない。

(異議の申立のあつた場合の聴聞)

第八十五條の四 異議の申立があつたときは、第八十五條の二第一項第二号の事案に係る場合及び申立を却下する場合作を除き、委員会は、申立を受理した日から三十日以内に、公開による聴聞を開始しなければならない。

2 委員会は、前項の聴聞を行おうとするときは、聴聞の期日及び場所をその期日の十日前までに異議の申立をした者に通告し、且つ、事案の要旨並びに

聴聞の期日及び場所を公示しなければならない。

(参加)

第八十五條の五 異議の申立をした者の外、当該処分について利害関係を有する者で聴聞に参加して意見を述べようとするものは、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、委員会にその旨を申し出て、その許可を受けなければならない。

(証拠の提示等)

第八十五條の六 第八十五條の四の規定による聴聞においては、異議の申立をした者、処分の相手方、処分の通知を受けるべき者及び前条の規定による聴聞に参加した者又はこれらの者の代理人に対し、且つ、意見を述べる機会を与えなければならない。

(決定)

第八十五條の七 決定は、文書をもつて行い、且つ、理由を附さなければならない。

2 委員会は、決定書の正本を、異議の申立をした者及び聴聞に参加した者に交付しなければならない。但し、申立を却下する決定については、異議の申立をした者に交付すれば足りる。

(決定前の協議等)

第八十五條の八 鉱業又は採石業との調整に関する事案に係る異議の申立については、委員会は、申立を却下する場合作を除き、あらかじめ、土地調整委員

会に協議した上、決定をしなければならない。

2 関係各行政機関の長は、異議の申立に係る事案について意見を述べることができる。

(手続)

第八十五條の九 前七条に定めるものの外、異議の申立に関する手続は、委員会規則で定める。

第二節 国に関する特例

(国に関する特例)

第八十六條 国又は国の機関に対しこの法律の規定を適用する場合において、この節に特別の規定のあるときは、その規定による。

第八十七條 重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物が国有財産法(昭和二十三年法律第七十三号)に規定する国有財産であるときは、そのものは、文部大臣が管理する。但し、そのものが文部大臣以外の者が管理している同法第三条第二項に規定する行政財産であるときその他文部大臣以外の者が管理すべき特別の必要のあるものであるときは、そのものを関係各省各庁の長(同法第四条第二項に規定する各省各庁の長をいう。以下同じ。)が管理するか、又は文部大臣が管理するかは、文部大臣、関係各省各庁の長及び大蔵大臣が協議して定める。

2 前項但書の規定により協議する場合には、文部大臣は、委員会の意見を聞かなければならない。

第八十七条の二 前条第一項の規定により重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物を文部大臣が管理するため、所属を異にする会計の間において所管換又は所屬替をするときは、国有財産法第十五条の規定にかかわらず、無償として整理することができ

る。
第八十八条 国の所有に属する有形文化財又は民俗資料を国宝若しくは重要文化財又は重要民俗資料に指定したときは、第二十八条第一項又は第三項(第五十六条の十第二項で準用する場合を含む)の規定により所有者に対し行すべき通知又は指定書の交付は、当該有形文化財又は民俗資料を管理する各省各庁の長に対し行ふものとする。この場合においては、国宝の指定書を受けた各省各庁の長は、直ちに国宝に指定された重要文化財の指定書を委員会に返付しなければならない。

2 国の所有に属する国宝若しくは重要文化財又は重要民俗資料の指定を解除したときは、第二十九条第二項(第五十六条の十一第二項で準用する場合を含む)又は第五項の規定により所有者に対し行すべき通知又は指定書の交付は、当該国宝若しくは重要文化財又は重要民俗資料を管理する各省各庁の長に対し行ふものとする。この場合においては、当該各省各庁の長は、直ちに指定書を委員会に返付しなければならない。

3 国の所有又は占有に属するものを特別史跡名勝天然記念物若しくは史跡名勝天然記念物に指定し、若しくは仮指定し、又はその指定若しくは仮指定を解除したときは、第六十九条第三項(第七十条第三項及び第七十一条第四項で準用する場合を含む)の規定により所有者又は占有者に対し行すべき通知は、その指定若しくは仮指定又は指定若しくは仮指定の解除に係るものを管理する各省各庁の長に対し行ふものとする。

第八十九条 重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物を管理する各省各庁の長は、この法律並びにこれに基づいて発する委員会規則及び委員会の勧告に従い、重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物を管理しなければならない。

第九十条 左に掲げる場合には、関係各省各庁の長は、文部大臣を通じ委員会に通知しなければならない。
一 重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物を取得したとき。
二 重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物の所管換を受け、又は所屬替をしたとき。

三 所管に属する重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物の全部又は一部が滅失し、き損し、若しくは喪失し、又はこれを亡失し、若しくは盗み取られたとき。

四 所管に属する重要文化財又は重要

民俗資料の所在の場所を変更しようとするとき。

五 所管に属する重要文化財又は史跡名勝天然記念物を修理し、又は復旧しようとするとき(次条第一項第一号の規定により委員会の同意を求めなければならない場合その他委員会規則の定める場合を除く)。
六 所管に属する重要民俗資料の現状を変更し、又はこれを輸出しようとするとき。

七 所管に属する史跡名勝天然記念物の指定地域内の土地について、その土地の所在、地番、地目又は地積に異動があつたとき。
八 所管に属する土地において貝塚、住居跡、古墳その他遺跡と認められるものを発見したとき。

2 前項第一号及び第二号の場合に係る通知には、第三十二条第一項並びに同項を準用する第五十六条の十二及び第七十五条の規定を、前項第三号の場合に係る通知には、第三十三条並びに同項を準用する第五十六条の十二及び第七十五条の規定を、前項第四号の場合に係る通知には、第三十四条及び同条を準用する第五十六条の十二の規定を、前項第五号の場合に係る通知には、第四十三條の二第一項及び第八十条の二第一項の規定を、前項第六号の場合に係る通知には、第五十六条の十三第一項の規定を、前項第七号の場合に係る通知には、第七十二条第二項の

規定を、前項第八号の場合に係る通知には、第八十四条第一項の規定を準用する。

3 委員会は、第一項第五号、第六号又は第八号の通知に係る事項に關し必要な勧告をすることができる。
第九十一条 左に掲げる場合には、関係各省各庁の長は、あらかじめ、文部大臣を通じ委員会の同意を求めなければならない。

一 重要文化財又は史跡名勝天然記念物の現状を変更し、又はその保存に影響を及ぼす行為をしようとするとき。
二 所管に属する重要文化財を輸出しようとするとき。

三 所管に属する重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物の貸付、交換、売却、譲与その他の処分をしようとするとき。
2 各省各庁の長以外の国の機関が、重要文化財又は史跡名勝天然記念物の現状を変更し、又はその保存に影響を及ぼす行為をしようとするときは、あらかじめ、委員会の同意を求めなければならない。

3 第一項第一号及び前項の場合には、第四十三條第一項但書及び同条第二項並びに第八十条第一項但書及び同条第二項の規定を準用する。

4 委員会は、第一項第一号又は第二項に規定する措置につき同意を与える場合においては、その条件としてその措

置に關し必要な勧告をすることができ
る。

5 關係各省各庁の長その他の国の機関
は、前項の規定による委員会の勧告を
十分に尊重しなければならぬ。

第九十二条 委員会は、必要があると認
めるときは、文部大臣を通じて各省各庁
の長に対し、左に掲げる事項につき必
要な勧告をすることが出来る。

一 所管に属する重要文化財、重要民
俗資料又は史跡名勝天然記念物の管
理方法

二 所管に属する重要文化財、重要民
俗資料又は史跡名勝天然記念物の修
理若しくは復旧又は滅失、き損、喪
亡若しくは盗難の防止の措置

三 重要文化財又は史跡名勝天然記念
物の環境保全のため必要な施設

四 所管に属する重要文化財又は重要
民俗資料の出品又は公開

2 前項の勧告については、前条第五項
の規定を準用する。

3 第一項の規定による委員会の勧告に
基いて施行する同項第二号に規定する
修理、復旧若しくは措置又は同項第三
号に規定する施設に要する経費の分担
については、文部大臣と各省各庁の長
が協議して定める。

4 前項の規定により協議する場合に
は、第八十七条第二項の規定を準用す
る。

第九十三条 委員会は、左の各号の一に
該当する場合においては、国の所有に

属する国宝又は特別史跡名勝天然記念
物につき、自ら修理若しくは復旧を行
い、又は滅失、き損、喪失若しくは盗
難の防止の措置をすることが出来る。

この場合においては、委員会は、当該
文化財が文部大臣以外の各省各庁の長
の所管に属するものであるときは、あ
らかじめ、修理若しくは復旧又は措置
の内容、着手の時期その他必要な事項
につき、文部大臣を通じて当該文化財を
管理する各省各庁の長と協議し、当該
文化財が文部大臣の所管に属するもの
であるときは、文部大臣の定める場合
を除いて、その承認を受けなければな
らない。

一 關係各省各庁の長が前条第一項第
二号に規定する修理若しくは復旧又は
措置についての委員会の勧告に応
じないとき。

二 国宝又は特別史跡名勝天然記念物
がき損し、若しくは喪失している場
合又は滅失し、き損し、喪失し、若
しくは盗み取られる虞のある場合に
おいて、關係各省各庁の長に当該修
理若しくは復旧又は措置をさせるこ
とが適當でない認められるとき。

第九十四条 委員会は、国の所有に属す
るものを国宝、重要文化財、重要民俗
資料、特別史跡名勝天然記念物若しく
は史跡名勝天然記念物に指定するに当
り、又は国の所有に属する国宝、重要
文化財、重要民俗資料、特別史跡名勝
天然記念物若しくは史跡名勝天然記念

物に關する状況を確認するため必要が
あると認めるときは、關係各省各庁の
長に対し調査のため必要な報告を求
め、又は、重要民俗資料に係る場合を除
き、調査に當る者を定めて実地調査を
させることができる。

第九十五条 委員会は、国の所有に属す
る重要文化財、重要民俗資料又は史跡
名勝天然記念物の保存のため特に必要
があると認めるときは、適當な地方公
共団体その他の法人を指定して当該文
化財の保存のため必要な管理（当該文
化財の保存のため必要な施設、設備そ
の他の物件で国の所有又は管理に属す
るものの管理を含む）を行わせること
ができる。

2 前項の規定による指定をするには、
委員会は、あらかじめ、文部大臣を通
じ当該文化財を管理する各省各庁の長
の同意を求めるとともに、指定しよう
とする地方公共団体その他の法人の同
意を得なければならない。

3 第一項の規定による指定には、第三
十二条の二第三項及び第四項の規定を
準用する。

4 第一項の規定による管理によつて生
ずる収益は、当該地方公共団体その他
の法人の収入とする。

5 地方公共団体その他の法人が第一項
の規定による管理を行う場合には、重
要文化財又は重要民俗資料の管理に係
るときは、第三十条、第三十一条第一
項、第三十二条の四第一項、第三十三

条、第三十四条、第三十五条、第三十六
条、第四十七条の二第三項及び第五十
四条の規定を、史跡名勝天然記念物に
係るときは、第三十条、第三十一条第一
項、第三十三条、第三十五条、第七十
二条第一項及び第二項、第七十二条の
二第一項及び第三項、第七十六条並び
第七十二条の規定を準用する。

第九十五条の二 前条第一項の規定によ
る指定の解除については、第三十二条
の三の規定を準用する。

第九十五条の三 委員会は、重要文化
財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記
念物の保護のため特に必要があると認
めるときは、第九十五条第一項の規定
による指定を受けた地方公共団体その
他の法人に当該文化財の修理又は復旧
を行わせることができる。

2 前項の規定による修理又は復旧を行
わせる場合には、第九十五条第二項の
規定を準用する。

3 地方公共団体その他の法人が第一項
の規定による修理又は復旧を行う場合
には、重要文化財又は重要民俗資料に
係るときは、第三十二条の四第一項及
び第三十五条の規定を、史跡名勝天然
記念物に係るときは、第三十五条、第
七十二條の二第一項及び第七十三条の
規定を準用する。

第九十六条 委員会は、第五十八條第一
項の規定により自ら発掘を施行しよう
とする場合において、その発掘を施行
しようとする土地が国の所有に属し、

又は国の機関の占有するものであるときは、あらかじめ、発掘の目的、方法、着手の時期その他必要と認める事項につき、文部大臣を通じ関係各省各庁の長と協議しなければならない。但し、当該各省各庁の長が文部大臣であるときは、その承認を受けるべきものとする。

第九十七条 第六十三条の規定により国庫に帰属した文化財は、委員会が管理する。但し、その保存のため又はその効用から見て他の機関に管理させることが適当であるときは、これを当該機関の管理に移さなければならない。

第三節 地方公共団体及び教育委員会

(地方公共団体の事務)

第九十八条 地方公共団体は、文化財の管理、修理、復旧、公開その他その保存及び活用に要する経費につき補助することができる。

2 地方公共団体は、条例の定めるところにより、重要文化財、重要民俗資料、重要無形文化財及び史跡名勝天然記念物以外の文化財で当該地方公共団体の区域内に存するもののうち重要なものを指定して、その保存及び活用のため必要な措置を講ずることができ

3 前項に規定する条例の制定若しくはその改廃又は同項に規定する文化財の指定若しくはその解除を行った場合には、教育委員会は、委員会規則の定め

るところにより、委員会にその旨を報告しなければならない。

(権限の委任)

第九十九条 委員会は、必要があると認めるときは、左に掲げる委員会の権限の一部を都道府県の教育委員会に委任することができる。

一 第三十五条第三項(第三十六条第

三項(第五十六条の十四、第七十六条第二項(第九十五条第五項で準用する場合を含む。))及び第九十五条第五項で準用する場合を含む。)、第三十七

条第四項(第五十六条の十四及び第七十七条第三項で準用する場合を含む。)、第五十六条の六第二項、第五十六条の九第二項(第五十六

条の十八で準用する場合を含む。)、第五十六条の十四、第七十二条の二、第七十五条、第九十五条第五項及び第九十五条の三第三項で準用する場合を含む。の規定による指揮監督

二 第四十三条又は第八十条の規定による現状変更又は保存に影響を及ぼす行為の許可及びその取消並びにその停止命令(重大な現状変更又は保存に重大な影響を及ぼす行為の許可及びその取消を除く。)

三 第五十一条第五項(同条第七項)第五十六条の七第二項で準用する場合を含む。)、第五十一条の二(第五

十六条の十六で準用する場合を含む。)、第五十六条の十五第二項及び第五十六条の十六で準用する場合を

含む。の規定による公開の停止命令
四 第五十三条の規定による公開の許可及びその取消並びに公開の停止命令
五 第五十四条(第五十六条の十七及

び第九十五条第五項で準用する場合を含む。)、第五十五条、第八十二条(第九十五条第五項で準用する場合を含む。))又は第八十三条の規定による調査又は調査のため必要な措置の

六 第五十七条第二項の規定による発掘の停止命令
七 都道府県の教育委員会が前項の規定

による委任に基き同項第二号若しくは第四号に規定する許可の取消又は同項第五号に規定する立入調査若しくは調査のため必要な措置を行つ場合には、

第八十五条の規定を準用する。
(出品された重要文化財等の管理の委任)

第一百条 委員会は、必要があると認めるときは、都道府県又は地方自治法(昭和二十二年法律第六十七号)第二百五

十二条の十九第一項の指定都市の教育委員会に対し第四十八条(第五十六条の十六で準用する場合を含む。))の規定により出品された重要文化財又は重要民俗資料の管理の事務を委任することが

2 前項の規定による委任を受けた場合には、都道府県又は前項に規定する市の教育委員会は、その職員のうちから、

当該重要文化財又は重要民俗資料の管理の責に任すべき者を定めなければならない。
(修理等の施行の委託)

第一百一条 委員会は、必要があると認めるときは、第三十八条第一項又は第九

十三条の規定による国宝の修理又は滅失、き損若しくは盗難の防止の措置の施行、第五十八条第一項の規定による発掘の施行及び第七十八条第一項又は第九十三条の規定による特別史跡名

勝天然記念物の復旧又は滅失、き損、喪失若しくは盗難の防止の措置の施行につき、都道府県の教育委員会に対し、その全部又は一部を委託することが

2 都道府県の教育委員会が前項の規定による委託に基き、第三十八条第一項の規定による修理又は措置の施行の全部又は一部を行つ場合には、第三十九条の規定を、第五十八条第一項の規定

による発掘の施行の全部又は一部を行つ場合には、同条第三項で準用する第三十九条の規定を、第三十九条の規定を、第七十八条第一項の規定による復旧又は措置の施行の全部又は一部を行つ場合には、同条第二

項で準用する第三十九条の規定を準用する。
(重要文化財等の管理等の受託又は技術的指導)

第一百二条 都道府県の教育委員会は、あらかじめ、委員会の承認を得て、所有者(管理団体がある場合は、その者)又

は、教育委員会は、委員会規則の定め

は管理責任者の求めに応じ、重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物の管理(管理団体がある場合を除く)、修理若しくは復旧につき委託を受け、又は技術的指導をすることができ。

2 都道府県の教育委員会が前項の規定により管理、修理又は復旧の委託を受ける場合には、第三十九条第一項及び第二項の規定を準用する。

(書類等の経由)
第三百三条 この法律の規定により文化財に關し委員会に提出すべき届書その他の書類及び物件の提出は、都道府県の教育委員会を経由すべきものとする。

2 都道府県の教育委員会は、前項に規定する書類及び物件を受理したときは、意見を具してこれを委員会に送付しなければならない。

3 この法律の規定により文化財に關し委員会が発する命令、勧告、指示その他の処分の告知は、都道府県の教育委員会を経由すべきものとする。但し、特に緊急な場合は、この限りでない。

4 この法律の規定により委員会に対してなすべき届出、報告、申出又は指定書の返付は、その届書その他の書類又は指定書が第一項の規定により經由すべき都道府県の教育委員会に到達した時に行われたものとみなす。

(指揮監督及び経費の負担)
第三百四条 委員会は、この法律の規定により都道府県又は第百条第一項に規定

する市の教育委員会に行わせる事務につき、その教育委員会を指揮監督することができる。

2 都道府県又は第百条第一項に規定する市の教育委員会が第九十九条から第百一条までの規定による事務を処理するために要する経費は、国庫の負担とする。

(委員会に対する意見具申)
第三百四条の二 都道府県の教育委員会は、当該都道府県の区域内に存する文化財の保存及び活用に関し、委員会に対して意見を具申することができる。

(教育委員会の文化財専門委員)
第三百四条の三 都道府県の教育委員会に文化財専門委員を置くことができる。

2 文化財専門委員は、文化財の保存及び活用に関し、都道府県の教育委員会の諮問に答え、又は都道府県の教育委員会に意見を具申し、及びこのために必要な調査研究を行う。

2 文化財専門委員に關し必要な事項は、当該都道府県の条例で定める。

第七百七条 重要文化財を損壊し、き棄

し、又は隠匿した者は、五年以下の懲役若しくは禁錮又は三万円以下の罰金若しくは科料に処する。

2 前項に規定する者が当該重要文化財の所有者であるときは、二年以下の懲役若しくは禁錮又は一万円以下の罰金若しくは科料に処する。

2 前項に規定する者が当該史跡名勝天然記念物の所有者であるときは、二年以下の懲役若しくは禁錮又は一万円以下の罰金若しくは科料に処する。

2 前項に規定する者が当該史跡名勝天然記念物の所有者であるときは、二年以下の懲役若しくは禁錮又は一万円以下の罰金若しくは科料に処する。

2 前項に規定する者が当該史跡名勝天然記念物の所有者であるときは、二年以下の懲役若しくは禁錮又は一万円以下の罰金若しくは科料に処する。

2 前項に規定する者が当該史跡名勝天然記念物の所有者であるときは、二年以下の懲役若しくは禁錮又は一万円以下の罰金若しくは科料に処する。

2 前項に規定する者が当該史跡名勝天然記念物の所有者であるときは、二年以下の懲役若しくは禁錮又は一万円以下の罰金若しくは科料に処する。

2 前項に規定する者が当該史跡名勝天然記念物の所有者であるときは、二年以下の懲役若しくは禁錮又は一万円以下の罰金若しくは科料に処する。

天然記念物の管理、修理又は復旧の施行の責に任すべき者が怠慢又は重大な過失によりその管理、修理又は復旧に係る重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物を滅失し、き損し、喪失し、又は盗み取られるに至らしめたときは、三万円以下の過料に処する。

第三百九条 左の各号の一に該当する者は、三万円以下の過料に処する。

一 正当な理由がなくて、第三十六条第一項(第五十六条の十四及び第九十五条第五項で準用する場合を含む)又は第三十七条第一項の規定による重要文化財若しくは重要民俗資料の管理又は国宝の修理に關する委員会の命令に従わなかつた者

二 第三十四条の規定に違反して、委員会若しくはその権限の委任を受けた都道府県の教育委員会の許可を受けず、若しくはその許可の条件に従わないで重要文化財の現状を変更し、又は委員会若しくはその権限の委任を受けた都道府県の教育委員会の現状変更の停止の命令に従わなかつた者

三 正当な理由がなくて、第七十六条第一項(第九十五条第五項で準用する場合を含む)又は第七十七条第一項の規定による史跡名勝天然記念物の管理又は特別史跡名勝天然記念物の復旧に關する委員会の命令に従わなかつた者

二百五十三

四 第八十条の規定に違反して、委員会又はその権限の委任を受けた都道府県の教育委員会の許可を受けず、若しくはその許可の条件に従わぬい史跡名勝天然記念物の現状を変更し、若しくはその保存に影響を及ぼす行為をし、又は委員会若しくはその権限の委任を受けた都道府県の教育委員会の現状変更若しくは保存に影響を及ぼす行為の停止の命令に従わなかつた者

第百十条 左の各号の一に該当する者は、一万円以下の過料に処する。

一 第三十九条第三項(第百一条第二項で準用する場合を含む。)で準用する第三十二条の二第五項の規定に違反して、国宝の修理又は滅失、き損若しくは盗難の防止の措置の施行を拒み、又は妨げた者

二 正当な理由がなくて、第四十五条第一項の規定による制限若しくは禁止又は施設の命令に違反した者

三 第四十六条(第五十六条の十四で準用する場合を含む。)の規定に違反して、委員会に国に対する充渡の申出をせず、若しくは申出をした後同条第三項(第五十六条の十四で準用する場合を含む。)に規定する期間内に、国以外の者に重要文化財又は重要民俗資料を譲り渡し、又は同条第一項(第五十六条の十四で準用する場合を含む。)の規定による充渡の申出若しくは同項但書(第五十六条の

十四で準用する場合を含む。)の規定による承認の申請につき、虚偽の事実を申し立てた者

四 第五十三条の規定に違反して、委員会若しくはその権限の委任を受けた都道府県の教育委員会の許可を受けず、若しくはその許可の条件に従わぬい重要文化財を公開し、又は委員会若しくはその権限の委任を受けた都道府県の教育委員会の公開の停止の命令に従わなかつた者

五 第七十八条第二項又は第百一条第二項で準用する第三十九条第三項で準用する第三十二条の二第五項の規定に違反して、特別史跡名勝天然記念物の復旧又は滅失、き損、衰亡若しくは盗難の防止の措置の施行を拒み、又は妨げた者

六 正当な理由がなくて、第八十一条第一項の規定による制限若しくは禁止又は施設の命令に違反した者は、五千円以下の過料に処する。

一 第二十八条第五項、第二十九条第四項(第五十六条の十一第二項で準用する場合を含む。)又は第五十六条第二項(第五十六条の十七で準用する場合を含む。)の規定に違反して、重要文化財又は重要民俗資料の指定書を委員会に返付せず、又は新所有者に引き渡さなかつた者

二 第三十一条第三項(第五十六条の十二及び第七十四条第二項で準用する場合を含む。)、第三十二条(第五十六条の十二、第七十五条及び第九十五条第五項で準用する場合を含む。)、第三十四条(第五十六条の十二及び第九十五条第五項で準用する場合を含む。)、第四十三条の二第一項、第五十六条の五、第五十六条の十三第一項、第五十六条の十五第一項、第五十七条第一項、第七十二条第二項(第九十五条第五項で準用する場合を含む。)、第八十条の二第一項又は第八十四条第一項の規定に違反して、届出をせず、又は虚偽の届出をした者

三 第三十二条の二第五項(第三十四条の三第二項(第五十六条の十四で準用する場合を含む。))及び第五十六条の十二で準用する場合を含む。又は第七十二条第四項の規定に違反して、管理、修理若しくは復旧又は管理、修理若しくは復旧のため必要な措置を拒み、妨げ、又は忌避した者

四 第四十八条第四項(第五十一条第三項(第五十六条の十六で準用する場合を含む。))及び第五十六条の十六で準用する場合を含む。の規定に違反して、出品若しくは公開をせず、又は第五十一条第五項(同条第七項(第五十六条の七第二項及び第五十六条の十六で準用する場合を含む。))、第五十一条の二(第五十六条

の十六で準用する場合を含む。))及び第五十六条の十五第二項で準用する場合を含む。の規定に違反して、委員会若しくはその権限の委任を受けた都道府県の教育委員会の公開の停止若しくは中止の命令に従わなかつた者

五 第五十四条(第五十六条の十七及び第九十五条第五項で準用する場合を含む。)、第五十五条、第八十二条(第九十五条第五項で準用する場合を含む。))又は第八十三条の規定に違反して、報告をせず、若しくは虚偽の報告をし、又は当該公務員の立入調査若しくは調査のため必要な措置の施行を拒み、妨げ、若しくは忌避した者

六 第五十七条第二項の規定に違反して、委員会又はその権限の委任を受けた都道府県の教育委員会の発掘の禁止又は停止若しくは中止の命令に従わなかつた者

七 第五十八条の規定による発掘の施行を拒み、又は妨げた者

第百十二条 削除

附則

(施行期日)
第百十三条 この法律施行の期日は、公布の日から起算して三箇月をこえない期間内において、政令で定める。(昭和二十五年八月政令第二百七十六号で、同二十五年八月二十九日から施行)

(関係法令の廃止)

第百十四条 左に掲げる法律、勅令及び政令は、廃止する。

国宝保存法(昭和四年法律第十七号)

重要美術品等の保存に関する法律(昭和八年法律第四十三号)

史跡名勝天然記念物保存法(大正八年法律第四十四号)

国宝保存法施行令(昭和四年勅令第二百十号)

史跡名勝天然記念物保存法施行令(大正八年勅令第四百九十九号)

国宝保存会官制(昭和四年勅令第二百一十号)

重要美術品等調査審議会令(昭和二十四年政令第二百五十一号)

史跡名勝天然記念物調査会令(昭和二十四年政令第二百五十二号)

(法令廃止に伴う経過規定)

第百十五条 この法律施行前に行つた国宝保存法第一条の規定による国宝の指定(同法第十一条第一項の規定により解除された場合を除く)は、第二十七条第一項の規定による重要文化財の指定とみなし、同法第三条又は第四条の規定による許可は、第四十三条又は第四十四条の規定による許可とみなす。

2 この法律施行前の国宝の滅失又はき損並びにこの法律施行前に行つた国宝保存法第七条第一項の規定による命令及び同法第十五条前段の規定により交付した補助金については、同法第七条から第十条まで、第十五条後段及び第

二十四条の規定は、なおその効力を有する。この場合において同法第九条第二項中「主務大臣」とあるのは、「文化財保護委員会」と読み替えるものとする。

3 この法律施行前に行つた行為の処罰については、国宝保存法は、第六条及び第二十三条の規定を除く外、なおその効力を有する。

4 この法律施行の際現に国宝保存法第一条の規定による国宝を所有している者は、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、この法律施行後三箇月以内に委員会に届け出なければならない。

5 前項の規定による届出があつたときは、委員会は、当該所有者に第二十八条に規定する重要文化財の指定書を交付しなければならない。

6 第四項の規定に違反して、届出をせず、又は虚偽の届出をした者は、五千円以下の過料に処する。

7 この法律施行の際現に国宝保存法第一条の規定による国宝で国の所有に属するものを管理する各省各庁の長は、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、この法律施行後三箇月以内に委員会に通知しなければならない。但し、委員会規則で定める場合は、この限りでない。

8 前項の規定による通知があつたときは、委員会は、当該各省各庁の長に第二十八条に規定する重要文化財の指定

書を交付するものとする。

第百十六条 この法律施行の際現に重要美術品等の保存に関する法律第二条第一項の規定により認定されている物件については、同法は当分の間、なおその効力を有する。この場合において、同法の施行に関する事務は、委員会が行うものとし、同法中「国宝」とあるのは、「文化財保護法」規定に依りて重要文化財」と、「主務大臣」とあるのは、「文化財保護委員会」と、「国宝保存法第一条」規定に依りて国宝トシテ指定シ」とあるのは、「文化財保護法第二十七条第一項」規定に依りて重要文化財トシテ指定シ」と読み替えるものとする。

2 文化財専門審議会においては、当分の間、委員会の諮問に応じて重要美術品等の保存に関する法律第一条の規定による輸出及び移出の許可、同法第二条の規定による認定の取消に関する事項その他重要美術品等の保存に関する重要事項を調査審議し、且つ、これらの事項に関し必要と認める事項を委員会に建議する。

3 重要美術品等の保存に関する法律の施行に關しては、当分の間、第百三条の規定を準用する。

第百十七條 この法律施行前に行つた史跡名勝天然記念物保存法第一条第一項の規定による指定(解除された場合を除く)は、第六十九条第一項の規定による指定、同法第一条第二項の規定に

よる仮指定(解除された場合を除く)は、第七十条第一項の規定による仮指定とみなし、同法第三条の規定による許可は、第八十条第一項の規定による許可とみなす。

2 この法律施行前に行つた史跡名勝天然記念物保存法第四条第一項の規定による命令又は処分については、同法第四条及び史跡名勝天然記念物保存法施行令第四条の規定は、なおその効力を有する。この場合において同令第四条中「文部大臣」とあるのは、「文化財保護委員会」と読み替えるものとする。

3 この法律施行前に行つた行為の処罰については、史跡名勝天然記念物保存法は、なおその効力を有する。

(最初の委員の任命)

第百十八條 委員会の最初の委員の任命については、国会の閉会又は衆議院の解散の場合に限り、第九条第一項の規定にかかわらず、その後最初に召集された国会において両議院の事後の承認を得れば足りる。

2 文部大臣は、前項の規定による両議院の事後の承認が得られないときは、その委員を罷免しなければならない。(第一回委員会の召集)

第百十九條 この法律に基く第一回の委員会は、第十四条の規定にかかわらず、文部大臣が召集する。

(最初の委員の任期)

第百二十條 この法律により初めて任命される委員会の委員で委員長及びその

職務を代理する委員以外のものの任期は、第十條第一項の規定にかかわらず、一人については一年、二人については二年とする。

2 前項の規定の適用を受ける委員の任期は、くじで定める。

(国家行政組織法の一部改正)

第二百一十一條 国家行政組織法の一部を次のように改正する。

別表第一中「文部省」

文部省	文化財保護委員会
-----	----------

を改める。

(文部省設置法の一部改正)

第二百二十二條 文部省設置法(昭和二十四年法律第四百十六号)の一部を次のように改正する。

目次中「第三章職員(第二十五条・第二十六条)」を「第三章外局(第二十五条・第二十六条)」に改める。
「第四章職員(第二十七条・第二十八条)」に改める。

第二条第一項第二号中「国宝、重要美術品、史跡名勝天然記念物その他の文化財」を「文化財保護法(昭和二十五年法律第二百十四号)に規定する文化財」に改める。

同条第三項中「出版」を「文化財保護法に規定する文化財、出版」に改める。
第十條第九号を次のように改める。
九 削除

第十三條中「国立博物館」を削る。
第十四條第一項中「国立博物館」を削る。

削る。

第十七條を次のように改める。

第十七條 削除

第二十四條左表中中国宝保存会、重要美術品等調査審議会及び史跡名勝天然記念物調査会の項を削る。

第三章を第四章とし、第二十五条を第二十七条とし、第二十六条を第二十八条とし、第二章の次に次の一章を加える。

第三章 外局

(外局の設置)

第二十五條 国家行政組織法第三條第二項の規定に基いて文部省に置かれる外局は、左の通りとする。
文化財保護委員会
(文化財保護委員会)

第二十六條 文化財保護委員会の組織、所掌事務及び権限は、文化財保護法の定めるところによる。

(行政機関職員定員法の一部改正)
第二百二十三條 行政機関職員定員法(昭和二十四年法律第二百十六号)の一部を次のように改正する。

第二条第一項中「文部省 本省」を「文部省 本省 六三、六六人」に改める。

「うち六一、八四七人は、国立学校の職員とする。」

文部省	六三、六二	うち	六、八四七	人
文化財保護委員会	四〇			
計	六四、〇二二			

は「国立学校の職員とする。」

(従前の国立博物館)

第二百二十四條 法律(これに基く命令を含む。)に特別の定のある場合を除く外、従前の国立博物館及びその職員(美術研究所及びこれに所屬する職員を除く。)は、この法律に基く国立博物館及びその職員となり、従前の国立博物館附置の美術研究所及びこれに所屬する職員は、この法律に基く研究所及びその職員となり、同一性をもつて存続するものとする。

2 この法律に基く東京国立文化財研究所は、従前の国立博物館附置の美術研究所の所掌した調査研究と同一のものについては、「美術研究所」の名称を用いることができる。

(特別職の職員の給与に関する法律の一部改正)
第二百二十五條 特別職の職員の給与に関する法律(昭和二十四年法律第二百五十二号)の一部を次のように改正する。

第一条第十四号の二の次に次の一号を加える。
十四の三 文化財保護委員会の委員長及び委員

別表中「全国選挙管理委員会委員長」を「全国選挙管理委員会委員長」に、「文化財保護委員会委員長」に、「中央更生保護委員会委員長」を「中央更生保護委員会委員長」に改める。

(遺失物法の一部改正)

第二百二十六條 遺失物法の一部を次のように改正する。

第十三條第二項から第四項までの規定を削る。

2 この法律施行前に国庫に帰属した埋蔵物については、前項の規定にかかわらず、なお従前の例による。

(国有財産法の一部改正)

第二百二十七條 国有財産法の一部を次のように改正する。

第三条第二項第二号中「国宝」の下に「その他の重要文化財」を加える。

(屋外広告物法の一部改正)

第二百二十八條 屋外広告物法(昭和二十四年法律第八十九号)の一部を次のように改正する。

〔次のよう略す〕

(教育委員会法の一部改正)

第二百二十九條 教育委員会法(昭和二十三年法律第七十号)の一部を次のように改正する。

〔次のよう略す〕

(富裕税法の一部改正)

第三百十條 富裕税法(昭和二十五年法律第七十四号)の一部を次のように改正する。

〔次のよう略す〕

附則 (昭和二十六年十二月二十四日法律第三百十八号抄)

1 この法律は、公布の日から施行する。但し、第二十條、第二十二條、第二十三條及び第二十四條第二項の改正規定並びに附則第三項の規定は、昭

和二十七年四月一日から施行する。

2 この法律施行前にした行為に対する罰則の適用については、改正前の文化財保護法第三十四条の規定は、なおその効力を有する。

附 則 (昭和二十七年七月三十一日法律第二百七十二号抄)

施行期日

1 この法律は、昭和二十七年八月一日から施行する。但し、附則第三項の規定は、公布の日から施行する。

(東京国立博物館の分館の職員に関する経過規定)

2 この法律施行の際現に東京国立博物館の分館の職員である者は、別に辞令を発せられない限り、同一の勤務条件をもつて、奈良国立博物館の職員となるものとする。

附 則 (昭和二十八年八月十日法律第九十四号抄)

1 この法律は、公布の日から施行する。

附 則 (昭和二十八年八月十五日法律第二百十三号抄)

1 この法律は、昭和二十八年九月一日から施行する。〔後略〕

2 この法律施行前従前の法令の規定によりなされた許可、認可その他の処分又は申請、届出その他の手続は、それぞれ改正後の相当規定に基いてなされた処分又は手続とみなす。

3 この法律施行の際従前の法令の規定により置かれていた機関又は職員は、それぞれ改正後の相当規定に基いて置かれるものとみなす。

附 則 (昭和二十九年五月二十日九日法律第三百三十一号抄)

1 この法律は、昭和二十九年七月一日から施行する。

2 この法律の施行前にした史跡名勝天然記念物の仮指定は、この法律による改正後の文化財保護法(以下「新法」という。第七十一条第二項の規定にかかわらず、新法第六十九条第一項の規定による指定があつた場合の外、この法律の施行の日から三年以内に同条同項の規定による指定がなかつたときは、その効力を失ふ。

3 この法律の施行前六月以内にこの法律による改正前の文化財保護法第四十三条第一項若しくは第八十条第一項の規定によつてした現状変更等の許可若しくは不許可の処分又は同法第四十五条第一項若しくは第八十一条第一項の規定によつてした制限、禁止又は命令で特定の者に対して行われたものに不服のある者は、この法律の施行の日から三十日以内に委員会に対して異議の申立をすることができる。この場合には、第八十五条の二第二項及び第三項並びに第八十五条の三から第八十五条の九までの規定を準用する。

4 この法律の施行前にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。

5 史跡名勝天然記念物を管理すべき団体の指定等に関する政令(昭和二十八年政令第二百八十九号)は、廃止する。

6 旧史跡名勝天然記念物を管理すべき団体の指定等に関する政令第一条第一項の規定により指定を受けた地方公共団体その他の団体及び同令附則第二項の規定により同令第一条第一項の規定により指定を受けた地方公共団体その他の団体とみなされたもので法人であるものは、新法第七十一条第二項又は第九十五条第一項の規定により指定を受けた地方公共団体その他の法人とみなす。

7 前項に規定する団体で法人でないものには、新法第七十一条の二、第九十五条又は第九十五条の三の規定にかかわらず、この法律の施行の日から一年間は、新法第七十一条の二第一項、第九十五条第一項又は第九十五条の三第一項に規定する管理及び復旧を行わせることができる。この場合には、新法第七十一条の二第二項又は第九十五条第一項の規定による指定を受けた法人に関する規定を準用する。

附 則 (昭和三十一年六月十二日法律第四百四十八号抄)

1 この法律は、地方自治法の一部を改正する法律(昭和三十一年法律第四百四十七号)の施行の日から施行する。

附 則 (昭和三十一年六月十三日法律第四百六十三号抄)

1 この法律は、昭和三十一年十月一日から施行する(以下略)

文化財保護委員会委員

委員長 河井 弥八
委員 矢代 幸雄

細川 護立
川北 禎一
内田 祥三

文化財専門審議会令

(昭和二十五年十月十三日政令第三百九号)

沿革 昭和二十八年政令第二号(第一次改正)
昭和二十九年政令第六十三号(第二次改正)

文化財専門審議会令

内閣は、文化財保護法(昭和二十五年法律第二百四十四号)第二十一条第五項の規定に基き、この政令を制定する。

(所掌事務)

第一条 文化財専門審議会(以下「審議会」という。)は、文化財保護委員会(以下「委員会」という。)の諮問に応じて、左に掲げる事項を調査審議し、及び文化財の保存又は活用に関する専門的又は技術的事項に関し必要と認める事項を委員会に建議する。

一 文化財保護法(以下「法」という。)第二十一条第二項各号に掲げる事項

二 法第二十一条第三項の規定により委員会が重要と認めた事項

三 法第十六条第二項に規定する重要美術品等の保存に関する重要事項

(組織)

第二条 審議会は、専門委員九十人以内で組織する。

2 特別の事項を調査審議するため必要があるときは、審議会に臨時専門委員

を置くことができる。

第三条 専門委員及び臨時専門委員は、学識経験のある者のうちから、委員会が任命する。

第四条 専門委員の任期は、二年とし、その欠員が生じた場合の補充専門委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 臨時専門委員は、特別の事項の調査審議が終了したときは、退任するものとする。

3 専門委員及び臨時専門委員は、非常勤とする。

第五条 専門委員より会長として互選された者は、審議会の会務を総理する。

2 専門委員により副会長として互選された者は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(分科会)

第六条 審議会に置かれる分科会は、左表上欄に掲げる通りとし、それぞれ同表下欄に掲げる事項を分掌する。

分科会の名称	分掌事項
第一分科会	建造物以外の有形文化財(埋蔵物であるものを除く)に関する事項
第二分科会	建造物である有形文化財(埋蔵物であるものを除く)に関する事項
第三分科会	記念物、民俗資料及び埋蔵文化財に関する事項
第四分科会	無形文化財に関する事項

2 前項の規定中有形文化財その他文化財に関する用語の定義は、法における用語の定義による。

第七条 専門委員及び臨時専門委員は、委員会の指名により、前条の分科会のいずれかに分属するものとする。

第八条 各分科会に属する専門委員により分科会長として互選された者は、各分科会の会務を掌理する。

2 分科会長に事故があるときは、その分科会に属する専門委員のうちから分科会長があらかじめ指名する者が、その職務を代理する。

第九条 審議会は、その定めるところにより、分科会の議決又は二以上の分科会の合同の議決をもつて、審議会の議決とすることができる。

(部会)

第十条 第六条の分科会は、その定めるところにより、部会を置くことができる。

2 部会に属すべき専門委員及び臨時専門委員は、分科会長が指名する。

3 各部会に属する専門委員により部長として互選された者は、各部会の会務を掌理する。

4 分科会は、その定めるところにより、部会の議決又は二以上の部会の合同の議決をもつて、分科会の議決とすることができる。

(議事)

第十一条 審議会は、専門委員及び議事に関係のある臨時専門委員の過半数が出席しなければ、議事を開き議決をすることができない。

2 審議会の議事は、出席した専門委員及び議事に関係のある臨時専門委員の過半数が出席しなければ、議事を開き議決をすることができない。

過半数をもつて決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

3 前二項の規定は、分科会又は部会の議事及び二以上の分科会又は部会の合同の議事に準用する。この場合において、二以上の分科会又は部会の合同の議事を整理する会長には、それぞれ審議会又はその部会を置いた分科会の定めるところにより、その分科会又は部会の会長のうち一人が当るものとする。

(庶務)

第十二条 審議会の庶務は、委員会事務局において処理する。

(雑則)

第十三条 この政令に定めるもののほか、審議会の議事の手続その他その運営に關し必要な事項は、審議会が定める。

附

この政令は、公布の日から施行する。

附 則(第一次改正の附則)

この政令は、公布の日から施行し、第十二条の改正規定は、昭和二十七年八月一日から適用する。

附 則(第二次改正の附則)

この政令は、昭和二十九年七月一日から施行する。

「審議会」というの議事の手続その他その運営に關し必要な事項は、この規則の定めるところによる。

第二条 審議会の会議(以下「会議」という)は、会長が招集する。

2 一の議案につき、二以上の分科会長が、それぞれ当該分科会の議を経て会議の招集を請求したときは、会長は、会議を招集しなければならない。

第三条 会長は、会議の議長となり、議事を整理する。

第四条 会長及び副会長にともに事故があるときは、あらかじめ会長の指名する委員が会長の職務を代理する。

第五条 発言しようとする者は、議長の許可を受けなければならない。

第六条 建議案を提出しようとする者は、案を作り、三人以上の賛成者と連署して、会長に差し出さなければならない。

第七条 修正の動議を提出しようとする者は、案を作り、議長に差し出さなければならない。ただし、軽易な修正については、口頭で述べることができる。

第八条 動議は、賛成がなければ、議題とすることができない。

第九条 議事の採決は、起立又は挙手によつてきめる。ただし、議決により、記名投票又は無記名投票によつて行うことができる。

第十条 文化財保護委員会の委員及び事務局職員は、会議において、発言をすることができない。

文化財専門審議会議事規則

(昭和三十年三月十五日総会決定)

第一条 文化財専門審議会令に規定するもののほか、文化財専門審議会(以下

第十一條 第二條第一項、第三條から第五條まで及び第七條から第十條までの規定は、分科会及び部会の会議について準用する。

第十二條 二以上の分科会の合同の議事を整理する会長は、当該二以上の分科会の会長が協議して定める。

第十三條 一の分科会に分属する専門委員は、他の分科会又は他の分科会の部会の会議に出席して意見を述べることができる。

2 前項の場合には、他の分科会又は他の分科会の部会に出席することについて、当該他の分科会又は他の分科会の部会の会長の承認を得なければならぬ。

第十四條 審議会に、幹事及び書記を置く。

第十五條 この規則に定めるもののほか、審議会の運営に關し必要な事項は、審議会の承認を経て会長が定める。

文化財専門審議會常任委員 会設置規則

(昭和三十年三月十五日)
總 会 決 定

第一條 文化財専門審議會(以下「審議會」といふ)に、その能率的かつ一体的運営を期するため、常任委員会を置く。

第二條 常任委員会は、前条の目的を達成するため、左に掲げる事項をつかさどる。

一 審議會から附託された事項の調査

審議

二 審議會から附託された建議案の作成

三 審議會から審議會に代つて議決することを附託された事項についての議決

四 分科会相互間の連絡調整

第三條 常任委員会は、次に掲げる者をもつて組織する。

一 審議會会長

二 審議會副会長

三 審議會副会長代理

四 分科会会長

五 分科会会長代理

六 部会長

第四條 常任委員会に会長及び副会長を置き、それぞれ審議會の会長及び副会長がこれに當るものとする。

第五條 分科会会長である常任委員会の委員は、分科会の分掌事項に關する調査審議の経過及び結果を常任委員会に報告するものとする。

第六條 文化財保護委員会委員並びに議事に關係のある専門委員及び臨時専門委員並びに事務局職員は、常任委員会において発言をすることができる。

第七條 常任委員会の会長は、第二條の事項に關する調査審議の経過及び結果を審議會に報告しなければならない。

第八條 文化財専門審議會議事規則第二條第一項、第三條から第五條まで、第七條から第九條まで及び第十四條の規定は、常任委員会について準用する。

第九條 この規則に定めるもののほか、常任委員会の運営に關し必要な事項は、常任委員会の会長が定める。

文化財専門審議會諮問事項 等取扱規則

(昭和三十年三月十五日)
總 会 決 定

第一條 文化財専門審議會(以下「審議會」といふ)に對する文化財保護委員会(以下「委員会」といふ)の諮問事項及び委員会に對する審議會の建議の取扱については、この規則の定めるところによる。

第二條 審議會に對する委員会の諮問事項で次に掲げるものは、審議會の總会の議決事項とする。

一 国宝及び重要文化財の指定基準の制定改廃

二 特別史跡名勝天然記念物及び史跡名勝天然記念物の指定基準の制定改廃

三 重要民俗資料の指定基準の制定改廃

四 記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗資料の選択基準の制定改廃

五 重要無形文化財の指定及び保持者の認定の基準の制定改廃

六 記録作成等の措置を講ずべき無形文化財の選択基準の制定改廃

七 前各号に掲げる事項のほか、審議會の会長が總會において議決すべきものと認める事項

第三條 審議會に對する委員会の諮問事項

項のうち国宝の指定及びその指定の解除に係るものは、第一分科会及び第二分科会の合同の議決事項とする。ただし、前条第七号の適用がある場合を除く。

2 前項の議決事項が第一分科会及び第二分科会以外の分科会の分掌事項に關連する場合には、審議會の会長が第一分科会会長及び第二分科会会長並びに当該關係分科会会長と協議して指定する三以上の分科会の合同の議決事項とする。

第四條 審議會に對する委員会の諮問事項で次に掲げるものは、分科会の分掌事項に應じて、一の分科会の議決事項又は審議會の会長が關係分科会会長と協議して指定する二以上の分科会の合同の議決事項とする。ただし、第二十五号を除く各号に掲げる事項については、第二條第七号の適用がある場合を除く。

一 重要文化財の指定及びその指定の解除

二 重要文化財(国宝を含む。以下同じ)の管理又は国宝の修理に關する命令

三 委員会による国宝の修理又は滅失、き損若しくは盜難の防止の措置の施行

四 重要文化財の現状変更の許可

五 前号の許可又はその許可の取消の権限の都道府県の教育委員会への委任

六 重要文化財の輸出の許可

- 七 重要文化財の環境保全のための制限若しくは禁止又は必要な施設の命令
- 八 重要文化財の買取
- 九 特別史跡名勝天然記念物又は史跡名勝天然記念物の指定及びその指定の解除
- 十 史跡名勝天然記念物の仮指定の解除
- 十一 史跡名勝天然記念物(特別史跡名勝天然記念物を含む。以下同じ)の管理又は特別史跡名勝天然記念物の復旧に関する命令
- 十二 委員会による特別史跡名勝天然記念物の復旧又は滅失、き損、喪失若しくは盗難の防止の措置の施行
- 十三 史跡名勝天然記念物の現状変更等の許可
- 十四 前号の許可又はその許可の取消の権限の都道府県の教育委員会への委任
- 十五 史跡名勝天然記念物の環境保全のための制限若しくは禁止又は必要な施設の命令
- 十六 史跡名勝天然記念物の無断現状変更等の行われた場合の原状回復の命令
- 十七 重要民俗資料の指定及びその指定の解除
- 十八 重要民俗資料の管理に関する命令
- 十九 重要民俗資料の買取
- 二十 記録作成等の措置を購すべき無

形の民俗資料の選択

二十一 委員会による埋蔵文化財の調査のための発掘の施行

二十二 重要無形文化財の指定及びその指定の解除

二十三 重要無形文化財の保持者の認定及びその認定の解除

二十四 記録作成等の措置を購すべき無形文化財の選択

二十五 前各号に掲げる事項のほか、審議会の会長が分科会において議決すべきものと認める事項

第五号 前二項の議決を行う場合において、分科会は、必要と認めるときは、他の分科会又は他の分科会の部会の意見を求めることができる。

第六号 委員会に対する審議会の建議は、審議会の総会の議決事項とする。

第七号 審議会の総会の議決事項は、関係分科会においてあらかじめ審議するものとする。

第一分科会における部会の設置及び議決事項の取扱に関する規程

(昭和二十九年十一月十九日 第一分科会決定)

第一条 第一分科会に左表上欄に掲げる部会を置き、各部会の分掌事項は、それぞれ同表下欄に掲げるとおりとする。

部会の名称	分掌事項
絵画彫刻部会	絵画又は彫刻である有形文化財に関する事項
工芸品部会	工芸品である有形文化財に関する事項
書跡部会	書跡典籍又は、古文書である有形文化財に関する事項
考古部会	考古資料に関する事項

第二条 左に掲げる第一分科会の議決事項で第一分科会長が緊急に処理することを要すると認めるもの及び文化財専門審議会の会長が第一分科会において議決すべきものと認められた事項のうち第一分科会長が部会において議決すべきものと認めるものは、部会の分掌事項に応じて、一の部会の議決事項又は第一分科会長が部会長と協議して指定する二以上の部会の合同の議決事項とする。

- 一 重要文化財(国宝を含む。以下同じ)の管理又は国宝の修理に関する命令
- 二 重要文化財の輸出の許可
- 三 重要文化財の環境保全のための制限若しくは禁止又は必要な施設の命令
- 四 重要文化財の買取
- 第三条 第一分科会の議決事項は、関係部会においてあらかじめ審議するものとする。

とする。

第三分科会における部会の設置及び議決事項の取扱に関する規程

(昭和二十九年十一月十九日 第三分科会決定)

第一条 第三分科会に左表上欄に掲げる部会を置き、各部会の分掌事項は、それぞれ同表下欄に掲げるとおりとする。

部会の名称	分掌事項
史跡部会	記念物のうち貝塚、古墳、都城跡、城跡、旧宅その他の遺跡に関する事項
名勝部会	記念物のうち庭園、橋りょう、峡谷、海浜、山岳その他の名勝地に關する事項
天然記念物部会	記念物のうち動物(生息地、繁殖地及び渡来地を含む。)、植物(自由地を含む。)、及び地質・鉱物(特異な自然現象の生じている土地を含む。)に関する事項
民俗資料部会	民俗資料に関する事項
埋蔵文化財部会	埋蔵文化財に関する事項

第二条 左に掲げる第三分科会の議決事項で第三分科会長が緊急に処理するこ

とを要すると認めるもの及び第三号に掲げる事項でその程度が軽いもの並びに文化財専門審議会の会長が第三分科会において議決すべきものと認められた事項のうち第三分科会長が部会において議決すべきものと認めるものは、部会の分掌事項に依りて、一の部会の議決事項又は第三分科会長が部会長と協議して指定する二以上の部会の合同の議決事項とする。

一 史跡名勝天然記念物の仮指定の解除

二 史跡名勝天然記念物(特別史跡名勝天然記念物を含む。以下同じ。)の管理又は特別史跡名勝天然記念物の復旧に関する命令

三 史跡名勝天然記念物の現状変更等の許可

四 史跡名勝天然記念物の環境保全のための制限若しくは禁止又は必要な施設の命令

五 史跡名勝天然記念物の無断現状変更等の行われた場合の原状回復の命令

六 重要民俗資料の管理に関する命令

七 重要民俗資料の買取

八 文化財保護委員会による埋蔵文化財の調査のための発掘の施行

第三条 第三分科会の議決事項は、関係部会においてあらかじめ審議するものとする。

第四分科会における部会の設置及び議決事項の取扱に関する規程

(昭和三十一年三月二十六日) 第四分科会 決定

第一条 第四分科会に左表上欄に掲げる部会を置き、各部会の分掌事項は、それと同表下欄に掲げるとおりとする。

部会の名称	分掌事項
芸能部会	無形文化財のうち、音楽、舞踊、演劇その他の芸能に関する事項
工芸技術部会	無形文化財のうち陶芸、染織、漆芸、金工その他の工芸技術及び有形文化財の修理、模写、模造等の技術、規矩術等の建築術その他美術に関する技術に関する事項
技能部会	無形文化財のうち、教養、趣味、嗜好、生活、遊戯その他に関する技能に関する事項

第二条 文化財専門審議会の会長が第四分科会において議決すべきものと認められた事項のうち第四分科会長が部会において議決すべきものと認めるものは、部会の分掌事項に依りて、部会の議決事項とする。

第三条 第四分科会の議決事項は、関係部会においてあらかじめ審議するものとする。

文化財専門審議会委員名簿

会長 藤懸 静也

副会長 原田 淑人

副会長代理 小宮 豊隆

第一分科会 和辻 哲郎

分科会長 藤田 亮策

分科会長代理 瓜生 順良

(臨) 米沢 嘉圃

部会長 田中 一松

部会長代理 相見 繁一

福井利吉郎

藤懸 静也

丸尾彰三郎

安田新三郎

脇本十九郎

和辻 哲郎

神田喜一郎

田沢 坦

(兼) 田中 親美

(兼) 隈元謙次郎

(臨) 工芸品部会

部会長 松田 権六

部会長代理 田沢 坦

明石 国助

尾崎 洵盛

太田 英蔵

河瀬虎三郎

香取 正彦

末永 雅雄

宮形 武次

溝口 三郎

三矢 宮松

(兼) 吉野 富雄

(兼) 石田 茂作

(兼) 後藤 守一

(兼) 末永 雅雄

(兼) 水町和三郎

(兼) 脇本十九郎

書跡部会 部会長 石田幹之助

部会長代理 岩橋小弥太

神田喜一郎

西田 直二

久松 潜一

(臨) 田中 親美

考古部会 部会長(兼) 後藤 守一

部会長代理 八幡 一郎

石田 茂作

末永 雅雄

藤田 亮策

梅原 末治

(兼) 原田 淑人

(兼) 藤島文治郎

分科会 堀口 捨己

分科会長代理 大岡 実

岸田日出刀

古宇田 実

下村 寿一

関野 克

田辺 泰

谷口 吉郎

福山 敏男

村田 治郎

(兼) 田中 一松

(兼)

第三分科会

分科会長
分科会長代理

和辻 哲郎

籙木外岐雄

坂本 太郎
瓜生 順良

(臨・兼)
賀屋 正雄

(臨) 大山 正

(臨) 石谷 憲男

(臨) 福井 政男

(臨) 小出 栄一

(臨) 細田 吉蔵

(臨) 町田 稔

(臨) 武部 英治

史跡部会
部会長
部会長代理

原田 淑人

坂本 太郎

(兼) 石田 茂作

(兼) 梅原 末治

(兼) 後藤 守一

(兼) 長谷部言人

(兼) 藤島亥治郎

(兼) 藤田 亮策

(臨) 沼田 政矩

部会長
部会長代理

本田 正次

渡辺 武男

内田清之助

籙木外岐雄

黒田 長礼

佐竹 義輔

藤本 治義

吉井 義次

辻村 太郎

沼田 政矩

埋蔵文化財部会
部会長(兼)
部会長代理(兼)

藤田 亮策

八幡 一郎

梅原 末治

後藤 守一

長谷部言人

石田 茂作

末永 雅雄

原田 淑人

福山 敏男

分科会長代理
芸能部会
部会長
部会長代理

河竹 繁俊

河竹 繁俊

加藤 成之

久保田万太郎

小宮 豊隆

菌 広茂

高安 六郎

田辺 尚雄

土岐 善麿

中村 祐吉

新関 良三

野々村成三

花柳芳三郎

本田 安次

町田 嘉章

三宅周太郎

西角井正慶

柳田 国男

瓜生 順良

高橋 歳雄

福田 繁

吉川 義男

(兼)

(兼)

(兼)

(兼)

(臨・兼)

(臨)

(臨)

工業技術部会
部会長
部会長代理

西沢 昂一

野口 真造

浜田 象二

水町和三郎

明石 国助

太田 英蔵

香取 正彦

藤懸 静也

松田 権六

宮形 武次

溝口 三郎

(兼) 三矢 宮松

文化財保護委員会事務局内部
組織
(文部省組織令抄)
(昭和二十七年八月三十日)
(政令第三百八十七号)

第二章 文化財保護委員会事務局
(事務局の分課)

第四十九条 文化財保護委員会事務局に
左の六課及び文化財管理官一人を置
く。

一 庶務課

二 会計課

三 記念物課

四 美術工芸課

五 建造物課

六 無形文化課
(庶務課)

第五十条 庶務課においては、左の事務
をつかさどる。

一 文化財保護委員会(以下「委員会」
という。)の機密に関すること。

二 委員会の公印を制定し、並びに委
員長、事務局長及び次長の官印及び
委員会印を管守すること。

三 委員会の組織及び定員に関するこ
と。

四 委員会の職員の職階、任免、給
与、分限、懲戒、服務その他の人事
並びに教養及び訓練に関すること。

五 委員会に関する栄典及び表彰に関

名勝部会
部会長
部会長代理

吉永 義信

辻村 太郎

(兼) 石井 満吉

(兼) 関口鉄太郎

(兼) 龍居松之助

(兼) 谷口 吉郎

(兼) 堀口 捨巳

(兼) 沼田 政矩

天然記念物部会
(臨・兼)

第四分科会
分科会長

久保田万太郎

金田 一京助

今 和次郎

渋沢 敬三

(兼) 西角井正慶

(兼) 柳田 国男

(兼) 田辺 尚雄

(兼) 本田 安次

(兼) 八幡 一郎

すること。

六 委員会の所管に政について総合調整を行うこと。

七 委員会の所掌事務に関する法令案を作成すること。

八 公文書類を審査し、接受し、発送し、編集し、及び保存すること。

九 委員会の所掌事務の監察に関すること。

十 委員会の政策の普及並びに文化財に関する知識の普及及び理解の徹底その他広報に関すること。

十一 委員会の所掌事務に関する会議、研究会その他の催しの主催又はこれらへの参加に関すること。

十二 文化財の保存又は活用に関する条約その他の国際約束の実施及び文化財の保存又は活用のための国際的諸活動に関すること。

十三 地方公共団体の行う文化財の保存及び活用のための措置に関し、教育委員会の報告を受け、及びこれに対し指導と助言を与えること。

十四 都道府県の教育委員会その他の関係機関に対し、委員会の所掌事務に関する一般的、共通的事項について連絡し、及び助言すること。

十五 委員会の所掌事務に関する民法（明治二十九年法律第八十九号）第三十四條に規定する法人に関する事務を処理すること。

十六 委員会に対する異議の申立及び委員会の行う聴聞に関する事務を処理すること。

理すること。

十七 委員会の所掌事務に関する事項の官報掲載に関すること。

十八 委員会及び文化財専門審議会の会議その他庶務に関すること。

十九 国立博物館及び国立文化財研究所に関する事務を処理すること。

二十 委員会の所掌事務で他の所掌に属しない事務を処理すること。

（会計課）

第五十一条 会計課においては、左の事務をつかさどる。

一 委員会の経費及び収入の予算、決算及び会計並びに会計の監査に関すること。

二 行政財産及び物品の管理に関すること。

三 国の所有又は占有に属する重要文化財（国宝を含む。以下第五十三条第一号及び第五十四条第一号の場合を除き同様とする）、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物（特別史跡名勝天然記念物を含む。以下同じ。）の管理について連絡調整すること。

四 委員会の管理する事務所等の營繕に関すること。

五 委員会の職員の衛生、医療その他福利厚生に関すること。

六 委員会の職員の共済組合に関すること。

七 委員会の職員に貸与する国設宿舍に関する事務を処理すること。

八 庁内の取締に関すること。

九 委員会の所掌事務に関する物資の割当及びあつ旋その他物資の確保についての総括に関すること。

（記念物課）

第五十二条 記念物課においては、左の事務をつかさどる。

一 重要民俗資料、史跡、名勝、天然記念物、特別史跡、特別名勝又は特別天然記念物の指定及びその解除に関すること。

二 無形の民俗資料のうち委員会が記録を作成すべきもの又は記録の作成等につき補助すべきものの選択に関すること。

三 重要民俗資料及び史跡名勝天然記念物の管理又は修理若しくは復旧についての命令、勧告、指示及び指揮監督に関すること。但し、建造物課の所掌に属するものを除く。

四 特別史跡名勝天然記念物の復旧及び滅失、き損、盗難又は喪亡の防止の措置の施行に関すること。

五 重要民俗資料の現状変更及び輸出についての届出に関すること。

六 史跡名勝天然記念物の現状変更等の許可及び史跡名勝天然記念物の環境保全のための制限若しくは禁止又は必要な施設の命令に関すること。

七 史跡名勝天然記念物についての原状回復の命令に関すること。

八 重要民俗資料及び史跡名勝天然記念物についての調査並びに史跡名勝天然記念物の調査のために必要な措置の施行に関すること。

九 重要民俗資料及び史跡名勝天然記念物の管理又は復旧についての届出に関すること。

十 重要民俗資料の出品又は公開についての命令、勧告、承認及び届出に関すること。

十一 出品され、又は管理若しくは修理の委託を受けた重要民俗資料の管理又は修理に関すること。

十二 管理又は復旧の委託を受けた史跡名勝天然記念物の管理又は復旧に関すること。

十三 無形の民俗資料の記録の作成等の実施に関すること。

十四 遺跡発見の届出に関すること。

十五 埋蔵文化財に係る土地の発掘に関する届出、指示及び命令に関すること。

置の施行に関すること。

九 重要民俗資料及び史跡名勝天然記念物の管理又は復旧についての届出に関すること。

十 重要民俗資料の出品又は公開についての命令、勧告、承認及び届出に関すること。

十一 出品され、又は管理若しくは修理の委託を受けた重要民俗資料の管理又は修理に関すること。

十二 管理又は復旧の委託を受けた史跡名勝天然記念物の管理又は復旧に関すること。

十三 無形の民俗資料の記録の作成等の実施に関すること。

十四 遺跡発見の届出に関すること。

十五 埋蔵文化財に係る土地の発掘に関する届出、指示及び命令に関すること。

十六 委員会による埋蔵文化財の調査のための発掘の施行に関すること。

十七 埋蔵物として委員会に提出された物件の鑑査に関すること。

十八 埋蔵物として委員会に提出された文化財で国庫に帰属したものの譲与及び譲渡に関すること。

十九 国の所有又は占有に属する重要民俗資料及び史跡名勝天然記念物並びに埋蔵物として委員会に提出された文化財で国庫に帰属したものの管理、修理及び復旧に関すること。

二十 重要民俗資料、選択された無形の民俗資料及び史跡名勝天然記念物

に關する台帳の整備に關すること。

二十一 民俗資料、記念物及び埋蔵文化財に關し、専門的、技術的な指導と助言を与えること。

二十二 有形の民俗資料、記念物及び埋蔵文化財に關する記録、写真、複製及び複製に關すること。

第五十三條 美術工芸課においては、左の事務をつかさどる。

一 建造物以外の有形文化財(以下「美術工芸品」といふ。)としての国宝又は重要文化財の指定及びその解除に關すること。

二 刀剣類の製作承認に關すること。

三 美術品若しくは骨とう品として価値のある火なわ銃式火器又は美術品として価値のある刀剣類の登録に關すること。

四 美術工芸品である重要文化財の管理又は修理についての命令、勧告、指示及び指揮監督に關すること。但し、建造物課の所掌に屬するものを除く。

五 美術工芸品である国宝の修理及び滅失、き損又は盜難の防止の措置の施行に關すること。

六 美術工芸品である重要文化財の出品又は公開についての命令、勧告、承認及び許可に關すること。

七 美術工芸品である重要文化財の現状変更及び輸出の許可並びにその環境保全のための制限若しくは禁止又

は必要な施設の命令に關すること。

八 美術工芸品である重要文化財についての調査に關すること。

九 重要文化財の輸出の禁止の確保に關すること。

十 美術工芸品である重要文化財の管理又は修理についての届出に關すること。

十一 出品され、又は管理若しくは修理の委託を受けた美術工芸品である重要文化財の管理又は修理に關すること。

十二 国の所有又は占有に屬する美術工芸品である重要文化財の管理又は修理に關すること。

十三 美術工芸品に關し、専門的、技術的な指導と助言を与えること。

十四 美術工芸品である重要文化財の管理及び修理に必要な資料を刊行すること。

十五 美術工芸品に關し、専門的、技術的な指導と助言を与えること。

十六 文化財保護法昭和二十五年法律第二百十四号)第百十六條の規定によりなおその効力を有する旧重要美術品等の保存に關する法律(昭和八年法律第四十三号、以下「旧法」といふ。)の施行に關する事務のうち美術工芸品に關するものを処理すること。

(建造物課)

第五十四條 建造物課においては、左の事務をつかさどる。

一 建造物としての国宝又は重要文化財の指定及びその解除に關すること。

二 建造物である重要文化財の管理又は修理についての命令、勧告、指示及び指揮監督に關すること。

三 建造物である国宝の修理及び滅失、き損又は盜難の防止の措置の施行に關すること。

四 建造物である重要文化財の出品又は公開についての命令、勧告、承認及び許可に關すること。

五 建造物である重要文化財の現状変更及び輸出の許可並びにその環境保全のための制限若しくは禁止又は必要な施設の命令に關すること。

六 重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物の管理のための防火施設その他の保存施設に關する命令、勧告、指示及び指揮監督並びに文化財の防火施設その他の保存施設に關する専門的、技術的な指導と助言に關すること。

七 建造物である重要文化財についての調査に關すること。

八 建造物である重要文化財の管理又は修理についての届出に關すること。

九 出品され、又は管理若しくは修理の委託を受けた建造物である重要文化財の管理又は修理に關すること。

十 国の所有又は占有に屬する建造物である重要文化財の管理又は修理に

關すること。

十一 建造物である重要文化財に關する台帳の整備に關すること。

十二 建造物に關し、専門的、技術的な指導と助言を与えること。

十三 建造物に關する記録、写真及び複製に關すること。

十四 旧法の施行に關する事務のうち建造物に關するものを処理すること。

(無形文化課)

第五十五條 無形文化課においては、左の事務をつかさどる。

一 重要無形文化財の指定及びその解除に關すること。

二 重要無形文化財の保持者の認定及びその解除に關すること。

三 重要無形文化財以外の無形文化財のうち委員会が記録を作成すべきもの又は記録の作成等につき補助すべきものの選択に關すること。

四 重要無形文化財の保持者に關する届出に關すること。

五 重要無形文化財についての記録の作成、伝承者の養成その他その保存のための措置の実施に關すること。

六 重要無形文化財の公開及び重要無形文化財の記録の公開についての勧告及び承認に關すること。

七 重要無形文化財の保存に關し、助言と勧告を与えること。

八 無形文化財の記録の作成等の実施に關すること。

九 文化財の修理技術者の養成に關すること。

十 重要無形文化財及び選択された無形文化財に關する台帳の整備に關すること。

(文化財管理官)

第五十六条 文化財管理官は、左の事務をつかさどる。

一 重要文化財についての国庫補助、国庫負担及び損害補償に關すること。

二 重要無形文化財についての国庫補助、国庫負担及び損害補償並びに重要無形文化財以外の無形文化財についての国庫補助に關すること。

三 重要民俗資料についての国庫補助、国庫負担及び損害補償並びに無形の民俗資料についての国庫補助に關すること。

四 史跡名勝天然記念物についての国庫補助、国庫負担及び損害補償に關すること。

五 重要文化財及び重要民俗資料の出品に対する給与金に關すること。

六 重要文化財及び重要民俗資料の買取に關すること。

七 委員会による埋蔵文化財の調査のための発掘の施行に係る損害補償に關すること。

八 埋蔵文化財の発見に対する報償金に關すること。

九 重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物を管理すべき地方

美術関係法規

公共団体その他法人の指定及びその解除に關すること。

十 委員会の権限の委任に關する事務を処理すること。

十一 文化財の保存及び活用に關する一般的統計調査に關すること。

十二 文化財に關する調査研究の委託に關すること。

附則

1 この政令は、昭和二十七年九月一日から施行する。

2 略

文化財保護委員会事務局

局長 岡田 孝平

次長 清水 康平

庶務課長 西森 馨

会計課長 細川 可賀

記念物課長 滝本 邦彦

美術工芸課長 本間 順治

建造物課長 服部 勝吉

無形文化課長 佐藤 薫

文化財管理官 宮沢 武司

東京国立博物館組織規程

(昭和二十六年一月三十一日)
文化財保護委員会規則第四号)

沿革 昭和二十七年文化財保護委員

会規則第二号(第一次改

正) 昭和二十七年文化財保護委

員会規則第九号(第二次改

正)

文化財保護法(昭和二十五年法律第二

百十四号)第二十二條第四項の規定に基

き、東京国立博物館組織規程を次のよう

に定める。

東京国立博物館組織規程

(東京国立博物館の組織)

第一条 東京国立博物館(以下「東京博物館」といふ。)の所掌事務を分掌せしめるため、左の二部を置く。

庶務部

学芸部

(庶務課の分課)

第二条 庶務部に左の三課を置く。

管理課

会計課

普及課

(管理課の所掌事務)

第三条 管理課においては、左の事務をつかさどる。

一 機密に關すること。

二 別に文化財保護委員会から委任を受けた範囲における、職員の人事に關すること。

三 公文書類の接受、発送、編集及び保存に關すること。

四 公印を管守すること。

五 東京国立博物館評議員会に關すること。

六 警備に關すること。

七 翻訳、通訳その他渉外に關すること。

八 他部課の所掌に属さない事務を処理すること。

九 東京博物館の所掌事務の総合調整に關すること。

(会計課の所掌事務)

第四条 会計課においては、左の事務をつかさどる。

一 予算案の準備等予算に關すること。

二 経費及び収入の決算その他会計に關すること。

三 行政財産及び物品の管理に關すること。

四 營繕に關すること。

五 職員福利厚生に關すること。

(普及課の所掌事務)

第五条 普及課においては、左の事務をつかさどる。

一 この館の事業を行うために必要な美術及び歴史に關する知識の普及に關すること。

二 外国人に対しこの館の事業に關する美術及び歴史資料を解説すること。

三 この館の事業に關する出版物の刊行及び頒布に關すること。

四 その他この館の事業の普及宣伝に關すること。

2 普及課が前項各号の事務を行うに當つては、学芸部各課の助言を得、又は学芸部各課と連絡して処理するものとす。

(学芸部の分課)

第六条 学芸部に左の四課を置く。

美術課

工芸課

考古課

二六五

資料課

(美術課の四室及び所掌事務)

第七条 美術課に、美術課の所掌事務を分掌せしめるため、絵画室、彫刻室、書跡室及び建築室の四室を置く。

2 絵画室、彫刻室、書跡室及び建築室の四室は、それぞれ絵画、彫刻、書跡及び建築に関する陳列品の収集、保管、陳列、鑑査、修理、模写、模造、調査研究及び解説に関する事務をつかさどる。

(工芸課の五室及び所掌事務)

第八条 工芸課に、工芸課の所掌事務を分掌せしめるため、金工室、刀剣室、陶磁室、漆工室及び染織室の五室を置く。

2 金工室、刀剣室、陶磁室、漆工室及び染織室の五室は、それぞれ金工、刀剣、陶磁、漆工及び染織に関する陳列品の収集、保管、陳列、鑑査、修理、模写、模造、調査研究及び解説に関する事務をつかさどる。

(考古課の四室及び所掌事務)

第九条 考古課に、考古課の所掌事務を分掌せしめるため、先史室、原史室、有史室及び土俗室の四室を置く。

2 先史室、原史室、有史室及び土俗室の四室は、それぞれ先史考古、原史考古、有史考古及び土俗に関する陳列品の収集、保管、陳列、鑑査、修理、模写、模造、調査研究及び解説に関する事務をつかさどる。

(資料課の五室及び所掌事務)

第十条 資料課に、資料課の所掌事務を分掌せしめるため、庶務室、資料室、図書室及び写真室の四室を置く。

2 庶務室は、学芸部の一般庶務をつかさどる。

3 資料室は、図書以外の資料の収集、整理、保管、閲覧及び調査研究に関する事務をつかさどる。

4 図書室は、図書の収集、整理、保管、閲覧及び調査研究に関する事務をつかさどる。

5 写真室は、写真の作成、収集、整理、保管、閲覧及び調査研究に関する事務をつかさどる。

6 資料課がその所掌事務を行うに当つては、学芸部各課と連絡して処理するものとする。

(館長及び次長)

第十一条 東京博物館に館長及び次長を置く。

2 館長は、館務を総理する。
3 次長は、館長を助けて館務を処理する。

(東京国立博物館評議員会)

第十二条 東京博物館に東京国立博物館評議員会(以下「評議員会」という。)を置く。

2 評議員会は、館長の諮問に応じて、東京博物館の重要事項について調査審議するのほか、東京博物館の重要事項について館長に助言するものとする。

3 評議員会は、二十人以上の評議員で組織する。

4 評議員は、学識経験のあるものより、ちから、文化財保護委員会が任命する。

5 評議員の任期は、二年とする。
6 この規則に定めるものほか、評議員会の議事その他運営に関し必要な事項は、評議員会の議を経て、館長が定める。

附則

この規則は、公布の日から施行し、昭和二十五年八月二十九日から適用する。

附則(第二次改正の附則)
この規則は、昭和二十七年四月一日から施行する。

附則(第二次改正の附則)

この規則は、公布の日から施行し、昭和二十七年八月一日から適用する。

京都国立博物館組織規程

(昭和二十七年三月二十五日)
文化財保護委員会規則第三号)

文化財保護法(昭和二十五年法律第二百四十四号)第二十二條第四項の規定に基づき、京都国立博物館組織規程を次のように定める。

京都国立博物館組織規程

(京都国立博物館の組織)

第一条 京都国立博物館(以下「京都博物館」という。)の所掌事務を分掌させるため、左の二課を置く。

管理課

学芸課

第二条 管理課においては、左の事務をつかさどる。

一 機密に関すること。
二 別に文化財保護委員会から委任を受けた範囲における職員的人事に関すること。
三 公文書類の接受、発送、編集及び保存に関すること。
四 公印を管掌すること。

五 京都国立博物館評議員会に関すること。
六 翻訳、通訳、その他渉外に関すること。
七 予算案の準備等予算に関すること。

八 経費及び収入の決算その他会計に関すること。
九 行政財産及び物品の管理に関すること。

十 営繕に関すること。
十一 職員の福利厚生に政すること。
十二 警備に関すること。
十三 他課の所掌に属さない事務を処理すること。

十四 京都博物館の所掌事務の総合調整に関すること。

(学芸課の五室及び所掌事務)

第三条 学芸課に、学芸課の所掌事務を分掌させるため、左の五室を置く。

普及室
美術室
工芸室
考古室

(管理課の所掌事務)

考古室

資料室

2 普及室においては、この館の事業に
関する出版物の刊行及び頒布、この館
の事業を行うために必要な美術及び歴
史に関する知識の普及その他この館の
事業の普及宣伝に関する事務をつかさ
どる。

3 美術室においては、絵画、彫刻、書
跡及び建築に関する陳列品の収集、保
管、陳列、鑑査、修理、模写、模造、
調査研究及び解説に関する事務をつか
さどる。

4 工芸室においては、金工、刀剣、陶
磁、漆工及び染織に関する陳列品の収
集、保管、陳列、鑑査、修理、模写、
模造、調査研究及び解説に関する事務
をつかさどる。

5 考古室においては、先史考古、原史
考古、有史考古及び土俗に関する陳列
品の収集、保管、陳列、鑑査、修理、
模写、模造、調査研究及び解説に関す
る事務をつかさどる。

6 資料室においては、写真の作製並び
に図書、写真その他資料の収集、整
理、保管、閲覧及び調査研究に関する
事務をつかさどる。
(館長及び次長)

第四条 京都博物館に館長及び次長を置
く。

2 館長は、館務を総理する。

3 次長は、館長を助けて館務を処理す
る。

(京都国立博物館評議員会)

美術関係法規

第五条 京都博物館に京都国立博物館評
議員会(以下「評議員会」という。)を
置く。

2 評議員会は、館長の諮問に依りて、
京都博物館の重要事項について調査審
議するのほか、京都博物館の重要事項
について館長に助言するものとする。

3 評議員会は、十五人以内の評議員で
組織する。

4 評議員は、学識経験のあるものら
ちから、文化財保護委員会が任命す
る。

5 評議員の任期は、二年とする。

6 この規則に定めるもののほか、評議
員会の議事その他運営に関し必要な事
項は、評議員会の議を経て、館長が定
める。

附則

この規制は、昭和二十七年四月一日か
ら施行する。

奈良国立博物館組織規程

(昭和二十七年八月十四日)
文化財保護委員会規程第八号)

文化財保護法(昭和二十五年法律第二
百十四号)第二十二條第四項の規定に基
き、奈良国立博物館組織規程を次のよう
に定める。

奈良国立博物館組織規程

(奈良国立博物館の組織)

第一条 奈良国立博物館(以下「奈良博
物館」という。)の所掌事務を分掌させ
るため、左の二課を置く。

管理課

学芸課

(管理課の所掌事務)

第二条 管理課においては、左の事務を
つかさどる。

一 機密に関すること。
二 別に文化財保護委員会から政任を
受けた範囲における職員の人事に関
すること。

三 公文書類の接受、発送、編集及び
保存に関すること。
四 公印を管掌すること。
五 奈良国立博物館評議員会に関する
こと。

六 内外文化の交流その他国際文化に
関すること。
七 予算案の準備等予算に関するこ
と。
八 経費及び収入の決算その他会計に
関すること。

九 行政財産及び物品の管理に関する
こと。
十 當繕に関すること。
十一 職員の福利厚生に関すること。
十二 警備に関すること。
十三 他課の所掌に属さない事務を処
理すること。

十四 奈良博物館の所掌事務の総合調
整に関すること。

(学芸課の五室及び所掌事務)

第三条 学芸課に、学芸課の所掌事務を
分掌させるため、左の五室を置く。

普及室
美術室

工芸室

考古室

2 普及室においては、この館の事業に
関する出版物の刊行及び頒布、この館
の事業を行うために必要な美術及び歴
史に関する知識の普及その他この館の
事業の普及宣伝に事する事務をつかさ
どる。

3 美術室においては、絵画、彫刻、書
跡及び建築に関する陳列品の収集、保
管、陳列、鑑査、修理、模写、模造、
調査研究及び解説に関する事務をつか
さどる。

4 工芸室においては、金工、刀剣、陶
磁、漆工及び染織に関する陳列品の収
集、保管、陳列、鑑査、修理、模写、
模造、調査研究及び解説に関する事務
をつかさどる。

5 考古室においては、先史考古、原史
考古、有史考古及び土俗に関する陳列
品の収集、保管、陳列、鑑査、修理、
模写、模造、調査研究及び解説に関す
る事務をつかさどる。

6 資料室においては、写真の作成並び
に図書、写真その他資料の収集、整
理、保管、閲覧及び調査研究に関する
事務をつかさどる。
(館長及び次長)

第四条 奈良博物館に館長を置く。館長
は、館務を総理する。

2 奈良博物館に次長を置くことができ
る。次長は、館長を助けて館務を処理

する。

(奈良国立博物館評議員会)

第五條 奈良博物館に奈良国立博物館評議員会(以下「評議員会」といふ)を置く。

2 評議員会は、館長の諮問に応じて、奈良博物館の重要事項について調査審議するのほか、奈良博物館の重要事項について館長に助言するものとする。

3 評議員会は、十五人以上の評議員で組織する。

4 評議員は、学識経験のあるものうちから、文化財保護委員会が任命する。

5 評議員の任期は、二年とする。

6 この規則に定めるもののほか、評議員会の議事その他運営に関し必要な事項は、評議員会の議を経て、館長が定める。

附則

この規則は、公布の日から施行し、昭和二十七年八月一日から適用する。

東京国立文化財研究所組織規程

(昭和二十七年三月二十五日) 文化財保護委員会規則第四号

沿革 昭和二十九年六月二十九日 文化財保護委員会規則第一号(第一次改正)

文化財保護法(昭和二十五年法律第二百十四号)第二十三條第四項の規定に基づき、東京国立文化財研究所組織規程を次のように定める。

東京国立文化財研究所組織規程

(東京国立文化財研究所の組織)

第一條 東京国立文化財研究所の所掌事務を分掌させるため、左の三部及び一室を置く。

美術部
芸能部
保存科学部
庶務室

(美術部の三室及び所掌事務)

第二條 美術部に、美術部の所掌事務を分掌させるため、第一研究室、第二研究室及び資料室の三室を置く。

2 第一研究室においては、わが国の上代、中世及び近世の美術並びに東洋美術の調査研究並びにその結果の公表に關する事務をつかさどる。

3 第二研究室においては、わが国の近代及び現代の美術並びに西洋美術の調査研究並びにその結果の公表に關する事務のほか、黒田記念室に關する事務をつかさどる。

4 資料室においては、美術研究資料の作成、収集、整理、保管、公表及び閲覧並びに美術研究資料に關する写真の作成及びその原板の保管並びにエツクス線写真、赤外線写真、紫外線写真その他の特殊写真による美術の研究に關する事務をつかさどる。

(芸能部の三室及び所掌事務)

第三條 芸能部に、芸能部の所掌事務を

分掌させるため、演劇研究室、音楽舞踊研究室及び郷土芸能研究室の三室を置く。

2 演劇研究室においては、演劇及びその保存に關する調査研究並びにその結果の公表に關する事務をつかさどる。

3 音楽舞踊研究室においては、音楽及び舞踊並びにその保存に關する調査研究並びにその結果の公表に關する事務をつかさどる。

4 郷土芸能研究室においては、郷土芸能及びその保存に關する調査研究並びにその結果の公表に關する事務をつかさどる。

(保存科学部の三室及び所掌事務)

第四條 保存科学部に、保存科学部の所掌事務を分掌させるため、化学研究室、物理研究室及び生物研究室の三室を置く。

2 化学研究室においては、文化財及びその保存に關する化学的及び分析的調査研究並びにその結果の公表に關する事務をつかさどる。

3 物理研究室においては、文化財及びその保存に關する物理学的調査研究並びにその結果の公表に關する事務をつかさどる。

4 生物研究室においては、文化財及びその保存に關する生物学的調査研究並びにその結果の公表に關する事務をつかさどる。

(庶務室の所掌事務)

第五條 庶務室においては、左の事務を

つかさどる。

一 別に文化財保護委員会から委任を受けた範囲における職員の人事に關すること。

二 公文書類の接受及び公印の管守その他庶務に關すること。

三 経費及び収入の予算、決算その他會計に關すること。

四 行政財産及び物品の管理に關すること。

五 職員福利厚生に關すること。

附則

1 この規則は、昭和二十七年四月一日から施行する。

2 美術研究所組織規程(昭和二十六年文化財保護委員会規則第五号)は、廃止する。

附則

この規則は、昭和二十九年七月一日から施行する。

奈良国立文化財研究所組織規程

(昭和二十七年三月二十五日) 文化財保護委員会規則第五号

沿革 昭和二十九年六月二十九日 文化財保護委員会規則第一号(第一次改正)

文化財保護法(昭和二十五年法律第二百十四号)第二十三條第四項の規定に基づき、奈良国立文化財研究所組織規程を次のように定める。

奈良国立文化財研究所組織規程

(奈良国立文化財研究所の組織)

第一条 奈良国立文化財研究所の所掌事務を分掌させるため、左の四室を置く。

美術工芸研究室

建造物研究室

歴史研究室

庶務室

(美術工芸研究室の所掌事務)

第二条 美術工芸研究室においては、絵画、彫刻、工芸品、書跡その他建造物以外の有形文化財並びに工芸技術に関する調査研究並びにその結果の普及及び活用に関する事務をつかさどる。

(建造物研究室の所掌事務)

第三条 建造物研究室においては、建造物に関する調査研究並びにその結果の普及及び活用に関する事務をつかさどる。

(歴史研究室の所掌事務)

第四条 歴史研究室においては、考古及び史跡に関する調査研究並びにその結果の普及及び活用に関する事務をつかさどる。

(庶務室の所掌事務)

第五条 庶務室においては、左の事務をつかさどる。

- 一 別に文化財保護委員会から委任を受けた範囲における職員の人事に關すること。
- 二 公文書類の接受及び公印の管守その他庶務に關すること。
- 三 経費及び収入の予算、決算その他

会計に關すること。

四 行政財産及び物品の管理に關すること。

五 職員福利厚生に關すること。

附則

この規則は、昭和二十七年四月一日から施行する。

附則

この規則は、昭和二十九年七月一日から施行する。

文部省社会教育局芸術課

文部省組織令(抄)

(昭和二十七年八月三十日)
政令第三百八十七号

(社会教育局の分課)

第二十三条 社会教育局に左の五課を置く。

一 社会教育課

二 体育課

三 芸術課

四 視聴覚教育課

五 著作権課

(芸術課)

第二十七条 芸術課においては、左の事務をつかさどる。

一 文学、音楽、美術、演劇その他の芸術及び国民娯楽に關し、左に掲げる事務を行うこと。

イ 情報、資料の収集及び利用に關すること。

ロ 研究会、講習会、展示会その他の催しの主催又はこれらへの参加に關すること。

ハ 向上及び普及のための援助と助言に關すること。

二 国立近代美術館及び日本芸術院に關し、予算案の準備その他の他部局に屬しない事務を処理すること。

三 芸術に關する団体との連絡に關すること。

附則

1 この政令は、昭和二十七年九月一日から施行する。

2 略

国立近代美術館

国立近代美術館関係
文部省設置法抜萃

文部省設置法(抄)

(昭和二十四年五月三十一日)
法律 第一四六号

第二章 本省

第一節 内部部局

(社会教育局の事務)

第十条 社会教育局においては、左の事務をつかさどる。

一 国立科学博物館、国立近代美術館及び日本芸術院に關し、予算案の準備その他の他部局に屬しない事務を行うこと。

(以下省略)

第二節 国立の学校その他の機関

(国立の学校等)

第十四条 第二十六条及び第二十七条に規定するもののほか、文部大臣の所轄の下に、国立の学校及び左の機関を置く。

日本ユネスコ国内委員会

国立教育研究所

国立科学博物館

国立近代美術館

緯度観測所

統計数理研究所

国立遺伝学研究所

国立国語研究所

日本芸術院

(評議員会)

第十五条 前条の機関のうち、国立教育研究所、国立科学博物館、国立近代美術館、統計数理研究所及び国立遺伝学研究所にそれぞれ評議員会を置く。

2 評議員会は、それぞれの機関の事業計画、経費の見積、人事その他の運営管理に關する重要事項について、それぞれの機関の長に助言する。

3 それぞれの機関の長は、評議員会の推薦により、文部大臣が任命する。

4 評議員会は、二十人以内の評議員で組織する。

5 評議員は、学識経験のある者のうちから、文部大臣が任命する。

6 評議員の推薦、任期その他評議員会の組織及び運営の細目については、政令で定める。

(国立近代美術館)

第二十条 国立近代美術館は、近代美術に關する作品その他の資料を収集、保管して公衆の観覧に供し、あわせてこれに關する調査研究及び事業を行う

機関とする。

2 国立近代美術館は、東京都に置く。

3 国立近代美術館の内部組織は、文部省令で定める。

附則

1 この法律は、昭和二十四年六月一日から施行する。

(以下省略)

文部省設置法施行規則(抄)

(昭和二十八年二月十三日 文部省令第二号)

第三章 所轄機関

第四節 国立近代美術館

(館長及び次長)

第四十五条 国立近代美術館に館長及び次長を置く。

一 館長は、館務を掌理する。

二 次長は館長を助け、館務を整理する。

(内部組織)

第四十六条 国立近代美術館に左の二課を置く。

一 庶務課

二 事業課

(庶務課)

第四十七条 庶務課においては、左の事務をつかさどる。

一 職員の仕事に関する事務を処理すること。

二 職員の衛生、医療及び福利厚生に関する事務を処理すること。

三 公文書類を接受し、発送し、編集し、及び保存すること。

四 公印を管掌すること。

五 国立近代美術館の所掌事務に關し、連絡調整すること。

六 国立近代美術館評議員会に關すること。

七 予算に關する事務を処理すること。

八 経費及び収入の決算その他會計に關する事務を処理すること。

九 行政財産及び物品の管理に關する事務を処理すること。

十 展示会の保全の爲の警備に關すること。

十一 庁内の取締に關すること。

十二 前各号に掲げるものの外、他の所掌に屬しない事務を処理すること。

(事業課)

第四十八条 事業課においては、左の事務をつかさどる。

一 近代美術に關する作品その他の資料を収集し、保管し、展示し、解説し、及び修理すること。

二 前号に掲げる資料を館外で展示すること。

三 近代美術に關し、専門的な調査研究を行うこと。

四 近代美術に關する出版物等を作成し、及びこれらを刊行、頒布する等利用に供すること。

五 近代美術に關する展覧会、講演会、講習会、映写会、研究会等の催しを企画し、及び実施すること。

六 第一号に掲げる資料の利用に關し、内外の美術館、博物館、その他関係団体等と連絡協力して、刊行物、情報の交換等の相互援助を行うこと。

附則

1 この省令は、公布の日から施行し、昭和二十八年一月一日から適用する。

2 左に掲げる省令は、廃止する。

(前略)

六 国立近代美術館組織規程(昭和二十七年文部省令第二十一号)

(後略)

3 略

文部省組織令(抄)

(昭和二十七年八月三十日 政令第三百八十七号)

第一章 本省の内部部局

第四節 社会教育部

第二十七条 芸術課においては、左の事務をつかさどる。

(芸術課)

一 (省略)

二 国立近代美術館及び日本芸術院に關し、予算案の準備その他の他部局に屬しない事務を処理すること。

三 (省略)

附則

1 この政令は、昭和二十七年九月一日から施行する。

2 (省略)

文部省所轄機関評議員会令(抄)

(昭和二十四年七月十八日 政令第二百七十四号)

第三章 国立近代美術館評議員会(所掌事務)

第十二条 国立近代美術館に置かれる評議員会(以下「国立近代美術館評議員会」という)は、左に掲げる事項に關して審議し、国立近代美術館長に助言する。

一 国立近代美術館の行い毎年の事業の計画

二 国立近代美術館の行い事業の経費その他国立近代美術館の運営に必要な経費の見積

三 国立近代美術館の人事その他の運営管理に關する重要事項

(組織)

第十三条 国立近代美術館評議員会は、評議員二十人以内で組織する。

第十四条 第一条第二項から第四項まで、第二条第二項及び第三条から第九条までの規定は、国立近代美術館評議員会に準用する。

附則

1 この政令は、公布の日から施行する。(以下省略)

国立近代美術館評議員会運営規則

(昭和二十八年三月二十四日 国立近代美術館評議員会決定)

第一条 文部省所轄機関評議員会令(昭

和二十八年三月二十四日 国立近代美術館評議員会決定)

第一条 文部省所轄機関評議員会令(昭

和二十八年三月二十四日 国立近代美術館評議員会決定)

第一条 文部省所轄機関評議員会令(昭

和二十八年三月二十四日 国立近代美術館評議員会決定)

第一条 文部省所轄機関評議員会令(昭

和二十八年三月二十四日 国立近代美術館評議員会決定)

第一条 文部省所轄機関評議員会令(昭

和二十八年三月二十四日 国立近代美術館評議員会決定)

和二十四年七月十八日政令第二百七十四号)に規定するものの外、国立近代美術館評議員会(以下「評議員会」といふ)の議事その他運営に関し必要な事項は、この規則の定めるところによる。

第二条 会長は、会議の会長となり、議事を整理する。

第三条 発言しようとする者は、議長の許可を受けなければならない。

第四条 国立近代美術館長に対する助言の案を提出しようとする者は、案を作り、三人以上の賛成者と連署して、会長に差し出さなければならない。

第五条 動議は、賛成者がなければ、議題とすることができない。

第六条 議事の採決は、起立又は挙手によつて行ふ。但し議決により、記名投票又は無記名投票によつて行ふことができる。

第七条 評議員会に、幹事及び書記を置くことができる。

2 幹事及び書記は、国立近代美術館職員のうちから国立近代美術館長が任命する。

第八条 この規則に定めるものの外、評議員会の運営に関し必要な事項は、評議員会の承認を経て、会長が定める。

附則
この規則は、公布の日から施行し、昭和二十七年九月一日から適用する。

美術関係法規

(運営委員会)
第一条 国立近代美術館(以下「館」といふ)の事業運営等について協議するため、館に運営委員会を置く。

(議長)
第二条 運営委員会の議事を掌理するため、運営委員会に議長を置く。

2 議長は、館長をもつてあてる。

3 館長に事故があるときは、次長が館長の職務を代理する。

(運営委員)
第三条 運営委員会に運営委員十五人以上を置く。

2 運営委員は、学識経験ある者のうちから館長が委嘱する。

3 館長は、特に必要と認めるときは、臨時に運営委員を委嘱することができる。

4 次長は、運営委員会に出席して、議事に参加することができる。

(分科会)
第四条 運営委員会は、館の事業運営上、特に必要と認めるときは、運営委員会の下に、分科会を設けることができる。

2 分科会の委員は、運営委員のうちから館長が委嘱する。

3 次長は、分科会の議長となる。

4 次長に事故があるときは、事業課長が館長の職務を代理する。

(資料の提出及び説明)

第五条 運営委員会及び分科会は、議事の必要により、館職員に資料の提出及び説明を求めることができる。

第六條 運営委員会の庶務は、館が掌る。

(その他)
第七條 前各条に規定する事項の外、運営委員会について必要な事項は、館長が運営委員会と協議して定める。

日本芸術院

明治四十年勅令第二百二十号をもつて美術審査委員会官制が制定され、これに基づき毎年文部省美術展覧会を開催し、美術審査委員会は美術展覧会の出品を審議した。大正八年に本官制が廃止され、新たに勅令第四百十七号をもつて帝國美術院規定が制定された。帝國美術院は文部大臣の管理に属し美術の発達を裨補することを目的とし、文部大臣の諮詢に依り、美術に関する意見を開申し、その他美術に関する重要事項を建設する機関であつた。

昭和十年勅令第四百十七号をもつて帝國美術院官制が新たに制定され、帝國美術院規定は廃止された。

昭和十二年勅令第二百八十号をもつて帝國芸術院官制が新たに制定され、美術部門の他に文学及び音楽の兩部門が加えられ、同時に帝國美術院官制を廃止された。

昭和二十二年政令第二百五十四号をもつて帝國美術院は日本芸術院と名称が変更され、昭和二十四年六月一日政令第二百八十一号をもつて日本芸術院令が制定せられ、日本芸術院官制は廃止されて今日に至つてゐる。

(文部省設置法抜萃)
第二節 国立の学校その他の機関
(国立の学校等)

第十四条 第二十六条及び第二十七条に規程するもののほか、文部大臣の所轄の下に、国立の学校及び左の機関を置く。

日本ユネスコ国内委員会
国立科学博物館
国立近代美術館
緯度観測所
統計数理研究所
国立遺伝学研究所
国立国語研究所
日本芸術院

(日本芸術院)
第二十五条 日本芸術院は、芸術上の功績顯著な芸術家を優遇するために置かれる機関とする。

2 日本芸術院会員には、予算の範囲内で、文部大臣の定めるところにより、年金を支給することができる。

3 日本芸術院の内部組織、会員その他職員及び運営については、政令で定める。

附則
この法律は、昭和二十四年六月一日

附則
この法律は、公布の日から施行し、昭和二十七年九月一日から適用する。

附則
この法律は、公布の日から施行し、昭和二十七年九月一日から適用する。

から施行する。

2 左の勅令及び政令は廃止する。但し、法律(これに基づく命令を含む。)に別段の定がある場合を除くほか、従前の機関及び職員は、この法律に基づく相当の機関及び職員となり、同一性をもつて存続するものとする。

文部省官制(昭和十七年勅令第七百四十八号)

日本芸術院官制(昭和十二年勅令第二百八十号)

日本芸術院令

(昭和二十四年六月一日政令第二八一号)

内閣は、文部省設置法(昭和二十四年法律第四百十六号)第二十三条第三項の規定に基づき、この政令を制定する。

(日本芸術院の目的)

第一条 日本芸術院は、芸術上の功績顕著な芸術家を優遇するための榮譽機関とする。

2 日本芸術院は、芸術に関する重要事項を審議し、芸術の発達に寄与する活動を行い、及び芸術に関する重要事項について文部大臣に建議することができる。

(組織)

第二条 日本芸術院は、院長一人及び会員百人以内で組織する。

2 日本芸術院に左の三部を置く。

第一部 美術

第二部 文芸

第三部 音楽、演劇、舞踊

3 会員は、いずれかの部に分属する。

第三条 会員は、部会が推薦し、総会の承認を経た候補者につき、院長の申出により、文部大臣が任命する。

2 前項の部会の推薦する者は、部会において芸術上の功績顕著な芸術家につき選挙を行い、部会員の過半数の投票を得た者とする。

3 前項の投票において、病氣その他の事故のため出席できない者は、郵便その他の方法により投票することができ

る。第四条 会員は、終身とする。但し、会員が、退任を申し出た場合には、総会の承認を経てこれを認めることができる。

第五条 院長は、芸術に關し卓越した識見を有する者につき、会員の選挙により、過半数の投票を得た者を、文部大臣が、任命する。

2 前項の場合において、過半数の得票者のないときは投票の最多数を得た者一人につき、更に会員が投票を行い、多数の得票を得た者をもつて当選者とする。但し、得票数が同数のときは年長者をもつて当選者とする。

3 第三条第三項の規定は、前一項の選挙に準用する。

4 院長の任期は、三年とする。

5 院長は、非常勤とする。

6 院長は、院務を総理する。

7 院長に事故があるときは、部長のうち最年長者がその職務を代理する。

第六条 各部に属する会員により部長として互選された者は、各部の部務を掌理する。

2 部長は、三年ごとに改選する。

(会議)

第七条 日本芸術院の会議は、總會、部会及び連合部会とする。

2 總會は、年一回、院長が招集する。但し、必要があるときは、臨時にこれを招集することができる。

3 部会は、部長が招集する。

4 連合部会は、關係する部の部長の申出により、院長が招集する。

5 總會は、会員の過半数が出席しなければ、議決をすることができない。但し、あらかじめ通知した議題について、書面をもつて意思を表示した者は、その議題に限り、出席したものと認めることができる。

6 總會の議決は、出席した会員の多数による。

7 前一項の規定は、部会及び連合部会の会議に準用する。

(職員)

第八条 日本芸術院に事務長一人及びその他の職員五人以内を置く。

2 事務長は、院長の指揮をうけ、日本芸術院に關する庶務を整理し、その他の職員は、上司の指導をうけ、庶務に従事する。

(雜則)

第九条 この政令の定めるもののほか、日本芸術院の運営に關し必要な事項

は、總會の議を経て院長が定める。

附則

この政令は、公布の日から施行し、昭和二十四年六月一日から適用する。

日本芸術院會則

(昭和二十五年五月三十日總會決議)

第一条 日本芸術院各部の定員は、左に掲げる通りとする。

第一部 美術 五十名以内

第二部 文芸 三十名以内

第三部 音楽、演劇、舞踊 二十名以内

第二条 各部に左の分科を置く。

第一部 美術

第一分科 日本画

第二分科 洋画

第三分科 彫塑

第四分科 工芸

第五分科 書畫

第六分科 建築

第二部 文藝

第七分科 小説、戯曲

第八分科 詩歌

第九分科 評論、翻訳

第三部 音楽、演劇、舞踊

第十分科 洋楽

第十一分科 邦楽(能楽及び雅楽を含む)

第十二分科 演劇(人形劇及び映画を含む)

第十三分科 舞踊(洋舞及び邦舞を含む)

第三条 日本芸術院会員の候補者を選考

するため、日本芸術院に日本芸術院会
員選考委員会を置く。

2 前項の委員会については、日本芸術
院会員選考委員会規則の定めるところ
による。

第四条 日本芸術院は卓越した芸術作品
と認められるものを製作した者及び芸
術の進歩に貢献する顕著な業績ありと
認める者に対して賞を授ける。

2 前項の授賞については、日本芸術院
授賞規則の定めるところによる。

第五条 院長は、総会及び連合部会の議
長となり議事を整理する。

2 部長は、部会の議長となり、議事を
整理する。

3 総会、部会又は連合部会の議事が、
可否同数のときは、議長の決するこ
ろによる。

第六条 一の部において、その部に属す
る会員の三分一以上の請求があるとき
は、その部の部長は部会を招集しなけ
ればならない。

2 二の部において、それらの部に属す
る会員の各三分の一以上の請求がある
ときは、院長は、連合部会を招集しな
ければならない。

第七条 部会または連合部会の議長は、
必要があると認めるときは、他の部に
属する会員中適当な者を指名して部会
または連合部会に出席を求め、その意
見を求めることができる。

第八条 会議を公開するか否かは、その
部度これを定める。

美術関係法規

第九条 この会則の改正は、総会の議決
がなければ行ふことができない。

日本芸術院会員選考委員会規則

昭和二十五年五月三十日
総会決議
昭和二十八年五月二十六日
改訂
昭和二十九年五月二十一日
改訂
昭和二十九年五月二十一日
改正

第一条 日本芸術院令(昭和二十四年六
月一日政令第二八一号)第三条第二項
の規定による部会の行い選挙の候補者
(以下「候補者」といふ)を選考する
ため、日本芸術院に、日本芸術院会員
候補者選考委員会(以下「委員会」とい
ふ)を置く。

第二条 委員会は、三十人以内の委員を
もつて組織し、委員の任期は一年とす
る。但し、再選を妨げない。

2 委員に欠員を生じたときは、各部に
おいて予め定めた順位に従い委員を補
充する。

3 補充委員の任期は、前任者の残任期
間とする。

4 委員会に美術、文芸及び芸能の三選
考部会を置く。

第三条 日本芸術院の各部会員はその互
選により、各々十人以内の委員を選出
する。

第四条 日本芸術院長は、委員会の委員
長として、その会務を総理する。

2 委員長に事故があるときは、出席委
員により、代理委員長として互選され
たものが、委員長の職務を代理する。

第五条 委員会は、委員の過半数が出席
しなければ議事を開き、議決すること
ができない。但し、委員はやむを得な
い事情があるときは、自己の属する部
会の他の委員に、議決権を委任するこ
とができる。

2 前項の規定は、部会の議事に準用す
る。

第六条 日本芸術院会員は、その所属す
る部会に属すべき候補者を当該選考部
会に対し推薦することができる。

第七条 選考部会は、推薦された候補者
につき、選考に必要な調査をしなけれ
ばならない。

2 選考部会は、推薦者及び被推薦者に
対し、選考に必要な資料の提出を求め
ることができる。

3 選考部会は、日本芸術院会員、会員
以外の学識経験者等適当なる者から、
候補者の選考に関し、意見を聴取する
ことができる。

第八条 各選考部会は、被推薦者につ
き、その調査にもとづく調査書を作成
し、順位を附して委員会に報告しなけ
ればならない。

2 委員会は、選考部会の報告にもとづ
き、候補者に推薦された者について、
補充すべき会員数だけの無記名連記投
票を行う。

3 前項の場合各部の投票数は同数とな
るより取り計い、また候補者が属すべ
き部会の委員の投票は二倍に計算する
ものとする。

第九条 委員会は、前条の選挙により、
出席委員の過半数の得票を得た者を当
選者とする。但し、過半数の得票者が
各部につき、その部にて補充すべき会
員数の二倍をこえるときは、その限度
に達するまで、得票順によつて候補者
を決定する。各部につき、過半数の得
票者のない場合は、最高点者と次点者
につき、決戦投票を行い、過半数を得
た者を当選者とする。

第十条 委員会は、候補者を決定した後
選考部会の報告にもとづいて審査報告
書を作成しなければならぬ。

2 前項の報告書には各被推薦者につい
て、選考部会の決定した順位及び委員
会の得票数を記載しなければならぬ。

第十一条 委員会は、前条の規定により
作成した審査報告書を日本芸術院の各
部長に提出するものとする。日本芸術
院の各部は前項の審査報告書に記載さ
れた候補者について選挙を行う。

日本芸術院授賞規則

昭和二十五年五月三十日
総会決議
昭和二十八年五月二十六日
改訂
昭和二十九年五月二十一日
改訂
昭和二十九年五月二十一日
改正

第一条 日本芸術院は、卓越した芸術作
品及び芸術の進歩に貢献する顕著な業
績ありと認める者に対して授賞する。

第二条 賞は、恩賜賞及び日本芸術院賞
とする。

2 恩賜賞は、毎年一個とし、もしその年度内に授与しないときは、繰越して授与することができる。

第三条 賞は、賞状及び賞金とする。

第四条 賞は、日本藝術院会員でない者に授ける。但し擬賞の決議があつた後会員となつた者は此の限りでない。

第五条 授賞は、日本芸術院会員の推薦による。

2 日本芸術院会員が授賞の推薦をしよるとするときは、その所属する分科に属すべき候補者を毎年十二月その所属の部会に提議しなければならない。

3 前項の提議があつた場合は、部会は各部会員により互選された委員をもつて組織する授賞候補者選考委員会(以下委員会という)において授賞候補者又は授賞候補作品の選考審査を行う。

4 委員は、各部より十名以内互選するものとする。委員の任期は一年とする。但し再選は妨げない。

5 委員会は、選考審査につき必要ある場合は、委員以外の日本芸術院会員又は学識経験者の意見を徴することができる。

第六条 委員会の議決は多数決による。

第七条 委員会は、選考並びに審査の経過及び結果を部会に報告しなければならない。

第八条 部会における擬賞の議決には、投票総数の過半数の賛成を要する。

第九条 前条の規定によつて擬賞の議決のあつたときは、部長は部会における

結果について総会に報告しその承認を得なければならない。

第十条 擬賞の議決については、投票は無記名とする。

2 病氣その他の事故で出席することができないものは、封書で投票することができる。

第十一条 賞を受けた者は、受賞の目的である作品又は著書にその旨を表示することを要する。

第十二条 擬賞の議決があつた後、賞を受くべき者が死亡した場合には、日本藝術院に授賞の旨を告示しその者に授くべき賞の処分を定める。

日本芸術院年金支給規則

(昭和二十五年五月三十日 議決)

第一条 年金は区分して六月、九月、十月、三月の四期にこれを支給する。

第二条 年金を支給する場合は、初年度において、その発令が六月三十日以前にある者は全額を、九月三十日以前にある者はその四分の三を、十二月三十一日以前にある者はその二分の一を、三月三十一日以前にある者はその四分の一を支給する。

2 年金受領者が死亡した場合の支給額は、その月の属する支給期分までとする。

日本芸術院会員

院長

昭和二三、八、一一 高橋誠一郎

第一部 会員
昭和一二、六、二四 楠木 健一(清方)
昭和一二、六、二四 川合芳三郎(玉堂)
昭和一二、六、二四 小林 茂(古徑)
昭和一二、六、二四 西山卯三郎(翠嶂)
昭和一二、六、二四 前田 廉造(青邨)
昭和一二、六、二四 松林 篤(桂月)
昭和一二、六、二四 結城 貞松(素明)
昭和一二、六、二四 安田新三郎(綱彦)
昭和一二、六、二四 福田平八郎
昭和一二、六、二四 奥村 義三(土牛)
昭和一二、六、二四 野田 道三(九浦)
昭和一二、六、二四 小野 英吉(竹喬)
昭和一二、六、二四 中村 恒吉(岳陵)
昭和一二、六、二四 堂本三之助(印象)
昭和一二、六、二四 山口 三郎(蓬春)
昭和一二、六、二四 有島壬生馬(生馬)
昭和一二、六、二四 石井 満吉(柏亭)
昭和一二、六、二四 梅原龍三郎
昭和一二、六、二四 小杉国太郎(放庵)
昭和一二、六、二四 中沢 弘光
昭和一二、六、二四 山下新太郎
昭和一二、六、二四 和田 英作
昭和一二、六、二四 和田 三造
昭和一二、六、二四 辻 永

昭和一二、六、二四 須田国太郎
昭和一二、六、二四 川島理一郎
昭和一二、六、二四 中村 研一
昭和一二、六、二四 朝倉 文夫
昭和一二、六、二四 北村 西望
昭和一二、六、二四 斎藤 知雄
昭和一二、六、二四 佐藤 清蔵
昭和一二、六、二四 内藤 伸

昭和一二、六、二四 平橋倅太郎(田中)
昭和一二、六、二四 藤井 浩佑
昭和一二、六、二四 石井 鶴三
昭和一二、六、二四 吉田 三郎
昭和一二、六、二四 板谷 嘉七(波山)
昭和一二、六、二四 清水 六和
昭和一二、六、二四 松田 権六
昭和一二、六、二四 高村 豊周
昭和一二、六、二四 岩田 藤七
昭和一二、六、二四 尾上 八郎(柴舟)
昭和一二、六、二四 豊道 慶中(春海)
昭和一二、六、二四 吉田五十八
昭和一二、六、二四 村野 藤吾

第二部、第三部 会員略
(昭三一年現在)

日本美術展覧会

日本美術展覧会運営会規則
第一条 本会は、日本美術展覧会運営会と称し、事務所を日本芸術院(文部省内)に置く。

第二条 本会は、日本芸術院に協力して、日本美術展覧会を開催することを目的とする。

第三条 本会は、日本芸術院第一部会員をもつて組織する。

第四条 本会に左の役員を置く。

第五条 会長は、日本芸術院長をもつてこれに充てる。

会長は、本会を代表し、会務を総理する。

会長は、理事会の議長となる。

第六条 理事は会員の選互によつてこれを定め、理事会を構成する。

理事中若干名を常任理事とし、会長これを依頼する。

会長事故あるときは、その指定した常任理事これを代理する。

理事の任期を二年とし、毎年その半数を交替する。

第七条 理事会は、会長これを招集する。理事は本会の運営上重要な事項を審議する。

理事会は全員の半数以上出席しなければ議決をなすことができない。但し、会議に出席することのできない者は、予め通知された事項について書面をもつて表決をなし、又は委任状を提出することにより他の理事を代理人とすることが出来る。

理事会の議事は出席者の過半数をもつてこれを決する。可否同数のときは、議長が決する。

第八条 本会に参事若干名を置く。参事は、日本美術展覧会の運営に關し、会長の諮問に應ずる。

参事の任期は二年とする。ただし留任を妨げない。

第九条 本会の事務を処理するための事務局を置く。

第十三回日本美術展覧会規則

第一章 総則

第一条 日本美術展覧会は、日本芸術院と日本美術展覧会運営会(以下日展運営会という)が開催する。

第二条 展覧会は、作品の種類に依つて

左の五科に分け、各科の総合展覧会とする。

第一科 絵画(日本画)

第二科 絵画(油画、水彩画、バス、テル画、素描、創作版画)

第三科 彫塑

第四科 美術工芸

第五科 書(漢字、仮名、調和体、てん刻)

第三条 陳列する作品は審査して決定する。

但し左の各号の一に該当するものの専門技術による作品は、前項の規定にかかわらず、無審査で陳列することが出来る。

専門技術の種類は前条の科別による。但し第四科においては第九条に定める九種類とする。

一、日本芸術院会員

二、日展運営会参事

三、当該年度審査員

四、前年度審査員

五、本展覧会に出品を依頼されたものの

六、前年度特選受賞者

審査を経て陳列された作品及び前項第六号に規定する作品については、審査の上特選として授賞することが出来る。なお、その他の賞を授与することがある。

第四条 審査、審査及び陳列のため審査員長及び審査員を置く。

審査員は、日本芸術院会員の一部、日展運営会参事の一部及び本展覧会に出品を依頼された者等の中から日本芸術

院会員が選考したものにつき、日本芸術院長がこれを依頼する。審査員の各員数は、第一科十五名、第二科二十五名、第三科十五名、第四科二十名、第五科十八名以内とする。

第五条 審査員は、その専門によつて第一科から第五科に分属し、その属する科の作品について審査及び審査を行う。各科の審査員はその互選によつて審査主任を決定する。各科の審査主任はその互選または推薦によつて審査員長を決定する。

第六条 本展覧会に出品を依頼されるものは、日本芸術院会員が特に優秀な作家と認められたものの中から選考したものに、日本芸術院長が指名する。(出品を依頼されるものの指名は、毎年これをおこなう)

その員数は第一科五十四名、第二科四十八名、第三科五十五名、第四科四十九名、第五科二十五名以内とする。

第二章 出品

第七条 出品作品は自己の製作したものに限り、出品作品とは無審査出品作品及び応募作品をいう。(以下作品と称す)故人(無審査)の製作したものはその遺族において、運営会の承認を経てこれを出品することが出来る。

第八条 第三科の作品で原型製作者と実材製作者とが異なるときは原型製作者をその出品人とする。

第四科の作品で協同製作であるときは、その代表製作者一名を出品人とする。この場合には、代表製作者は協同

製作者の氏名を附記することが出来る。

第九条 作品は各科ともに一点とする。但し第四科の作品については、種類を異にする場合に限り、二点まで出品することが出来る。

出品の種類は次の通りとする。

(イ)漆器、(ロ)陶器、(ハ)彫鍍金、(ニ)鍍金、(ホ)染織、(ヘ)ガラス、(ト)木竹、(チ)人形、(リ)その他。

第十条 作品の大きさ(額とも)および重量の制限を次の通りとする。

第一科は縦六尺五寸、横四尺五寸以内。重量は六貫目以内とする。

第二科はF六十号以内、但し会員、参事、審査員、前審、出品依頼についてはF五十号とする。

第三科は頭像は等身大まで、全身像は半身以内、トルソーは等身の三分の二以内、その他は之に準ず。群像、浮彫、動物等は縦、横、奥行の最長を三尺三寸までとする。

第四科は台その他附属物共(イ)巾四尺×高さ七尺以内、(ロ)縦、横一尺五寸角×高さ五尺以内、重量は十五貫目以内とする。

第五科は仕上り寸法(イ)六尺五寸×二尺以内(ロ)三尺×五尺以内(ともに縦・横随意)の二種とする。

第十一条 左に掲げる作品は提出することが出来ない。

一、製作後五年以上経たしたもの

二、既に公募の展覧会に出陳したことがあるもの

第十二条 作品はすべて所定書式の申込

書に所定の手数料五百円を添えて公示の場所に搬入しなければならぬ。既納の手数料は返付しない。作品に題名及び出品人氏名を明示しなければならぬ。

第十三条 作品を受理したときは、本展覧会は引換に預り証を交付する。

第十四条 受理された作品は撤回することができない。但し審査員長の許可を得たときはこの限りでない。

第十五条 第一科の作品は額面、屏風、第二科の作品は額面とし、わく縁を附け、第五科の作品は形式とし、すべて縦八寸、横五寸以内の積文二枚を附けるものとする。積文を添えぬ作品は受理しないことがある。てん刻は印影(台紙寸法縦一尺二寸、横一尺以内)をつける。てん刻の連作の二箇は一点と見なす。

第十六条 作品の荷造及び運送費はすべて出品人の負担とする。

第十七条 受理した作品の保管については、本展覧会でその責任を負う。但し正常な管理のもとにおいて生じた紛失、破損等に対してはその責任を負わぬ。

第十八条 受理した作品の撮影または模写は、出品人の承諾のあるものに限る。審査員長が許可する。

前項の許可を受けたものが会場として撮影または模写をするときは、許可証を係員に示し、その指図を受けることを要する。日本芸術院または日展運営会は受理した作品を撮影若しくは模

写し、またはこれを刊行することがある。

第十九条 本章に掲げた各条項における違反を発見したときは、ただちに出品を取消すことがある。

第三章 鑑査、審査及び陳列
第二十条 鑑査、審査及び陳列の方法は、各科の審査員がこれを決定し審査員長の承認を得るものとする。

第二十一条 鑑査及び審査の結果は、審査主任から審査員長に報告しその承認を得て決定するものとする。

第二十二条 出品者は鑑査及び審査に対して異議を申し立てることはできない。

第二十三条 陳列作品の位置、配列等に対しては異議を申し立てることはできない。

第四章 売約及び搬出
第二十四条 陳列作品の売約については本会は関与しない。

第二十五条 陳列作品は地方展陳列作品を除き十二月四日より同月八日まで(午前十時から午後四時まで)出品人において預り証を提示のうえ搬出することを要する。前項の期間内に搬出されないものは日展運営会で責任を負わぬ。

第二十六条 陳列することに決定した作品以外のものは、十一月七日より同月十一日迄、(午前十時から午後四時まで)出品人において預り証を提示のうえ搬出することを要する。

前項の期間内に搬出されないものは日展運営会で責任を負わぬ。

第五章 観覧

第二十七条 観覧時間は開会中毎日午前九時から午後四時までとする。但し都合によつてこれを伸縮または観覧を停止することがある。

第二十八条 観覧者は陳列作品に触れてはならない。観覧者は場内の指示に従わなければならない。

第二十九条 観覧者で、他の観覧人の鑑賞を妨げるおそれがあると認められるものは、入場を禁じまたは退場させることがある。

第三十条 観覧の入場料を百円とする。

第六章 地方日展

第三十一条 東京展終了後、開催希望道府県教育委員会又は、美術館、新聞社、文化団体等と日展運営会との共同主催によつて地方展を開催する。

第三十二条 地方展の開催地、開催期日その他は日展運営会と開催希望地代表者と協議の上定める。

第三十三条 地方展は東京展出陳作品中より選ばれたものをもつて構成する。

今般日本芸術院及び日本美術展覧会運営会において第十三回日本美術展覧会の会場、出品期限其の他を次のように定めた。

名称 第十三回日本美術展覧会
会場 東京都台東区上野公園内 都美術館
会期 昭和三十三年十一月一日午前

搬入期日 十時から十二月二日まで
出品申込み及び作品の受理期間は昭和三十三年十月十日から同月十四日までとする。但し無鑑査者の出品は十月二十三日までとし、前年度特選受賞者は十月十九日までとする。

出品期間内毎日午前九時半から午後四時まで金五百円の手数料を添えて所定書式の申込書と共に之を会場に搬入しなければならない。

事務所 本会の事務所は昭和三十三年十月八日までは日本芸術院事務局内(文部省内)に、十月九日以後は会場に置く。

日本美術展覧会運営会役員

- 会長及理事(◎) 常任理事) 高橋誠一郎
- 理事 ◎中村 丘陵
- ◎堂本 印象
- 山口 蓬春
- 福田平八郎
- ◎辻 永
- ◎山下新太郎
- 石井 柏亭
- 中村 研一
- ◎藤井 浩佑
- ◎斎藤 知雄
- 朝倉 文夫
- 北村 西望

理事

◎高村 豊周
◎岩田 藤七

同 松田 権六

同 ◎尾上 八郎(柴舟)
◎豊道 慶中(春海)

参事(昭和三十一年)

第一科(日本画)一七名

池田 遙邨、伊東 深水、岩田 正巳

宇田 获邨、大智 勝観、堅山 南風

金嶋 桂華、川崎 小虎、兒玉 希望

徳岡 神泉、服部 有恒、望月 春江

森 白甫、矢野 橋村、山口 華楊

第二科(西洋画)一七名

石川寅治、伊原宇三郎、大久保作次郎

鬼頭鍋三郎、木下 孝則、木下 義謙

小糸源太郎、小山 敬三、斎藤 与里

佐竹 徳、鈴木千久馬、寺内万次郎

中野 和高、裕 伊之助、長谷川 昇

三上 知治、耳野卯三郎

第三科(彫塑)一五名

雨宮 治郎、加藤 顕清、北村 正信

国方 林三、古賀 忠雄、後藤 清一

佐々木大樹、沢田 晴広、清水多嘉示

橋本 朝秀、藤野 舜正、堀 進二

松田 尚之、横江 嘉純、吉田 久継

第四科(美術工藝)一九名

飯塚瑛珂、大須賀 喬、各務 敏三

香取 正彦、河村 蜻山、岩本 景春

清水六兵衛、楠部 弥次、高野 松山

内藤 春治、二橋 美衡、福沢 健一

前 大峰、宮之原 謙、三井 義夫

山鹿 清華、山崎覚太郎、吉田源十郎

吉田醇一郎

第五科(書)一五名

相沢 春洋、安東 聖空、石井 雙石

江川 碧潭、大池 晴嵐、川村 驥山

鈴木 翠軒、園田 湖城、田中 塊堂

辻本 史邑、手島 右卿、中村 蘭台

西川 寧、松本 芳翠、柳田 泰雲

正倉院評議会規程

(昭和二十二年七月十四日)
宮内府訓令第八号

改正(昭和二十一年六月一日)
宮内府訓令第一号

正倉院評議会規程

第一条 宮内庁に、正倉院評議会を置く。

第二条 正倉院評議会は、宮内庁長官の諮問に応じ、正倉院に関する重要事項を審議する。

第三条 正倉院評議会は、会長及び会員で、これを組織する。

第四条 会長及び会員は、宮内庁長官が、これを委嘱する。

第五条 会長は、会務を総理し、正倉院評議会の意見を、宮内庁長官に答申する。

会長に事故があるときは、会長の指名する会員が、会長の事務を代理する。

第六条 正倉院評議会に、幹事及び書記を置く。

第七条 幹事及び書記は、宮内庁職員の中から、宮内庁長官がこれを命ずる。

第八条 幹事は、会長の命を受けて、庶務を整理する。

書記は、幹事の命を受けて、庶務に従事する。

正倉院評議会

会長 安部 能成
会長 瓜生 順良
会員 鈴木 菊男
西原 英次
原田 淑人
細川 護立
上野 直昭
藤田 亮策
小宮 豊隆
石田 茂作
本郷 定男

稲田 周一
三井 安弥
高橋誠一郎
原田 治郎
和辻 哲郎
安田新三郎
浅野 長武
黒田 源次
高尾 亮一
和田 軍一

帝室技芸員

帝室技芸員の制度は明治二十三年一〇月我が皇室におかれられて、明治維新以来芸術的に衰退し経済的に困窮していた當時の我が美術界振興の思召しから制定されたもので、帝室技芸員には人格芸術共に後進の師表と仰がれる大家を、特にその為には選ばれた委員をして詮衡させ、任命されたものである。

帝室技芸員名簿

日本画	川合 玉堂	大正六年六月
	横山 大観	昭和六年六月
	安田 靱彦	昭和九年一月
	西山 翠嶂	昭和一九年七月
	堂本 印象	
	鏑木 清方	
	前田 青邨	
	松林 桂月	

洋画 小林 古徑 昭和十九年七月
和田 英作 昭和九年一月

中沢 弘光 昭和一九年七月

梅原龍三郎

朝倉 文夫

平櫛 田中

板谷 波山 昭和九年一月

武力紛争の際の文化財の保護のための条約

武力紛争の際の文化財の保護のための条約は、文化財が最近の武力紛争の間に重大な損害を被っていること及び交戦技術の発達のため文化財の破壊の危険が増大していることを認識し、

各国民が世界の文化に貢献しているのであるから、いかなる国民に属する文化財に対する損害も全人類の文化的遺産に対する損害を意味するものであることを確信し、

文化的遺産の保存が世界のすべての国民にとつて多大の重要性を有すること及びこの遺産に国際的保護を与えることが重要であることを考慮し、

千八百九十九年及び千九百七年のヘーグ条約並びに千九百三十五年四月十五日のワシントン条約において確立された武力紛争の間における文化財の保護に関する諸原則を指針とし、

このような保護が、平和時にその組織

化のための国内的及び国際的措置が執られていない限り、効果的でありえないと認め、

文化財を保護するため可能なすべての措置を執ることを決意し、
次の条項を協定した。

第一章 保護に関する一般規定

第一条 文化財の定義

この条約の適用上、「文化財」とは、その源又は所有者のいかんを問わず、次に掲げるものをいう。

(a) 各国民が受け継ぐべき文化的資産に
とつて多大の重要性を有する次のよう
な動産又は不動産

建築上、芸術上又は歴史上記念す
べき物(宗教的であると否とを問
わない。)

考古学的遺跡

全体として歴史的又は芸術的に意

義のある建物群

美術品

芸術的、歴史的又は考古学的に意

義のある書跡、書籍その他の物件

科学的収集、書籍若しくは記録

の重要な収集又は前掲の財の複

製品の重要な収集

(b) 博物館、図書館、記録保管所その他

の建造物であつて(a)に定める動産文化

財を保存し、又は展覧することを主要

なかつ実効的な目的とするもの及び(a)

に定める動産文化財を武力紛争の際に

防護するための避難施設

(c) (a)及び(b)に定める文化財が多数所在

する集中地区(以下「文化財集中地区」という。)

第二条 文化財の保護

この条約の適用上、文化財の保護とは、文化財を保全し、及び尊重することをいう。

第三条 文化財の保全

締約国は、自国の領域内に所在する文化財を武力紛争による予測される影響に對して保全することを、適当と認める措置を執るにより平和時に用意することを約束する。

第四条 文化財の尊重

1 締約国は、武力紛争の際に破壊又は損傷を受ける危険がある目的に自国及び他の締約国の領域内に所在する文化財、その直接の周辺及びその保護のために使用される施設を使用しないようにすることに、並びにその文化財に向けていかなる敵対行為をも行わないようにすることに、その文化財を尊重することを約束する。

2 本条1に定める義務は、真にやむをえない軍事上の必要がある場合にのみ免かれることができる。

3 締約国は、また、文化財のいかなる形における窃盗、略奪又は横領及び文化財に対するいかなる野蛮な行為をも禁止し、防止し、及び必要があるとき

は停止させることを約束する。締約国は、他の締約国の領域内に所在する動産文化財を徴発してはならない。

4 締約国は、文化財に対し復仇手段と

していかなる行為をも行つてはならない。

5 締約国は、他の締約国が第三条の保全措置を実施しなかつたという事実を理由として、当該他の締約国に關し、本条に規定する義務を免かれることはできない。

第五条 占領

1 締約国は、他の締約国の領域の全部又は一部を占領した場合においては、被占領国の文化財の保全及び保存につき、その被占領国の権限のある機関をできる限り援助しなければならぬ。

2 占領地域内にある文化財で軍事行動によつて損傷を受けたものを保存するために措置を執る必要がある場合において、被占領国の権限のある機関がその措置を執ることができないときは、占領国は、できる限り、かつ、その被占領国の機関と密接に協力して、最も必要な保存措置を執らなければならない。

3 締約国であつて、その政府が対敵抵抗運動を行つたによつて正当政府と認められているものは、可能な場合には、この条約の文化財の尊重に關する規定に従ふ義務についてこれらの者の注意を喚起しなければならない。

第六条 文化財の標識の表示

文化財には、その識別を容易にするため、第十六条の規定に従い標識を附することができぬ。

第七条 軍事上の措置

1 締約国は、平和時に、この条約の遵守を確保するような規定を軍事上の規則又は訓令の中に入れること並びにその軍隊の構成員の間ですべての国民の文化及び文化財に対する尊重の精神を育成することを約束する。

2 締約国は、文化財の尊重を確保すること及び文化財の保全につき責任を有する文民機関と協力することを任務とする機関又は専門職員を、平和時に、自国の軍隊中に設置し、又はその設置を計画することを約束する。

第二章 特別保護

第八条 特別保護の付与

1 動産文化財を武力紛争の際に防護するための避難施設、文化財集中地区及び他の非常に重要な不動産文化財は、次の要件を満たす場合には、その数を限定して特別保護の下に置くことができる。

(a) 大きい工業地区又は攻撃を受けやすい地点たる重要な軍事目標(たとえば、飛行場、放送局、国防のために使用される施設、比較的重要な港若しくは停車場又は交通幹線)から

妥当な距離に所在すること。

(b) 軍事上の目的に使用されていないこと。

2 動産文化財のための避難施設は、爆弾による害を受けるおそれの全くないように造られている場合には、その所在のいかんを問わず、特別保護の下に置くことができる。

3 文化財集中地区は、軍事要員又は軍事資材の移動のため利用される場合において、通過のため利用されるときでも、軍事上の目的に使用されているものとみなされる。軍事行動、軍事要員の駐留又は軍事資材の生産のいずれかに直接に関係がある活動が文化財集中地区内で行われる場合も、同様とする。

4 特別に権限を付与された武装監視人が本条1に掲げる文化財を警衛すること又は公の秩序の維持を通常の任務とする警察隊がその近傍に所在することによつては、その文化財は、軍事上の目的に使用されているものとみなされない。

5 本条1に掲げる文化財が同項にいう重要な軍事目標の近辺に所在する場合においても、保護を要請する締約国が武力紛争の際にその軍事目標を使用しないことを約束するとき、及び特に港、停車場又は飛行場についてはその締約国がすべての運輸を他に転換することを約束し、かつ、その転換を平和時に用意するときは、その文化財を特別保護の下に置くことができる。

6 特別保護は、文化財が「特別保護文化財国際登録簿」に登録されることによりその文化財に対して与えられる。この登録は、この条約の規定に従ひかつこの条約の実施規則に定める条件に基づいてのみ行われるものとする。

第九条 特別保護の下にある文化財の不可侵

締約国は、国際登録簿への登録が効力を生ずる時から、特別保護の下にある文化財に向けていかなる敵対行為をも行わないようにすることにより、及び特別保護の下にある文化財又はその周辺を、第八条5に規定する場合を除くほか、軍事上の目的に使用しないようにすることに、その文化財の不可侵を確保することを約束する。

第十条 表示及び管理

特別保護の下にある文化財は、武力紛争の間、第十六条の識別標識により表示されるものとし、かつ、この条約の実施規則に定める国際管理の下に置かれるものとする。

第十一条 不可侵の停止

1 締約国が、特別保護の下にあるいずれかの文化財に関し、第九条に規定する義務に違反したときは、敵対国は、この違反が継続する間、その文化財の不可侵を確保する義務を免かれるものとする。ただし、敵対国は、可能なきは、あらかじめ、その違反行為を相当な期間内に終止するように要請しなければならぬ。

2 本条1に定める場合を除くほか、特別保護の下にある文化財の不可侵は、避けることができない軍事上の必要がある例外的な場合にのみ、かつ、その必要が継続する期間においてのみ、停止されるものとする。その必要の有無は、師団以上の大きさの部隊の指揮官のみが認定することができる。事情が

許すときは、敵対国は、不可侵を停止する決定について、相当な期間の事前の通告を受けるものとする。

3 不可侵を停止する国は、できる限りすみやかに、この条約の実施規則に定める文化財管理監に対し、その旨を理由に記した書面により通告しなければならぬ。

第三章 文化財の輸送

第十二条 特別保護の下における輸送

1 もつぱら文化財を移動するための輸送は、一領域内で行われるものであると他の領域に向けて行われるものであるとを問わず、関係締約国の要請により、この条約の実施規則に定める条件に従つて特別保護の下に行うことができる。

2 特別保護の下における輸送は、前記の実施規則に定める国際的監督の下に行い、かつ、この輸送には、第十六条の識別標識を掲示しなければならぬ。

3 締約国は、いかなる敵対行為をも特別保護の下における輸送に向けて行わないようにしなければならない。

第十三条 緊急の場合における輸送

1 締約国が、特に武力紛争の初めに当り、ある文化財の安全のためその移動が必要であり、かつ、事態が緊急であるため第十二条に定める手続によることができないような場合であると認め

るときは、すでに第十二条に定める不可侵の要請が行われ、かつ、拒否されている場合を除くほか、その輸送には、第十六条の識別標識を掲示することができる。この移動については、できる限り敵対国に通告しなければならぬ。ただし、他国の領域への文化財の輸送には、不可侵が明示的に認められていないときは、識別標識を掲示することができない。

2 締約国は、本条1の輸送であつて識別標識を掲示しているものに向けて敵対行為が行われないようにするため必要な予防措置をできる限り執るものとする。

第十四条 押収、拿捕及び捕獲からの不可侵

1 次のものに押収、捕獲又は拿捕からの不可侵を認めるものとする。

(a) 第十二条又は第十三条に定める保護の利益を受ける文化財

(b) もつぱら文化財を移動するための輸送手段

2 本条の規定は、臨検及び搜索の権利を制限するものではない。

第四章 人員

第十五条 人員

安全保障上の利益に反しない限り、文化財の保護に携わる人員は、文化財の利益のために尊重されるものとし、敵対国の権力内に陥つた場合において、その者が責任を有する文化財も敵対国の権力内に陥つたときは、自己の任務を引き続き

遂行することを許されるものとする。

第五章 識別標識

第十六条 条約の標識

1 この条約に定める識別標識は、下方がとがり、かつ、青色面と白色面とで斜め十字に四分された楕(一角がその楕の先端を形成する生青色の正方形、その正方形の上方の生青色の三角形及び両側にある一個ずつの白色の三角形からなつてゐるもの)の形をしたものとする。

2 この標識は、第十七条に定める条件に基づき、一個のみで、又は三個を三角状(一個の楕を下方に置く)に並べて使用する。

第十七条 標識の使用

1 三個を並べて用いる識別標識は、次のものを証示する手段としてのみ使用することができる。

(a) 特別保護の下にある不動産文化財
(b) 第十二条及び第十三条に定める条件に基づく文化財の輸送

(c) この条約の実施規則に定める条件に基づく臨時避難施設

2 一個のみの識別標識は、次のものを証示する手段としてのみ使用することができる。

(a) 特別保護の下にない文化財
(b) この条約の実施規則に従い管理の任に当る者
(c) 文化財の保護に携わる人員

(d) この条約の実施規則に定める身分証明書

3 武力紛争の間、この識別標識の使用は、本条1及び2に定める場合を除き禁止され、また、この識別標識に類似する標識の使用は、目的のいかんを問わず禁止される。

4 識別標識は、締約国の権限のある機関が正当に日付を附して署名した証書が同時に掲示されていない場合には、いかなる不動産文化財に対しても附することができない。

第六章 条約の適用範囲
第十八条 条約の適用
1 この条約は、平和時に実施すべき規定のほか、宣戦布告があつた戦争その他締約国の間に生ずる武力紛争の場合において、それらの締約国の一又は二以上が戦争状態を承認していると否とを問はず、適用する。

2 この条約は、また、締約国の領域の一部又は全部が占領されたすべての場合について、その占領が武力抵抗を受けるか否とを問はず、適用する。

3 紛争当時国の一がこの条約の締約国でない場合にも、締約国である諸国は、その相互の関係においては、この条約によつて拘束されるものとする。

さらに、これらの諸国は、締約国でない紛争当事国の一がこの条約の規定を受諾する旨を宣言してその規定を適用する間、その国との関係においても、この条約によつて拘束されるものとする。

第十九条 国際的性質を有しない紛争

1 一締約国の領域内に生ずる国際的性質を有しない武力紛争の場合には、各紛争当事者は、少くとも、この条約の文化財の尊重に関する規定を適用しなければならぬ。

2 紛争当事者は、特別の協定により、この条約の他の規定の全部又は一部を実施することに努めなければならない。

3 国際連合教育科学文化機関(以下「ユネスコ」という)は、その役務を紛争当事者に提供することができる。

4 前諸項の規定の適用は、紛争当事者の法的地位に変更を加えるものではない。

第七章 条約の実施

第二十条 条約の実施規則
この条約を実施する手続は、この条約の不可分の一部をなす実施規則に定めらる。

第二十一条 利益保護国
この条約及びその実施規則の適用は、紛争当事国の利益の保全の任に当る利益保護国と協力して行われるものとする。

第二十二条 調停の手続
1 利益保護国は、文化財の利益になると認めらるすべての場合、特にこの条約又はその実施規則の規定の適用又は解釈に關して紛争当事国間で意見が一致しない場合には、仲介をするものとする。

2 このため、各利益保護国は、紛争当

事国の一若しくはユネスコ事務局長の要請又は自国の発意により、紛争当事国に対し、適切と認めるときは適当に選ばれた中立の地域で、紛争当事国の代表者、特に文化財の保護につき責任を有する機関が会合するように提案することができる。紛争当事国は、自国に対する会合の提案に従わなければならない。利益保護国は、中立国に属する者又はユネスコ事務局長の提示する者で前記の会合に議長として参加するように招請されるべきものの氏名を、紛争当事国に提示して、その承認を求めなければならない。

第二十三条 ユネスコの援助

1 締約国は、その文化財の保護を組織化するに當り、又はこの条約若しくはその実施規則の適用から生ずる他のすべての問題に關し、ユネスコに技術的援助を求めらるることができる。ユネスコは、その事業計画及び資力の範囲内でこの援助を与えなければならない。

2 ユネスコは、自己の発意により前記の事項についての提案を締約国に対して行ふ権限を有する。

第二十四条 特別の協定
1 締約国は、別個に規定を設けることが適當であると認めらるすべての事項について特別の協定を締結することができる。

2 この条約が文化財及びその保護に携わる人員に与える保護を減ずるような特別の協定は、締結することができない。

1 締約国は、別個に規定を設けることが適當であると認めらるすべての事項について特別の協定を締結することができる。

2 この条約が文化財及びその保護に携わる人員に与える保護を減ずるような特別の協定は、締結することができない。

第二十五条 条約の普及

締約国は、平和時であると武力紛争時であるとを問わず、この条約及びその実施規則をできる限り広く自国内に普及させることを約束する。特に締約国は、この条約の原則をすべての住民、特に軍隊及び文化財の保護に携わる人員に知らせるため、軍隊の教育及びできれば文民の教育の中にこの条約についての学習を取り入れることを約束する。

第二十六条 訳文及び報告

1 締約国は、ユネスコ事務局長を通じて、この条約及びその実施規則の公の訳文を相互に通報するものとする。

2 締約国は、さらに、この条約及びその実施規則の実施に当つて自国政府が執り、用意し、又は考究している措置に関する情報で適當と認めるものを提供する報告書を、少くとも四年に一回、ユネスコ事務局長に提出しなければならない。

第二十七条 会合

1 ユネスコ事務局長は、ユネスコ執行委員会の承認を得て、締約国の代表者の会合を招集することができる。同事務局長は、締約国の五分の一以上の要請があつたときは、この会合を招集しなければならない。

2 この会合は、この条約及びその実施規則の適用に関する問題を研究し、並びにこれに関して勧告を作成することを目的とする。ただし、この規定は、この条約及びその実施規則によりこの

会合に与えられた他のいかなる機能をも害するものではない。

3 この会合は、また、締約国の過半数が代表者を出席させたときは、第三十九条の規定に従い、この条約又はその実施規則の改正の手續を執ることができ。

第二十八条 処罰

締約国は、この条約の違反行為を行い、又は行つてを命じた者を、国籍のいかんを問わず、追求し、かつ、それらの者を刑に処し、又は懲戒するため必要なすべての措置を自国の通常の刑事管轄権の範囲内で執ることを約束する。

最終規定

第二十九条 用語

1 この条約は、英語、フランス語、ロシア語及びスペイン語で作成される。これらの本文は、ひとしく正文である。

2 ユネスコは、その總會の他の公用語によるこの条約の訳文が作成されるよう取り計らうものとする。

第三十条 署名

この条約は、千九百五十四年五月十四日の日付を有し、千九百五十四年四月二十一日から千九百五十四年五月十四日までヘーグで開催された會議に招請されたすべての国による署名のため千九百五十四年十二月三十一日まで開放しておく。

第三十一条 批准

1 この条約は、署名国が各自の憲法上の手續に従つて批准するものとする。

2 批准書は、ユネスコ事務局長に寄託するものとする。

第三十二条 加入

この条約は、その効力発生の日から、第三十条の国でこの条約に署名しなかつたすべての国及びユネスコ執行委員会により加入を招請される他のすべての国による加入のため開放しておく。加入は、ユネスコ事務局長に加入書を寄託することによつて行ふ。

第三十三条 効力の発生

1 この条約は、批准書が五通寄託された後三箇月で効力を生ずる。

2 その後は、この条約は、各締約国につき、その国の批准書又は加入書の寄託の後三箇月で効力を生ずる。

3 第十八条又は第十九条に定める事態に際しては、武力紛争の状態又は占領の開始の前又は後に紛争当事者によつて寄託される批准書又は加入書は、直ちに効果を生ずる。この場合には、ユネスコ事務局長は、第三十八条の通報を最も迅速な方法で伝達するものとする。

第三十四条 効果的適用

1 この条約の効力発生の日にこの条約の当事国である各国は、その効力発生の日の後六箇月の期間内に、この条約の効果的適用を確保するため必要なすべての措置を執るものとする。

2 前記の期間は、この条約の効力発生の日の後に批准書又は加入書を寄託する国については、その批准書又は加入

書の寄託の日の後六箇月とする。

第三十五条 条約の適用地域の擴張

いづれの締約国も、批准若しくは加入の時に又はその後いつでも、ユネスコ事務局長にあつた通告書により、自国が国際關係について責任を有する領域の全部又は一部にこの条約が適用される旨を宣言することができる。この通告は、その受領の日の後三箇月で効力を生ずる。

第三十六条 従前の諸条約との關係

1 千八百九十九年七月二十九日若しくは千九百七年十月十八日の陸戦の法規慣例に関する条約（ヘーグ条約第四号）又は千九百七年十月十八日の戦時海軍力をもつてする砲撃に関する条約（ヘーグ条約第九号）により拘束され、かつ、この条約の当事国である国の間においては、この条約は、ヘーグ条約第九号及びヘーグ条約第四号附属の規則を補足するものであり、この条約及びその実施規則が識別標識を使用すべきことを定める場合においては、この条約の第十六条の識別標識がヘーグ条約第九条の第五条に定める記章に代るものとする。

2 千九百三十五年四月十五日の芸術上及び科学上の施設並びに歴史的記念物の保護に関するワシントン条約（レトリッヒ条約）により拘束され、かつ、この条約の当事国である国の間においては、この条約は、レトリッヒ条約を

補足するものであり、この条約及びその実施規則が識別標識を使用すべきことを定める場合においては、この条約の第十六条の識別標識がレーリッヒ条約の第三条に定める識別旗に代るものとする。

第三十七条 廃棄

1 各締約国は、自国のために、又は自国が国際関係について責任を有する領域のためにこの条約を廃棄することができる。

2 廃棄は、ユネスコ事務局長に寄託される文書により通告されるものとする。

3 廃棄は、廃棄通告書の受領の後一年で効力を生ずる。ただし、廃棄しようとする国が、この期間の満了の時に武力紛争にまき込まれている場合には、その廃棄は、武力紛争の状態の終了又は文化財の送還措置の完了のいずれかおそい時まで効力を生じない。

第三十八条 通報

ユネスコ事務局長は、第三十一条、第三十二条及び第三十九条にそれぞれ定める批准書、加入書及び受諾の文書並びに第三十五条及び第三十七条にそれぞれ定める通告書及び廃棄通告書の寄託を第三十条及び第三十二条に掲げる国並びに国際連合に通報するものとする。

第三十九条 条約及び実施規則の改正

1 いずれの締約国も、この条約又はその実施規則の改正を提案することができる。

2 改正案は、ユネスコ事務局長に通報するものとし、同事務局長は、その改正案を各締約国に転報するとともに、次のいずれかを選ぶかを四箇月以内に回答するように各締約国に要請するものとする。

(a) 改正案を審議するための会議の召集を希望すること。

(b) 会議によらずに改正案を受諾することに賛成であること。

(c) 会議によらずに改正案を拒否することに賛成であること。

2 ユネスコ事務局長は、本条1の規定に基いて受領した回答をすべての締約国に転報しなければならない。

3 すべての締約国が、所定の期限までにユネスコ事務局長に対し本条1(b)の規定の趣旨に従つて自国の意見を表明し、かつ、会議によらずに当該改正を受諾することに賛成である旨を同事務局長に通報した場合には、同事務局長は、第三十八条の規定の例により、締約国によるこの決定を通告するものとする。その改正は、この通告の日から九十日の期間が満了した時にすべての締約国について効力を生ずるものとする。

4 ユネスコ事務局長は、三分の一をこえる締約国の要請があつたときは、当該改正案を審議するため締約国の会議を召集しなければならない。

5 前項の規定に従つて行われるこの条約又はその実施規則の改正は、会議に

代表者を出した締約国が全会一致で採択し、かつ、各締約国が受諾した後においてのみ効力を生ずるものとする。

6 本条4及び5に定める会議で採択されたこの条約又はその実施規則の改正の締約国による受諾は、ユネスコ事務局長に正式の文書を寄託することによつて行ふものとする。

7 この条約又はその実施規則の改正が効力を生じた後は、改正後のこの条約及びその実施規則のみを批准又は加入のため開放しておくものとする。

第四十条 登録

この条約は、国際連合憲章第百二条の規定に従い、ユネスコ事務局長の要請により、国際連合事務局に登録されるものとする。

以上の証拠として、正当に委任された下名は、この条約に署名した。

千九百五十四年五月十四日にヘーグで本書一通を作成した。本書は、ユネスコの記録に寄託され、その認証謄本は、第三十条及び第三十二条に掲げるすべての国並びに国際連合に送付される。

武力紛争の際の文化財の保護のための条約の実施規則

第一章 管理

第一条 国際名簿

ユネスコ事務局長は、この条約が効力を生じたときに、文化財管理監の任に当る資格のあるものとして締約国が指名したすべての者の国際名簿を作成するものとする。この名簿は、同事務局長の発意

により、締約国が行う要請を基礎として定期的に改定される。

第二条 管理組織

いずれかの締約国が条約第十八条の規定の適用を受ける武力紛争の当事者になつたときは、直ちに、

(a) その締約国は、自国の領域内に所在する文化財のための代表者一人を任命し、また、他国の領域を占領した場合

には、その領域内に所在する文化財のための特別の代表者一人を任命し、

(b) その締約国と紛争の状態にある各国のために行動する利益保護国は、第三条の規定に従い、その締約国への派遣委員を任命し、

(c) 文化財管理監一人が、第四条の規定に従い、その締約国に対して任命される。

第三条 利益保護国の派遣委員の任命

利益保護国は、その外交職員若しくは領事職員のうちから、又は被派遣国の承認を得てその他の者のうちから、派遣委員を任命するものとする。

第四条 文化財管理監の任命

1 文化財管理監は、被派遣国とその敵対国のために行動する利益保護国との間の合意により、国際名簿から選ばれるものとする。

2 前記の諸国は、この選任についての討議の開始の日から三週間以内に合意に達しないときは、国際司法裁判所長に管理監の任命を要請しなければならない

ず、このようにして任命される管理監は、被派遣国がその任命を承認するまでは、任務についてはならない。

第五条 派遣委員の職務

利益保護国の派遣委員は、この条約の違反の事実を確認し、違反が生じた事情を被派遣国の承認を得て調査し、違反の停止を確保するために現地で申入れを行い、及び必要があるときは、違反を文化財管理監に通告しなければならない。利益保護国の派遣委員は、その行動を管理監が絶えず知つていようようにしておかなければならない。

第六条 文化財管理監の職務

1 文化財管理監は、この条約の適用に關してその所掌に属させられたすべての事項を、被派遣国の代表者及び関係派遣委員と協力して、処理しなければならない。

2 管理監は、この規則に定める場合において、決定し、及び任命する権能を有する。

3 管理監は、被派遣国の同意を得て、調査を命じ、又はみずから調査を行う権限を有する。

4 管理監は、紛争当事国又はその利益保護国に対し、この条約の適用のため有益と認めるすべての申入れを行わなければならない。

5 管理監は、必要と認められるこの条約の適用に關する報告書を作成し、これを関係紛争当事国及びその利益保護国に送付しなければならない。管理監

は、この報告書の写をユネスコ事務局長に送付しなければならない。同事務局長は、その技術的内容のみを利用することができる。

6 利益保護国がないときは、管理監は、条約第二十一条及び第二十二条に定める利益保護国の任務を行わなければならない。

第七条 監視官及び専門家

1 文化財管理監は、関係派遣委員の要請又はこれとの協議により必要と認めるときは、特定の職務を担当する文化財の監視官となるべき者を被派遣国に提示して、その承認を求めなければならない。監視官は、管理監に対してのみ責任を負う。

2 管理監、派遣委員及び監視官は、専門家の役務を用いることができる。これらの専門家についても、また、前項の国に提示して、その承認を求めるとする。

第八条 管理の職務の遂行

文化財管理監、利益保護国の派遣委員、監視官及び専門家は、いかなる場合にもその職務の範囲をこえてはならない。これらの者は、特に、被派遣国たる締約国の安全保障上の必要を考慮しなければならない。また、いかなる事情の下においても、その締約国が行う軍事状況上の要求に従つて行動しなければならない。

第九条 利益保護国の代理

紛争当事国は、利益保護国の活動によ

り利益を得ないか又は得なくなつた場合には、中立国に対し、第四条に定める手続による文化財管理監の任命に關する利益保護国の任務を引き受けるように要請することができる。このようにして任命される管理監は、必要があるときは、この規則に定める利益保護国の派遣委員が行うべき職務を監視官に委任するものとする。

第十条 費用

文化財管理監、監視官及び専門家の報酬及び費用は、被派遣国が負担するものとする。利益保護国の派遣委員の報酬及び費用については、利益保護国と利益を保護される国との間の合意によるものとする。

第二章 特別保護

第十一条 臨時避難施設

1 いずれの締約国も、武力紛争の間において、予測されなかつた事情のため臨時避難施設を設けることが必要になり、かつ、その施設を特別保護の下に置くことを希望するときは、自国に派遣された文化財管理監にこれを直ちに通知しなければならない。

2 管理監は、その事情及びその臨時避難施設内に防護される文化財の重要性によりこのような措置を正当と認めるときは、その施設に条約第十六条に定める識別標識を掲示することをその締約国に許可することができる。管理監は、その決定を利益保護国の関係派遣委員に遅滞なく通知しなければならない。

ず、これらの派遣委員は、いずれも、標識の即時の撤去を三十日の期間内に命ずることができる。

3 管理監は、当該避難施設が条約第八条に定める条件を満たしていることを認めるときは、前記の派遣委員が同意を表明したときは直ちに、又は関係派遣委員のいずれからも反対がなく三十日の期間が経過したときは、その避難施設を特別保護文化財国際登録簿に登録するようにユネスコ事務局長に要請しなければならない。

第十二条 特別保護文化財国際登録簿

1 「特別保護文化財国際登録簿」が作成されるものとする。

2 ユネスコ事務局長は、この国際登録簿を管理し、その写を国際連合事務局長及び締約国に送付しなければならない。

3 国際登録簿は、締約国名により部別する。各部は、避難施設、文化財集中地区及び他の不動産文化財の各表題を附した三項に分ける。各部の細目は、ユネスコ事務局長が定めるものとする。

第十三条 登録の申請

1 いずれの締約国も、ユネスコ事務局長に対し、自国の領域内に所在する避難施設、文化財集中地区又は他の不動産文化財の国際登録簿への登録の申請書提出することができる。この申請書は、当該文化財の所在地について記

述しており、かつ、その文化財が条約第八条の規定に合致することを証明するものでなければならぬ。

2 占領の場合には、占領国が前記の申請を行ふ権限を有する。

3 ユネスコ事務局長は、登録の申請書の写を遅滞なく各締約国に送付しなければならぬ。

第十四条 異議

1 いずれの締約国も、ユネスコ事務局長に於てた書簡により、文化財の登録について異議を申し立てることができ。この書簡は、同事務局長が登録の申請書の写を送付した日から四箇月以内に同事務局長により受領されなければならぬ。

2 この異議には、理由が述べられていなければならず、異議が有効であるための根拠は、次のいずれかに限る。

(a) その財が文化財でないこと。

(b) その財が条約第八条に掲げる条件を満たさないこと。

3 ユネスコ事務局長は、異議申立の書簡の写を遅滞なく各締約国に送付しなければならぬ。同事務局長は、必要がある場合には、記念物、芸術的遺跡、歴史的遺跡及び考古学的発掘物に関する国際委員会の助言を求め、また、適切と認めるときは、適当な他の機関又は人の助言を求めらるものとす。

4 ユネスコ事務局長又は登録を申請した締約国は、異議の申立をした締約国に対し、その異議を撤回させるため、

必要と認めらるいかなる申入れをも行うことができる。

5 平和時に登録を申請した締約国がその登録が行われる前に武力紛争にまき込まれたときは、当該文化財は、ユネスコ事務局長により直ちに、国際登録簿にかりに登録されるものとする。この登録は、異議の申立がある場合においては、その異議の承認、撤回又は否認があるまでの間のものとする。

6 ユネスコ事務局長が、異議申立の書簡を受領した日から六箇月以内に、異議の申立をした国からその異議を撤回した旨の通知を受領しない場合には、登録を申請した締約国は、次項の手続により仲裁裁判を要請することができる。

7 仲裁裁判の要請は、ユネスコ事務局長が異議申立の書簡を受領した日の後一年の期間が経過したときは、行うことができない。紛議の両当事者は、おのの仲裁裁判官一人を任命するものとする。一の登録の申請に対し二以上の異議が申し立てられたときは、異議を申し立てた諸締約国は、共同して一人の仲裁裁判官を任命するものとする。これらの二人の仲裁裁判官は、第一条の国際名簿から首席仲裁裁判官を選定するものとする。これらの仲裁裁判官は、この選定について合意に達しないときは、国際司法裁判所長に首席仲裁裁判官の任命を要請するものとする。この場合には、首席仲裁裁判官

は、必ずしも国際名簿から選ばれることを要しない。このようにして構成された仲裁裁判所は、みずからその手続を定めるものとする。その決定は、終審とする。

8 各締約国は、自国が紛議の当事者となつたときは、前項に定める仲裁手続の適用を希望しない旨を宣言することができる。この場合には、登録の申請に対する異議は、ユネスコ事務局長が締約国に付託するものとする。この異議は、投票した締約国の三分の二多数をもつて異議の承認が決定された場合にのみ、承認されたものとする。投票は、同事務局長が条約第二十七条の規定により与えられる権限に基き会合を開催することが必要であると認めない限り、通信によつて行ふものとする。同事務局長は、通信による投票を行う旨を決定したときは、締約国に対し、封をした書状により投票を行うように要請するものとし、締約国は、その要請を受けた日から六箇月以内に同事務局長に投票を送達するものとする。

第十五条 登録

1 ユネスコ事務局長は、第十四条1に定める期間内に異議の申立を受領しなかつたときは、登録の申請がなされた財を一件ごとに整理番号を附して国際登録簿に登録しなければならぬ。

2 異議の申立があつた場合には、ユネスコ事務局長は、その異議が撤回され

たとき、又は第十四条7若しくは8に定める手続によりその異議が承認されなかつたときのみ当該財を国際登録簿に登録する。ただし、第十四条5の規定の適用を妨げるものでない。

3 第十一条3の規定の適用がある場合において、文化財管理監の要請があつたときは、ユネスコ事務局長は、当該財を国際登録簿に登録しなければならぬ。

4 ユネスコ事務局長は、遅滞なく、国際登録簿への各登録の認証謄本を、国際連合事務総長及び締約国に送付しなければならず、登録を申請した国の要請があつたときは、条約第三十条及び第三十二条に掲げる他のすべての国にも送付しなければならない。登録は、その謄本の発送の日の後三十日で効力を生ずる。

第十六条 登録の消除

1 ユネスコ事務局長は、次の場合には、登録を消さなければならない。

(a) 当該文化財が所在する領域が属する締約国の要請があつた場合

(b) 当該登録を申請した締約国がこの条約を廃棄し、その廃棄が効力を生じた場合

(c) 第十四条5に定める特殊の場合において、第十四条7又は8に定める手続により異議が承認された場合

2 ユネスコ事務局長は、登録の消除の認証謄本を、国際連合事務総長及び当該登録の謄本を受領したすべての国に

遅滞なく送付しなければならない。登録の消除は、その贈本の発送の日の後三十日で効力を生ずる。

第三章 文化財の輸送

第十七条 不可侵を得るための

手続

1 条約第十二条1の要請は、文化財管理監にあてて行いものとする。その要請書には、要請の根拠となる理由を記載し、並びに移動すべき物件の概数及び重要性、その現在の所在、その予定移動先、使用すべき輸送手段、予定輸送経路、予定移動期日その他関係がある情報を明記しなければならない。

2 管理監は、適当と認める意見を考慮に入れた上その移動を正当と認める場合には、提案された実施方法について利益保護国の関係派遣委員と協議するものとする。管理監は、この協議の結果に従い、関係紛争当事国にその移動について通告しなければならない。この通告は、すべての有益な情報を含むものでなければならない。

3 管理監は、要請書に記載された財のみが移動されること、その輸送が承認された方法により行われること及びその輸送に識別標識が附されていることを確認すべき一人又は二人以上の監視官を任命しなければならない。監視官は、目的地までその財と同行するものとする。

第十八条 国外輸送

特別保護の下における移動が他国の領

域に向けて行われる場合には、その移動については、条約第十二条及びこの規則の第十七条のほか、次の諸項の規定を適用するものとする。

(a) 文化財が他国の領域内にある間、当該他国は、その文化財の保管者となり、その文化財に対し、それと同程度の重要性を有するその国の文化財に対すると同様の保管の措置を講じなければならない。

(b) 保管国は、紛争状態の終了後においてのみその文化財を返還するものとし、この返還は、それが要請された日から六箇月以内に行われなければならない。

(c) 寄託国及び保管国は、いずれも、当該文化財が移動されている間及び他国の領域内にある間は、これを没収し、及び処分してはならない。ただし、その文化財の安全のため必要があるときは、保管国は、寄託国の同意を得て、かつ、本条に定める条件に従いその文化財を第三国の領域に輸送することができる。

(d) 特別保護の要請書には、自国の領域に向けて文化財が移動される国が本条の規定を受諾する旨を記載しなければならない。

第十九条 占領地域

他の締約国の領域を占領している締約国が文化財を当該領域内の他の場所にある避難施設に移動し、その移動の際第十七条に定める手続に従うことができな

裏面

所持者の署名若しくは指紋又はその双方		
所持者の写真		
証明書発給当局の浮出印		
長身	眼	頭髪
その他の特徴		
.....		
.....		
.....		
.....		

表面

文化財の保護に携わる人員の身分証明書	
姓
名
生年月日
地位又は階級
職務
上記の者は、千九百五十四年五月十四日の武力紛争の際の文化財の保護のためのヘーグ条約の規定に基づき、この証明書を所持する。	
発給年月日	証明書番号
.....

つた場合において、文化財管理監督が、平常の管理者と協議の上、その移動が状況上必要であった旨を書面で証明するとき、その移動は、条約第四条にいう横領とはみなされない。

第四章 識別標識

第二十條 標識の表示

1 識別標識の配置及び識別可能な度合は、各種約国の権限のある当局の裁量に任せるものとする。識別標識は、旗又は腕章に表示することができ、また、物件上に描き、又は他の適当な方法で表示することができる。

2 もつとも、武力紛争の際、条約第十二条及び第十三条に定める場合には、標識は、上空からも地上からも日中明らかに識別することができるように輸送手段の上に附するものとする。ただし、さらに安全な表示方法によることを妨げない。

識別標識は、武力紛争の際、次の条件に従い地上で識別することができるものでなければならぬ。

(a) 特別保護の下にある文化財集中地区については、その外周を明らかに示すに足る規則的間隔を置くこと。

(b) 特別保護の下にある他の不動産文化財については、その入口に置くこと。

第二十一條 身分証明

1 条約第十七条2(b)及び(c)に掲げる者は、権限のある当局が発給しかつその

印章を押した腕章であつて識別標識を附したものを着用することができる。

2 これらの者は、識別標識を附した特別の身分証明書を携帯しなければならない。この身分証明書には、少くとも所持者の氏名、生年月日、地位又は階級及び職務を記載するものとし、所持者の写真及びその署名若しくは指紋又はその双方を附し、かつ、権限のある当局の浮出印を押さなければならぬ。

3 各種約国は、この規則に例示として附したひな型にならつて自国の身分証明書の様式を定めるものとする。締約国は、自国が採用した様式の見本を相互に送付するものとする。この身分証明書は、できれば、少くとも二通作成し、その一通は、これを発給した国が保管するものとする。

4 前記の者は、正当な理由がない限り、この身分証明書を取上げられることはなく、また、腕章を着用する権利を奪われることはない。

美術関係研究施設

東京大学史料編纂所

東京都文京区本富士町
電 小石川二一六六、三一八五
(内線三三〇〇一六)

史料編纂所は明治二年三月史料編輯国史校正局を旧和学講談所に設置したのに

始まり其後数度の改変を経て明治二八年四月史料編纂所として帝國大学文科大學に置かれ、更に昭和四年七月史料編纂所と改称した。同二五年四月東京大学附置研究所に改組、現在に至つてゐる。本邦

に關する史料の研究、編纂及び出版を行い、第一部(編年史料)第二部(古文書)第三部(古記録)第四部(近世、維新史料)第五部(海外史料)第六部(史料調査)事務部の七部を置く。「所長」坂本太郎、「部長」(第一)吉村茂樹、(第二)宝月圭吾、(第三)川崎庸之、(第四)伊東多三郎、(第五)岡田幸雄、(第六)森末義章

東京大学東洋文化研究所

東京都文京区大塚町五六
電 大塚五〇九、六九八六

東洋文化の綜合研究を目的として昭和一六年一月東京帝國大學内に設置された。昭和三年四月、外務省所管東方文化學院を併合し、研究所を文京区大塚町に移した。設立当初は哲・文・史学部、法・政部、經・商部の三部門であつたが昭和二四年新に三部門を加え、更に二六年二部門を増加し現在、一、哲學・宗教二、文學・言語 三、歴史 三、文化人類學 五、人文地理學 六、美術史・考古學 七、法律・政治 八、經濟・商業の八部門に分れてゐる。研究発表は講演會の外、本研究所発行の「東洋文化研究所紀要」或は東洋學會機關誌「東洋文化」を通じて行つてゐる。

「所長」 仁井田陞 「教授」 仁井田陞、飯塚浩二、江上波夫、結城令聞、植田捷

雄、米沢嘉圃、(兼)山本達郎、(兼)丸山真男、川野重任、石田英一郎、(兼)辻直四郎

東京国立文化財研究所 美術部

(美術研究所)

東京都台東区上野公園
電 駒込四四八七、一九二三

当所は故黒田清輝子爵の遺志に基き、その遺産を以て開始されたもので、昭和五年開設の準備完了とともに政府に寄附移管された。初め帝國美術院附屬として設置されたが昭和一〇年六月帝國美術院改革に伴い、新に美術研究所官制を制定、文部省所管、帝國美術院に附置され、次で昭和十二年六月官制改正の上文部省の直轄研究所となつた。昭和二年国立博物館官制の成立とともに同館附屬の研究所となり、更に昭和五年八月文化財保護法制定により国立博物館より分離し、美術研究所として文化財保護委員會の附屬となつた。次いで同二七年四月文化財保護法の一部改正に伴い東京文化財研究所が設置されるに及んで同研究所の美術部として藝能部、保存科学部と共に新発足し、更に昭和二九年七月文化財保護法の一部改正により、東京国立文化財研究所美術部となつた。現在の内部組織は庶務室(東京国立文化財研究所の人事並びに業務全般の事務的統轄管理及び総合調整を行う)第一研究室(東洋及び日本の古美術の調査研究を行う)第二研究室(日本の近代及び西洋美術の調査研究を行う)資料室(図書、写真等基礎資料の

蒐集の他、特殊写真による光学的研究(行方)となつてゐる。定期刊行物としては「美術研究」「日本美術年鑑」が有り、また「美術研究資料」や「研究報告」等を出版、その他随時講演会・特別展観等を開催する。なお所内には黒田記念室を設けその遺作を陳列、毎週木曜日午後公開してゐる。美術研究のために着実な基礎を提供すると共に文化財の保存活用に貢献してゐる。

〔所長〕 田中一松〔美術部長〕 福山敏男〔室長〕 (庶務室) 小島忠二、(第一研究室) 熊谷宣夫、(第二研究室) 隈元謙次郎、(資料室) 中川千咲(二三八、二五六、二六八頁参照)

産業工芸試験所

東京本所 大田区下丸子町三三三

電 蒲田六一四一―六

東北支所 仙台市二十人町通一〇

電 仙台 七五五、七五九

九州出張所 久留米市津福本町三八

電 久留米 五三三・五三九

わが国固有の技術である木工・金工・漆工その他各種工芸産業の改善発達を図るため、昭和三年商工省に工芸指導所が設置され仙台市において事業を開始した。其後事業の進展に伴い東京における調査研究の必要を認め、昭和八年五月商工省内に本所出張員事務所を設け常時職員を駐在せしむる事となつた。昭和二二年八月には官制の改正に依り「木工及金工用品」を「工芸品」に改め職員を増員し、必要と認められる地に支所を置き事

美術関係研究施設

務を分掌させることとなつた。昭和一四年八月に輸出工芸雑貨の中心地である大阪江の子島に関西支所を置き、翌一五年一月には商工省告示を以て工芸指導所本所を東京市に移転、又従来の仙台の施設を東北支所に改めて態勢を強化した。戦時中は研究の方向轉換を余儀なくされ、本所、関西支所は戦災焼失した。昭和二三年一月川崎市久地元日本化学工場を借用し本所の再建を図ると共に同年八月久留米市に九州支所を設置、同二四年四月には布施市に関西支所を新築した。昭和二六年内外情勢の推移に伴い、工芸に関する研究指導のほか工業意匠の改善研究、包装に関する研究等を加えて研究諸施設の整備充実を図つた。昭和二七年三月本所を現在地へ移設、同年四月機構を改め、関西支所を廃し、通商産業省工業技術院の管轄の下に名称も産業工芸試験所として新発足した。組織と事務分掌は左の通りである。

〔所長〕 松崎福三郎
〔指導部〕 藤井左内
指導課(明石一男)―技術相談、試験研究
実成果の実施、講習、講演会、鑑査の実施、技術員の養成、展示及び展示設計等の業務。

調査課(齊藤重孝)―内外工芸技術、事情の調査、機関誌の編集、写真技術の応用研究。

〔意匠部〕 豊口克平
意匠研究課(服部茂夫)―工芸品、工業製品の意匠の基礎的要素並びに原型に

関する試験研究。
意匠設計課(芳武茂介)―工芸品、工業製品の意匠の設計。

〔技術第一部〕 福岡雄太郎
木工技術課(新庄晃)―木材等の材料による工芸品の工作技術の試験、研究、試作。

金工技術課(槻尾宗二)―金属等の材料による工芸品の工作技術の試験、研究、試作。

〔技術第二部〕 福岡和雄
試験課(小松和)―工芸品の品質及び材料の試験、研究。
包装材料課(菅原晋)―包装に関する原料、材料及び印刷に関する試験、研究。

包装技術課(有吉金太)―包装容器及び包装加工技術の試験、研究。
〔企画課〕 松田一雄―試験研究等の調整事業報告の作成、広報業務。

〔庶務課〕 池田秀雄―庶務、人事、会計用度、厚生。

〔東北支所長〕 安倍郁二
指導課(猪狩英二)―工芸及び意匠の技術指導、調査並びに工芸品の意匠設計等。

技術課(武田豊太郎)―工芸品の工作、技術の試験、研究、試作。
試験課(鈴鹿清之介)―工芸品の品質、材料及び原料に関する試験、研究。庶務課(高島得末)―庶務、人事、会計用度、厚生。

〔九州出張所長〕 船倉敏―工芸技術の

指導、九州地方工芸事情の調査、木竹工品、窯業、織維製品の意匠設計、試験、研究。

京都大学人文科学研究所

京都市左京区北白川小倉町五〇
電 吉田四一一、四二二

本研究所は昭和一四年八月、国家に須要なる東亜に関する人文科学の総合研究を行うため設立された京都大学人文科学研究所を中核として、外務省所管東方文化研究所と、財団法人西洋文化研究所を合併して昭和二四年三月新に世界文化に関する人文科学の総合研究を行う研究所として発足した。創立の際には三部門であつたが、合併により一部門に増加し、これを日本部、東洋部、西洋部に分け相互に協力して研究を推進してゐる。「京都大学人文科学研究所紀要」其他出版物、講演会によつて研究発表を行い、又常設人文科学講座を開いてゐる。

〔所長〕 塚本善隆〔教授(日本部)〕坂田吉雄(東洋部)安部健夫、貝塚茂樹、水野清一、森鹿三、藪内清、長広敏雄、岩村忍、(西洋部)桑原武夫、清水盛光
奈良国立文化財研究所
奈良市春日町五〇
電 奈良五五七五

昭和二七年文化財保護法の一部改正が行われ、同法の規定に基づき同年四月一日、奈良市に当研究所が設置された。所内の組織は庶務室、及び美術工芸研究室(絵画、彫刻、工芸品の有形文化財並びに工芸技術に関する調査研究を行う)建

造物研究室 (建造物及庭園遺跡に関する調査研究を行う) 歴史研究室 (考古及び史跡並びに古文書に関する調査研究を行う) の四室からなっている。

〔所長〕 田沢坦 (室長) (庶務室) 森川幸男、(美術工藝研究室) 小林剛、(建造物研究室) 森蘇、(歴史研究室) 田沢坦 (一六八、一六九頁参照)

黒川古文化研究所

芦屋市打出春日町三三四
電 芦屋二三九六

本研究所は黒川家歴代の蒐集品をもとにし、理事長黒川幸七が京大教授梅原末治指導の下に昭和五年一〇月財団法人黒川古文化研究所として設立されたものである。主として東洋古文化の調査研究を目的とし、資料及び研究成果の印刷物刊行、及び公開講演と展覧を行っている。

〔理事長〕 黒川幸七 (常務理事兼研究員) 武藤誠、〔理事〕有光次郎、内田幾助、梅原末治、辰馬悦蔵、江口治郎、石崎喜兵衛、黒川いく子、魚澄徳五郎、(研究員兼務) 〔監事〕木村徳兵衛、西川源三

美術関係学会 (五〇音順)

(括弧内は代表者)

京都大学美学会 京都市左京区吉田
京大文学部美学美術史研究室内 電吉田四一一学内(九〇)(井島勉)
藝術学会 文京区大塚窪町 東京教育
大学内 電 大塚一八一 (田原輝夫)

古文化資料自然科学研究会 台東区上野公園 東京国立文化財研究所保存科学部内 電 駒込三七一一一五内線三八(大賀一郎) 機関誌「古文化財と科学」刊

史学会 文京区本富士町東京大学文学部内(坂本太郎)機関誌「史学雑誌」発行
デザイン学会 千葉県松戸市岩瀬 千葉大学工学部工業意匠学教室内 電 松戸二二四四一五(山口正城)

東方学会 千代田区西神田二ノ二電 九段一〇六一 (宇野哲人) 機関誌「東方学」年二回刊「東方学論集」不定期刊、Books and Articles on Oriental Subjects Published in Japan(年刊)、The Transactions of the International Conference of Orientalists in Japan(年刊)

東洋学会 文京区本富士町 東京大学東洋文化研究所内 電 小石川二二二一内線二一九六 (工藤松之助) 機関誌「東洋文化」発行
日本建築学会 中央区銀座西三ノ一電 京橋一一三三三、一一三八、三四四九、四五七二、六〇二〇、(佐藤武夫)機関誌「建築雑誌」発行

日本考古学会 台東区上野公園 東京国立博物館内 電 駒込三七一一一五 (原田淑人) 機関誌「考古学雑誌」発行
日本考古学協会 文京区本富士町 京大文学部考古学研究室内(藤田亮策)「日本考古学年報」発行
日本美術教育学会 京都市左京区吉田

京大文学部美術史研究室内 電 吉田四一一学内九〇 (井島勉) 機関誌「美術教育」発行
日本民俗学会 中央区銀座西一ノ三 実業之日本社内

美学会 文京区本富士町一 東京大学文学部美学研究室内 電 小石川一一二一内線二三五一(竹内敏雄)機関誌「美学」発行
美術教育学会 台東区上野公園東京藝術大学美術学部内 電 駒込三七六一 (小塚新一郎)

美術史学会 台東区上野公園 東京国立文化財研究所内 電 駒込四四四八七 (熊谷宣夫) 機関誌「美術史」発行
仏教史学会 京都市中京区東洞院三条上ル四四九 平楽寺書店内 電 本局一六(禿氏祐祥) 機関誌「仏教史学」発行
三田藝術学会 港区芝三田二ノ一 慶応義塾大学文学部美学美術史学研究室内 電 三田五一八一(守屋謙二)

早稲田大学美術史学会 新宿区戸塚町一ノ六四七 早稲田大学大学院文学研究科藝術科研究室内 電 東京四四一四一内線八二(小杉一雄)
東北大学美学美術史学会 仙台市片平丁 東北大学美学美術史研究室内 電 仙台(三)一一八一内線(六〇四、二五七、六二四)(村田潔)

美術教育施設

(学校)

東京藝術大学美術学部
台東区上野公園
電 駒込三七六一一六

東京藝術大学美術学部の前身東京美術学校は明治二〇年一〇月勅令を以て設置せられ、文部省専門学務局長浜尾新が学長事務取扱を命ぜられ、同二年二月授業を開始した。同三年浜尾新に代つて岡倉寛三学長となつたが、同三年退官し、彼と共に教授橋本雅邦以下多数の教授、助教が辞職した。高嶺秀夫、久保田鼎に次いで同三年正木直彦学長となり昭和七年和田英作、同一年芝田徹心、同一五年浜田源一、更に同一九年六月上野直昭が学長に任ぜられた。昭和四年五月三十一日法律第五百十号を以て国立学校設置法が公布され、東京美術学校は東京音楽学校と共に新制大学に包括され東京藝術大学美術学部及び東京藝術大学東京美術学校として夫々発足した。初代の学長には上野直昭、美術学部長には村田良策が任ぜられ、美術学部長は村田良策の兼任となつた。次いで昭和七年三月三十一日旧制課程廃止により東京美術学校及び同校附属工芸技術講習所は廃止された。

美術学部の学科は本科だけとなり旧制師範科は昭和七年三月三十一日官制を以て廃止された。

〔本科〕
絵画科 (日本画、油画)
彫刻科 (石井教室、菊池教室)
工芸科 (図案計画、金工、漆藝)

建築科

藝術学科

版画研究室

陶磁器研究室

修業年限 四年。授業料 年額九〇〇〇円。

入学資格

(1) 高校卒業者

(2) 通常の課程による一二年の学校教育を修了した者

(3) 文部大臣の指定した者

(4) 大学入学資格検定規程により文部大臣の行う大学入学資格検定に合格した者

〔専攻科〕

入学資格 本学卒業生及び他の新制大学卒業生

〔聴講生〕 (美術専攻の者に限る)

学生以外の者で本学に於て教授する学科科目中(実技を除く)一科目若しくは数科目を選び学習しようとするものは教授上差支ない場合に限り聴講を許可する。(四月中に申込むこと)

検定料五〇〇円。入学料五〇〇円。

聴講料一単位につき三〇〇円。

昭和三年七月一日に於ける各科学学生数は左の通りである。

〔絵画科〕 男一六九名、女七八名

〔彫刻科〕 男七三名、女一四名

〔工藝科〕 男二〇四名、女五八名

〔建築科〕 男五三名、女二名

〔藝術学科〕 男四〇名、女二四名

以上外国人特別学生を含む

美術教育施設

〔専攻生〕 男三四名、女一六名

〔聴講生〕 男四名、女二七名

尚、陳列館と正木記念館があり、随時展覧を行い学生及び一般に公開している。

〔学長〕上野直昭 (美術学部長)小塚新一郎

〔教授〕村田良策、脇本十九郎、前田廉造、石井鶴三、丸山義男、松田義之、藤田亮策、岡田捷五郎、吉田五十八、内藤春治、松田権六、林武臣、西田正秋、新規矩男、菊池一雄、摩寿意善郎、須藤雅路、伊藤廉、小磯良平、山本豊、加藤一、山脇洋二

〔兼任教授〕谷信一

〔助教〕入谷昇、太田栄吉、日下喜一郎、田中文雄、磯矢陽、久保守、内藤四郎、菅村良紀、吉村順三、三井安蘇夫、宮川ムツ、寺田春式、西本順、小池岩太郎、前田泰次、末田利一、六角頼雄、野口三千三、桜林仁、小口八郎、新村撰吉、後藤年彦

〔講師〕菅原安男、村田徳松、須田善二、上原之節、高田正二郎、小山清男、千野茂、田中芳郎、鈴木信一、山本学治、伊藤茂之、山口薫、川合清、牛島憲之、加山四郎、淀井敏夫

〔非常勤講師〕蒔田宗次、蔵田周忠、黒崎静男、水谷武彦、佐藤隆三、豊田三郎、清水正雄、酒井勉、吉川逸治、伊藤要太郎、石田啓、成川武夫、時岡弘、蔵田蔵、毛利登、明石龜太郎

京都工芸繊維大学

本部 京都市上京区北野神社前

電 西陣表三十一番西

工芸学部 京都市左京区松ヶ崎

御所海道町

電 吉田四四一四四三

織維学部 京都市北区大将軍坂

田町

電 西陣表三二、三三

明治三十五年三月設置された京都高等工芸学校は昭和一九年四月官制改正により京都工業専門学校と改称、更に昭和二十四年五月京都織維専門学校と合併して京都工芸繊維大学工芸学部及び織維学部となつた。京都工業専門学校は昭和二十六年三月廃止された。

〔工芸学部〕 機械工芸学科、建築工芸学科、色染工芸学科、窯業工芸学科、意匠工芸学科(昭和29年増設)

〔織維学部〕 養蚕学科、製糸紡績学科、織維化学科

学生定員は昭和三年四月改正となり

〔工芸学部〕 (機械) 一四〇名、(建築) 一二〇名、(色染) 一四〇名、(窯業) 一二〇名、(意匠) 一〇〇名

〔織維学部〕 各学科一六〇名とする。

〔学長〕 中沢良夫 (工芸学部長) 荒木長次 (織維学部長) 山科義寛 (美術関係教授・講師) 河本敦夫、土居次義、福永俊吉、藤原義一、大倉三郎、高原道夫、白石博三、明石国助、霜島正三郎、松田尚之、石原正雄、相川浩、松岡理、元并能、赤沢鏡太郎、今井重季、山田新一、川端弥之助、野口茂、久富浩

京都市立美術大学

京都市東山区今熊野日吉町五〇

電 祇園一五八、三二一

明治一三年七月京都御苑内旧准后里御殿を仮校舎として京都府画学校が開校せられ明治三二年二月京都市に移管の上、京都市画学校と改められ、明治四二年三月京都市立絵画専門学校となり大正一五年現地に移転した。昭和二〇年京都市立美術専門学校と改称、更に昭和二五年新制大学令により京都市立美術大学となつた。京都市立美術専門学校は昭和二十七年三月廃止された。

〔学部及学科〕

美術学部 日本画科 一二〇名
西洋画科 一二〇名
彫刻科 四〇名
工藝科 一二〇名

〔学生定員〕

圖案専攻、陶磁器専攻
塗裝専攻、染織圖案専攻

〔学長〕川村多実二 (教授) 榎原安造、黒田重太郎、須田国太郎、久松真一、金子光介、上野伊三郎、富本憲吉、金尾音美、石村忠次、重久篤太郎、岡本午一、佐和隆研、上村信太郎、川端弥之助、中田勇次郎、辻晋堂、平館西一郎、小合友之助

京都市立日吉ヶ丘高等学校

美術工芸課程

京都市東山区泉湧寺山内町

電 祇園四三、七〇

明治一三年京都府画学校が設立され、その後同二四年に京都美術学校、二七年に京都市立美術工芸学校と名称を変えた

が、更に昭和二三年京都市立美術高等学校となり、同二四年には京都市立日吉ヶ丘高等学校の総合制の中へ美術課程として併置された。

〔学科〕

日本画科

西洋画科

彫刻科

図案科

漆藝科

陶藝科

服飾科

〔校長〕小林儀三郎〔職員〕勝田哲、天野大虹、川島浩、松下明治、錦義一郎、留岡彰、矢野判三、藤庭賢一、高橋慎吾、安田謙、笠岡嘉一郎、水内平一郎、平石晃祥、中島清、加藤英子、伊藤久三郎、上村健治、原照夫、田代誠、橋目雅子、寺井二三子、武田恒夫

女子美術大学

杉並区和田本町八六〇

電 中野九一〇

明治三三年本郷弓町に女子美術学校として創立された。後菊坂に移り、昭和四年専門学校に昇格女子美術専門学校と改称、同一〇年杉並に移転した。昭和二四年四月新制大学として女子美術大学となった。

〔藝術学部〕

洋画科

日本画科

図案科

工藝科

修業年限 四年。授業料年額二〇、〇〇円。

〔学長〕加藤成之〔主要職員〕竹中武重、村岡景夫、沢柳大五郎、西田正秋、坂崎坦、富永惣一、久野健、後藤守一、秋山謙蔵、真崎公二、川島理一郎、木下義謙、中山巍、森田元子、新道繁、佐々木四郎、高須頼子、春田安喜子、吉江麗子、奥村土牛、三谷十糸子、片岡球子、後藤芳仙、大塚和、麻生秀二、新井泉、乗松殿、福田良一、由良玲吉、橋本徹郎、河野鷹思、松井直樹、上原之節、高田力之、桑沢洋子、柳宗悦、芹沢鈺介、柚木沙弥郎、柳悦孝

多摩美術大学

世田谷区玉川上野毛町二一三

電 玉川五六、二二〇六

昭和一〇年九月、北吟吉、牧野虎雄、杉浦非水、近藤清吾によつて多摩帝国美術学校が設立され、更に昭和二二年専門学校令による多摩造形美術専門学校となった。昭和二五年新制大学令に伴い、三年制の短期大学として多摩美術短期大学と改称したが、二八年度より四年制の新制大学となった。

〔学科〕

絵画科 (日本画、油画)

彫刻科 (塑造、木彫)

図案科(商業デザイン、工業デザイン)

修業年限 四年。

〔学長〕井上忻治〔学部長〕逸見梅栄

〔職員〕奥村土牛、郷倉千鞆、森白甫、新井勝利、島田訥郎、森田曠平、宮本三

郎、鈴木信太郎、鈴木保徳、鈴木誠、林武、大沢昌助、川端実、末松正樹、菊地精二、高橋庸男、長屋勇、佐々木大樹、笠置季男、早川巍一郎、円勝二、杉浦非水、山名文夫、吉田謙吉、剣持勇、今井兼次、芹沢鈺介、木村和一、岩下洋、青井辰夫、勝呂忠、三沢寛三、山名有世

武蔵野美術学校

武蔵野市吉祥寺三二〇

電 武蔵野二四七二

昭和四年設立された帝國美術学校は同二二年造形美術学園と改称され、更に同二四年武蔵野美術学校となった。なお別に武蔵野美術短期大学を新設した。

〔本科〕

日本画科

西洋画科

彫刻科

デザイン科

以上の入学資格は新制高校、旧制中学卒業者

研究科

本校卒業程度以上

修業年限 四年。学生定員五〇〇名。

授業料年額 一八、〇〇〇円。

〔校長〕名取堯〔教育部長〕名取堯

〔主要職員〕奥村土牛、服部有恒、川崎小

虎、福田豊四郎、林武、三雲祥之助、鈴木信太郎、森芳雄、山口長男、山口薫、

麻生三郎、高島達四郎、井上長三郎、斎藤長三、横地康国、内田武夫、藤井令太

郎、清水多嘉示、原弘、亀倉雄策、三林

亮太郎、河野鷹思、棟方志功、金原省吾、板垣鷹穂

文部省指定図工科 教員養成科

修業年限二ヶ年 入学資格高校卒以上

〔科長〕名取堯

(中学図工二級免許)

教職員は同じ。

洋画通信教育部

本科・理論講座、実技講座、デザイン講座

職員は同じ。

日本大学藝術学部

練馬区江古田町

電 落合三三三七

三六九五

昭和二年文学部に藝術専攻科が設置されたのに始まり、昭和二四年新制大学となり、大学院も併置している。

〔藝術学部〕
美術学科
音楽学科
文藝学科
演劇学科
写真学科
映画学科

〔藝術学部長〕渡辺俊平〔美術学科学主任教授〕山脇敏〔主要教員〕湯川制、桜林仁、野口弥太郎、山本正、斎藤長三、糸園和三郎、沢健太郎、柳原義達、深瀬嘉臣、水谷武彦、三吉正光、富永惣一、吉田謙吉、田中一松、阿部公正、西川

驥、高橋正年、鈴木太郎、麻生三郎、藤岡一、原弘

日本美術学校

練馬区向山町一

電 練馬一九三九

大正六年、故早大教授紀淑雄により設立された。

〔本科〕 修業年限二年、入学資格は新制高校卒業生或は同程度の者

〔選科〕 修業年限二年、入学資格は新制中学卒業或は同程度の者

〔研究科〕 年限を定めない、入学資格は本科修了者及び同程度の者

〔別科〕 修業年限一年、勤労者のため毎土、日曜日に教授する。特に資格を問わない。

授業料 年額(本科)(選科)(研究科)六〇〇〇円。(別科)三六〇〇円

他に査料、入学料を必要とする。

〔校長〕田中泰祐〔講師〕(実技)林武、高野真美、服部正一郎、鷹山宇一、村山森人、高橋亮、村松乙彦、坂口英一、大津鎮雄、寺戸恒晴、山本朝子、古田達賢、中尾章、斎藤長三、荻太郎(学科)田中泰祐、青柳正広、佐波甫

文化学院 美術科

千代田区神田駿河台

電 (東京29)二二七四一五

大正一一年西村伊作により一般の学校教育とは異なる自由教育を標榜して設立された。

〔美術科〕

〔夜間美術科〕

修業年限 二年。授業料年額一〇、〇〇〇円。材料費三〇〇〇円。

美術教育施設

入学資格 旧制中学、新制高校卒業程度。及び同等の実力を持つ者。

〔日曜美術科〕

授業料年額五〇〇〇円。材料費一五〇〇円。

〔院長〕西村伊作

盛岡短期大学美術工藝科

盛岡市内丸六九

電 盛岡二七一

昭和三年五月、絵画・彫刻及び工藝の両域に亘つて専門家・美術教育者及び市町村の工芸指導者を養成すると共に藝術を中心としての教養・技術によつて生産・文化に寄与するのを目的として岩手県立美術工藝学校が設立され、昭和二年四月盛岡短期大学美術工藝科に昇格した。更に翌年従来の美術工藝学校を改組して岩手県立美術工藝高等学校が同地に併置され、初代盛岡短期大学美術工藝科長森口多里が岩手県立美術工藝高等学校を兼任した。

修業年限 三年。学生定員一五〇名。

〔美術工藝科長〕小川秀五郎〔美術工藝科関係教授〕堀江起、〔助教〕奈知安太郎、佐々木一郎〔講師〕三ヶ尻正、深沢省三、池田桃太郎、高橋吉雄、戸田芳鉄、小池岩太郎、松本繪、手塚健二、吉川保正

なお美術工藝科は本年度を以て廃止される。

岩手県立美術工藝高等学校

盛岡市内丸六九

盛岡短期大学美術工藝科参照。一般高等学校の学課規程に従い、その他専門学課と専門実習を課す。

〔学科〕

美術科(日本画専修、油絵専修)

工藝科(図案専修、木工専修、漆工専修、金工専修)

〔校長事務取扱〕加藤英夫〔主要職員〕加藤英夫、松本繪、池田龍甫、三ヶ尻正、堀江起、海野経、深沢省三、佐々木一郎、奈知安太郎、杉江康彦、中島喜雄、戸田芳鉄、照井儀也、菅原圭三、手塚健二、小関六平、松田俊男、多田進

金沢美術工藝大学

金沢市下本多町三番丁九

電 金沢(3)三五三〇、一

昭和二年七月金沢美術工藝専門学校が設立され同一〇月開校した。同二五年金沢美術工藝短期大学(三年制)として発足、同三〇年更に金沢美術工藝大学となり初代学長に森田亀之助が任命された。

〔美術工藝学部〕

美術学科(絵画専攻、彫刻専攻)

産業美術学科(工業意匠、商業美術)

修業年限四年、入学資格高校生

〔学長〕森田亀之助〔教授〕野田九浦、和田三造、高村豊周、小糸源太郎、吉田源十郎、畠山錦成、北出塔次郎、小松芳光、原田太一、高光一也、矩幸成、板垣應徳、秋山光夫、五井孝夫、平野謙一、天川維文、米永嘉勝

〔実技研究所〕

〔東京〕

春陽会研究会

事務所 豊島区要町二ノ一一 荒木市三方

会場 港区赤坂青山南町六ノ六四 小原会館

昭和四年九月創立。昭和二年一月従来の美術研究所を研究会と改称した。春陽会の藝術活動の一翼として純粋美術を研究することを目的とする。実技指導、作品批評、講義講演等。入所資格は主として、春陽会々員、準会員、又は所員の紹介による。入会金三〇〇円。

毎月第四日曜日を研究会とし、午後一時より五時まで、作品批評及講演を行う。研究生七〇円、臨時聴講者一〇〇円。

〔指導者〕水谷清、岡鹿之助、加山四郎、中谷泰、三雲祥之助、南大路一、他春陽会々員及準会員

剣持勇デザイン研究所

港区赤坂青山南町二ノ一六

昭和三〇年八月創立。学校教育に欠缺している高度のデザイン研究を、実際の制作研究によつて行おうとする。入所資格は大学卒業程度で入所選衡を經たもの。種目は建築内部デザイン、工業デザイン。毎日午前九時―午後五時。月謝は実費(指導者 剣持勇)

東京Y M C A 藝術園 絵画科

千代田区神田美土代町七

電 丸の内二一〇一―一五

種目はデッサン、油絵で児童科、高等科、研究科の別がある。毎週土曜日一時

三時。三時一五時。夜間は五時半一八時迄入園料三〇〇円、園費五〇円、月謝児童科四〇〇一五〇〇円、高等科五〇〇円、研究科五〇〇円〔指導者〕山田稔〔研究所代表者〕世田谷区玉川等々力町三二六木本茂三郎。

日社研究所

会 場 上野・桜亭

事務所 板橋区大谷口町一一

電 二九ノ一佐藤太清方

電 板橋八五一四

昭和二五年創立。日本画の研究、毎月一回研究会及び講演会を上野桜亭で開く。研究費は会員年三〇〇円で入所資格は委員推薦による。年二回発表展開催。〔指導者〕伊東深水、児玉希望、矢野橋村。

青山絵画研究所

港区赤坂青山南町六ノ一〇八

電 青山七八五五

昭和二四年一〇月創立。洋画図案の基礎技術の指導と藝大受験を目的とする。種目は石膏・人体クローキ・油絵・水彩風景・静物で毎日午前九時一十二時、午後一時一五時、六時一九時、日曜部午前九時一午後五時、研究費は月七〇〇円。〔日曜部五〇〇円〕。〔指導者〕辻永、小川伝四郎

光風会美術研究所

港区芝田村町一ノ七 光風会館内

電 東京(一)七三三二

昭和二七年創立。光風会々員指導の洋画実技研究所で、油絵、木炭素描の外西

洋美術史、服飾研究の講習も行う。石膏部(午前月入〇〇円 人体部(午後)月一〇〇〇円 クローキ(夜間)六回券三〇〇円。〔指導者〕辻永、中村研一、寺内万治郎、小糸源太郎、耳野卯三郎、小寺健吉他光風会々員。〔代表者〕新宿区戸塚諏訪町一八 中沢弘光

第一美術研究所

文京区高田豊川町六〇

電 大塚一五〇一

電 石川重信方

昭和二二年創立。専門家及び中・小学生を含む洋画の実技研究所。種目はデッサン、油絵、水彩、クレヨンに亘り、毎週土曜日、月謝五〇〇円。〔指導者〕石川重信、高橋亮、谷井喜三郎、村上松次郎、野沢孝作、上野重和、堀忠

女子美術学校

文京区本郷元町公園

女子美術学校は大正二年一月創立。女子に対し美術に関する専門教育を行い、ナショナル・アカデミーは昭和三年一月創立。ともに美術家養成を目的とする。入所資格高校卒業程度。デッサン科、油絵科、制作科がある。入学金一〇〇〇円、月謝一〇〇〇円、考査料五〇〇円〔指導者〕石井柏亭、原田真美、東郷青児、鷹山宇一、不破章、滝川太郎

水道端洋画会

文京区水道端一ノ五〇

高沢節方

昭和三〇年一〇月創立。藝大受験と洋画の基礎及び本格技術の指導を目的とする。種目、石膏、人体のデッサン及油絵、静物写生、クローキ、入所資格は高校生以上制限なし。毎日午前、午後、夜間部の他日曜日は午後一時一四時の級がある。入所金三〇〇円、月謝は人体部一〇〇〇円、石膏部七〇〇円、日曜部二五〇円〔指導者〕高沢節、中根宏、田口安男、小松崎邦雄

昭和二二年六月創立。将来美術家を志す人、及び広く美術に親しむ一般の人々に解放し、基礎的研究と新しい美術にする教養を高めることを目的としていたが昭和三二年閉鎖した。

駒込美術研究所

文京区駒込千駄木町七

電 駒込一一七九

昭和二七年一月創立。三〇年閉鎖。行動美術東京研究所

文京区富坂町一ノ二

昭和二四年四月創立。美術に関する教養を高め日本画制作上必要な技術を研究指導することを目的とする。入会資格は日本画の修得を志すもので日本画院同人の推薦を経たる作家、尚研究会は主として下図作品を持ちより之に対し同人の評、会員の互評を行う。其他美術に関する専門家の講演、見学並びに美術映画の鑑賞を行う。毎月一回開催。入会金三〇〇円、会費毎回五〇円〔指導者〕岩田正巳、服部有恒、川崎小虎、野田九浦、望月春江、他同人

日本水彩画研究所

台東区根岸小学校美術教室

事務所 中野区江古田一ノ二

電 落合六七三三

昭和二四年九月創立。皮革、布帛の染色全般に亘り本格的染色技術の指導を行う。毎月曜、火曜午前一一時一午後四時(二回三〇〇円) 研究科は随時で毎月一五〇〇円。毎金曜午後一時一四時クローキ研究。〔指導者〕長浜重太郎、中村妙子

日本画院研究会

会 場 都美術館を借用

本部 台東区谷中清水町一

電 駒込三八一〇

望月春江方

昭和二四年四月創立。美術に関する教養を高め日本画制作上必要な技術を研究指導することを目的とする。入会資格は日本画の修得を志すもので日本画院同人の推薦を経たる作家、尚研究会は主として下図作品を持ちより之に対し同人の評、会員の互評を行う。其他美術に関する専門家の講演、見学並びに美術映画の鑑賞を行う。毎月一回開催。入会金三〇〇円、会費毎回五〇円〔指導者〕岩田正巳、服部有恒、川崎小虎、野田九浦、望月春江、他同人

電 落合六七三三

明治四〇年創立。男女、年齢、職業を問わず水彩画の指導を行う。毎週日曜日、九時—四時。石膏、人体、静物、風景、記名料二〇〇円。会費毎回八〇円。臨時参加一回一〇〇円。〔指導者〕石井鶴三、水野以文他日本水彩画会々員（主任）不破章、竹内梅治郎。〔代表者〕日本水彩画会幹事 細島昇一

現代版画研究会
会 場 新宿区笹崎町一五
（都立新宿生活館）
電 九段三六六七
事務所 杉並区高円寺三ノ一
入 〇 日本版画協会

昭和二五年創立。創作版画の普及を目的とし、特に初心者のために実技指導を行つていたが、昭和三年より休会。
新宿美術研究所
新宿区歌舞伎町八七九
電 四谷四五一八

昭和二八年一月創立。入所資格なし。石膏部。人体部に分け毎日午前九時—午後九時迄、入所金八〇〇円月謝八〇〇円。〔指導者〕伊藤廉、三雲祥之助、野口弥太郎、古茂田守介、松島正人、木内岬、五味秀夫

目白洋画研究所
新宿区下落合一ノ五二一
電 落合五三一三

昭和二六年五月創立。毎日午後、油彩夜間、裸婦クローキ、一回七〇円。目白モデル幹旋所併設。

美術教育施設

〔代表者〕 神保重義

職・美・協・中央美術研究所

新宿区戸塚町二ノ五四
杉本鷹方

昭和三年二月創立。年齢・資格を問わず一般に開放し、石膏、人体のデッサンから制作の指導に及ぶ。毎日午前は石膏、午後及び夜はモデル、日曜は午前午後ともモデルを使用する。入所費五〇〇円、石膏部三〇〇円、人体部午後八〇〇円、夜間部・日曜部六〇〇円

〔指導者〕 井上長三郎、麻生三郎、中谷泰、布施浩、杉本鷹、大野五郎、鳥居敏文
陶彫会研究所
中野区江古田二ノ九二八
滝川美一方

陶磁彫刻の基礎的な技術の相互研究と併せて有為な陶彫家の育成のための実技指導を行うことを目的とする。クローキ、塑像、型取、型起、釉薬、焼成。毎週土、日曜日午前九時—午後四時。入所金一〇〇〇円。月謝一〇〇〇円。〔指導者〕 陶彫会々員

国画会美術研究所
杉並区上荻窪二ノ六〇
電 荻窪五七

昭和二六年五月創立。専門家、藝術大受験生及びアマチュアも含めた洋画の実技研究所で美術講義批評等も毎週行ふ。石膏、デッサン部は毎日午前九時—一二時、午後一時—四時の二回、月謝各

七〇〇円。人体は土曜日午前中。（一八回五〇円）、月謝七五〇円。入会金一〇〇円。〔顧問〕 梅原竜三郎〔指導者〕

主任、川口軌外その他伊藤廉、大森啓助、松田正平、久保守、土田文雄、原精一等在京国画会員が毎週二名交代で指導。〔責任者〕世田谷区玉川用賀町一ノ一、松田正平
フォルム洋画研究所
杉並区高円寺七ノ九六四
真野広方

昭和三〇年四月創立。学歴、男女年齢を問わず、一般に開放、受験者の指導も行う。石膏デッサン科午前九時—正午、午後三時、六時半、月謝七〇〇円、人体科午後一時—三時半、午後六時—九時、月謝一〇〇〇円。日曜クローキ科、午後六時—九時、五〇〇円。〔指導者〕 佐々木孔、真野広、村松均

阿佐ヶ谷美術学園
（附属阿佐ヶ谷洋画研究所）
杉並区高円寺三ノ一八四

昭和二二年一月創立。入学は人物考査のみ。種目は油絵科（人体）二年デッサン科（石膏）一年工藝デザイン科一年、建築デザイン科一年、修業の公認各種学校。入学金三〇〇〇円、授業料八〇〇円、考査料三〇〇円。昼間部及夜間部。学科は色彩学、生体解剖学、西洋美術史、図学、電気基礎、建築史等。入学資格は短大又は高等学校卒業。「教官」三輪孝、井手宣通、南政善、伊藤清水、橋原健三、

福田良一、内山孝、上原之節、小山清男、中尾喜保、篠原宏、友部直、佐藤功、星守雄、橋本博英、黒須帝介、海老根桂二、坪井秀雄、前沢賢治、宮脇檀。

〔附属研究所〕は日曜日のみで修業年限はなし。入所金一〇〇〇円、月謝デッサン科半日部四〇〇円、一日部五〇〇円、色彩科五〇〇円、児童部五〇〇円（油）、四〇〇円（クレパス水彩）年齢、資格はなし。

三軌会研究所
杉並区上荻窪一ノ一三
互井開一方
電 荻窪六四六五

昭和二五年四月創立の三軌会研究所を改称。基本的技術並びに水彩画一般についての指導を行う。石膏（木炭）、人体（木炭・水彩）水彩画研究の科目があり第一、第三の土曜・日曜日。月謝五〇〇円。高通信指導も行う。〔指導者〕 互井開一、古郷八郎、前林章司、他同協会々員
伊藤絵画研究所
杉並区成宗一ノ二七八
伊藤清水方
電 荻窪七一六八

昭和二九年一月創立、入所資格に制限なく基礎技術の指導を主とする。石膏デッサン（藝大受験程度）午前九時—午後九時。月謝八〇〇円。人体クローキは日曜日夜間、一回五〇円。児童部は日曜午前中、月謝三〇〇円、入

所金一〇〇〇円。〔指導者〕伊藤清水、中沢弘光、阿部まり、中山忠彦。

創藝協会研究所

杉並区東荻町六九神津港入方
電 荻窪四四三

昭和二七年二月創立。石膏素描による基礎的写形を指導する。初学者向。毎週日・月・土の午前九時より正午迄。入所資格は保証人が必要とする。月謝七〇〇円。入所登録金二〇〇〇円。〔指導者〕神津港人。

東京美術研究所

杉並区馬橋三ノ四二四

昭和二一年四月創立。個人的指導により初心者のための実技を主とし併せて専門教育も行う。本科は二ヶ年で毎日九時―五時、月謝一〇〇〇円。他に選科一年、デッサン科、研究科があり、毎日、午前の部月謝八〇〇円。午後の部、夜間部月謝各八〇〇円。日曜部九時―五時月謝五〇〇円。入所金一〇〇〇円。またクローキ一部を設け毎日曜の午後、及び夜間モデルを使用(一回五〇円)。〔指導者〕土味川独甫、竹村和夫、富田燦、飯田庸夫、坂忠雄他、外講師数名

光陽会研究所

北区上中里町一の一
多々羅義雄方

昭和二九年二月、光陽会創立と同時に光陽会研究所を設立、後進美術家養成を

目的とする。石膏素描部、水彩・油絵部、人体部があり毎日曜日午前九時―二時。月謝人体部実費負担他は四〇〇円。〔指導者〕多々羅義雄、井口勇、早川芳彦、斎藤武、間所一郎、矢部連光。

豊島絵画研究所

豊島区池袋三ノ一三九九
島木律方

昭和二七年一月創立、誰にでも絵が描ける様にとというのが目的で、デッサン、油絵を教える。月火・水・木曜日、石膏、油、金曜、日曜日、固定ポーズ。土クローキ。昼夜二部制月謝五〇〇円、クローキ一回七〇円、児童部もある。

春日部水彩研究所

豊島区長崎五ノ三一
春日部たすく方
電 落合九〇一

昭和二二年創立。水彩画を専門とし、学童、専門家の別がある。毎土・日曜日、月謝四〇〇円、冬期五〇〇円〔指導者〕春日部たすく

新興美術院 附研究所

豊島区目白町三ノ三五五九
池袋八九七一

昭和三〇年二月創立。学歴、年齢、男女を問わず造形藝術の研究を行う。〔種目〕日本画科、デッサン科、余技、生活美術部、子供の画の勉強会(日本画科)午後六時―九時、月謝五〇〇円、(デッサン科)午後六時―九時、一回五〇円、

(余技)午前九時―二時、月謝一〇〇〇円、(生活美術部)二時―五時、月謝三〇〇円、(子供の画の勉強会)二時―四時、月謝二〇〇円。〔責任者〕大橋嘉一

桑の実美術研究所

豊島区雑司ヶ谷一ノ三〇二
吉城弘方

昭和二五年創立。洋画部、図案部の二種をおく。石膏、人体デッサン、洋画技法の研究(油彩・水彩・パステル等)。図案技法、図案原理・図案における材質、マチエールの研究。午後五時―九時一週五日制附属II小中学部、補習指導
土曜日二時―五時 日曜日一〇時―一時

附属幼稚部II週六日制一〇時―三時

美術を中心に一般保育を含めた個性を生かした個人指導。定員二〇名(三才―学齢期まで)

江古田洋画研究所

練馬区小竹町二四四三
服部季彦方

昭和二九年創立。洋画の基礎技術及受験目的の指導を行う。種目は石膏デッサン、油画、水彩其他で、本科毎日(除日曜)午前、午後、夜間。日曜科、小学生午前、一般午後(月謝)受験料、本科六〇〇円、入所金六〇〇円。日曜科午前二〇〇円、午後三〇〇円、入所金三〇〇円〔指導者〕服部季彦

麗麗社研究所

練馬区大泉学園町七一八

平子聖龍方
昭和二一年一月創立。余技、専門の区別を問わず指導する。種目及び指導者日本画(平子聖龍)、毎日曜、一回一〇〇円。

双台社写真研究所

渋谷区代々木上原一三三〇
電 渋谷一三六〇

基礎技術の訓練に重きをおく。A・Bのクラスがあり、Aは素描、水彩、油絵。Bはクレヨン、パステル、水彩、油絵。Aクラスは高校生以上一般、毎日曜、月謝五〇〇円。Bクラスは小・中学生、毎土曜月謝三〇〇円。〔指導者〕石井柏亭、平塚運一、荒谷直之介、他双台社会員、〔代表者〕石井柏亭

代々木絵画研究所

渋谷区代々木山谷二七七
本宮昭五郎方
電 東京三七局九三二七

昭和二九年八月創立。人体描写の習得に主眼をおく。午前九時―正午、又は午後一時―四時、月謝一〇〇〇円。夜六時―九時、月謝七〇〇円。土曜夜間(特設クローキ)クラス、一回五〇円。〔指導者〕平沢喜之助

絵の教室

世田谷区松原町三ノ八〇五

昭和二六年八月創立。素人を対象とする。油絵、水彩画、デッサン、クレパス、パステル画を教える。(子供・大人)毎

日曜日、午前又は午後、月謝子供五〇〇円。大人一〇〇〇円。〔指導者〕一水会々員 坂本正春

硯術研究会研究所

世田谷区砧町一三〇

中野秀人方

昭和二四年一月創立。趣旨は絵画を主とし文化一般の理解を高めることにある。人体デッサン、油絵、水彩、パステル。程度は初歩より専門家迄。毎土・日曜、午後一時より、月謝二五〇円

田園調布純粋美術研究室

世田谷区玉川田園調布二ノ七二三

電 田園調布二〇八九

昭和二〇年一月創立。洋画の実技を指導する。モデル使用によるデッサン及び油絵の勉強で土曜日以外毎日、午後は固定ポーズ。夜間はクロッキー（月謝昼夜通し六〇〇円）入会金八〇〇円、土曜日休み。〔指導及び代表者〕猪熊弦一郎 自由ヶ丘絵画研究所

自由ヶ丘絵画研究所

目黒区自由ヶ丘二八八九

昭和一五年四月創立。高校生以上のAクラス。小・中学生のBクラスの別がある。A—油絵、水彩、デッサン。毎日曜午後一時—四時。月謝四〇〇円（石膏）、五〇〇円（人体）。

B—水彩、クレパス等、毎土曜午前九時—午後五時。毎日曜日午前九時—十二時。月謝三〇〇円。〔指導者〕須山計一

他

近藤吾朗アトリエ

大田区田調布一ノ一六

美術教育施設

昭和二五年創立。一般教養のための絵画教育を目的としている。種目は油絵、水彩、素描に亘り、毎日曜午後一時—五時、月謝一〇〇〇円。（モデル、暖房費を含む）児童は毎土曜の午後、月謝四〇〇円。〔指導者〕近藤吾朗

河合美術研究所

大田区久ヶ原町六四二

河合敏雄方

昭和六年創立。太平洋画会委員河合斗潮他同委員数人の指導による絵画研究所。土曜（夜）日曜—成人、金・土曜（午後）—児童、〔顧問〕熊谷守一

大森画荘研究所

大田区新井宿二ノ一四八〇

上原寛子方

創立昭和三二年。初心者、専門家の別を問わない。（昼間クラス）午前—一時—午後五時、石膏、月謝一〇〇〇円。夜間クラス）午後五時—九時、人体・石膏、八〇〇円。（社会人クラス）日曜日午後一時—五時、月謝五〇〇円。（児童クラス）土曜日午後一時—五時月謝三〇〇円。他に入所金一〇〇〇円。〔指導者〕大道秀夫、久保田善満。

織田石版術研究所

武蔵野市吉祥寺校小路一七三七

昭和二七年一月創立。石版術の普及を目的とし、入所資格はデッサンの出来る人。一ヶ月二回（午前九時—午後四時迄）。〔指導者〕故織田一磨門下生

井の頭洋画研究所

武蔵野市吉祥寺三二六一

堀田清治方

昭和一二年七月創立。石膏、人物、油絵、デッサンを指導、毎日九時—正午一時—四時迄、月謝五〇〇円〔指導者〕堀田清治

創型会彫塑研究所

浦和市常盤町六ノ二二

中野四郎方

昭和二六年創立。モデルを使用してクロッキー、塑像及び基本型体の構成と応用研究。入所資格にデッサン及び石膏像製作に多少経験あるもの。研究日は日曜と春夏冬の休暇。〔指導者〕中野四郎、その他創型会同人

造形美術研究所

浦和市外与野町大戸四二八

手塚方

昭和二六年一月創立。絵画、彫塑、造形理論、造形教育原理等、各部門に亘る基本的研究。その他、毎週土曜、日曜児童、生徒の実技指導。〔研究所員〕手塚又四郎、田中修、飛岡文一、大坪実、石原英雄、大里光春、岡沢光雄、番匠宇司、染谷英五、星野祐二、磯谷猛、三森

一伸、公衆源一郎

藤 画 塾

埼玉県蕨町土橋四二〇五

昭和二二年四月創立。洋画の基礎教育を行い、デッサン、油絵、彫刻、人体、受験の各科に分れ、午前、午後、夜間（但夜間部は日曜休み）部がある。〔月謝〕五〇〇円、寄宿舎がある。〔指導者〕寺内万治郎、島野重之、金子徳衛、長谷秀雄

茨城綜合美術研究所

茨城県土浦市富士崎町四八六

昭和二六年一月創立。〔代表者〕鶴岡義雄、他。（昭和三〇年七月解散）

サロンド・ジュノン

名古屋研究

名古屋研究

は午前九時—二時迄でクロッキー。専門学科は随時研究会を催す。記名料五〇円、月謝は各科五〇円、院費一〇〇円、(燃料費モデル費は別)資格制限なし。(指導者) 黒田重太郎(研究所代表者)、川端弥之助、津田周平

行動美術京都研究所

京都市左京区川端丸太町下ル和風書院内
電 吉田二六八四

昭和二〇年六月創立。美術の研究のみならず美術運動を目的とす。夜間部は毎日曜、土曜、午後六時—九時。日曜部は毎日曜午前九時—午後四時、月謝は孰れも石膏が三〇〇円、人体四五〇円、クロッキー部は毎月曜午後六時—九時、毎回四五円。他に学生部毎土曜午後二時—五時がある。(指導者) 伊谷賢蔵、伊藤久三郎、福井勇、飯田清毅、(研究所代表者) 保地謹哉

葉野洋画研究所

京都市上京区北大野町六八山田新一方
電(呼出) 西六五三三

昭和一〇年創立。創設者太田喜二郎の遺志を継ぎ健全な基礎技術の指導を目的とする。石膏、人体デッサン部及びクロッキー部一回五〇円、一ヶ月一七〇円。人体(油絵、水彩)部、午前、午後各六〇円、終日一〇〇円。何れも、日曜午前午後、金、土曜午後、夜間。木曜夜間。入所金五〇〇円。(指導者) 山田新一、霜鳥之彦、坪井一男、由里明、富士一男

独立美術京都研究所

京都市下京区八条西酢屋町四

昭和八年九月創立。毎日午後六時半—九時半、月謝七〇〇円。少年部は日曜午前及び午後。(指導者) 須田国太郎、田中佐一郎、今井憲一

大阪市立美術館附設美術研究所

大阪市天王寺区天王寺公園内市立美術館内
電 天王寺六一〇、四六〇九

昭和二二年五月創立。日本画、洋画、彫塑の三科あり各々初歩指導、美術学校受験者の指導及美術学校等の卒業者の実技研究場所等各種に利用されている。日曜祭日を除き九時—四時。入所金三〇〇円。月謝は洋画人体、彫塑、日本画部各三五〇円。洋画石膏部三〇〇円。(指導者) 日本画—中村貞以、矢野橋村、菅橋彦、生田花朝他。洋画—須田国太郎、鍋井克之、小磯良平、田村孝之介他。彫塑—保田龍門、上田暁、今村輝久他

美術観覧施設

【東北地方】

本間美術館

山形県酒田市浜畑町一二
電 酒田一四二九

昭和二三年五月創立。地方文化に貢献するために旧本間家別邸を美術館として公開した。文書・陶器等東洋美術関係五〇〇点、洋画・版画等西洋美術関係五〇

数点を有し、年平均二五回展覧会を開いている。運営は別に組織された酒田美術協会が当っている。

〔館長〕 本間祐介
〔観覧日〕 月曜を除き、毎日午前九時—午後四時半
〔観覧料〕 五〇円

致道博物館

山形県鶴岡市家中新町戊一
電 鶴岡一一九九

昭和二七年三月創立。維新後、藩校致道館廃止と共に、旧藩主酒井家邸内に図書研究所文会堂を設け、各種郷土資料の研究調査公開を行つて来たが、昭和二五年財団法人以文会の設立と同時にこれを継承、同二七年博物館法により財団法人以文会立致道博物館、更に三二年財団法人致道博物館と名称を変更した。古文書五六八点、甲冑二〇点、刀剣三四点、書画数三五〇点、考古学資料二〇〇〇点、民族資料一五〇〇点等を有し、美術展・文化史展等を開き、郷土文化の向上を図り資料の保管陳列等を行つてゐる。

又明治一七年建造の初期洋風建築を敷地内に移築し、保存している。

〔館長〕 大塚又太郎
〔観覧日〕 毎日午前九時—午後五時
〔観覧料〕 展覧会の内容に応じて之を定める。

〔観覧料〕 展覧会の内容に応じて之を定める。

上杉神社社照殿

山形県米沢市南堀端町三六
電 米沢一七三〇

大正一二年四月創立。上杉神社祭神謙

信公及び鷹山公の遺品を収蔵。絵画、工

藝品及文書約五〇〇点

〔観覧日〕 希望に応じ随時開館
〔観覧料〕 三〇〇円
〔観覧料〕 無料
中尊寺讚衡蔵

岩手県西磐井郡平泉町

〔館長〕 井上庄七
〔観覧日〕 四、五、六、七、九、一〇の六ヶ月間、毎日午前一〇時—午後三時

〔観覧料〕 無料

電 平泉四

昭和三〇年五月三日竣工開館。一字金輪仏、大日如来、釈迦・弥陀・薬師の丈六仏、千手観音等の仏像を始め藤原四代副葬品及び多数の経巻、工藝品、古文書類に至る国宝重文を収蔵展観する。又同寺境内に金色堂(国宝)、経蔵(重要文化財)がある。

〔観覧日〕 四月—一〇月(午前八時—午後五時) 十一月—三月(午前八時半—午後四時)

〔観覧料〕 無料

仙台市大聖寺裏門通三
電 仙台②四七七七

大正一二年二月創立。大正一二年文部省認可となり昭和八年に開館一般公開した。昭和二〇年戦災を受けたが二三年修理再開した。東北地方の自然科学資料、

文化史資料を陳列する。

〔館長〕 齋藤養之助

〔観覧日〕 月曜日を除き毎日

〔観覧料〕 一〇〇円

〔関東地方〕

茨城県立美術館

水戸市北三ノ丸県立図書館内

昭和二年五月創立。新憲法公布を記念して設立され、美術思想の普及向上を図る目的を以て展覧会・講演会等の事業を行っている。日本画・洋画・彫刻・工藝の所蔵品がある。昭和三年右図書館内に移転。

〔館長〕 小島貢

〔観覧日〕 毎火曜日、年末年始、祝祭日、毎月未整理日を除き毎日午前九時―午後四時三〇分。

〔観覧料〕 二〇〇円

笠間町立美術館

茨城県西茨城郡笠間町

佐白山麓公園内

電 笠間四一

創立昭和二年一月。県内外に存在する国宝指定の仏像の複製(石膏)を保存し、且、国宝仏像管理寺院の照会及び参観視察の便宜を計る。複製仏像の所蔵約二一点、他に随時絵画展なども行ふ。

〔館長〕 榎並栄

〔観覧日〕 毎日午前八時半―午後五時

〔観覧料〕 二〇〇円

鹿島神宮宝物館

茨城県鹿島郡鹿島町宮中

電 鹿島九

美術観覧施設

〔館長〕 浅野長武

〔次長〕 田内静三

〔部長〕 (庶務) 深見吉之助、(学藝)

〔館長〕 榎並栄

〔観覧日〕 毎日午前八時半―午後五時

〔観覧料〕 二〇〇円

鹿島神宮宝物館

茨城県鹿島郡鹿島町宮中

電 鹿島九

美術観覧施設

甲冑・古文書等鹿島神宮の宝物を陳列。

〔観覧日〕 毎日午前八時―午後五時

〔観覧料〕 一般一〇〇円、学生五円

日光宝物館

栃木県日光市山内

電 日光一四

大正四年五月東照宮三〇〇年祭記念事業として建設され、東照宮、二荒山神社、輪王寺所蔵の宝物類を陳列し、江戸時代の工芸品が多い。

〔観覧日〕 毎日、四月―一〇月午前八時―午後五時。十一月―三月午前八時―午後四時。

〔観覧料〕 二社一寺の殿堂拝観料一〇〇円中に含まれ、本館のみのもものはなし。

長瀨汲古館

埼玉県秩父郡野上村大字

本野上四二四

電 野上七五

昭和三年四月創立。財団法人組織。考古、歴史参考資料を蒐集保管し、併せて展覧を行う。

〔館長〕 塩谷寛三郎

〔観覧日〕 月曜日を除き無休。但、二月、二月は時により休館の予定。

〔観覧料〕 二〇〇円

東京国立博物館

台東区上野公園

電 駒込三七一一五

創立は明治四年九月、湯島聖堂を陳列館として、古来の宝物、歴史的遺品を保存し、公衆の観覧に供する施設として発足した。後、千代田区内幸町に移した。初め文部省の所管であったが同八年に内務省の所管となり次で一四年農商務省の所管するところとなった。この間、上野公園に新たな館を建設する議が成り寛永寺本坊跡に建設を始め、一五年三月開館した。敷地三三、〇〇〇坪、本館は煉瓦石造、二階建、陳列室は三〇室一、一〇〇坪であった。一九一一年省内管理となり二二年帝國博物館と改められ、歴史、美術、美術工藝、工藝、天産の五部を設け、三年帝室博物館に改められた。天産部は大正一四年文部省に移管された。大正天皇の御成婚記念として造営された表慶館は明治四一年に竣工した。陳列本館は震災に大破し、其の後表慶館を列品陳列に充て昭和一二年従来の歴史課、美術課を廃し列品課に改め、別に学藝課を新設した。今上陛下の御即位記念事業である帝室博物館復興費の復興大工事が昭和一二年に竣工し、新築本館は同一三年一月開館された。昭和二年五月帝室博物館は文部省国宝調査室、同保存修理室及び美術研究所と合併し、文部省の管轄の下に国立博物館として発足した。陳列課、事業課、調査課、保存修理課、資料課、監理課、附属美術研究所の六課一室制をとり、奈良帝室博物館は国立博物館奈良分館と称することとなった。ついで昭和二五年八月文化財保護法が制定実施され、さきに国立博物館に合併された調査課、保存修理課は文化財保護委員会事務局保存部に入ることとなって再び博物館から離れ、美術研究所も分離し、博物館は文化財保護委員会の附属機関となつた。その内部組織は館長、次長の下に新に庶務、学藝の二部を設け、庶務部には管理、会計、普及の三課、学藝部には美術、工藝、考古、資料の四課をおき、また諮問機関として国立博物館評議員会を設置し、奈良分館には分館長の下に庶務、学藝、普及の三課が置かれたが二七年四月文化財保護法の一部改正にともない、当館は東京国立博物館と改称され、更に同年八月当館附属の奈良分館は奈良国立博物館となつて東京国立博物館から分離した。(二三七、二五六、二六五頁参照)

建物本館は、地上二階、地下二階、総面積六五二二坪、鉄骨鉄筋コンクリート造りの東洋風建築である。

表慶館は建坪三九五坪、正面の長さ二八〇尺、中央高樓尖頭まで高さ凡一一〇尺、希臘羅馬の古代風を参酌した西洋式建築である。

又構内には九条道秀及び益田孝より夫妻寄贈され、昭和一一年開館された九条館及び応挙館がある。前者はもと京都御所内九条邸にあつたもので伝山楽山雪筆の四季楼閣山水図の画かれた床張付、襖等があり、後者には山田応挙筆の壁張付、襖等がある。その他茶室六窓庵、校倉等の建物がある。

〔館長〕 浅野長武

〔次長〕 田内静三

〔部長〕 (庶務) 深見吉之助、(学藝)

〔館長〕 榎並栄

〔観覧日〕 毎日午前八時半―午後五時

〔観覧料〕 二〇〇円

鹿島神宮宝物館

茨城県鹿島郡鹿島町宮中

電 鹿島九

美術観覧施設

石田茂作、(課長) 山田秀吉、(會計) 出牛清次郎、(普及) 野間清六、(美術) 石沢正男、(工藝) 蔵田蔵、(考古) 矢島泰介、(資料) 岡田謙

〔評議員〕 宇佐美毅、上野直昭、梅原末治、河原春作、小泉信三、小宮豊隆、坂本太郎、沢沢敬三、杉栄三郎、原田淑人、藤懸静也、藤田亮策、三矢宮松、和辻哲郎

〔観覧日〕 月曜日、年末年始を除き、三月—十月午前九時—午後四時半、十一月—二月午前九時—午後四時

〔観覧料〕 大人三〇円、小人一五円

国立近代美術館

中央区京橋三ノ一
電 京橋三三—五、五七六

昭和二七年八月一日創立、二月一日開館。建物は旧日活会館を買上げ、建築家前川国男に依頼して改装した。(二六九頁参照)

敷地 一六九坪

建坪 総坪数五〇九坪(鉄骨鉄筋コンクリート)、各階九四坪(地上四階、地下一階)

〔観覧日〕 一月四日から二月二八日迄。午前一〇時—午後五時、毎月曜休館。
〔観覧料〕 大人五〇円。学生三〇円、小人二〇円

〔館長〕 岡部長景 〔次長〕 今泉篤男
〔庶務課長〕 原敏夫 〔事業課長〕 河北倫明

〔評議員〕 石橋正二郎、細川護立、大谷竹次郎、岡安彦三郎、河原春作、高橋

誠一郎、上野直昭、山下新太郎、矢代幸雄、前田廉造、松田権六、藤山愛一郎、浅野長武、斎藤知雄、坂崎坦、岸田日出刀

〔運営委員〕 池田義信、飯島正、富水惣一、和田新、嘉門安雄、吉川逸治、滝口修造、村田良策、牛原虚彦、宇野俊郎、野間清六、隈元謙次郎、山田智三郎、前川国男、清水晶、島崎清彦、土方定一、関野嘉雄

東京都美術館

台東区上野公園
電 駒込三三—七、哭矣

大正一〇年平和博覧会記念事業期成実行会によつて東京に永久的美術館の設立が建議され、佐藤慶太郎の百万円の寄附及び大正一三年皇太子殿下御慶事に際し宮内省より現敷地約四〇〇〇坪の無償貸与によつて、大正一三年九月起工、同一五年四月竣工した。五月聖徳太子奉讃美術展を開館記念として開催した。昭和四年東京府より約四〇万円を支出して別館を増築した。昭和一八年旧称東京府美術館を東京都美術館と改めた。

〔館長〕 早川治平 〔副館長〕 常田正治 〔係長〕 柿沼春雄、友部隆治、〔顧問〕 横山大観、鏡木清方、松林桂月、川端龍子、北村西望、奥村土牛、安田靉彦、野田九浦、前田青郎、中村岳陵、平櫛田中、松田権六、板谷波山、岩田藤七、豊道春海、海野清、藤井浩佑、内藤伸、斎藤知雄、朝倉文夫、佐藤清蔵、小杉放庵、和田三造、山下新太郎、和田英作、

石井柏亭、中沢弘光、辻水、有島生馬、梅原龍三郎、石井鶴三、上野直昭、吉田五十八、斎藤隆三、川島理一郎、高村豊周、中村研一、山口蓬春、吉田三郎

〔参事〕 児玉希望、望月春江、森白甫、堅山南風、福田豊四郎、太田聰雨、猪熊弦一郎、東郷青児、中山巍、中野和高、田崎次助、小寺健吉、伊原宇三郎、向井潤吉、栗原信、大久保作次郎、山本豊市、藤野舜正、笠置季男、村田勝四郎、山崎覚太郎、吉田源十郎、香取正彦、内藤春治、柳田泰雲、高塚竹堂、金子鷗亭、平尾孤往、谷信一、野間清六、嘉門安雄、村田良策、隈元謙次郎、河北倫明、滝口修造、富水惣一、土方定一、田近憲三

一、東京都美術館規程(略)
二、東京都美術館顧問及び参与規程
第一条 東京都美術館(以下館という。)に顧問及び参与若干人を置く。都教育委員会がこれを委嘱する。
第二条 参与の任期は二年とし、再任を妨げない。
第三条 顧問及び参与は館の運営について館長の諮問に応ずる。
第四条 館に常任参与若干人を置くことができる。参与の中から都教育委員会これを委嘱する。

附則

この規則は、昭和二十二年四月一日からこれを施行する。

附則(昭和二十五年教育委員会規則第七号)

この規定は、公布の日から施行する。

東京都美術館使用条例

第一条 東京都美術館(以下館と称する)は、次の目的を有する者にこの条例によつて使用せしめる。

一、美術についての創作の展覧
二、新古典美術品の陳列
三、その他美術についての事業
前項各号の使用がない場合に限り藝術等の会に臨時に使用せしめることができる。

第二条 館を使用しようとする者は、別に定める様式によつて、要項を記して館長の承認を受けなければならない。

第三条 前条によつて承認を受けた者は、使用料を前納しなければならない。但し、特別な事情があると認めるときは、相当の保証人を附け又は保証金を納めさせた上後納を許すことがある。

第四条 使用料は左の範囲で都教育委員会がこれを定める。
一、全館(本館地階陳列室を除く)使用の場合 一日 一万二千円以内
二、一部使用の場合 一分区 一日 四千円以内
三、本館地階陳列室使用の場合 一分区 一日 八百円以内
四、会議室使用の場合 一日 一千円以内
五、小講堂使用の場合 一日 一千円以内
六、備付器具使用の場合 一個 一日 百五十円以内

部屋の模様替その他の設備を必要とするときは、館長の承認を受けてその実費を納めなければならない。

看守、受付、下足等については、使用者がその費用によつてこれを施設しなければならない。

第五条 館の使用の承認を受けた後これを他に転貸することはできない。

第六条 既納の使用料はこれを還付しない。但し左の場合はその一部又は全部を還付することがある。

一、不可抗力によつて指定の場所を使用することができないとき。

二、館の都合によつて使用承認を取消したとき。

第七条 使用者が切符売場その他特別の設備をしようとするときは館長の承認を受けなければならない。

第八条 使用者が館についての諸規定及びこれに基いてする館長の指示を遵守せず又は公安風紀を紊る虞があると認められる場合には、館長は、使用者に対してその使用の承諾を取消することがある。

前項の処分によつて使用者に損害が生ずることがあつても、館は、その賠償の責を負わない。

第九条 使用者が使用を終り若くは使用中止したとき又は使用の承認を取消されたときは、速かに使用の場所を原状に回復し館長の検査を受けなければならない。

第十条 故意又は過失によつて建物及び

使用物を汚損し又は毀損した場合は、使用者はその賠償の責を負わなければならない。

第十一条 館長において必要と認めるときは、使用者に対して臨機の指示をなすことができる。

第十二条 この条例施行に必要な細則は都教育委員会が定めることができる。

附則 (昭和二十七年) (条令第二十四号) この条例は昭和二十七年四月一日から施行する。

東京都美術館使用規則(略) 演劇博物館 (早稲田大学坪内博士記念)

新宿区戸塚町一ノ六四七早稲田大学内 電 東京三四局二一四一—九

昭和三年一〇月創立。坪内逍遙の古稀の賀及びビシエクスピア全集翻訳完成を記念して学界、藝能界其他有志数千名の拠出により創立、昭和三年一〇月開館した。西洋、日本の演劇に関する参考資料、文献を蒐集陳列して一般の観覧に供する一方、附属演劇図書館をもち、演劇研究及び調査の指導並びに受託など演劇文化の向上発展に資するを目的としている。なお年数回随時特別展示会を開催する。早稲田大学の管理に属すが公共機関として一般に無料で公開されている。季刊「演劇博物館」を発行。

〔館長〕 河竹繁俊 (観覧日) 毎日午前九時—午後四時。休館は毎月曜及び祭日の翌日、年末年始の他八月。

東洋美術陳列館 (早稲田大学附属、会津博士記念) 新宿区戸塚町、早稲田大学内 電 東京三四局一四〇四

昭和九年会津八一により早稲田大学内恩賜記念館内に創立された。同二〇年戦局非となり、列品の大部分を疎開したが、一部は疎開中戦災に遭つた。二三年図書館内の旧貴重室に一部を陳列、二九年一〇月学生会館隣設の新館に移り開館した。本学名誉教授会津八一の収集した各種美術品を陳列し、同氏の学藝に対する功績を記念する。中国各時代の明器最も多く、中国、日本の古代瓦・銅鏡・仏像、書道名蹟拓本等を主な収蔵品とする。本大学関係者及び特別希望者のみ無料観覧させている。

〔観覧日〕 毎週、月・水・金曜日。午前九時—午後四時。

大倉集古館 港区赤坂葵町三 電 赤坂七八一

大正六年八月創立。財団法人大倉集古館は其の土地、建物、蒐集品、維持資金等悉く故大倉喜八郎がその授爵記念として寄附したものである。創立当時土地四八二五坪、建物延一〇六四坪、美術品三六九二点、書籍一五、六〇〇冊であつたが大正一二年の大震災で蒐集品の大部分を焼失、大正一五年再び大倉勇の寄附により現在の陳列館を起工、焼失を免れた

〔館長〕 大崎新吉

〔理事長〕 門野重九郎

〔評議員〕 門野重九郎 大倉喜七郎 大倉喜六郎 大崎新吉 大倉彦一郎 吉武一雄 藤田武雄 伊藤勇二 横田保 西本直良

〔観覧日〕 四月—九月午前九時より午後四時迄、一〇月—三月午前一〇時より午後四時迄、但毎月曜、天皇誕生日、憲法記念日、勤勞感謝の日、年末年始は休館。

〔観覧料〕 無料 書道博物館 台東区上根岸町一二五

昭和十一年一月創立。財団法人書道博物館は故中村不折が四〇年に亘つて蒐集した書道に関する参考品一二、〇〇〇余点を以て昭和十一年一月開館した。

〔館長〕 中村丙午郎

〔観覧日〕 月曜を除き毎日午前九時—午後四時

〔観覧料〕 八〇円

東洋文庫 文京区駒込上富士前町一四七 電 大塚二二九、六六八

大正六年九月岩崎久弥が前中華民國總統府顧問ジョージ・アーネスト・モリソンより購入したモリソン文庫を核心とし、其後更に東洋に関する諸書の蒐集を行つたもので現在の場所に文庫を新築

ト銅葺屋根延三三七坪の支那風建築である。絵画は毎月陳列替を行い、彫刻、工藝品等は三ヶ月—六ヶ月で陳列替を行う。

〔理事長〕 門野重九郎

〔評議員〕 門野重九郎 大倉喜七郎 大倉喜六郎 大崎新吉 大倉彦一郎 吉武一雄 藤田武雄 伊藤勇二 横田保 西本直良

〔観覧日〕 四月—九月午前九時より午後四時迄、一〇月—三月午前一〇時より午後四時迄、但毎月曜、天皇誕生日、憲法記念日、勤勞感謝の日、年末年始は休館。

〔観覧料〕 無料 書道博物館 台東区上根岸町一二五

昭和十一年一月創立。財団法人書道博物館は故中村不折が四〇年に亘つて蒐集した書道に関する参考品一二、〇〇〇余点を以て昭和十一年一月開館した。

し大正一三年一月財団法人組織とし東洋文庫と称した。文庫の敷地、建物、図書其他一切の設備は岩崎の寄附によるものである。終戦後昭和二年八月以来、財団法人の支店東洋文庫として運営されることとなり、研究部は従前の如く内外の寄附金により財団法人にて経営されている。事業としては前記の如く東洋関係の図書を蒐集し観覧に供するとともに東洋学の研究上有益なる研究、図書の出版、稀観書の複製をなし又講演会、展覽会等を行い、欧米東洋学諸学会の国際センターとして活躍し、また欧米少壮東洋学者の留学生をもうけられて補導している。

〔文庫長〕 岩井大慈〔理事長〕 細川護立〔理事〕 和田清 有光次郎 徳川宗敬 洪沢敬三 小倉正恒 山本達郎〔研究部長〕 和田清〔監事〕 岡東浩〔観覧日〕 日曜祝祭日以外毎日午前八時半―午後四時半、但毎木曜 午後閉館

〔観覧料〕 無料
日本民藝館
目黒区駒場八六一
電 渋谷八七四二

昭和十一年一月創立。民藝品の蒐集並に常置陳列を行い、地方民藝の指導と開発に当るを目的とす。蒐集の事業は大正一五年に始められたが、昭和十一年一月大原孫三郎の寄附によつて建物完成し、一二月財団法人組織となつた。

〔館長〕 柳宗悦〔観覧日〕 月曜日を除き午前一〇時―午後四時、但八月、一月、二月休館〔観覧料〕 一〇〇円

根津美術館
港区赤坂青山南町六ノ一一五
電 赤坂二五三六、二五八七

昭和十一年一月創立。根津嘉一郎の蒐集による東洋美術品と邸宅庭園を、翁の歿後その遺志により寄附を受け財団法人根津美術館として設立し、翌一六年一月開館第一回展を開いた。以後、春秋二季の特別展と年数回の小展覧を行つてきたが第二次大戦により建物を焼失したので二八年一月より早大教授内藤多仲、今井兼次の設計による鉄筋コンクリートの和風総坪数一九六の陳列館を新築、三〇年一月八日より常置陳列の美術館として開館、主な収蔵品は仏画、水墨画、写経、茶器、中国古銅器等。

〔館長〕 河西豊太郎〔主事〕 依田太郎〔学藝員〕 酒井千尋 奥田直栄
四月―六月、九月―十一月、午前九時半―午後四時半、日曜日、祝日の翌日は休館〔観覧料〕 五〇円
ブリヂストン美術館
中央区京橋一ノ一
電 京橋六三一七

昭和二十七年一月開館。石橋正二郎によりブリヂストンビルの一階に創設された常設美術館で、所蔵の西洋及日本近代の油絵、彫刻を主として陳列する。

〔顧問〕 和田英作、細川護立、浅野長武〔参事〕 上野直昭、入間野武雄、大原総一郎、久保貞次郎、矢代幸雄、松本

栄一、福島繁太郎、秋山光夫、今泉篤男、河北倫明〔運営委員長〕 団伊能〔運営委員〕 石橋幹一郎、伊原宇三郎、猪熊敏一郎、富永惣一、嘉門安雄、谷信一〔主事〕 岩佐新

〔観覧日〕 月曜を除き午前一〇時―午後五時半。七、八月に限り月曜休館。〔観覧料〕 五〇円
牧野記念館
〔駒場高等学校美術館〕
目黒区上目黒八ノ六六〇
都立駒場高校内
電 渋谷二〇〇八

昭和二十五年七月創立。故牧野虎雄の遺作油絵七点、スケッチブック一〇冊、海外名画複製（九世紀から現代まで）約四〇点収蔵。春秋二回特別展覧を行い、他は生徒作品展をはじめ内外ポスター、工藝、デザイン、古美術、書及び各美術大学作品展等年間を通じ開催。

〔観覧日〕 希望により随時開館
〔観覧料〕 無料
明治神宮宝物殿
渋谷区代々木外輪町
電 東京三七局一一六、一一七

大正一〇年一月開館。明治神宮儀式課の所管で、明治天皇、昭憲皇太后の御物を保管陳列する。

〔観覧日〕 無休。四月―九月毎日午前八時半―五時、十一月―三月午前九時―四時
〔観覧料〕 四〇円

大東急記念文庫
目黒区上目黒七ノ一〇九四
電 渋谷七三七三

東京急行電鉄株式会社取締役会長五島慶太が旧久原文庫を譲り受け、大東京急行電鉄の一大組織を現在の東京急行・京浜急行・京王帝都・小田急の四電鉄と東横百貨店の五社に分離の際に、その記念事業の一つとして、五社及び東映の協力のもとに昭和二十四年四月財団法人組織の本文庫を設立したもの。古板本二万五千数百点を蔵し、すでに国宝・重文に指定されたもの二一点に及ぶ。昭和三〇年四月から一般に無料公開している。なおその一部を同年九月初旬東横百貨店で初公開した。なお貴重書漢籍、仏書解題及び去来抄複製解題などを刊行した。

〔神奈川〕
金沢文庫
横浜市金沢区金沢町二一七
電 金沢局（七） 九〇九六

昭和五年八月再建。史蹟金沢文庫及び称名寺に収蔵する書籍その他の文化財を襲継し、又図書記録の類を蒐集保存して一般に閲覧させる。金沢文庫は鎌倉中期北条実時が蒐集した和漢書を納れるために創建し、鎌倉末期迄四代に亘つて経営されたが、その後一時称名寺によつて保管されたが、昭和五年御大典記念事業として神奈川県が現在の文庫を再建した。

〔文庫長〕 熊原政男
〔観覧日〕 毎月末日、祝祭日、年末年始を除き、毎日午前九時―午後四時半
〔観覧料〕 二〇円

〔観覧日〕 四月―九月毎日午前八時半―五時、十一月―三月午前九時―四時

〔観覧料〕 四〇円

神奈川県近代美術館

神奈川県鎌倉市雪ノ下(二〇五)

電 鎌倉二五〇〇

昭和二六年一月開館。建物は坂倉準三の設計による。近代美術だけでなく、凡ゆる美術を新しい観点から展覧する。

〔館長〕 村田良策 〔副館長〕 土方定一 〔運営委員〕 内山岩太郎、伊東深水、木下孝則、小山富士夫、中村岳陵、坂倉準三、佐藤敬、富永惣一、山口蓬春、吉川逸治、山田智三郎、近藤市太郎、田辺至、高間惣七、教育長、県会議長。

〔観覧日〕 毎月曜を除き午前九時—午後四時、但土、日曜日午後四時半

〔観覧料〕 六〇円

鎌倉国宝館

神奈川県鎌倉市雪ノ下(二〇四)

電 鎌倉七五三

昭和三年四月創立。主に鎌倉を中心とする社寺及び個人寄託の古美術品を収蔵展覧する。年約四回特別展開催。

〔館長〕 洪江二郎

〔観覧日〕 毎日午前九時—午後四時半

年末—二月二七日—三一日休館

〔観覧料〕 二〇円

鶴岡八幡宮宝物殿

神奈川県鎌倉市雪ノ下(二〇五)

電 鎌倉三一五

鶴岡八幡宮に伝来する神宝・刀剣・武器・工藝品等社宝の一般展覧をなす。

〔観覧日〕 毎日午前八時—午後五時

〔観覧料〕 二〇円

長尾美術館

本館 鎌倉市鎌倉山

電 鎌倉九二三

分室 東京都品川区北品川

六ノ三八七長研ビル

電東京四四局七七〇三

昭和二二年五月創立。財団法人組織、長尾欽弥の蒐集による絵画、陶磁器、時代衣裳その他美術工藝品を保管公開する。毎年春秋二季特別展覧を行う。

〔理事長〕 長尾欽弥 〔理事〕 草間時光、村田五郎、太田耕造、井上清一、柴沼直、有光次郎、瀬戸保太郎 〔監事〕 清瀬三郎

箱根神社宝物殿

神奈川県足柄下郡箱根町元箱根

電 箱根町三一

明治四〇年六月創立。現在の建物は昭和九年に新設された。同社所蔵の古美術品、古文書等を展覧する。

〔観覧日〕 無休、四月—一〇月午前八時—午後五時、十一月—三月午前九時—午後四時

〔観覧料〕 二〇円

箱根美術館

神奈川県足柄下郡宮城野村強羅

電 箱根宮ノ下六二三

昭和二七年六月創立。世界救世教主岡田茂吉によつて設立され、財団法人東明美術保存会箱根美術館として広く美術品を蒐集し一般に公開する。常設展の他に毎年各種の特別展並に箱根夏期美術講座等開催。

〔館長〕 岡田よし子

〔観覧日〕 四月一日—一月三〇日迄、午前九時—午後五時(但一〇月、一月は午後四時迄) 木曜日休館

〔観覧料〕 普通観覧料一〇〇円。

熱海美術館

熱海市伊豆山久保九九八

電 熱海四五六

昭和三二年一月創立。箱根美術館と同じく財団法人東明美術保存会に所屬し、箱根美術館の姉妹館として絵画を主として陳列する。

〔館長〕 岡田よし子

〔観覧日〕 毎月一日、一〇日、二三日の午前中休館のほか年中無休、午前九時—午後五時

〔観覧料〕 一〇〇円

【中部地方】

三嶋大社博物館

静岡県三島市伝馬町一

電 三島一七二

昭和五年三月創立。三嶋大社所蔵の宝物を始め郷土出土品等を陳列する。刀剣三八点、古文書一四二点、工藝四三三点。

〔館長〕 矢田部盛枝

〔観覧日〕 毎日午前九時—午後四時

〔観覧料〕 二〇円

久能山東照宮宝物館

静岡市根古屋三八九

大正三年三月宝物館を新築し現在に及んでいる。家康公遺品等徳川歴代將軍の武器刀剣類四〇〇点を陳列する。

〔観覧日〕 午前八時—午後四時 初穂

料として三〇円以上奉納せる者にのみ拝観させる。

身延山宝物館

山梨県南巨摩郡身延町

電 身延山二、三

大正一五年五月創立。日蓮宗宗門に關する歴史考古資料其他を公開する。

〔観覧日〕 毎日午前八時—午後五時

〔観覧料〕 三〇円

上田市立博物館

長野県上田市新参町

電 上田一二七四

昭和四年九月創立の上田徴古館が昭和二九年四月より市立博物館として新発足した。旧上田城南北、西三基の櫓内に郷土資料を陳列公開する。

〔館長〕 清水利雄

〔観覧日〕 毎日午前九時—午後四時、毎月曜休館。

〔観覧料〕 一〇円

諏訪市美術館

長野県諏訪市大字上諏訪中浜町

電 諏訪二二一七

昭和二五年八月創立。従来片倉會館の一部として諏訪湖畔にあり、懐古館と呼ばれ、諏訪地方出土の考古学参考品を陳列し、時に応じ各種展覧会場として利用されてきたが、昭和二五年八月二八日、片倉家より諏訪市に寄附され、昭和三一年五月より諏訪市常設美術館として彫刻、油絵、水彩、版画等を収蔵、展覧している。

〔館長〕 宮坂完一

三〇一

〔観覧日〕 月曜日を除き毎日
松本市立博物館

長野県松本市二の丸三
電 松本一三三三

日本アルプス、自然科学、考古、民俗、歴史に関する諸資料並に美術品等を蒐集陳列し地方文化の向上を計り、学校・社会教育の資としている。分館松本城記念館は松本城を管理するとともに、城郭歴史資料を、又中山考古館は古考資料を展示している。

〔館長〕 下川頼人
善光寺大勧進宝物館

長野市元善町四九二のイ
電 長野二四六〇

明治四〇年創立。大正七年増設、寺宝約二五〇点を収蔵、参拝者、信徒に拝観させることを目的とする。

〔館長〕 二宮慶蔵
〔観覧日〕 毎日

〔観覧料〕 一〇円
北方文化博物館

新潟県中蒲原郡横越村大字沢海
電 横越一番甲

昭和二〇月一〇月創立、旧伊藤文吉邸とその所蔵品を基として、財団法人組織により、美術・民俗・考古・郷土資料・農業資料等を展示公開する。尚新潟市に分館を、新発田市に清水園を管理公開している。

〔館長〕 伊藤文吉
〔観覧日〕 毎日午前九時―午後五時
〔観覧料〕 三〇円

高岡市美術館

富山県高岡市古城公園内
電 高岡二六六六

昭和二六年八月創立。主として郷土出身作家の作品を所蔵陳列する外地方展及特別展を開催している。日本画、洋画、工藝、彫刻、書等現代美術約三〇〇点。

〔館長〕 中条豊治
〔観覧日〕 毎日午前九時―午後五時
〔観覧料〕 無料
徳川美術館

名古屋市東区徳川町
電 東六六二六

昭和六年一二月財団法人黎明会により設立され昭和一〇年一月開館。尾州徳川家伝来の美術品、古文書等を保存し展観する。絵画、彫刻、工藝品外約一万点。

〔館長〕 熊沢五六
〔観覧日〕 年末、年始を除き毎日午前九時―午後四時

〔観覧料〕 五〇円
愛知県文化会館美術館

名古屋市中区久屋町(栄公園内)
電 東五五一―三三

昭和二九年一二月創立。三〇年二月開館。鉄骨鉄筋コンクリート二階建、展示室一六、計一六四四・四坪。国際美術の消化、国内美術の交流、産業美術の進展及び郷土美術文化の振興を図るを旨とする。各美術団体の地方巡回展、特別展等を開催。

〔文化会館長〕 徳川義親〔美術科長〕 太田三郎

〔観覧日〕 午前九時―午後五時

〔観覧料〕 展覧会により異なる
〔近畿地方〕

神宮徴古館

伊勢市倉田山
電 伊勢二六四四、五〇三〇

当館は、神宮司庁で経営する歴史・美術博物館で、神宮農業館とともに、はじめ財団法人神苑会によつて設立せられ、明治四四年神宮に献納された。神宮の撤下御装束神宝類をはじめとして、神宮崇敬を物語る歴史参考品及び現代美術を取蔵し、一般に公開する。昭和二〇年戦災により焼失したが、同二八年一〇月第五九回神宮式年選宮附帶事業として同所に新築開館した。

〔館長〕 神宮少宮司 杉谷房雄〔主幹〕 小谷幸男〔学藝員〕 西川元泰
〔観覧日〕 一月一日―二月二八日午前八時半―午後四時半

〔観覧料〕 神宮農業館ともに三〇円
三重県立博物館

津市広明町 津市偕楽公園内
電 津二二八三

昭和二八年六月創立。地方総合博物館として考古・民族資料、美術、工芸品の外、自然科学資料、県内産業、物産の紹介展等も行。

〔館長〕 三輪勇四郎
〔観覧日〕 毎日午前九時―午後四時
〔観覧料〕 一五円

高野山霊宝館

和歌山県伊都郡高野町高野山
電 高野三三二

大正九年九月三〇日創立。高野山一の宝物を保管し一般の拝観に供している。

〔館長〕 堀田真快
〔観覧日〕 毎月末及一二月二五日―一月三十一日迄を除き毎日、夏季午前八時―午後五時、冬季午前九時―午後三時

〔観覧料〕 五〇円
熊野博物館

和歌山県新宮市新宮一
電 五三三三

明治四〇年創立。速玉大社国宝古神宝類約四〇〇点、重要文化財二点の他、熊野郷土関係古美術資料を展観する。昭和三三年元速玉神社宝物館を博物館と改称した。

〔館長〕 上野殖
〔観覧日〕 毎日午前九時―午後四時
〔観覧料〕 三〇円

滋賀県立産業文化館

大津市東浦一番町
電 六一九一

昭和二三年一月創立。開館当初は同一建物内に博物館的な業務と物産陳列所的なもの二様を併設していた。
昭和二九年六月隣接地に、鉄筋コンクリート五階建の滋賀会館が建設されて物産陳列部門は同会館内に移し、本館は純美術博物館として内容を充実したが、さらに昭和三十一年一月古美術部門も滋賀会館三階に移し現在に及んでいる。古画並

びに本県関係画家の作品、書蹟、工藝品、考古・民俗資料等約二五〇点を収蔵。

〔館長〕 田中千年
〔観覧日〕 年中無休 午前九時―午後五時
〔観覧料〕 無料

【京 都】
京都国立博物館

京都市東山区大和大道通
七条上ル
電 祇園西、一四三、五九〇

明治二二年五月宮内省達を以て図書寮附属博物館が廃止され帝國博物館、帝國奈良博物館と同時に帝國京都博物館が設置された。二五年工事に着手し二八年竣工、三〇年五月開館した。この後官制改革により京都帝室博物館と改称、大正一三年今上陛下の御成婚に際し宮内省より京都市に下賜され、同年二月一日より恩賜京都博物館と改称し、京都市の経営するところとなつたが、昭和二七年文化財保護法の一部改正により同法の規定に基づき四月一日より国立移管をもつて京都国立博物館として新発足をした。内部組織は館長、次長の下に管理課、学藝課を置き館長諮問機関として京都国立博物館評議員会が設置されている。(二六六、二六七頁参照)

〔館長〕 神田喜一郎〔次長〕 富岡益五郎〔課長〕 (管理課) 有木利三郎、(学藝課) 梅津次郎

美術観覽施設

〔評議員〕 本田親男、堂本三之助、大宮庫吉、岡田戒玉、貝塚茂樹、高山義三、辰馬悦蔵、武田長兵衛、滝川幸辰、長崎太郎、村田治郎、室谷喜作、上野精一、梅原未治、須田国太郎

〔観覧日〕 月曜日を除き一月四日―二月二八日及び一月一日―二月二五日午前九時―午後四時、三月一日―三月三一日午前九時―午後四時半(但、三月一日―三月三一日の日曜、祝日は午前九時―午後五時)

〔観覧料〕 大人三〇円、小人一五円
京都市美術館

京都市左京区岡崎法勝寺町
電 吉田四一〇七―八

昭和八年設立。鉄筋コンクリート二階建、一四〇八坪。市主催の美術展を開催する外、一般美術団体に会場を貸与する。所藏品日本画一二〇、洋画六八、工藝三九、彫刻二三。

〔館長〕 重達夫
〔事務長〕 堀馨〔学藝主幹〕 岡部三郎〔学藝員〕 加藤一雄〔学藝員補〕 阿部弘
北野天満宮宝物殿

京都市上京区馬喰町
電 西陣五

昭和二年一二月創立。菅原道真公歿後一〇二五年祭(半万燈祭)の記念事業の一つとして設立され、国宝北野天神縁起絵巻を初め絵画、古文書等の宝物類を展示する。

〔観覧日〕 毎月二五日の月次祭当日と

春秋二季の臨時開殿 午前九時―午後四時
〔観覧料〕 三〇円
広隆寺靈宝殿

京都市右京区太秦峰岡町
大正一一年一〇月創立。聖徳太子一三〇年遠忌記念に創設された。同寺蔵の飛鳥時代弥勒菩薩像を始め多くの仏像、仏画、美術工芸品等を収蔵している。

〔観覧日〕 毎日
〔観覧料〕 四〇円
醍醐寺靈宝館宝聚院

京都市伏見区醍醐東大路町二二
電 醍醐二

昭和一〇年四月開館、醍醐天皇一〇〇年遠忌の記念事業として設立された。醍醐寺所蔵の彫しい仏画、一般絵画、彫刻、古文書記録、經典等を保管整理し、又一般に公開する。

〔館長〕 佐和隆研
〔観覧日〕 春秋二季(四月―五月、一月―一月) 毎日午前九時―午後四時
〔観覧料〕 三〇円
仁和寺靈宝館

京都市右京区御室仁和寺
電 西陣三八

昭和二年五月竣工開館、聖教三十帖冊子、孔雀明王等仁和寺所蔵の国宝その他宝物を保管し一般に公開する。

〔館長〕 花柳智勝
〔観覧日〕 毎日午前九時―午後四時
〔観覧料〕 三〇円

豊国神社宝物館
京都市東山区大和大道正面茶屋町
電 祇園三八〇二
大正一四年一二月開館。神社宝物、歴史風俗資料を陳列する。

有 鄰 館
京都市左京区岡崎円勝寺町四四
電 吉田五

大正一五年一二月創立。鉄筋コンクリート三階建。藤井善助の寄附行為による財団法人藤井善成会の経営。藤井善助蒐集の東洋古美術品を保存展観する。

〔代表理事〕 藤井志づ
〔観覧日〕 毎月第一、第三日曜の正午―三時迄開館、但し一月、八月は休館。
〔観覧料〕 無料
陽明文庫

京都市右京区宇多野上ノ谷町一
電 西陣七五〇
昭和一三年一二月財団法人組織として設立。旧近衛家文庫古文書一〇万余点、古典籍三万余部を収蔵し、研究者のもとに依り随時閲覧の便を計つている。

〔理事長〕 細川護立
〔主事〕 小笹喜三
【奈 良】
奈良国立博物館

奈良市登大路 五〇
電 奈良六四二一―三

明治二二年帝國奈良博物館設置せられ同二八年四月開館。三三年官制の改革と共に奈良帝室博物館と改められ、更に昭和二二年五月官制改革により帝室博物館

は文部省の管轄の下に国立博物館となる

に及んで国立博物館奈良分館と改称され

た。ついで二五年五月文化財保護法の制

定にともない文化財保護委員会の管轄

に、又二七年四月東京国立博物館奈良分

館に、同年八月文化財保護法一部改正に

より東京国立博物館より分離し、奈良国

立博物館と改められて新発足をした。内

部組織は館長の下に次長が置かれ、従前

の庶務、学藝、普及の三課は廃されて新

たに管理、学藝の二課が置かれ、館長の

諮問機関として奈良国立博物館評議員会

が設置されている。(二六八、二六九頁

参照)

〔館長〕 石田茂作 〔次長〕 高村峰蔵

〔課長〕 (管理課) 次長併任 (学藝

課) 次長併任

〔評議員〕 今村荒男、梅原末治、奥田

蔵。

〔観覧日〕 毎日午前九時—午後五時

但し、七、八月は午前八時半—午後四

時半

〔観覧料〕 二〇円

天理参考館

奈良県天理市布留

電 天理二、三、四

昭和一三年四月創立。天理大学の創立

以来三〇年間に蒐集した海外土俗資料

に、更に支那朝鮮の古美術の蒐集を合併

し続いて西洋古美術資料、日本の貝塚資

料、アイヌ資料、文楽人形等も加え大学

附属として公開している。

〔主事〕 福原喜代男

〔観覧日〕 毎日午前九時—午後四時

〔観覧料〕 無料

育・文化発展に資する。又、一定期間に

亘つて特に調査研究を希望するものに資

料を閲覧させる特別観覧の制度を設けて

いる。昭和三〇年一月二八日、博物館

相当施設としての指定を受けた。

〔館長〕 土井実 〔主任〕 小島貞三

〔観覧日〕 毎日午前八時半—午後五時

月曜日午後・火曜日及祝祭日休館

〔観覧料〕 二〇円

【大阪】

大阪市立美術館

大阪市天王寺区茶臼山町二二

電 天王寺六一〇、四六〇九

古美術品の常設展覧と一般美術展の展

覧場としての設備を兼ね、昭和一一年五

月落成した。同月開館し、古美術の常設

展覧は同年九月より開始した。絵画、彫

展覧する。

〔館長〕 三宅忠一

〔観覧日〕 日曜・祭日を除き午前一〇

時—午後五時 〔観覧料〕 特別展以外無

料

観心寺霊宝館

大阪府河内長野市寺元

電 河内長野一三四

霊宝館は明治三十三年に開設され、重文

如意輪観音像を始め、仏像、古文書等の

寺宝を保管展覧する。

〔館長〕 永島行善

〔観覧日〕 毎日午前九時半—午後五時

〔観覧料〕 一〇円

藤田美術館

大阪市都島区網島町四〇

電 堀川四一〇五

昭和二六年三月財団法人設立認可。男

爵藤田伝三郎並びに同平太郎に亘つて蒐

集された古美術品を主としこれに分家徳

次郎の遺品を合わせて創立せられたも

の。財団法人設立の認可後、展覧室、庭

園、事務室の整備に三ヶ年を費し昭和二

九年五月に開館式を挙行した。一般公開

は現在のところ春秋二期特別展開催のは

か、随時展覧を行つている。国宝六、工

重要文化財二六点を含み絵画、彫刻、工

藝、書を約三〇〇〇点収蔵している。

〔館長〕 藤田富子 〔理事長〕 菅礼之

助 〔理事〕 藤田光一、藤田富子、藤田

治子、宮原清、久留島秀三郎、土井清、

小川栄一、武井理三郎 〔監事〕 坂井隆

三、西村圭太郎

蔵。

〔観覧日〕 毎日午前九時—午後五時

但し、七、八月は午前八時半—午後四

時半

〔観覧料〕 二〇円

天理参考館

奈良県天理市布留

電 天理二、三、四

昭和一三年四月創立。天理大学の創立

以来三〇年間に蒐集した海外土俗資料

に、更に支那朝鮮の古美術の蒐集を合併

し続いて西洋古美術資料、日本の貝塚資

料、アイヌ資料、文楽人形等も加え大学

附属として公開している。

〔主事〕 福原喜代男

〔観覧日〕 毎日午前九時—午後四時

〔観覧料〕 無料

蔵。

〔観覧日〕 毎日午前九時—午後五時

但し、七、八月は午前八時半—午後四

時半

〔観覧料〕 二〇円

奈良県立橿原公苑大和歴史館

奈良県橿原市畝傍町

電 大和橿原四七八

昭和一五年一月創立の大和国史館を

同二四年八月大和歴史館と改称したも

の。主として大和に関する上代の遺品、

その他歴史的物事を収集展示し、歴史教

育・文化発展に資する。又、一定期間に

亘つて特に調査研究を希望するものに資

料を閲覧させる特別観覧の制度を設けて

いる。昭和三〇年一月二八日、博物館

相当施設としての指定を受けた。

蔵。

〔観覧日〕 一月六日—二月二八日、

午前九時—午後五時 〔観覧料〕 二〇円

〔観覧日〕 一月六日—二月二八日、

午前九時—午後五時 〔観覧料〕 二〇円

〔観覧日〕 一月六日—二月二八日、

午前九時—午後五時 〔観覧料〕 二〇円

〔観覧日〕 一月六日—二月二八日、

午前九時—午後五時 〔観覧料〕 二〇円

〔観覧日〕 一月六日—二月二八日、

午前九時—午後五時 〔観覧料〕 二〇円

〔観覧日〕 一月六日—二月二八日、

午前九時—午後五時 〔観覧料〕 二〇円

〔観覧日〕 一月六日—二月二八日、

午前九時—午後五時 〔観覧料〕 二〇円

〔観覧日〕 一月六日—二月二八日、

午前九時—午後五時 〔観覧料〕 二〇円

〔観覧日〕 春秋二期、午前一〇時—午後四時 〔観覧料〕 一〇〇円

逸翁美術館

大阪府池田市建石町一九六五
電 池田三八六五、四三三八

昭和三年七月創立。一〇月四日開館。財団法人組織、故小林一三氏蒐集の重要文化財その他美術工藝品の保存展覧を行う。収蔵品は、絵画(日本及東洋)七五〇点(西洋)一〇点彫刻七〇点、工藝(日本)一八〇〇点、(西洋)二五〇点、書四八〇点。

〔館長〕 佐藤博夫

〔観覧日〕 春季、三月一日—五月末日、秋季一〇月一日—二月初旬 午前一〇時—午後四時迄。月曜休館。

其他の時は随時特別展を予定

〔観覧料〕 五〇円

〔兵庫県〕

市立神戸美術館

神戸市葺合区熊内町一丁目
電 葺合三〇四三

南蛮美術の蒐集で著名な池長美術館(昭和一五年三月創立)が建物・所蔵品共に昭和二六年四月神戸市へ寄附され市立神戸美術館となった。同年七月より開館。春秋二回南蛮美術展を開催する。

〔館長〕 荒尾親成

〔観覧日〕 毎月一日より二五日迄、午前九時—午後五時。月曜休館。

〔観覧料〕 二〇円

白鶴美術館

神戸市東灘区住吉町落合五丁目

電 (8)六〇〇一

昭和九年五月創立。昭和六年嘉納治兵衛の古稀を記念し、その美術工藝品、考古資料の蒐集品を永久に保存するため財団法人白鶴美術館を設立した。建物は同九年竣工し、五月から公開した。中国青銅器、陶磁器、鏡、銀器及日本奈良古物等の工藝品、金石類、刀剣類の所蔵品を春秋陳列し、他に特別展を開催する。

〔理事長兼館長〕 嘉納 治兵衛 〔理事〕 中村紙一、〔学藝員〕 三杉隆敏

〔観覧日〕 四、五、九、一〇月の春秋二季展の他に特別展を随時開き、年間一五〇日開館

午前一〇時—午後四時 月曜休館

〔観覧料〕 五〇円

鶴林寺宝物館

兵庫県加古川市加古川町北在家
電 加古川五六三

大正一〇年一〇月聖徳太子一三〇〇年御忌記念として宝物館を建設し、絵画、工藝美術品、古文書等の什宝を保管し、希望者のある毎に開館する。

〔中国地方〕

大原美術館

岡山県倉敷市新川町
電 倉敷五

昭和五年一月創立。故洋画家児島虎次郎を記念し、美術の研究発達に資するため絵画及びその他の美術品の蒐集、陳列公開等を行う。大原孫三郎によつて創設され、昭和一〇年三月財団法人となつた。泰西絵画、彫刻、古代エジプト美術、

海外古陶器等の収蔵品が著名である。

〔館長〕 武内潔真

〔観覧日〕 年末年始、毎月曜日、祭日を除き、毎日午前九時—午後四時

〔観覧料〕 五〇円、

倉敷考古館

岡山県倉敷市前種町
電 倉敷一五四二

昭和二五年一月創立。考古学の研究普及と地方文化の向上を目的として、財団法人組織をとつてゐる。考古学関係資料一五〇〇点を収蔵す。

〔館長〕 鎌木義昌

〔観覧日〕 月曜日、年末年始、祝祭日を除き、午前九時—午後四時

〔観覧料〕 四〇円、

倉敷民藝館

岡山県倉敷市前種町
電 倉敷一六三七

昭和二三年一月創立。岡山県民藝協会の事業の一つとして創設され、のち、財団法人として独立した。古今東西の民藝品の蒐集、展覧、普及に当つてゐる。所蔵品約三三〇〇点。附属工藝研究所がある。

〔館長〕 外村吉之介

〔観覧日〕 月曜日、年末年始、祭日を除き、午前九時—午後四時

〔観覧料〕 四〇円、

吉備考古館

岡山県都窪郡山手村
電 総社四三三三

昭和一七年創立。吉備地方を中心とし、県内の考古資料・郷土資料を展覧する。

〔館長〕 宮岡清見

〔観覧日〕 毎日、午前九時—午後四時

〔観覧料〕 二〇円

厳島神社宝物館

広島県佐伯郡宮島町
電 宮島三六

創立明治三〇年。現在の建物は昭和九年建造され、厳島神社宝物として伝承した藤原時代以後の書蹟・工藝品等を公開する。

〔館長〕 野坂元定

〔観覧日〕 毎日

〔観覧料〕 三〇円

出雲大社宝物殿

鳥根県簸川郡大社町
電 大社四八、六三

大正三年三月創設。絵画、彫刻、工藝品、古文書、考古資料、祭器等を収蔵する。

〔観覧日〕 毎日。午前八時—午後四時

長府博物館

山口県下関市大字豊浦村
電 五五五

昭和八年一〇月創立。当初は故桂弥一が財団法人長府尊攘堂を創設し明治維新前後の志士の遺墨等を収集陳列したものであった。戦後は財団法人長府博物館と改称、郷土を中心とした文化資料を蒐集、保管し、常時展覧している。また、各種特別展も行う。

〔館長〕 樺惣一

〔観覧日〕 樺惣一

〔観覧料〕 樺惣一

〔観覧日〕 樺惣一

〔観覧料〕 樺惣一

〔観覧日〕 樺惣一

〔観覧料〕 樺惣一

〔観覧日〕 樺惣一

〔観覧日〕三、四、五、九、一〇、一一の各月以外は毎月曜日休館、午前九時―午後五時

〔観覧料〕二〇円
防府天満宮宝物館
(旧松崎神社宝物館)

山口県防府市宮市

松崎神社は昭和二七年四月炎上、現在既に本殿階殿完工、拜殿建設中、同宝物館は災禍を免れたが現在閉鎖中、高昭和二八年一月二日松崎神社は防府天満宮と改称した。

忌宮神社宝物館

山口県下関市長府町宮の内
電 長府一九三

大正四年三月創立。神社創建以来の古文書其他寄進による絵画、工藝品等三八〇余点を収蔵する。

〔館長〕磯部稜威雄

〔観覧日〕無休

〔観覧料〕二〇円

岩国徴古館

山口県岩国市横山三五八
電 岩国八三七

私立岩国徴古館(昭和一九年四月設立)が昭和二六年四月岩国市へ移管され、市立となったもの。郷土に關係ある美術工藝品、歴史資料を蒐集保存し、且公開して文化の向上に資しようとする。藩制時代の地方的美術品、工藝品、同時代の地方史料、大内、毛利、特に吉川氏に關する多くの古文書等を所蔵する。

〔館長〕瀬川秀雄

〔観覧日〕午前九時―午後四時半、毎月曜と祭日の翌日は休館。

〔観覧料〕無料

〔四国地方〕

市立高松美術館

香川県高松市栗林公園内
電 高松三二一六

昭和二四年一月開館。昭和二四年高松観光大博覧会を機会にその建物の一部三〇六坪を市立美術館として存置し、日展、県展、各種美術展を開催、地方文化の普及を計つている。

〔館長〕中村良三

金刀比羅宮博物館

香川県琴平町
電 琴平一

金刀比羅宮博物館は、宝物館、学藝館、金刀比羅宮書院の三施設に分れている。宝物館は明治三八年創立。金刀比羅宮所蔵の書画、刀剣、古文書等を収蔵展観する。学藝館は昭和三年創立。学藝参考品、標本等の外高橋由一の作品二六点を収蔵展観する。書院には鶴の間外四室に書かれた応挙の絵(重要文化財)等がある。

〔館長〕琴陵光重

〔観覧日〕無休、午前八時―午後四時

〔観覧料〕二〇円

総本山善通寺宝物館

香川県善通寺市六一五
電 一一一

明治三五年四月創立。善通寺伝来の絵画、仏像、工藝品等約一二〇余点を陳列

展覧する。

〔館長〕亀谷有英

〔観覧日〕春、夏、午前八時―午後五時。秋、冬、午前九時―午後四時

〔観覧料〕無料

大山祇神社宝物館

愛媛県越智郡大三島町
電 大三島三二、一六

大正一五年六月創立。鍔、太刀等工藝品一〇〇〇余点を収蔵、展観する。

〔館長〕三島安久

〔観覧日〕無休。春、夏、午前八時―午後五時。秋、冬、午前九時―午後四時

〔観覧料〕六〇円

愛媛文華館

愛媛県今治市山里通
昭和三〇年三月創立、財団法人組織の陶磁美術館。

〔観覧日〕年二回の特別展観の折開館

〔九州地方〕

石橋美術館

福岡県久留米市野中町
石橋文化センター内

昭和三二年四月創立

〔主事〕青木重憲

〔観覧日〕年末、年始を除き毎日

〔観覧料〕四〇円(但し別に石橋文化センター入園料一〇円を必要とする)

市立長崎博物館

長崎市浜口町一九六
長崎国際文化会館内
電 九九九

昭和一六年二月創立。開国史に關係ある郷土資料、主として切支丹關係、中国、オランダ貿易關係の資料を蒐集し展観する。

〔館長〕築瀬義一

〔観覧日〕毎日、午前九時―午後五時

〔観覧料〕無料

本妙寺宝物館

熊本県熊本市花園町六
電 六三〇

明治四二年五月創立。明治四二年清正公三〇〇年祭に際し公の威徳顯彰の目的を以て開設した。

〔館長〕池上義豊

〔観覧日〕毎日、午前八時―午後五時

〔観覧料〕一〇円

菊池神社宝物館

熊本県菊池郡菊池町隈府
電 二五四九

大正八年一月創立。菊池神社の教化活動の一環として設けたもので、菊池氏の遺品その他關係資料を収蔵、展観する。

〔館長〕千種宣夫

〔観覧日〕午前八時―午後四時

〔観覧料〕二〇円

宮崎県立博物館

宮崎市神宮町東神苑
電 五二三八

昭和二六年四月創立。昭和一五年、紀元二六〇〇年記念事業として奉讃会が設立した徴古館を同二六年県立博物館として新発足したもの。考古資料を主とした

博物館。

〔館長事務取扱〕 伊集院竜雄

〔観覧日〕 午前九時―午後四時半

〔観覧料〕 一〇円

鹿児島市立美術館

鹿児島市山下町一三四

昭和二九年九月一日開館、黒田清輝記念室を設け、その他藤島武二、和田英作等の洋画、木村探元の日本画、新納忠之介、安藤照の彫塑等郷土作家の作品及び薩摩工芸品等を展覧している。又展示会場として四室以上の場合には有料で使用させている。尚昭和三二年六月、岩崎弥八郎寄贈の一〇〇坪の新館が完成開館した。

〔館長〕 谷口午二 〔次長〕 夏迫丸喜

〔観覧日〕 毎月曜、祝祭日を除き二月五日―二月二八日、毎日午前九時―午後五時

〔観覧料〕 大人二〇円。年間通用券一〇〇円

全国美術館会議

台東区上野公園

東京都美術館内

昭和27年11月14日発足。昭和32年5月熱海美術館、神奈川県立近代美術館に於て第6回全国美術館会議を開催。

全国美術館会議規約

第一章 総則

第一条 本会は全国美術館会議という。

第二条 本会の事務所は東京都美術館内におく。

第二章 目的及び事業

美術観覧施設

第三条 本会は美術館相互の連絡提携を図るを以て目的とする。

第四条 本会は前条の目的を達成するために左の事業を行う。

(一) 美術に関する協議会、展覧会、講習会、講演会、研究会等の開催

(二) 美術館相互の連絡情報及び出版物の交換

(三) 美術団体の連絡

(四) 美術館相互の連絡情報及び出版物の交換

第三章 組織

第五条 本会は全国の美術館施設を以て組織する。

第六条 本会の会費は年額金壹千円とする。

第四章 役員

第七条 本会に左の役員を置く。

会長一名 副会長一名 幹事若干名

第八条 本会の役員は互選による。会長は本会を代表し、会務を総理する。

副会長は会長を補佐し、会長事故あるときは会長を代理する。

幹事は会務を処理する。

第九条 役員は任期は二年とする。

第五章 会議

第十条 総会は全会員を以て構成し会長が召集する。

通常総会は毎年一回開く。必要に応じて臨時に総会を開くことができる。

第十一条 総会は会員総員の三分の一以上の出席を以て成立し、其の議事は出席者の過半数を以て決する、可否同数のときは議長の決するところによる。

第六章

第十二条 本会の経費は会費及び寄附金を以てこれにあてる。

第十三条 本会の予算は総会の承認を経なければならない。

第十四条 本会の会計年度は毎年四月一日に始まり翌年三月末日終る。

〔会長〕 東京都美術館長 早川治平 〔副会長〕 大阪市立美術館長 望月信成 〔幹事〕 プリヂェストン美術館長 岩佐新、国立近代美術館庶務課長 原敏夫、大原美術館長 武内潔真、本間美術館長 本間祐介、愛知県立名古屋美術館美術課長 太田三郎 〔会員〕 東京都美術館〔早川治平〕、プリヂェストン美術館〔岩佐新〕、根津美術館〔河西豊太郎〕、都立駒場高校美術館〔坂本勝一〕、東京国立博物館〔浅野長武〕、国立近代美術館〔岡部長景〕、京都市美術館〔重達夫〕、神奈川県立近代美術館〔村田良策〕、高岡市美術館〔中条豊治〕、大阪市立美術館〔望月信成〕、大原美術館〔武内潔真〕、高松美術館〔中村良三〕、佐賀県文化館〔從敏雄〕、白鶴美術館〔加納治兵衛〕、市立神戸美術館〔荒尾親成〕、大阪市天王寺、奈良国立博物館〔石田茂作〕、滋賀県立産業文化館〔田中千年〕、本間美術館〔本間祐介〕、箱根美術館、熱海美術館〔岡田与志〕、天理参考館〔福原喜代男〕、大倉集古館〔大崎新吉〕、愛知県立名古屋美術館〔太田三郎〕、藤田美術館〔藤田富子〕、致道博物館〔犬塚又太郎〕、物産巧藝館〔井上庄七〕、石橋美術館〔青木重憲〕、常盤山文庫〔菅原通済〕茶

東京画廊一覽

道美術館〔村山歌嶺〕、蟹仙河〔長谷川謙〕

三越画廊 中央区日本橋室町一ノ七 電 日本橋三三一一

高島屋画廊 中央区日本橋通二ノ五 電 千代田四一一一

丸善画廊 中央区日本橋通二ノ六 電 千代田三三二一

南画廊 中央区日本橋通二ノ七 電 千代田八六一六

壺中居 中央区日本橋通三ノ一 電 千代田一八三六、八九一二

三彩堂 中央区日本橋通三ノ一 電 千代田九六七六

日本橋画廊 中央区日本橋通三ノ四 電 千代田七七一一

ヤナセ画廊 中央区京橋二ノ一 電 橋五九二一

中央公論社 中央区京橋三ノ四第百生命館 電 東京二〇七〇

兼素洞 中央区銀座西一ノ三七 電 京橋二九六二

ナビス画廊 中央区銀座三ノ二 電 京橋七五八七

松島ギャラリー 中央区銀座三ノ二 電 橋五五三五六

サエグサギャラリー 中央区銀座三ノ一 電 橋三一一一

松屋画廊 中央区銀座四ノ一 電 京橋八四五一

和光 中央区銀座四ノ一 電 京橋八四五一

日動画廊	中央区銀座西五ノ一 電 銀座(7)二五三三	サトウ画廊	中央区銀座西七ノ二 電 銀座(7)一五九二	光風会美術 会館画廊	港区芝新橋田町一九 電 東京(5)一七三二	文天堂画廊	中区栄町六 電 (24)四三二
フォルム 廊	中央区銀座五丁目二川瀬商 会二階 電 銀座(7)五〇六	樺 ^{くわ} 画廊	中央区銀座七ノ三 電 銀 座(7)三四七	美松書房 廊	港区芝田村町一ノ三 電 東京(5)五五五一	トヨタビル ギャラリー	中村区笹島町一 電 (55)五 一二
三原橋画廊	中央区銀座五ノ三 電 銀 座(7)二一八	東京画廊	中央区銀座西七ノ五 電 銀座(7)一八〇八	伊勢丹画廊	新宿区新宿三ノ八 電 四 谷(5)一一四一	オリエンタ ル中村ギヤ ラリー	中区栄町六 電 (24)四三四一 五一四一
イエナ画廊	中央区銀座五ノ四 電(7)二 九八〇、三二八〇	弥生画廊	中央区銀座西並木通り七ノ 五 電 銀座(7)三二二〇	新 ギャラリー 宿	新宿区歌舞伎町八七九 電 四谷(5)七六二	桂花堂画廊	中区南園栄町 電 (23)一八 四一
安藤画廊	中央区銀座五ノ四 電 銀 座(7)八八八	たぐみ	中央区銀座西八ノ三 電 銀座(7)二〇一七	ブランシェ 廊	新宿区歌舞伎町八七九 電 四谷(5)五三五五、二二三	京都画廊一覽	
求龍堂画廊	中央区銀座西五ノ五御幸通 り 電 銀座(7)二九一六	銀橋画廊	中央区銀座西八ノ四 電 銀座(7)五八六	池袋画廊	豊島区池袋一ノ七三九 電 池袋(7)四四一八	大文字ギヤ ラリー	中京区木屋町通御池上ル 電上(3)七九一〇
文藝春秋社 画廊	中央区銀座五ノ五文芸春秋 社別館 電 銀座(7)四九一 四	創 ギャラリー 苑	中央区銀座西八ノ九 電 銀座(7)二一八	西武百貨店 画廊	豊島区池袋三丁目 電 池 袋(7)一五一	京美堂ギヤ ラリー	中京区河原町三条上ル 電 上(3)五二〇九
阿部養清堂	中央区銀座西五ノ五 電 銀座(7)二四七一	草土舎画廊	千代田区神田小川町 電 神田(5)三二四〇	東横百貨店 画廊	渋谷区上通二ノ五五 電 渋谷(4)一一八一	丸善画廊	中京区河原町通蛸薬師上 電 (2)二一六一
松坂屋画廊	(銀座店) 中央区銀座六ノ 一 電 銀座(7)三一八一	竹見屋画廊	千代田区神田駿河台下 電 東京(9)九二七	上松画廊	渋谷区上通二ノ三九 電 青山(4)二六八六	大丸美術 廊	中京区四条高倉 電 (2)二 一一一
シ	(上野店) 台東区上野広小 路一 電 下谷(3)一一一一	三省堂画廊	千代田区神田神保町一ノ一 電 東京(9)一一二六	北壮画廊	豊島区長崎三ノ四〇 電(9) 六三六〇	京都府ギヤ ラリー	下京区四条通河原町西入 電 (2)五二〇七
東京電力 サービスセ ンター	中央区銀座六ノ一 電 銀 座(7)八三〇五一六	文房堂画廊	千代田区神田神保町一ノ二 一 電 東京(9)七〇〇一	愛知県文化 会館	東区久屋町 電 (9)五五一	土橋画廊	下京区四条通堺町束入 電 (2)一一三一一
トキワ画廊	中央区銀座六ノ二 菊水ビ ル 電(7)四九一四	大丸画廊	千代田区丸ノ内鉄道会館 電 丸ノ内(2)一五三三	美交社画廊	中区栄町四 電 (9)四四三	丸物美術 廊	下京区烏丸通七条上 電 (5)八七二一
兜屋画廊	中央区銀座西六ノ三 電 銀座(7)六三三一	日比谷画廊	千代田区日比谷公園内 電 千代田(2)七六六五	松坂屋画廊	中区南大津通り二 電 (24) 一五一一	画箋堂画廊	下京区河原町通五条下 電 (5)八七五
銀座画廊	中央区銀座西六ノ五 電 銀座(7)一〇五	産経会館 東京画廊	千代田区大手町一ノ三 電 丸ノ内(2)五七七一(内線七六 〇)	丸栄画廊	中区栄町四 電 (24)五一五	祇園商会 画廊	東山区四条通祇園町南側五 六二 電 (6)一四四六
数寄屋橋 画廊	中央区銀座西六ノ六鐵道工 業ビル一階 電 銀座(7)一 八六四	三笠画廊	千代田区有楽町一ノ一四 明和ビル二階 電 東京(9)八 六九〇	丸善画廊	中区栄町三 電 (24)三五三	京都美術 倶楽部	東山区新門前通東大路西入
村松ギヤ ラリー	中央区銀座七ノ一 電 銀 座(7)七八〇、八七〇	ひろし	港区芝新橋一ノ四 電 銀 座(7)一九五三				

名古屋画廊一覽

京都画廊一覽

大阪・神戸画廊一覽

(大阪)

梅田画廊 北区曾根崎上二ノ三八 電 (3)五〇七四

白鳳画廊 北区曾根崎上一ノ三五 電 (3)三〇六一

梅新画廊 北区曾根崎上二ノ四一 電 (3)七〇四六

堂島画廊 北区神明町五〇 電 (3)五五一九

丸善美術画廊 北区梅田町 阪神百貨店内 電 (3)二七八七

福田画廊 北区絹笠町一八 電 (3)一〇六九

阪急画廊 北区角田町六二 電 (3)六四六一

三越画廊 東区高麗橋二ノ六三 電 (3)八五一

フジカワ画廊 東区瓦町二 フジカワビル 電 (3)一四九〇一、四四九四一五

美交社画廊 東区南久太郎町四ノ二〇 電 (3)三六二四一五

淀屋画廊 東区今橋五ノ三六 電 (3)六〇一八

そごう画廊 南区心齋橋一 電 (3)二二二一

高島屋画廊 南区難波新地六 電 (3)一浪速区日本橋三ノ四五 電 (3)一五三一

松坂屋画廊 浪速区日本橋三ノ四五 電 (3)一五三一

近鉄画廊 阿倍野区阿倍野町一ノ一 電 (7)五一三一

(神戸)

茜画廊 三宮町一丁目電停前 電 (3)一五三七

元町画廊 生田区元町一ノ一一 電 (3)三三五九

美術団体一覽(五〇音順)

(あ)

アトリエ・ド・Rヴァンエック(洋)

目黒区富士見台一五六一 香取忠彦方昭和29年創立。昭和28年2月に日仏学院に絵画クラスが設けられ、その担当教官としてロジェ・ヴァンエックがあつたが、29年12月当クラス廃止後も同教官に共鳴して、元絵画クラスの有志でグループを結成したもの。昭和29年12月第1回グループ展、30年6月第2回展開催。

〔会員〕 ロジェ・ヴァンエック、原武典、早川みな子、片山和子、香取忠彦、小島兼司、小林喜、小久保晴行、楠原昌樹、松田広子、村上暁郎、東海林謙、武川昌子、牛窪正

(い)

一采社(日) 世田谷区成城町一二九

高山辰雄方 昭和16年4月創立。同20年戦災のため展覧会を中止したが翌21年より引続き毎年春に展覧会を開き、昭和32年4月第16回展開催。

〔会員〕 大山忠作、加藤東一、加藤長明、河部貞夫、高山辰雄、中村正義、浦田正夫、野島青枝、山口吉三郎、山田申吾、我妻碧宇、佐藤因夫、三尾雄次、嶋谷自然、森緑梨、鈴木竹柏、伊藤弘、加倉井和夫、桑原清明

一水会(洋) 横浜市鶴見区馬場町馬場谷四〇三の五(電鶴見八一五七)下孝則方昭和11年12月、旧二科会員八名は「会場藝術を非とし、技術を重んじ、高雅なる藝術を尊重することに於て一致」、同会を創立した。同12年12月東京都美術館に第1回公募展を開催し、爾後毎秋季に展覧会を開き、昭和32年9月第19回展開催。

〔委員〕 石井柏亭、池部鈞、渡辺一郎、階三彩亭、小野末、奥田郁太郎、高橋庸男、高田誠、田崎広助、仲田好江、中村善策、中村琢二、納富進、山下新太郎、深沢紅子、福田新生、小山敬三、高野三三男、有島生馬、安宅盾雄、荒谷直之介、木下孝則、木下義謙、鈴木良三

〔会員〕 一一五名
一線美術(洋・彫) 大田区大森三ノ一一 五木村博之方 昭和25年7月創立。年1回春に展覧会を開き昭和32年3月第6回展開催。

〔代表委員〕 上野山清實、岩井弥一郎
〔委員〕 (絵画部) 石川久三郎、石上駒吉、石井榮、伊藤行男、伊藤徳衛、長谷川ハツ、新野徹一、千木良富士、沖田稔、萩原城舟、河崎千代子、神田房光、横山嘉平、田村満、村瀬真治、勅使川原一文、松浦光城、児玉勝次、小柳勇児、

西東重義、佐々木栄松、紫藤卓三、平田健三、寺田正、袋輪初太郎、宮沢今朝雄、本村博之、倉沢康、大黒孝儀、金子文吾、根本清満、山田邁、石原実、高橋治男、関川富士郎、信沢照子、村元俊郎、平松幸子、対比地初雄、田畑弘、

彫刻部 石田来之助、成川明
一陽会(洋・彫) 台東区上野桜木町三六 野間仁根方 (電駒込三四〇〇) 昭和30年7月創立。二科会を脱退した鈴木信太郎、高岡徳太郎、野間仁根を中心に、同じく二科会を脱退した会員一九名、会友七名によつて結成された新団体、昭和30年9月日本橋高島屋に於て第1回公募展開催。昭和32年8月第3回展開催。

〔会員〕 (絵画部) 鈴木信太郎、高岡徳太郎、野間仁根、米良道博、山路真護、鱈利彦、荻野康児、丹下富士男、森由太郎、中田豊、山谷鏡一、長谷川三千春、棟方寅雄、近藤長三郎、松下明治、片柳忠男、(彫刻部) 浅野孟府、植木力、伊本淳、中村暉

(う、え)

上野会(挿) 杉並区馬橋二ノ二四四

山本武夫方 昭和34年創立。東京美術学校出身者よりなる挿絵家を主とする集り。
〔会員〕 伊藤文七、富田千秋、織田晋也、小川洗二、鴨下晃湖、田中良、竹田忠丸、山本武夫、梁川剛一、藤形一男、三輪孝、三谷一馬、三輪秀、清水三重三 △エスプリ会(洋) 世田谷区若林町四六

一西田信一方 昭和27年11月創立。近代
繪画の研究會。

〔會員〕 長谷川三郎、西田信一、脇田
和、川端実、村井正誠、山口薫、小松義
雄、昭和三十三年解散。

〔會上會(日)〕 文京区西片町一〇ろ九
四方田草次方 昭和12年創立。昭和30年
6月第4回展開催。

〔會員〕 四方田草次、岩崎巴人、根本
進、相沢一男、土居淳男、上田臥牛、大
野正六、野村清六、田代与志、藤田將
文、川越康司、田代高之

〔旺文會(洋)〕 板橋区板橋四ノ一三八八
梅野順三方 (電池袋四三三〇) 昭和19
年解散した牧野虎雄を主宰者とする旺文
社が21年新に旺文會として発足したもの。
30年2月大久保作次郎、田沢八甲、
吉村芳松ら古参會員を含む六名は脱退し
た。昭和32年6月第11回展開催。

〔委員〕 五十嵐祥晃、石黒義一、市川
加久一、金井文彦、小林喜代吉、小林猶治
郎、小坂橋清、近藤せい子、皆見鷗三、
岡野正樹、酒井嘉久、阪井谷松太郎、清
水正博、杉浦勝人、鈴木金平、高野真
美、玉の内満雄、田辺嘉重、梅野順三

岡山県民藝協會 岡山県倉敷市向市場
電倉敷一五四一 昭和21年6月創立、凡
ゆる生活用具を健康、簡素、誠実ならし
め、生活に真の美を直結せしめる。こと
を趣旨とし、工藝品の調査、指導、地方
民藝館の創設経営、工藝研究所及び図案
指導所等の開設を事業目的としている。

〔會員〕 個人三五〇名、法人一四団体

(か)

可汗會(日) 神奈川県逗子市久木三三
五若林卓方 昭和29年4月創立。前田青
郎門下の一部同志的結合で、毎月の研究
會と年一回の展覽會を行う。昭和32年5
月第2回展開催。

〔會員〕 入江正巳、伊藤弘人、蓮尾辰
雄、西丸静園、若林卓、染谷祐通、月岡
栄貴、山中雪人、牧野三生郎、小西国
葉、斎藤辰雄、桜井清三、水谷愛子、澁
谷由美子、守屋多々志、鈴木大麻、鈴木
至夫。

華畝美術協會(洋) 京都市上京区北大
路新町東入ル (事務代表)京都市上京区
塔之段敷ノ下町四二一 中川義憲方 昭
和15年6月創立。紀元二六〇〇年を記念
して爾歩會を解散、華畝美術協會として
再発足した。昭和28年9月第16回展開
催。

〔會員〕 赤沢正次、赤松文子、新井
完、荒木貞人、居井直胤、伊丹愛子、井
垣嘉平、池田治三郎、井上三郎、岩田順
三、梅林良子、上田輝七郎、角野判治
郎、北川威夫、楠見文雄、小西丘太郎、
小林富蔵、小林正雄、島戸繁、霜島之
彦、篠崎貞五郎、鈴木昶、関口正夫、武
田新太郎、坪井一男、辻川新十郎、中井
潔、中川義憲、中堀愛作、成田浩子、成
瀬十郎、西岡義一、則元醇、原田久之
助、伴庄兵衛、富士一男、藤松弁之助、
古沢広樹、正木順子、松田藤兵衛、松田
淑子、三尾公三、水谷ミヨ、南素行、宮

内順三、安江孝治、山尾平、山田新一、
山田キミ、由里明

関西水彩画協會(水) 大阪市阿倍野区
北畠東一ノ二九 桂龍雄方 (電住吉八八
八七) 昭和10年4月創立。関西在住の水
彩画家の團結、親睦、普及研究を趣旨と
する。機関紙「関西水彩」発行。公募展、
講習會開催。

〔會員〕 池島勘次郎、別車博資、桂龍
雄、青野馬左奈、乾一雄、大庭しづ子、
田村雅保、芹生政夫、庭田定男、松村豊
太郎、大久保正義、赤尾長二、山田一
雄、上田素由、栗林忠男、佐野比呂志、
溝尻頼吉、水野修道、中川隆史、宮本草
一路、青山岩松、大久保三二、北口豊
子、中安徹、生田正雄、池上三郎右エ
門、村井新治、河村久子、仁科実、大田
健一、山野一、永山隆二、藤川九郎

(き)

衣笠會(日) 京都市北区平野八丁柳町
六一 金島桂華方 (電西陣三〇一〇) 金
島桂華を塾主とした日本画研究団体 昭
和25年創立。

九元社(彫) 世田谷区玉川奥沢町二ノ
一四九 森大造方 昭和9年創立。昭和
18年迄毎年展覽會を開催していたが現在
は活動を中止している。

〔會員〕 高橋泰蔵、中野四郎、村井辰
夫、鈴木三郎助、長沼孝三、紺谷英儀、
石塚貞男、森大造、奥山泰堂、長谷川宏
九室會(洋・彫) 杉並区久我山二の六
二六 森田信夫方 昭和13年11月創立。
二科展の第9室を中心とする新傾向作家

の親睦を図り、併せて各自の研究を目的
とする。戦時中絶、昭和25年再組織、昭
和26年第1回展開催

〔繪畫會員〕 阿部金剛、井上寛造、桂
ユキ子、桑原実、中原実、野村守夫、岡
本太郎、大沢昌助、織田広喜、鷹山宇
一、寺田竹雄、鶴岡義雄、山口長男、
山本敬輔、吉原治良、伊藤研之、松葉清
吾、安藤幹衛、藤田金之助、萩尾テル、
鳩賢三、春田安喜子、長谷川三千春、今
泉六郎、今長谷巖、稲垣克己、因藤寿、
伊勢谷慶子、伊藤静尾、岩田安郎、狩野
守、加藤孝一、加藤正一、木俣滋彦、越
谷繁造、増田勉、森田信夫、中川時之
助、浪江勘次郎、根本茂子、西村千太
郎、能間弘、大淵陽一、織田りら、小川
清、斎藤三郎、柳山勝、佐々木良三、田
川覚三、高橋滿州男、田中君子、竹中
清、戸川串田、戸川ふみ子、上田民子、
山本不二夫、山ノ内靖己、吉村勲、吉田
一夫

〔彫塑會員〕 浅野孟府、堀内正和、笠
置季男、乗松巖、上田暁、植木力、野水
信、淀井敏夫、広瀬不可止、飯田巖三、
岩元梶子、水野修道、野口嘉光、関口孝
吉、曾山節雄、植村育子

京都金藝鑄會(工) 京都市北区等持
院西町一六 加藤宗蔵方 昭和26年5月
創立。京都金藝作家の同志的集り。展覽
會を鑄鑄展という。昭和32年3月第6回
展開催。

〔會員〕 浅井清太郎、今大路長光、上
田哲三、大久保鼎湖、加藤宗蔵、加茂靈

峯、金谷五良三良、金江宗観、小林尚規、
広瀬兼舟、野田喜市、村上直行、辻井健
三、五島正広、倉賀野茂樹、田中秀明

京都新彫刻家クラブ(彫) 京都市東山
区五條橋東五ノ四六七、清水礼四郎方
(電祇園三二二二) 昭和27年2月創立。
京都在住の中堅彫刻家によつて組織され
る。昭和28年2月、第2回展開催。

〔会員〕 伊室重孝、清水礼四郎、藤庭
賢一、藤林重次、河野薫郎、小谷謙、岡
本庄三、山本恪二、三宅五穂

京都陶藝家クラブ(工) 京都市東山区
五條坂八幡前南入 森野嘉光方(電祇園
四三七二) 昭和23年12月創立。京都府
在住の陶藝家及び陶支会、白泥社、黏土
の三陶藝団体で組織される。昭和24年か
ら32年まで京都に於て9回、展覧会を開
催。昭和30年から32年迄東京大丸に於て
当クラブ黏土のみ3回展覧会を開催。

〔顧問〕 清水六和 〔会長〕 清水六兵
衛 〔副会長〕 森野嘉光、河合榮之助
〔総務〕 井上治男、新開寛山 〔委員〕
五名 〔会員〕 四四名

鶴会(洋) 豊島区要町一ノ四八ノ四
梶田英一方 昭和27年10月創立。昭和16
年12月東京美術学校油絵科卒業生の集
団。昭和32年6月第5回展開催。

〔会員〕 綾井秀宣、笠木実、梶田英
一、黒沢悟朗、沢田正太郎、清宮質文、
田代利夫、田畔司朗、土屋広倫、弦田英
太郎、富安昌也、中尾良一、細小路真、
柚木祥吉郎、吉原秀夫

(3)

黒潮会(日) 京都市左京区岡崎東天王
町八九 細木成実方(電吉田三二〇二)
昭和29年8月創立。京都在住の、各種団
体中、新進、中堅作家が各四、五名宛集
つて成る日本画の団体。新しい日本画の
創造を目的とする。昭和32年5月京都大
丸にて、同年6月大阪大丸にて第3回展
開催。

〔会員〕 細木成実、樋口辰志、下保
昭、野々内良樹、木村広吉、猪田青以、
中瀬昂、三輪良平、西内利夫、松井章、
稲田和正、桑野博利、海老名正夫、岸田
蒼坪、藤田孝正、利倉群青、大日躬世子
塊土社(彫)水戸市鈴坂町七四一 高久
茂雄方 昭和30年1月創立。昭和24年以
来の彫塑協会が29年末に発展の解散をし
て30年初めより新発足したもの。主に茨
城県に在住する彫塑家達による団体。年
一回展覧会開催。

〔会員〕 後藤清一、一色五郎、渡辺卓
熙、吉田暁禾、高久茂雄、中島敦、丹保
喜三郎、後藤修、後藤末吉、小森邦夫、
小鹿尚久、安藤春雄、木内克、森山朝
光、山崎猛、中井川洋、大高令子、軍司
記美子、吉田貫

グループ「実在者」(洋) 文京区駒込林
町一五四(大島方) 池田満寿夫方 昭和
30年4月創立。昭和31年1・2月第3回
連展開催。

〔会員〕 堀内康司、池田満寿夫、饜囀
(4)

形象派美術協会(洋) 愛知県安城市下
小入道 福山進方 昭和28年5月創立。
昭和28年5月第1回創設公募展を岐阜市
公会堂にて開催、32年8月第5回公募展
を愛知県美術館にて開催。

〔会員〕 福山進、木村政夫、加藤博、
杉浦艶子、岡本照美、河邑太郎、牧野正
則、三浦幸子、川澄虎男、山田新吉、安
藤智雄、兵藤康彦、浅野英三、田辺繁
雄。青野裕彦、野村正夫、有川武夫、中
田早、鎌田知治、馬淵敏彦、祖田功、近
藤克己、渡辺勝海、高橋三郎、河合幸
三、大関新造。

型生派美術家協会(洋) 世田谷区砧町
五八 庫田爰方 国画会中堅会員により
昭和25年結成された。昭和30年第5回展
開催。

〔会員〕 宇治山哲平、香月泰男、喜多
村知、国松登、熊谷九寿、庫田爰、須田
烈太、福井敬一、山崎隆夫、原精一、橋
本三郎

現代工藝協会(工) 京都市東山区上
馬町五五三 原照夫方 昭和31年8月創
立。走泥社、創人社(現在朱文会)、モダ
ンアート協会等に属する作家一三人を会
員とし、各分野の理解と協力により新し
いクラフトを創造することを目標に組織
された。

〔会員〕 河合紀、八木一夫、山田光、
鈴木治、林康夫、藤本能道、東端真裕、
熊倉順吉、本野東一、原照夫、叶敏、森
俊三、清水卯一

現代漆藝作家協会(工・漆) 北区豊島

三ノ五 泉篤彦方(電王子三八五) 昭
和31年8月創立。東京周辺に住む若い漆
藝家三四名によつて組織。

〔会員〕 泉篤彦、伊藤隆一、本間学、
大西慶憲、音丸香、渡辺六郎、渡辺道
善、渡辺大四郎、河合匡造、河合久仁
雄、川村忠雄、吉田佐源治、吉田五郎、
高田信吾、田中寿雄、多田保津雄、月尾
正之、工藤喜代志、山浦等、八木一、保
川寿子、山本春雄、松谷春雄、佐竹伊
介、酒井市三郎、木下純寛、木下穆堂、
三浦徳明、宮野光男、三田村秀雄、三村
比呂志、島田文雄、宮樫權也

現代美術協会(洋) 杉並区阿佐ヶ谷三
ノ三四 宮島資雄方 昭和28年11月、
日本作家協会洋画部、現代美術作家協会、
新生派美術家協会の三団体が合同して設
立発足したものである。昭和31年構成部
を新設。昭和31年6月第12回展開催。

〔委員〕 丘野美、小沢正、佐藤巨宏、
原田雅光、古川恂、三浦勝治、宮島資雄、
武藤重典、相沢謙一、根来茂

〔会員〕 斎藤森重、鈴木重雄、田中皓
四郎、武藤重典、升礼、照丘晃子、島崎
貞子、相沢謙一、加藤喜男、中野龍次郎、
根来茂、村瀬卓郎、片山利明、佐藤静樹、
船橋公平、戸塚春男、与田元二、近藤栄
子、大庭三郎、本間保次、阿部保。

(2)

工彩会(工) 北区中十条二ノ八 会田
富康方(電王子六五五) 昭和17年研
究団体として発足。昭和24年第1回展を
開く。昭和31年9月第8回展開催その間

地方に於いて移動展を開催する。

〔会員〕 飯塚小疋齋、伊藤隆光、伊藤一、大谷玲石、大坪重周、岡本玉水、岡本輝子、山本曠、川上南甫、加藤嶺男、竹内蘭山、高木幾望、武田三千子、中田錦石、中島珠光、松本佐吉、小林清、寺井直次、会田富康、有田利章、天野策地、佐野貞一、三田村秀雄、新村撰吉、平野利太郎、平田郷陽、安きよ子、介川芳秀、中野馨一、市橋敏雄、山浦等、音丸香、音丸兼、山崎一成。

紅土会(洋) 新宿区下落合三ノ一八五九 桜井慶治方 昭和23年6月創立。同年より毎年展覧会開催。昭和32年8月第10回展を開いた。

〔会員〕 桜井慶治、上島一司、宮脇憲三、矢口洋、武内和夫、野本正雄、海老沢殿夫、花田忠吾、大道健治、篠田喜代志、仲町謙吉、森清治郎、橋本万寿子、遊馬正

行動美術協会(洋・彫) 世田谷区弦巻町一ノ二六ノ一 向井潤吉方(電世田谷三五六一) 昭和20年11月創立。昭和19年二科会解散し、翌年8月終戦後二科会は再結成を図つたがその際主張の異なる旧二科会々員の一部を中心として組織された。昭和32年9月第12回展開催。

〔会員〕(絵画部) 榎倉省吾、福井勇、古家新、飯田清毅、生沢朗、柏原党太郎、三芳錦吉、向井潤吉、村田實史雄、難波香久三、田中忠雄、高橋進、伊藤信夫、伊谷賢蔵、伊藤久三郎、小林武夫、小出卓二、西阪修、田川寛一、下高原龍

巳、田辺三重松、坪内節太郎、川原章二、山中春雄、高井寛二、佐藤真一、斎藤貞成、津高和一、田中勇次郎、河野通紀、高須國之、全和光、江見絹子、田中亜喜良、大谷久子、辻親造、野尻弘、貝原六一、玉沢潤一、大場厚(彫塑部) 建島覚造、中島快彦、向井良吉、板谷慎、今村輝久、伊勢典賢、林是、阿井正典、野崎一良

光風会(洋・工) 港区芝田村町一ノ七 光風会館内(電東京一七三三) 責任者小寺健吉。明治45年創立。明治44年白馬会解散後、中沢弘光、山本森之助、三宅克己、杉浦非水、岡野栄、小林鐘吉、跡見泰の七氏発起して創立、第1回展を45年6月上野竹之台陳列館に開催した。官展系洋画家の団体、毎年春季公募展を開催。昭和32年3月第43回展を開いた。

〔会員〕(絵画) 安達真太郎、足立真晃、足代義郎、朝比奈文雄、有馬三斗枝、秋元松子、荒井邦朝、浅井光男、井手宣通、井上武、伊藤広久、伊藤錦三、伊藤四郎、伊藤錦一、岩船修三、飯田弥生、池野寿彦、石橋武治、石河彦男、石野安親、宇城時志、鷗飼幸雄、内山孝、江藤純平、岡田又三郎、小川智、小川博史、大沢海蔵、大河内信敬、大原省三、大倉克次、大桃寛、緒方亮平、斧山万次郎、奥山堤、岡本由郎、尾崎侃、加藤久幹、河井清一、上島一司、梶原貫五、角野判治郎、片岡銀蔵、笠井忠郎、金子徳衛、金沢秀之助、川端謙次、清原重以知、鬼頭鍋三郎、木村八郎、北浜淳、久

山章、黒田頼綱、黒田久美子、熊沢欽三、樽松正利、小糸源太郎、小林真二、小寺健吉、小林易夫、国領経郎、鮫島利久、阪倉宣暢、笹鹿彪、笹岡了一、桜井悦、桜井慶治、核田精一、斎藤齊、坂田虎一、市ノ木慶治、新道繁、白石隆一、白川一郎、島野重之、島戸繁、神保和幸、新保兵次郎、庄司栄吉、篠田喜代志、杉村博、鈴木三五郎、菅谷邦敏、相井春雄、妹尾寿信、瀬戸千代三、千田徹夫、相馬其一、田村一男、田中実一、田中実、反町博彦、高木春太郎、高宮一栄、高田正二郎、高橋道雄、高光一也、高倉一二、竹岡良太郎、竹沢基、千原成一、中条茂、辻水、辻朗、辻村八五郎、寺内万治郎、寺島竜一、手塚義三郎、遠山清、土佐林豊夫、土橋醇一、戸塚孝三郎、戸田定、鳥居昇、長原坦、中村研一、中沢弘光、中島晋次郎、中岡恒雄、永田精二、永瀬義郎、長坂春雄、名渡山愛順、西尾善積、西山真一、西村源定、西村俊郎、西村喜久子、西岡義一、根津荘一、野平上、日原晃、久本弘一、藤彦衛門、藤本東一良、藤井芳子、藤江理三郎、古屋浩蔵、舟木徳重、星野正三、馬淵聖、牧野司郎、益山英吾、松尾正己、松浦莫章、松本正人、丸山豊一、円地信二、耳野卯三郎、南政善、水上信雄、三尾文夫、三輪孝、御正伸、溝江勘二、宮脇憲三、村岡平蔵、森田元子、森桂一

森新市、森清治郎、守屋千之、山中清一郎、山下忠平、山口猛彦、山喜多二郎、太、山村孝太郎、山本彪一、山田新一、

柳瀬俊雄、矢口洋、由里明、幸島重雄、米本一郎、渡辺武夫、和田香苗、和田清(工藝) 一噌元治、伊勢瑛子、岩田久利、上野正之輔、上野斌郎、海野建夫、大阿久重信、大久保婦久子、大樋年郎、川合修二、久保駒太郎、小林清、杉浦非水、武内信弘、帖佐美行、辻光典、土屋杏平、寺本美茂、中田満雄、中村俊介、中村重一、夏井清、西村英夫、福原達朗、般若佑弘、松風栄一、三輪智一、三井義夫、宮之原謙、山形駒太郎、山鹿清華、山崎覚太郎、鷺田うめゑ

神戸洋画会(洋) 神戸市東灘区本山町田辺三八、三木朋太郎方(電御影一五二四) 昭和21年創立。阪神在住の洋画家をもつて組織、毎年展覧会を開く。

〔常任委員〕 朝倉斯道、大塚銀次郎、小磯良平、川西英、上田清一、小松益喜、大石輝一、江田誠郎、三木朋太郎

〔会員〕 宮下貞之助、大石輝一、藤井二郎、石黒平三郎、根木徒之介、伊藤慶之助、辻愛造、山崎隆夫、上田清一、三木朋太郎、前田藤四郎、大垣泰治郎、田村孝之助、岡正一、松田豊、奥村隼人、小磯良平、小松益喜、青木一夫、中岡恒雄、江田誠郎、久本弘一、細谷重雄、津谷鹿市、佐藤篤郎、川西英、角野判治郎、伊川寛、別車博資、榊井一夫、尾田龍、新井完、神原浩

光陽会(洋) 北区上中里一ノ二 多々羅義雄方 昭和29年2月創立。多々羅義雄、早川芳彦、井口勇、斎藤武の四名が創立委員となつて結成し、民族性を活か

した独自の藝術を創作することを目的とする。昭和32年7月第5回展開催。

〔会員〕 多々羅義雄、早川芳彦、井口勇、齋藤武、間所一郎、矢部連兆、齋藤哲爾、矢部幸子、齋藤始雄、吉川俊久、太田宗平、島田良雄、原田繁夫、大川美友、北島吾三平、西本雅哉、三井良作、若林清、瀬部和代、大島信義、丸山妙子、湯沢明、岡野靖子、大山富美子、渡辺邦之、飯塚年男

国画会(絵・版・工・写真)

世田谷区松原町三ノ八〇四 前田政雄方 (電松三九〇八) 大正7年1月小野竹喬、土田麦櫻、村上華岳、野長瀬晚花、神原紫峰の五名は国画創作協会を設立、爾來毎春東京及京都に於て協会展を開催し、又入江波光はじめ数名の若い作家を同人に推挙したが、同15年梅原龍三郎、川島理一郎の兩名を迎えて第二部を新設し更に富本憲吉、金子九平次を加えて彫刻及び工藝を同部に置いた。その後昭和3年7月解散したが、第二部は存続して国画会と改称し、梅原龍三郎、川島理一郎、大橋幸吉、金子九平次、富本憲吉、山脇信徳の旧会員に新に高村光太郎、椿真雄、河野通勢の三名が参加し、翌4年「第4回国画会展」を公募の上開催した。第6回展に版画部新設、平塚運一が鑑査を担当した。10年梅原龍三郎及び富本憲吉は新帝院会員に任命され、同年6月川島理一郎は同会を脱退した。尚第14回展には写真部を新設し、鑑査には福原信三、野島康三の兩名が當つた。同14年彫

刻部は同会を結束離脱し、彫刻部は解消した。29年理事制を廃し、客員制を設けた。昭和32年4月第31回展開催。

〔名誉会員〕 梅原龍三郎 (客員) 福島繁太郎、浜田庄司、河井寛次郎、野島康三、柳宗悦

〔会員〕 (絵画部) 青山義雄、青木達弥、東真美、伊藤廉、池部真喜、井上三綱、石原宏策、宇治山哲平、内堀勉、大森啓助、大谷房吉、大淵武夫、尾田龍、柏木俊一、川口軌厓、香月泰男、喜多村知、木内広、園松登、熊谷九寿、久保守、庫田毅、小林邦報、小泉清、沢野岩太郎、里見勝蔵、渡川榮志、島内キミ、杉本健吉、須田剋太、曾宮一念、立石鉄臣、高松健太郎、辻愛造、土田文雄、中村博、中村好宏、長野静司、野田好子、長谷川春子、原精一、橋本三郎、南風原朝光、平塚運一、日向裕、福留章太、福井敬一、二見利節、細谷重雄、益田義信、馬越樹太郎、真垣武勝、松木満史、松田正平、宮田重雄、三橋健、村上敏、山村誠、山崎隆夫、養田つや子、和田忠志、鈴木正二、北村綱義、音部幸司 (版画部) 畦地梅太郎、稲垣知雄、橋本與家、川上澄生、川西英、齋藤清、下沢木鉢郎、品川工、笹島喜平、関野準一郎、平塚運一、ブブノワ、前田政雄、益田義信、山口源 (写真部) 入江泰吉、小野由行、木村伊兵衛、中居正躬、西山清、錦古里孝治、野島康三、北角玄三、長浜慶三、ハナヤ勤兵衛、吉川富三、内田美

胤、竹見義雄、島田貫一郎 (工藝部) パナード・リーチ、上田恒次、及川全三、岡村吉右衛門、河井武一、小島恵次郎、後藤清吉郎、佐久間藤太郎、芹沢銈介、鈴木繁男、外村吉之介、立花長子、船木道忠、船木研志、三代沢本寿、森義利、柚木沙弥郎、柳悦孝、柳悦博、安川慶一

国際アートクラブ (洋・彫・工・建・評論) 世田谷区経堂一五八 難波田竜起方(電三三八八) 昭和28年5月国際アートクラブ日本本部として創立(通称アートクラブ)。画家、彫刻家、その他の美術家、評論家によつて組織され、各国のアートクラブと連繫し、現代藝術を發展させるための活動を行う。又本会は一切政治に関与しない。各国アートクラブは各々本部を国内に持ち、国際的な中央本部に連繫するが、中央本部は二年毎に国際会議によつて所在を決めることになつてゐる。現在はイタリアのローマ、アートクラブが本部となつてゐる。

〔新幹事〕 岡本太郎、杉全直、難波田竜起、昆野恒、藤沢典明、向井良吉、建島寛造、末松正樹、川端実、利根山光人、阿部展也、村井正誠、小松義雄、品川工、南大路一、赤穴宏、土屋幸夫、滝口修造、徳大寺公英、針生一郎

国際具象作家協会(洋・彫) 横浜市中区西竹之丸一二 寺田春次方(電本局四七六二) 昭和31年6月創立。一九五四年(昭和29年)在仏中交友のあつた日・仏同志によつて結成。各々の伝統を尊重しつ

つ、生活に基盤をもつレアリテュメインを造型表現に訴えよらうとするものだと声明してゐる。昭和31年7月第1回展開催。

〔会員〕 Aizpri, Montané, Minaux, Vinay, Desnoyer, Lotiron, Bardone, Winsberg, Savary, 里見明正、寺田春次、矢口洋、深谷徹、小野末、関口俊吾、山本豊市、松田正平、松永敏太郎、金子徳衛

国際工藝美術協会「J・A・C・C」 (工) 新宿区新宿町三ノ二九 岩田工藝ガラス店内(電東京三七局二二〇七、五〇三二) 昭和30年12月創立。伝統を生かしつつ世界的視野に立つた新しい工藝の創造を目的とする。その目的達成のためデザイン、技術の研究、日本工芸の海外進出及交流、工芸に関する印刷物の刊行、会員相互の扶助、親睦、内外諸官庁、商社との連携その他必要な事業を行う。

〔理事長〕 岩田久利 (理事) 一一名

〔会員〕 五四名

国際版画協会 千代田区神田小川町二ノ一 武崎ビル内(電東京二九局二七八八) 各種版画の研究とその普及を国際的に行い、複製美術の振興と普遍化により、文化の発展に貢献することをもつて目的とする。事業としては、版画の研究、普及に關すること、国際的な交流、内外に於ける展覧会の開催、版画製作者助成に關すること等を行う。その一つとして昭和32年7月第一回国際版画協会展(日米交換版画展)を行った。

〔会長〕 辻永 (理事) 足達源一郎、

伊藤集、江藤純平、大河内信敬、小野瀬圭三、片平勝、鈴木千久馬、長坂春雄、中村利一、野口弥太郎〔監事〕大江恒吉、三輪孝〔会員〕三七名

国際美術協議会 港区芝白台町一ノ五五(電東京四四局、八一〇六、八一〇七) 昭和32年8月創立。日本美術の国際的発展、国際美術展への参加、国際的交流に關し、国内関係諸機関の連絡を緊密にし、必要な審議を行うとともに、右事項に關する政府の施策に協力するために設置する。

〔常務理事〕 米沢菊二〔委員〕 外務省情報文化局第三課長井上一郎、文部省社会教育局芸術課長宇野俊郎、文化財保護委員会事務局局長清水康平、国立博物館次長田内静三、国立近代美術館次長今泉篤男、国際文化振興会常務理事米沢菊二、国際造型美術連盟日本委員代表伊原宇三郎、日本美術家連盟委員長宮本三郎、日本美術家連盟事務局局長和田新、美術評論家連盟会長富永惣一、美術評論家連盟事務局局長嘉門安雄

国民文化会議 新宿区四谷一ノ一八(電四谷三八三〇、三五二) 昭和30年7月創立。正しい国民文化を守り育てるために、国民各層の人々と文化を専門とする人々を結びつつ、我國の文化の伝統を正しく発展させ、専門家の創造活動を培い、その成果を普及、大衆の文化的要求を満すことを綱領としている。原則として団体会員をもつて構成され、文学、教育、写真、藝能、映画、生活文化、音

楽、舞踊、科学技術、言論、美術、演劇の一二部会有る。

〔会長〕 上原尊祿〔顧問〕 裕伊之助、山田耕蓆、市川猿之助、木村伊兵衛、石井漢、町田嘉章、秋田雨雀、徳川夢声〔事務局長〕 南博

児玉画塾(日) 文京区駒込林町三五 児玉希望方(電駒込五二五) 児玉希望の主宰する日本画塾

コンレアル美術協会(洋・彫) 神戸市灘区八幡町二ノ六三 岡本弘三郎方 大阪市立工藝学校同窓生により昭和26年5月創立。昭和30年1月第6回展開催。

〔会員〕 中辻大、小田村貞雄、小笠原美代治、岡本弘三郎、中島洋、矢野友司

朔日会(洋) 台東区谷中真島町一ノ一 羽藤馬佐夫方(電駒込七七八五) 昭和12年創立。昭和32年7月第26回展開催。

〔同人〕 羽藤馬佐夫、加藤正信、竹上義治、高木秀男、中島久雄、山本甚作、矢島俊一、越次勇、佐藤昌祐、木村昭弥、白石延夫、鈴木堅司、後藤高司、徳本立憲、角田和志郎、青柳正、西徳三郎、池淵知世、斎藤敬一、恒任てる、新野一弘、羽藤淑子、了正敬一郎、荒井一男、大塚武、戸泉静子、大久保照雄、小谷野享、浅田進、新井信一、土屋芳夫、諏訪豊吉、長岡一敏〔会員〕八五名

座標(洋) 兵庫県神戸市兵庫区能野町五ノ八九ノ二〇 大西江二方 昭和31年4月創立。構成メンバーは現在春陽会々員と一般出品である。昭和31年10月第一

回展を神戸で開催。

〔会員〕 佐藤篤郎、池内登、市原宏郎、大西江二、亀野積治、鈴木敏重、長尾和義、前田清子、山田文宏

サロン・ド・ジュワン(洋) 豊島区長崎六ノ四一 米倉寿仁方 昭和26年6月創立。昭和32年10月第9回展開催。

〔会員〕 浜田稔、堀田操、大口登、渡辺寛治、米倉寿仁、中島稔、真島健三、三水公平、大谷俊、辻肇夫、盛益子、安部幸毅、伊藤忠義、小野洋、若菜寿夫、中林松太郎、遠藤敏弥、窪田知矩、宮野進

三軌会(水・染色・版画) 杉並区上荻窪一ノ一三 互井開一方(電荻窪六四六五) 昭和24年2月創立の新水彩作家協会を30年1月三軌会と改名。昭和32年写真部解散昭和32年3月第9回展開催。

〔委員〕 (水彩・版画部) 古郷八郎、小林新吉、前林章司、滝沢清、互井開一、坂梨心澄(染色部) 大坪重周、奈良東明子、矢島青郎

〔会員〕(水彩部) 増田大罇、大久保寛郎、田村貫一、三輪田元也、細田賢作、石井敏、高杉洋介、植田実、森田一男(染色部) 野村信、十束敏子、田内康近、大西澄子、山岸登美、佐藤雅男

3季会(洋) 大田区調布鶴ノ木町一八六 木内広方 昭和28年6月創立。国画会所属の三〇代作家を主体とする。昭和31年3月第3回展開催。同31年5月解散す。

〔会員〕 石原宏策、音部幸司、木内広、野田好子、本田克己、和田忠志、小館善四郎、川村浩章、菊地辰幸、鈴木正二、積田豊土、張替正次、渡辺貞一、東真美、田宮裕己、水木徳子

三光会(日) 杉並区堀之内一ノ一三 田中針水方 川合玉堂の塾生により昭和21年11月創立。昭和30年3月第9回展開催。

〔会員〕 井上恒也、田中針水、山下巖

示現会(洋) 豊島区高松町二三 光安浩行方(電落合三三四) 昭和22年10月創立、昭和32年8月10周年記念展開催。

〔代表者〕 石川寅治〔常任委員〕 石川寅治、三上知治、奥瀬英三、光安浩行、橋原健三

〔委員〕 阿部広司、石川寅治、江崎寛友、大坪実、大沼静蔵、奥瀬英三、江藤靖彦、斎藤俊雄、佐々木真夫、田原輝夫、寺崎善次郎、中村新次郎、奈良岡正夫、橋原健三、野生司行正、能見三次、半田圭治、細島昇一、三上知治、光安浩行、水戸敬之助、三井滋雄、山田説義、吉原甲蔵〔会員〕は委員を含め八八名。

四耕会(彫・工・写真) 京都市東山区高台寺榊屋町三三九 宇野三吾方(電祇園二四一一) 昭和23年10月創立。彫刻・工藝・写真等の研究団体。毎年1回公募展開催。

〔会員〕 伊豆蔵寿郎、宇野三吾、岡本素六、大西金之助、加藤仁、沼田一三、林康夫、雲雀民雄、藤田作、益田哲、渡

辺好章、土本真澄、宇野瑞子、北出藤雄

日月社(日) 大田区仲浦田一ノ一一

村松乙彦方(電浦田三六一七) 昭和25

年2月創立。官展系日本画家の研究団

体、毎年各地で展覧会開催、昭和32年6

月第8回展開催。

〔顧問〕伊東深水、兒玉希望、矢野橋

村〔客員〕寺島紫明、田中以知庵、池

田遙郷〔委員〕西野新川、奥田元宋、

田中針水、武藤嘉享、海野旭世、山下

巖、牧野雅彦、福与悦夫、白井烟嵩、森

正元、佐藤太清、白鳥映雪、浜田台見、

渡辺阿以湖、笠原可雄、立石春美、村松

乙彦、松本郭南、鈴木由太郎、鈴木石鷗

子、松浦満、岡宮正、八幡白帆、直原玉

青、大平華泉、川上青山、秋元節朗、北

村道明、伊藤万羅、水野陽翠、森田邦

仁、米重忠夫、陳永森、関根雅雄、三上

巴峽、村山径、横尾芳月〔委員〕一四

五名(委員共)

○ 実験工房(綜) 品川区上大崎長者丸三

○ 鈴木博義方(電大崎三八七四)

美術家、音楽家、詩人等の集団

〔委員〕(美術)北代省三、駒井哲郎、

山口勝弘、福島秀子、今井直次、山崎英

夫、大辻清司(音楽)武満徹、鈴木博義、

湯浅譲二、佐藤慶次郎、園田高弘(文

学) 秋山邦晴

室内構成美術家連盟 目黒区衾町一〇

○ 佐々木達三方(電荏原二四〇九)

昭和26年創立。同年第1回展開催。

〔委員〕佐々木達三、岩瀬要三、浜中

勝、喜多村政良、野口寿郎、奥平貞俊、

水谷文平、大泉博一郎、狩野雄一

信濃美術会(綜) 大田区山王二ノ二五

六二 伊川鷹治方(電大森六九二)昭和

27年3月創立。在京信州美術家及在郷有

力美術家による団体。昭和28年6月第2

回展開催。

〔委員〕(日本画)横尾芳月、町田曲

江、江崎孝坪、亀湖隆、藤森善藝、他

(洋画)伊川鷹治、辻村八五郎、中川紀

元、小山敬三、高橋貞一郎、小穴隆一、

須山計一、小林邦親、宮川仁、矢崎牧

広、日向裕、関四郎五郎、志村一男、加

藤陽、他(彫塑)清水多嘉示、瀬戸団

治、小林章、小林三郎、長田平治、大和

作内、矢崎虎夫、他(工藝)北原三佳、

高橋節郎、山岸堅二、他

示風会(工) 練馬区南町五ノ六七三六

広川青五方(電練馬四四六) 昭和26年2

月創立。東京及近県在住の日展出品者

(染・繡・織)の集団。昭和30年7月第4

回展開催。昭和31年7月27日解散。

〔委員〕岩下洋、磯部陽、祝三良、今

井輝子、池田和子、般若侑弘、富岡伸

吉、十束敏子、河合研二、高久空木、大

坪重周、山岸堅三、平野利太郎、二口志

保子、青木滋芳、喜多村栄太郎等二七名

シャルウル・ラタント美術会(洋) 杉

並区井荻一ノ一五四 増田宜夫方 昭和

29年12月創立。昭和30年7月日本橋丸善

画廊にて第1回発表展を開催。

〔委員〕和田恒、山口道夫、増田宜夫、

斎藤友之助、佐藤光右、白岩俊治、渋谷

彦二

J・A・N(洋・写)〔青年美術家集団〕

千代田区神田駿河台二ノ一一 五味秀夫

方(電東京二九局四五六)昭和4年創立。

昭和30年3月J・A・N・現代フランス、ク

リティック賞絵画展開催。年一回作品発

表、月一回研究会。

〔委員〕土橋醇、藤井令太郎、福井敬

一、五味秀夫、伊藤禎朗、今関一馬、井

上孟、南桂子、武藤久、松村禎夫、中

村道、斎藤正夫、笹岡久一、堀出千鶴

子、田中岑、山下鉄之輔、横地康国、江

田豊、松島活基、大村連、沢柳清、田中

阿喜良、辻正男、山下登、山本崇平

自由美術家協会(洋・彫・版) 台東区

谷中三崎町四八 稲田三郎方 保守的な

形式主義、形式模倣を超克し、自由に新

しい前衛藝術を作ろうと云う主張で結ば

れている。昭和11年7月創立。昭和12年

第1回展を開催。戦時中昭和16年第5回

展より美術創作家協会と改称したが昭和

21年第9回展(大改)より旧称に復活、昭

和32年10月第21回展開催。

〔委員〕青木正春、赤塚 徹、麻生三

郎、荒木道夫、安藤三、安部真知、伊藤

昭二、井沢元一、池田淑人、池田栄、磯

村敏之、糸園和三郎、井上長三郎、井上照

子、井上信道、井上武吉、稲田三郎、今井繁

三郎、一木平蔵、上野省策、上野実、上原二

郎、江見崇、栄永大治良、小山田二郎、

小貫政之助、小野忠弘、小野州一、大野

五郎、大村清隆、大村連、大家鋭郎、岡

弘、岡本実、乙莖統、奥富修、尾内健

治、小俣球一、加藤一、加藤隆、金井新

一、香山逸人、加納敬次、川合喜二郎、

川口精六、川瀬考二、柿手春三、賀川

孝、木ノ内岬、鬼頭暉、金光珠、久保田

九一、倉石隆、熊谷明広、小谷良徳、

小谷博真、小管徳二、小村 邦二、小林

良曹、小山寿夫、昆野恒、金野宏治、

佐田勝、佐藤美代子、佐藤吉彦、佐藤

弘、佐藤省三郎、境野一之、迫田潤

一、沢野井信夫、佐野文夫、島田由紀

子、島鉄生、清水七太郎、清水正策、堀

水流功、末松正樹、杉原清司、鈴木国

稔、鈴木福男、関正和、関戸伸、石寿星、清

希卓、曹良奎、齒田猛、田中彦次、田中

朝吉、田中健三、田原史、竹中三郎、团

勇、田尻稲四郎、中条顕、塚谷政義、鶴

岡政男、手塚益雄、寺田政明、土井栄、

渡力敷唯信、登崎太三郎、富山好子、富

田卓司、富成忠夫、豊田一男、中島保

彦、永田力、中野淳、長野誠之助、難波

田竜起、中村健一郎、中本達也、中山一

郎、奈知安太郎、西八郎、西良三郎、新

田実、西田信一、西谷富士雄、西村保史

郎、根岸正、野崎南海雄、野見山晓治、

灰谷正男、羽田重亮、浜口陽三、浜田知

明、浜田方一、早川重章、林田セツ子、

比田井仁史、平沢熊一、広田嘉子、藤

沢匠、藤沢喬、藤沢友一、藤田昭子、藤

周清、文挾克明、深見公道、堀内規次、

細井憲章、前川博人、前田常作、松野庸

子、松永浩二郎、松本忠義、松本正子、

牧野重信、万城信郎、三木弘、水谷武

彦、三井滋夫、南桂子、峯孝、峰村リッ

子、宮本正之、森堯茂、森川昭、森田正

治、森芳雄、矢島甲子夫、八獄四郎、八幡健二、山口英哉、山口正城、山内豊喜、山田千秋、山田光春、山本新蔵、幸丸辰門、吉井忠、吉本時昌

主潮社(日) 大阪府豊中市麻田一〇九四ノ九 矢野橋村方(池田八三二二) 昭和22年1月創立、矢野橋村を会長とする日本画塾。「委員長」 福与悦夫

出版美術家連盟 新宿区下落合二ノ五八六(電落合三三五四) 昭和25年10月創立。戦前の日本挿絵画家協会を戦後改称したもの。「理事長」 岩田專太郎「専務理事」 鴨下晃湖、田代光

珠玉会 杉並区高円寺三ノ一八四 三輪孝方(電中野九〇二七) 昭和32年11月創立。第13回日展特選及岡田賞受賞者を以て結成、年一回発表展を行う。

〔会員〕 秋元松子、高橋道雄、武永楨雄、寺島竜一、中村一郎、二重作竜夫、松木重雄、宮地亨、三輪孝、三井滋夫、大蔵敏秋、角卓、菅沼金六、樋口哲

朱玄会(工) 京都市左京区浄土寺南田町一〇三 番浦省吾方 (電吉田三〇四九) 昭和32年4月創立。旧創人社は創立一〇年を経て初期の目的を達したと考

え、発展的解散をなし、新に工藝の新造型をめざし結成した。京都在住作家の集り。昭和32年6月第1回展開催。

〔会員〕 井田宣秋、伊藤祐司、市川準一、上原清、上原茂、岡田章人、久保金平、鈴木雅也、堂本漆軒、中清太郎、中村弘子、番浦省吾、東端真筈、平石晃祥、松本祥輝、真鍋光男、水内平一郎、

水谷時三郎、山下悦夫、山田榮金

朱葉会(洋) 新宿区下落合二ノ六六七 吉田ふじを方 (電落合四三三七) 大正7年創立。女流洋画家の団体、昭和32年6月第9回連立展開催。

〔会員〕 友田みね子、吉田ふじを、山田文子、大久保爲世子、赤津捨子、岩村芳子、水沢順子、南桂子、吉田千鶴子、森野照子、石川よし子、仲敬子、直井澄子、梅川慶子、重松京子、改井貞子、村田米子、宗久恭子等四四名。

青甲社(日) 京都市東山区八坂通東大路西入 西山翠峰方(電祇園一六八四) 西山翠峰を塾主とした日本画研究団体。大正10年1月創立。毎年初夏に展覽会開催。

〔総務〕 西山英雄 (幹事) 樋口富麻呂

春泥会(日) 大阪市住吉区帝塚山中三ノ二六 中村貞以方 中村貞以の主催する日本画の画塾。昭和11年5月創立。昭和30年6月第14回展開催。

春陽会(洋・版・舞台装置) 世田谷区成城町三九六 南大路一方(電砦九九一五) 大正9年秋日本美術院洋画部を脱退した小杉未醒、山本册、倉田白洋、森田恒友、長谷川昇、足立源一郎の六名は

同11年1月、新婦朝の梅原龍三郎を加え、更に九名の客員を迎えて同会を創立。「春陽会は従来屢々見たる如き既成会への社会的対抗として興らず、単なる藝術家の心を以て因縁相熟したるものです」と声明した。翌年5月上野竹之台陳

列館に第1回展を開き、爾後毎年春季に公募展を開催し、又東京開催後大阪、名古屋等に地方展を催している。昭和26年から舞台美術部を設けた。昭和32年4月第34回展開催。尚春陽会研究所は昭和4年開設、現在に及んでいる。

〔会員〕 (油絵) 石井鶴三、石井光楓、伊藤慶之助、岩田栄之助、伊川鷹治、今竹七郎、岩崎又二郎、伊藤善、原田武男、原田平治郎、本莊起、豊泉恵三、友田みね子、岡鹿之助、小穴隆一、鬼塚金華、小栗哲郎、大沢鉦一郎、小川マリ子、大嶺政寛、小川緑、若山為三、加山四郎、川端弥之助、加賀孝一郎、川隅路之助、川上尉平、川島昇太郎、加藤秀夫、横堀角次郎、吉田達磨、高田力蔵、

高橋辰雄、田中寿太郎、田川勤次、田辺謙輔、田中岑、土屋義郎、中川一政、南城一夫、中谷泰、中村徳三郎、村山密、上野春香、上原欽三、魚津良吉、野村千春、栗田雄、倉田三郎、山川清、藤野龍、藤井令太郎、小杉放庵、小泉倫之助、遠藤典太、足立源一郎、秋口保波、

荒木市三、佐藤篤郎、佐藤昌胤、木村荘八、水谷清、三雲祥之助、南大路一、宮田武彦、宮脇晴、三井永一、志村一男、森川鏡、角南松生、木本晴三、福田庸一、笠木実、小柳秀太郎、中山爾郎、高木勇次、関四郎五郎、市川晃、五味秀夫、大嶺政敏、井上重生、(版画) 長谷川潔、前田藤四郎、古川龍生、駒井哲郎、北岡文雄、清宮彬、(舞台美術) 伊東嘉朗、吉田謙吉、

田音也、河野国夫、北川勇、北林亮太郎

上彩会(統) 千代田区神田大和町三八区立今川小学校内(電芽場町七八〇九) 代表者 藤沢典明 昭和22年創立。東京都小学校在職者にて終戦後東京都美術派遣生として東京美術学校に派遣された二六名にて結成する。

女流画家協会(洋) 三鷹市下連雀三〇五 桜井浜江方 昭和21年11月創立。女流画家相互の研究と新人の登龍門として展覽会を開催する。昭和32年6月第11回展開催。

〔会員〕 一四〇余名
新協美術会 新宿区下落合二ノ五八六 西原比呂志方(電落合七三三四) 昭和32年11月創立。在野美術団体。昭和32年11月第1回創立展を開催。

〔委員〕 青山裏、太宰澄、細井繁誠、河野浩、河野重軌、三谷長博、長井恵之、西原比呂志、尾島薫、沖田稔、佐々木利栄、田沢八甲、田代光、谷福太、橋作次郎、横山義雄 (会員) 委員を含め二九名

新工人会(工) 板橋区板橋四ノ九 古田重郎方 昭和26年12月創立。若い工藝家の新作発表機関、昭和31年11月第7回展開催。

〔会員〕 松浦弾、近藤実、近藤昭作、江頭源一、吉田重郎、三上修一郎、増田武夫、坂田種男
新構造社(統) 北多摩郡小金井町小金井四四八 三村英一方 昭和10年6月構造社有志幹事会は絵画部の解消を決議したが同部は翌月構造社總會を招集、絵画

部の存続を決議し同年11月第9回構造社
絵画展を公募の上開催した。11年7月彫
塑団体十七会の加盟により名を新構造社
と改称、更に工芸部を新設した。昭和24
年から太平洋画会、新構造社、朱葉会、
創造美術会の四団体による自主連立展を
開催し、3回展を了えて太平洋画会が退
会、三団体による連立展を経営してい
る。毎年1回展覧会開催。昭和31年6月
第8回連立展開催。

〔会員〕(絵画)新井時厚、本目勇市、
市川兼治、改井貞子、何徳来、清浦正
風、楠本繁、北沢博生、小祝嘉一郎、斎
藤六郎、斎藤慶二、三村英一、岡田洋
采、岡本寿一郎、岡義長、中川安一、南
部一信、難波魁、大野元明、大沢康之、
吉村勇、大西福意、小田福丸、小口一
郎、島太郎、三枝惣太郎、上松二朗、竹
沢要作、寺中靖直、徳山嶽、多比羅栄
一、山本好信、神山恒、何之沢、福崎精
哉、内山裂、外山準一、(彫刻)浜田三
郎、思田忠一、鍋元治、寺畑助之丞、山
名常人(写真) 秋山青磁、岩間俱久、
則松皓一、天野光章、熊谷辰男、長口宮
吉、仙波敏、八木治、三溝貞之助、立花
浩二、山田広次、茶谷弘

再興新興美術院(日) 豊島区目白三ノ
三五五九(電池袋八九七) 昭和12年9
月日本美術院を脱退した元院友一二名を
以て結成、戦争中一時中絶していたが昭
和25年旧新興美術院同人六名に他二名を
加え再興新興美術院として発足、毎年春
秋2回展覧会を開催。昭和32年4月第7

回展開催。

〔会員〕 茨木杉風、横田仙草、小林果
居人、鬼原素俊、芝垣興生、高島祥光、
林部圭幸、岡田鍊石、倉持晋一、松永光
玉、岩崎巴人、上田臥牛、安孫子荻声、
箱山精一、花岡朝生、養父清道、谷口正
春、大路孫三郎、根本正、服部尚恭、土
地瑛一郎、片岡巳代子、松浦可悦、中沢
恵以子、大山魯牛、大川一男、中西一
路、渡辺玉花、柴山蘭亮、野田松岳、坂
口一草、長崎莫人、野原茂生

新樹会(洋・彫・版) 台東区谷中清水
町三 大河内信敬方(電駒込四八八七)
昭和22年3月創立。昭和32年8月第11回
展開催。

〔会員〕 井手宣通、原勝郎、浜口陽
三、大河内信敬、大久保泰、山本豊市、
朝井閉右衛門、斎藤愛子、木内克、南政
善、清水多嘉示、三岸黄太、島村三七雄
新樹会(工) 京都市上京区北野紅梅町
三二 黒田暢方(電西陣六八二八) 昭和
23年5月創立。昭和23年の京都絵画専門
学校卒業生を中心に結成した染織研究団
体。昭和28年6月大阪松坂屋で展覧会開
催。

〔会員〕 伊東逸平、横山芙明、中島正
三郎、黒田暢、寺石正作、斎田あさ、来
野月乙、日高祥三郎、杉田博美、鈴鹿雄
次郎

新具象(彫・洋) 東京都北多摩郡国立
町東区九三 中本達也方 昭和30年2月
創立。新しいリズムを求める研究団
体。昭和32年6月第1回新具象展開催。

〔会員〕 井上武吉、木ノ内岬、森川
昭、永田力、中野淳、中本達也、比田井
仁史、松田博

新匠会(工) 京都市東山区泉涌寺東林
町二九 鈴木清方(電祇園二二八〇) 昭
和22年新匠工藝会として第1回展を開
催。昭和26年第5回展より新匠会と改
め、昭和27年在野団体として新発足。昭
和32年第12回展開催。

〔顧問〕 富本憲吉(会員) 福田
力三郎、近藤悠三、鈴木清、徳力孫三
郎、徳力牧之助、山田詰、安田茂郎、
(染) 河合隆三、暮田延美、鈴木照次、
(漆) 山永光甫、古山英司、(金) 増田
三男

新象作家協会(洋) 船橋市丸山町一八
九 土井俊生方 昭和三十二年一月創
立。美術文化協会を脱退した会員を中心
に広く優秀な作家の参加をもとめ、自由
な芸術活動を理想とする団体として発足
した。

〔会員〕 浅利篤、内田慎蔵、板家久
美、井上市三郎、岩間正男、内山牛松、
浅井昭、石井玲一、池原正男、太田一
男、安藤憲三、皆光茂、香川勇、熊谷文
利、須賀卯夫、佐伯和美、島津純一、杉
山誠、浦川泰幸、千葉健作、土井俊生、
高橋勉、土味川独甫、多田雄蔵、中塚五
甫、内藤健一、中村良七郎、永橋正次、
庭田定男、菟島庫二、長谷川望、古川
泰隆、宮地竜、横山重生、山田武彦、幸
寿、大和秋平、吉田好斗、鈴木伊佐治、
奥口信一

森々会(日) 杉並区阿佐ヶ谷三ノ五二
八 川崎小虎方(電荻窪一〇七七) 昭
和25年7月川崎小虎塾有志により結成。
昭和30年4月第5回展開催。

〔顧問〕 川崎小虎、東山魁夷(会員)
石曾根貞亀、石田重子、太田歳夫、奥山
芳泉、小倉芳司、小沢春子、川崎鈴彦、
川崎春彦、永山十志夫、奈良裕功、小関
きみ子、佐藤永芳、三河義太郎、山本瑛
幾、大島秀信、小野茂明、石倉正富、斎
藤俊雄

新世紀美術協会(洋) 新宿区西落合一
ノ三二五 池上浩方(電落合一四一一)
昭和30年4月創立。無所属、藝術院会員
中の和田三造、川島理一郎を名誉会員と
して迎え、旺玄会離脱の大久保作次郎、
吉村芳松、長尾勇等他一七名に、東光会
より松本富太郎、横山義雄、境保博等、
無所属の袖木久太、草光信成、創元会よ
り東海林広等が参加して結成された日展
系の団体。昭和30年7月日本横高島屋に
於て創立記念会員展を開催。32年5月第
1回公募展開催。

〔名誉会員〕 和田三造、川島理一郎
〔会員〕 荒木穂雄、藤川光次、金子保、
草光信成、松本富太郎、長屋勇、大久保
作次郎、東海林広、田沢八甲、横山義
雄、袖木久太、吉村芳松、他一〇八名。

新制作協会(日・洋・彫・建) 中野区
上高田二ノ三六三吉田芳夫方 昭和11年
7月、第二部会が文展に参加するに及び
猪熊弦一郎、内田巖、佐藤敬、中西利雄、
小磯良平、三田康の六名は同会を離脱。

脇田和、伊勢正義、鈴木誠の三名とともに新制作派協会を設立、同14年7月国画会の彫刻部を脱退した本郷新、佐藤忠良、山内壯夫、柳原義達、吉田芳夫、舟越保武、明田川孝、によつて彫刻部を設けた。同24年には建築部を新設、26年には日本画在野団体創造美術と合流し新に日本画部を設け新制作協会と改称した。展覧会回数は従来の回数を追うことになつた。昭和32年9月第21回展開催。

〔会員〕

〔油絵部〕 伊藤謙郎、猪熊弦一郎、石川滋彦、伊勢正義、西田勝、萩太郎、荻須高德、太田忠、小関利雄、脇田和、若松光一郎、角浩、川端実、風間完、竹谷富士雄、田中修、田中田鶴子、玉置正敏、中尾進、村尾隆栄、内田武夫、桑田道夫、小磯良平、小松益喜、古茂田守介、赤穴宏、合田小三郎、佐藤敬、坂井範一、三田康、山東洋、油野誠一、三岸節子、宮脇公実、瀬島好正、鈴木誠、鈴木新夫、行木正義、関口俊吾、(日本画部) 岩崎鐸、石本正、堀文子、奥村厚一、加山又造、吉岡堅二、高橋周桑、向井久万、上村松篁、山本丘人、福田豊四郎、朝倉摂、麻田鷹司、秋野不矩、沢安毅、菊池隆志、信太金昌、広田多津、稗田一穂、(彫刻部) 伊藤隼、五十嵐芳三、早川巍一郎、西常雄、本郷新、岡本庄三、吉田芳夫、田畑一作、武次郎、村田勝四郎、久保孝雄、柳原義達、山内壯夫、山本常一、山本恪二、舟越保武、明田川孝、芥川永、佐藤忠良、菊池一雄、菅原安男、土谷武、豊福知徳(建築部) 池

辺陽、岡田哲郎、吉村順三、谷口吉郎、丹下健三、山口文象、前川国男、剣持勇

新世代(洋)

品川区大井原町五二〇〇 原小学校内(電大森八九四) 代表東俊二 昭和17年創立。教職にあるものでモダンアートの傾向に立つ作家の集り、昭和28年7月第1回展開催。

〔会員〕

東俊二、勝田寛一、藤沢典明等二十五名

農鳥社(日)

京都市北区北野紅梅町三三ノ一 山口華楊方 明治45年創立の西村五雲農鳥社は昭和13年9月五雲の逝去により解散、同年11月6日田塾生の総意に依り新たに農鳥社を結成した。現在山口華楊が主宰する。

新美術協会(日・彫)

兵庫県芦屋市西芦屋町四一 山田皓齋方(電芦屋四五二九) 東京事務所武蔵野市吉祥寺二二 田所量司方 昭和29年3月創立。

「各自が自由な立場で新しい日本画、彫刻を創造する」主旨の集団。年一回會員展と公募展を行う。昭和32年8月東京展同6年第四回公募展(大阪)

〔顧問〕

青木大乗

〔会員〕

荒木賢治、荒尾昌朔、長谷川保枝、聖善多、伊東種、小宮山俊、前田晃邦、松本雅山、森谷子、諸永青鬼、長浜虎雄、長浜建樹、野田松岳、大橋良三、沖中陽明、田所量司、立藤泰山、山田皓齋

(水)

水彩聯運(水) 世田谷区玉川奥沢町三ノ一七五 上田哲農方 昭和15年5月創

立。昭和32年2月第16回展開催。

〔会員〕

荒谷直之介、春日部たすく、小堀進、長沢節、上田哲農、古川弘、海老原省象、山本彰一、牧原万之助、仁戸田秀吉、中村忠二、酒泉淳、増永直樹、坂上明司、寺井健一、三橋兄弟治、新井邦雄、藤川九郎、田中実、渡部百合子、伴敏子、青野馬左奈、サイタ亭、柴田祐作、鞆谷繁夫(スタイル画部) 原雅夫、宮内裕、中原淳一

(せ)

生活工藝集団(工)

台東区谷中初音町三ノ三八 北村一朗方(電駒込七五二一) 型々工藝集団とココ工藝が合体、同時に同志を糾合して昭和26年発足した。昭和30年12月第3回展開催。

〔会員〕

浅野陽、磯矢阿伎良、緒方正祥、小倉紘梧、北村一朗、後藤年彦、関谷四郎、田村耕一、内藤四郎、林二郎、矢部連光、牧田良一、林卯太郎、堀恒治、河津直武、大泉博一郎、小笠原陸光、井上秀雄、平野和子、大熊喜英、岩倉康二、黒木絢子

菁莪会(日)

京都市北区上賀茂坂口町二 水田竹圃方(電京都七八局二八二二) 水田竹圃の主宰する日本画塾。

菁季会(洋)

淀橋区西落合一ノ三〇三 村岡平蔵方 昭和22年創立。年一回展覧会開催。

〔会員〕

森田元子、鬼頭鶴三郎、幸島重雄、土佐林豊夫、田村一男、大沢海蔵、小林博史、高光一也、桜井悦、村岡平

蔵、朝比奈文雄、新保兵次郎、新道繁

青丘会(洋)

新宿区下落合四ノ一五八 高木紀重方 日展所属各団体の中堅作家各二名よりなる研究団体。昭和25年9月創立。

〔会員〕

西尾善積、渡辺武夫、橋原健三、高田誠、広瀬功、森田茂、山本日子士良、伊藤清永、平松謙、小野彦三郎(在仏会員 大内田茂士、館慶)

青桂会(日)

神奈川県逗子市山野根四二三 中村岳陵方(電逗子三七九) 昭和32年創立。中村岳陵の蒼野社塾員中、日展審査員、同出品依頼者、特選受賞者と、それに準ずる作家数名を加えた塾員団体。昭和32年7月第一回展開催。

〔会員〕

我妻碧宇、森綾翠、加藤長明、鈴木竹柏、遠藤桑樹、野島青茲、田畑豊秋、中村正義、中野蒼穹、望月定夫、関主税、倉光博、尾山帆、萬蒲大悦、丸山石根、渋谷江津、東詔光

青港会(洋)

横浜市南区別所三〇 川島実方 昭和30年1月創立。横浜在住又は関係ある作家で日展系画家の集りとす。昭和32年第三回展開催。

〔会員〕

川島実、氏田喜八郎、島田四郎

青晴会(洋)

中央区日本橋蠣殻町三ノ一八 川越昭子方 国画会の在京女流出品者により昭和26年結成された。

〔会員〕

田中美知子、土田次枝、野田好子、川越昭子

青陶会(陶)

京都市東山区渋谷通東大路西入鐘鐸町三九六 市川通三方 昭和

28年6月創立。楠部弥式を中心とする陶藝研究会。

〔会員〕 二〇余名。

青塔社(日) 京都市左京区下鴨中川原町七一 池田遙邨方(電京都七八局二五六〇) 昭和28年創立。池田遙邨を指導者とする日本画研究所。

青龍社(日) 大田区新井宿四ノ一〇五三 川端龍子方(電大森三三二) 昭和3年、日本美術院を脱退した川端龍子が、龍子及び御形塾員の製作発表の機関として同4年6月同社を創立した。同年東京府美術館に第1回展を開催。尚秋期本展覧会に対して毎年「春の春龍社展」を開催する。春期展は秋期展に於ける入選者を出品資格者として鑑別の上陳列する。「健剛なる会場藝術」を唱え、在野団体として官展には参加しない。昭和32年8月第29回展開催。

〔主宰〕 川端龍子〔社人〕 加納三乘輝、山崎豊、市野亨、安西啓明、小島册子、時田直善、亀井玄兵衛、琴塚英一、松宮左京、佐藤土筆、佐々木邦彦、結城天童、大塚香縁、竹内未明、渡辺不二根 織維デザイン創作集団(工) 中央区兜町三ノ五 米山ビル(電兜町六五六三、七七七六) 昭和30年4月創立。織維デザインナーの創作団体として結成された。

〔委員長〕 河野鷹思〔委員〕 松川照二、由良玲吉〔会員〕 前沢賢治、渡辺万治、田中正明、藤田栄一、荻野茂、今洋子〔評議員〕 須藤雅路、新井泉

〔顧問〕 和田三造、今和次郎

美術団体一覽

一九六〇年協会

新宿区諏訪町二二七 植松真治方(電東京三七局八二八九)

昭和32年4月創立。年二回発表展を開く。昭和32年4・5月第1・第2回展開催。

〔会員〕 植松真治、東平哲弥、山本充、春日部洋、松岡真男

前衛美術会(洋・日・彫・版・建) 豊島区千川町二ノ一 山下菊二方(電落合五一七六呼) 昭和22年5月創立。戦後、美術文化協会より分れ、佐田勝、赤松俊子、丸木位里、大塚陸、入江弘、井手則雄、吉井忠、山下菊二、箕田源二郎等により新居広治、尾藤豊、島田澄也等が加わり発足。昭和32年5回ニッポン展開催。

〔会員〕 (絵画) 赤松俊子、尾藤豊、福田恒太、穂積肇、入野達弥、桂川寛、木村成敏、小島直、今野新一、丸木位里、箕田源二郎、宮城泰介、中野秀人、新居広治、小笠原直春、大野斉治、大塚陸、桜井誠、島田澄也、菅野陽、鈴木賢二、高山良策、滝澤三、滝平二郎、山下菊二、山内衛、寄木麟二、市村三男三、木沢和、佐原マユミ、中村宏、長野吉三郎、北添寛子、岩崎ちひろ、山野卓造、中山正、原右門、渋谷草三郎、岡田愛子、落合茂、高頭詳八、吉川佳男、斎藤国雄、小林弘男、法山昇(彫刻) 井手則雄、入江弘(建築) 武内芳夫

全日本工藝美術家協会(工) 千代田区有楽町二ノ五 東京都商工指導所内 梨

谷静山氣付(電和田倉三二八六) 昭和26年12月創立。

〔会長〕 徳川宗敬〔副会長〕 高村豊周

〔事務局長〕 梨谷静山

創型会(彫) 世田谷区玉川奥沢町二ノ一四九 森大造方(電田園調布三三八〇) 九元社の会員有志により結成。昭和26年11月創立。昭和32年7月第6回展開催。

〔同人〕 森大造、中野四郎、村井辰夫、奥山泰堂、大田重範、法元六郎、金城真輔、奏紹世、阿部晃工、尾崎一草

創藝協会(洋・彫・工・写) 杉並区東荻町六九 神津港人方(電荻窪四四三三) 昭和25年3月創立。昭和24年6月緑巷会第10回展終了後、解体再編成を行い、創藝協会として再発足したが、昭和32年3月第一美術協会と合同し、昭和31年5月第七回展を最終として創藝協会は消滅した。

〔会員〕 神津港人、金沢茂元、佐藤利平、田島長齡、中森遊、平井為成、山下鉄之輔、広田剛郎、中村博英、岡田早苗、新関国臣、牧島如鳩、佐藤潤四郎、杉三郎、大沢邦雄

造形版画協会(版) 台東区金杉一ノ六 清水正博方(電浅草一九〇〇) 昭和7年新版画集団として創立。11年第6回展を経て組織変更、12年3月造形版画協会と改称、版画の純粋なる絵画的造型性の確立を目的とす。戦時中一時展覧会を休止し、24年再出発して30年5月第14回展開

催。

〔会員〕 松下芳太郎、水船六洲、武藤六郎、小野忠重、柴秀夫、清水正博、後藤忠光、森本宏、小口益一

創元会(洋) 新宿区牛込中町二七名村定志方(九段二二六四) 昭和16年3月創立。昭和32年3月第16回展開催。

〔会員〕 井上自助、石塚三郎、長谷川龍甫、戸田郁郎、戸谷賀一、橋本はな子、金沢重治、川口雄男、川口四郎、河本一男、柏木治子、田中繁吉、高橋北修、館慶一、中野和高、名村定志、内田一郎、小野彦三郎、恩田孝徳、倉員辰雄、安武芳男、深谷徹、手島貢、出口龍一、青地秀太郎、安藤信哉、洗春海、坂本幹男、木下巡一、三浦逞爾、樋口一郎、広本季与丸、崎龍之助、鈴木千久馬、赤津実、塚本張夫、三島利正、井上和、氏家秀之進、高島常雄等一二七名

創玄会(工) 大阪府池田市石橋町五七 平松宏春方(電池田八五三九) 昭和31年6月創立。在阪工藝家の志を同じくする者の集り。研究会を開き発表展を行う。昭和32年5月第一回展開催。

〔会員〕 橋田裕士、中条青香、川端三義、角谷一圭、角谷莎村、田辺竹雲齋、武石勇、中島保美、前田竹房齋、小林美春、穂山竹司、平松宏春、末村笙文

創作工藝協会(工) 渋谷区代々木上原町一三三八 山脇洋二方(電渋谷九六五) 昭和27年6月創立。モダンアート・クラフトとしての造型活動に併せて産業工藝に於けるデザインの水準を高めるために

積極的な活動を行う。昭和32年5月第6回展開催。

〔会員〕 高橋節郎、吉田丈夫、佐治正、佐藤潤四郎、染川鉄之助、芳武茂介、青木滋芳、蓮田修吾郎、山脇洋二、安原喜明、三輪智一、各務満、槻尾宗一、鈴木貫爾

創人社(上) 京都市左京区浄土寺南田町一〇三 番浦省吾方(電吉田三〇四九) 昭和21年1月創立。以来毎年京都及び東京に於て展覽会開催。工藝的新造型性の確立と後進の育成を趣旨とする。
〔会員〕 番浦省吾、黒田辰秋、久保金平、東端真彦、平石晃祥、上原清、中清太郎、竹中徹風

昭和32年春解散、会員の一部は朱玄会を設立した。
爽々会(水) 豊島区長崎五ノ三一 春日部たすく方 昭和31年4月創立、水彩画の向上発展をめざす、水彩画家の集り。
昭和32年6月第2回展開催
〔会員〕 荒谷直之介、春日部たすく、小堀進

創造美術会(洋・応美) 文京区関口水道町四〇 木村康三方 昭和22年創立。同31年6月第8回連立展開催。

〔会員〕 (絵画部) 保科米三、山村勝人、松木茂雄、青樹宮三、坂口辰己、国分治、下田範次、福島長二郎、小泉鉄太郎、渡辺喜一、小栗慶太郎、金沢俊夫、成瀬憲、鈴木孝之、佐藤文雄(応用美術部) 木村康三、辻基、小田中久良子
創造美術協会(洋・日彫) 大阪市天王

寺区木野町二〇 久保晃方 昭和10年創立の洋画団体セクションダールが同15年創造美術協会と改称、関西在住の各派美術家により組織されたもの。昭和29年第15回会員展、同30年9月第8回公募展を開催。
〔常任委員〕 上嶋龍、川原章二、田中阿喜良、久保晃

〔委員〕 西阪修、玉沢潤一、小林武夫、下高原龍巳、高須国之、河野通紀、山田千秋、荒井秀宜、藤田重夫、陰山光義、荒木由三、具原六一、伊藤才夫、斎藤正治、村尾克巳、森崎幸(以上絵画) 白石正義、村上龍起、仲真弘(以上彫刻)

双台社(洋) 世田谷区玉川奥沢町一ノ三八四 鍋谷伝一郎方 昭和16年創立。昭和32年8月第16回展開催。
〔同人〕 石井柏亭、荒谷直之介、上田哲農、岡田行一、大兼実、刑部人、林鶴雄、堀忠義、細島昇一、下沢木鉢郎、鈴木良三、鈴木信太郎、須山計一、田坂乾、滝川太朗、近藤吾朗、高橋庸男、近岡善次郎、千ヶ崎悌六、斎藤州外、平塚運一、鍋谷伝一郎、納富進、真下慶治、松村三冬、他三八名

走泥社(上) 京都市東山区五条坂白糸町 八木一夫方 昭和21年9月創立。新時代に即応する工藝の総合的研究団体。昭和32年11月京都市美術館で第15回展開催。

〔会員〕 原照夫、藤本能道、河合紀、河島浩三、神崎建三、加藤達美、門井嘉衛、叶敏、熊倉順吉、三浦篤雄、森里忠

男、村井次郎、佐藤雅彦、鈴木治、柘植敏吉、辻勘三、鳥羽克昌、山田光、八木一夫
蒼野社(日) 神奈川県逗子市山ノ根四二三 中村岳陵方(電逗子三七九) 中村岳陵の主宰する日本画塾。

第一美術協会(洋・工)〔事務局〕 文京区高田豊川町六〇 石川方(電大塚一五〇一) 昭和4年5月創立。毎年展覽会開催、昭和32年6月第28回展開催。
〔委員長〕 石川重信〔副委員長〕 高橋亮、岡登貞治

〔委員〕 石川重信、高橋亮、岡登貞治、谷井喜三郎、村上松次郎、細井繁誠、任補豊丸、横山群、竹野谷仁重、上原重和、野沢孝作、山口美勇、岡所春、斎藤茂、青木武
対象(工) 埼玉県戸田町木沢一五二〇 岸沢武雄方 昭和29年5月創立。新しい世代の認識のもとに生れる工藝の研究発表機関。昭和32年11月第4回展開催。
〔賛助会員〕 高村豊周〔会員〕 蓮田脩吾郎、西大由、染川鉄之助、岸沢武雄、伊藤豊、坂坂辰治

第二紀会(洋・彫) 世田谷区玉川奥沢町二ノ三〇四 宮本三郎方(電田圃調布三三七六) 二科会は昭和19年第30回展後解散し戦後再結成を図つたが、旧二科会員黒田重太郎、栗原信、田村孝之介、中川紀元、鍋井克之、正宗得三郎、宮本三郎、横井礼市の九名は参加せず旧二科

会の活動を第一期とし、戦後新しく第二の紀元を劃するの目的を以て昭和22年5月第二紀会を創立した。昭和32年10月第11回展開催。
〔会員〕 (絵画) 黒田重太郎、栗原信、田村孝之介、中川紀元、鍋井克之、正宗得三郎、宮本三郎、横井礼以、佐野繁次郎、橋本徹郎、峰岸義一、宮川仁、藪野正雄、成井弘文、大兼実、大石俊彦、佐佐木孔、秋保正三、高山道雄、森英、津田周平、中野安次郎、井上安男、佐伯米子、土岐国彦、近藤嘉男、島岡実、鳥取敏、兒玉幸雄、青木寿、金田辰弘、森本健二、中西勝、山口操助、加藤敏子、小島真佐吉、西村功、岡田登志男、一二九名(彫刻) 菅沼五郎、中川為延、松村外次郎、八柳恭次、長野隆業、斎藤聖香、坂上政克

太平洋美術会(旧称太平洋画会)(洋・彫・染) 文京区白山御殿町一〇〇 布施信太郎方 明治22年創立の明治美術会を同34年組織を一新し翌年1月太平洋画会と改称、第1回展を上野公園五号館に開催した。同37年洋画研究所を開設、昭和4年太平洋美術学校と改称し、同20年戦災にあい中絶、32年再び開校した。なお32年、会名を太平洋美術会と改称した。毎年展覽会を開催し昭和32年7月第53回展を開催した。

〔絵画部会員〕 (代表) 布施信太郎、浅川恒明、尼谷良、秋葉洋治、青山清、石井明、石井弥一郎、市川光雄、一井増郎、円城寺邦夫、大木卓、大宮松太郎、

大森商二、小柳津経広、河合敏雄、川村信雄、近藤洋二、小坂健三、近馬勘吾、小宮惣太郎、小泉秀松、小島清、沢村みちる、島添鶴雄、爾見信郎、砂田正巳、鈴木武志、高橋虎之助、多田栄二、武田好文、竹内栄蔵、佃武昭、椿悦三、野村覚、原正俊、原ツマ子、菱沼藤男、広島八重子、藤田親宏、藤田実、堀潔、本目豊吉、真木孝之、丸毛利久、牧田実、三浦金之進、山田武、山口美好、梅原英子、長岡忠三郎、深水正策、岩崎英子、行友巖、永島吉太郎、仲田穎、蒲生栄一、慶伊安次郎、後藤泰作、杉山司七、古城弘(彫刻部)、藤井浩佑、堀進二、沢田晴広、山本豊市、中野桂樹、石井明、吉田陽悦、宮本重良、三沢寛、木島正夫、杉本宗一、関保寿(染織部)、野口道方、溝留満、野田習之、仁科十郎、河合斗湖

〔匠(工・染)〕 京都市左京区下鴨東本町三三三 皆川泰蔵方(電七八局六一二三) 昭和23年4月創立。染色美術家の集り、毎年一回京都にて展覧会開催。

〔会員〕 皆川泰蔵、今西良雄、春日井秀雄、三浦景雄、山出守二、皆川幸恵

(ち) 竹杖会(日) 京都市上京区等持院西町三五 徳岡神泉方 明治28年故竹内栖鳳塾生にて創立。昭和30年7月第7回展を京都で開催。

〔会員〕 西山翠嶺、小野竹喬、徳岡神泉、金島桂華、池田遙都、浜田観、伊藤

小坡、中田晃陽、森月城、大村広陽、柳原苔山、山本紅雲、東原方僊、青木生冲、大矢峻嶺、川口吳川、山本朝光、稲葉春生、佐藤寛山、伊藤石華、小豆島甘兆、吉田兆青、吹田草牧

中央美術協会(洋・日・彫・デザイン) 杉並区善福寺町四八 中央美術学園内 昭和27年5月創立。中央美術学園の指導者と卒業生をもつて組織する。昭和32年9月第7回展開催。機関誌「中美」発行。

〔参考〕 今泉篤男等一四名(〔会員〕) 新倉政英等六七名

中部在野美術連盟 名古屋市北区成願寺町七二二 中野在野連盟事務所(会務代表者) 岡田徹 昭和30年2月創立。中部地方における在野美術団体の連合体でこの地方に新鮮な美術文化を確立し、努めて広範囲な造型面の実践に寄与することを目的とする。

〔会員〕 二科、行動、国画、春陽、新制作、モダンアート、自由、独立、美術文化、第二紀の各団体に所属する作家を以て組織され、約四〇〇名。

(こ) デッサン社 千代田区神田鍛冶町二ノ九 大正15年創立。毎年一回現代名家作品展を定期開催。昭和32年第22回展、機関誌「デッサン」発行。

〔特別賛助員〕 梅原龍三郎、中川一政、石井鶴三(主宰) 旭正秀物故のため高沢甲一郎継承。

△デモクラート美術家協会(洋) 北多摩

郡清瀬町芝山九七二 愛囀方 昭和26年創立の前衛的な作家の集り。昭和30年9月第5回展開催。昭和32年6月16日解散。

〔会員〕 青原俊子、アイオウ、瑛九、泉茂、加藤正、菊地秀行、森啓、森泰子、生島笑子、三木登、小笠原健一、杉村恒、高井義博、吉田利次、一ノ瀬俊一、中塚純二、オノサト・トモコ、坂井正胤、織田繁、内海柳子、織田玲子、津志本貞、山中嘉一、永井マコ

天香画塾(日) 世田谷区深沢町四ノ一 二二 松林桂月方(電玉川七一七) 松林桂月の主宰する日本画塾。塾長 吉田登毅

点々会(日・洋) 世田谷区世田谷二ノ一三六五 後藤禎二方 昭和30年1月創立。昭和32年8月第3回展開催。

〔会員〕 別府貫一郎、後藤禎二、石垣栄太郎、村雲大模子、岡本唐貴、寺島貞志、山上嘉吉

(こ) 稲花会(工) 杉並区久我山三ノ一一三 三田村自芳方 大正15年1月創立。故赤塚自得の社中を以て組織し、社中間の親睦を図り常に漆工藝研究の向上に務める。随時展覧会開催。

〔同人〕 三田村自芳、太田自適、岡本昇三、吉岡郁三、月尾慶水、村田義忠、井沢徹二、工藤喜代志、山浦等、三田村秀雄、魚野自醒、石川古堂、小沢裕、南忠

東丘社(日) 京都市北区平野桜木町二

八(電西陣九六八) 堂本印象の主宰する画塾で毎年京阪神で展覧会を開催する。昭和31年5月第13回展開催。

〔総務〕 三輪晃勢、山本倉丘

東京展 世田谷区北沢五ノ八六一 竹上義治方 昭和29年2月創立。

〔会員〕 羽藤馬佐夫、加藤正信、木堅司、竹上義治、佐藤昌祐、白石延夫、山本甚作、西徳二郎、矢島俊一、木村昭弥、荒井一男、徳本立憲、越次勇

東京美術文化協会 台東区上根岸町四四(電浅草三〇一、三四五六) 小中学及高校の図画教育の振興のため昭和21年財団法人として創立。毎年展覧会開催。研究雑誌「美術教室」を年4回発行。

東京民藝協会 中央区銀座西八ノ三 たくみ内(電銀座二九〇・二〇一七・二〇七一) 昭和29年3月創立。日本民藝協会の東京地方支部として、民藝運動の振興に尽力し、会員相互の親睦をはかる。30年1月より機関誌「民藝」を発刊。毎月講演会、見学会、研究会、鑑賞会を行う。入会随意。

〔会長〕 松方三郎 〔会員〕 四〇〇名

東光会(洋) 豊島区権名町一ノ一八七 三 森田茂方(電落合一六六四) 昭和7年創立。昭和32年5月第23回展開催。

〔会員〕 齊藤与里、佐藤一章、渡辺浩三、小早川篤四郎、胡桃沢源人、平通武男、森田茂、岩下三四、江藤哲、石本秀雄、田代順七、山本日子士良、河井達海、園部晋、家永隼三郎、桑原福保、柳

三三一

美術団体一覽

田久、小野政吉、梅津五郎、松岡正、辻利平、三田村繁、熊岡正夫、大和田富子、松岡正直、清原武則、河原修平、岡真、水野一好、松永敏太郎、大寄丹治郎、橋詰英一郎、西寺鉄舟、大滝斗良樹、齋藤久子、野沢寛、橋尾整八、大木茂、山形光寿、長根翠、石田勝重、大平敬次郎、渡部文雄、山崎修二、守洞春、筒井茂雄、聲名芳夫、関口茂、奥野康春、安達良雄、上田素由、横垣孝一、岡本肇、松永和夫、高田肇三、齋藤英一、大歳暁、田中孝夫、坂田憲雄、杉山卓、川本浩三、松居均、高橋雅子、東斌、高島茂雄、遠藤徳一、多田俊彦、原本賢治、河野磐、能登靖幸、大河内幸俊、松本晴周、新本燦根、島村剛生、津島初穂、真木宣武、稻村退三、伊藤正文、中久木康夫、高田恵以、中井重男、大歳敏秋、安原綾子、栗家功、竹林祐吉、原田博介、楠見貞男、錦織保久、安宅義則、山田正孝、近藤喜義、朝井清、常重昶、豊島利右門、武永楨雄、関口初太郎、矢田幸一、井上速男、細川浩、岩田弘、池田隆、井上文哉、秦野健悦、林林男、西沢栄一、星野篤之助、豊岡聡、鳥取和子、越智旭輝、尾崎弘、大屋正紀、吉川菊麿、吉木敏一、高田久、中村与之助、熊岡且視、山本皓路、丸山司瑛、福田政彦、秋山進、菊田俊次郎、佐野道之助、三井美尾子、水野辰雄、桃井耕一、瀬田忠司、有馬侃、藤巻正憲、藤田義雄、片寄茂悦、島谷源夫、春日為義、岡一夫、的場勇、河野太郎、竹田志朗、石原梅

男、黄田貫之、和田貢、渡辺章人、竹本保、高山靖男、中川茂、福水清、浅田二郎、赤松二良、坂口義善、藤原剛、秋元清弘、三塩清己、熊岡まゆみ、山中政五郎、沢田利一、今野隆二、石井輝忠、井原智義、秋久多稔士、坪田省三、山本進、大村保、江口明

東陶会(工・陶) 目黒区下目黒四ノ八四三 安原喜明方 昭和2年創立。年2回、同人展開催。

〔会長〕 板谷波山〔会員〕 安原喜明、宮之原謙、井上良斎、土肥刀泉、唐杉濤光、中静昭平、館野善次郎、古宇田正雄、城戸夏男、板谷梅樹、磯谷丹舸春、横山朝陽、山本正年、中野馨一、林茂松、川上正之郎、西沢爽、中村雅臣、小島章光

〔読画会(日)〕 板橋区常盤台一ノ二九 西沢笛敵方(電板橋二二〇一) 明治41年故荒木寛敵及十敵の門下を主体として発足、毎年展覧会を開催。展覧会名を一新社展と改め昭和26年第3回展開催。其後日本伝統花鳥画研究のため毎月研究会を開催。

〔委員〕 西沢笛敵、森白甫、水田春水、朝井親波、田口黄葵、木木大果、温原柳叡、亀割隆

独立美術協会(洋) 台東区谷中初音町四ノ一七 島村三七雄方(電駒込二二六二) 昭和5年11月創立、早見勝蔵、見島善三郎、林重義、林武等二科会の会員会友及び同会出品者一名に国画会の高島達四郎、春陽会の三岸好太郎を加え、我々

は既設の団体より絶縁し新時代の美術の確立を期す」と宣言、独立美術協会を創立した。翌年1月第1回展を開き新歸朝の福沢一郎も第1回展から会員として参加した。昭和32年11月第25回展開催。

〔会員〕 青柳暢夫、赤星孝、赤堀佐兵、足立襄、池島勤治郎、今井憲一、伊藤彪、宇根元馨、海老原喜之助、江川平三、大久保泰、岡村芳男、小原雄二、片山公一、加藤陽、菊地精二、木村忠太、久保一雄、熊谷登久平、小出三郎、見島善三郎、小島善太郎、小林和作、斎田武夫、齋藤長三、齋藤求、桜井浜江、坂本善三、佐川敏子、島村三七雄、清水鍊徳、志村計介、末永胤生、菅野恵介、鈴木保徳、鈴木亜夫、須田国太郎、妹尾正彦、妹尾正雄、高島達四郎、田中行一、高橋忠弥、高岡徳七、田中佐一郎、鳥海青兒、鉄指公蔵、鳥居敏文、中尾彰、中津瀬忠彦、中間冊夫、中村節也、中村善種、中山巖、鳩川誠一、西田藤次郎、野口弥太郎、狭間二郎、林武、樋口加六、藤岡一、堀之内一誠、斑目秀雄、松崎真一、松島一郎、松島正幸、松島鈴子、緑川広太郎、宮崎精一、宮島佐一郎、水島清、李田たけを、矢崎政広、山田栄二、山道栄助、山本正、横地康国、織田彩子、仲村一男

土曜会(工) 大阪市天王寺区逢坂上ノ町一四一 柴崎風神方 昭和27年1月創立。京阪在住の官展系工藝作家の有志的集り。

〔会員〕 平松安春、角谷一圭、森崎静

亮、小林美春、川端三義、田辺竹雲斎、中島保美、龜山竹司、米沢蘇峰、楠田撫泉、伊東翠壺、宮下善寿、堂本漆軒、中村鶴生、勝尾青龍洞、森野嘉光、柴崎風

二科会(洋・彫・理・漫・商業美術・写) 杉並区久我山二ノ五九〇 東郷青兒方(電荻窪五二四) 大正3年文展第二部に二科設置運動が起つたが、当局に容れられず、同年10月ついに文展より分離して、上野竹之台陳列館に二科美術展覧会を開催した。同展開催の際の鑑査員一名は翌年そのまま会員となり在野団体として独立した。爾来同会は新進流派の作家を包容して我洋画史上に啓蒙的功績を挙げている。大正8年藤川勇造会員に推され初めて彫刻部の加入をみた。其後昭和5年見島善三郎、里見勝蔵等は退会し独立美術協会を創立、更に石井柏亭、有島生馬、山下新太郎、安井曾太郎等の名譽会員辞退があり、会員の移動はあつたが在野として行動を続け昭和18年第30回展を開催した。翌19年は情報局の指令により展覧会は中止となり更に諸般の事情により同年10月ひとまず解散した。同20年終戦となり再結成を図つたが旧会員中、向井潤吉、古家新等は行動美術協会を、又、正宗得三郎、熊谷守一等は第二紀会を結成して離脱した。昭和20年新に工藝部、理論部を、同26年漫画部、商業美術部、同28年写真部を設けた。同30年7月鈴木信太郎、高岡徳太郎、野間仁根は退

部、同28年写真部を設けた。同30年7月鈴木信太郎、高岡徳太郎、野間仁根は退

会を声明、一陽会を結成するに当り、米良道博、荻野康児、鱸利彦、山路真護、浅野孟行、植木力等絵画部並びに彫刻部の会員は行動を共にした。昭和32年9月第42回展開催。

〔会員〕(絵画部) 阿部金剛、青山龍水、安藤幹衛、藤井二郎、藤川栄子、福島金一郎、服部正一郎、伊庭伝治郎、井上賢三、井上寛造、伊藤研之、伊東静尾、北川民次、小林喜一郎、桑原実、桂ユキ子、松本弘二、松井正、松葉清吾、浪江勘次郎、中原実、錦義一郎、野村守夫、岡本太郎、岡田謙三、大沢昌助、織田広喜、佐藤吉五郎、齊藤三郎、佐々木良三、清水刀根、鷹山宇一、多賀谷伊徳、寺田竹雄、東郷青児、鶴岡義雄、山口長男、山尾薫明、山本敬輔、山本不二夫、吉井淳二、吉村勲、吉原治良、(彫

塑部) 笠置季男、上田暁、大西金次郎、安藤菊男、堀内正和、乗松敏、妹尾健太郎、野水信、松下隆治、平川正道、淀井敏夫、日高正法、広瀬不可止、(理論部) 鈴木崧、山中散生、菊岡久利、(漫画部) 近藤日出造、清水崑(写真部)大竹省三、秋山庄太郎、早田雄二、林忠彦、綾川洋一、植田正治(商業美術部)河村運平、西島伊三雄、赤羽喜一、石川茂

日本アブストラクト・アート・クラブ

〔洋・版・彫・評〕世田谷区若林町四六一 西田信一方(電世田谷一五八七) 昭和28年6月創立。アブストラクト・アートの国際交流を目的として結成した集団。

美術団体一覽

〔会員〕 西田信一、川口軌匡、末松正樹、山口長男、植木茂、山口正城、長谷川三郎、吉原治良、村井正誠、山口薫、川端実、植村鷹千代、滝口修造
日本インターストリアル・デザイン協会(工) 千代田区神田三崎町二ノ二二(電東京三〇局七五七) 昭和27年10月創立。

〔会長〕 加納久朗(理事長) 小池岩田郎(理事) 真野喜一、小杉二郎、金子徳次郎、豊口克平、知久篤、皆川正、佐々木達三、鈴木富久治、秋岡芳夫
日本浮世絵協会 港区麻布市兵衛町二ノ一 国華社内(電赤坂一七五〇) 旧日本浮世絵協会とその後設立された浮世絵同好会が合体して昭和16年に創立されたもの。不定期に浮世絵に関する講演会を開催又展覧会を指導する。

〔会長〕 浅野長武(理事長) 藤懸静也(常任理事) 檜崎宗重、金田信武、渡辺庄三郎
日本漆工藝会(工) 杉並区成宗二ノ七一八 山浦等方 昭和21年5月創立。漆工藝作家及之に関する学者、評論家を以て組織し、会員相互の親睦協和により漆工藝の振興を図り作家の向上発展を目的とし、春秋展覧会を開いていたが、昭和三三年三月解散した。

〔委員長〕 吉田源十郎、太田自適、河合秀甫、河合久仁雄、河合匡造、工藤喜代志、佐藤陽雲、佐治正三、三田村秀雄、山浦等、吉田左源二、渡辺道善(地方委員) 小松芳光、張間麻佐緒、彼谷芳水、

中野謙二、稲塚芳郎、武石勇
〔会員〕 東京二二名、地方四五名
日本画院(日) 台東区谷中清水町一
望月春江方(電駒込三八一〇) 昭和13年5月創立。昭和32年5月第17回展開催。

〔創立同人〕 岩田正巳、川崎小虎、野田九浦、松本姿水、望月春江、服部有恒、根上富治、町田曲江、穴山勝堂、島山錦成、森村宜永
〔同人〕 石塚青我、大田歳夫、小関きみ子、長嶺雅雄、永山十志夫、是永伸一、石曾根貞、猪木匡四郎、大島秀信、
日本画府(日) 練馬区中村北一ノ一三
兄玉三鈴方(電練馬二七三三) 昭和31年2月創立。同志一〇名を中心とし公募展を年一回開催する。昭和32年7月第3回展開催。

〔同人〕 兄玉三鈴、宅間説、跡部白鳥、石田粧春、弓家恒敏、大石哲路、早坂土鈴、清水三鳩、川端正光、深尾広道、田中水畦
日本工藝会(工) 板橋区常盤台一ノ二
九 西沢笛歌方(電板橋二二〇〇) 昭和30年6月設立。無形文化財に選定された京都在住の人によつて結成された日本工人社が発端となり、同社会員の増加につれ全国的にこの組織を拡大しようと、
29年7月同社を解散して設立に着手していたのが、約一カ年後に社団法人組織として結実したもの。わが国の伝統工藝に従事する作家、技術者相互の連携を密にし、伝統工藝に関し、調査研究、伝承者

の養成等、必要な諸事業を行い、これらの貴重な伝統工藝の保存と活用を図り、かつ、その発展を期し、もつて文化の向上に寄与することを目的とする。昭和32年10月第4回日本伝統工藝展開催。

〔総裁〕 高松宮(会長) 細川護立
〔役員〕(理事長) 西沢笛歌(常任理事) 加藤土師萌、香取正彦、松田権六、明石国助、荒川豊蔵、石黒宗磨、飯塚琅玕斎、太田英蔵、音丸耕堂、鹿兒島寿蔵、加藤唐九郎、木村雨山、久保隆美、玉井敬泉、中村勝馬、野口真造、堀柳女、前大峰、水町和三郎
〔会員〕 陶藝二二名、染織二四名、漆藝一九名、金工二八名、木竹工七名、人形その他七名

日本国際藝術協会 中央区日本橋本町一ノ五 三越前共同ビル内(電日本橋五五五三、二六〇三四) 昭和三二年一〇月設立。各国との藝術その他文化一般に関する交流の企画・実施を行い、これによつて文化の進展、国際友好の促進に寄与することを目的とする。事業として藝術家、学者、視察団等の派遣、受入、文化に関する図書、フィルム等資料の交換、前項と関連する公演、展示、出版等の企画、実施、その他を行う。

〔会長〕 平塚常次郎(副会長・理事長) 谷川徹三(常任理事) 箕作秋吉、松田権六、水沢澄男、中地勇栄、林広吉
日本山岳画協会(洋) 渋谷区代々木大(山町一〇六七) 長坂春雄(電東京三七局一三一八) 山に親しみをもち、山を画

三三三

く画家をもつて結集した会。昭和32年6月第17回展開催。

〔委員〕 足立源一郎、畦地梅太郎、石

井鶴三、井手宣通、伊藤清水、上田哲

農、江藤純平、大久保作次郎、大河内信

敬、荻原孝一、奥瀬英三、春日部九才

く、加藤水城、河越虎之進、倉員辰雄、

田崎広助、田村一男、島野重之、中村清

太郎、中村善策、長屋勇、長坂春雄、長

坂やす子、永瀬義郎、松本富太郎、南政

善、三輪孝、横山義雄、山川勇一郎、佐

竹徳次郎

〔日本山林美術協会(絵・彫・工・写)

豊島区要町二ノ三三 鶴田吾郎方(電落

合一三五七) 昭和29年5月創立。山林に

よる凡ゆる面に対しての美術創作と活動

を行ふ。昭和31年8月第2回展開催。

〔委員〕 鶴田吾郎、光安浩行、古賀忠

雄、安達真太郎、清水敦次郎、刑部人、

松田文雄、二口善雄、太田洋愛、桑原

宏、小原工藝会、光安鶴子、二口志保

子、小島三郎、高木周平、白尾三男、山

畑阿利一、宮本光庸、滝川美一、宮地寅

彦、村井辰夫、奥山泰堂、林二郎

〔日本水彩画会(水) 中野区江古田一ノ

二九一 細島昇一方(電落合六七三三)

故大下藤次郎、故丸山晚霞、故河合新藏

の三人の経営せる日本水彩画会研究所を

大正2年4月、石井柏亭、白滝幾之助、

真野紀太郎等三七名の発起に依り、改制

擴張して新に各派水彩画家の綜合団体と

して設立。毎年1回東京及関西で展覧会

開催、昭和32年6月第45回展開催。

〔代表者〕 幹事 細島昇一

〔委員〕 阿部広司、相沢光朗、不破

章、細島昇一、石川達三、牧野正吉、増

田喜恵蔵、水野以文、水平謙、水谷景

房、内藤秀因、野沢潤次郎、竹内梅治

郎、竹内栄三郎、丹野良輔、富田通雄、

渡辺義一、渡部文雄、山中心太郎、山崎

政太郎、大和屋藏

〔委員〕 阿部広司、相沢光朗、不破

章、細島昇一、石川達三、牧野正吉、増

田喜恵蔵、水野以文、水平謙、水谷景

房、内藤秀因、野沢潤次郎、竹内梅治

郎、竹内栄三郎、丹野良輔、富田通雄、

渡辺義一、渡部文雄、山中心太郎、山崎

政太郎、大和屋藏

〔委員〕 阿部広司、相沢光朗、青津清

喜、荒木芳男、荒木茂喜、安藤信哉、別

車博資、千ヶ崎徳六、淵上政夫、藤江志

津、藤田薫、福田四郎、古川盛雄、不破

章、早川国彦、林義勇、荻原実、星野正

三、細島昇一、細島幸吉、本多信彦、平

沼溪水、平島武夫、日野九州男、飯島公

夫、飯島敏三、池尻一朗、石井柏亭、石

井鶴三、石川達三、石川新一、板倉賢治、

池部鈞、甲斐栄一郎、梶谷保、木島工、

小山周次、小山良修、小泉政孝、今野五

郎、桂龍雄、真野紀太郎、町田源三郎、

牧野正吉、間宮勇、丸山東美男、増田喜

恵蔵、松木寿雄、松本慎三、三浦藏、水

野以文、水平謙、水木伸一、水谷景房、

水田莊介、三上信次、三上知治、宮島羊

郎、宮部進、宮崎信吉、森寅雄、森田正

世史、村上鉄太郎、宮地茂、中田早、中

沢弘光、内藤秀因、名柄正之、西尾武

夫、丹羽美智子、野沢潤次郎、野村英

夫、野村閑一、沼尾松三、野津佐吉、仲

井義雄、小原博司、太田黒幸、岡田正

二、岡崎祇容、恩田孝徳、小川俊郎、納

直次、齊藤大太郎、坂江重雄、関晴風、

白滝幾之助、白山卓吉、繁野三郎、篠原

新三、柴山英雄、菅沼金六、佐竹泰次

郎、田坂ゆたか、高木重雄、財保、高山

長一郎、竹野谷仁重、竹内梅治郎、竹内

栄三郎、滝沢邦行、丹野良輔、富田通雄、

富安昌也、鳥井三郎、高野浩、谷俊男、

田幸福、有働観美、海野正男、牛尾弘、

漆畑広作、渡辺徳、渡辺義一、渡部文

雄、八木俊羊、山本不二夫、山森元亀、

山村秀一、山中心太郎、山崎政太郎、大

和屋藏、吉田豊、吉田四郎、吉田収、吉

松真司 一二六名

〔日本水墨会(日) 世田谷区下馬一丁目

北三ノ七 渡辺聖空方 昭和12年2月創

立。小川芋銭、小杉放庵、津田青楓、中

川一政、矢野橋村、菅橋彦、生田花朝、

小松均、岸浪百岬居、渡辺大虚等によつ

て結成された墨人会の後身で、伝統を尚

びつつ新しい和風墨絵道を振興し多清潤

素雅を基調とする国民美術の確立を期

するを趣旨としている。昭和31年9月第

7回展開催。

〔委員〕 渡辺聖空、小松均、村雲大樸

子、田村水潤、中村雅豊、山喜多二郎

太、津田青楓、近藤雲草、渡辺英明等二

〇名

〔日本水墨派(日) 世田谷区経堂町五〇

〇 沢令花方(電東京四一局九六八) 昭

和29年5月創立。初め中川紀元、棟方志

功、峰岸義一によつて組織し、津田青

楓、近藤浩一路、などを客員として同年

第一回展を開いたが、昭和32年海外美術

の水墨画への関心のたかまるにつれ、新

に、新しい東洋の墨画追求をもとめ改

組、再出発した。昭和32年8月第4回展

開催。

〔委員〕 中川紀元、峯岸義一、橋原祥

太郎、国松御耶、希代稔、高畑正明、沢

令花

〔日本染織作家集団(一) 文京区指ヶ谷

町六〇 長浜重太郎方(電小石川一三八

二) 昭和30年5月創立。伝統の上に立ち

新しい染織藝術を創造し、我国造型美術

界の進展に寄与せんとする在野染織作家

達の集り。昭和31年11月第2回公募展開

催。

〔委員〕 稲垣稔次郎、飯田真弓、二科

十郎、雲出雪枝、長浜重太郎、中村妙

子、長滝澄、野口道方、暮田延美、栗原

宏、矢部連光、吉田重郎、木村和一、鈴

田照次、菊沢草履路、中川啓子、山内安

芸

〔日本染織美術協会 世田谷区上馬町一

ノ六〇七(電世田谷一〇三三) 昭和20

年4月創立。機関誌「染織美術」を発行。

〔会長〕 野口真造(主幹) 本吉春三郎

〔日本宣伝美術会 中央事務局・千代田

区有楽町二ノ七(電和匠倉二九〇〇)

昭和26年6月創立。毎年東京・大阪・名

古屋・九州・北海道その他各地区事務所

々在地で展覧会を開催、そのほかデザイ

ン講習会等を行ふ。昭和32年8月第7回

展開催。

〔中央委員〕 板橋義夫(事務局長・東

京)、伊藤憲治(東京)、今竹七郎(大

阪)、大橋正(東京)、大智浩(東京)、亀

倉雄策(東京)、小林葉三(大阪)、河野鷹

組、再出発した。昭和32年8月第4回展

開催。

〔委員〕 中川紀元、峯岸義一、橋原祥

太郎、国松御耶、希代稔、高畑正明、沢

令花

〔日本染織作家集団(一) 文京区指ヶ谷

町六〇 長浜重太郎方(電小石川一三八

二) 昭和30年5月創立。伝統の上に立ち

新しい染織藝術を創造し、我国造型美術

界の進展に寄与せんとする在野染織作家

達の集り。昭和31年11月第2回公募展開

催。

〔委員〕 稲垣稔次郎、飯田真弓、二科

十郎、雲出雪枝、長浜重太郎、中村妙

子、長滝澄、野口道方、暮田延美、栗原

宏、矢部連光、吉田重郎、木村和一、鈴

田照次、菊沢草履路、中川啓子、山内安

芸

〔日本染織美術協会 世田谷区上馬町一

ノ六〇七(電世田谷一〇三三) 昭和20

年4月創立。機関誌「染織美術」を発行。

〔会長〕 野口真造(主幹) 本吉春三郎

思(東京)、佐々木貴士児(札幌)、重成基(大阪)、高橋錦吉(東京)、中山文孝(九州)、西木滋(福岡)、橋本徹郎(東京)、早川良雄(大阪)、原弘(東京)、堀田能雄(名古屋)、山城隆一(東京)、山名文夫(東京)

日本彫塑家倶楽部(彫) 台東区谷中初音町三ノ五(電駒込四五四九) 昭和28年2月創立。昭和22年創立の日本彫刻家連盟を発展改称したもので職能団体的性格を離れ彫塑家相互の親睦と彫塑の研究、発展を目的として再発足した。

創立委員は加藤顕清、北村治禎、古賀忠雄、沢田晴広、中野桂樹、長沼孝三、橋本朝秀、昼間弘、藤野舜正、安田周三郎、山本稚彦。昭和32年4月第45回日本彫塑展開催。

〔顧問〕 朝倉文夫、北村西望、斎藤知雄、藤井浩佑、吉田三郎(卅二年度運営委員) 雨宮治郎、赤堀信平、朝倉響子、円鏑勝二、藤野舜正、橋本朝秀、昼間弘、加藤顕清、木村珪二、北村治禎、古賀忠雄、倉持芳、三國慶一、宮地寅彦、水船六州、長沼孝三、中野桂樹、佐々木大樹、沢田政広、清水多嘉示、畝村直久、山本稚彦、諏訪与里於、安田周三郎、中川清(会員) 三五名

日本彫塑家倶楽部関西支部(彫) 京都市左京区修学院大林町一六 松田尚之方(電吉田五一〇八) 昭和28年6月創立。関西日展彫塑家協会が発展改称し、日本彫塑家倶楽部(東京)に合流し、其の関西支部として新発足した。昭和31年第4回

展を京都、大阪で開催。

〔関西支部長〕 松田尚之(会員) 三名

日本デザイン協議会(J・D・C)(工) 事務局 千代田区神田三崎町二ノ二二(電東京三〇局七五七七) 三輪梅三郎 昭和三年七月創立。我国デザイン界の相互の交流をはかるとともに、強力にデザイン活動を推し進め、その進展を期して、とりあえず左記五団体をもつて組織発足した。常時、相互に情報の交換を行うとともに、各方面からの呼びかけに對しては、十分検討し、その対策をすみやかに処理しようとする常設機関であり、共通の場である。

〔会員〕 日本インダストリアル・デザイン協会(J・I・D・A)、日本デザイン・クラブ・マン協会(J・D・C・A)、国際工芸美術協会(J・A・C・C)、日本宣伝美術会(J・A・A・C)、日本建築家協会(J・A・A)の各団体。日本童画会 新宿区西大久保一ノ四二九 文学会館内(電四谷二六四四) 昭和21年創立。毎年展覧会開催。

〔代表委員〕 鈴木寿雄(電練馬一〇〇〇七) 〔委員〕 武井武雄、初山滋、林義雄、黒崎義介、斎藤長三、久米宏一、市川禎男、中尾彰、安泰、松山文雄、井口文秀、鳥居敏文、由良玲吉、松井末雄

日本陶磁協会 中央区銀座東二ノ一一 日本医事新報社 梅沢彦太郎方(電東京五四局八一五〇) 昭和20年1月創立。社

団法人。毎月研究会、講演会並びに春秋二回古陶磁の展観、講演会等を行。機関誌「陶説」毎月発行。

〔役員〕(顧問) 尾崎洵盛、団伊能、松永安左衛門、細川護立、畠山一清(理事) 梅沢彦太郎(理事) 磯野信成、大屋茂、小田栄作、加藤唐九郎、加藤土師敦、久志卓真、黒田領治、小山富士夫、小森新一、佐藤進三、陶守三思郎、瀬川昌世、瀬津伊之助、田中作太郎、鷹栗豊治、内藤匡、中村一雄、中本守、広田照、堀口捨巳、瀨山順吉、満岡忠成、森村義行、保田憲三、田山信郎、藤岡了一、田中丸善八

〔会員〕 二五〇〇名 日本陶彫会 中野区江古田二ノ九二八 滝川美一方(電落合四二一六) 昭和26年創立。昭和32年7月第7回展開催。

〔会長〕 沢田晴広(副会長) 古賀忠雄(会員) 鈴木仁亮、杉江滄軒、〇多田瑞穂、滝一夫、〇滝川美一、竹林薫、津上昌平、富永直樹、中川為延、中野五一、中野桂樹、沼田喜代子、長谷川義起、林茂松、柳正吉、長谷秀雄、真鍋知道、〇宮本光庸、〇三井高義、森豊一、〇安田周三郎、〇山畑阿利一、山本正年、〇分部順治、雨宮次郎、浅井行雄、安藤士、荒井徳亮、〇伊奈重孝、井上美邦、〇伊藤芳雄、今城国忠、井高宏、〇円鏑勝二、江川治、大内青圃、尾形喜代治、大槌年郎、〇加藤土師萌、〇唐杉澗光、片岡静観、木下繁、〇古賀忠雄、〇沢田政広、坂上政克、柴山清風、〇菅原安

男、菅沼五郎、〇鈴木賢二(〇委員) 日本銅版画協会(版) 調布市下布田一七八 関野準一郎方 昭和28年7月創立。関野、浜田、駒井等の中堅作家が発起人となつて銅版画家の全国的な集団をつくつた。昭和32年7月第1回展開催。

〔理事〕 関野準一郎 〔理事〕 沢田知明、駒井哲郎、浜口陽三 〔経理〕 田河水泡(会員) 一〇〇名

日本都市美術推進連盟 財団法人、大阪市北区堂島上ノ一三二(電大阪御六七〇五、六七〇六) 昭和27年5月創立。市街地の人々に潤いを与え、文化の向上に寄与する為、希望と秩序のある美しい街「都市美」を推進すると共に美術文化の顕揚発展を期してその健全な育成を図ることを目的としている。都市美術展を二年毎に各都市で行うなど都市美に関する研究、啓蒙、宣伝、測量、設計、製作施行、美術講演会、出版物の刊行、その他目的達成上必要と認めたる事業を行。機関紙「都市美」毎月発行。

〔顧問〕 和田英作、山下新太郎、石井柏亭、金山平三、有島生馬(相談役) 杉山司七、望月信成、村野藤吾(理事長) 美津島 一(理事)(常務) 和田新、中山一男、木下孝則、石川滋彦、小山敬三、吉田久継、山下登、真野紀太郎、寺内方治郎、荒谷直之介(会員) 六〇名、各府県知事、市長、商工会議所会頭は協力会々員

日本板画院(版) 杉並区荻窪四ノ五七 棟方志功方(電荻窪五三〇一) 昭和27年

5月創立。同30年9月第5回展開催。

〔顧問〕 裕伊之助、富本憲吉、梅原龍三郎、藤懸静也、森口多里、植村鷹千代、石井雙石、富永惣一、滝口修造、今泉篤男、式場隆三郎、平橋田中、河北倫明、秋田雨雀

〔会員〕 棟方志功、棟方末華、ブノワ、笹島喜平、北川民次、下沢木鉢郎、長谷川富三郎、金守世志夫、木内克、永瀬義郎、沢田晴広、岡村吉右衛門、芹沢銚介、セリサワ・スイヲ、レオンゴールデン、野村候三、山本道子、斎藤徳三郎、永礼孝二、森本木羊子、河村俊子、高田一夫、松尾少輔、佐藤米次郎

日本版画協会〔版〕 調布市下布田一七八 関野準一郎方 大正7年創立の日本創作版画協会が昭和6年版画家の大同団結をかり改組したもの、昭和32年4月第25回展開催。

〔会長〕 石井鶴三〔常務委員〕 畦地梅太郎、前田政雄、品川工、北岡文雄、関野準一郎、駒井哲郎、吉田遠志〔会務委員〕 前川千帆、武井武雄、初山滋、稲垣知雄、平塚運一、山口源、橋本興家、若山八十氏、斎藤清、大田耕士、吉田政次、塚本哲、川西英〔会員〕 川上澄生、前田藤四郎、ブノワ、吉田穂高、浜田知明、浜口陽三、内間安理、永瀬義郎、清宮彬、長谷川潔、古川竜生、菅野陽、馬淵聖、宮尾しげを、山口進、上野誠、他一〇〇余名

日本美術院(日・彫) 台東区谷中上三崎南町五二(電駒込四五一〇) 明治31年

10月、当時東京美術学校長を退いた岡倉

覚三を盟主とし、橋本雅邦以下二六名を正員として結成。新時代における東洋美術の維持並開発」が創立に際しての二大主張であった。同年10月第1回展を開催、研究所を下谷谷中初音町に設置して後進の養成に努め雑誌「日本美術」を発刊、

同39年12月に至り一時東京の研究所を撤廃、同人四名は岡倉覚三と共に常陸の五浦に退去し専念研鑽に努めたが、大正2年岡倉覚三病歿するに及び、直ちに院の再興を画し新に院舎を谷中上三崎南町に起し翌3年9月開院式を挙行、10月再興第1回展を開催した。再興に当つたのは

横山大観、下村観山、木村武山、安田靉彦、今村紫紅、小林未醒、辰沢延次郎、笹川種郎、斎藤隆三等で其の中実技者六名を以て同人とした。再興美術院には彫刻部並に洋画部を設けたが洋画部は大正9年小杉未醒、山本册、倉田白羊等の脱退と共に消滅した。毎年秋期に公募展を開き、又春季には内部の試作展を開く。

大正10年米國クリーブランド美術館の要請に応じ、同国主要都市六箇所に巡回展を開き、以後日本美術の海外紹介にも努めた。昭和10年帝院改組に際して、同人合議の上新帝院への参加を声明し、横山大観、安田靉彦、小林古径、前田青邨、富田溪仙、平橋田中、佐藤朝山、藤井浩佑の八名が会員に就任した。昭和32年9月第42回展開催。

〔経営者・同人〕 横山大観、安田靉彦、前田青邨、大智勝観、平橋田中

〔経営者幹理〕 斎藤隆三〔同人〕 佐藤清蔵、石井鶴三、保田龍門、真道黎明、郷倉千毅、堅山南風、酒井三良、富取風堂、喜多武四郎、新海竹蔵、大内青圃、奥村土牛、小倉遊亀、田中青坪、山本豊市、太田聰雨、中村貞以、中村直人、宮本重良、松原松造、村田徳次郎、関谷充、新井勝利、北沢映月、辻晋堂、小谷津任牛、小松均、古藤正雄、中島清、片岡球子、中島外茂都、岩橋英遠、板井祐一、田中太郎、千野茂、基俊太郎、羽石光志

日本美術会 杉並区西高井戸二ノ二 中島保彦方 昭和21年創立。日本美術の自由で民主的な発展と、その新しい価値の創造を目的とする広汎な美術家の自主的なあつまりである。毎年アンデパンダ展開催。同32年1月第10回展開催。機関誌「美術運動」を発行。国民美術運動の推進を目的とする。

〔中央委員〕 井上長三郎、永井潔、箕田源二郎、新海覚雄、吉井忠、高柳博也、金野新一、中谷泰、佐田勝、須山計一、佐藤忠良、朝倉楨、小野忠重、尾藤豊、中山正、蘭田猛、桜井誠、小室寛、中村宏、桂川寛、森田信夫、渋谷草三郎、池田龍雄、針生一郎、松山文雄、赤塚徹、伊吹英次

日本美術家連盟 新宿区四谷一ノ一八 (電東京三四局五七八) 昭和24年6月創立。美術家(日本画、洋画、版画、彫刻家)の個人加盟によつて組織し美術家の職能組合として権益の擁護、相互扶

助、其他文化に寄与するための諸事業を行ふ。

〔会長〕 前田青邨〔代表委員〕 伊原宇三郎、大久保泰、益田義信、宮本三郎〔委員〕 六二名〔常任委員〕 一八名 日本美術協会 台東区上野公園桜ヶ丘(電駒込一九一〇) 明治12年創立の龍池会を同20年日本美術協会と改称し財団法人組織とした。毎年展覧会を継続して太平洋戦争まで一四五回に及んだ。本邦美術の振興をはかるを以て目的とし、戦後組織を新たに於て各流各派を綜合融和した方針を以て絵画展を東京並びに各地で開催している。昭和32年第10回展開催。

〔総裁〕 高松宮宣仁親王〔顧問〕 細川護立、浅野長武、岡部長景、横山大観、川合玉堂、他一五名〔理事〕 畠山一清、長尾欽弥、团伊能、秋山光夫、〔会頭〕 团伊能〔専務理事〕 秋山光夫〔常任委員長〕 松林桂月〔常任委員〕 二一名〔委員〕 四七名

日本彫会(彫) 北区上十条五ノ九ノ二 三國慶一方(電王子四六二) 昭和4年創立。昭和30年4月第15回展開催、32年6月17回展開催。

〔会員〕 石井滋、長谷川昂、西田明史、岡正敏、内藤伸、中野桂樹、熊谷幸太郎、日下寛治、山脇敏男、山脇正司、山口伊之助、古川武治、佐々木大樹、木村威夫、三國慶一、水島弘一、清水源可、大島駒蔵、西出大三、松原重正、柳沼會雲

人形玩具文化の会 板橋区常盤台一ノ

二九 西沢笛敵方 (電板橋二一〇一)
昭和11年創立。同25年財団法人となる。
近時欧米人の日本人形に対する関心が深
いので、特に蒐集の古代人形参考品を研
究所内に陳列観覧に供している。なお月
一回研究会を催し古代人形玩具について
意見の交換を行っている。

〔会長〕 金森徳次郎 (理事長) 西沢
笛敵 (理事) 板谷波山、團伊能、佐藤
達夫、鈴木隆夫、品田豊治

(の)

能彫会(彫) 目黒区下目黒三ノ六五七
後藤方 昭和22年創立。戦前能美会とし
て出発したが発表展を九回継続して20年
に中止、戦後新たに再出発した。流派を
問わず能の真髄を彫刻によつて表現しよ
うとする同好の士の集りである。毎年一
回展覧会を行う。昭和32年6月第10周年
記念展開催。

〔会員〕 石井鶴三、入江美法、畑正吉、
花岡幸雄、花里金央、綿引司郎、吉田満、
吉田暁天、横山正三、中野素昂、梅田修、
藤野舜正、後藤良、後藤光行、紺谷英儀、
北村治禎、宮本光庸、柴田佳石、登岡弘、
門伝正衛、毛利教武、関谷充、須賀東堂、
鈴木仁亮

(は)

白鳥会(洋) 豊島区高松町一ノ六 伊
藤彰方 昭和27年7月創立。昭和30年9
月第3回展開催。

〔会員〕 熊谷守一、藤田鶴夫、多田栄
二、鳥居敏文、鳥津純一、賀茂牛之輔、

美術団体一覽

伊藤彰、江川平三、福島金一郎、志村一
男、千葉健作、坂元益夫、清川泰次、小
林森次
白日会(洋・彫) 杉並区成宗一ノ二七
八 伊藤清永方 (電報七六一八) 大
正13年創立。昭和32年3月第33回展開
催。

〔会員〕 (繪画部) 千葉精三、福田義之
助、古川弘、灰野文一郎、平松謙、広本
了、堀英治、伊藤清永、伊藤利行、岩月
光金、石崎五郎、東理次良、川口栄、川
村精一郎、川島実、小堀進、小林一雄、
間部時雄、牧原万之助、水野富美夫、村
上鉄太郎、森谷重夫、長井幸一、中沢弘
光、大崎善生、酒泉淳、島田四郎、篠原
薫、坂上明司、笹口淳、富山芳男、内山
又輔、渡部百合子、山本道乗、吉田比古
藏、柳沢淑郎、青木春見、宮島武男、田
中君江、山田鶴左久、難波栄子、柴田祐
作、西田耕作、町田源三郎、安井藤三郎、
中兼久俣、藤江幾太郎、氏田喜八郎、小
泉馨武、武田由平 (彫刻部) 星野宣、伊
奈重孝、伊藤五百亀、木村珪二、児島正
典、小池藤雄、坂手讓、笹野恵三、富田
匠美、内堀功、吉田三郎
白申会(日) 京都市北区北野白梅町三
三 宇田荻郎方 (電西陣二二四六) 宇田
荻郎の主筆する日本画塾

白鳳会(洋) 中野区沼袋五六〇 篠窪
亮方 昭和15年創立。昭和29年10月第12
回展開催。昭和16年東京美術学校油料
藤島教室を卒業した一〇名に依り創設し
た。

〔会員〕 井上慎、加藤長一、北岡文雄、
小泉富司、吳天華、鮫島宗明、篠窪亮、
高田肇三、高田久、松永敏太郎、松永和
夫、安田寛、吉野広行、吉田政次、原良
次、友沢泰男、浅井忠男、大里光春
版画懇話会 杉並区阿佐ヶ谷三ノ五三
二 昭和29年創立。版画家、版画研究
家、その他版画に関心を持つ人々の集り
で、日本版画の育成、発展に寄与するこ
とを目的とする。講演会、研究会、関係
資料の作成、収集、伝統技術新技術の紹
介、版画の振興、普及に関する審議、提
案などを行う。

〔幹事長〕 碓伊之助、(幹事) 〇上野
誠、大倉半治、〇岡良三郎、〇小野忠
重、河北倫明、菊地三郎、〇菊地貞夫、
〇笹島喜平、斎藤清、〇清水正博、渋井
清、関野準一郎、滝平二郎、中条辰夫、
利根山光人、〇中山正、橋崎宗重、平塚
運一、深水正策、宮下登喜雄、水船六
洲、棟方志功、吉田暎二、〇渡辺規 (〇
印當任)

阪都美術工藝会(工) 大阪市天王寺区
逢坂上ノ町一四一 汎工藝社内 (電天王
寺九七〇五) 昭和29年7月創立。大阪を
中心に在住する有志による研究団体で同
人の大部分は日展出品に重点を置く作家
からなる。

〔委員〕 橋田裕士、川端三義、角谷一
圭、田辺竹雲斎、中島保美、穂山竹司、
〔委員長〕 島野三秋 (副委員長) 小林
美春、平松宏春 (特別委員) 柴崎風碑
〔会員〕 三〇名

汎美術家協会(洋) 大阪市阿倍野区北
畠西一ノ一〇五 前田藤四郎方 昭和22
年7月創立。関西在住の洋画家の団体。
昭和27年2月第5回展以降展覧会なし。
〔会員〕 藤井二郎、原精一、長谷川三
郎、橋上善児、萩森久朗、伊藤久三郎、
井上寛造、井上賢三、池島勘治郎、石丸
一、伊庭伝治郎、江川平三、川西英、小
出三郎、前田藤四郎、松井正、米良道
博、宮下貞之介、李田たけを、中村真、中
村善種、仲村一男、中川力、中村徳三
郎、中畑伸人、錦義一郎、須田勉太、佐
藤篤郎、田川勤次、植木茂、山本敬輔、
山崎隆夫、吉原治良、和田季悦、渡辺修
パンリアル美術協会(日) 京都市東山
区五条橋東六ノ五三一 山崎隆方 (電祇
園一二五三) 昭和23年6月創立。昭和32
年11月第15回京都展開催。同年2月第2
回東京展開催。

〔会員〕 生駒国一、不動茂弥、日ノ下
淳一、星野真吾、小林司郎、三上誠、野
村耕二郎、大野秀隆、下村良之介、湯田
寛、山崎隆

(ひ)

ひこばゆ(日・洋) 横浜市鶴見区東寺
尾七九四 加山又造方 昭和29年11月創
立。昭和31年2月第2回展開催。
〔会員〕 赤穴宏、赤穴桂子、深尾庄
介、大住閑子、碑田一穂、加山又造、竹
山博、上野泰郎
美術記者会 中央区京橋三ノ一一 国
立近代美術館内
〔会員〕 社名五〇音順

三二七

朝日新聞社 学藝部 小川 正隆

高松喜八郎

社会部 牧田 茂

企画部 遠山 孝

出版局 赤井 正友

特信部 松江 智寿

文化部 阿部 豊

社会部 長与 道夫

産経時事新報社 文化部 日野耕之祐

信濃毎日新聞社 牛木 聖児

新聞三社連合 三宅正太郎

中部日本新聞社 文化部 岡山 東

白木 博

社会部 北村 義朗

文化部 宮川 謙一

寺田 千壘

桑原 住雄

伊東 浩三

相羽 喜

西日本新聞社 社会部

仁村美津夫

滝 佛三

佐々木 直

日本放送協会 内信部 中島 一明

テレビ教養部 真島 勲

白石 克己

報知新聞社 文化部 島野 功

北海道新聞社 千田三四郎

毎日新聞社 学藝部 船戸 洪吉

整理部 上島 長健

ラヂオ報道部 大河原 元

文化部 藤沢 逸哉

和田伊都夫

企画部 平川富太郎

美術評論家協会 台東区上野公園 都

美術館内 本会は主に美術報道に関係する記者を以て組織され、会員相互の親睦を図ると共に美術界の発展に寄与する諸事業を行うを目的とする。

〔会員〕 泉与志(美術新潮会)、大山広光(美術街社)、小野白峰(東邦美術社)、神谷清太郎(画廊社)、河原義和(美術業界・美術主義評論社)、高木紀重(日本美術通信社)、樽原祐、中尾雅俊(新日本美術社)、中田宗男、小森盛、安藤鉦一(月刊日本画・日本美術振興会)、佐久間善三(美術新聞、藝術文化研究所)、菊地芳一郎(美術クラブ・時の美術社)、三輪郷(週刊美術社)、柴崎風神(汎工藝社)、大久保積翠(都市と藝術社)、中台青陵(書藝新聞)、(〇)印昭和31年度幹事

美術評論家連盟 中央区京橋三ノ一

国立近代美術館内 昭和29年5月創立。

日本に於ける美術評論家の団結をはかるとともに、国際的に協力し、造型文化の発達に寄与することを目的とする。国際美術評論家協会に加盟し、その日本支部となつてゐる。

〔会長〕 富永惣一〔常任委員長〕 河

北倫明〔常任委員〕 今泉篤男、江川和彦、勝見勝、嘉門安雄、瀬木慎一、滝口修造、徳大寺公英、土方定一、山田智三郎、和田新〔事務総長〕 嘉門安雄

〔書記〕 小倉克之

美術文化協会(洋・彫・写) 板橋区板

橋六ノ八四〇 五十嵐アバウト 薮島庸

三方(電板橋三八九六) 独立を脱退した福沢一郎を中心に主として独立、二科の所謂前衛派の新進が昭和14年に結成した。同会は絵画、彫刻、写真、装飾、図案、書等各分野を網羅し総合的に前衛運動を行う。昭和29年4月分裂したが同年10月新人を吸収して再結成した。昭和32年1月第17回展開催。

〔会員〕 浅野弥衛、小関通、田中昇、松岡吉一、小原勉、真鍋英雄、東光寺啓、岩倉正仁、加藤一夫、村上馨、香川勇、戸川金雄、村岡和雄、入来天、川元進、森宏平、宇佐美晴海、近藤正治、羽坂清、山崎貴英子、早瀬龍江、大野英一、原田圭司、岡田徹、竹村文男、福沢一郎、吉田隆、竜山恭輔、増田彰、加藤丞、清川泰次、石井国義、米田三男之助、田中亚木男、笹川由為子、石井玲一、野村基義、伊藤直介、中村博、国光興、熊谷文利、藤島庸二、宮地周、喜田一夫、伊東一信、宮崎敬喜

七象会(洋) 浦和市高砂町五ノ八三

小松崎邦雄方 昭和31年3月創立。昭和29年藝大卒業生で、同専攻科に二年在学した者のうち七人が集り林武教授の力添えて発足した。昭和32年第2回展開催。

〔会員〕 赤堀尚、稲村洋、小松崎邦雄、酒田護、志邨武久、田口安男、松本昭

匹亜会(洋・日) 名古屋市中川区愛知町二ノ六一 竹田大助方 昭和30年3月創立。毎月、懇談会、研究会を行い、

同人誌「匹亜」を刊行する。昭和31年3月第1回展開催。

〔同人〕 堀尾実、水谷勇夫、藤田武、加藤直昌、竹田大助、志村礼子

(5)

仏教美術協会 練馬区豊玉中三ノ二五 萩原雅春方 昭和28年10月創立。現在、仏像彫刻家と彩色専門家の集りである。伝統的木彫及彩色技法の保存、正しい継承を冀つて、信仰の対象としての造像儀軌の究明及び表現の研究練磨を旨とする。昭和31年8月第3回展開催。

〔顧問〕 逸見梅栄、佐藤玄々

〔会員〕 阿井瑞岑、森大造、高村晴雲、鈴木国策、西山如拙、佐藤勝輔、先崎栄伸、鈴木信春、野坂法山、西川宗舟、萩原雅春、佐藤匡義

△不同社(日) 世田谷区玉川奥沢町三ノ一四二 上野泰郎方 昭和28年8月創立。新制作、院展、日展に出品している新進日本画家達の集り。昭和31年7月第3回展開催を最後とし8月解散した。

〔会員〕 井崎昭治、上野泰郎、大田蔵夫、太田正弘、大野百樹、大八木守、尾山轡、鎌倉秀雄、加山又造、小岩井秀鳳、小市美智子、近藤弘明、信太金昌、関主税、武田良三、竹山博、対島迪、中野蒼穹、成田陽、野崎貢、浜田台児、福田馨治、松尾敏男、前田暉、毛利武彦、四田淳三

舞踊美術家懇話会 武蔵野市吉祥寺二〇九五 東原徹方(電武蔵野二九四五)

舞台美術の発展に寄与するため昭和27年

創立した。

〔会員〕 荒島鶴吉、石浜日出雄、国東清、三枝大二、島公靖、田中良、東原徹、遠山静雄、長瀬直諒、中村正典、真木小太郎、三林亮太郎、三輪祐輔、吉村倭一、渡辺正男

△プラス美術家群(洋) 新宿区下落合二ノ六六七 吉田遠志方 (電 落合四三二七) 昭和25年8月創立。昭和30年解散。

〔会員〕 浅井真、吉田千鶴子、小林森次、海洲正太郎、田村玄一郎、吉田ふじを、吉田遠志、吉田穂高

(八)

霹靂社(日) 練馬区大泉学園町七一八 平子聖龍方 昭和21年10月創立。昭和32年4月第11回展開催。

〔主宰者〕 平子聖龍

(ま)

真赤土工藝会(土) 中野区野方町一ノ九五 織田慎一方 昭和17年5月創立。毎年東京他各地で展覧会を開く。

〔会員〕 (染色) 栗原宏、清水喜美、(陶器) 森一紀(彫金) 織田慎一(織織) 古戸忠平(竹工) 平沼浄(木彫) 逸見良之助(皮革) 数見吾一

(む)

無厭会(工・陶) 京都市東山区五条橋東六丁目 山崎光洋方(電祇園二二五三) 昭和22年2月創立。清水焼作家二〇名によつて結成。昭和31年6月第9回展開催。

〔会員〕 河合瑞豊、河合栄之助、米沢

蘇峯、高橋道入、大丸北峰、宇野仁松、久世久宝、山崎光洋、近藤悠三、浅見五郎助、赤沢露石、清水六和、清水六兵衛、三浦竹泉、宮川香齋、七兵衛信翠、新開邦太郎、永乘善五郎、森野嘉光、諏訪蘇山

(も)

木彩会(工・木) 豊島区池袋一ノ五一 四 梅田総太郎方 昭和23年4月木工藝の制作又は研究に携わる者が集まつて創立した。昭和28年9月第6回展開催。昭和29年6月現代工藝連合展参加。

〔会員〕 河津直武、梅田総太郎、山口寿泉、山本葉弥志、前田保三、佐藤豊、本吉春三郎、本橋政一、須田利雄、原田英、落合一郎、大熊喜英、内藤幸夫、桜井博、江刺英一、吉原良雄、前田康夫、小川正八

モダンアート協会(洋) 大田区蓮沼二ノ一〇 周襄吉方 昭和25年9月創立。昭和31年2月第6回展開催。

〔会員〕 朝妻治郎、東俊二、広井力、小松義雄、城所昌夫、勝本富士雄、勝田寛一、藤山光義、村井正誠、靱山七重、宮田正己、中村真、小川孝子、周襄吉、杉本久久雄、勝呂忠、谷沢秀晃、竹田長年、和田季悦、矢橋六郎、山口薫、清野恒、吉田政次、中井幸一、熊倉順吉、鈴原捷夫、西原照子、清野克己、本野東一

モダンアート研究会(洋) 神奈川県相模原市上鶴間四八五二 勝田寛一方 昭和27年モダンアート協会の補助団体として発足したもの。

〔会員〕 モダンアート協会々員及び同会所属出品者

(り)

立軌会(洋) 世田谷区成城町一 飯島一一方 昭和24年4月創立。元創元会の会員七名によつて結成。第2回展より有岡一郎が参加した。昭和32年9月第9回展開催。

〔会員〕 有岡一郎、飯島一、牛島憲之、榎戸庄衛、大貫松三、須田寿、山下大五郎、玉置弘三、若狭晴男、藤橋正枝、秋野卓美、五百住乙、内田光之助、河村俊子、辻茂、小川イチ、川越昭子

(れ)

レアル美術会(洋) 世田谷区赤堤町一ノ一三 野崎利喜男方 昭和27年9月創立。一水会々員一三名により設立。昭和28年3月第1回展開催。昭和30年解散。

〔会員〕 福田新生、林鶴雄、池辺一郎、金丸直衛、中畑岬人、中川力、野崎利喜男、尾崎正章、高橋貞一郎、高森捷三、筒井広道、矢野雄蔵

黎明美術研究会(洋) 目黒区中目黒四ノ一三二二 松村禎夫方 昭和18年4月創立。基礎理論の徹底、新技法の習得、構図学の研究等を目的とする。月一回例会、会報「レイメイ」を発行している。

〔会長〕 柳亮(会員) 二六三名

連袖会(洋) 大田区馬込東一ノ一〇六

○ 山川勇一郎方 昭和12年安井曾太郎の門下を以て組織、昭和32年7月第19回展開催。

〔会員〕 広瀬功、本郷惇、金子博信、狩野寿一、加藤水城、木村辰彦、児島三吉、中村琢二、二宮雪夫、丸野豊司、三浦俊輔、岡本半三、小野末、大津鎮雄、桜井恵美子、菅野矢一、高田誠、高見耿太郎、幸雅二、山川勇一郎、松本恵子、皆吉志郎、生野雅三、谷田貝修

(ろ)

六窓会(綜) 世田谷区等々力三ノ五ノ二 黒田嘉治方 東京美術学校昭和6年卒業の同窓を以て昭和25年創立。昭和29年4月第5回展開催。昭和30年度の展覧会は休み、以後展覧会は毎年開催せず随時開催とする。

〔会員〕 (日本画) 橋本明治、加藤栄三、山田申吾、東山魁夷、(洋画) 伊勢正義、大貫松三、佐藤敬、須田寿(彫刻) 長沼孝三、野々村一男、大須賀力、黒田嘉治(建築) 吉村順三(工藝) 内藤四郎 朗筆画塾(日) 鎌倉市山の内瓜ヶ谷一〇三四 伊東深水方(電鎌倉二四六三) 伊東深水の主宰する日本画塾、会務代表者 杉並区成宗二ノ七一八 浜田台見

美術家及美術関係者名簿

昭和三二年一月現在

凡 例

一、本名簿にのせた美術家及美術関係者の数は一六四三名である。我が国において、美術家として社会的地位を有する人々を採録した。不備の点は次年度に補いたい。

一、名簿は氏名の頭文字の発音により五〇音順に記載した。発音の同じ場合は字劃の少ないものを先にし、頭文字の同じものは二字目の発音により、その発音の同じ場合は字劃の少ないものを先に掲げた。但し同字は訓音の異なるものもなるべく一箇所に集めた。安宅、安達、安西、安藤等を同一箇所に掲げた如くである。

一、名簿に用いた略語は左の通りである。

- (日) 日本画 (洋) 洋画 (挿) 挿画 (版) 版画 (漫) 漫画 (彫) 彫塑
- (工) 工藝 (漆) 漆工藝 (陶) 陶磁 (金) 金工藝 (染) 染色 (織) 織物
- (繡) 刺繡 (硝) 硝子工藝 (建) 建築 (写) 写真 (記) 美術記者 (文) 文化財事務局 文化財保護委員会事務局 (文化財専審委) 文化財専門審議会 専門委員 (日展) 日本美術展覧会 (日展無) 日本美術展覧会無鑑査 (日展依) 日本美術展覧会出品依頼者 (日展審) 日本美術展覧会審査員 (日展参事) 日本美術展覧会運営会参事 (日展理事) 日展常任理事 日本美術展覧会運営会理事、同常任理事 (東京藝大) 東京藝術大学 (東美校) 東京美術学校 (京都市立美術大) 京都市立美術大学 (京都絵専校) 京都市立絵画専門学校 (京都市立美術大) 京都市立美術専門学校 (女子美大) 女子美術大学 (女子美校) 女子美術学校・女子美術専門学校 (帝国美校) 帝国美術学校 (日美校) 日本美術学校 (大阪美術校) 大阪美術学校 (東京高工藝校) 東京高等工藝学校 (東京高工業校) 東京高等工業学校 (京都高工藝校) 京都高等工藝学校 (名古屋高工業校) 名古屋高等工業学校 (京都市立美術工藝学校) 京都市立美術工藝学校、其他これに準じた。

一、日展依、日展審は昭和三二年第一三回日本美術展覧会の出品依頼者、審査員を示す。元日展審は日本美術展覧会運営会、日本藝術院共催による昭和二四年第五回日展から昭和三一年第一二回日展迄の間の審査員を示す。

一、住所中東京都のみは都名を略して区名を以て始めた。

「美術家及美術関係者名簿」 ページ (332~369 ページ)

個人情報保護のため非公開

Pages of the list of Artists and Experts in Art (pp.332-369)

Cut for protection of the personal information

美術関係定期刊行物一覽 (五〇音順)

ア	トリエ	月刊、編輯北原義雄、発行アトリエ出版社、千代田区神田 神保町三ノ一三、電九段二五七五・二五七六	国立博物館ニュース	月刊、編輯野間清六、発行国立博物館、台東区上野公園、 電駒込三七一一―三七一五
季	刊文化財	季刊、発行文化財保護委員会、千代田区霞ヶ関三ノ四	古文化財之科学	編輯大賀一郎、発行古文化資料自然科学研究会、台東区上 野公園 東京国立博物館研究室内
藝	術學報	編輯金丸重嶺、発行日本藝術学会、文京区本富士町東大文 学部美術史研究室内	三彩	月刊、編輯藤本昭三、発行造形藝術研究所出版部、中央区 銀座東七ノ六 大栄会館、電(東京五四局)四八一(内線 六番)
藝	術新潮	月刊、編輯佐藤義夫、発行新潮社、新宿区矢来町七一、電 (東京三四局)七一―七七一一八	史迹と美術	月刊、編輯川勝政太郎、発行史迹美術同致会、京都市北区 紫野下柳町一四、電西陣五九五六
建	築史研究	季刊、編輯建築史研究会(藤島支治郎)、発行彰国社、千代 田区平河町二ノ一一、電九段二九三・二八五一・四五二三 ・一七四五	秀作美術	年二回刊、編輯田島敬助、発行秀作美術社 台東区西黒門 町二一、電下谷六八九〇
建	築雜誌	月刊、編輯北村正雄、発行日本建築学会、中央区銀座西三 ノ一、電京橋一三三三・一三三八・四五七二	書品	月刊、編輯庄司一夫、発行東洋書道協会、中央区京橋二ノ 三電京橋三〇四・二七八一・三八五六
建	築文化	月刊、編輯金春国雄、発行彰国社、千代田区平河町二ノ一 一、電九段二九三・二八五一・四五二三	新建築	月刊、編輯吉岡保五郎、発行新建築社、中央区宝町一ノ六 電京橋四七五二・四三〇六
工	藝研究	月刊、編輯工藝学会編集委員会、発行財団法人工藝学会、 港区麻布三河台町二四、電赤坂一〇三四	染色美術	編輯本吉春三郎、発行日本染織美術協会、世田ヶ谷区上馬 町一ノ六〇七、第一四号(二七年七月発行)以降休刊
工	藝ニュース	発行通商産業省産業工藝試験所、大田区下丸子三三三 月刊、編輯通商産業省産業工藝試験所、発行丸善株式会社 出版部、中央区日本橋、電千代田二三一一・二三五一・二 三六一	日本工藝	月刊、編輯工藝研究会、発行芸紳堂、京都市中京区寺町二 条南入、電上三六一三、文京区湯島一ノ一、電神田五八四〇
考	古學雜誌	月刊、編輯日本考古学会(原田淑人)、発行日本考古学会、 台東区上野公園東京国立博物館内、電駒込三七一一―三七 一五	造形	月刊、編輯井手義男、発行造形同人会、中央区八重洲五ノ 五、電(東京二九局)九八六〇
國	際建築	月刊、編輯藤懸静也、発行国華社、港区麻布市兵衛町二ノ 一、電赤坂一七五二	淡交	月刊、編輯千嘉治、発行淡交社、京都市上京区堀川通寺ノ 内上ル、電西陣一五〇七・一五〇八
國	立近代美術館ニュース(現代の眼)	月刊、編輯國際建築協會(小山正和)、発行美術出版社、新 宿区市ヶ谷本村町一五、電九段五五一―四 月刊、編輯原敏夫、発行近代美術協會、中央区京橋三ノ一 一、電京橋八二三一五	刀劍美術	編輯宮崎芳樹、発行日本刀劍美術保存協會、台東区上野公 園 東京国立博物館内
都	市美術	月刊、編輯梅沢彦太郎、発行日本陶磁協會、中央区東銀座 二ノ一一、電(東京五四局)八一五〇	陶說	月刊、編集小野修三、発行東邦美術社、豊島区千早町二ノ 三、電落合五二六九
都	市美術	月刊、発行財団法人日本都市美術推進連盟、大阪市北区堂島	東邦美術	

日本画 上二三二、電大阪北六七〇五一六
月刊、編輯安藤証一、発行日本美術振興会、中野区新井町六四九

日本漆工 月刊、編輯富田英一、発行日本漆工協会、中央区日本橋通二ノ二加藤ビル内、電千代田九四七〇

日本の工芸 月刊、編輯河島多津子、発行日本工芸館 大阪市堂島上通二ノ四六 電北五二二四

日本美術工藝 月刊、編輯加藤義一郎、発行日本美術工藝社、大阪市北区梅田阪念ビル内

日本文化財 月刊、編輯飯野一雄、発行奉仕会出版部、渋谷区原宿三ノ二四九、電青山三三七一九 三二年七月以降休刊

汎工藝 旬刊、編輯柴崎俊吉、発行汎工藝社、大阪市天王寺区逢坂上之町一四一 電(7)九七〇五

美術学 季刊、編輯美学会(男沢淳)、発行美術出版社、新宿区市ヶ谷本村町一五、電九段五五一四

美術案内 編輯井上芳郎、発行東京美術倶楽部、港区芝新橋七ノ一二 電芝九八九・九九〇

美術館ニユース (東京都美術館) 季刊、編輯藤森淳三、発行独断社、世田谷区岡本町一一〇七、電玉川〇七五七

美術館ニユース (愛知県文化会館) 月刊、編輯早川治平、発行東京都美術館友の会、台東区上野公園、電駒込四八九六

美術研究 月刊、編輯太田三郎、発行愛知県文化会館美術館、名古屋市東区久屋町八ノ八 電(9)五五一一

美術業界 隔月刊、編輯美術研究所(福山敏男)、発行吉川弘文館、千代田区神田神保町三ノ一九、電九段三五五六

美術史 旬刊、編輯河原義和、発行美術主義評論社、豊島区雑司ヶ谷一ノ三九二

美術振興 季刊、編輯美術史学会(熊谷宜夫)、発行便利堂、京都市中京区新町通竹屋町南 電上四三五一、五二三八

美術新潮 月刊、編輯中田宗男、発行日本美術振興会、中野区新井町六四九、電中野二九九〇

月刊、編輯泉与志、発行美術新潮会、港区麻布龍土町五八 電赤坂一八七八

美術新日本 月刊、編輯中尾雅俊、発行新日本美術社、大阪市旭区大宮西ノ町六ノ二〇五

美術新聞 隔日刊、編輯佐久間善三、発行藝術文化研究所、大田区蓮沼町一〇七 電蒲田六二八五

美術探求 隔月刊、編輯難波専太郎、発行美術探求社、大田区石川町九八

美術通信 旬刊、編輯高木紀重、発行美術通信社、新宿区下落合四ノ一五八八、電落合一五六八

美術手帖 月刊、編輯大下正男、発行美術出版社、新宿区市ヶ谷本村町一五、電九段五五一四

仏教藝術 季刊、編輯仏教藝術学会、発行毎日新聞社、大阪堂島、東京有楽町

萌春 月刊、編輯猪木達二、発行日本美術新報社、東京都千代田区九段一ノ一四、電九段九〇四六

墨美 月刊、編輯森田子龍、発行墨美社、京都市上京区樺木町黒門東入ル、電壬生四九〇二

みづゑ 月刊、編輯大下正男、発行美術出版社、新宿区市ヶ谷本村町一五、電九段五五一四

ミュージアム 月刊、編輯国立博物館、発行美術出版社、新宿区市ヶ谷本村町一五、電九段五五一四

民藝 月刊、編輯田中豊太郎、発行日本民藝協会、目黒区駒場八六一、電渋谷八七四二

大和文化華 編輯大和文化華館、発行大和文化華館出版部、大阪市東区船越町一ノ四八、電東三八五七

大和文化研究 編輯大和文化研究会(小泉顕大)、発行同研究会、奈良市登大路町五〇 奈良国立博物館内

リビングデザイン 季刊、編輯大下正男、発行美術出版社、新宿区市ヶ谷本村町一五、電九段五五一四

連盟ニユース 月刊、七、八月休刊、編輯和田新、発行日本美術家連盟、新宿区四谷一ノ一八、電(東京三四局)五七八

印刷 昭和33年3月17日
発行 昭和33年3月28日

日本美術年鑑

——昭和32年版——

編集者 東京国立文化財研究所美術部
(美術研究所)

印刷所 大蔵省印刷局
東京都新宿区市谷本村町15
電話 3315 531~9

発行所 東京国立文化財研究所
東京都台東区上野公園
電話 駒込 4487. 1923
